三重県埋蔵文化財調査報告259

天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ

天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群（第６・７次調査）

2005（平成17）年３月

三重県埋蔵文化財センター

小谷13号墳埋葬施設１副葬品

序

三重県の中央部を流れる雲出川の流域は、かつての伊勢国一志郡とされていた地域であります。この地は、伊勢でも特徴的な文化を担った地域で、重要な遺跡が数多く所在するところです。弥生時代の稲作文化がまず受け入れられたのがこの地域と考えられますし、古墳時代前期において前方後方墳が集中する地域でもあります。また、古代律令期における中央的な文化が伊勢に受け入れられる状況を考えるうえでも、この地域の動向は非常に重要です。

ここで報告する小谷赤坂遺跡・小谷古墳群・天花寺城跡は、雲出川の支流中村川が雲出川へと合流する付近にあたる遺跡です。ここは、発掘調査時には一志郡嬉野町天花寺地内で、今年１月の市町村合併により、今の行政区は松阪市嬉野天花寺町となっています。中村川流域にあたる旧嬉野町地内は、三重県内でも屈指の遺跡密集地域でありますが、この付近はとくにそれが顕著です。全国的にも著名な筒野１号墳、天花寺丘陵内の数多くの古墳をはじめ、律令期の一志郡家がこの付近に想定され、また天花寺廃寺・一志廃寺・中谷廃寺などの古代寺院が密集する地域でもあります。

今回の報告は上記３遺跡が該当するわけですが、なかでも小谷古墳群の調査成果が白眉であります。第６・７次調査では、都合６基の古墳を調査することとなりましたが、このうちの小谷13号墳からは三角板鋲留短甲をはじめとする優秀な副葬品が出土しました。この他にも、鉄製武器や玉類、土師器・須恵器などには、当時の葬送や地域の動向を窺い知れる重要なものが数多く認められます。

この遺跡は、道路改良工事によって消滅したわけですが、今後は残された記録類と出土遺物をもとに、当時の豊かな歴史を県民の皆様、ひいては全国に向けて発信していきたいと考えています。

発掘調査にあたっては、地元である旧嬉野町および近隣在住の方々をはじめ、旧嬉野町教育委員会、県の関係諸機関から多大な御協力とともに暖かい御配慮を頂くことができました。文末とはなりましたが、各位の誠意ある御対応に、心からの御礼を申し上げます。

2005年３月

三重県埋蔵文化財センター
所長　吉　水　康　夫

例　　言

1　本書は、三重県松阪市嬉野天花寺町（2004年12月までは一志郡嬉野町天花寺）字小谷・赤坂ほかに所在する天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群の、第６・７次発掘調査にかかる報告書である。

2　当調査は、主要地方道松阪一志線緊急地方道路整備事業に伴い、平成11年度に第６次、平成12年度に第７次の緊急発掘調査を実施したものである。

3　発掘調査および報告書作成は、次の体制で行った。
〈平成11年度（発掘調査）〉
調査主体　　三重県教育委員会
調査担当　　三重県埋蔵文化財センター（調査研究グループ）
　　技師　大川　操、伊藤裕偉、水谷　豊、　主事　柴山圭子
　　技術補助員　豊田祥三
〈平成12年度（発掘調査）〉
調査主体　　三重県教育委員会
調査担当　　三重県埋蔵文化財センター（調査研究グループ）
　　技師　大川　操、
　　技術補助員　豊田祥三、山岡奈美恵
〈平成13～16年度（報告書作成）〉
　　三重県埋蔵文化財センター（調査研究Ⅰ・Ⅱグループ）
　　主幹　泉　雄二、主査　森川幸雄、田中久生、　技師　伊藤裕偉、大川　操
　　技術補助員　豊田祥三

4　調査にかかる諸費用は、執行委任を受けて三重県県土整備部が全額負担している。

5　発掘調査にあたっては、嬉野町（当時）在住の皆様、嬉野町教育委員会（当時）、および県土整備部　道路整備課・津地方県民局久居建設部から多大な協力を受けたことを明記する。

6　報告書作成にあたっては、以下の各氏から有益なご教示等を頂いた。記して感謝いたしたい（所属は当時）。
赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）、笠井賢治（上野市史編纂室）、木野本和之（亀山市教育委員会）、清水政宏（四日市市教育委員会）、和気清章（嬉野町教育委員会）、渡辺博人（各務原市教育委員会）、高橋克壽（奈良国立文化財研究所）、鈴木一有（浜松市博物館）、阪口英毅（京都大学文学部助手）、橋本達也（鹿児島大学総合研究博物館）、高杉尚宏（世田谷区立郷土資料館）、田中新史（千葉大学教授）、西山要一（奈良大学）、塚本敏夫（㈶元興寺文化財研究所）、尾崎誠（㈶元興寺文化財研究所）

7　本報告の基となる記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

8　当報告書の作成業務は三重県埋蔵文化財センターで実施し、調査研究Ⅱグループが主務とした。報告文の執筆は大川・伊藤・豊田・山岡が行い、目次および文末に記した。また、附編には鈴木一有氏の玉稿をいただいた。遺物の写真撮影は、田中・大川が行った。本書の編集は伊藤が行い、大川・豊田が補佐した。

凡　　例

〈地図類〉

1　本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、嬉野町都市計画図、天花寺丘陵東部測量図(三重県埋蔵文化財センター『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』1996年所収）である。

2　これら地図類は、国土地理院発行地形図を除き、国土調査法の日本測地系による座標第Ⅵ系（旧国土座標）で表現されているものであるため、平成14年４月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。

3　挿図の方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位　は西偏６°40′、真北方位は西偏０°17'34"（平成10年）である。

〈遺構類〉

4　土層図は、層の区分を実線で、根や巣穴による撹乱で不明瞭な部分を破線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。

5　土層図の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社　1967年初版、2003年第23版）を用いた。

6　当報告書での遺構は、第１次調査からの通番となっている。なお、小谷古墳群は周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている番号で示した。

7　遺構図のうち、砂目のスクリーントーンで示した部分は、焼土の範囲である。

8　遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。

9　埋葬施設識別番号は、墓壙を確認したものから順に番号を付けており、重複順位を示していない。

10　遺構番号の頭には、見た目の性格によって、以下の略記号を付けている。

ＳＢ…掘立柱建物　ＳＤ…溝・堀　　ＳＨ…竪穴住居　ＳＫ…土坑

ＳＸ…墓、周溝　ＳＺ…土塁・落ち込みなど　　pit…ピット、柱穴

11　遺構は、調査時に付加した遺構番号を基本的に踏襲しているが、今回の報告にあたって変更したものもある。その異同は遺構一覧表に示した。なお、出土遺物の注記については、遺構一覧表の「調査時遺構名」で基本的に実施している。

〈遺物類〉

12　当報告での遺物実測図類は、土器類は実物の1/4、鉄製品は・玉類などは1/1・1/2・1/3・1/4のものがある。それぞれの縮尺については、その都度図上で示している。

13　遺物実測図は、当報告書を通して通番としている。

14　当報告書での用語は、「つき」は「杯」、「わん」は「椀」に統一している。

15　遺物観察表は、以下の要領で記載している。

番号…挿図掲載番号である。

実測番号…実測段階の登録番号である。

様・質…「弥生土器」「土師器」「須恵器」といった区分をここに示した。

器種など…遺物の器種を示す。

グリット…調査時に設定したグリット名を記した。

遺構・層名…遺物の出土した遺構や層名を記した。「土器」、「石」などは、それぞれの取り上げ時の区分である。

法量(㎝)…遺物の法量を示す。(口)は口縁部径、(底)は底部径、(高台)は高台部径、(脚柱)は脚部上　端径、(脚裾)は脚台裾部径を示す。なお、数値はそれぞれの部位の最大径であり、内法や、実測段階での「接地点」ではない。

調整・技法の特徴…主な特徴を外面（外；）・内面（内；）で示した。「A→B」はAの後にBが施されたことを示す。

胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。

色調…その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帖』に拠る。

残存度…その部位を12分割した際の残存度を示した。6/12は約半分、12/12は全体が残っていることになる。

特記事項…遺物の特徴となる事項を記した。

〈写真図版〉

16　写真図版は、第６・７次調査区を通じてまとめた。

17　挿図と写真図版の遺物番号は、遺物実測図の番号と対応している。

18　遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

本　文　目　次

〈調査報告〉

Ⅰ　前言 …… (大川)　1〜3
　1　調査の契機
　2　調査の経過
　3　調査の方法
　4　整理作業の方法
Ⅱ　位置と歴史的環境 …… (大川)　4〜7
　1　地形的環境
　2　歴史的環境
Ⅲ　遺構と遺物
　1　基本層序 …… (大川)　8
　2　縄文・弥生時代の遺構 …… (大川)　8〜23
　3　縄文・弥生時代の遺物 …… (伊藤)　24〜37
　4　小谷９号墳 …… (大川・山岡)　38〜56
　5　小谷10号墳 …… (大川・山岡)　57〜70
　6　小谷11号墳 …… (大川・山岡)　71〜78
　7　小谷12号墳 …… (大川・山岡)　79〜84
　8　小谷13号墳 …… (豊田・山岡)　85〜110
　9　小谷24号墳 …… (大川・山岡)　111〜115
　10　土壙墓 …… (大川・山岡)　116〜122
　11　古代の遺構 …… (大川)　173〜174
　12　古代の遺物 …… (伊藤)　175〜181
　13　中世の遺構 …… (大川)　182
　14　中世の遺物 …… (伊藤)　183〜184
Ⅳ　調査のまとめと検討
　1　総論 …… (伊藤)　185〜186
　2　各論
　　a　小谷古墳群出土の鉄製品 …… (山岡)　187〜191
　　b　小谷13号墳出土の短甲の検討 …… (豊田)　192〜194
　　c　埴輪について …… (豊田)　194〜196

〈附編〉

Ⅰ　保存処理について …… (山岡)　198〜202
Ⅱ　鉄製品付着の織物について …… (山岡)　203〜206
Ⅲ　中南勢地域における初期群集墳の検討 …… (豊田)　207〜216
Ⅳ　東海の甲冑出土古墳にみる古墳時代中期の変革過程 …… (鈴木)　217〜228

挿　図　一　覧

第１図　調査地周辺主要遺跡
第２図　調査区位置図
第３図　調査地周辺地形図
第４図　第６・７次調査区遺構平面図
第５図　第６・７次調査区東壁土層断面図(1)
第６図　第６・７次調査区東壁土層断面図(2)
第７図　土坑ＳＫ345平面・断面図
第８図　土坑ＳＫ352平面・断面図
第９図　竪穴住居ＳＨ343平面・断面図
第10図　竪穴住居ＳＨ344平面・断面図
第11図　竪穴住居ＳＨ353・ＳＨ356平面・断面図
第12図　竪穴住居ＳＨ385平面・断面図
第13図　竪穴住居ＳＨ388平面・断面図
第14図　竪穴住居ＳＨ390平面・断面図
第15図　掘立柱建物ＳＢ360・361平面・断面図
第16図　土坑ＳＫ362平面・断面図
第17図　周溝遺構ＳＸ386平面・断面図
第18図　弥生前期半截竹管文の断面形分類

第19図　出土遺物実測図⑴石器
第20図　出土遺物実測図⑵縄文・弥生前期
第21図　出土遺物実測図⑶弥生前期
第22図　出土遺物実測図⑷弥生後期
第23図　出土遺物実測図⑸弥生後期
第24図　出土遺物実測図⑹弥生後期
第25図　出土遺物実測図⑺弥生後期
第26図　第６・７次調査古墳関連遺構平面図
第27図　小谷９号墳墳丘測量図
第28図　小谷９号墳墳丘・埋葬施設土層断面図
第29図　小谷９号墳埋葬施設１平面・断面図
第30図　小谷９号墳埋葬施設２平面・断面図
第31図　小谷９号墳埋葬施設２出土状況図
第32図　小谷９号墳埋葬施設３平面・断面図
第33図　小谷９号墳埋葬施設４・５平面図
第34図　小谷９号墳東西・埋葬施設４・５土層断面図
第35図　出土遺物実測図　小谷９号墳⑴埋葬施設１・２
第36図　出土遺物実測図　小谷９号墳⑵埋葬施設２
第37図　出土遺物実測図　小谷９号墳⑶埋葬施設２
第38図　出土遺物実測図　小谷９号墳⑷埋葬施設３ほか
第39図　小谷10号墳墳丘測量図
第40図　小谷10号墳墳丘土層断面図
第41図　小谷10号墳埋葬施設１平面・断面図
第42図　小谷10号墳埋葬施設２平面・断面図
第43図　小谷10号墳埋葬施設３平面・断面図
第44図　出土遺物実測図　小谷10号墳⑴埋葬施設１
第45図　出土遺物実測図　小谷10号墳⑵埋葬施設２
第46図　出土遺物実測図　小谷10号墳⑶埋葬施設３ほか
第47図　小谷11号墳墳丘測量図
第48図　小谷11号墳墳丘土層断面図
第49図　小谷11号墳埋葬施設１平面・断面図
第50図　小谷11号墳埋葬施設２平面・断面図
第51図　出土遺物実測図　小谷11号墳
第52図　小谷12号墳墳丘測量図と埋葬施設
第53図　小谷12号墳墳丘土層断面図
第54図　小谷12号墳埋葬施設１平面・断面図
第55図　小谷12号墳埋葬施設２平面・断面図
第56図　出土遺物実測図　小谷12号墳
第57図　小谷13号墳墳丘測量図
第58図　小谷13号墳墳丘土層断面図
第59図　小谷13号墳埋葬施設１平面・断面図
第60図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑴埋葬施設１短甲
第61図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑵埋葬施設１短甲
第62図　出土遺物実測図　小谷13号墳埋葬施設１出土短甲展開模式図
第63図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑶埋葬施設１刀剣類
第64図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑷埋葬施設１武器・農工具類
第65図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑸埋葬施設１鑷子ほか
第66図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑹埋葬施設１玉類
第67図　小谷13号墳埋葬施設２平面・断面図
第68図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑺埋葬施設２玉類
第69図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑻埋葬施設２刀子
第70図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑼墳丘ほか
第71図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑽埴輪
第72図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑾埴輪
第73図　出土遺物実測図　小谷13号墳⑿埴輪
第74図　出土遺物実測図　小谷13号墳⒀埴輪
第75図　出土遺物実測図　小谷13号墳⒁埴輪
第76図　出土遺物実測図　小谷13号墳⒂埴輪
第77図　出土遺物実測図　小谷13号墳⒃埴輪
第78図　出土遺物実測図　小谷13号墳⒄埴輪
第79図　小谷24号墳墳丘測量図
第80図　小谷24号墳墳丘土層断面図
第81図　小谷24号墳埋葬施設１・２平面・断面図
第82図　出土遺物実測図　小谷24号墳
第83図　土壙墓ＳＸ350関係図
第84図　土壙墓ＳＸ381平面・断面図
第85図　土壙墓ＳＸ351・358平面・断面図
第86図　土壙墓ＳＸ392・ＳＸ393平面・断面図
第87図　出土遺物実測図　土壙墓ＳＸ381・ＳＸ392・ＳＸ393・ＳＸ398ほか
第88図　鉄製品ほか各部名称
第89図　臼玉・練玉分類図
第90図　土器棺墓ＳＸ363平面・断面図
第91図　10号墳周溝ＳＫ340平面・断面図
第92図　出土遺物実測図⑴古代
第93図　出土遺物実測図⑵古代
第94図　出土遺物実測図⑶古代
第95図　出土遺物実測図⑷古代
第96図　土塁ＳＺ365・堀ＳＤ366測量図・土層断面図
第97図　出土遺物実測図　中世以降
第98図　小谷古墳群鉄鏃組成分類図
第99図　長釣壺式蝶番をもつ類例
第100図　長釣壺式蝶番の留金の形状分類図
第101図　家形埴輪製作工程模式図
第102図　小谷古墳群
第103図　八重田古墳群
第104図　平田古墳群
第105図　落合古墳群
第106図　天花寺丘陵周辺における古墳の消長
第107図　中南勢地域の大型墳の消長
第108図　短頸鏃と長頸鏃にみる頸部長の変化
第109図　小谷13号墳の副葬品構成
第110図　甲冑の出土状態
第111図　中部地方における帯金式甲冑出土古墳の分布

表　一　覧

第１表　事業地内調査遺跡一覧
第２表　出土遺物観察表⑴縄文・弥生
第３表　出土遺物観察表⑵弥生
第４表　出土遺物観察表⑶弥生
第５表　出土遺物観察表⑷弥生
第６表　土製練玉出土位置別数量一覧
第７表　遺構一覧表⑴
第８表　遺構一覧表⑵
第９表　小谷赤坂遺跡６・７次調査竪穴住居・掘立柱建物一覧
第10表　出土遺物観察表⑸小谷古墳群・土壙墓
第11表　出土遺物観察表⑹小谷古墳群・土壙墓
第12表　出土遺物観察表⑺小谷古墳群・土壙墓
第13表　出土遺物観察表⑻小谷古墳群・土壙墓
第14表　出土遺物観察表⑼小谷古墳群・土壙墓
第15表　小谷古墳群出土刀剣類ほか観察表⑴
第16表　小谷古墳群出土刀剣類ほか観察表⑵
第17表　小谷古墳群出土鉄鏃観察表⑴
第18表　小谷古墳群出土鉄鏃観察表⑵
第19表　小谷古墳群鉄製品銹着織物観察表

第20表　小谷９号墳土製練玉計測表
第21～53表　小谷13号墳臼玉計測表⑴～㉝
第54表　出土埴輪観察表⑴小谷10・13号墳円筒埴輪
第55表　出土埴輪観察表⑵小谷13号墳円筒埴輪
第56表　出土埴輪観察表⑶小谷13号墳形象埴輪
第57表　出土遺物観察表⑽古代
第58表　出土遺物観察表⑾古代
第59表　出土遺物観察表⑿中世以降
第60表　鹿角装刀剣類・刀剣類隅抉茎県内類例一覧⑴
第61表　鹿角装刀剣類・刀剣類隅抉茎県内類例一覧⑵
第62表　長釣壺式蝶番をもつ短甲・頸甲一覧表
第63表　Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)
第64表　Ｘ線透過撮影条件(奈良大学)
第65表　展開Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)
第66表　Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)
第67表　Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)
第68表　銹着織物観察表
第69表　織物類例県内一覧
第70表　小型墳の副葬品一覧表
第71表　甲冑出土古墳にみる刀剣類の比率
第72表　副葬品の比較
第73表　副葬品組成の差
第74表　東海地方における帯金式甲冑出土古墳の編年
第75表　東海地方における中期型甲冑出土古墳

写　真　図　版　一　覧

巻頭　小谷13号墳埋葬施設１副葬品
図版　小谷13号墳から伊勢平野(松阪方面)を望む
図版１　上:６次調査区全景　下:７次調査区全景
図版２　上:６次調査区全景　下:６次調査区下層全景
図版３　ＳＫ352・ＳＫ345
図版４　上:ＳＨ343 下:ＳＨ344
図版５　上:ＳＨ353 下:ＳＨ356
図版６　上:ＳＨ385 下:ＳＨ390
図版７　上:ＳＨ388 下:ＳＨ388土器出土状況
図版８　上:ＳＢ361 下:ＳＨ360
図版９　ＳＫ362・ＳＸ386・ＳＫ364
図版10　上:小谷９号墳全景 下:〃埋葬施設１～５全景
図版11　小谷９号墳埋葬施設１
図版12　小谷９号墳埋葬施設２
図版13　小谷９号墳埋葬施設２　出土状況
図版14　小谷９号墳埋葬施設３
図版15　小谷９号墳埋葬施設４・５
図版16　上:小谷10号墳全景 下:〃埋葬施設１～３
図版17　小谷10号墳埋葬施設１
図版18　小谷10号墳埋葬施設２
図版19　小谷10号墳埋蔵施設２出土状況・埋葬施設３
図版20　上:小谷11号墳全景　下:〃埋葬施設１・２
図版21　上:小谷11号墳埋葬施設１　下:〃埋葬施設２
図版22　小谷11号墳埋葬施設１・２　副葬品
図版23　上:小谷12号墳全景　下:〃埋葬施設１
図版24　小谷12号墳埋葬施設１・２
図版25　上:小谷13号墳全景　下:〃埋葬施設１・２
図版26　上:小谷13号墳埋葬施設１・２　下:〃埋葬施設１
図版27　小谷13号墳埋葬施設１・２
図版28　小谷13号墳埋葬施設１副葬品出土状況
図版29　小谷13号墳埋葬施設１　遺物検出作業・出土状況
図版30　小谷13号墳埴輪出土状況
図版31　上:小谷24号墳　下:〃埋葬施設１・２・ＳＸ381
図版32　小谷24号墳埋葬施設１・２土層
図版33　ＳＸ350
図版34　ＳＸ381
図版35　ＳＸ392・ＳＸ393
図版36　ＳＫ400・ＳＫ340・ＳＸ363
図版37　土墨ＳＺ365・堀ＳＤ366・ＳＫ380土器出土状況
図版38　石器・縄文土器
図版39　弥生時代前期土坑ほか出土遺物
図版40　弥生時代ＳＫ前期土坑・後期竪穴住居出土遺物
図版41　弥生時代後期竪穴住居ほか出土遺物
図版42　弥生時代後期竪穴住居出土遺物
図版43　弥生時代後期土坑・周溝遺構出土遺物
図版44　小谷９号墳埋葬施設２鉄鏃
図版45　小谷９号墳埋葬施設２鉄鏃・Ｘ線透過写真
図版46　〃　鉄鏃・Ｘ線透過写真
図版47　〃　鉄鏃・Ｘ線透過写真
図版48　〃　刀子・Ｘ線透過写真
図版49　〃　副葬土器
図版50　〃　土製練玉
図版51　小谷９号墳埋葬施設４鏃群・Ｘ線透過写真
図版52　小谷９号墳埋葬施設１・３・５出土遺物・Ｘ線透過写真
図版53　小谷10号墳埋葬施設１鉄製品・Ｘ線透過写真
図版54　〃　副葬土器
図版55　小谷10号墳埋葬施設２刀子・鏃、Ｘ線透過写真
図版56　〃　副葬土器
図版57　小谷11号墳埋葬施設１・周溝ほか、小谷12号墳埋葬施設１・周溝ほか、小谷24号墳周溝出土土器
図版58　小谷11号墳埋葬施設２副葬品・Ｘ線透過写真
図版59　小谷13号墳埋葬施設１短甲
図版60　〃
図版61　〃　展開Ｘ線透過写真
図版62　小谷13号墳埋葬施設１刀剣類
図版63　〃　刀剣類Ｘ線透過写真
図版64　〃　鉄鏃
図版65　〃　鉄鏃Ｘ線透過写真
図版66　〃　農工具・装身具、Ｘ線透過写真
図版67　小谷13号墳出土土器、埋葬施設２副葬品、Ｘ線透過写真
図版68　小谷13号墳出土埴輪　円筒埴輪
図版69　〃　壺形埴輪・蓋形埴輪
図版70　〃　家形埴輪
図版71　土壙墓ＳＸ350副葬品・Ｘ線透過写真、小谷10号墳埋葬施設３・周溝ほか出土土器
図版72　土壙墓副葬品
図版73　小谷９号墳周溝土器群
図版74　小谷10号墳周溝土器群
図版75　小谷10号墳周溝土器群・土器棺墓ほか出土遺物
図版76　短甲の養生作業
図版77　短甲後胴地板接合状況
図版78　短甲後胴地板接合・補填状況
図版79　堅櫛補填修復状況
図版80　織物顕微鏡拡大写真（×10）

付　図

天花寺城跡　小谷赤坂遺跡（第６・７次）調査区遺構平面図

Ⅰ 前　言

1　調査の契機

嬉野天花寺町地内の西側には、一志丘陵から東へ張り出す通称天花寺丘陵がある。この丘陵の西側を南北に貫く近畿自動車道（伊勢道）の久居・松阪間に一志嬉野Ｉ.Ｃを新設するのに伴って、天花寺地内からこのＩ.Ｃへ至るアクセス道路「天花寺一志嬉野インター線」の道路整備事業が行われることになった。この地内において、天花寺城跡・小谷赤坂遺跡として第１次・第３次・第４次・第５次調査を、また清水谷遺跡第３・４次調査を当埋蔵文化財センターが実施した。

また、丘陵東側の裾を通る県道松阪一志線についても、丘陵に差しかかるあたりから字宮古にいたるまでが大変細く不便であったため、この天花寺一志嬉野インター線の整備と同時に、丘陵を南北に貫くルートで道路改良整備が行われることになった。県道松阪一志線計画ルート内には、天花寺一志嬉野インター線と同じく丘陵上平坦部に天花寺城跡、小谷赤坂遺跡、小谷古墳群が、インター線と県道のＴ字交差点付近に天花寺北瀬古遺跡、さらに北側へいった丘陵斜面には、小谷Ａ遺跡、天花寺瓦窯、丘陵北側裾部には堀田遺跡が位置する。

今回の天花寺城跡・小谷赤坂遺跡第６・７次調査は、インター線へ県道が接続する部分の北瀬古遺跡第１次調査と天花寺城跡・小谷赤坂遺跡第３次調査に引き続いて行われるものである。

調査年度	調査遺跡（次数）	発行		報　告　書
1995	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（１次）	県	1996	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』
	堀田遺跡（３次）	県	1996	『堀田遺跡（第３次）発掘調査概報』
		県	2002	『堀田３～５次調査』
1996	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（２次）	町教委	2003	『小谷赤坂遺跡２次、３次発掘調査報告書』
1996	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（３次）	県	1997	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅱ』
1997	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（４次）	県	2002	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅲ－２』
	天花寺旧境内遺跡		2002	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅲ－２』
	天花寺北瀬古遺跡（１次）	県	1999	『天花寺北瀬古遺跡(第１次)・薬師寺北裏遺跡発掘調査報告』
	薬師寺北裏遺跡			
1998	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（５次）	県	2000	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅳ』
	清水谷遺跡（３次）			
	天花寺北瀬古遺跡（２次）	県	2001	『天花寺北瀬古遺跡（第２次）発掘調査報告』
1999	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（６次）	県	2005	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ』
	小谷古墳群			
	堀田遺跡（６次）	県	2002	『堀田３～５次調査』
2000	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（７次）	県	2005	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ』
	小谷古墳群			
	堀田遺跡（５次）	県	2002	『堀田３～５次調査』
2001	堀田遺跡（６次）	県	2005	『堀田第６次調査』
	小谷Ａ遺跡			
	小谷赤坂遺跡	町教委	2002	『平成13年度嬉野町文化財調査概要』
2002	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡（８次）	県	2005	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅶ』

第１表　事業地内調査遺跡一覧

2　調査の経過

a　調査経過概要

今回報告する第６次・第７次調査の事業対象地内には、天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群がある。第６次調査としては、丘陵南端から約38m北へいった天花寺小谷10号墳（以下、この丘陵内の小谷古墳群内の各古墳を小谷○号墳と表記する）までを調査範囲とし、この中には天花寺城跡・小谷赤坂遺跡、そして小谷古墳群中の10号墳・11号墳・12号墳・13号墳が調査対象の遺跡となった。このインター線・松阪一志線の事業地内については、第１次調査のと

きに丘陵測量を行っており、踏査の結果、平成元年嬉野町遺跡地図にない新発見の古墳も確認している。

b　調査日誌（抄）

平成11年

７月15日　現地協議→盆頃までに抜開予定
８月19日　調査前古墳測量開始
　→小谷10号墳・11号墳・12号墳・13号墳
８月25日　地区設定
８月26日　表土掘削開始，小谷12号墳について社祠保存のため、墳丘保存要請→調査は周溝のみとする
９月２日　小谷９号墳・24号墳調査前測量開始
９月７日　作業員入れての調査開始
９月10日　小谷10号墳調査開始
９月29日　小谷12号墳周溝掘削開始
９月30日　天花寺城跡土塁・堀掘削開始
10月20日　小谷11号墳調査開始
11月４日　竪穴住居調査開始
11月18日　小谷13号墳墳頂埴輪列検出
12月６日　小谷10号墳埋葬施設１検出
12月13日　小谷10号墳埋葬施設１副葬品出土
12月16日　天花寺城跡・小谷赤坂遺跡遺構実測
12月17日　６次調査区全景写真

平成12年

１月５日　小谷11号墳埋葬施設２検出
１月11日　小谷11号墳埋葬施設１検出
１月17日　小谷13号墳短甲出土→埋葬施設１
１月19日　小谷13号墳埋葬施設２検出
１月20日　小谷10号墳埋葬施設２検出
１月24日　小谷13号墳短甲取上げの事前調査
１月27日　小谷10号墳埋葬施設３検出
１月31日　小谷13号墳短甲指導
２月３日　小谷13号墳短甲取上げ指導
２月８日　６次調査撤収
５月　７次調査協議
６月16日　７次調査作業員入れた調査開始
　→小谷10号墳・13号墳盛土掘削開始
７月13日　小谷24号墳調査開始
７月14日　地区杭設定→作業員入れての調査開始
７月18日　小谷12号墳の墳丘調査が決定
７月26日　小谷９号墳調査開始
８月10日　天花寺城跡・小谷赤坂遺跡掘削開始
８月17日　天花寺城跡・小谷赤坂遺跡遺構検出開始
８月24日　小谷24号墳埋葬施設１・２検出
８月７日　竪穴住居・土壙墓等の掘削開始
９月18日　小谷９号墳埋葬施設１・２・４検出
10月12日　７次調査区全景写真撮影
10月16日　天花寺城跡・小谷赤坂遺跡遺構実測開始
10月19日　小谷９号墳精査→埋葬施設３・５検出
12月６日　小谷12号墳設計変更により追加調査開始
12月７日　小谷12号墳埋葬施設検出
12月19日　現場撤収
12月20日　７次調査区引渡し

c　文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下のとおりである。

・法第577条の３第１項（文化庁長官あて）
平成７年７月20日付　道建第825号（県知事通知）
・法第98条の２第１項（文化庁長官あて）
平成11年９月８日　教生第849号（県教育長通知）
平成12年６月19日　教埋第94号（県教育長通知）
・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（久居警察署長あて）
平成13年１月23日　教埋第８－10号（県教育長あて所長通知）

3　調査の方法

a　地区設定について

丘陵測量を行ったときの測量基準点のうち、６次・７次調査区周辺の杭を利用した。幅約30mの調査区内でこれらの基準点の見通しが可能で、６次・７次調査区において軸線を通せる任意の点を２点（Ｋ１，Ｋ２）設定して座標地を与えた。このＫ１－Ｋ２の軸線を基準に４ｍごとに地区を設定した。６次調査においてはＫ２から南へＡ～Ｙ、東西へ１～９の地区杭を設定した。７次調査については、Ｋ１－Ｋ２の軸線を北へ反転・延長させ、次年度８次調査区となる事業地内へＫ３を設け、Ｋ２－Ｋ３を軸に、南北Ｉ～Ｓ、東西２～９の地区を設定した。

b　遺構図面について

小谷赤坂遺跡と天花寺城跡については、地区杭同様、先のＫ１－Ｋ２を基準に任意で３m方眼を設定してこれに基づいて１／20縮尺の遺構実測を行った。このとき古墳については平面に残された周溝と基底部のラインのみを実測した。一方、各古墳は、調査前墳丘測量、表土検出後の墳丘測量を１／100縮尺で平板測量を行った。埋葬施設検出時に、各埋葬施設の基軸に沿った任意のディテール実測用基準ポイントを設定し、埋葬施設平面図はこれに基づいて基本的に１／10の平面図・土層断面図等を作成した。後にこの平板測量時の基準杭、埋葬施設の基準ポイントを１／20遺構実測図に反映させることで、図上での合成が図れるようにした。

c　各遺跡の区分

第６次・７次の調査区内には、平成７年の第１次調査から引き続いて、天花寺城跡、小谷赤坂遺跡が所在するとともに、小谷古墳群の東支群の分布が新たに加わる。調査にあたって、天花寺城跡・小谷赤坂遺跡としては「天花寺城跡・小谷赤坂遺跡６次」「同７次」として、遺物を取上げ、また平面図・土層断面図等を作成した。事業地内の各古墳においてのみ、「小谷○号墳」として、墳丘から周溝ならびに埋葬施設の遺物を取上げ、測量図・出土状況図・墳丘土層断面図等の図面を作成した。今回の事業地の設定により半截される古墳を２基（９号墳・24号墳）含む、調査区の東壁において標準土層断面を記録した。

d　土工部門委託

第６・７次の発掘調査にあたり、調査の円滑な進行と調査員の調査への専従を目的として、土工業務、安全・労務管理について、(財)三重県農業開発公社に土工部門を委託した。

４　整理作業の方法

a　土器の整理

土器については、取り上げ可能なものはすべて水洗し、乾燥後に注記・接合を行った後、必要な部分については石膏復原を行った。これらを写真撮影した後、報告書掲載番号に基づいて収蔵・保管している。また、現地において、極度に脆弱なものについては、取上げ時に水溶性アクリル樹脂を塗布して器壁の強化を図った後に取上げ、水洗は行わず、刷毛・筆等で泥土の除去を行った。

b　金属製品の整理

100点以上にのぼる金属製品については、検出時に極力泥土を刷毛等で除去し、記録後取上げを行った。さらに刷毛・筆等で泥土の除去を行った後、錆化による瘤状の錆をニッパー・ペンチで物理的に除去した。内包する水分をエチルアルコール洗浄で揮発させ、錆化の遅延を図った。実測・写真記録の後、保存処理を行い脱塩・樹脂含浸による強化を図ったものを空調管理可能な収蔵庫において収蔵保管している。

また、小谷13号墳の短甲については、検出時に後胴を破損したため、形状を保ったままの取上げが危ぶまれた。そこで、(財)元興寺文化財研究所に依頼し、専門者の指導のもと、必要最低限の補強と仮接合を行いながら取上げを行った。当初、強度によっては保存処理への緊急搬出も予定していたが、破損部以外は比較的遺存状態が良好であったことから、記録作業の都合もあり、当センターで１次クリーニングを行った後、他の金属製品同様保存処理委託を実施した。

保存処理の詳細は、附編に掲載の保存処理報告を参照されたい。　(大川)

Ⅱ　位置と歴史的環境

１　地形的環境

天花寺城跡、小谷赤坂遺跡、小谷古墳群は、松阪市嬉野天花寺町（旧一志郡嬉野町天花寺）字小谷・赤坂に所在する。上記の遺跡をはじめ、その他多くの遺跡が一志町と嬉野町の町境である、通称「小鳥山」から東方へ派生している天花寺丘陵の、標高約36～37mの平坦部で確認されている。今回の事業地に隣接した丘陵上には、「天華寺」境内が構えられているが、かつてこの天華寺は、丘陵を東へ降りた

1．小谷赤坂遺跡　2．清水谷遺跡　3．馬ノ瀬遺跡　4．天花寺北瀬古遺跡　5．薬師寺北裏遺跡　6．蛇亀橋遺跡　7．焼野遺跡
8．天保遺跡　9．郡一遺跡　10．上野垣内遺跡　11．島田遺跡　12．井之上遺跡　13．閉垣内遺跡　14．弥五郎垣内遺跡
15．釜生田遺跡　16．天白遺跡　17．辻垣内瓦窯跡群　18．八田遺跡　19．堀之内遺跡　20．御所垣内遺跡　21．下之庄遺跡
22．中尾垣内遺跡　23．下之庄東方遺跡　24．嬉野遺跡　25．山神田遺跡　26．田村西瀬古遺跡　27．竜王野遺跡　28．高くね遺跡
29．荒野遺跡　30．松葉遺跡　31．天王垣内遺跡　32．庵ノ垣内遺跡　33．川北清水遺跡　34．片部遺跡　35．黒田遺跡
36．野田遺跡　37．貝蔵遺跡　38．五反田遺跡　39．六反田遺跡　40．針箱遺跡　41．一色垣内遺跡　42．里前遺跡　43．堀田遺跡
44．天花寺瓦窯跡　45．平生遺跡　46．片野遺跡　47．鳥居本遺跡　48．木造赤坂遺跡　49．貝鍋遺跡　50．唐木垣内遺跡
51．田尻上野遺跡　52．下名倉遺跡
A.西山１号墳　B.筒野１号墳　C.錆山古墳　D.上野１号墓　E.向山古墳　F.庵ノ門１号墳　G.片野池古墳群　H.西野古墳群
I.小山古墳群　J.中野山古墳群　K.西出山古墳群　L.ヒジリ谷古墳群　M.薬師谷古墳群　N.上野山古墳群　O.上野山狐塚古墳群
P.下名倉古墳群　Q.高寺廃寺　R.八太廃寺　S.天花寺廃寺　T.中谷廃寺　U.一志廃寺　V.上野廃寺　W.嬉野廃寺
a.天花寺城　b.八田城　c.釜生田城　d.森本城　e.滝之川城　f.須賀城および積善寺跡　g.木造城　h.川方城　i.八太城　j.小山城
k.長谷城　l.片野館跡

■●＝前方後方墳・前方後円形墳墓　　◉＝古代寺院跡　　■＝中世城館跡

第１図　調査地周辺主要遺跡　1：50,000（国土地理院　1：25,000「大仰」より）

ところの微高地上にある、現在の天花寺集落内に所在したとのことである[1]。今回の調査区は、天華寺境内の各稲荷神社の社祠を避けた東側にあたる。

天花寺丘陵の周辺に目をやると、北側には雲出川が、南側はその支流となる中村川があり、これらの河川は天花寺丘陵の北東約1.5～2.0㎞で合流する。雲出川を上流へさかのぼる道は、青山峠を越えて旧伊賀国へ、さらに西進すると旧大和国桜井へ通じる、旧伊勢国からの重要なルートであった。畿内から旧伊勢国・伊勢平野へ到達する天花寺丘陵周辺は、北へは久居～津方面へ、また南へは松阪・阿坂～駅部田方面へ、さらに現在の海岸線でみても東方約８㎞で伊勢湾へ通じ、陸路・海路ともにこの地を起点とする交通の要衝であったことがうかがえる。

2　歴史的環境

天花寺丘陵周辺の雲出川中流域から中村川下流域および丘陵周辺の詳細な歴史的環境の観察は『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』のⅠ～Ⅴに記述があり、これらを参照されたい[2]。ここでは、今回の調査によって、これまでの丘陵東端部で新たな成果の発見があった、弥生時代・古墳時代の環境について上記報告に付記しておきたい。

弥生時代

これまでの１次～５次調査では、後期の集落跡が明らかとなってきたが、それ以前の中期の様相は丘陵西方の馬ノ瀬遺跡、前期については丘陵を東方へ下り、中村川対岸の下之庄東方遺跡、あるいは北へ下った片野遺跡・鳥居本遺跡までうかがえなかった。今回の丘陵東部の調査では、丘陵上における前期の様相の一端をみることができた。しかし、集落跡中枢部としての実態解明にはいたらず、縁辺を垣間見たにとどまったが、丘陵上でも当該時期の生活の場があったことが確認できた。また、小谷赤坂遺跡の後期集落跡の広がりとしても、丘陵南端部にとどまらず、５次調査で北への展開が予測されているが、平坦地東端部まで集落域が拡がることが明らかとなった。そして、集落の展開はさらに北へ向いても拡がることが予想される。

古墳時代

丘陵周辺には、前期から後期にかけての多くの古墳が築造されたことが知られている。特に後期の群集墳については、数基で構成されるものから100基を超える規模で構成されるものまで、高密度で丘陵上に群居する。昭和60年前後におけるこの丘陵周辺の大規模な開発事業で、その多くが調査を余儀なくされたが、一方で丘陵上における後期の実態解明につながる、多くの貴重な成果を得ることもできた。

副葬品でみれば、丘陵西方で装飾馬具・武具、金銅製装飾品（冠か？）を保有した西野５号墳、伊勢平野展望に優位な丘陵東端部に立地する小谷13号墳では、町内初の出土となる武具（短甲）とこれに伴う多くの武器類副葬を確認している。埋葬施設の構造でも、群ごとに違った特徴を見せており、石室を用いる西方の古墳群に比べ、南端～東端部にかけて拡がる一群では、木棺直葬を主体とする。中でも、東端部の小谷古墳群東支群においては、一古墳につき一基のみ棺両端木口に板石を設ける、極めて特異な埋葬施設を有する古墳群であることが明らかとなっている。そして、こうした後期の古墳群から同時期あるいはそれに引き続く時期の土壙墓が小谷古墳周辺に出現し始める[3]。　　(大川)

〔註〕

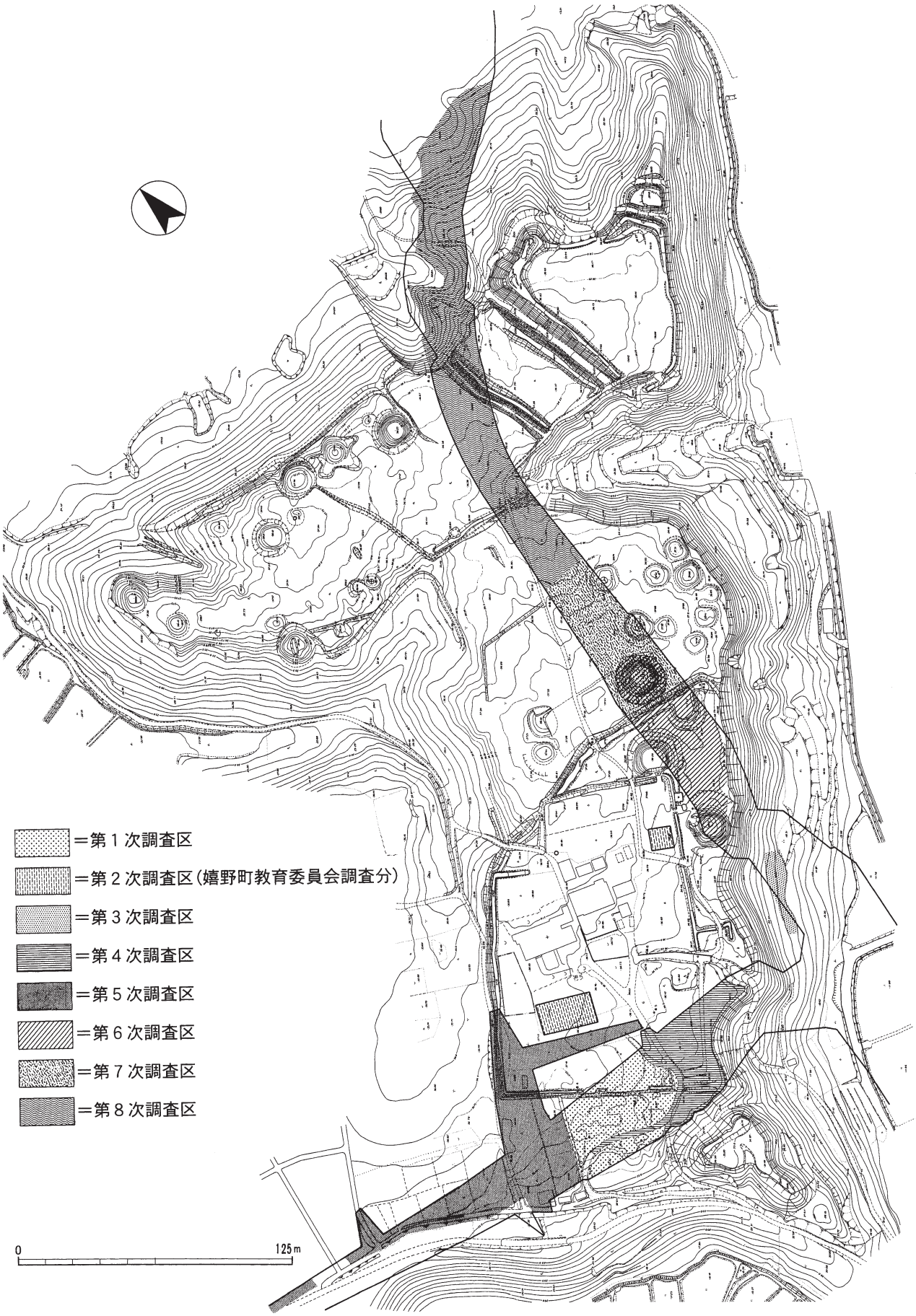
(1)　地元天花寺集落在住の方からのご教示による。

(2)　一連の事業の第一冊となる報告である。書名に「Ⅰ」と記されてはいないが、この後に続く３次以降の報告の第一冊となるものであり、シリーズ第１巻という意味で『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』1996年（伊藤）を『同Ⅰ』と表記させていただいた。

(3)　古墳時代以降の墓としては、平安時代前期に１基土器棺墓を古墳盛土を利用して造る他は、中世墓の出現期まで墓は営まれない。

〔参考文献〕

・『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』1996年（伊藤）・『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅱ』1997年（高田ほか）・『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅳ』2000年（木野本ほか）『天花寺北瀬古遺跡第1次・薬師寺北裏遺跡発掘調査報告』1999年（木野本ほか）　いずれも県埋蔵文化財センター
・『天花寺山』　一志町・嬉野町遺跡調査会　1991年
・『三重県の歴史』　稲本紀昭ほか　2000年



第２図　調査区位置図　1：2,500（『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』付図　1：1,000を一部改変）

第３図　調査地周辺地形図　1：5,000（嬉野町都市計画図　1：2,500より）

Ⅲ 遺構と遺物

1　基本層序

第６・７次調査区は、天花寺丘陵東端部にあたる。丘陵上の平坦部における標高は丘陵南端部（第１・４・５次調査区）と大差なく、約36.0～37.0mである。緩やかに南勾配の地形をとる。

遺構検出は、古墳の埋葬施設を除いては、黄橙褐色粘質土層上で行った。この層の上には基本的に第６・７次調査区全体に黒色系土（黒ボク土）の堆積がみられ、弥生時代の遺構は、この黒ボク土上面から開削されていたものと考えられる。しかし、黒ボク土層の堆積は薄く、雑木林・竹林による撹乱も激しかったため遺構の検出は最終的に黄橙褐色粘質土面で行った。また、この黒ボク土の上面には奈良時代の遺物を多く含む、黒ボク土に褐色土のブロックが混じった層が部分的に確認できたが、弥生時代の遺構同様、この面での検出は困難であり、黄橙褐色粘質土面にて行った。古墳の埋葬施設については各古墳によって様相が多少異なるため各古墳において記述をしたので、参照されたい。

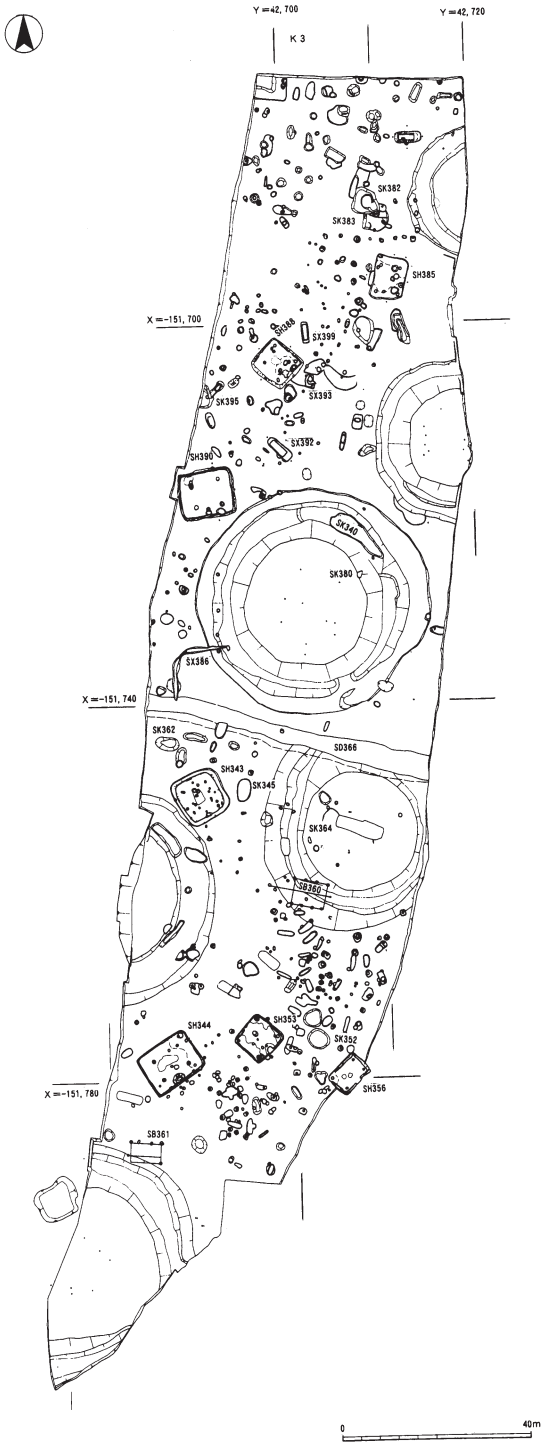
2　縄文・弥生時代の遺構

a　縄文時代の遺構

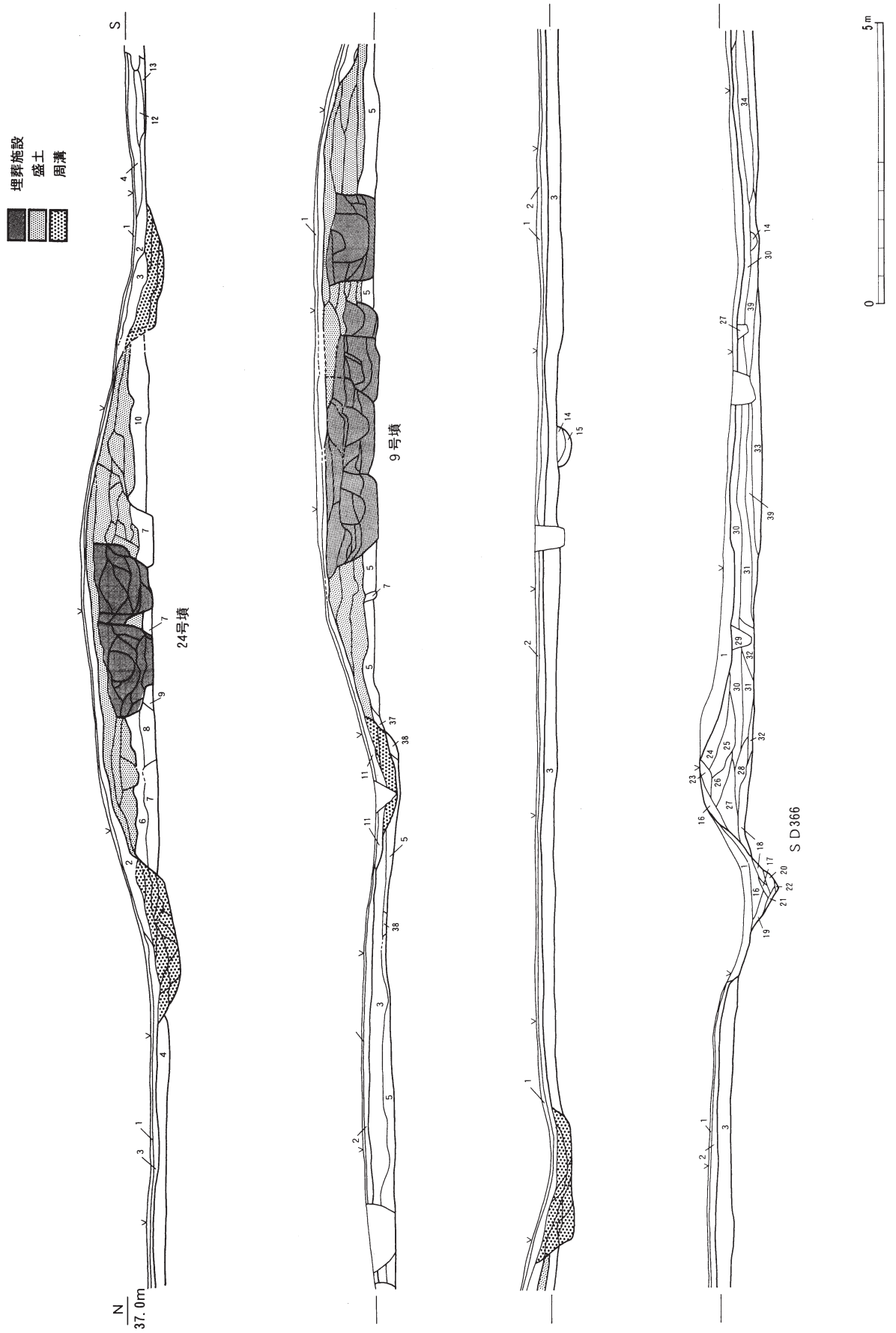
縄文時代の遺構としては、土坑ＳＫ359の１基のみである。ただしこれも混入の可能性が高いものである。遺物としては中期～後期にかけての破片が土塁ＳＺ365の南側から小谷12号墳東側にかけての包含層で出土し、やや南に離れた小谷13号墳北東側のＳＫ359から、また７次調査の北端である小谷24号墳墳丘盛土内からそれぞれ一点ずつ出土している。

b　弥生時代の遺構

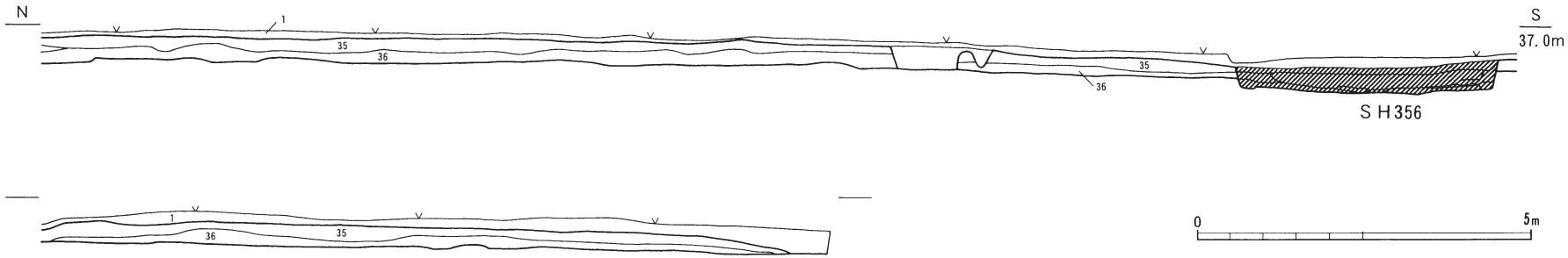
これまでの丘陵南端部における１次・４次・５次調査においても弥生時代の集落跡とみられる竪穴住居跡・土坑などが後期を中心として検出されている。今回の丘陵平坦面東端部で中期末から後期にかけての集落跡とみられる遺構が確認できた。また、丘陵南端部では前期までさかのぼる遺構・遺物は確認されていなかったものが、東端部では遺物を伴う遺構



第４図　第６・７次調査区　遺構平面図（１：800）



第５図　第６・７次調査区　東壁土層断面図（１）（１：100）



1　表土　褐灰色土　10ＹＲ４／１

2　褐色土　10ＹＲ４／６

3　褐色土　10ＹＲ４／４

4　暗褐色土　7.5ＹＲ５／３　炭粒少し含む

5　褐色粘質土　7.5ＹＲ４／６　黒褐色　7.5ＹＲ３／２　ブロック含む

6　黒褐色土　10ＹＲ２／２　黒色　2.5Ｙ２／１　ブロック含む

7　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３　褐色　7.5ＹＲ４／４ブロック炭粒含む

8　暗褐色土　10ＹＲ３／３　褐色　7.5ＹＲ４／４　黒色　10ＹＲ２／１　ブロック含む

9　褐色土　7.5ＹＲ４／４　黒色　10ＹＲ２／１　ブロック含む

10　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　10ＹＲ４／６　黒色　10ＹＲ1.7／１　ブロック含む

11　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３

12　暗褐色土　10ＹＲ３／４　褐色粒含む

13　褐色土　7.5ＹＲ４／６

14　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３　黒色　7.5ＹＲ２／１　ブロック、明褐色粒含む

15　褐色土　7.5ＹＲ４／４　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む

16　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４

17　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２

18　にぶい黄橙色土　10ＹＲ６／４

19　黒褐色土　10ＹＲ３／２

20　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３　橙色粘質ブロック　５ＹＲ６／８　含む

21　明赤灰色土　2.5ＹＲ３／１　明赤褐色粘質ブロック　2.5ＹＲ５／６　含む

22　橙色粘質土　５ＹＲ６／８　炭粒含む

23　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２

24　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ４／６　明黄褐色　10ＹＲ６／８　粒含む

25　黄褐色土　2.5Ｙ５／４

26　黒色土　10ＹＲ２／１

27　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２

28　黒褐色土　7.5ＹＲ３／１

29　黒褐色土　10ＹＲ３／２

30　褐灰色土　10ＹＲ４／１

31　黒色土　５Ｙ２／１

32　オリーブ　褐色土　2.5Ｙ４／４

33　明赤褐色土　５ＹＲ５／８

34　褐灰色土　10ＹＲ４／１

35　黒褐色土　10ＹＲ３／１

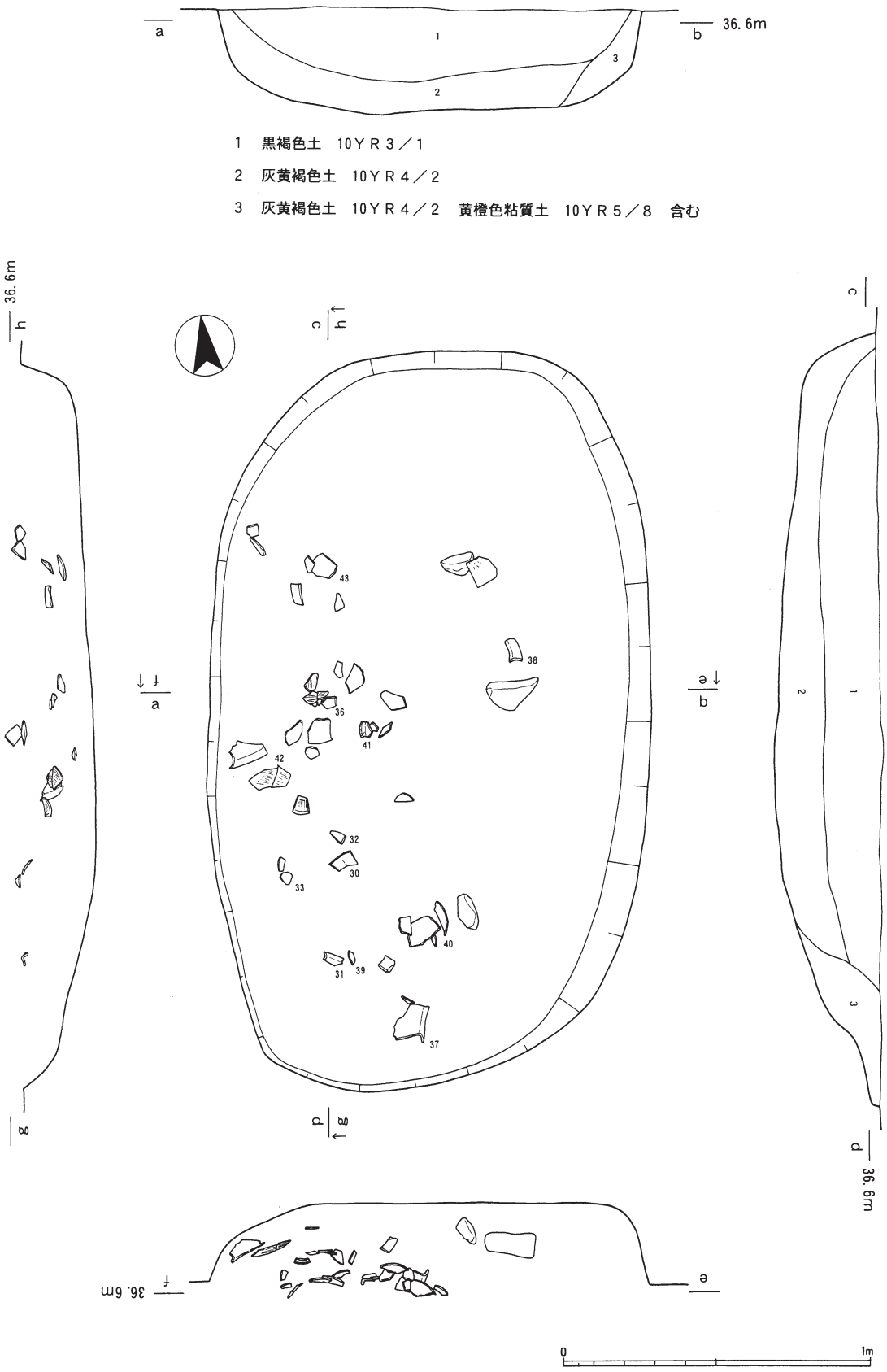
36　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

37　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２　橙色粒含む

38　黒褐色粘質土　7.5ＹＲ３／２　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む

39　灰色土　５Ｙ４／１

第６図　第６・７次調査区　東壁土層断面図（２）（１：100）



第７図　土坑ＳＫ345　平面・断面図（１：20）

として検出された。しかし、確認されたのが土坑のみで住居跡等の遺構は検出できなかったため、前期の集落跡解明には至らなかった。

ａ　弥生時代前期の遺構

土坑ＳＫ345（第７図）　第６次調査区において、小谷11号墳周溝西側で検出した土坑である。長径2.4m、短径1.45mの南北に長い楕円形土坑で、黒ボク層上面から土器破片が多く出土していた。地山面からの深さ約0.25mであり、壺・甕が破片ではあるが多く出土した。

土坑ＳＫ352（第８図）　第６次調査区のほぼ中央で検出した土坑であり、長径2.4m、短径2.0mのやや楕円形の土坑である。この土坑も黒ボク層上面から土器砕片が多く出土しており、地山面から深さ約0.4mで平底の底部となる。この底面からは甕などの破片とともに、サヌカイト製石鏃・石核、また剥片が多数出土した。

ｂ　弥生時代後期の遺構

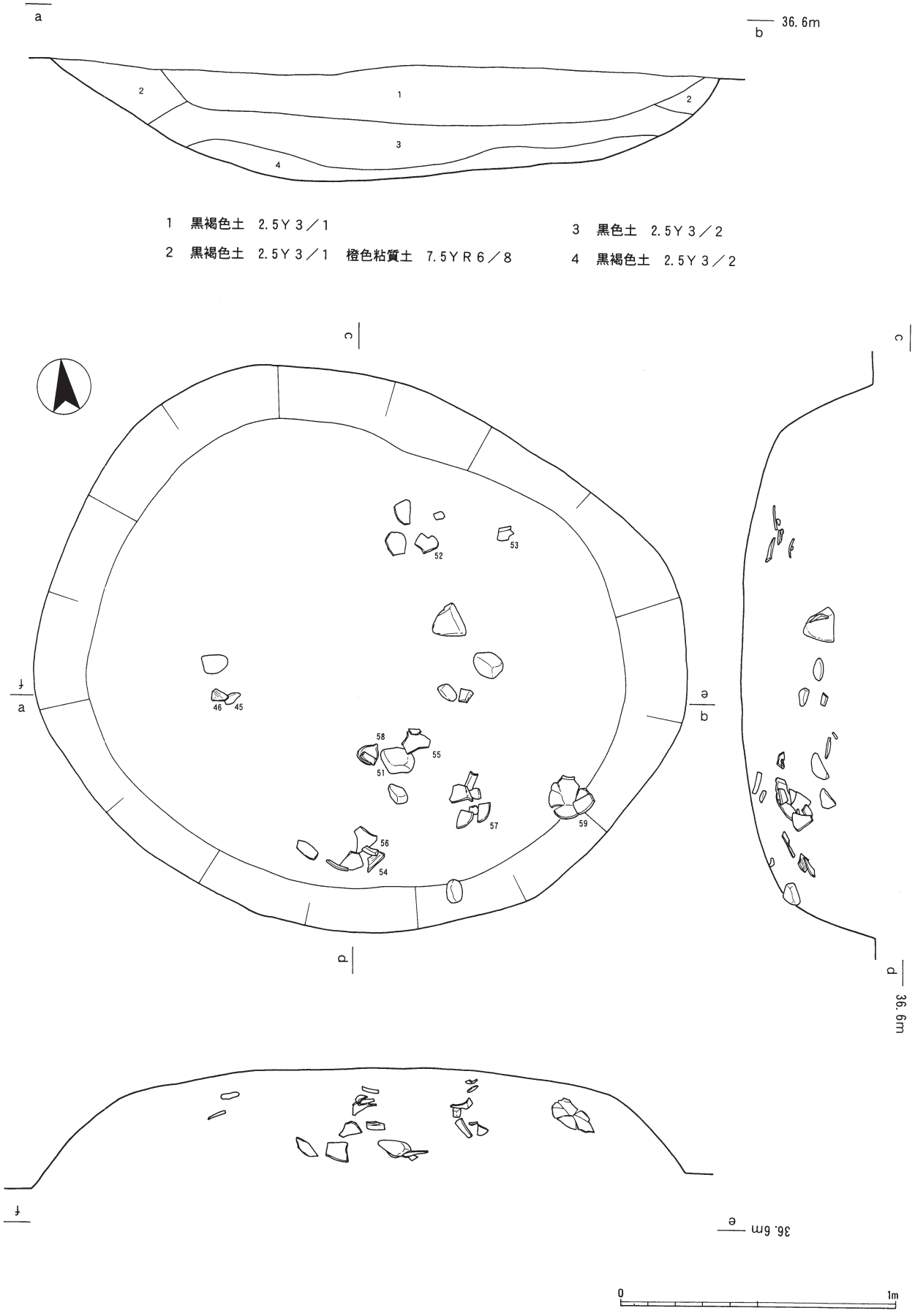
竪穴住居ＳＨ343（第９図）　土塁ＳＺ365の南側で小谷12号墳北東側に位置する。南北5.6m、東西5.7mのほぼ正方形の竪穴遺構であり、竪穴内には部分的であるが壁周溝および壁柱穴が廻る。主柱穴は４本、うち２本に近接した控え柱を伴う。床面には壁周溝より内側のほぼ全面に貼床がみられ、竪穴中央にやや赤褐色の焼土がみられたことから、この中央が炉跡であったと思われる。貯蔵穴としては竪穴南辺中央の深さ約40㎝の穴が相当するものと考えられる。また、５次までの調査において確認されている貼床面下の土坑についても貼床を除去し検出にあたったが、土坑等の施設はなかった。貼床面直上で土器破片が多く出土するが、形を残すものはわずかで、高杯脚部（67)、甕底部（68）などが出土した。

竪穴住居ＳＨ344（第10図）　小谷12号墳の南側に位置する。南北4.9m、東西6.2mというやや東西を長辺とする長方形の竪穴遺構である。竪穴内には全周する壁周溝をもち、壁柱穴を確認している。主柱は４本で主柱穴間の長さは長辺3.1m、短辺2.3mの長方形プランであり、控柱と思われる柱穴が主柱穴４本に対し３本までは確認できた。この控柱はこれまで１次調査以降５次調査まで確認された竪穴住居の控柱のあり方と比べて、主柱穴から対角線方向に離れていることが特徴である。貼床は主柱穴東辺より西側で確認しており、竪穴遺構中央やや北寄りの貼床面に焼土がみられ、この竪穴中央が炉跡であることが考えられる。貯蔵穴としては竪穴遺構南辺中央の深さ約60㎝の穴がこれに相当するものとみられる。このＳＨ344についても貼床面下の施設は検出を行ったが浅い土坑状の窪みはあったものの５次調査までの竪穴住居でみられた土坑状の施設はなかった。出土遺物としては、貯蔵穴付近の土器片下から石鏃(２)と、炉跡周辺から赤彩のある高杯口縁（73)、甕口縁・底部破片が、また竪穴南西隅の床面直上から甕口縁破片、壺などが出土している。

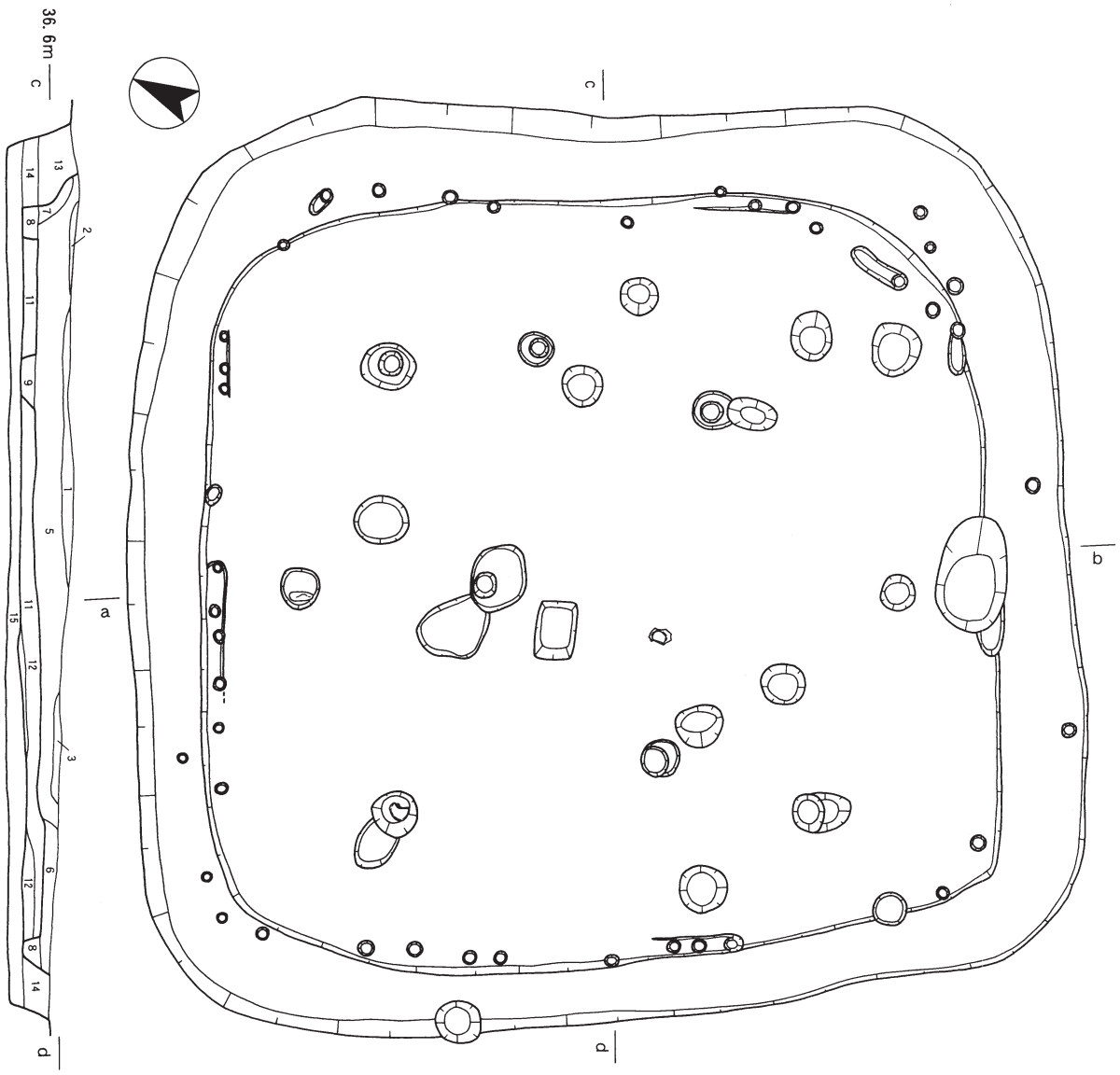
竪穴住居ＳＨ353（第11図）　ＳＨ344の東に位置する。４m四方の正方形の竪穴遺構である。壁周溝は西辺中央の器台出土部分を除いて全周する。壁柱穴も部分的ではあるが確認できた。主柱は４本、西の１本を除いて近接する控柱があり、竪穴遺構の極めて隅寄りに柱が位置する。貼床面は竪穴遺構縁辺を除く、主柱穴の柱通りより内側で確認している。焼土は竪穴遺構中央やや北寄りの二箇所において確認できた。貯蔵穴は東辺中央の深さ約32㎝の穴が相当するものと考えられる。貼床面下に土坑等の施設はなかった。出土遺物は壁周溝の北辺中央で器台（80)を、貼床面から高杯脚部破片（79)、甕・壺の破片が出土した。

竪穴住居ＳＨ356（第11図）　先述のＳＨ353東側にあり、丘陵平坦部縁辺に位置する。長辺4.1m、短辺2.9mの長方形の竪穴遺構である。壁周溝は断片的ではあるが確認でしており、壁柱穴も疎らではあるが確認できた。主柱は４本で、竪穴遺構の比較的四隅に位置し、控柱が確認できなかった。貼床は、主柱穴の柱通り内部においてはほぼ全面に確認できた。焼土は竪穴遺構中央において二箇所にみられ、炉跡は竪穴遺構中央にあったものと考えられる。東側の焼土上では甕口縁（69)、壺底部（70)、台付甕脚部（71)、土玉（72）などが出土した。貼床下面には土坑等の施設はみられなかった。

竪穴住居ＳＨ385（第12図）　７次調査において、小谷24号墳と９号墳の間で検出した。長辺4.7m、短辺3.5mの長方形の竪穴遺構である。６次・７次調査において検出した竪穴住居７棟の中で、唯一壁



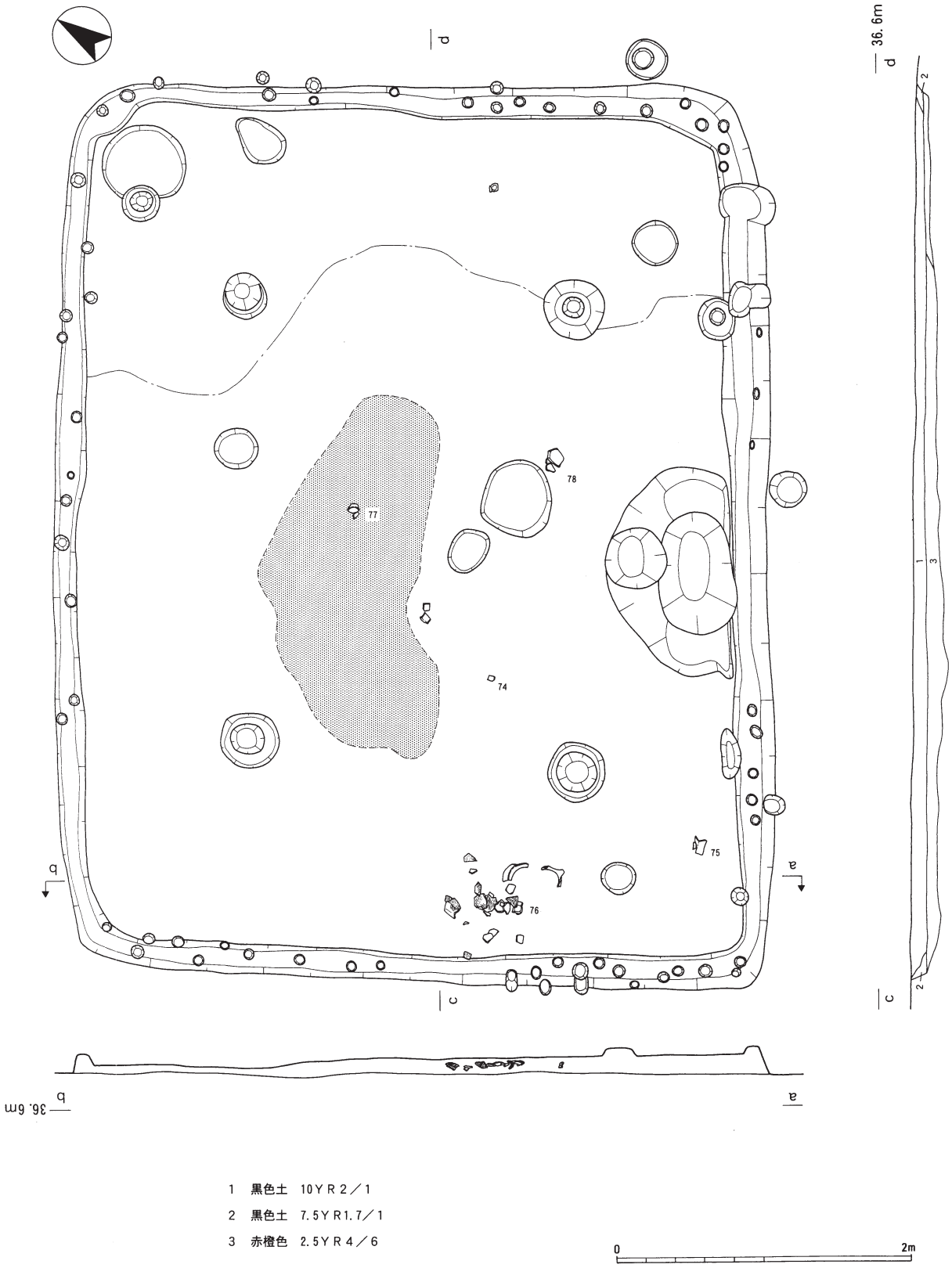
第８図　土坑ＳＫ352　平面・断面図（１：20）



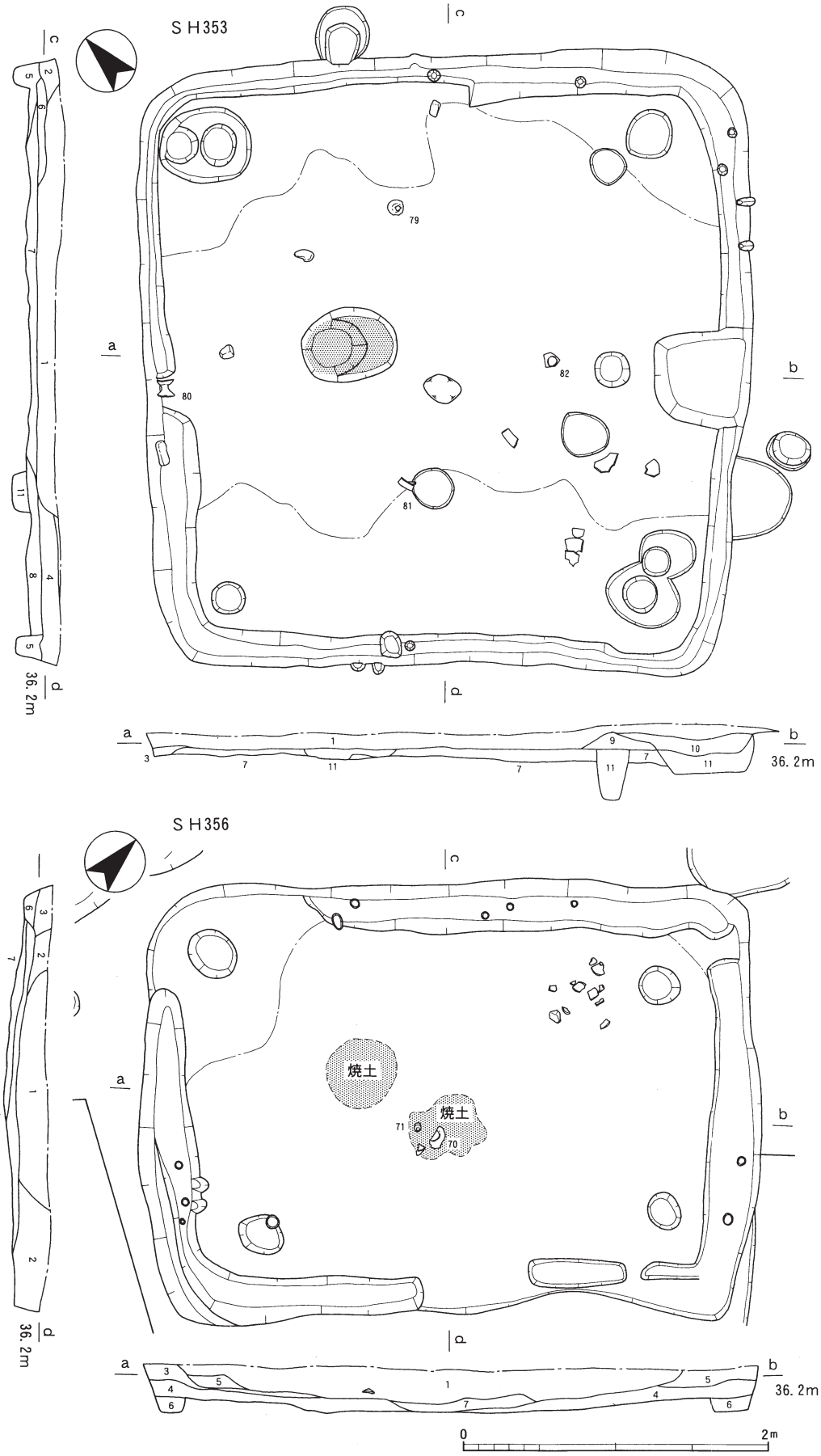
1　黒褐色土　10ＹＲ２／２
2　褐色土　10ＹＲ４／４
3　黒褐色土　10ＹＲ３／２
4　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２
5　黒色土　7.5ＹＲ1.7／1
6　黒褐色土　7.5ＹＲ３／1
7　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む
8　暗褐色土　10ＹＲ３／４
9　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２
10　黒色土　10ＹＲ1.7／1
11　褐色土　7.5ＹＲ４／４
12　明褐色土　7.5ＹＲ５／６
13　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２
14　褐色土　10ＹＲ４／６
15　橙色土　５ＹＲ７／６　赤褐色粘質土　５ＹＲ４／８　粒含む

0　2m

第９図　竪穴住居ＳＨ343　平面・断面図（１：40）



第10図　竪穴住居ＳＨ344　平面・断面図（1：40）



1　にぶい褐色土　7.5ＹＲ５／３　黒褐色ブロック含む
2　明赤褐色土　５ＹＲ５／８　炭化物含む
3　灰褐色土　7.5ＹＲ５／２
4　にぶい褐色土　7.5ＹＲ６／６
5　褐灰色土　５ＹＲ４／１　明赤褐色土混じり
6　にぶい褐色土　7.5ＹＲ６／６　橙色ブロック含む
7　橙色粘質土　５ＹＲ６／６　砂利含む（貼床）
8　土色未記入
9　灰褐色土　7.5ＹＲ４／２　橙色ブロック含む
10　にぶい橙色土　7.5Ｙ５／３　橙色ブロック含む
11　にぶい橙色土　7.5ＹＲ５／４

1　赤黒色土　2.5ＹＲ２／１
2　黒褐色土　５ＹＲ３／１
3　灰褐色土　５ＹＲ４／２
4　にぶい赤褐色　５ＹＲ５／４
5　黒褐色土　10ＹＲ３／１
6　褐灰色土　10ＹＲ４／１
7　にぶい赤褐色土　５ＹＲ５／４　赤褐色ブロック含む（焼土）

第11図　竪穴住居ＳＨ353・ＳＨ356　平面・断面図（１：40）

周溝・壁柱穴が検出されなかったものである。主柱穴を４本確認しており、控柱をもたない。貼床は主柱穴の柱通りより内側で確認できた。床面に焼土は確認できておらず、また炉跡の痕跡はなかった。貯蔵穴はやや小さいが東辺中央やや南寄りの穴がそれに相当するものと考えられる。出土遺物は甕破片などが出土したが、器表面の劣化が著しく、補強しながら取上げを行い、また同一個体でありながら断面の接点がわずかしかなく83の甕も体部まで残存しながらも接合復原が不可能であった。

竪穴住居ＳＨ388（第13図）　７次調査区のほぼ中央、小谷9号墳の西側で検出した。長辺4.4m、短辺4.0mのほぼ正方形の竪穴遺構で、断片的に壁周溝が確認できた。壁柱穴も東辺北半を除いてよく検出できた。床は主柱穴柱通りの内部東半に貼床が確認できた。炉跡としては竪穴遺構の中央にある焼土面あたりが想定できる。この焼土面の東側に作業台に適した長辺45㎝、短辺25㎝の石（砂岩系か？）が据えてあった。主柱は竪穴遺構の比較的内側に４本あり、それぞれにかなり距離をおいた控柱が伴うことを確認した。貯蔵穴は東辺中央やや北寄りの穴がそれに相当するものと考えられる。床面直上からは多くの土器が出土しており、高杯（97～103)、小形甕(15)、小形壺（106)、内面に赤色顔料（ベンガラ）が付着した小形鉢（104)、甕、壺と器種も多彩である。貼床下面から土坑等の施設は見つかっていない。

竪穴住居ＳＨ390（第14図）　小谷10号墳の北西に位置する。長辺6.0m、短辺5.2mとやや長方形気味の竪穴遺構である。壁周溝を四周に廻らせ、壁柱穴も確認できた。貼床は北西隅主柱穴の周囲にしか検出できなかった。焼土は竪穴遺構中央のごく一部に残存するのみであったが、これが炉跡であったと考えられる。主柱は４本で、控柱を持たない。主柱穴の深さは貼床面から50～60㎝とかなり深めであり、主柱穴のうち３本の柱穴で、貼床面から10㎝ないしは40㎝下から甕（94）・壺（91）の比較的大きい破片が出土している。住居廃絶にあたり意図的に土器を入れたものであろうか。貯蔵穴は南辺中央に位置し、深さ約20㎝である。出土遺物は高杯（84・85)、小形壺（86)、小形甕（93)、壺（87～92)、甕（94～96）などが出土している。

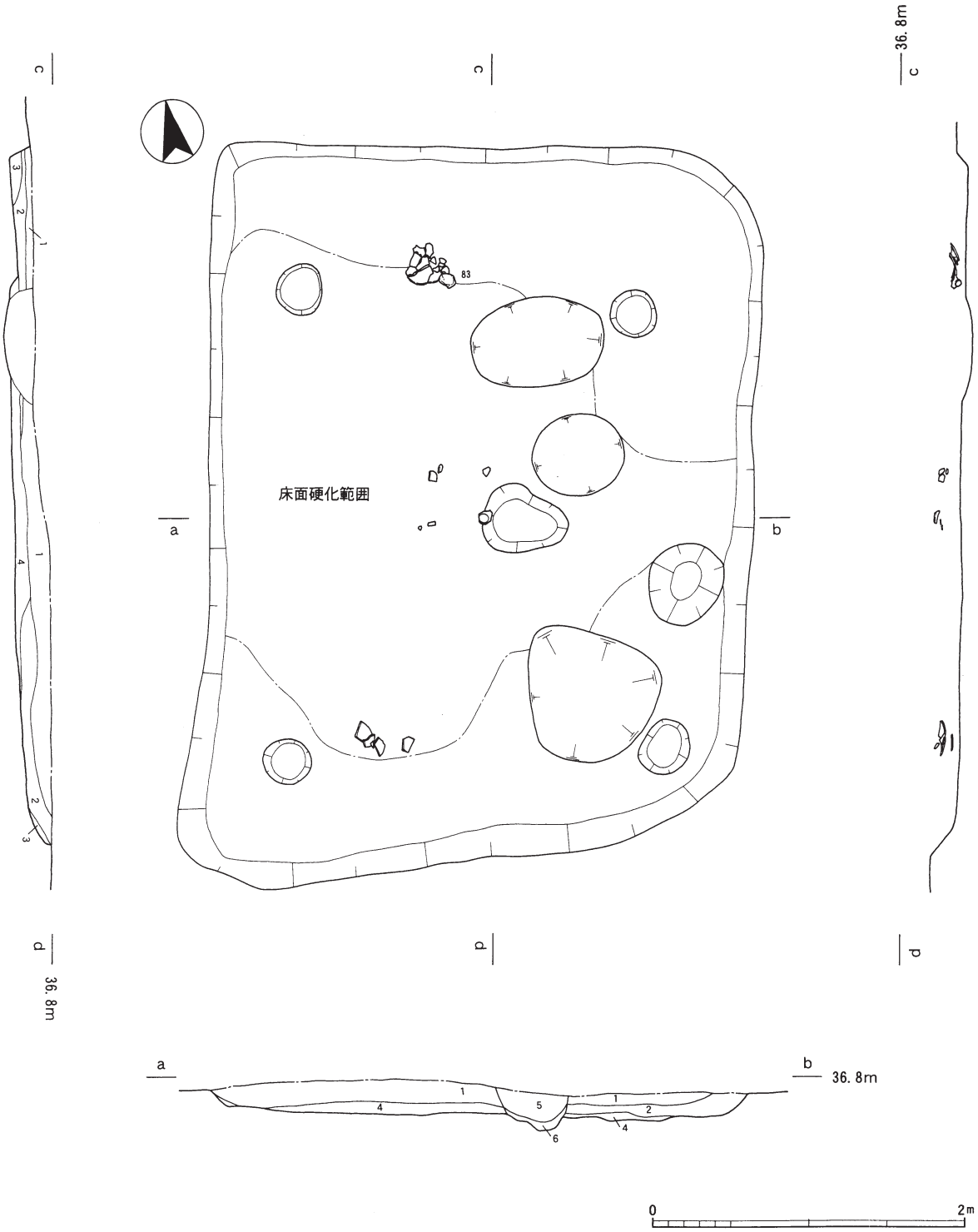
棟持柱建物ＳＢ360（第15図）　小谷11号墳周溝南側にかかる位置で検出した。規模は桁行４間（4.6m）×梁間１間（2.7m)、東西棟建物であり、東西棟持柱の出が西が1.4m、東が0.5mと不均等である。棟持柱の転びは確認できなかった。柱穴からの出土遺物は図示できるほどのものではないが、弥生土器が出土していることから、ＳＢ361と共に竪穴住居群と共に集落を構成していた掘立柱建物と判断した。

棟持柱建物ＳＢ361（第15図）　小谷13号墳周溝北側にかかる位置で検出した。規模は桁行3間（3.3m）×梁間１間（2.1m）の東西棟で、南側の桁行筋の柱は、小谷13号墳の周溝開削にあたり削平されたものとみられる。西側のみに棟持柱をもち、棟持柱の出が0.3mという近接棟持柱に相当する。この棟持の出が極めて浅いことから棟持柱建物となり得るか検討したが、棟持柱の転びが良い角度をなすことから、棟高はさほど高くないものの棟持柱建物として建ち得たことがわかり、ＳＢ360および竪穴住居群と共に集落を構成していた建物と判断した。

土坑ＳＫ362（第16図）　第６次調査区北端であった土墨ＳＺ365の下層遺構の確認で、土墨下から検出した土坑である。東西2.5m、南北1.5mの東西に長軸をもつ土坑で、深さ約0.4mで平らな底となる。この中から、壺（127・128)、甕（129）の３個体がまとまって出土した。

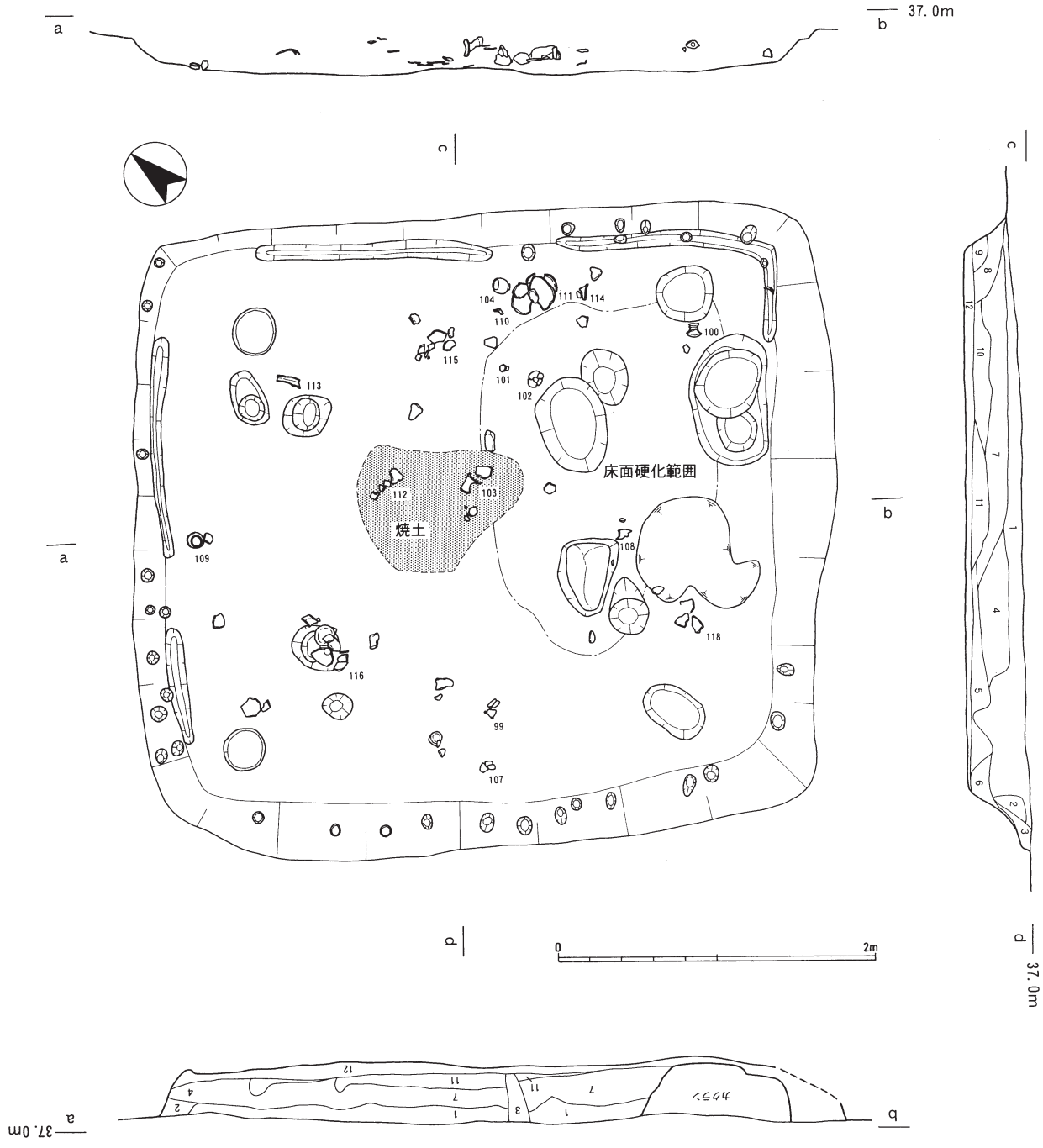
土坑ＳＫ364（第50図）　小谷11号墳埋葬施設２の掘形西端にわずかに削平されるが、古墳造成時に開削されずに残った土坑である。規模は径約1.6mの不整円形であり、甕（131）が出土した。

周溝遺構ＳＸ386（第17図）　第６次と第７次の調査区境界で小谷10号墳の西側で検出した周溝遺構である。西辺から北辺の周溝が確認できたもので南辺は堀ＳＤ366で開削されているために確認できなかった。また東辺についても小谷10号墳周溝の開削があるものの、北辺とわずかに東辺側へ折り返した溝を確認できていることから、古墳周溝による削平で検出できなかったものとは考えにくく、検出した西辺～北辺の周溝で構成される逆Ｌ字形(不均等なコ字形)のいわゆる方形周溝墓である。遺物は３箇所で出土しており、西辺周溝南端で赤彩(ベンガラ)された高杯（120）と、壺（122・123）が、また西辺か



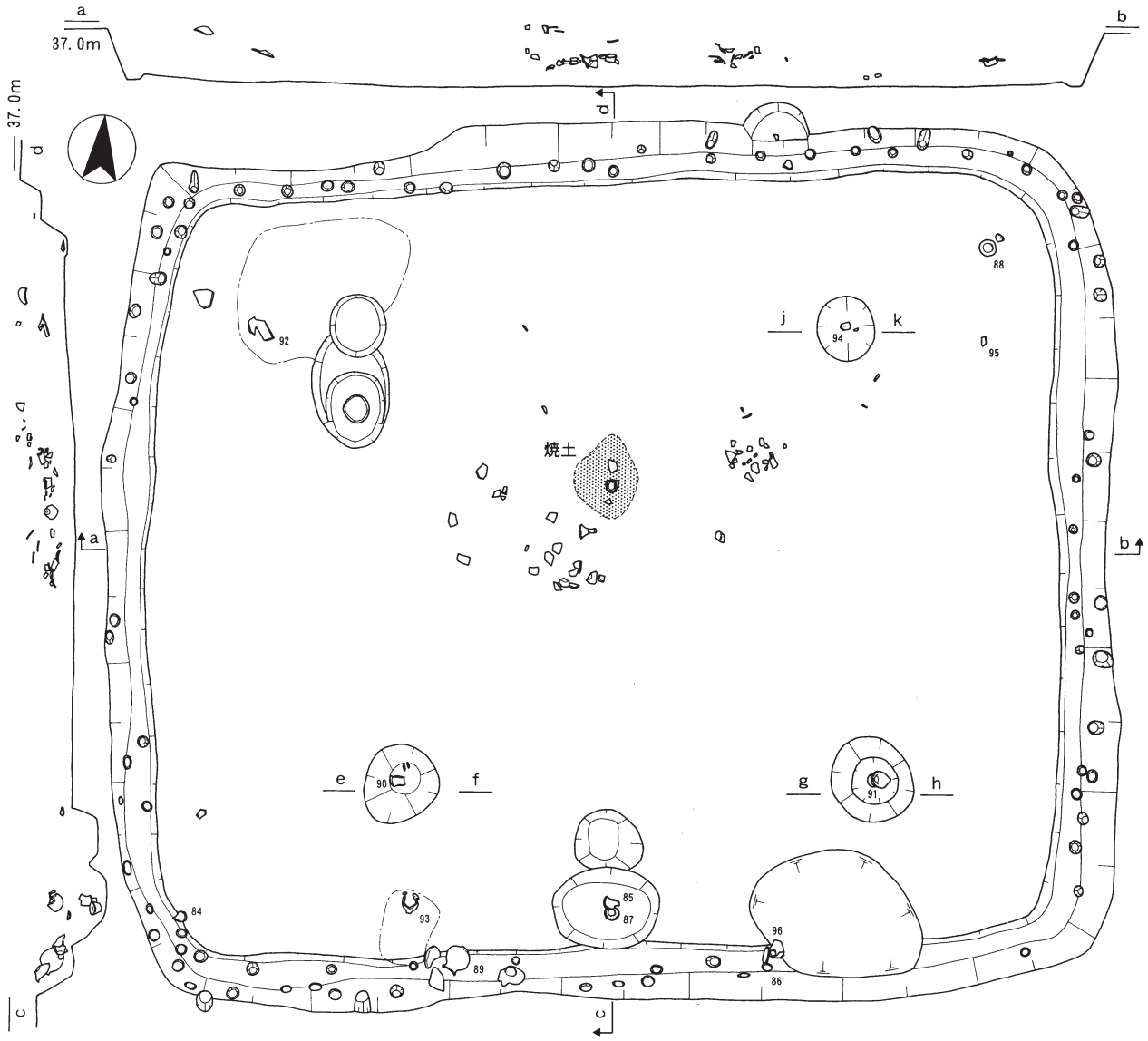
1　黒色土　2.5Ｙ２／１
2　黒褐色土　2.5Ｙ３／２
3　明黄褐色土　10ＹＲ６／８　黒褐色ブロック含む
4　黒褐色粘質土　2.5Ｙ３／２　黄灰色粘質土、砂含む（貼床）
5　黒色土　7.5ＹＲ２／１
6　黒褐色土　10ＹＲ２／３

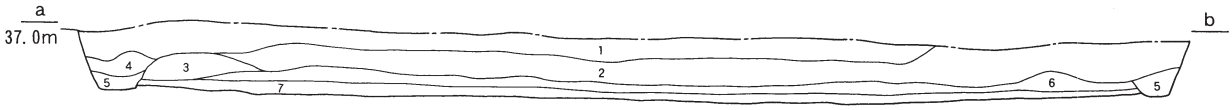
第12図　竪穴住居ＳＨ385　平面・断面図（１：40）



1　黒色土　10ＹＲ２／１　炭・焼土含む
2　黒褐色土　10ＹＲ３／２
3　黒褐色土　10ＹＲ３／１　炭含む
4　黒褐色土　10ＹＲ３／１
5　黒褐色土　10ＹＲ３／２　焼土含む
6　炭黄褐色土　10ＹＲ４／２　黄色ブロック含む
7　黒色土　2.5Ｙ３／１
8　黄灰色土　2.5Ｙ４／１　黄色ブロック含む
9　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　黄色ブロック、焼土含む
10　黄灰色土　2.5Ｙ４／１
11　黒褐色土　10ＹＲ３／２　黄色ブロック含む
12　黄灰色土　2.5Ｙ４／１　黄色ブロック含む、貼床

第13図　竪穴住居ＳＨ388　平面・断面図（１：40）





1　黒褐色土　10ＹＲ２／２

2　黒色土　10ＹＲ７／１　明褐色土混じり

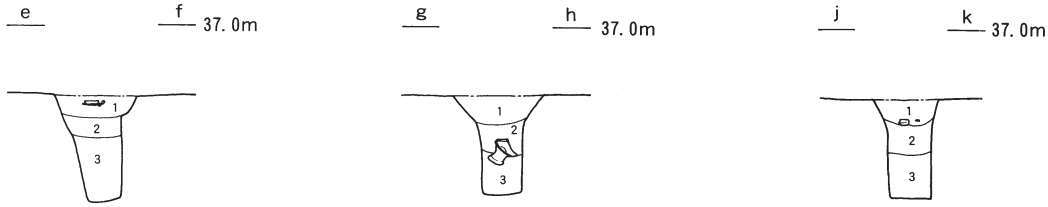
3　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２　明褐色土混じり

4　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２　明褐色土混じり

5　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色土混じり・壁周溝

6　暗褐色土　10ＹＲ３／３　砂混じり

7　褐色土　7.5ＹＲ４／３　にぶい黄褐色土ブロックと粘土混じり・貼床



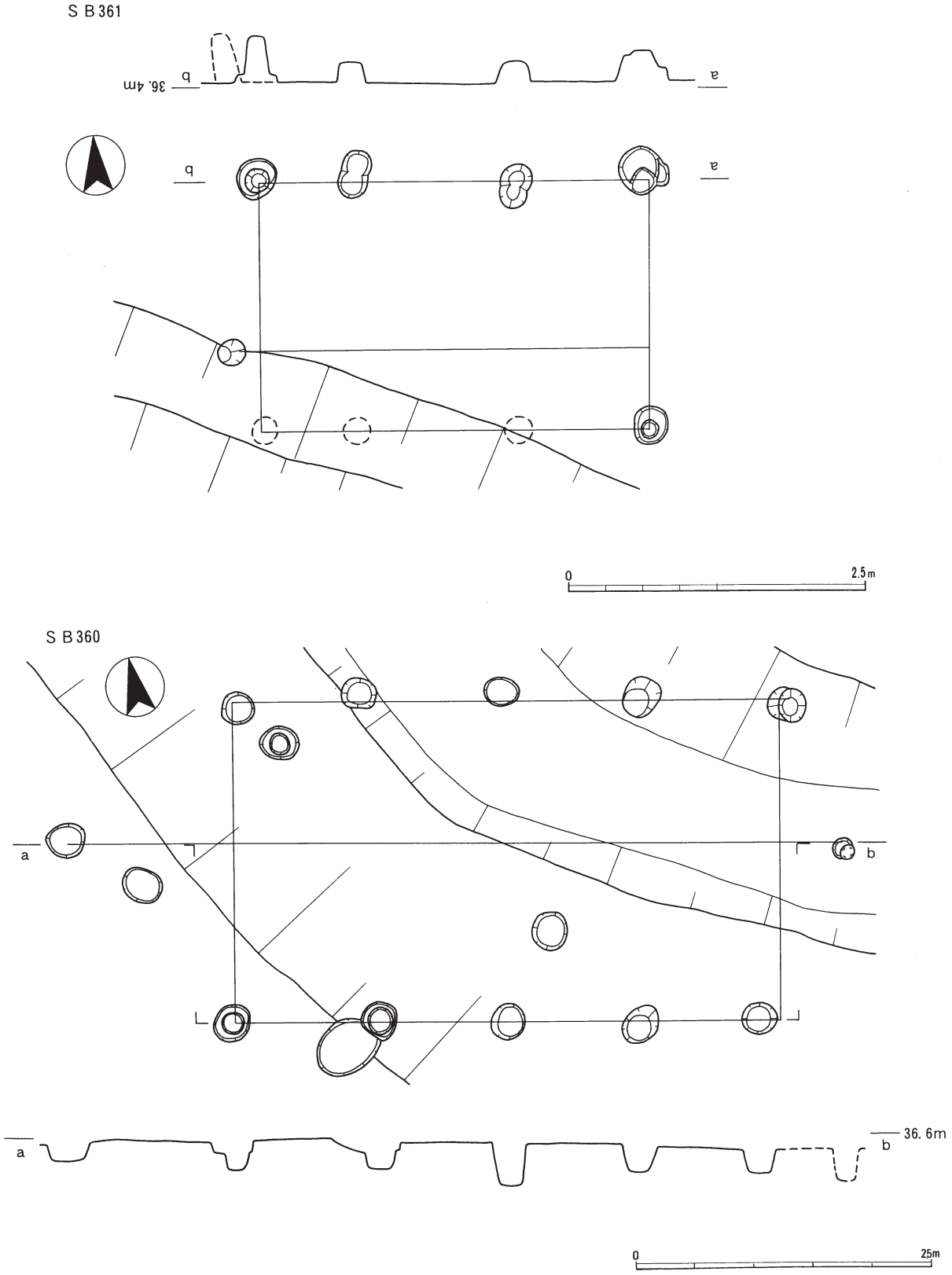
1　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２

2　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４

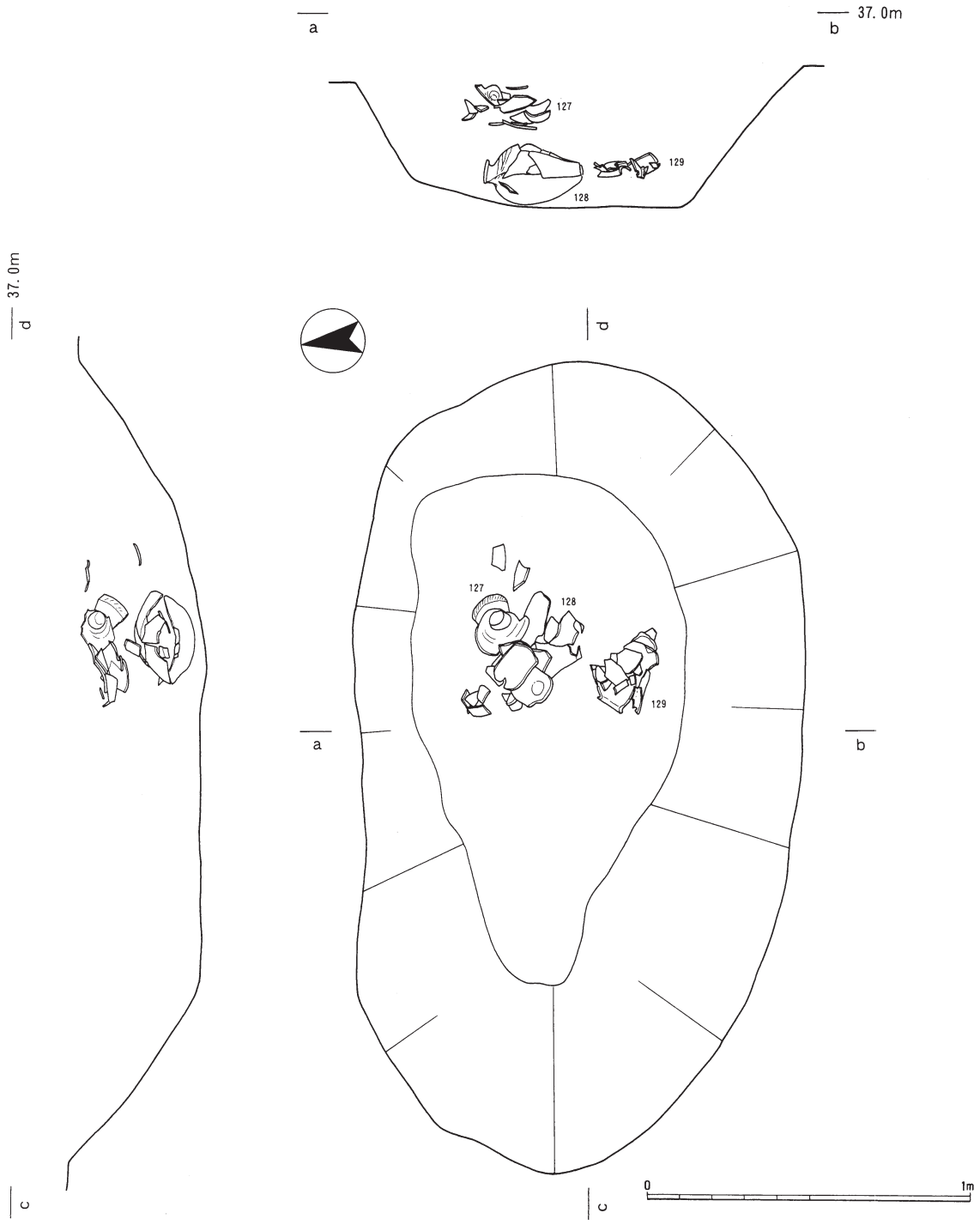
3　赤褐色土　５ＹＲ４／６

0　2m

第14図　竪穴住居ＳＨ390　平面・断面図（１：40）

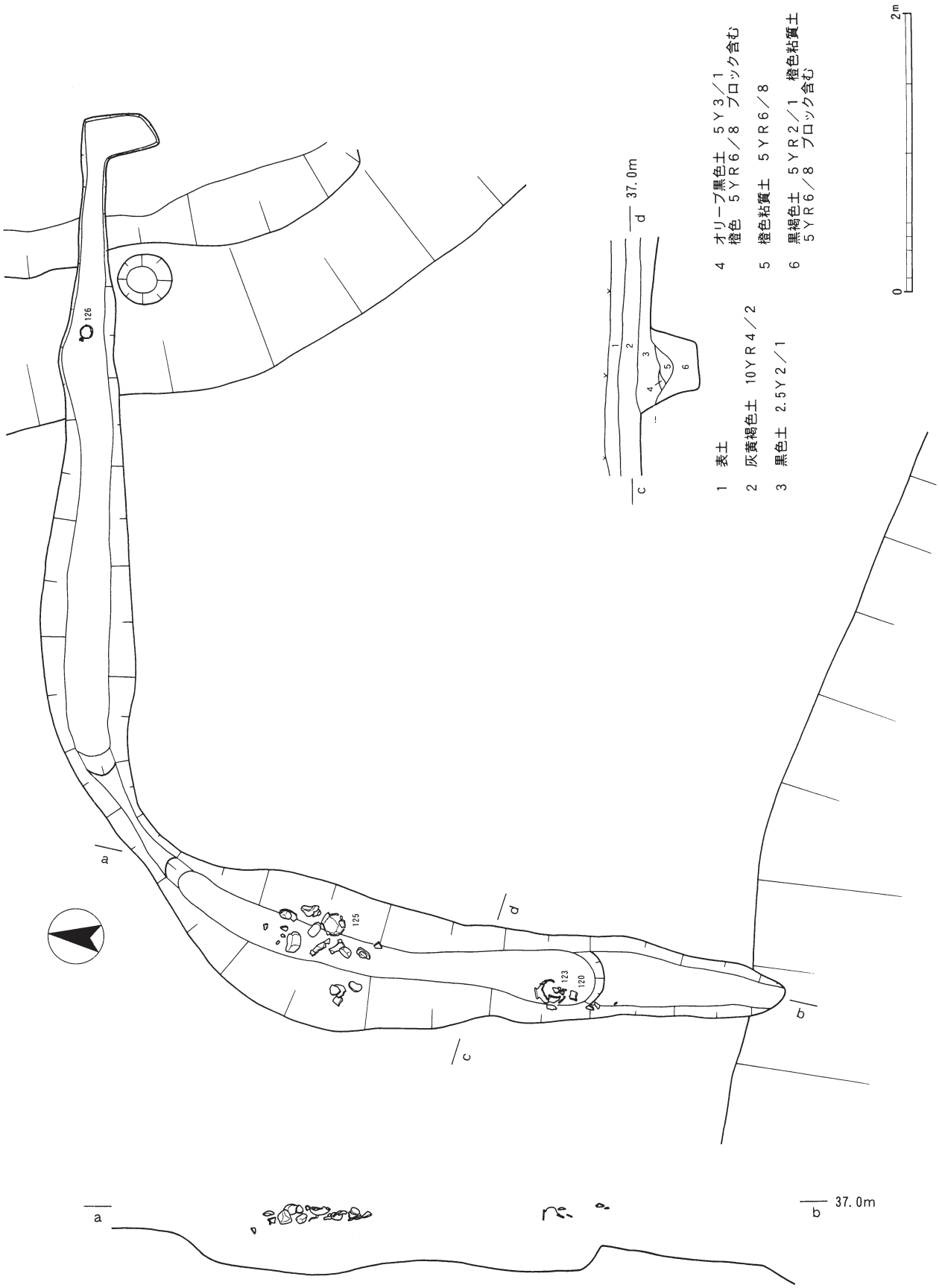


第15図　掘立柱建物ＳＢ360・361　平面・断面図（1：50）



第16図　土坑ＳＫ362　平面・断面図（１：20）

ら北辺への曲がり角付近で短頸壺（121）や甕（125）などが、そして北辺東隅で甕（126）がそれぞれ出土した。　（大川）



第17図　周溝遺構ＳＸ386　平面・断面図（1：40）

3　縄文・弥生時代の出土遺物

第６・７次調査区から出土した遺物は、整理箱にして約111箱である。時期的には縄文時代から中世にまで及ぶ。小谷古墳群に伴う遺物以外では、弥生時代後期の土器類が中心で、次いで多いのが奈良時代のものである。縄文時代のものは少量認められるに過ぎない。

以下では、出土遺物の特長を主に遺構単位で記述するが、石器類および縄文土器は、遺構別ではなく一括して扱う。遺物個々の詳細については、遺物観察表（第２～５表）を参照されたい。

ａ　石器類

石器類には、尖頭器・石鏃・削器・石斧などがある。

有茎尖頭器（１）　チャート製。茎部は若干欠損している。縄文時代草創期頃のものか。

石鏃（２～７）　いずれもサヌカイト製。２・３は凸基式、４～６は凹基式、７は尖頭器形のものである。４・６は弥生時代前期の土坑ＳＫ352から出土したもの。

加工のある石器（８・９・13）　いずれもサヌカイト製。８は、薄片に２次加工が施されたもの。削器状具として用いられたと考えられる。９には比較的丁寧な調整が施されている。やはり削器であろうか。13は大形のものである。

楔形石器(10)　サヌカイト製。比較的厚手の作りである。

削器(11・12)　いずれもサヌカイト製。11は素材を円形に、12は台形に成形している。

石核(14)　サヌカイト。小形の石核である。弥生時代前期の土坑ＳＫ352から出土した。なお、ＳＫ352からは、上記石鏃（４・６）の他に、サヌカイトの薄片が多く出土しており、14の石核から排したものである可能性がある。

有溝石錘(15)　小形で扁平な川原石の両端部に切り溝を設けたもの。縄文時代のものと考えられる。

扁平片刃石斧(16)　緑色の凝灰岩製と考えられる。全体によく研磨されている。長軸約7.0㎝である。第８次調査区でも類品が出土しており、弥生時代後期のものと考えられる。

ｂ　縄文時代の土器

縄文時代の土器には、早期から後期にかけてのものがある。いずれも遺構に伴うものではない。

17は屈曲して開く口縁部を持ち、外面の屈曲部には刺突文が施されている。18は突帯状の隆起部に刺突を施したもの。19・20は同一個体と考えられる口縁部片で、隆起した縁帯文上に条痕による施文がなされている。21は口縁下部に太い沈線を二条施したもの。22は刺突を施した体部片。23～26は体部片で、垂下沈線と羽状沈線の組み合わせである。27は細い沈線間に縄文を施したもの。28は体部片、29は底部片である。

これらの土器は、17が早期末頃、19～21・23・25が中期末頃、26・27が後期のものと考えられる。

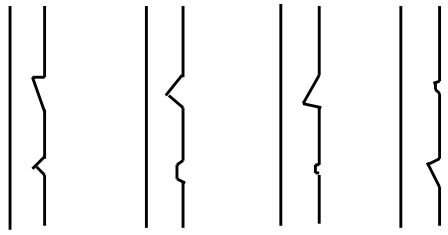
ｃ　弥生時代前期の土器

弥生時代前期の土器は、土坑ＳＫ345・352でまとまった量が出土している。いずれも前期新段階に相当するもので、いわゆる「亜流遠賀川式」を主体とするものである[1]。

土坑ＳＫ345出土土器（30～43）　30～35は壺。30は口縁端部上方に、刻目文と４方向の突起状隆起を持つ。口縁部外面には１条の沈線がめぐる。頸部には幅の広い沈線文が施されている。口縁部内面には凹線状の沈線がめぐっている。内面には煤が付着している。31も30と同様なものである。32は口縁部があまり開かない壺と考えられ、口縁端部の上部に刻目文が施されている。33は体部上半に７条の細い突帯がめぐっており、突帯上には細かな刻目文が施されている。突帯設置部分には、体部側に沈線を巡らせており、突帯装着の目印や間隔の統一を目したものと思われる。34・35は沈線による施文が施されたもので、34は斜格子文や「工」字状の文様が見られる。

36～43は甕。36～41の頸部にはいずれも沈線が巡っているが、36は３条のヘラ描沈線で、それ以外は半截竹管状工具による２条（沈線としては４条）のものである。口縁端部には刻目文が施されている。

半截竹管状工具による沈線文は、対になる２条が同じ形状を示すものではなく、片薬研状になる方と、



第18図　弥生前期半截竹管文の断面形分類

台形もしくは三角形状を呈するもう一方、という組み合わせである。また、沈線の深度も一定ではなく、どちらか一方が深い場合が多い。これらを模式的に表せば第18図のように区分できる。A類は片薬研＋三角形、B類は三角形＋台形、C類は片薬研＋台形、C’類はC類の逆で、台形＋片薬研である。37・41がA類、39がB類、38・40がC’類である。

42は大形の甕で、口縁部・頸部への施文が無いもの。43も大形のもので、頸部にはヘラ描沈線が１条遺存していた。

土坑ＳＫ352出土土器（44～59）　44～50は壺。44～47は、前述の30と同様なものである。47は口縁部内面に段のある大形品である。48・49はヘラ描沈線による綾杉文や直線文が施されている。50は細い突帯が付くもので、突帯上には押し引き状の刻目文が施されている。

51は無文の甕で、条痕文系のものと考えられる。52は把手付の甕であろうが、把手の個数は小片のため不明。53～59は甕で、53～56には口縁端部の刻目文と頸部の沈線文が見られる。頸部の沈線はいずれも半截竹管状工具によるもので、53は３条、54・55は２条である。半截竹管文は、53・54がB類、55がC類、56がA類に相当する。57は無文の大形甕である。

遺構外出土土器(60～66)　遺構に伴わない弥生時代前期のものをここにまとめた。壺（60～65）と甕(66）がある。62は口縁端部の上下に刻目文が施されている。65は沈線によって綾杉文が施されるもの。66は、半截竹管文A類に相当する。

ｄ　弥生時代後期の土器

弥生時代後期の土器は、主に竪穴住居や土坑・周溝などから出土している。いずれも後期前半を中心とした土器類である。

竪穴住居ＳＨ343出土土器（67・68）　この竪穴住居からの出土遺物は少ない。高杯(67)と壺底部(68)が見られる。

竪穴住居ＳＨ356出土土器（69～72）　69は甕。口縁部が緩やかに外反して開くもの。70は壺の底部、71は台付壺の底部であろうか。72は土玉で、断面は算盤玉形をしている。

竪穴住居ＳＨ344出土土器（73～78）　73は高杯。杯口縁部外面には波状文が見られる。外面にはさらに赤彩（ベンガラ）が見られる。74～76は甕。74では、口縁端部下方と頸下部に刻目文があり、両者は同一原体と考えられる。74の刻目文の手法は、後述の127で見られる手法に共通すると考えられる。77・78は壺の底部である。

竪穴住居ＳＨ353出土土器（79～82）　79は高杯、80はやや粗製の器台である。81は甕で、口縁端部下方に刻目文がある。82は壺の底部。

竪穴住居ＳＨ385出土土器（83）　甕の底部片１点である。やや上げ底で、脚台状を呈する。

竪穴住居ＳＨ390出土土器（84～96）　84・85は高杯で、85は「ワイングラス」形をなす。86～92は壺。90・91は受口状の口縁部で、91は頸部も緩やかに成形されていることから、やや古い様相を残していると見られる。92は大形の長頸壺で、近畿方面との関係が想定される。93～96は甕で、94・95の口縁部には刻目文が施されている。

竪穴住居ＳＨ388出土土器（97～119）　97～103は高杯。97は「ワイングラス」形のもので、98はその脚部にあたると思われる。97と98は同一個体の可能性があるが、接点が無く、明確ではない。100・103は中期的な様相を残した高杯であるが、100の脚部外面には101のような櫛描横線文があり、両者は同時に存在していても差し支えないものと考えられる。102は椀状を呈する高杯で、これもやや古い様相と見られる。

104は小形の鉢ないしは無頸壺。内面と外面の一部にベンガラと考えられる赤色顔料が付着しており、その容器として使われたと考えられる。105は、形態的には小形の甕であるが、外面下半にはミガキが

見られるので、104と同様な用いられ方と推察する。

106は小形の壺。107は大形壺の頸部。108～111は壺で、いずれも頸部に櫛描横線文を施すものである。108の櫛描文は列点文を伴っており、100の高杯脚部の施文方法と類似する。109～111は同類の壺で、口縁部が短く、かつ水平方向に開くもの。頸部には２～３単位の櫛描横線文が施される。天花寺丘陵ではとくに特徴的に出土する形態である。117～119は壺の底部。

112～116は甕。112は受口状口縁を呈するもので、口縁部から体部上半にかけて、櫛歯状工具による刻目文・横線文・波状文を施している。114～115は外反する口縁部となる甕で、113は口縁端部外面に刻目文を持つ。

周溝ＳＸ386出土土器（120～125）　120は高杯で、中期的な様相を残す。内外面には赤彩（ベンガラ）が見られる。121は短頸壺。122～124は壺。122の頸部には櫛描文があり、少し止まりながら施されているために簾状文風に見える。123には、体部に２箇所の焼成後穿孔がある。125・126は甕で、125は体部内面にヘラケズリを施すものである。体部内面のヘラケズリは、伊勢では稀である。

土坑ＳＫ362出土土器（127～129）　127・128は壺。127は受口状口縁で、外面には煤が付着している。口縁部外面と頸下部に見られる刻目文の手法は、前述の74と共通している。128は、先に見た109～111の壺と同じ系統のもの。櫛描文は、原体幅約1.2㎝で５単位施されている。

129は甕。内面に一部ミガキが見られ、口縁部が外側に面をなすなど、中期的な様相を残したものである。

土坑ＳＫ355出土土器（130）　高杯１点を図示した。椀形の杯部に５方向透かしのある脚柱が取り付く。

土坑ＳＫ364出土土器（131）　甕１点を図示した。底部は低い脚台を伴う。内面には炭化物が付着している。

ピット出土土器(132)　台付壺の脚台部と考えられる。透かし孔があるが、個数は不明。

遺構外出土土器(133～146)　遺構外の遺物をここにまとめた。

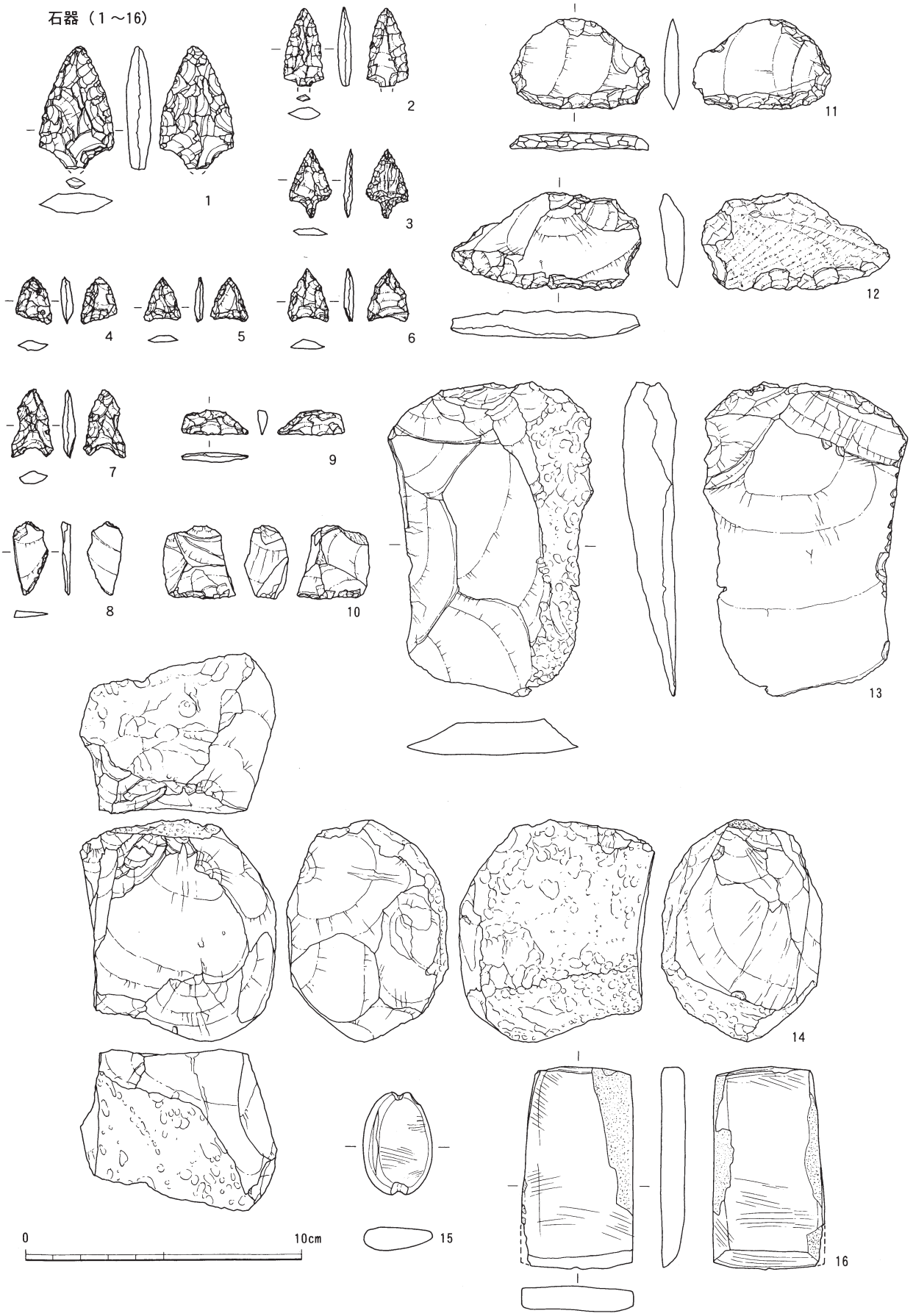
133～135は高杯。136～139は壺で、136・139は受口状の口縁部である。136は中期的な様相を残す。137は口縁部内面に櫛歯状工具の刺突による綾杉文がほどこされ、焼成後の穿孔も伴っている。

140～146は甕で、140は受口状口縁、141は刻目文を持つ外反口縁のもの。143～146は甕の底部で、143・146は脚台を、144・145も上げ底状のものとなっている。145は、外面にタタキメ、内面に粗いケズリの見られるもので、搬入品の可能性がある。

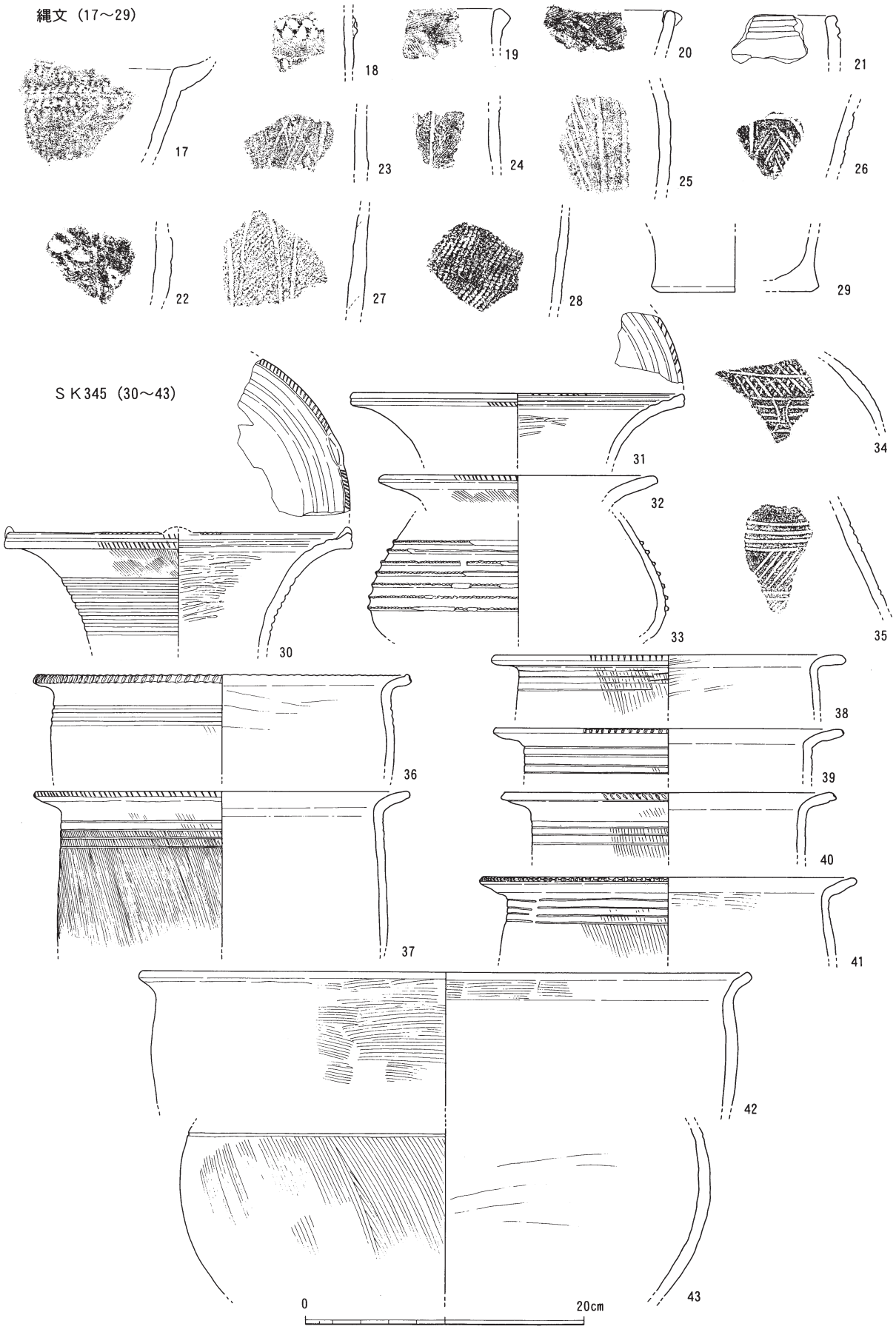
（伊藤）

〔註〕

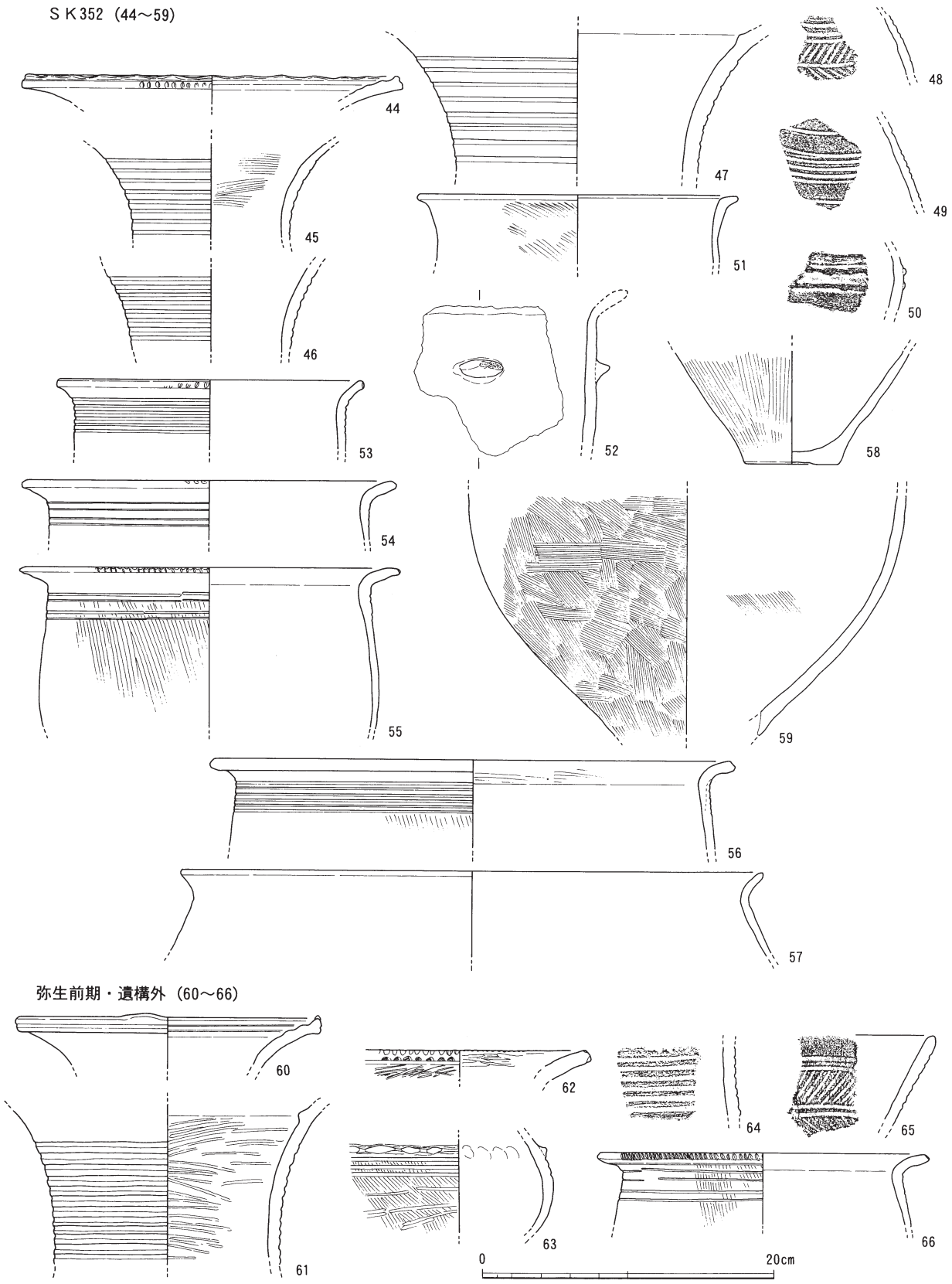
(1)　弥生時代前期の土器類については、三重県埋蔵文化財センター『金剛坂遺跡（第４次）、辰ノ口古墳群（第２次）発掘調査報告』(1999年)、鈴木克彦「「亜流遠賀川式土器」再考」(『Miehistory』vol.2　1990年）などを参照して既述した。



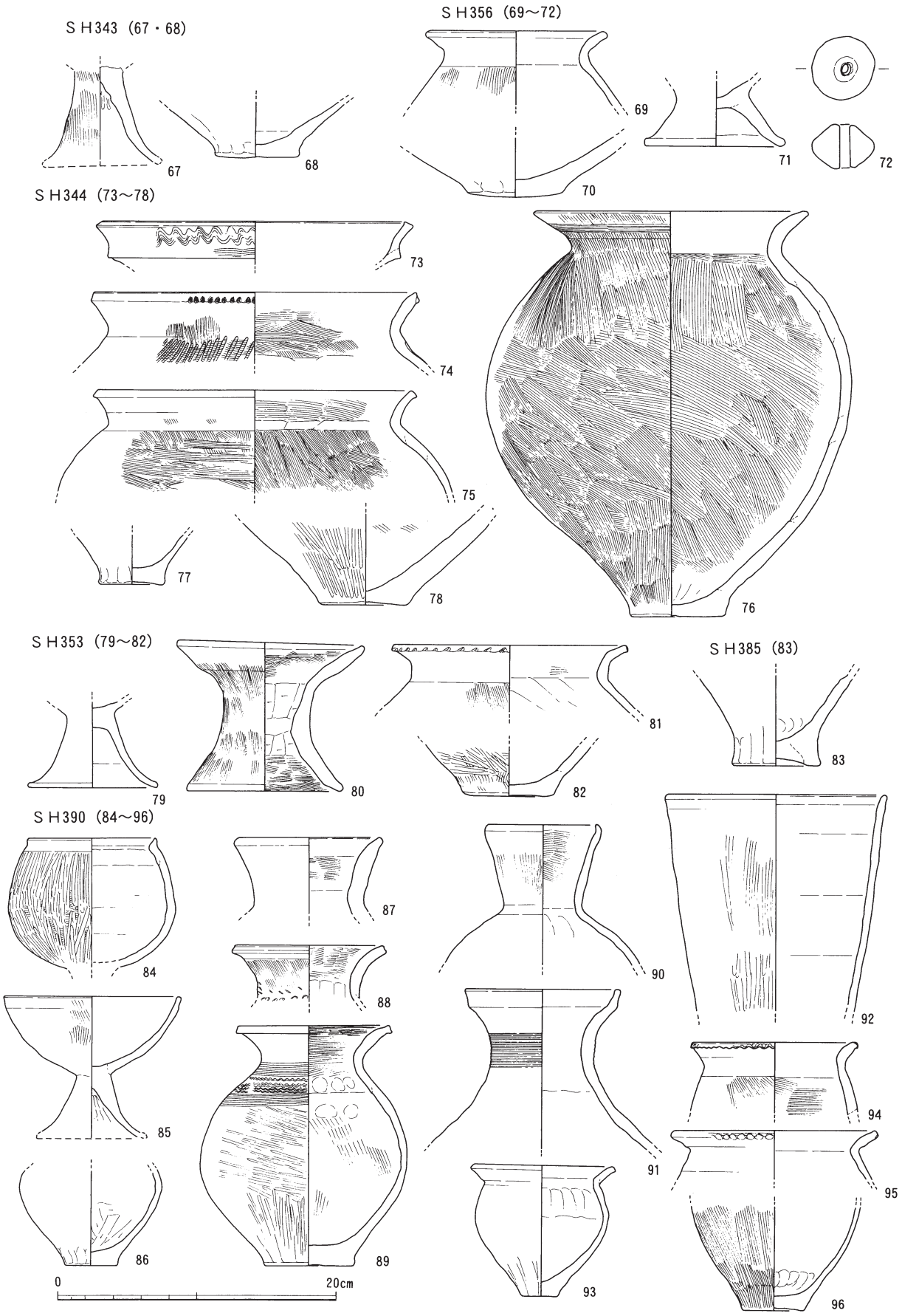
第19図　出土遺物実測図（1）石器（1：2）



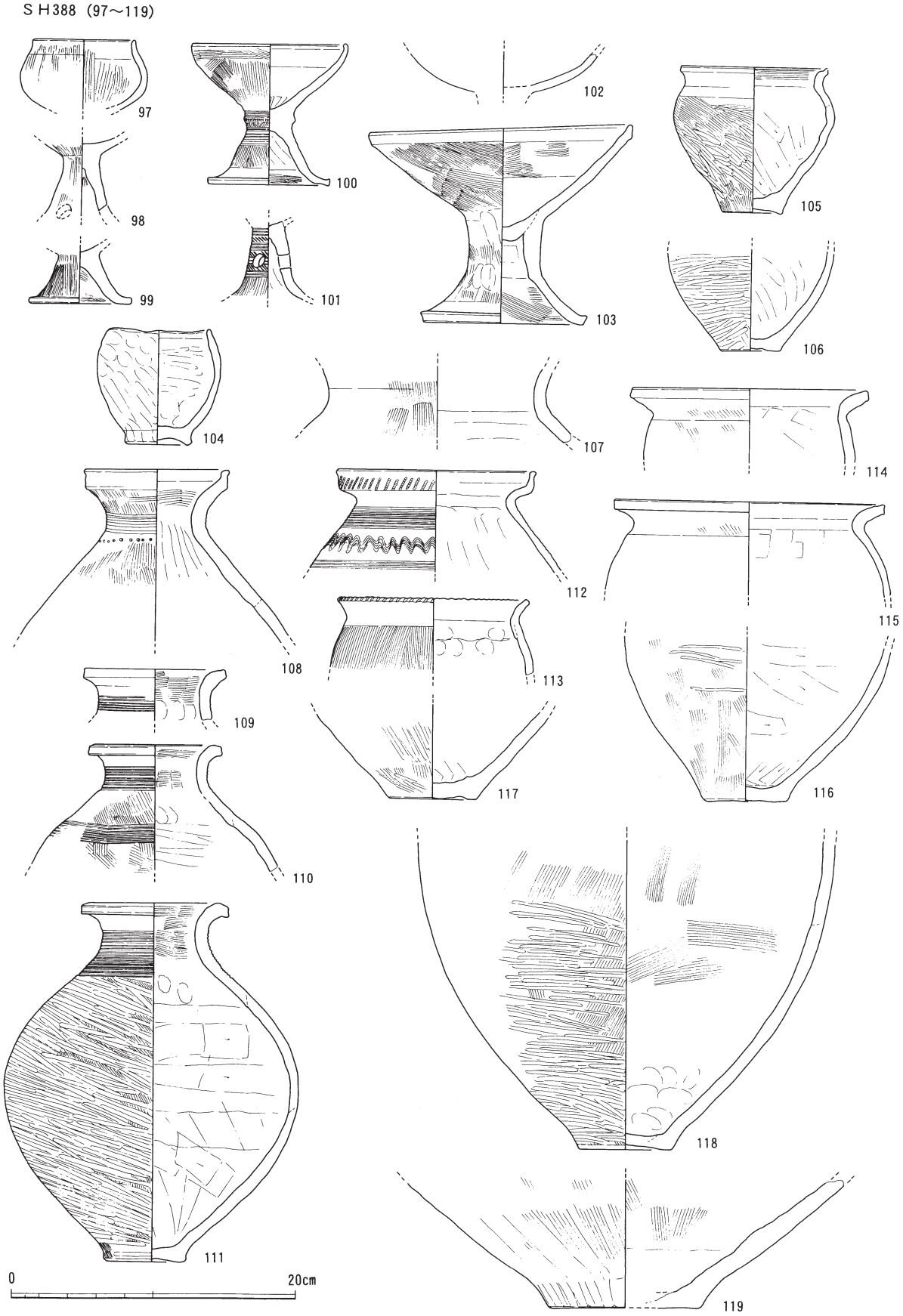
第20図　出土遺物実測図（２）縄文・弥生前期（１：４）



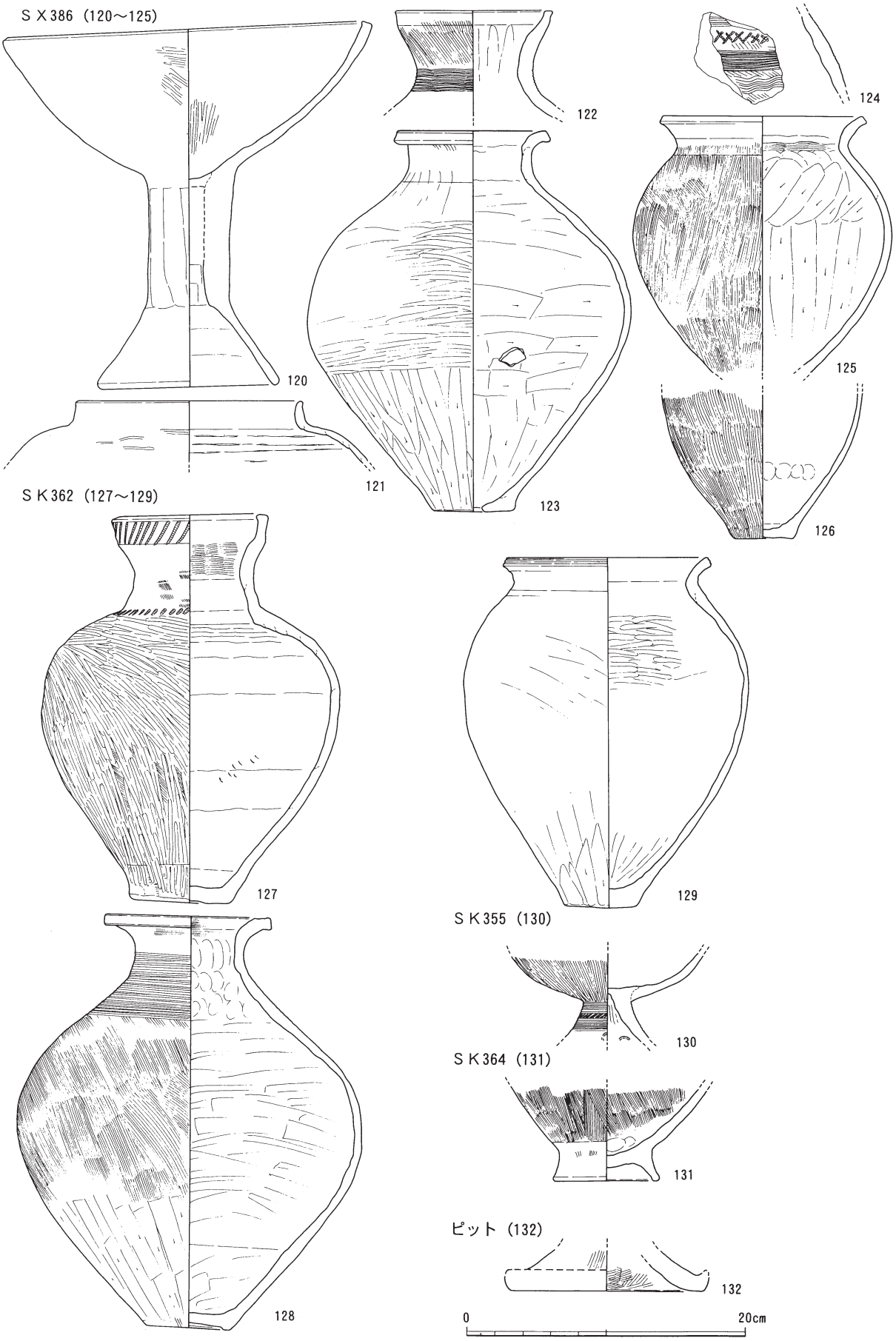
第21図　出土遺物実測図（３）弥生前期（１：４）



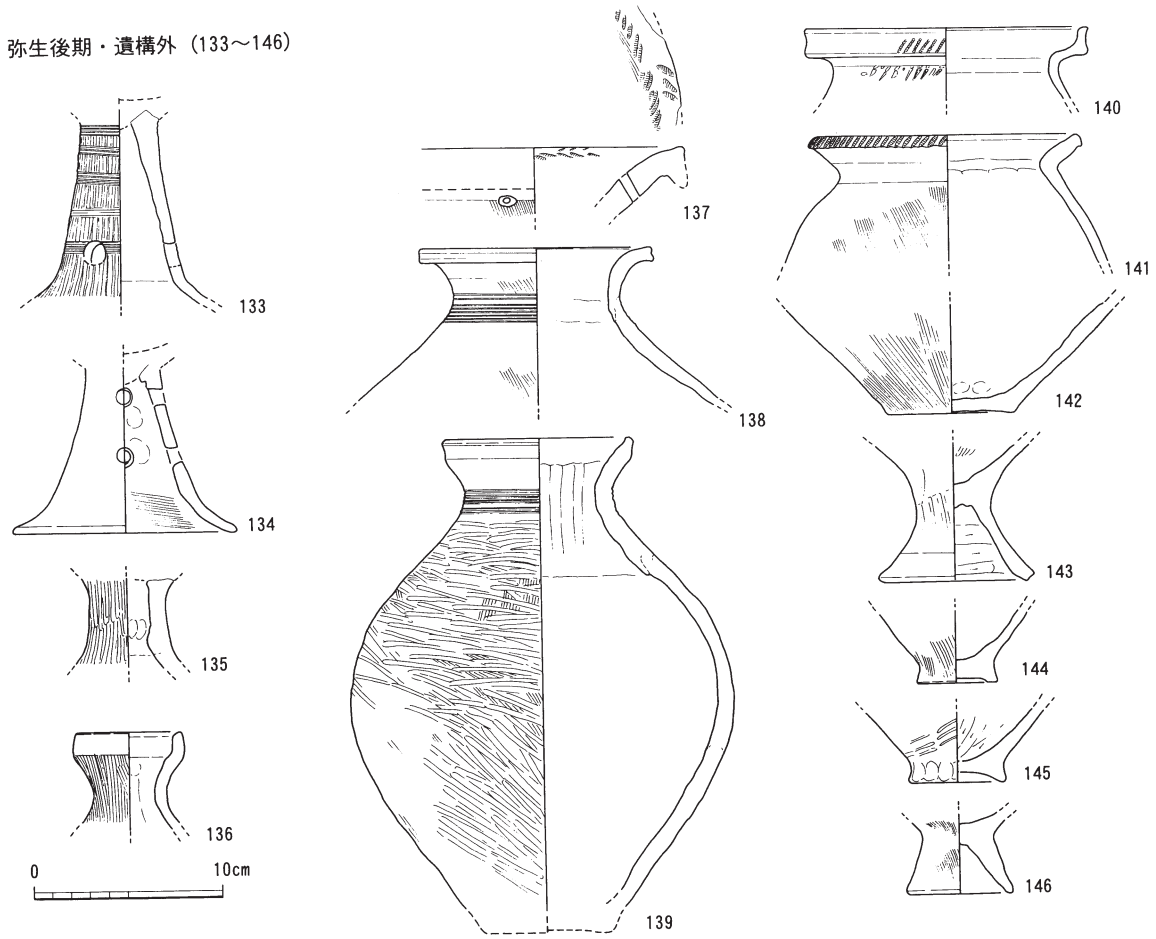
第22図　出土遺物実測図（４）弥生後期（１：４）



第23図　出土遺物実測図（５）弥生後期（１：４）



第24図　出土遺物実測図（６）弥生後期（１：４）



第25図　出土遺物実測図（７）弥生後期（１：４）

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
1	14811	石器	有茎尖頭器	6	11号墳	墳丘東盛土下	(残長) 4.38 (幅) 2.70 (厚) 0.85	チャート	—	—	一部欠損	(残重) 9.3g
2	14805	石器	石鏃	6	Q2	SH344 P5	(残長) 2.76 (幅) 1.45 (厚) 0.47	サヌカイト	—	—	一部欠損	(残重) 1.7g　茎部折れ（?）
3	6601	石器	石鏃	7	小谷 13号墳	墳頂東撹乱	(長) 2.45 (幅) 1.50 (厚) 0.30	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.9g
4	14803	石器	石鏃	6	O6	SK352 アゼ北	(長) 1.66 (幅) 1.28 (厚) 0.46	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.8g
5	14806	石器	石鏃	6	13号墳	墳頂東	(長) 1.53 (幅) 1.32 (厚) 0・30	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.5g
6	14802	石器	石鏃	6	O6	SK352 アゼ北	(長) 1.88 (幅) 1.46 (厚) 0.34	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.8g
7	14801	石器	石鏃	6	O6	SK352 f	(長) 2.41 (幅) 1.48 (厚) 0.48	サヌカイト	—	—	完存	(重) 1.2g
8	14807	石器	RF	6	10号墳	主体部北	(長) 2.61 (幅) 1.28 (厚) 0.31	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.9g
9	14804	石器	削器	6	M6	SX347 アゼ北	(長) 0.89 (幅) 2.36 (厚) 0.32	サヌカイト	—	—	完存	(重) 0.7g
10	14810	石器	楔形	6	G2	堀	(長) 2.53 (幅) 2.52 (厚) 1.57	サヌカイト	—	—	完存	(重) 9.2g
11	14808	石器	削器	6	J7 11号墳	東トレンチ内	(長) 3.24 (幅) 5.00 (厚) 0.58	サヌカイト	—	—	完存	(重) 11.0g
12	14809	石器	削器	6	I4	SK345 アゼ内東	(長) 3.54 (幅) 6.79 (厚) 1.00	サヌカイト	—	—	完存	(重) 23.8g
13	14813	石器	RF	6	E3 10号墳	周溝南	(長) 11.42 (幅) 7.39 (厚) 1.98	サヌカイト	—	—	完存	(重) 137.7g
14	14812	石器	石核	6	P6	SK352	(縦) 8.10 (横) 7.05 (厚) 5.81	サヌカイト	—	—	完存	(重) 410.0g
15	5106	石器	石錘	7	小谷 10号墳	盛土北 （黒色土）	(長) 3.6 (幅) 2.5 (厚) 0.9	短辺に切り込みを入れる	—	—	完存	
16	5101	石器	偏平片刃石斧	7	小谷 10号墳	盛土東	(長) 7.1 (幅) 4.0 (厚) 0.9	緑色凝灰岩	—	—	一部欠損	
17	5203	縄文土器 (早期末)	深鉢	7	小谷 24号墳	盛土南	(口) —	外面に刺突アリ	粗	外；にぶい黄褐 内；にぶい黄橙	口縁部片	摩滅の為、調整不明
18	5204	縄文土器	深鉢	7	F8	包含層	—	外：ナデ→貼付→キザミ 内：	粗	外：にぶい褐 内：	体部片	
19	5207	縄文土器 (中期末)	深鉢	7	小谷 12号墳	墳頂掘り下げ南	(口) —	外：オサエ・ナデ→縄目 内：ナデ		外： 内：	口縁部片	
20	12803	縄文土器 (中期末)	深鉢	6	I4	包含層	(口) —	外： 内：	やや粗	浅黄橙・黄灰	口縁部片	
21	6203	縄文土器	深鉢	6	11号墳	周溝西	(口) —	外：ナデ→凹線 内：ナデ	やや粗	にぶい橙	口縁部片	
22	5704	縄文土器 (後期？)	深鉢	6	K9 11号墳	東トレンチアゼ	—	外：沈線か？ 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙 暗灰黄	体部片	
23	5201	縄文土器 (中期末)	深鉢	7	小谷 12号墳	盛土中	—	外：ナデ→沈線・直線文 内：ナデ	粗	外：にぶい褐 内：にぶい黄橙	体部片	
24	5205	縄文土器 (中期末)	深鉢	7	小谷 12号墳	埋1　堀形	—	外：線刻(斜め)・沈線 内：ナデ	粗	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	体部片	
25	5202	縄文土器 (中期末)	深鉢	7	小谷 12号墳	墳頂掘り下げ南	—	外：条痕 内：ナデ	粗	にぶい橙	体部片	
26	12802	縄文土器	深鉢	6	S3	SK359	—	外： 内：工具ナデ	やや粗	外：浅黄橙 内：灰	体部片	北白川C
27	4604	縄文土器 (後期)	深鉢	6	H8	土墓表土	—	外：縄文のち沈線 内：ナデ	粗	にぶい橙	体部片	
28	6204	縄文土器	深鉢	6	11号墳	西アゼ下	—	外：縄文 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙	体部片	
29	6205	縄文土器	深鉢	6	11号墳	西アゼ下	(底) 12.0	外：ナデ 内：ナデ	やや粗	橙・浅黄橙	底部片	
30	1602	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345 e	(口) 25.0	外：ハケメ→ヨコナデ→沈線・キザミ 内：ミガキ・ヨコナデ	やや粗	橙・にぶい褐	口縁 2/12	内面スス付着　沈線は8条を一度に施文か？
31	1603	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345 g	(口) 24.0	外：ナデ？・ヨコナデ→凹線・キザミ 内：ミガキ→ヨコナデ→キザミ	やや粗	外：橙 内：にぶい赤褐	口縁部片	
32	1704	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345 e	(口) 25 ぐらいか？	外：ハケメ→ヨコナデ→キザミ 内：ヨコナデ	やや粗	外：にぶい褐 内：にぶい橙	口縁部片	
33	1601	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345 e	—	外：貼付突帯キザミ 内：ナデ	やや粗	外：灰黄褐 内：灰黄	体部片	貼付突帯：突帯貼付部に沈線をめぐらし、付き易くしている（ただし上から1･2･3･4･7番目の突帯で、5･6番目は不明、5には無いか？）
34	1706	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345 アゼ東	—	外：ナデ→凹線斜格子文・凹a・擬似流水文 内：ナデ	やや粗	外：にぶい黄褐 内：橙	体部片	
35	1705	弥生土器 (前期)	壺	6	I4	SK345	—	外：ナデ→沈線（斜線・横線） 内：ナデ	やや粗	外：にぶい褐 内：橙	体部片	横方向の沈線は、半截竹管２条の可能性もある。
36	1403	弥生土器 (前期)	甕	6	I4	SK345 d	(口) 27.0	外：ハケ後ナデ→ヨコナデ→ヘラ描沈線・キザミ 内：工具ナデ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい橙 内：橙	口縁 2/12	外面スス付着、ヘラ描沈線３条
37	1401	弥生土器 (前期)	甕	6	I4	SK345 h	(口) 27.0	外：ハケメ→ヨコナデ→半截竹管による沈線・キザミ 内：ナデ→ヨコナデ	粗	外：にぶい黄橙・にぶい黄褐 内：にぶい褐	口縁 3/12	半截竹管2条
38	1703	弥生土器 (前期)	甕	6	I4	SK345 b	(口) 25.0	外：ハケメ→ヨコナデ→半截竹管による沈線・キザミ 内：工具ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい橙	口縁 2/12	外面スス付着
39	1702	弥生土器 (前期)	甕	6	I4	SK345 g	(口) 25.0	外：ナデ？→ヨコナデ→半截竹管による沈線・キザミ 内：ナデ→ヨコナデ	粗	外：灰黄褐 内：橙	口縁 1/12	外面スス付着
40	1701	弥生土器 (前期)	甕	6	I4	SK345 f	(口) 24.0	外：ハケメ→ヨコナデ→半截竹管による沈線・キザミ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい褐 内：橙	口縁 1/12	外面スス付着

第２表　出土遺物観察表（１）縄文・弥生

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
41	1402	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｉ４	ＳＫ３４５ d	(口) 27.0	外：ハケメ→ヨコナデ→半截竹管による沈線・キザミ 内：工具ナデ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい黄橙 内：橙	口縁 2/12	外面スス付着、半截竹管2条
42	1502	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｉ４	ＳＫ３４５ d	(口) 44.0	外：ハケメ 内：ハケメ・工具ナデ	粗	橙	口縁 1/12	
43	1501	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｉ４	ＳＫ３４５ c	(体) 38.0	外：ハケメ→ヘラ描沈線 内：工具ナデ？・オサエ？	粗	橙	体部 2/12	ヘラ描沈線１条
44	1803	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｏ６	ＳＫ３５２ アゼ北	(口) 26.0	外：ナデ→刺突文・沈線 内：ナデ→凹線	やや密	にぶい橙	口縁 1/12	
45	2202	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｏ６	ＳＫ３５２	—	外：ナデ→ヘラ描沈線 内：ハケメ・ナデ？	やや粗	橙	頸部片	
46	2003	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ e	—	外：ナデ→ヘラ描沈線 内：ナデ	やや粗	にぶい橙	頸部片	
47	2001	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ e	—	外：ナデ→ヘラ描沈線 内：ナデ	やや粗	橙	頸部片	外面の沈線は、半截竹管状の工具で４条分巡らせている可能性あり。原体はあまり固いものではない。
48	2103	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｏ６	ＳＫ３５２	—	外：ヘラ描矢羽根状文・沈線 内：ナデ	やや粗	にぶい橙	体部片	
49	2104	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｏ６	ＳＫ３５２ アゼ北	—	外：ハケメ→ヘラ描沈線 内：ナデ	やや粗	にぶい橙	体部片	
50	2102	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｏ６	ＳＫ３５２ 北半	—	外：ナデ→貼付突帯 内：ナデ	やや粗	浅黄橙	体部片	
51	1903	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ d	(口) 22.0	外：ハケメ→ナデ 内：ナデ	やや粗	橙	口縁 2/12	
52	2203	弥生土器 (前期)	鉢	6	Ｏ６	ＳＫ３５２ f	—	外：ナデ→ヨコナデ（摩滅大）・ツマミ貼付 内：ナデ→ヨコナデ（摩滅大）	粗	橙	体部片	
53	2002	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｏ６	ＳＫ３５２ f	(口) 21.0	外：ナデ→沈線・キザミ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄褐	口縁 1/12	外面の沈線は、半截竹管３条か？原体はあまり固いものではない。
54	1802	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ c	(口) 25.8	外：ナデ→沈線・キザミ不明瞭 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	橙	口縁 2/12	半截竹管２条
55	1801	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ d	(口) 26.0	外：ハケメ→ヨコナデ→沈線・キザミ 内：オサエ→ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄褐	口縁 1/12	半截竹管２条・外面スス付着
56	1902	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ c	(口) 36.0	外：ナデ→ハケメ？→沈線・キザミ（摩滅） 内：ナデ→ハケメ薄く残る	やや粗	にぶい黄褐	口縁 1/12	半截竹管３条
57	1901	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ b	(口) 40.0	風化大のため調整不明	粗	橙	口縁 2/12	
58	2101	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ d	(底) 6.6	外：ナデ→ハケメ 内：ナデ	やや粗	橙	底部完存	
59	2201	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｐ６	ＳＫ３５２ a	—	外：ハケメ 内：ナデ・ハケメ	やや粗	橙	体部片	
60	6301	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｋ２ １２号墳	周溝	(口) 21.0	外：ナデ→横線 内：ナデ→凹線3条	粗	橙	口縁 2/12	
61	5702	弥生土器 (前期)	壺	6	11号墳	墳丘下	—	外：ナデ→沈線 内：ミガキ・ナデ	やや粗	橙	頸部片	12条ヘラ描
62	5902	弥生土器 (前期)	甕	6	11号墳	埋２　５区	—	外：ミガキ→キザミ？ 内：ミガキ	やや密	にぶい橙・にぶい褐	口縁部片	
63	5703	弥生土器 (前期)	壺	6	11号墳	墳丘盛土東	—	外：ハケメ→ミガキ→沈線・貼付突帯 内：ナデ・オサエ	やや粗	外：橙・灰（一部） 内：橙	体部片	外面沈線のうち、下２条は平行している。
64	6306	弥生土器 (前期)	壺	6	Ｊ６ １２号墳	西アゼ 墳丘盛土	—	外：沈線 内：ナデ	粗	外：にぶい橙 内：にぶい赤褐	体部片	
65	5901	弥生土器 (前期)	鉢	6	11号墳	埋葬施設２ ４区	—	外：ヘラ描沈線文 内：ミガキ	やや粗	にぶい橙・黒褐	口縁部片	
66	5701	弥生土器 (前期)	甕	6	Ｋ７ １１号墳	墳頂部東	(口) 22.8	外：ハケメか？→ヨコナデ→沈線・刺突 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい褐	口縁 2/12	
67	4304	弥生土器	高杯	6	Ｊ２	ＳＨ３４３ p3	—	外：ハケメ？ 内：シボリ痕→ナデ	やや粗	にぶい黄橙	脚柱完存	
68	4204	弥生土器	甕	6	Ｊ２	ＳＨ３４３ アゼ南黒褐色土	(底) 6.0	外：ナデ？ 内：ナデ	やや粗	外：にぶい橙 内：黄褐	底部 ほぼ完形	外面赤変
69	4202	弥生土器	甕	6	Ｐ７	ＳＨ３５６ 北	(口) 13.0	外：ハケメ→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙	口縁 3/12	
70	4205	弥生土器	壺	6	Ｐ７	ＳＨ３５６ 炉跡ｂ	(底) 7.0	外：不明 内：不明	やや粗	明黄褐	底部 8/12	
71	4302	弥生土器	台付壺？	6	Ｐ７	ＳＨ３５６ (アゼ)焼土上	(底) 10.0	外：ナデ 内：ナデ	やや粗	明褐	底部 8/12	脚部に焼成前穿孔あり。
72	4402	弥生土器	土玉	6	Ｐ７	ＳＨ３５６ 西	(長) 3.2 (幅) 4.4	算盤玉形を呈する	やや密	にぶい橙	完存	(重) 48.13g
73	4101	弥生土器	高杯	6	Ｑ３	ＳＨ３４４ 中東	(口) 約23.0 (推定)	外：ナデ→ハケメ有り→波状文(5条?)・ヨコナデ 内：ナデ	やや粗	浅黄橙	口縁部片	赤彩（ベンガラ）
74	4003	弥生土器	甕	6	Ｑ２	ＳＨ３４４ p5　東壁周溝	(口) 23.6 (頸) 21	外：ハケメ→ヨコナデ・刺突・キザミ 内：ナデ・ハケメ・工具あたり有→ヨコナデ	やや粗	外：褐灰 内：橙	口縁 1/12	口縁部と肩部のキザミは同一原体
75	4002	弥生土器	甕	6	Ｑ３	ＳＨ３４４ p6	(口) 23.3	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ・ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙	口縁 2/12	
76	3901	土師器	甕	6	Ｑ２	ＳＨ３４４ p7～11	(口) 19.4～20.2 (底) 6.8	外：ﾅﾃﾞ（底部）→ﾊｹﾒ(体部)→ﾖｺﾅﾃﾞ及びﾊｹﾒ残(口縁部) 内：ﾅﾃﾞ・工具あたり有・ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ(ﾊｹﾒ残有)	粗	にぶい黄橙	口縁部 一部欠損 底部完存	(体部最大径) 26.2 (器高) 29.1
77	4102	弥生土器	甕	6	Ｑ３	ＳＨ３４４ p3	(底) 4.8	ナデ？表面風化の為、調整不明瞭	粗	橙	底部完存	
78	4001	弥生土器	甕	6	Ｑ３	ＳＨ３４４ p2	(底) 6.4	外：ハケメ→ミガキ 内：ハケメ？（表面摩耗）	粗	にぶい黄橙	底部 ほぼ完存	
79	4303	弥生土器	高杯	6	Ｐ５	ＳＨ３５３	(底) 9.2～9.3	外：ハケメ→ナデ 内：ナデ	やや密	浅黄橙	底部 ほぼ完存	
80	4301	弥生土器	器台	6	Ｐ５	ＳＨ３５３ p1	(口) 13.4 (底) 11.2 (高) 10.5	外：ハケメ→ナデ 内：ハケメ・ケズリ・ナデ	やや粗	にぶい黄橙	ほぼ完存	

第３表　出土遺物観察表（２）弥生

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
81	4201	弥生土器	甕	6	Ｐ５	ＳＨ３５３ p2	(口) 17.0	外：ハケメ→ヨコナデ→キザミ 内：工具ナデ・ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁 3/12	
82	4305	弥生土器	壺	6	Ｐ５	ＳＨ３５３ p7	(底) 6.5～ 6.7	外：ハケメ・ナデ→ミガキ 内：ナデ	やや粗	にぶい黄橙	底部完存	
83	1004	弥生土器	壺	7	Ｎ６	ＳＨ３８５ p6	(底) 6.4	外：工具ナデ？・ナデ？ 内：ナデ・オサエ？	やや粗	橙 灰褐	底部 6/12	
84	1903	弥生土器	高杯	7	Ｂ２	ＳＨ３９０ 壁際(南)	体部最大径 12.1	外：ハケメ→ヨコナデ→ミガキ 内：ミガキ？ナデ	やや粗	にぶい褐・にぶい橙	杯部片	
85	1902	弥生土器	高杯	7		ＳＨ３９０	(口) 12.8	外：ナデ→ヨコナデ・ミガキ 内：ナデ？大部分剥離	粗	にぶい黄橙	口縁部 一部残	
86	2302	弥生土器	壺 (小形)	7		ＳＨ３９０ p29	(底) 3.8	外：オサエ・ナデ？ 内：工具の不定方向ナデ・ナデ	光	橙	底部完存	
87	2002	弥生土器	壺	7		ＳＨ３９０ 貯蔵穴内	(口) 10.6	外：ヨコナデ他は摩滅の為、調整不明瞭 内：ハケメ→ヨコナデ	粗	浅黄橙	口縁 11/12	
88	2001	弥生土器	壺	7		ＳＨ３９０	(口) 11.0	外：ハケメ→ナデ→刺突？ 内：ハケメ→工具ナデ	やや粗	にぶい黄橙・灰黄褐	口縁 11/12	
89	1901	弥生土器	壺	7		ＳＨ３９０	(口) 11.2 (底) 6.5 (高) 17.1	外：ナデ→ヨコナデ・櫛描横線文・波状文・ミガキ 内：ナデ→ハケメ→ミガキ	やや粗	にぶい橙	口縁8/12 底部完存	
90	2101	弥生土器	長頸壺	7	Ａ２	ＳＨ３９０ 柱穴南	(口) 8.4	外：ミガキ・縦方向ミガキ・ヨコナデ？ 内：ハケメ・オサエ・ナデ→ヨコナデ？	やや密	灰黄褐・褐灰	口縁2/12	口縁部はやや受口状。
91	2301	弥生土器	壺	7		ＳＨ３９０ 柱穴東	(口) 11.1	外：ﾖｺﾅﾃ(口縁部)、頸部に櫛描横線有・他は風化の為、調整不明 内：ﾖｺﾅﾃﾞ(口縁部)他は風化の為、調整不明	光	明黄褐	口縁2/12 頸部完存	
92	2005	弥生土器	長頸壺	7		ＳＨ３９０	(口) 16.0	外：ミガキ？→ヨコナデ 内：不定方向のナデ？→ヨコナデ	粗	明黄褐・にぶい黄橙 外：一部　橙	口縁 1/12	
93	1904	弥生土器	甕 (小形)	7	Ｂ２	ＳＨ３９０	(口) 10.4 (底) 2.5 (高) 9.5	外：ナデ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい黄褐	口縁4/12 底部ほぼ完存	体部摩滅により調整不明、外面スス付着
94	2102	弥生土器	甕	7	Ａ２	ＳＨ３９０ 主柱穴北	(口) 12.0	外：ハケメ→ヨコナデ→刻目 内：ハケメ→ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙	口縁 2/12	
95	2003	弥生土器	甕	7		ＳＨ３９０	(口) 14.9 (頸) 12.1	外：ナデ→ヨコナデ→キザミ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄褐	口縁・頸部 1/12	
96	1905	弥生土器	甕	7		ＳＨ３９０	(底) 4.5	外：ナデ・ハケメ 内：ナデ・オサエ	粗	明黄褐	底部完存	外面スス付着
97	1604	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ 南	(口) 7.2 (体) 9.0	外：ミガキ？ヨコナデ 内：ミガキ・ヨコナデ	やや粗	橙・にぶい黄橙	口縁 3/12	
98	1606	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ 南	(基) 2.7	外：ミガキ・３方透かし・工具とシボリ痕(脚部) 内：ナデ	やや粗	橙・にぶい黄橙	脚柱完存	
99	1403	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(底) 7.2	外：タテハケ・ヨコハケ(一部表面摩滅の為不明) 内：ハケ状工具によるナデ	密	外：橙 内：にぶい黄橙	脚柱完存	
100	1303	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ p11・14	(口) 11.0 (底) 8.6 (高) 9.8	外：ハケメ→ヨコナデ・櫛描横線文・刻目文 内：工具ナデ・ナデ→ヨコナデ	光	淡橙	口縁4/12 底部5/12	外面に赤色顔料(ベンガラ)
101	1504	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(脚柱) 2.2	外：ﾐｶﾞｷ→櫛描横線・刺突→3方透かし 内：ナデ	やや粗	橙	脚柱完存	
102	1203	弥生土器	高杯？	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(脚柱) 3.5	外：ナデ？ 内：ナデ？	粗	赤・橙	杯下部片	
103	1302	弥生土器	高杯	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ p24	(口) 18.2～ 18.6 (高) 14.1	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ・ナデ→ヨコナデ	粗	橙	脚部完存	杯部と脚部を連続成形、杯下部は円盤充填。
104	1304	弥生土器	鉢	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ p19	(口) 7.0 (高) 8.1	外：オサエ・ナデ・工具ナデ→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ・ミガキ？→ヨコナデ	粗	明黄褐	完形	内面から外面の一部にかけて、赤色顔料(ベンガラ)付着
105	1401	弥生土器	甕 (小形)	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 10.3 (底) 4.2 (高) 10.1	外：ナデ・ハケメ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内：工具ナデ・ナデ・ヨコハケ→ヨコナデ	密	橙	口縁7/12 体～底部完存	
106	1605	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(体) 11.6 (底) 4.3	外：工具ナデ・ナデ・ミガキ 内：工具ナデ	やや粗	にぶい橙・にぶい黄橙	底部完存	外面スス付着
107	1502	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(頸) 15.3	外：ハケ・工具ナデ→ヨコナデ？ 内：工具ナデか？(摩滅の為、調整不明瞭)	やや粗	外：にぶい黄橙 内：淡黄	頸部2/12	
108	1301	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ p26	(口) 10.2	外：タテハケ→刺突・櫛描直線文→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ・シボリ痕・ヨコハケ→ヨコナデ		にぶい黄橙	口縁8/12	
109	1501	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 10.0	外：櫛描横線→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ・ハケメ→ヨコナデ	やや粗	にぶい橙	口縁完存	
110	1404	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 9.1	外：ハケメ→櫛描横線文→ヨコナデ 内：工具ナデ→オサエ・ナデ・ハケメ→ヨコナデ	やや粗	橙	口縁 3/12	
111	1701	弥生土器	壺	7	Ｑ１	ＳＨ３８８	(口) 10.4 (底) 5.8 (高) 25.0	外：ナデ→ハケメ→ミガキ→櫛描横線文・ヨコナデ 内：ナデ・工具ナデ・オサエ・ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁8/12 底部5/12	
112	1602	弥生土器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 14.0	外：ナデ→ヨコナデ→櫛描横線文・波状文・櫛歯刺突 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙	口縁1/12	櫛描・波状文・刺突共に同一原体 外面スス付着
113	1505	弥生土器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 13.5	外：ハケメ→ヨコナデ→刺突 内：オサエ・ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい赤褐・明赤褐	口縁 6/12	
114	1601	弥生土器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 16.7 (頸) 13.6	外：ナデ・ハケメ→ヨコナデ 内：工具ナデ→ヨコナデ	やや粗	灰黄褐	口縁 2/12	
115	1201	弥生土器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(口) 19.0	外：工具ナデ？→ヨコナデ 内：工具ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙・黄灰	口縁 1/12	
116	1202	弥生土器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(底) 6.0	外：ハケメ・ナデ→ミガキ 内：タテ方向の工具ナデ→不定方向の工具ナデ	やや粗	橙	底部完存	
117	1702	土師器	甕	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(底) 6.2	外：ナデ→ハケメ→ヨコナデ 内：工具ナデ・ナデ	粗	にぶい橙	底部完存	外面スス付着
118	1101	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８	(底) 6.8	外：ナデ→ハケメ→ミガキ 内：オサエ・ハケメ	やや粗	外：橙・浅黄橙 内：淡黄・黄灰	底部 4/12	
119	1503	弥生土器	壺	7	Ｑ４	ＳＨ３８８ 東	(底) 10.8	外：板ナデ→ハケメ 内：オサエ・ナデ→ハケメ	やや粗	淡黄・浅黄橙	底部 4/12	
120	3801	弥生土器	高杯	6	Ｇ２	ＳＸ３８６ 堀内ピット	(口) 26.5 (脚裾) 13.1	外：ミガキ・ヨコナデ(杯部)、ナデ・板ナデ→ヨコナデ(脚部) 内：ミガキ（杯部）、ナデ（脚部）	やや粗	にぶい黄橙・にぶい橙・浅黄橙・橙	杯部ほぼ完形 脚裾11/12	外面は赤彩(ベンガラ)

第４表　出土遺物観察表（３）弥生

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
121	2204	弥生土器	短頸壺	7	Ｆ２	ＳＸ３８６ p9	(口) 16.3	外：ヘラミガキ（粗）→ヨコナデ 内：粘土接合痕→ヨコナデ	やや粗	褐灰	口縁 2/12	
122	3802	弥生土器	壺	6	Ｇ２	ＳＸ３８６	(口) 11.3	外：ハケメ→櫛描横線・ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁 9/12	
123	3701	弥生土器	壺	6	Ｇ２	ＳＸ３８６	(口) 11.2 (底) 6.0 (高) 27.1	外：ナデ→ケズリ→ミガキ・ヨコナデ 内：工具ナデ→ケズリ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：褐灰・にぶい黄橙	口縁・ 底部完存	底部と体部に焼成後穿孔。 外面スス付着
124	2203	弥生土器	壺	7		ＳＸ３８６	―	外：ハケメ→格子状刺突・櫛描横線文・櫛描波状文 内：ナデ・オサエ	粗	外：黒褐 内：浅黄橙	体部片	
125	2201	弥生土器	甕	7	Ｆ２	ＳＸ３８６ p1・p10	(口) 14.8	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ケズリ・ハケメ→ヨコナデ	やや粗	にぶい橙・にぶい黄橙	口縁 4/12	外面スス付着
126	3601	弥生土器	甕	6	Ｅ３	ＳＸ３８６ 南周溝	(底) 4.2	外：ナデ→ハケメ 内：ナデ・オサエ	粗	橙	底部完存	
127	12901	弥生土器	壺	6		ＳＫ３６２	(口) 11.5 (底) 7.3 (高) 27.7	外：ハケメ→ミガキ・ヨコナデ→刺突 内：ナデ→ハケメ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁・ 底部完存	外面スス付着
128	1201	弥生土器	壺	6		ＳＫ３６２	(口) 12.0 (底) 6.0 (高) 29.6	外：ナデ→ハケメ→ケズリ・櫛描横線文→ヨコナデ 内：工具ナデ･オサエ･ハケメ→ヨコナデ	粗	浅黄橙・橙・黄灰	口縁9/12 底6/12	櫛描文は５単位（原体幅1.2cm）
129	1301	弥生土器	甕	6		ＳＫ３６２Ｃ	(口) 14.3 (底) 5.1 (高) 24.9	外：ナデ→ケズリ・ハケメ→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→ミガキ・ヨコナデ	粗	橙・黒	口縁 9/12	体部1/3欠損
130	12801	弥生土器	高杯	6	Ｎ６	ＳＫ３５５	―	外：ミガキ(杯部)、櫛描横線文・刺突 内：杯部内面は摩滅、脚部内面はシボリ痕→ナデ	やや粗	にぶい橙	脚柱完存	５方透かし
131	5804	弥生土器	甕	6		ＳＫ３６４	(底) 7.4	外：ナデ・ハケメ→ヨコナデ 内：オサエ・ハケメ	やや密	にぶい黄橙・灰黄褐	脚台 5/12	内面に炭水化物
132	4602	弥生土器	高杯	6	Ｓ２	ピット１	(底) 15.0	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい橙・灰黄褐 内：灰黄褐	底部小片	
133	6305	弥生土器	高杯	6	Ｍ３	12号墳周濠東	(脚柱) 4.0	外：ミガキ→櫛描横線文 内：シボリ→オサエ・ナデ	やや粗	にぶい黄橙・にぶい黄褐	脚柱完存	３方透かし
134	2502	弥生土器	高杯	7		12号墳墳丘斜面流出土　北	(底) 11.9	外：摩滅 内：ナデ・オサエ	やや粗	にぶい黄橙	脚柱完存	４方向透かし（２段）
135	2503	弥生土器	高杯	7		12号墳墳頂掘り下げ北 黒ボク土	(脚) 4.0	外：ケズリ後ミガキ 内：ナデ・オサエ	やや粗	にぶい褐	脚柱完存	
136	5204	弥生土器	壺	6		10号墳埋葬施設２　棺内西	(口) 5.6	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ナデ・オサエ→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙	口縁部片	
137	2403	弥生土器	壺	7		13号墳 黒ボク境	―	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ→刺突	やや密	橙	口縁部片	孔１つ有り(焼成後か？)
138	4601	弥生土器	壺	6	Ｇ４	包含層	(口) 11.5	外：ハケメ？→櫛描横線文(9本)・ヨコナデ 内：オサエ→ナデ→ヨコナデ	やや密	橙・にぶい黄橙	口縁 4/12	
139	2401	弥生土器	壺	6	Ｂ６	ＳＫ３４０ (混入)	(口) 10.1	外：ハケ→ミガキ→櫛描横線文・ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙・褐灰	口縁 2/12	櫛目の間隔が開くが、一原体で施文している
140	3702	弥生土器	甕	7		24号墳 埋葬施設　北	(口) 15.0	外：ヨコナデ→刺突（摩滅の為、調整不明瞭） 内：ナデ→ヨコナデ	粗	浅黄橙	口縁 2/12	
141	2801	弥生土器	甕	7		10号墳盛土　西	(口) 14.5	外：ハケメ→ヨコナデ→刺突 内：ヨコナデ(口縁)、他は剥離	やや粗	淡黄	口縁 10/12	外面スス付着
142	5205	弥生土器	壺	6		10号墳墳頂部南	(底) 6.7	外：ナデ→ハケメ 内：ナデ→オサエ	やや密	外：橙 内：にぶい黄橙	底 11/12	
143	5201	弥生土器	台付甕	6	Ｆ５	10号墳南周溝	(脚) 8.3	外：ケズリ・ミガキ？→ヨコナデ 内：ミガキ？	粗	橙	脚部 ほぼ完存	
144	4603	弥生土器	甕	6	Ｒ４	包含層	(底) 4.3	外：ナデ→ハケメ 内：ナデ	やや密	外：にぶい黄 内：にぶい黄橙	底部 6/12	
145	2504	弥生土器	甕	7		12号墳墳丘北 黒ボク土	(底) 5.2	外：ナデ→タタキメ 内：弱いケズリ	やや粗	にぶい褐	底部 4/12	
146	5202	弥生土器	台付甕	6		10号墳墳丘東	(底) 5.7	外：ナデ→ハケメ 内：ハケメ	粗	橙	脚裾 2/12	

第５表　出土遺物観察表（４）弥生

4　小谷９号墳

ａ　墳丘・関連施設

①　墳丘

丘陵の東端まで広がる平坦部に３群に分かれて分布する古墳群のうち、この平坦部において最高標高のポイント近くに位置する。小谷9号墳は後述の10号墳の北東にあたり、破壊される西半について調査を行ったものである。

墳頂の標高は38.2mである。調査前の古墳は直径14.5mの円墳と思われ、墳頂中央に径2.5mほどの盗掘坑があった。調査の結果、古墳の直径は14.5m、墳丘南東側に25号墳が墳丘を接するものの、円墳であるものと考える。

墳丘は盛土で、約0.8～1.0mである。調査区東端の境界線際と、その面にほぼ直交する面とで土層の確認を行った。基盤は通称黒ボク土といわれる黒褐色土で、墳丘部については盛土時点でその上面を平滑に均していることが窺えた。

盛土の厚さは約1.0～1.1mで、基盤である黒褐色土と周溝掘削時に達した地山の黄橙粘質土とのブロック層による互層で水平に盛土されており、さらにその上に表層として、厚さ10㎝の黄褐色粘質の土を化粧盛土としていたものと思われる。

盛土前の黒ボク土整地時や各層毎に叩き締めた痕跡や土器などを用いての祭祀行為はみられなかった。

盛土には炭粒が少量含まれていたが、炭溜まりという状況ではなかった。

埋葬施設の調査終了後、下層遺構の確認を行いながら盛土掘削を行った。盛土を全部除去し地山面まで掘り下げたところ、わずかに不整形のピットを数基検出したが、遺物を伴う遺構ではなかった。

②　周溝

古墳調査着手以前の墳丘現況測量時点で、周辺に比べわずかながら窪みを見せていたことから、周溝が存在することは予測できた。しかし、小谷10号墳と近接しており、両者の周溝の窪みに明確な高低差は認められなかった。

その古墳周辺の平地における周溝の外側ラインを検出するため、調査範囲の中央に、周溝の外縁立ち上がりと深さを把握するための東西トレンチを設定した。その結果、古墳の西半全体に、周溝の巡ることがわかった。周溝は墳丘側でやや深く、外縁に向けて浅くなり、この浅い平坦面を経て外縁となる、二段構成になっているが、西側についてのみ、平坦面は認められなかった。周溝の深さは西側で最も低く,標高で約36.7～36.8m、北ならびに南へいくにつれやや高くなっていく。

周溝内から古墳に伴う遺物は認められなかった。なお、この周溝が約20～30㎝埋没した時点で、投棄したと思われる、ＳＫ400とした土器の一群が認められる。これは周溝の北西から南西にかけて撒布がみられたもので、10号墳のＳＫ340と同じく８世紀中葉頃に行われた投棄によるものと考えられる。

ｂ　埋葬施設

小谷９号墳における埋葬施設は、墳頂から約0.5m掘り下げた時点で、検出した。重複していると思われる墓壙の範囲内においてトレンチを設定し、埋葬施設の重複関係の確認を行った。その結果、埋葬施設は5基重複しており、いずれも東西軸のものであった。うち２基は盗掘坑によって、埋葬施設の中心を大きく破壊されていたことがわかった。重複はいずれも墓壙掘形どうしによるもので、隣接する埋葬施設の棺跡まで及ぶものは認められなかった。

墓壙掘削時に墓壙底部には、泥岩を砕いた礫を混ぜて叩き締めた痕跡があることを各埋葬施設の墓壙底部において確認した。

以下、埋葬施設１から順にその埋葬状況の詳細について記述する。

①　埋葬施設１

古墳の墳丘中央やや北寄りで検出したもので、北側の埋葬施設３に先行し、南側の埋葬施設４より後出の埋葬施設である。

墓壙掘形の規模は短軸約1.0m、長軸約2.5m以上で、墓壙長軸方向の東端は調査区外へと続く。

墓壙内の埋土は黒褐色土にやや橙褐色土の粒が混入するもので、棺跡底部から墓壙底部までの間が、泥岩の砕石を混ぜた土によって固く叩き締められていた。

棺跡の規模は、短軸0.6m、長軸2.2m以上で、東

第26図　第６・７次調査　古墳関連遺構平面図（１：400）　※ＳＸ363は平安時代の遺構

端は調査区外である。棺跡の検出に際し、棺跡の外縁に幅約20㎝の叩き締めの土が観察できた。また、土層断面の観察から埋葬施設は、割竹形木棺の直葬によるものと考えられる。木棺内の埋土は黒褐色土である。

埋葬施設に伴う遺物として、棺内副葬遺物に鹿角装刀子１本、鉄鏃２本以上、土製品の玉２個があった。刀子は棺跡西木口から約0.9mの地点で、切先を西に向けて出土した。鏃２本は棺跡西木口から約0.7mのところから、棺跡南側壁に沿って鏃身東向きで上下に重なる形で出土した。棺外墓壙内の遺物は認められなかった。

②　埋葬施設２

古墳墳丘の中央やや南寄りで東西軸の墓壙を検出した。埋葬施設５と重複し、それに後出する。

墓壙掘形の規模は、短軸1.5m、長軸約4.4mを検出した。長軸方向の東端については、調査区外へと続く。

墓壙内の埋土は、黒褐色土に褐色土のブロック混じりの土で、棺跡の外縁に埋葬施設１と同様に幅約30㎝の泥岩の砕石を含んだ叩き締めを確認することができた。また棺底にも埋葬施設１と同様の叩き締めがみられた。

木棺痕跡の規模は短軸0.6m、長軸3.6mを調査区際において確認することができた。土層断面の観察から割竹形木棺の直葬であると考えられる。

９号墳において、棺跡の東西両端に、幅約70㎝、高さ約55㎝の泥岩板石を立てて棺の木口を閉塞する。木口板を自立させるために浅い楕円形の窪みをつくり、底に約４～５㎝厚の黄褐色粘質土を叩き締めたところへ板石を立て、その両面を厚15㎝の黄褐色粘質土で巻き、棺の木口面に直接板石を当てることなく板石を設置する。西側の板石において特に明確にこの設置状況が確認できた。東側の板石については、上部が砕け須恵器壺の上面に倒れかけており，破片を除去したところ、第30図に示す範囲において棺木口面側のみ姿を確認することができた。西側板石についても上部は砕けており、層状に剥離しやすい石質のもので、最も残存高の高い板石の西側背面に、約1/2高の二重目の板石下半が確認できており、墓壙検出時に見られた砕けた破片はこの背面の板石上部の可能性が考えられる。

木棺内埋土は黒色土で、わずかに橙褐色土の粒がみられた。

埋葬施設２に伴う遺物は、棺内遺物として、棺内中ほどからやや東にかけて４群に分けることができる鉄鏃群（総計28本以上）と、東端・中央東壁より・西端の３箇所で鹿角装刀子が計５本確認できた。また鏃群の分布範囲に重複して土製品の臼玉が56個以上撒布していたことが判明した（出土位置を確認できたものは30個である）。また東端板石際に据えた須恵器壺（200)、壺の口縁を塞ぐように反転させた須恵器杯蓋（199)、さらにその杯蓋上方で須恵器杯身の2/3個体残存する破片（198)、壺の北側に須恵器杯身（201）が胴部に立て掛けるように添えてあった。壺底部の接地面には約５㎝厚で白色粘質土がみられ、その上にしっかりと据付けた状態で検出した。

棺外遺物としては、須恵器杯身・蓋が２セット、蓋を開け口縁端部をわずかに重ねた南北に並ぶ状態で、棺内須恵器壺と並列する位置で出土した。杯身蓋（205・206）が東側に、杯身蓋（203・204）が西側に置かれていた。この須恵器杯蓋セットは、叩き締めの土と墓壙埋土との境界際で叩き締めの土の上面で出土している。

③　埋葬施設３

墓壙群の北端で確認した。南側に隣接する埋葬施設１に後出することが土層断面から確認できた。

墓壙掘形の規模は短軸1.4m、長軸方向は2.0mを確認したが東端は調査区外へと続く。

墓壙内埋土は黒褐色土に橙褐色のブロックが混じるもので、棺跡の南北両側に同色・同質の埋土に泥岩の砕石を混ぜ叩き締めている。

木棺痕跡は、短軸0.6m、長軸方向は2.2mを確認しており、東端は調査区外へと続く。木棺の形状は土層断面から割竹形のものと考えられる。棺内埋土は黒褐色土で、明黄褐色土のブロックを含んでいた。

埋葬施設に伴う遺物として、棺内の東端から鹿角装刀子が１本出土したのみで、その他の鉄製品・土器類等は棺内・棺外のいずれからも出土しなかった。

④　埋葬施設４

埋葬施設５と共に、盗掘坑により、大きく破壊を受けた埋葬施設である。この埋葬施設も残存部はわ

ずかしかないが、他と同様、東西軸をもつものであろう。北隣の埋葬施設１に先行し、南側の埋葬施設５より後出の重複関係が、土層断面の観察から確認できた。

墓壙の規模は西端で平面確認できたのと、東端の土層断面で埋葬施設５の重複関係と共に立ち上がりを確認できたもので、短軸1.3m、長軸3.2m以上で、東端は調査区外へと続く。

墓壙内埋土は黒褐色土で、橙褐色土のブロックを含む。棺跡の南北両側は墓壙の幅全面、西側は棺跡から幅0.4mの範囲で叩き締めが確認できた。

木棺痕跡は、短軸0.6m、長軸2.6m以上、東端は墓壙同様、調査区外である。棺跡の南辺を盗掘坑により壊されている。土層断面の観察から割竹形木棺の直葬であるとみられる。板石を設置した痕跡は認められなかった。木棺内の埋土は黒褐色土であり、棺跡の西端の立ち上がりに接して幅約10㎝ほどの明黄褐色粘質土が斜めに入っていることが確認できた。棺の木口を粘土で閉塞した痕跡の可能性がある。

埋葬施設に伴う遺物としては、棺内東端から鉄鏃が13本以上、束ねられていたと推測できる状況で鏃身を東に向けて出土した。その他の棺内遺物、棺外出土遺物は認められなかった。

⑤　埋葬施設５

上記の埋葬施設４の南に隣接するもので、埋葬施設４より大規模に盗掘坑により破壊される。土層断面の観察から北側隣接の埋葬施設４・南側隣接の埋埋葬施設２より先行する埋葬施設で、9号墳内では最も古い。

わずかに確認できた墓壙掘形の規模は、短軸0.6m、長軸3.4m以上で、東端は調査区外へと続く。

墓壙内の埋土は、黒褐色土である。大半を盗掘坑で撹乱されているため、棺跡の底部に若干叩き締めた土がみられたが、棺の両長辺側については、叩き締めた痕跡は認められなかった。

木棺痕跡は、短軸0.45m、長軸2.5mを確認したが、棺跡の西端で深さ約20㎝を確認した以外は５㎝ほど埋土が残存するのみであった。いずれも黒褐色土の埋土である。また土層断面の観察から、割竹形木棺の直葬であったものと考えられる。この埋葬施設も板石を伴うものではない。

埋葬施設に関わる遺物としては、５基の埋葬施設の重複関係を確認するためのトレンチ掘削時に、確認された遺物で、鹿角と皮革の付着した鉄製鉸具(帯金具)１、鹿角装刀子１、鉄鏃２がある。この４点については出土位置が埋葬施設5の棺跡を検出していく中で、平面で棺跡の輪郭が確認できる直上において出土したもので、一部埋葬施設２の北端にも及んでいる盗掘坑が埋葬施設２の鉄製品を撹乱したものとも考えられ、原位置を留めているとは考えにくい。したがってこれら４点については、埋葬施設５の棺跡直上にあったものの、盗掘時の撹乱埋土との境界で出土したもので、原位置は埋葬施設２の鉄製品群にあった可能性も否定できない。特に鉄鏃２点については、埋葬施設２で出土した鉄鏃群の一部が撹乱された可能性が高い。　(大川)

c　出土遺物

①　埋葬施設１

刀子(147)　残存長11.8㎝、刃部幅1.3㎝である。刀身は両角関で茎尻は斜めになっている。鞘・把共に鹿角装で、把が比較的良く残り、下地の木芯の上に鹿角が装着されている。鞘の鹿角装には下地の木芯は見られない。鞘の鹿角装片には織物痕と思われる格子目状圧痕が見られることから、布に包まれて埋葬されたか、若しくは周囲に敷布等の織物が存在していた可能性が高い。

鉄鏃(148～150)　148・149は腸抉柳葉の片丸造の鏃身部をもつ長頸族である。茎関は台形関で矢柄の口巻きの樹皮が残存する。150は茎部片で全面に木質が残り、148か149のどちらかと同一個体の可能性が高い。　(山岡)

須恵器杯(151)　墓壙検出中に掘形上で１点出土したのみである。明確に埋葬施設に関連した土器はなかったものと考えられる。

土製練玉(152・153)　棺内を６区に分け、北東から南西に１～６区とした。152・153は３区の埋土をふるい掛けした中から出土したものである。黒褐色で、明瞭な稜線はつくらないが、孔面は両面とも平滑にケズリをいれ、胴は樽形に成形する。　(大川)

②　埋葬施設２

刀子(154～160)　５本全てが鹿角装である。154は全長13.3㎝、刃部幅1.6㎝、刀身は両角関で茎部先

端は栗尻である。鞘は鹿角装のみ、把は木芯の上に鹿角を装着した拵えになっている。現存しないが出土時には刀身に織物痕がみられた。155は全長13.2㎝、刃部幅1.3㎝で、両角関で茎先端は栗尻である。把は幅1.0㎜程の植物繊維製の紐を螺旋状に巻いた後、鹿角を装着した拵えになっている。刀身に鞘材の痕跡は見られない。156は全長22.1㎝、刃部幅2.1㎝と大形の刀子である。把縁装具として幅1.8㎝程の鉄の薄板が巻かれており、このため関の形状がX線写真でも確認できない。出土時には刀身に鹿角片が付着し、織物痕も確認できたが現存しない。この鹿角片は鞘材かもしくは他の刀子の鹿角片が付着したものと考えられる。また、有機質と思われる付着物が刀身にみられるが詳細は不明である。把は幅1.0㎜の植物繊維製の紐を螺旋状に巻いた後、木芯で覆う拵えになっている。157は残存長が9.5㎝、刃部幅1.2㎝、切先は欠損している。関は背関が直角関、刃関はナデ関になり、茎先端は栗尻である。把は木芯の上に鹿角を装着し、ほぼ全面が残存する。158は２点に分割している。各々残存長7.5㎝、3.8㎝である。刃関が浅い両角関で茎先端は刃上がり栗尻である。把縁装具が残り、木質の上に黒漆と思われる層がみられる。この表面と刀身に鹿角片が付着する。把の木質は良く残り、2.0㎜幅の植物繊維製の紐を巻いた上を木芯で覆う拵えが確認できる。159・160は157か158の先端である可能性が高い。

鉄鏃(161～197)　今回調査した古墳の中で最も点数が多く、30数点出土した。棺内東側から集中して出土しており、出土地点より上層・A・B・C群の４群に大別することができる。

161～166は他よりもレベルの高い位置で出土した一群（上層群）である。161は唯一の無茎鏃で、欠損しているため逆刺の有無は不明である。鏃身を挟み込んで装着されている矢柄の木質が良く残る。162・163は片丸造で腸抉三角形の長頸鏃である。164には目の細かい織物痕が残存する。166は平造の三角形鏃で鏃身関は二段角関、茎関は角関である。両面に織物痕が良く残る。167は166の逆刺の下で出土した。織物が銹化した破片で、織の構造が良く観察でき、織密度が経(たて)10本×緯(よこ)８本の平織であることが分かる。一本の幅が太く、撚りが見られること等から絹ではなく麻等の植物系繊維の織物と考えられる。166の織密度とも同じことや出土状況から166の鏃身に銹着していたものと思われる。

168～174は棺の東端から出土した一群（A群）である。168は頸部から茎部にかけての破片で目の粗い織物痕が残存する。170は鏃身部が片丸造の三角形、171は片丸造で腸抉三角形の長頸鏃である。鏃身関は170が斜関、171が逆刺で、茎関は台形関となっている。２本が上下に重なった状態で出土し、間に織物がひだ状に銹着していた。172は片丸造で腸抉三角形の長頸鏃である。鏃身関は逆刺、茎関は台形関で矢柄の口巻がわずかに残る。173は平造の腸抉三角形鏃で茎関は台形関である。X線写真をみると逆刺部分に径2.0㎜程の円い影が見えることから穿孔されている可能性がある。174は平造の三角形鏃で鏃身関は二段角関、茎関は角関である。鏃身には筒状の織物が立体的に銹着している。茎部には、螺旋状に巻かれた幅1.0㎜以下の細い植物繊維製の紐が残る。

175～186は棺中央から出土した一群（B群）である。175は片丸造で三角形の長頸鏃である。鏃身関は両角関、茎関は台形関で、矢柄の口巻と木質がよく残る。176・177は片丸造で腸抉三角形の長頸鏃である。178は平造で逆刺がごく浅い腸抉三角形の長頸鏃である。鏃身に白色付着物と非常に目の細かい織物が銹着する。また179にも織物が立体的に銹着する。180・181・183・186は重なり合って出土した。181には織物が銹着する。186は平造の三角形鏃で鏃身関が斜関、茎関は角関である。先端が欠損する。

187～197は棺の西側から出土した一群（C群）である。187は片丸造、188は平造の三角形長頸鏃で鏃身関は角関、茎関は台形関である。188の矢柄の口巻には糸が使用されている。糸は細い繊維を撚って作られ、何重にも巻かれている。当初から糸巻き留めであったとも、あるいは樹皮巻きであったものを糸によって補修したとも考えられる。189は片丸造の三角形鏃と腸抉三角形鏃の鏃身が銹着している。190～192は片丸造・腸抉三角形の長頸鏃で、鏃身関は逆刺、茎関は台形関である。194・196には目の細かい織物痕が銹着する。197は平造の腸抉三角形鏃で、茎関は台形関である。

なお、出土時にほとんどの鏃表面に織物痕を確認したが（第19表）、上記に記述した以外には現存しない。　(山岡)

須恵器(198～210)　棺内東端で壺（200）が１点、その口縁を塞ぐ形で出土した蓋（199）、この壺の上方には杯身（198）、壺の胴部北側に立て掛けて杯身（201）が出土した。壺（200）は胎土が灰白色、焼成は軟質である。

棺外遺物としては、杯蓋が２セット出土している。杯身（204）と201には鍔端部に３箇所棒状工具でつかんだ痕跡と思われる浅い凹みがみられる。

この棺東端で出土した副葬土器の須恵器杯の蓋および身にはヘラ描きされた「一」の記号がみられる。

また、棺内埋土から出土したものに４本線によるヘラ描き記号をもつ杯蓋（207）がある。これら12個体出土中、６個体に施されたヘラ描き記号は生産窯元あるいは製作工人に関わる記号であろうか。

土製練玉(211～266)　棺内を６区に分け、北東から南西へつづら折に順次１区→６区と小地区を設定した。埋土をふるい掛けした中から出土したもの26個と、30個については原位置で出土したものであり、計56個出土した。埋葬施設１のものと同様で、黒褐色で、孔面を平坦にケズリ、胴は樽形に成形してあるものと円筒の孔面端部の角をとるだけのものに分けられ、各々に大小の大きさの差がある。　(大川)

埋葬主体	出土小地区	埋土中(個)	取上げ№付(個)	計(個)	取上げ番号
埋葬施設１	３区	2	―	2	
埋葬施設２	１区	3	―	3	
	２区	―	6	6	b-2, 5, 6, 7, 23, 24
	３区	14	8	22	b-1, 8, 9, 10, 25, 26, 27, 29
	４区	8	16	24	b-3, 4, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 28, 30
	５区	1	―	1	
合　計		28	30	58	

第６表　土製練玉出土位置別数量一覧

③　埋葬施設３

刀子(267)　鹿角装刀子である。残存長13.8㎝、刃部幅1.6㎝で関は両角関となる。鞘の木質が厚さ1.0㎜程残る。把は木芯上に鹿角を装着する。

④　埋葬施設４

鉄鏃(268～278)　全て長頸鏃で鏃身部は逆刺を有し、長三角形270～272と腸抉三角形268・269がある。いずれも鏃身関は逆刺、茎関は台形関である。273は矢柄の木質が良く残り、茎に幅1.0㎜以下の細い植物繊維紐を螺旋状に巻いた上に木質の矢柄を装着し、樹皮による口巻を茎関から4.0㎝施す。鏃身先が全て東向きで束となって出土しているほか、遺物表面上に残る織物痕から、鏃群を布で包んだか布袋に納めた状態で副葬されたと考えられる。

⑤　埋葬施設５

帯金具（鉸具）(279)　全長4.6㎝、最大幅4.0㎝である。帯を装着する部分の寸法等から装身具である腰帯の金具ではなく、馬具である可能性が高い。２ヶ所に別材の有機質が付着する。上部は皮革であると思われ、280の刀身部付着材と表面の質感が似ていることから同一材である可能性が高い。下部には鹿角と鉄製品（280の切先か？）が銹着する。

刀子(280)　残存長7.0㎝、刃部幅1.4㎝で関は両斜め関である。所々に鹿角の小片が付着していることから鹿角装であったと考えられる。なお、刀身部表面には皮革と思われる付着物が見られることから皮製の鞘が装着されていた可能性がある。

鉄鏃(281)　頸部から茎部にかけての破片で矢柄の木質が残存する。　(山岡)

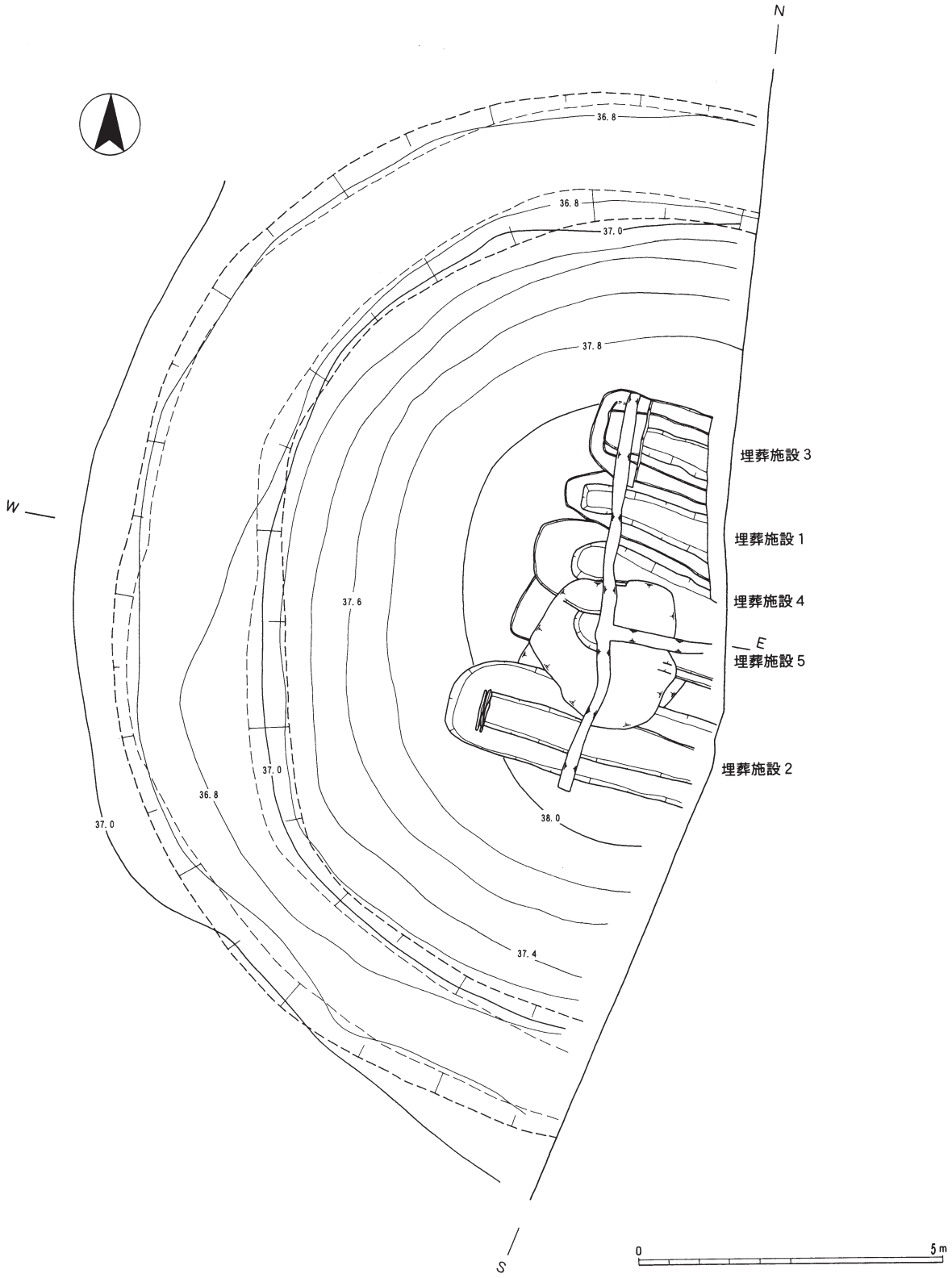
ｄ　古墳の時期

９号墳の各埋葬施設には時期幅がある。出土した須恵器から時期が判断できるのは埋葬施設２のみで、田辺編年[1]によるＭＴ15～ＴＫ10型式併行である。また副葬位置が特定できない須恵器や鉄製品しか出土しないもの、同じ出土資料で比較できない中で、遺物から判断できる埋葬順序は、古い方から埋葬施設５→１→２→４→３の順が考えられる。一方、すべての埋葬施設が接しているところで重複関係を土層断面で確認すると、埋葬順序は古い方から埋葬施設５→２・４→１→３である。出土資料の保有量や種類の差異から埋葬順序については中央３基について断定をしかねるものの、ＭＴ15～ＴＫ10型式併行の時期にわたり埋葬が行われたものと考えられる。

(大川)

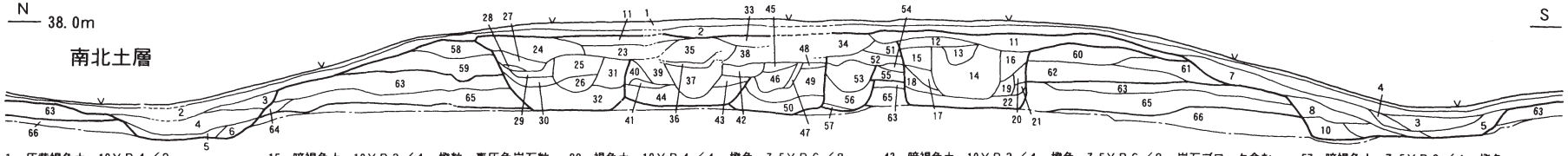
〔註〕

(1)　田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981年）



第27図　小谷９号墳　墳丘測量図（1:100）

南北土層



1　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２

2　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３

3　黒褐色土　10ＹＲ２／３

4　黒褐色土　10ＹＲ２／２　暗褐色 10ＹＲ３／３　ブロック含む

5　褐色土　7.5ＹＲ４／６　黒褐色 7.5ＹＲ３／２　ブロック含む　粘質土

6　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２　明褐色 7.5ＹＲ５／６　ブロック含む　粘質土

7　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色粒含む

8　黒褐色土　10ＹＲ２／２

9　黒褐色土　10ＹＲ２／３　橙色粒含む

10　黒褐色土　10ＹＲ２／２　黒色 2.5Ｙ２／１　ブロック　橙色粒含む

11　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４ 明褐色土　7.5ＹＲ５／８　砂まじり 黒色　7.5ＹＲ２／１　ブロック含む

12　暗褐色土　10ＹＲ３／４ 黄褐色粒、青灰色の岩石粒含む

13　褐灰色土　10ＹＲ４／１　炭粒含む

14　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３ 橙色粒、砂粒含む炭粒

15　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙粒　青灰色岩石粒含む

16　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色粒含む

17　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　明褐色粒、青灰色岩石粒含む

18　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　明褐色 7.5ＹＲ５／８　ブロック青灰色岩石粒（17より大）含む

19　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　明褐色 7.5ＹＲ５／８　青灰色の岩石粒ブロック含む

20　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　橙色粒 青灰色岩石粒含む

21　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４ 橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

22　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２ 橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

23　暗褐色土　10ＹＲ３／３　黄色粒含む

24　黒褐色土　10ＹＲ３／１　明褐色粒含む

25　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色粒含む

26　黒褐色土　10ＹＲ３／２　黄褐色粒少量含む

27　褐色土　10ＹＲ４／４　橙色粒少量砂、粒含む

28　褐色土　10ＹＲ４／４ 橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

29　褐色土　10ＹＲ４／４　橙色　7.5ＹＲ６／８ ブロック岩石粒、砂粒含む

30　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８ ブロック含む

31　褐色土　10ＹＲ４／４　橙色　7.5ＹＲ６／８ ブロック小岩石粒、砂粒含む

32　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色 7.5ＹＲ５／６　黒褐色　10ＹＲ２／３　ブロック含む

33　褐色土　10ＹＲ４／４　橙色粒含む

34　暗褐色土　10ＹＲ３／３　黄褐色粒含む

35　暗褐色土　10ＹＲ３／４　黄褐色粒含む

36　オリーブ褐色土　2.5Ｙ４／３　黄褐色粒含む

37　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色粒、黒褐色 10ＹＲ３／１　ブロック含む

38　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色粒含む

39　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色 7.5ＹＲ５／８　ブロック含む、砂粒

40　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色　7.5ＹＲ６／８ ブロック含む、砂粒

41　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色粒、岩石、ブロック含む

42　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８ ブロック岩石粒少量含む

43　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　岩石ブロック含む

44　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／６　黒色　7.5ＹＲ２／１　ブロック含む

45　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック、小砂粒、炭粒含む

46　褐色土　7.5ＹＲ４／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

47　褐色土　10ＹＲ４／４　橙色粒含む

48　褐色土　7.5ＹＲ４／４　橙色粒含む

49　褐色土　7.5ＹＲ４／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック岩石ブロック、砂粒含む

50　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

51　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３　橙色粒、黒粒含む

52　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック黒粒含む

53　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

54　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色粒、黒色　7.5ＹＲ２／１　ブロック含む

55　黒色土　7.5ＹＲ２／１　暗褐色　10ＹＲ３／３　ブロック黄褐色粒含む

56　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック、黒色粒、砂粒含む

57　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４　橙色 7.5ＹＲ６／８、黒色 7.5ＹＲ２／１　ブロック含む

58　褐色土　7.5ＹＲ４／３　橙色 7.5ＹＲ６／８　ブロック含む

59　暗褐色土　10ＹＲ３／３　褐色 7.5ＹＲ４／４、黒褐色 10ＹＲ２／２　ブロック含む

60　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　褐色土 7.5ＹＲ４／３　ブロック、黒粒含む

61　暗褐色土　10ＹＲ３／３ 黄褐色　10ＹＲ５／６　ブロック含む

62　黒色土　7.5ＹＲ２／１　暗褐色 10ＹＲ３／３　ブロック、黄褐色粒含む

63　黒色土　10ＹＲ２／１　黄褐色 10ＹＲ５／６　ブロック含む

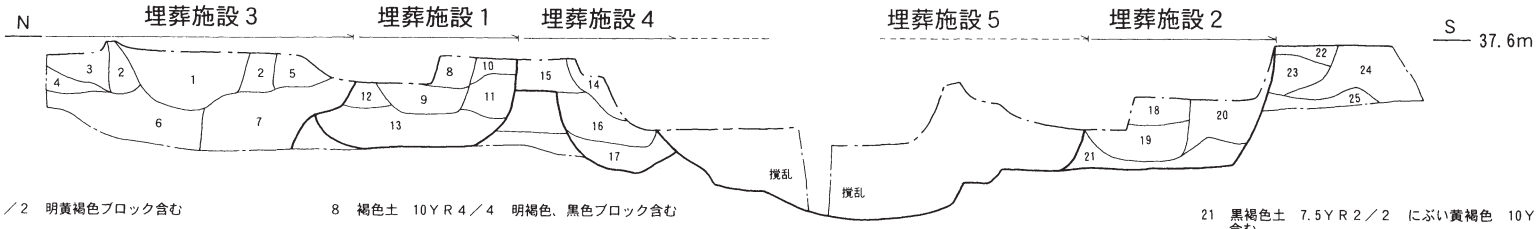
64　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２ 橙色粒含む

65　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色 7.5ＹＲ６／８　ブロック黒粒含む

66　明褐色土　7.5ＹＲ５／８　にぶい黄褐色　10ＹＲ４／３　ブロック含む　粘砂土

0　1：80　4m

埋葬施設南北土層



1　黒褐色土　10ＹＲ３／２　明黄褐色ブロック含む

2　黒褐色土　10ＹＲ２／３　橙色　7.5ＹＲ６／８　ブロック、黒色粒、灰白岩石ブロック含む

3　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色粒含む

4　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色ブロック　7.5ＹＲ６／８　含む

5　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色、黒色ブロック小含む

6　黒褐色土　10ＹＲ２／２　黒色　10ＹＲ1.7/1、黄褐　10ＹＲ５／８ ブロック含む

7　黒褐色土　10ＹＲ２／２　黄褐色　10ＹＲ５／８　ブロック含む

8　褐色土　10ＹＲ４／４　明褐色、黒色ブロック含む

9　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　明褐色ブロック小含む

10　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色粒含む

11　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色粒含む

12　黒色土　Ｎ２／０　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック含む

13　黒褐色土　10ＹＲ２／３　黄褐色粒含む

14　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色粒含む

15　褐色土　10ＹＲ４／４　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック黒色粒含む

16　褐色土　7.5ＹＲ４／４　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック含む

17　褐色土　7.5ＹＲ４／４　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック小、黒色粒含む

18　黒褐色土　10ＹＲ３／２　黄色粒含む

19　黒褐色土　7.5ＹＲ３／１　橙色粒含む

20　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３　明褐色7.5ＹＲ５／６　ブロック含む

21　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２　にぶい黄褐色　10ＹＲ５／４　ブロック含む

22　暗褐色土　10ＹＲ３／４　黄褐色　10ＹＲ５／６　ブロック小含む

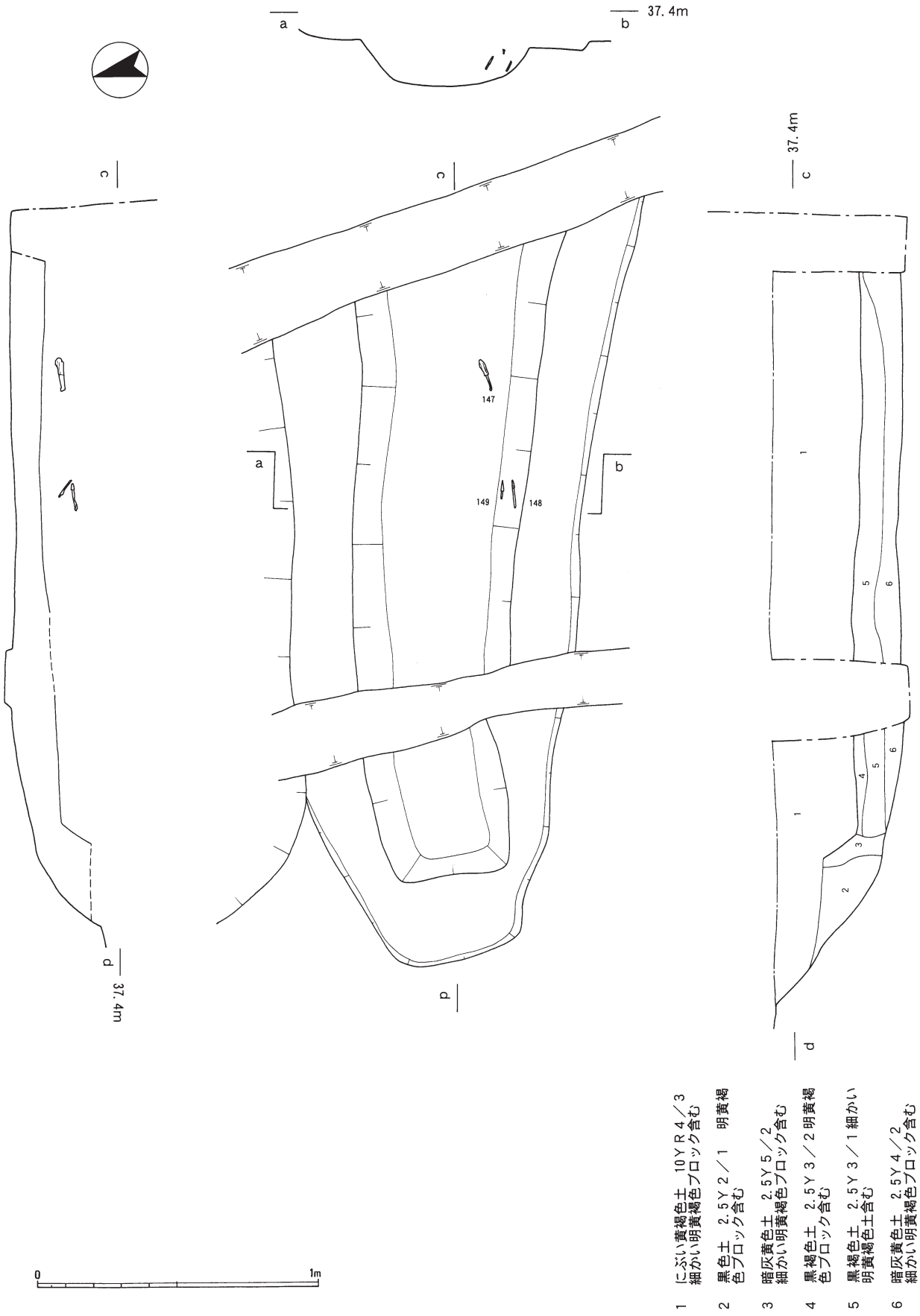
23　黒色土　2.5Ｙ２／１　黄褐色粒含む

24　暗褐色土　10ＹＲ３／４　黄褐色　10ＹＲ５／６　黒色 2.5Ｙ２／１　小ブロック含む

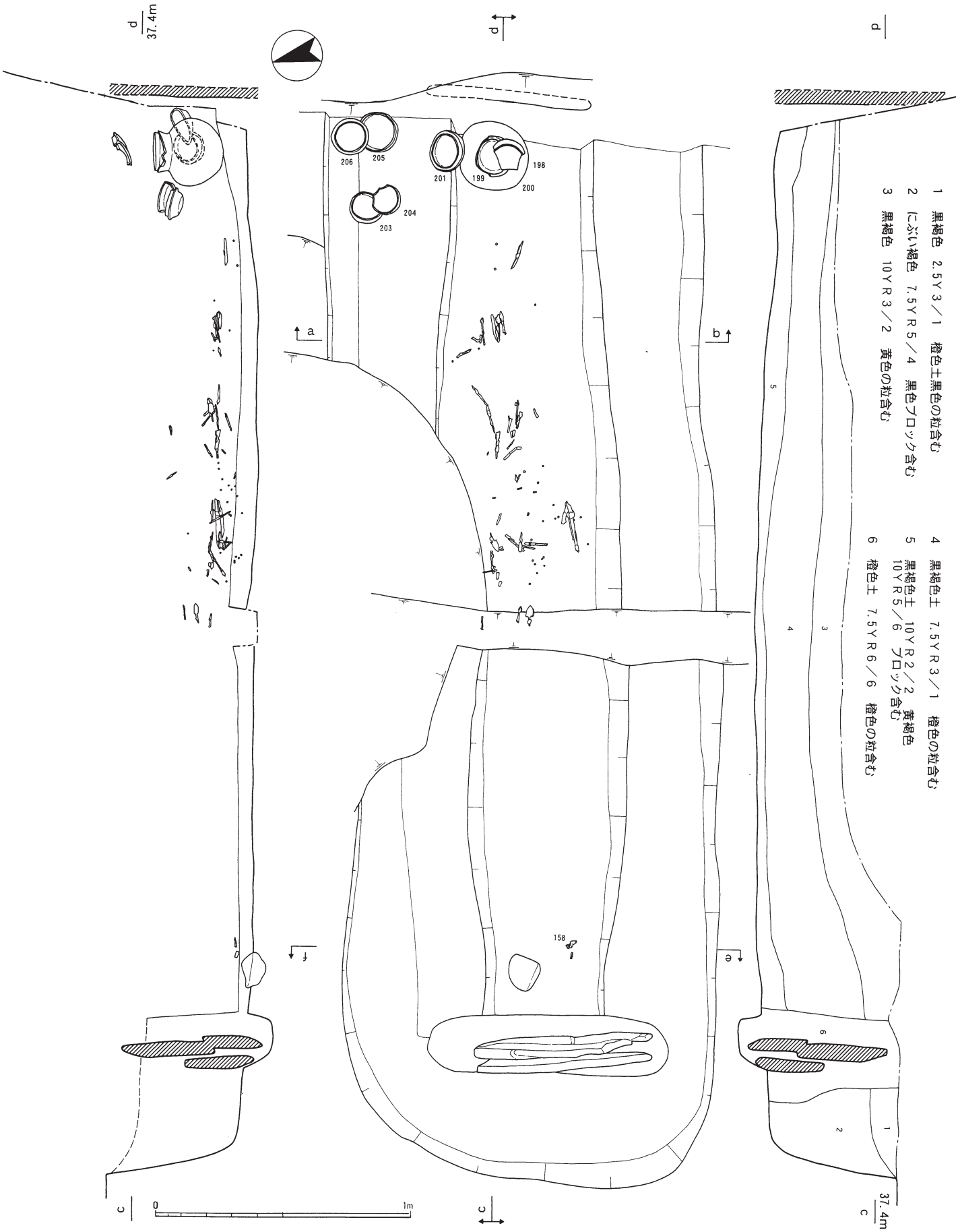
25　黒色土　10ＹＲ1.7／１　暗褐色　10ＹＲ３／４　ブロック含む

1：40

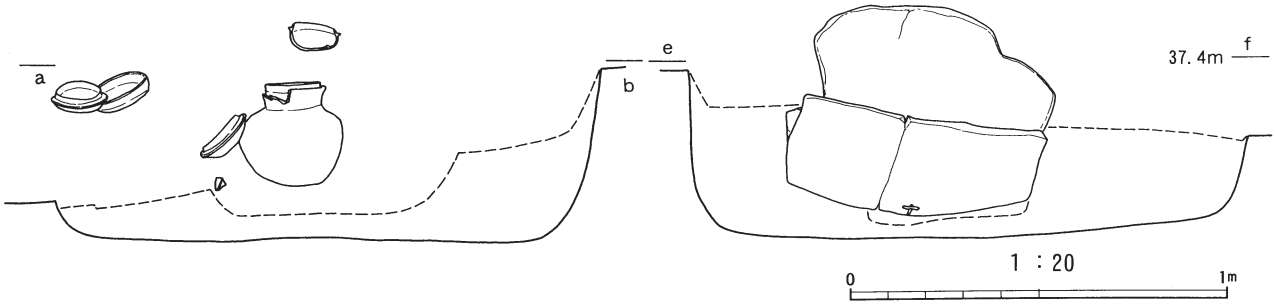
0　2m

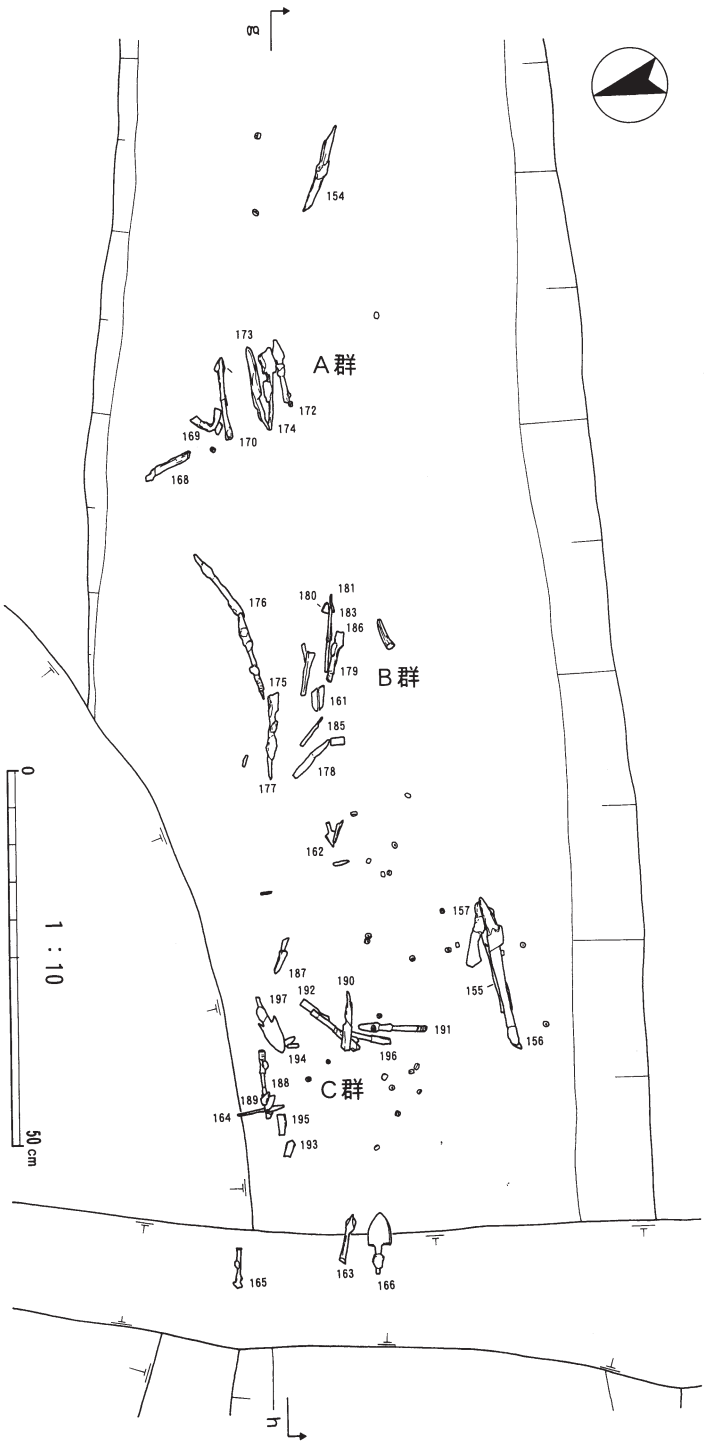


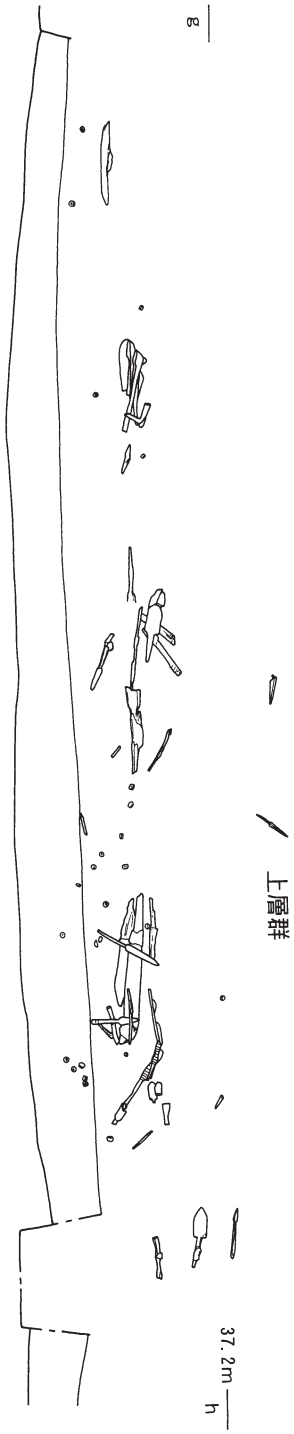
第29図　小谷９号墳　埋葬施設１　平面・断面図（１：20）



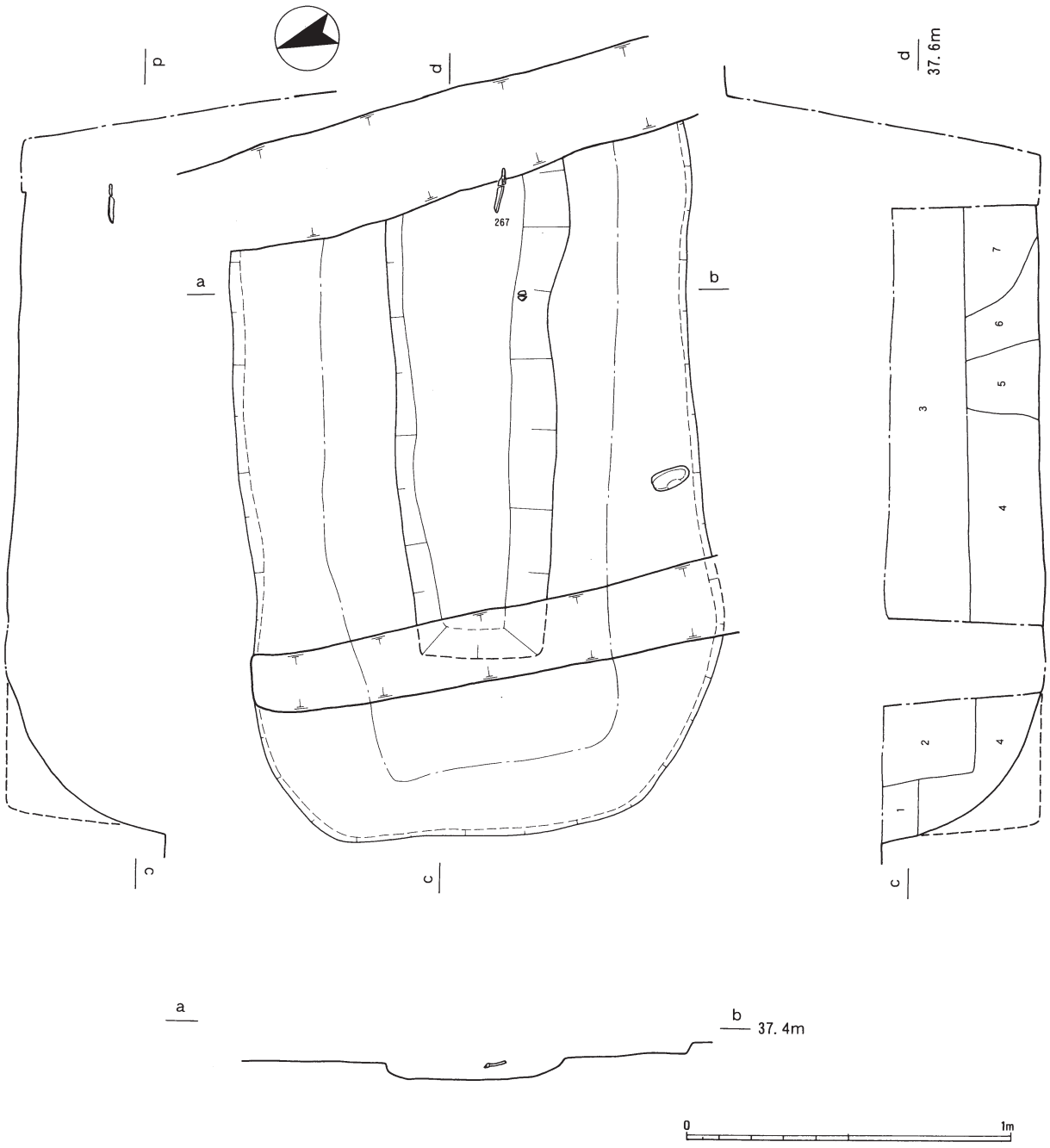
第30図　小谷９号墳　埋葬施設２　平面・断面図（１：20）







第31図　小谷９号墳　埋葬施設２　出土状況図　ａ～ｂ、ｅ～ｆは第30図に対応する



1　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明黄褐色ブロック含む

2　黒褐色土　10ＹＲ３／２　細かい明黄褐色ブロック含む

3　黒色土　10ＹＲ1.7／１　細かい明黄褐色ブロック　暗褐色土（棺埋土）含む

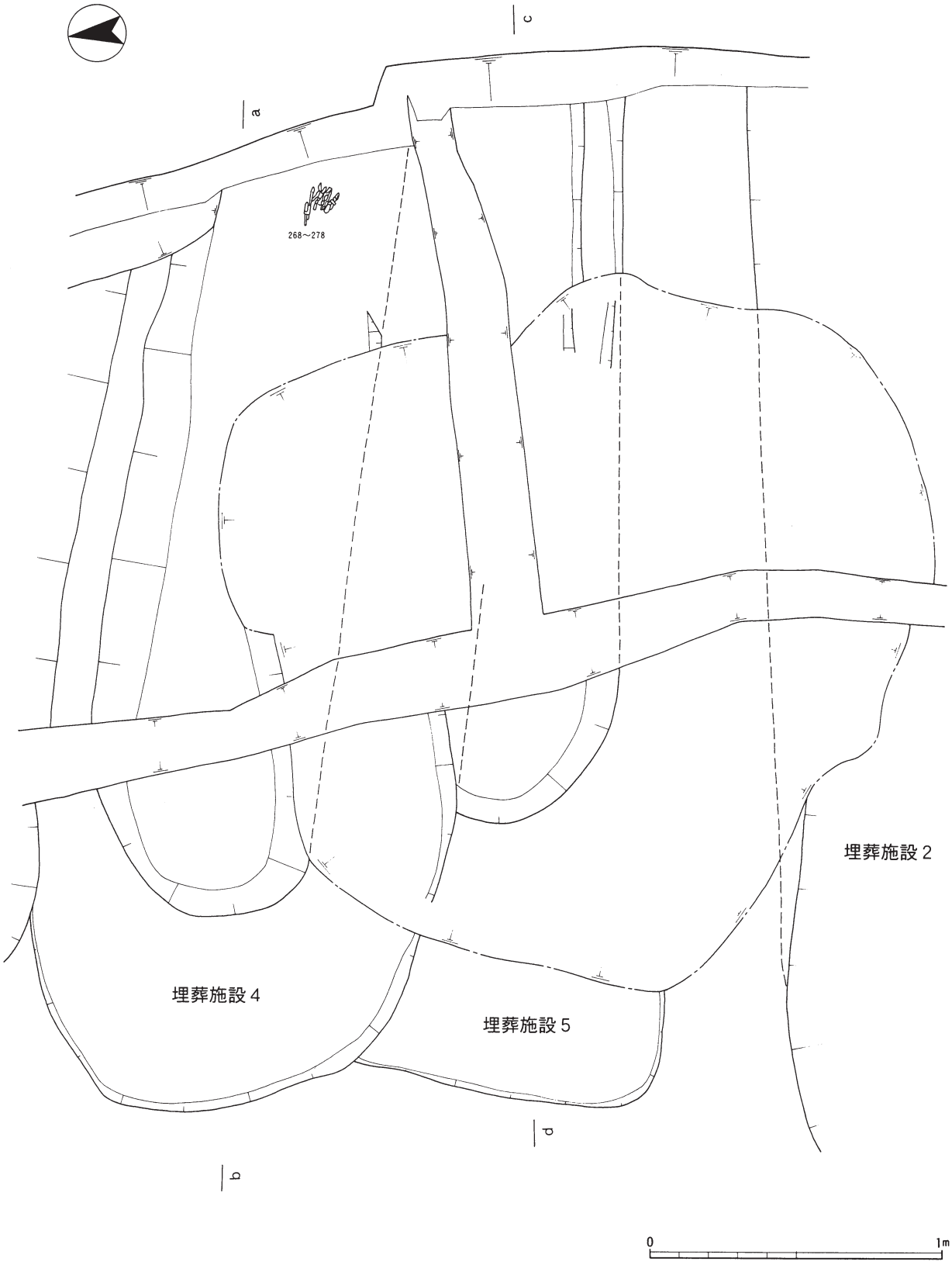
4　黒褐色土　2.5Ｙ３／１　細かい明黄褐色土含む

5　黒褐色土　10ＹＲ３／１

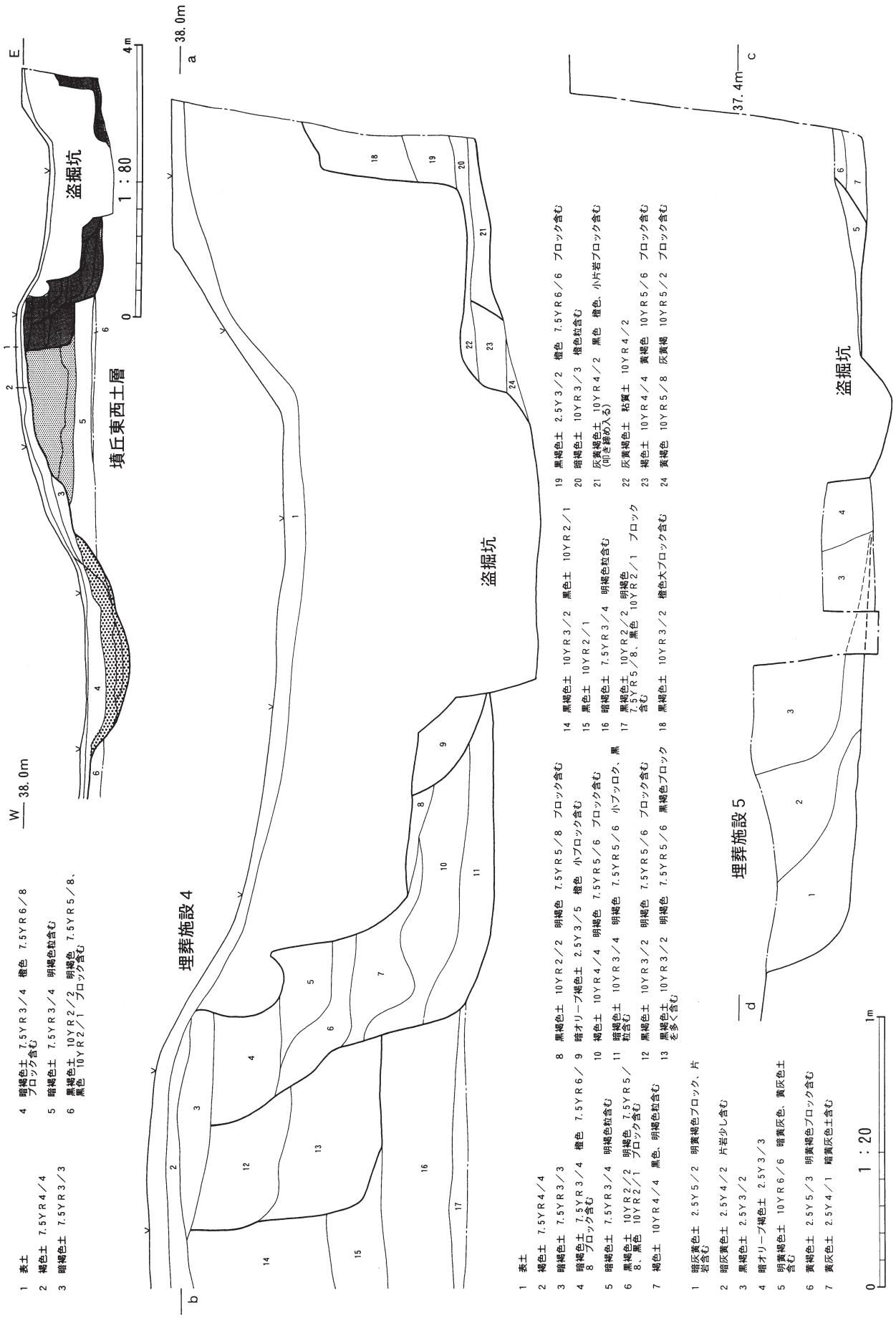
6　暗黄褐色土　2.5Ｙ５／２　明黄褐色ブロック含む

7　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　細かい明黄褐色土含む

第32図　小谷９号墳　埋葬施設３　平面・断面図（１：20）

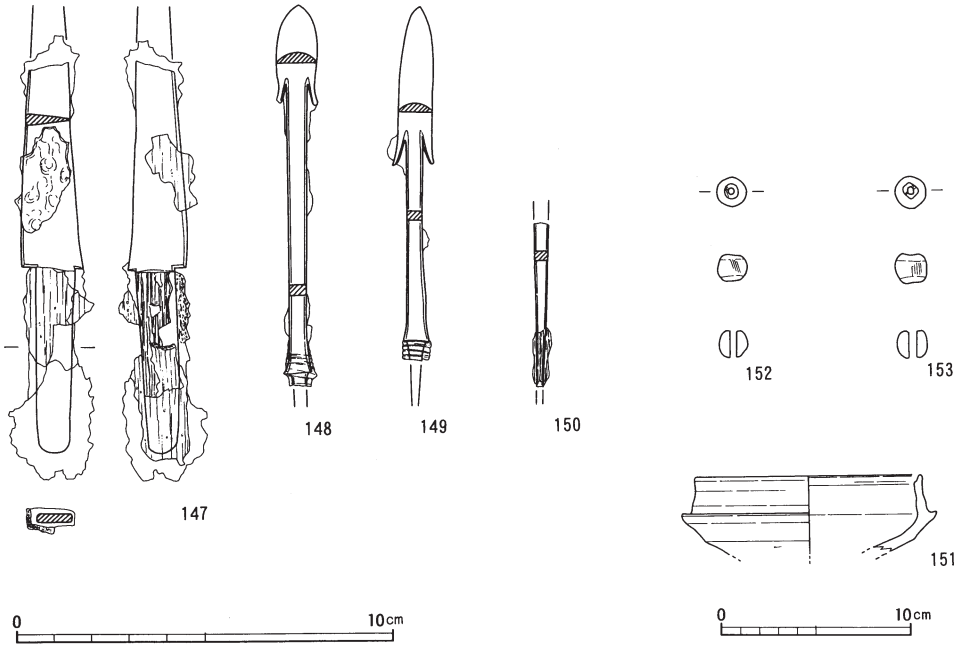


第33図　小谷９号墳　埋葬施設４・５　平面図（１：20）

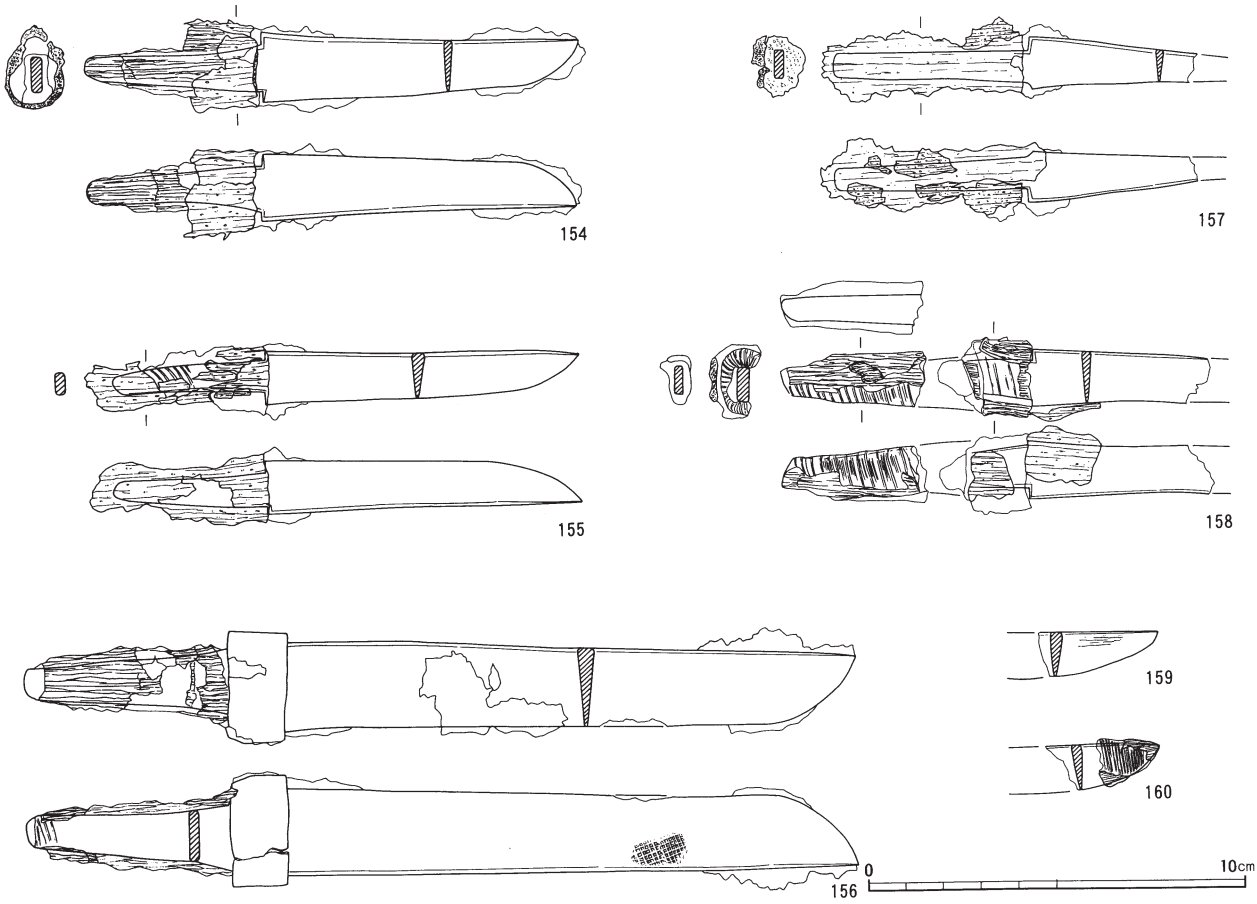


第34図　小谷９号墳　東西・埋葬施設４・５　土層断面図　ａ～ｄは第33図に対応する

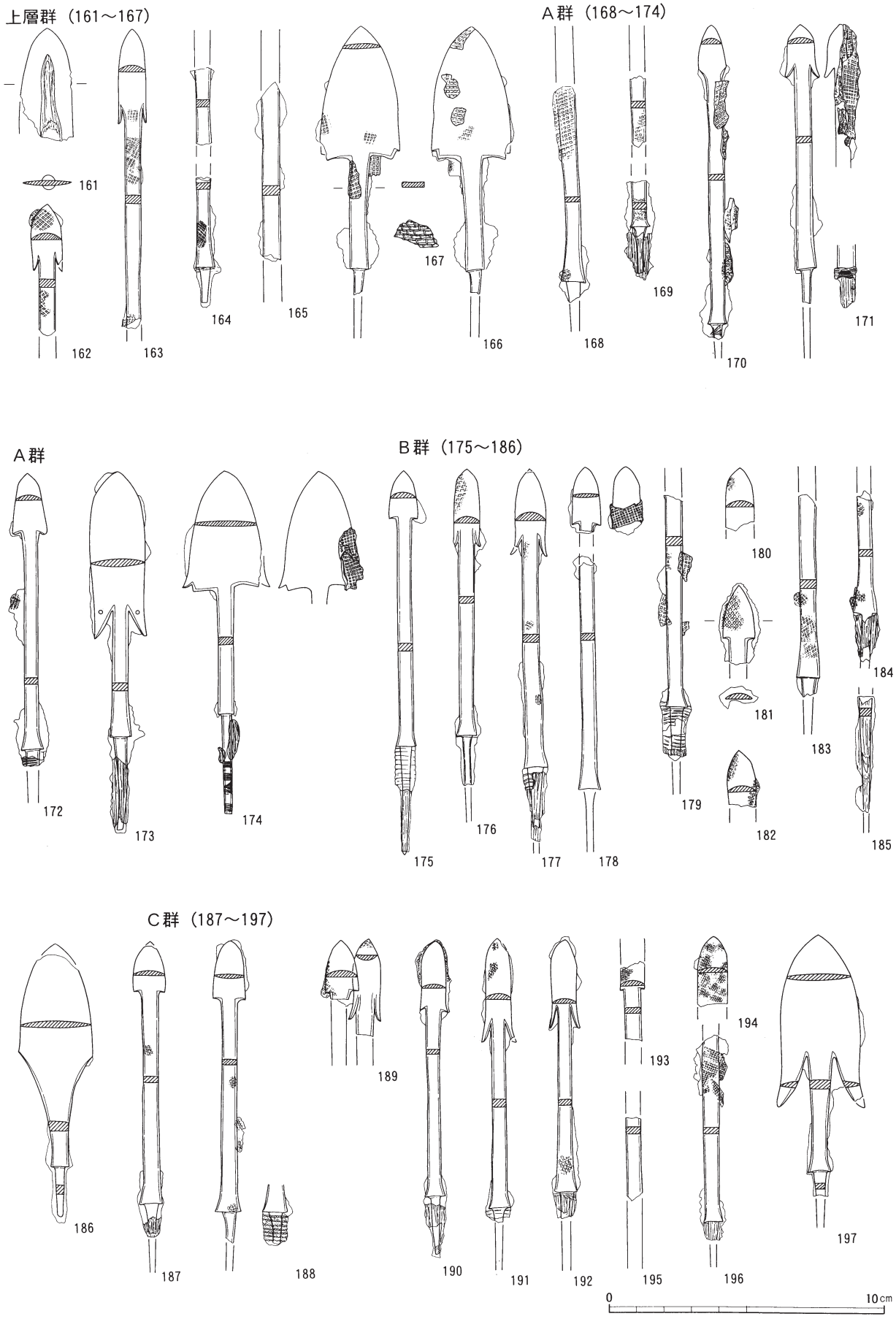
埋葬施設１（147～153）



埋葬施設２（154～160）

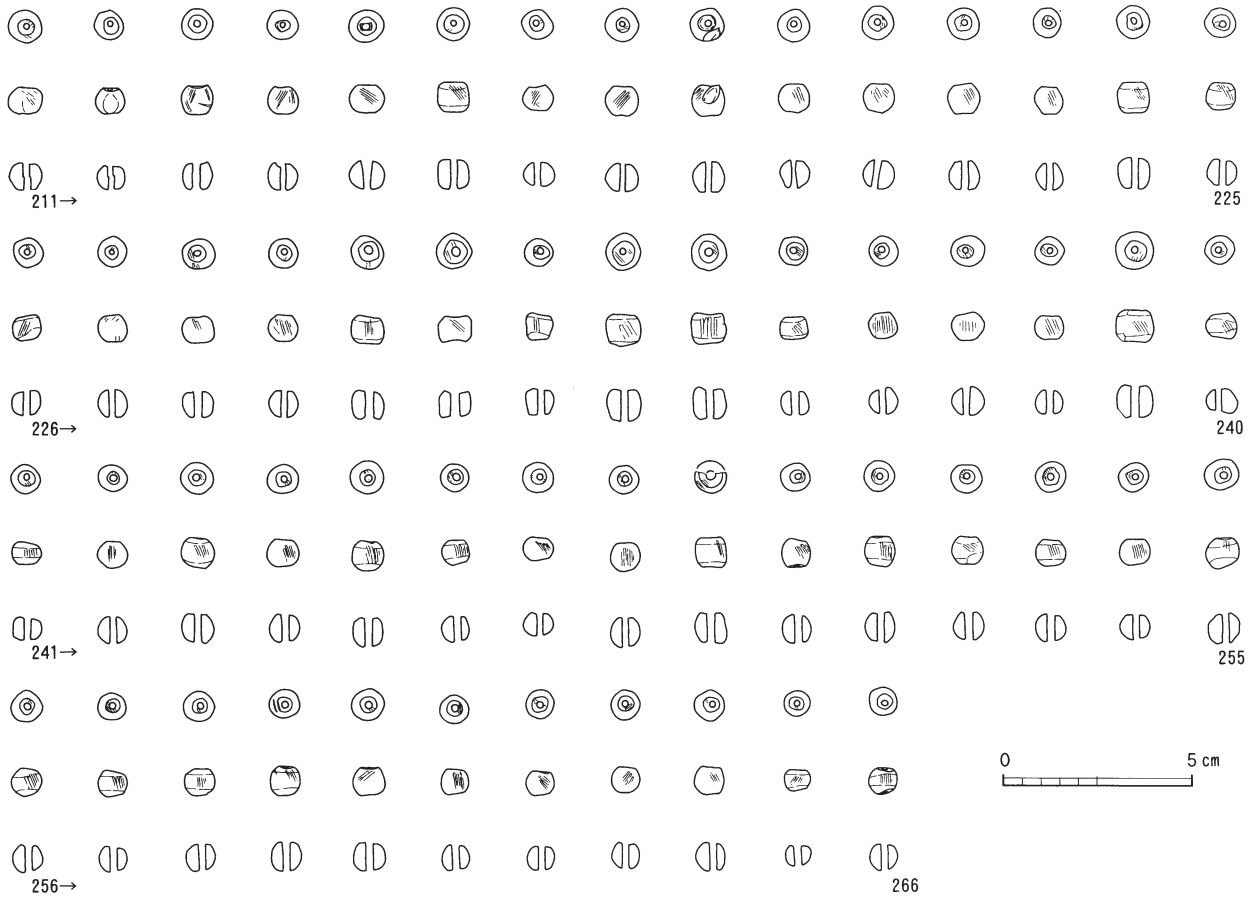


第35図　出土遺物実測図　小谷９号墳（１）　埋葬施設１・２　（151は１：４　他は１：２）

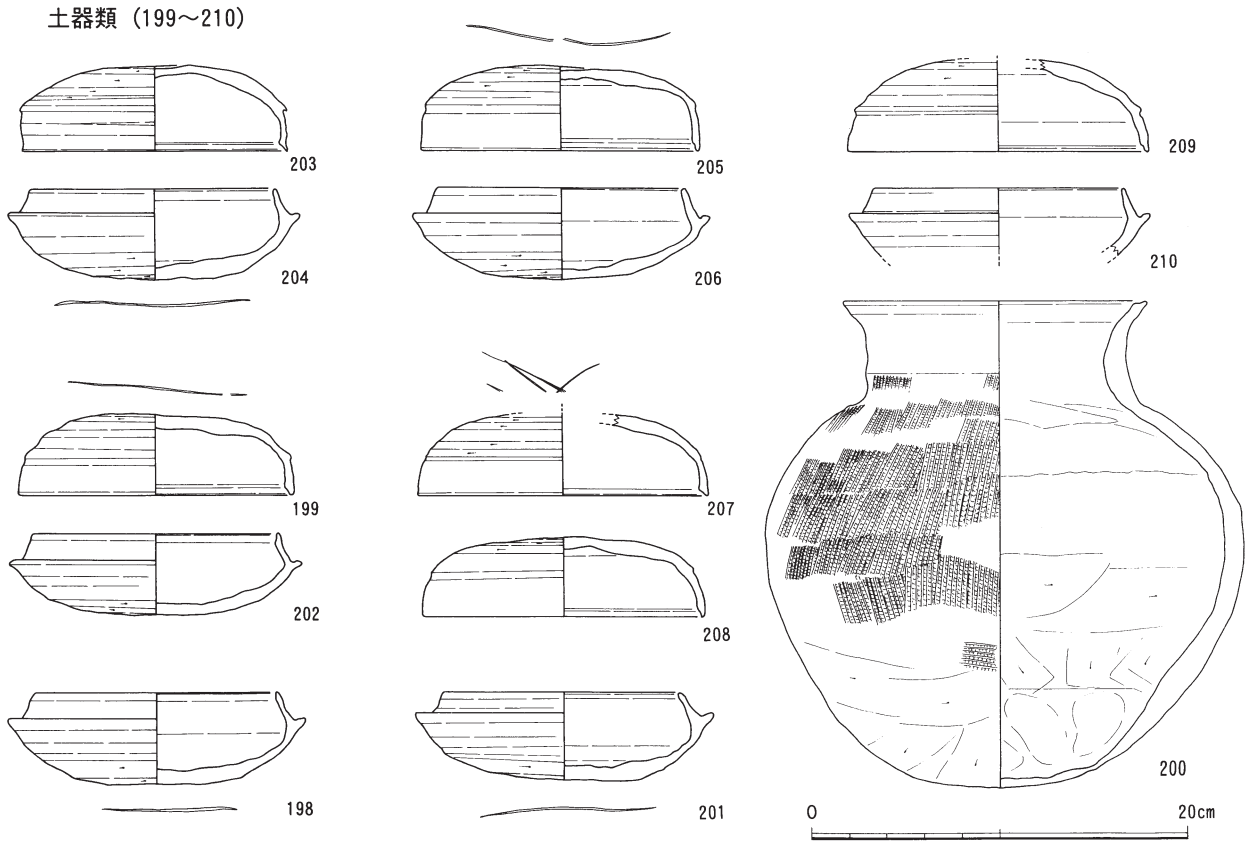


第36図　出土遺物実測図　小谷９号墳（２）　埋葬施設２（１：２）

土製練玉（211～266）

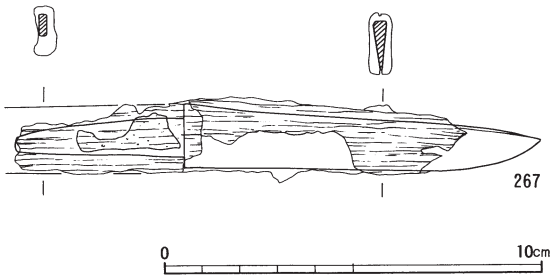


土器類（199～210）

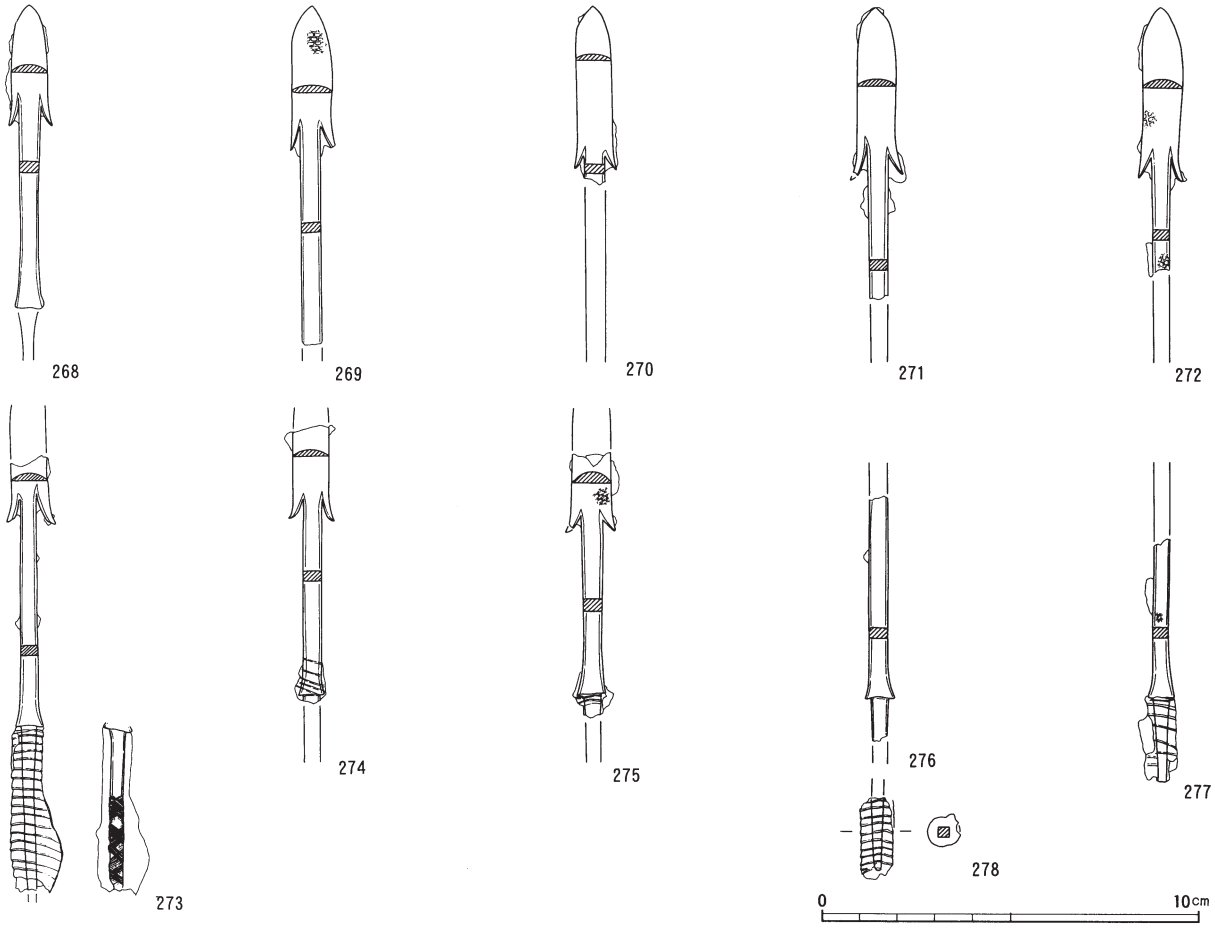


第37図　出土遺物実測図　小谷９号墳（３）　埋葬施設２　（211～266は１：２　他は１：４）

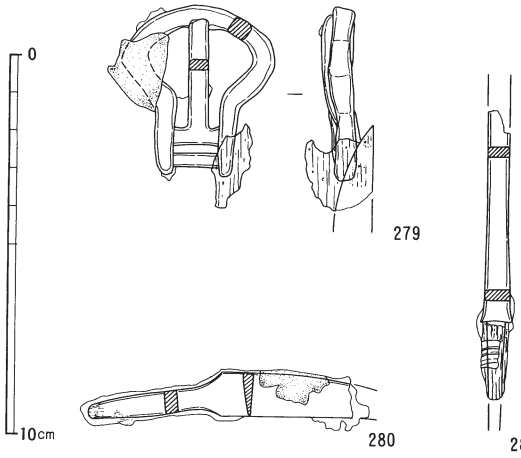
埋葬施設３（267）



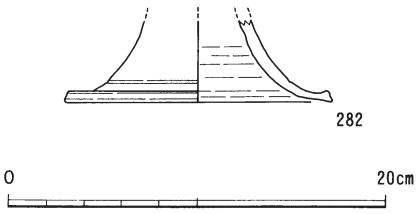
埋葬施設４（268～277）



埋葬施設５（279～281）



９号墳周溝（282）



第38図　出土遺物実測図　小谷９号墳（４）　埋葬施設３ほか（267～281は１：２　282は１：４）

5　小谷10号墳

a　墳丘・関連施設

①　墳丘

10号墳は、丘陵東端の東支群の中で、９号墳の南西に位置し、９号墳とは周溝を接していない。この支群の中で最も高所に位置する。

墳頂の標高は39.0m、調査前の墳径は約17mで、表土を除去した後、墳径は約16.5mの円墳であることが確認できた。

調査着手前から、墳頂にはやや浅い凹みが確認できた。また墳丘の法面に小動物の巣穴とおぼしき径25㎝前後の横穴が、墳丘内に向けて無数に穿たれていた。巣穴以外にも、かなりの巨木の根痕跡が多くあり、根の筋状に緩く凹んでいる箇所もあった。人為的撹乱もさることながら、動植物による撹乱も、埋葬主体に影響を及ぼしている可能性が多分に予測できるものであった。

基盤の土は黒色土（黒ボク土）で、墳頂から基盤まで約1.5m、橙褐色の地山まで約2.0mである。

墳丘は、盛土によるもので、盛土の厚さは1.5m、地山の橙褐色粘質土をブロックで含むものの、黒色土の量が圧倒的に多い。古墳造営時に表土であった旧表土面と盛土の境界は確認できず、部分的に撹乱されているものの、造営前に平滑に整地を行った可能性が考えられる。この整地を行った上に、地山の橙褐色土のブロックを含んだ土で周堤状に盛った後、同橙褐色土の粒を含んだ盛土を平均厚30㎝で積み上げていき、表層として、褐色土を厚20㎝以上覆っていたものとみられる。盛土していく際に、叩き締めを行ったと考えられる痕跡は見られなかった。盛土内から出土した遺物は、大半は弥生土器であり、かなり大きな破片も含まれていた。盛土の土の中に、わずかに炭粒が混入してはいたが、炭溜まりとしては確認されるものはみられなかった。

盛土の流出土から、埴輪片がいくつか出土しており、朝顔形埴輪（331・332）、円筒埴輪（333）が10号墳にも置かれていた可能性が考えられる。円筒埴輪（334）の外面には赤色顔料の付着が認められる。

下層遺構として、わずかにピットはみられたものの、周辺に点在する弥生時代後期の竪穴住居などの大型遺構は存在しなかった。

②　周溝

今回、古墳全体を調査できた唯一の古墳で、周溝についても全周の状況を確認することができた。

周溝は調査前の下草除去時に、かなりの凹みとして確認できるものであり、特に北西側の凹みは明瞭であった。

なお、10号墳の南側には、調査区を東西に横切る形で天花寺城跡曲輪５を構成する土塁と堀が廻る。この堀の開削の際に10号墳の周溝の南側がわずかに破壊されているようで、外周の浅い部分の外縁が明確にできなかった。その場所以外は全周にわたって、重複なく周溝の輪郭が確認できた。

周溝の形状は、明瞭な2段構成である。外縁から幅約0.8～1.6mは深さ約0.2mと浅く、墳丘裾へ行くほど徐々に深さを増し、墳丘裾で最も深く約0.8mとなる。深い部分で船底状のやや丸みを帯びた周溝底となる。また、西半は遺構検出面からの深さでは最も深いが、標高では東面に比べて0.2mほど高いものであった。周溝の幅は約４～５mである。

周溝内北西部分から、須恵器の瓶類の口縁部、横瓶破片、杯身などが出土した。また南側の周溝の浅い段を掘削中に蓋をしたままの状態の杯身・杯蓋が１セット出土したほかは、古墳築造期の土器の出土はなかった。

周溝北東のＳＫ340については、検出時点では、盛土の流出土中の遺物であると思われる須恵器杯身などが含まれていたために、周溝内における祭祀行為とも考えたが、土器取上げ後の観察から、９号墳周溝のＳＫ400と同様の８世紀中葉～９世紀初頭頃に相当するものと考えられる。

b　埋葬施設

10号墳では、前述の撹乱状況の中で墳丘中央からやや南寄りの場所で２基の埋葬施設、中央を外してやや北寄りの場所で１基の埋葬施設の、計３基の埋葬施設を確認した。その中で、南寄りの２基の埋葬施設は、掘形の一部が東端でわずかに重複していたが、棺跡の重複関係は見られなかった。

以下、埋葬施設ごとに概述する。

①　埋葬施設１

３基の埋葬施設の中で、中央にあたる主体であるが、墳丘の中央部をやや南に外れたところにある、東西方向の墓壙である。

墳頂から約0.6m下げたところで、埋葬施設１の西側板石が見えはじめ、この板石の検出とともに板石と垂直方向にみえる叩き締めのライン、またこれに並行してさらに外側に見えるラインを墓壙の輪郭と認識して検出を行った。

その結果、墓壙の規模は長軸5.6m、短軸1.5mの長楕円形であった。墓壙内の埋土は黒褐色土で橙褐色土のブロックが混じっていた。棺跡の南北両側には泥岩の砕石が混じった黒褐色土で叩き締めがされていた。

墓壙は、表装化粧土の一層下の黒褐色土を盛土する前に掘削されており、深さは基盤の黒色土（黒ボク土）にまでは達していない。

墓壙全体を同様の深さまで掘削した中に、棺・板石を据え、叩き締め・埋め戻しを行い、黒褐色土の最終盛土を行った上で表層盛土を行ったものと考えられる。

棺跡の規模は長軸0.8m、短軸3.7mで、土層の観察から棺の形状は割竹形の木棺と考えられる。

棺および墓壙は東南－北西の主軸をとり、墓壙西端から約0.5m、東端から約1.0mの位置に板石を立てる。板石は、９号墳の埋葬施設２同様、黄褐色粘質土で周囲を巻かれており、棺の木口は板石には達していないことが土層の観察から確認された。

棺跡南北両側は泥岩の砕石を含むやや締まった叩き締め層であるのに対し、棺内の埋土は、黒褐色土で、細かい橙褐色土の粒が少量混じっていてやや締まりはないが緻密な埋土であった。

板石の大きさは、西の板石で横約1.0m、高約0.7m、東の板石は、横0.8m以上、高0.5m以上あったものが、南東方向に伸びる大木の根により砕かれ棺木口にもたれかかるように内傾した基底部を検出している。

棺内の遺物検出を終え、墓壙の掘削に着手した直後、棺跡中央の南側面で赤色の顔料を検出した[1]。墓壙内も多くの動植物による撹乱が少なからずみられるが、それを考慮してもあまりに局部的範囲にしか付着が認められないことから、顔料を塗布した副葬遺物が棺の側面に副えてあったと考えられる。蛍光Ｘ線による分析で、顔料はベンガラであることが明らかとなった。

棺内副葬遺物としては、鉄製直刀１振、鹿角装刀子１本、鉄鏃５本以上、須恵器壺１がある。直刀・刀子は棺跡中央の底部、鉄鏃は棺跡南西隅から、須恵器壺は東の内傾した板石破片の一部が覆い被さった状態で出土した。

棺外には、棺跡東端近くの南側面に、須恵器有蓋高杯（291～296）、杯部まで復元できない高杯脚部(297)・蓋（295）・壺（298）が副えられていた。

②　埋葬施設２

埋葬施設１の南側に墓壙の一部を重複して設置される埋葬施設で、ちょうどこの２基の埋葬施設の接点上を、動植物による撹乱で、横穴を開けられており、わずかしか接点のない平面からは観察しにくい状況であった。そこで土層の観察により、埋葬施設１に先行するものであることを確認した。

墓壙の規模は長軸5.5m、短軸1.8mの長楕円形で、埋葬施設１同様、東西方向の墓壙であるが、埋蔵施設１よりやや北に軸を傾ける。埋土は黒褐色土に橙褐色土の小ブロックが混じっており、棺跡の周囲には泥岩の砕石が混じった幅約0.3～0.45mの叩き締めの層が検出された。

墓壙は埋葬施設１と同様、黒褐色土の最終層の盛土前に掘削をし、基盤層まで掘削は達していない。墓壙全体を同様の深さまで掘削し、棺跡底部を叩き締め、棺の設置、側面の叩き締め、墓壙埋め戻しを行ったものと考えられる。

棺跡はこの叩き締め層の内側で、長軸3.2m、短軸0.6mを検出し、土層断面の観察から割竹形木棺であると考えられる。この埋葬施設の木口には板石は用いられていない。

木棺内の埋土は黒褐色土にわずかに橙褐色土の粒が見られた。

棺内副葬遺物としては、鉄鏃５本、鹿角装刀子２本が副葬されていた。鏃は埋葬施設１と同様に棺跡の中央やや西寄り、中軸からやや南寄りの位置で５本とも鏃身を西に向けて束状になって出土した。鹿角装刀子は２本とも棺の東端近く、中軸よりやや北寄りで出土し、接地面の鹿角装が剥離し、接合する

各刀身に縦列で並ぶように出土したものである。

棺外遺物として、棺の東端位置で、須恵器壺(306)、土師器台付椀（307～312）が壺の棺木口側周囲に副えるように６個体がかためてあった。６個体とも杯部を壺側に向け、横位で出土した。また棺跡東端北側に須恵器蓋杯が２セット、蓋をした状態で東西にならべてあったが、検出時に口縁端部は欠損していた。このほかに装身具等は出土しなかった。

棺東端の須恵器壺と土師器台付椀群の真上にあたる位置で、高杯(317)が壺側に口縁を向けた形で出土した。棺埋設時に据えたそれらよりは高いレベルで出土しており、棺上に副葬したものと考えられる。

さらにこの高杯よりも高い位置で、土師器平底甕(318）が出土している。口縁を破損はしていたものの、口縁を上に向けた状態で出土している。埋葬施設1との接点での出土であり、平面では埋葬施設２の上面にあたるが、墓壙の一部が重複することを考えると後出の埋葬施設１に関係する遺物である可能性もある。

③　埋葬施設３

墳丘やや北寄りで検出をしたもので、長軸4.2m、短軸1.2mの長楕円形の墓壙である。埋葬施設１との間は動物・植物の原因による撹乱がひどく、埋葬施設３へもこの撹乱が及んでおり、南辺の一部を破壊されている。

墓壙の埋土は黒褐色土で橙褐色粘質土を多くブロックで含む。埋葬施設１・２ほど明確ではないが、棺跡両側面際約20㎝幅の叩き締めの層を確認した。

棺跡の規模は長軸2.1m×短軸0.55mであり、土層断面の確認から割竹形木棺の直葬となるものと考えられる。主軸は東西軸で、東からやや南にふっており、埋葬施設１とほぼ同じ軸である。

棺内埋土は黒褐色土に橙褐色土の粒が少量混じったものである。この主体にも木口板としての板石は用いられていない。

埋葬施設に伴う遺物としては、棺外の棺跡南東隅あたりに須恵器杯身（319）が、伏せた形で検出できたのみである。　　(大川)

c　出土遺物

①　埋葬施設１

直刀(283)　全長94.7㎝、刃部幅3.2㎝、厚さ0.7㎝の平造りの直刀である。切先はフクラをもち、関はナデ関、茎尻は一文字尻である。茎は関から一定の幅を保つ。X線写真より、関から4.5㎝下のところに直径0.6㎝の目釘孔が1箇所確認できる。把・鞘材の木質が両面にわずかに残存する。

刀子(284)　全長9.2㎝、刃部幅1.4㎝、厚さ0.4㎝の小形の刀子で、関は両角関である。把は鹿角装で、木芯の上に鹿角を装着する。

鉄鏃(285～287)　平造の三角形鏃である。鏃身関は286が斜関、287が両角関である。288は片丸造で長三角形の長頸鏃でわずかに逆刺を有する。茎関は台形関で、矢柄の口巻である幅2.0㎜の樹皮と、その下の螺旋状に巻かれた幅1.0㎜以下の植物繊維製紐が残存する。289は片丸造の圭頭鏃で鏃身関は撫関、茎関は角関である。　　(山岡)

須恵器(290～298)　棺内の東端に平底壺（290）が１点、棺外南側面の東端で有蓋高杯（291～296）が３セット、高杯破片（297）ほかが２点以上、蓋破片（295）ほかが１点以上、丸底壺（298）が１点出土している。

棺内出土の平底壺（290）は、いわゆる百済系土器と呼ばれるものの一つで、最大胴径と同径の平らな底部をもち、その中心にユビオサエ痕を残す。胴部には下半をケズリ、ナデ肩の部分にカキメを施し、細い頸部を有する。口縁端部は全周打ち欠かれており、端部の形状は不明である。

棺外出土の有蓋高杯（291～296）は、295・296のみ蓋をしたままの状態で検出し、その他は蓋を開け、292は脚部を欠損した状態で出土したものであるが、各々の高杯の下位で蓋を検出したもので、295・296同様、蓋とセットで副葬されたものと考えられる。口径は12.0～14.0㎝前後、器高11.0～12.0㎝、脚部に一段の三方透孔があり、カキメを施す。蓋は口径15.2～16.0㎝、295の口縁端部外面には刷毛状工具の当り痕跡がみられる。

298の丸底壺は、棺底に近いレベルで検出したもので、有蓋高杯およびその蓋破片の下で底部を上方に向けた完全に逆位で出土した。体部外面下半に平行タタキ目、肩部にカキメを施し、内面下半に同心円タタキ目が残存する。焼成はやや軟質で灰白色であり、頸部以上は全周打ち欠かれている。

②　埋葬施設２

埋葬施設２では、棺内から鹿角装刀子２本、鉄鏃５本、棺外東端で須恵器壺（306）とその周囲に土師器台付椀（307～312）が、この土器群の上方に須恵器高杯（317）、また棺の北側面東端で須恵器蓋杯(313～316)、さらに墓壙上面で土師器平底甕（318）が出土している。　(大川)

刀子(299・300)　いずれも鹿角装である。　299は残存長11.4㎝、刃部幅1.2㎝、関は両角関、把の鹿角装が良好に残存する。出土時に半截されていた把から、把材装着の構造を観察したところ、茎尻は尖り、それに合わせて鹿角も先端を尖らせて茎を納めるが茎先端との間に若干すき間をもつ。把下地には植物繊維紐が螺旋状に巻かれていた。300は残存長12.3㎝、刃部1.1㎝で関は両角関で茎先端は一文字尻である。出土時には刀身に木質と鹿角片が付着していたが、現存しない。把に木芯は見られず、鹿角のみ装着する。

鉄鏃(301～305)　302・305の上に301・303・304が重なった状態で出土した。301・302は平丸造の三角形鏃である。鏃身関は角関、茎関は台形関で矢柄の木質が残る。301には、螺旋状に巻かれた幅1.0㎜以下の植物繊維製の紐上に、矢柄の木質を確認することができる。302には矢柄の木質が厚さ1.0㎜ほど残存する。303は腸抉三角形鏃、304は鏃身関が両角関、三角形の長頸鏃で共に平造である。305は平造で鏃身が二段逆刺の長三角形の短茎鏃である。矢柄の木質が良く残り、鏃身を挟み込んだ後、鏃身にあけた２孔に糸又は紐を通して固定し、茎部に糸による口巻が施されている。　(山岡)

須恵器壺(306)　口径14.4㎝、器高20.0㎝、完形で底部を灰色の粘質土で固め正位で据えられていた。体部下半に平行タタキ目、体部上半から頸部までカキメを施す。

須恵器蓋杯(313～316)　蓋を閉めたままの状態で検出したが、その時点で既に蓋の口縁端部を部分的打ち欠いていたものである。

須恵器高杯(317)　棺東端の土器群の上面にあったものである。口径12.8㎝、器高10.0㎝で脚部に透孔をもたない。

土師器椀(307～312)　椀部の器壁が薄造りで、口径11.6～13.2㎝、器高7.2～7.8㎝と６個体ともほぼ同じ法量を示す。

土師器平底甕(318)　口径14.0㎝、器高21.4㎝で口縁の一部を欠損するのみでほぼ完形である。径6.0㎝ほどのわずかな平底をもち球胴の体部下半を工具ナデ、口縁部内外をヨコナデするほかはナデ仕上げである。

③　埋葬施設３

須恵器杯身(319)　棺外東端付近の墓壙内から口縁部を下に、伏せた形で出土した。欠損は見られず、周囲に蓋片の出土はなかったが、上方盛土の掘削時に323・324の出土があり、動植物起因の撹乱により場所を動かされた可能性がある。

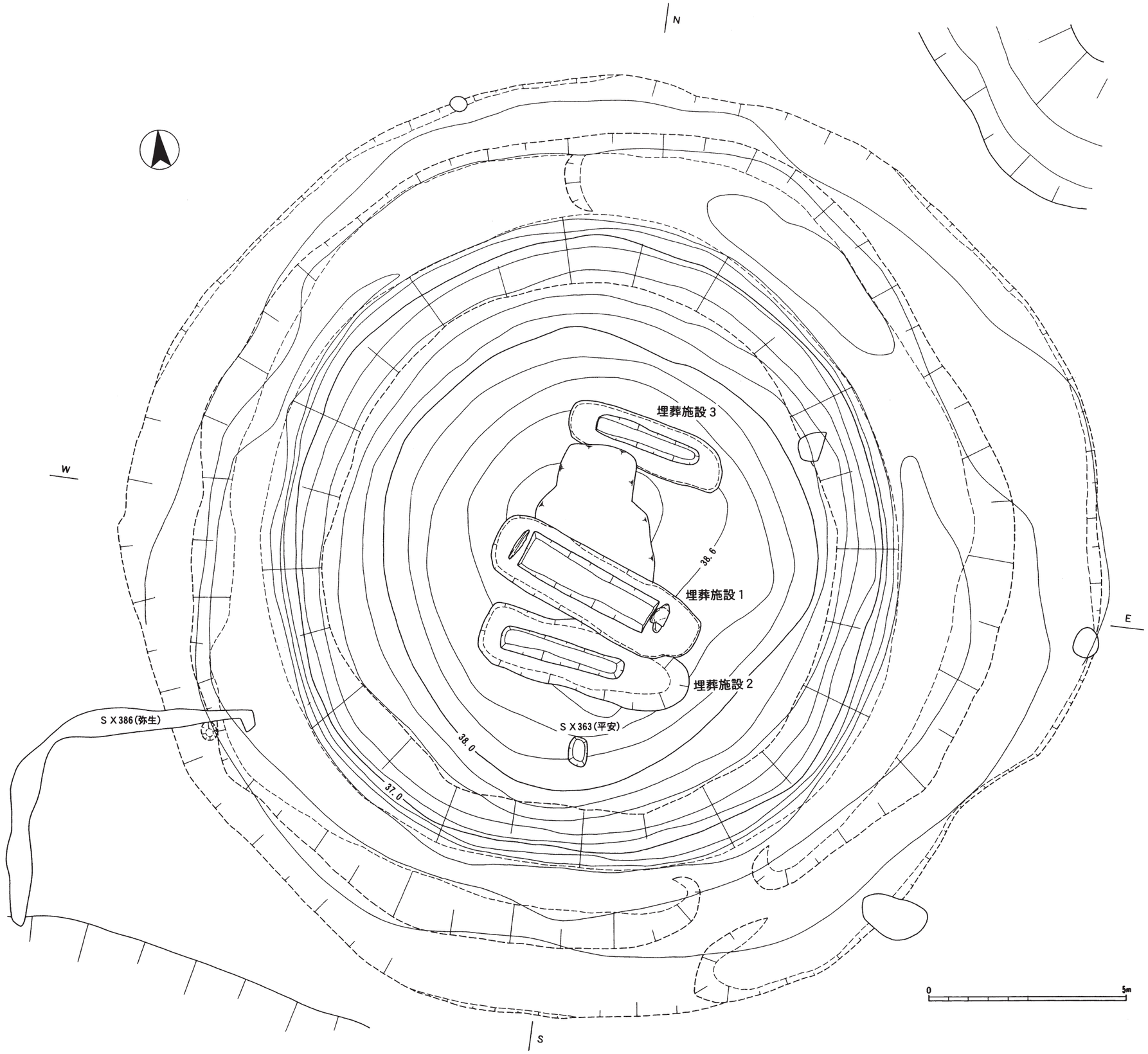
ｄ　古墳の時期

10号墳における埋葬は出土した須恵器から、田辺編年によるＴＫ10型式併行の時期に埋葬施設２にはじまり、主軸として埋葬施設と同じである埋葬施設３、そして板石を有する埋葬施設１がＭＴ85型式併行と考えられ、この時期まで埋葬が行われていたものと考えられる。

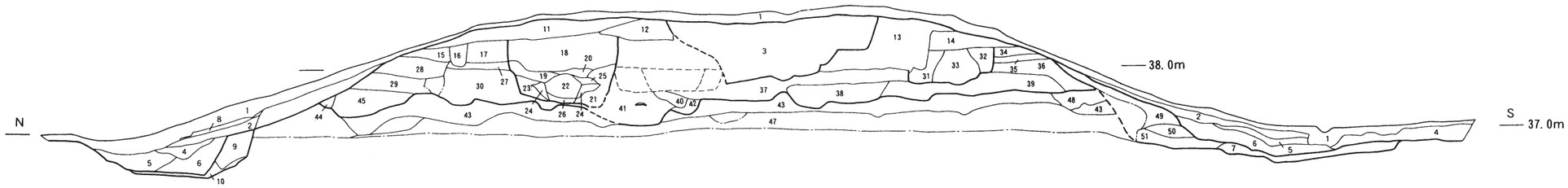
(大川)

〔註〕

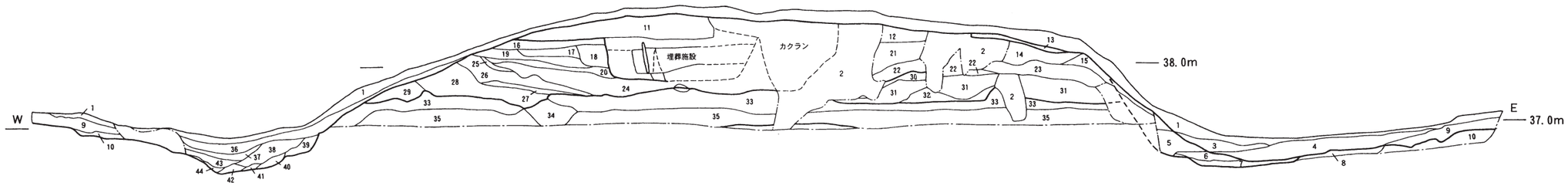
(1)　赤色顔料の部分の土壌をサンプル採取し、奈良大学において蛍光Ｘ線により分析をしたところ、鉄分のピークはみられるが、水銀のピークは検出されなかったため水銀朱ではなく、ベンガラであることを確認した。



第39図　小谷10号墳　墳丘測量図（１：100）



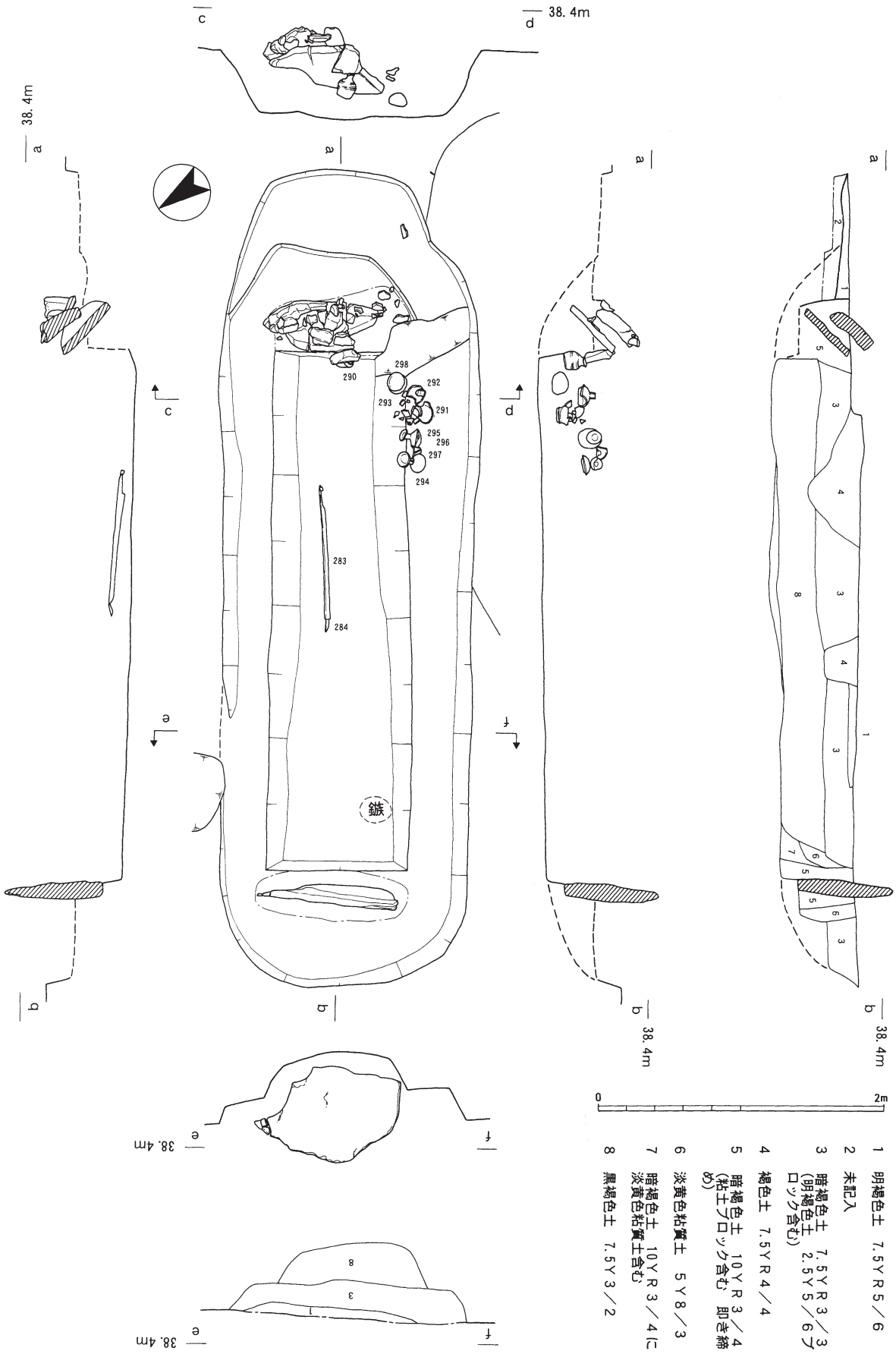
1　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４（表土）
2　オリーブ褐色土　2.5Ｙ４／４
3　カクラン
4　黄褐色土　10ＹＲ５／６
5　黒色土　10ＹＲ２／１
6　黒褐色土　10ＹＲ３／１
7　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２
　明赤褐色　５ＹＲ５／６　粒含む
8　黒色土　N1.5／０（表土）
9　黒色土　10ＹＲ２／１
10　明赤褐色粘質土　５ＹＲ５／８
11　明褐色土　7.5Ｙ５／６　黄黒色ブロック少し含む
12　褐色土　10ＹＲ４／４
13　カクラン
14　灰黄色土　2.5Ｙ６／２
15　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　黄色ブロック含む
16　暗褐色土　10ＹＲ２／３
17　黒褐色土　10ＹＲ３／１　黄色ブロック含む
18　暗褐色土　10ＹＲ３／４　黄色ブロック含む
19　黒色土　Ｎ２／０
20　黒褐色土　10ＹＲ２／２
21　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／６　粒含む
22　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　橙色　7.5ＹＲ６／６　粒含む
23　未記入
24　褐色土　10ＹＲ４／６
25　黒色土　Ｎ２／０
26　黒褐色土　３／２
27　黒褐色土　10ＹＲ２／３　黄色ブロック含む
28　暗褐色土　10ＹＲ３／４
29　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２
30　黒褐色土　10ＹＲ３／２　明黄褐色　10ＹＲ６／８
　ブロック含む
31　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３　橙色ブロック含む
32　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色ブロック含む
33　埋葬施設３棺内
34　暗黄灰色土　2.5Ｙ５／２
35　橙色土　7.5ＹＲ６／８　にぶい黄橙色土含む　やや粘性あり
36　黒色土　Ｎ２／０　橙色ブロック含む
37　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色、黒褐色ブロック含む
38　黒褐色土　7.5ＹＲ３／１　橙色　7.5ＹＲ６／６　粒含む
39　明黄褐色土　10ＹＲ６／８　黒色土含む
40　黒色土　7.5ＹＲ２／１
41　黒色土　10ＹＲ２／１
42　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　暗橙色粘質ブロック含む
43　黒色土　Ｎ２／０
44　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２
45　オリーブ黒色土　7.5Ｙ３／１
46　オリーブ黒色土　10Ｙ３／１
47　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３
48　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　明黄褐色　10ＹＲ６／６　ブロック含む
49　オリーブ黒色土　５Ｙ３／１
50　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む
51　黒色土　N1.5／０　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック含む



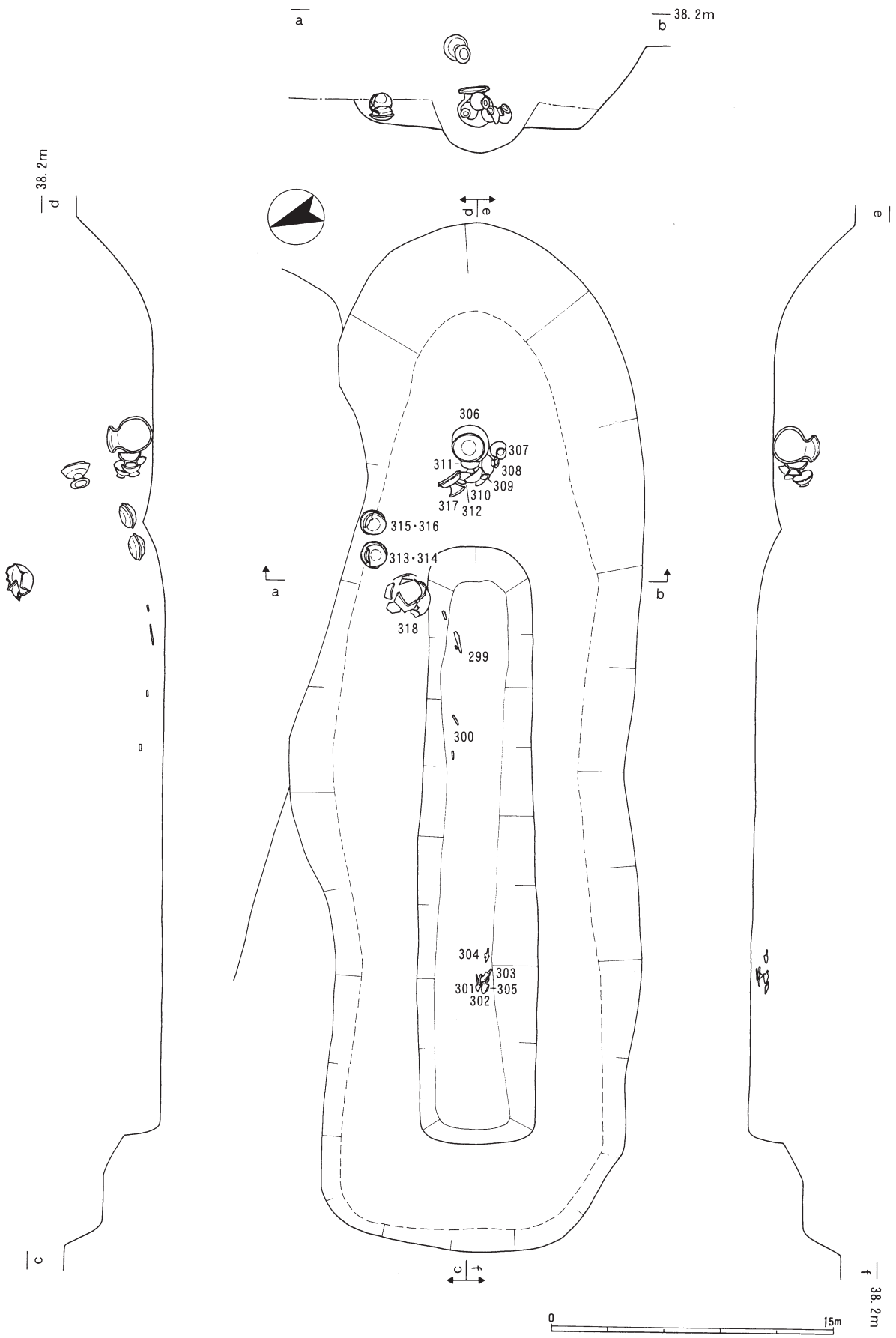
1　暗灰黄色土　2.5Ｙ４／２（表土）
2　カクラン
3　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２
4　黄褐色土　2.5Ｙ５／３（須恵器を含む）
5　黒色土　2.5Ｙ２／１
6　オリーブ黒色土　５Ｙ３／１
7　橙色粘質土　５ＹＲ７／８　炭粒含む
8　橙色土　7.5ＹＲ６／６　やや粘質
9　黄灰色土　2.5Ｙ４／１（旧表土）
10　橙色土　7.5ＹＲ６／８（地山）
11　未記入
12　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４
13　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
14　黒色土　7.5ＹＲ２／１
15　暗褐色土　10ＹＲ４／６
16　未記入
17　明黄褐色土　10ＹＲ６／６　黒黄色ブロック含む
18　黒色土　2.5Ｙ２／１
19　黒色土　５ＹＲ1.7／１　黄色ブロック少し含む
20　明褐色土　7.5ＹＲ５／８
21　明黄褐色土　10ＹＲ６／６
　黄褐色　2.5Ｙ５／３　ブロック含む
22　黄褐色土　10ＹＲ５／６　灰黄褐色土　10ＹＲ５／２　含む
23　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３
24　褐色土　7.5ＹＲ４／６
25　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２
　にぶい黄褐色　10ＹＲ５／４　ブロック含む
26　灰褐色土　7.5ＹＲ４／２　黄褐色ブロック含む
27　橙色土　7.5ＹＲ６／８
28　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３　黄色ブロック含む
29　黒色土　2.5Ｙ２／１
30　黒色土　2.5Ｙ３／１
31　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　含む
32　橙色土　7.5ＹＲ６／８　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／６　含む
33　黒色土　7.5ＹＲ２／１
34　黒色土　7.5ＹＲ２／１　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　含む
35　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３
36　褐色土　10ＹＲ４／６　炭粒含む
37　暗褐色土　10ＹＲ３／３
38　黒褐色土　10ＹＲ３／２
39　黒色土　10ＹＲ２／１
40　灰褐色土　7.5ＹＲ４／２
41　橙色粘質土　５ＹＲ６／８
42　黒褐色土　10ＹＲ３／２
　明赤褐色　５ＹＲ５／６　粒含む
43　黒褐色土　10ＹＲ３／１
44　黒褐色土　2.5Ｙ３／２

0　4m

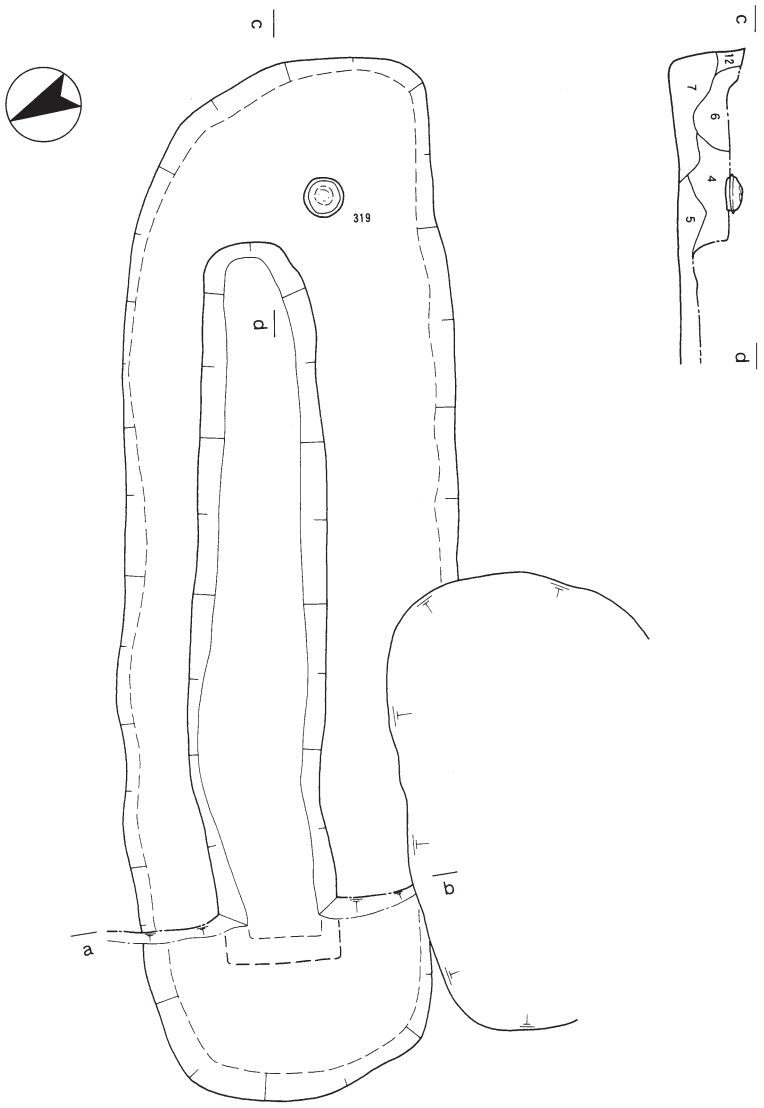
第40図　小谷10号墳　墳丘土層断面図（１：80）

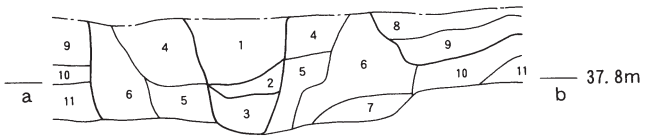


第41図　小谷10号墳　埋葬施設1　平面・断面図（1：40）



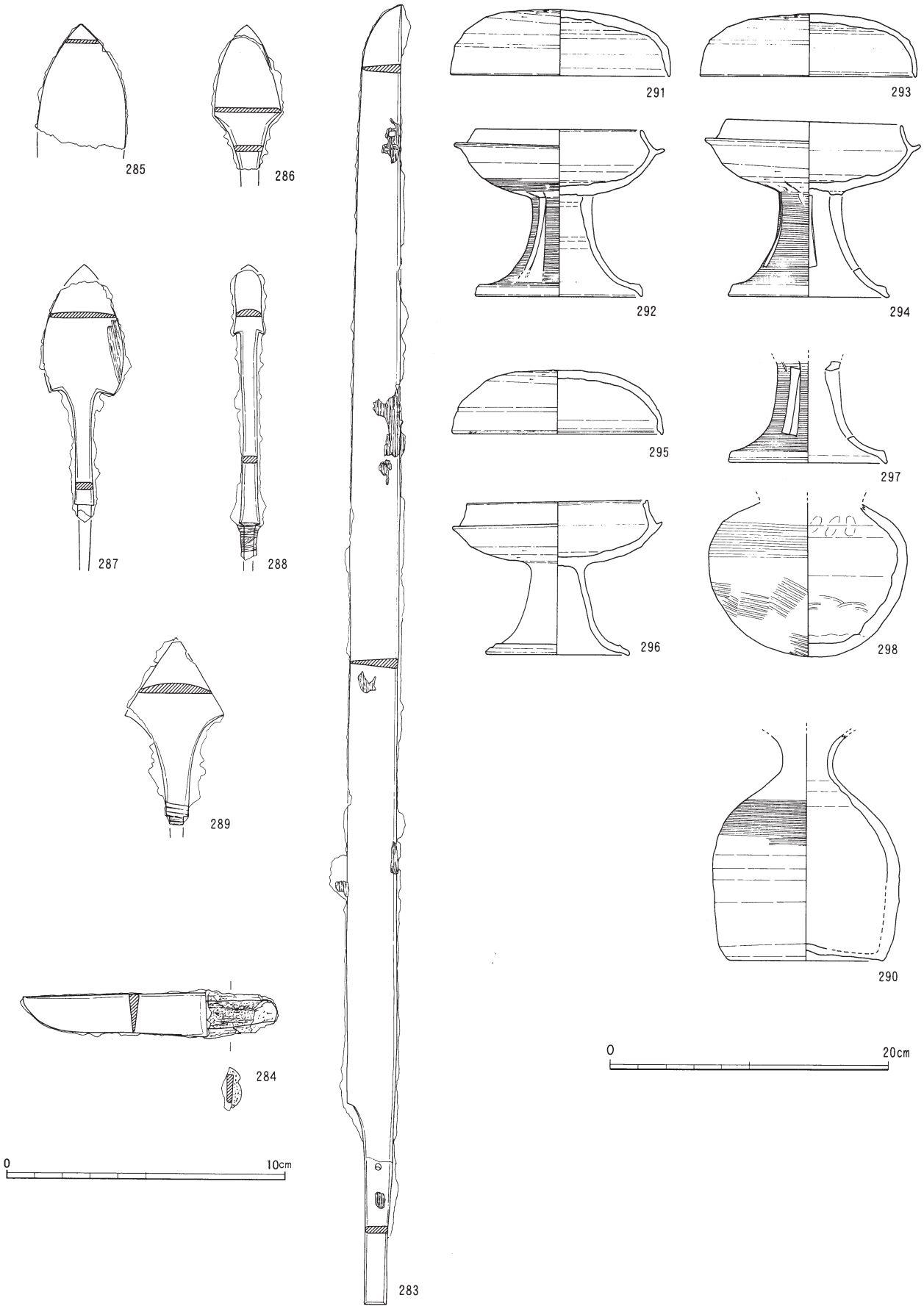
第42図　小谷10号墳　埋葬施設２　平面・断面図（１：30）



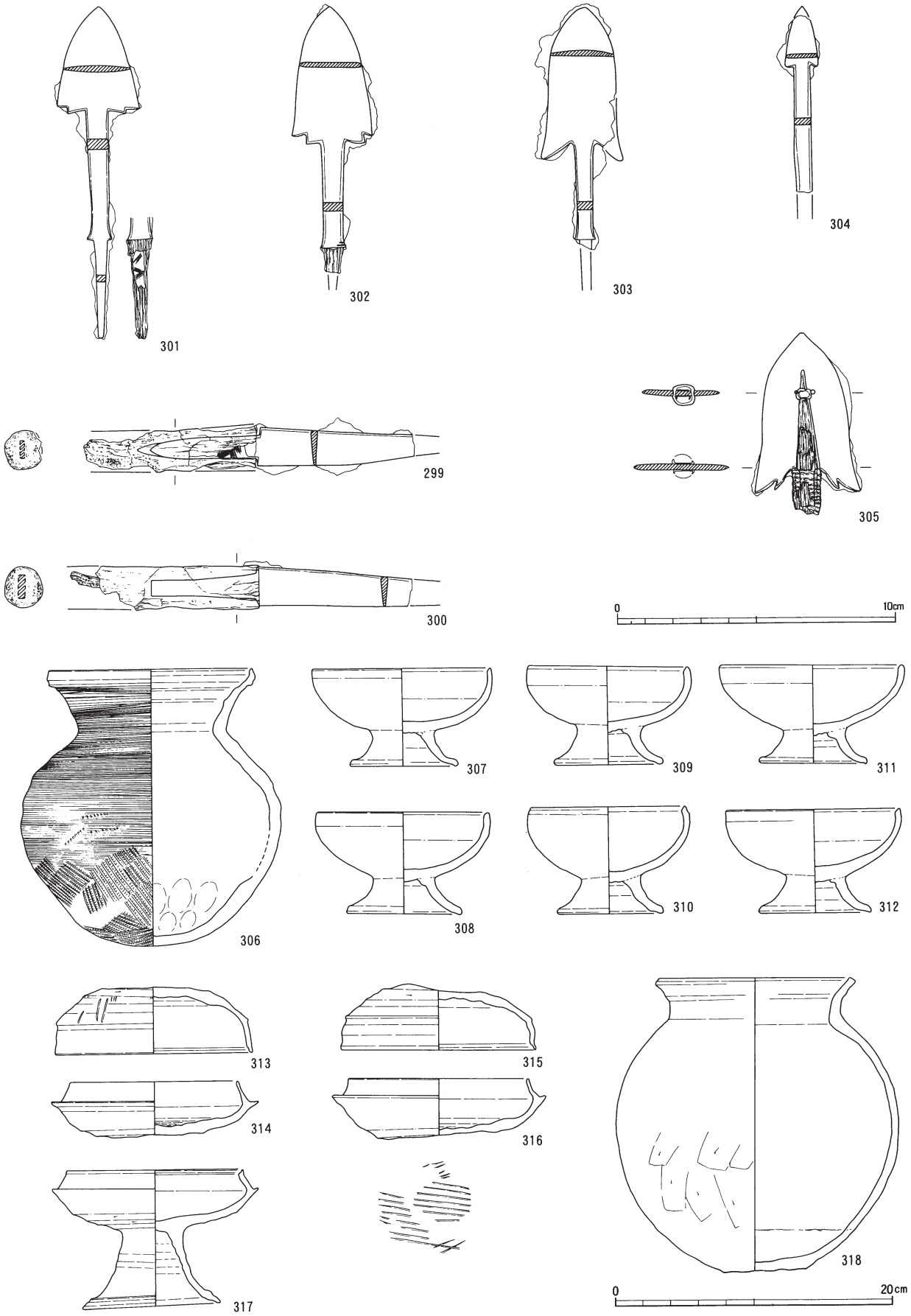


1　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色ブロック、炭含む
2　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３　細かい橙色ブロック含む
3　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４　細かい橙色ブロック含む
（棺埋土）
4　褐色土　7.5ＹＲ４／４　細かい橙色ブロック含む
5　明黄褐色土　10ＹＲ６／８　黒色土ブロック含む
6　暗褐色土　10ＹＲ３／３　細かい橙色ブロック含む
7　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４　細かい橙色ブロック
明緑灰シルトブロック含む
8　黒褐色土　10ＹＲ３／１
9　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２
10　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３
11　黒褐色土　10ＹＲ３／２　細かい橙色ブロック含む
12　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２

第43図　小谷10号墳　埋葬施設３　平面・断面図（１：30）

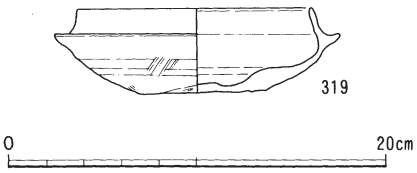


第44図　出土遺物実測図　小谷10号墳（1）　埋葬施設1　（284～289は1：2　他は1：4）

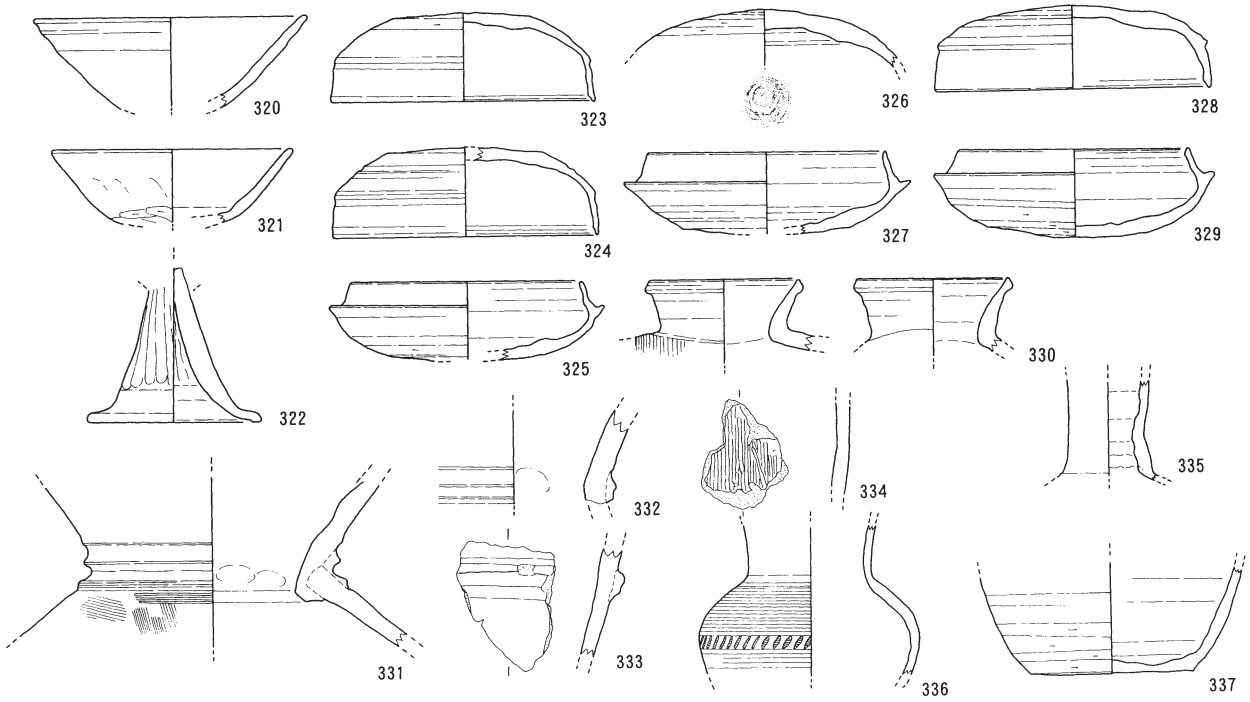


第45図　出土遺物実測図　小谷10号墳（2）　埋葬施設２　（１：４　鉄製品１：２）

10号墳埋葬施設３（319）



10号墳墳丘・その他（320～337）



第46図　出土遺物実測図　小谷10号墳（３）　埋葬施設３ほか（１：４）

6　小谷11号墳

a　墳丘・関連施設

①　墳丘

丘陵東端の東支群の中央やや南寄りに位置し、天花寺城跡の土塁が墳丘の北側に付設されている。墳丘の東側裾は事業地内に収まるものの、周溝の外縁は調査対象外である。

墳頂の標高は37.8mで、土塁の頂部よりわずかに高くなっている。また、この土塁の北側に堀ＳＤ366が開削されているが、この堀の開削時に墳丘の盛土はごくわずかに削られており、堀の南側法面で墳丘盛土の土層断面が露出した。土塁の付設により墳形が方形であるかのように思われたが、調査の結果、直径は13.5～14.0mの円墳であることが明らかとなった。

前述のように天花寺城の構築の際、墳丘の北側裾部と周溝の北側を土塁および堀によって損壊を受けるが、古墳墳頂部を平坦に削平されるものの、その掘削は墳丘盛土の表層盛土以下へは達しておらず、ごくわずかであるが表層盛土の残存を確認している。この削平された平坦部には柱穴等の遺構は認められず、施設を伴う利用をされてはいないものと考える。

墳丘は、ほぼ中央を十文字に直交する軸線で、土層の確認を行い、盛土により行われていたことを確認した。黒ボク土の上面を整地したのち、地山の橙褐色土のブロックを含んだ黒ボク土で周堤状に盛ったのち、同橙褐色土の粒を含んだ盛土を平均厚30㎝で積み上げていたものとみられる。

盛土の厚さは約1.0mで、他の墳丘と比べると、黒ボク土の割合が多く、粘性の極めて少ない土質であり、土層境界の見極めが困難であった。表層として地山に類した黄褐色のやや粘質の土で盛土されたものであろうが、中世の天花寺城に関わる土塁と堀を築いた際、古墳表層盛土の一部が削平され、堀の開削時に達したより下層の地山である明橙褐色の粘質土が古墳表層にすりつけてあることが確認できた。

盛土時に特に叩き締めた痕跡や炭溜まりは見られなかった。また盛土を行う前、各層の盛土時、主体部設置前に土器などを用いた祭祀の痕跡は認められなかった。

②　周溝

周溝については、調査前の踏査の段階でその凹みが確認でき、土塁への取付き部分以外は周溝が巡ることが予測された。

調査の結果、周溝は墳丘側で深く、外縁で浅い段をもつ２段構成であることがわかった。また、東側に比べて西側の方がやや深くなっていた。周溝の幅は約3.5～4.0mである。天花寺城の土塁の下でも延長が確認できたが、堀によって開削された部分については、堀北側の法面へもその延長は認められなかったことから、全く重複していて破壊されたものと考えられ、この撹乱がなければ全周巡っていたものと思われる。

周溝内からは、須恵器横瓶の破片と杯身の1/2個体の破片が出土したのみである。周溝の西側、深い段と浅い段の変換点で土壙墓と思われる長楕円形の遺構ＳＸ354が検出された。

b　埋葬施設

埋葬施設は、墳頂から約45㎝下がった、墳丘の中央からやや北寄りのところで検出した。墳丘の西半では、埋葬施設の輪郭が不明瞭で、後述の埋葬施設２の須恵器１の出土によって、かろうじて輪郭を捉えることができたものである。

埋葬施設は２基確認できた。北西―東南方向の主軸をもち、２基は南北に並列し、相互の重複関係は認められなかった。２基の埋葬施設のうち、南側の埋葬施設２が墳丘中央に位置し、それに重複せず北側に埋葬施設１を並列したため埋葬施設が北に偏った感を受ける。埋葬施設２の南側にももう１基を接地する余地は残されており、可能性は考えられるものの、この空閑地で埋葬施設は確認できなかった。

①　埋葬施設１

古墳の墳の中央やや北寄りの位置で検出した。南側の埋葬施設２とは重複関係はなく、北西―東南の主軸を揃えて並列するものである。

墓壙掘形の規模は、短軸3.0m、長軸については西半で輪郭が不明瞭で、東半で2.5mは検出できたものの、全長は確認できていない。しかし棺跡としては全長検出できており、東半で棺跡から掘形の間

を約1.0mとっていることなどから、東端から6.0m程度の規模で存在したものと推定できる。墓壙は最後の黒色土の盛土層上面から掘削をはじめており、60～70㎝の深さまで掘った後、棺とその周囲を叩き締める短軸1.3m×推定長軸4.7mの範囲をさらに30～50㎝程度掘り下げる２段構成で掘削をされていることが土層から観察できる。

墓壙内の埋土は、黒褐色土に橙褐色土の粒がブロック的に混じったもので、棺跡の周囲25～30㎝幅で、また棺底も厚8㎝程度の泥岩の砕石を混入した土で固く叩き締めた痕跡が認められた。

棺跡の規模は、短軸0.8、長軸4.1mで、土層断面の観察から木棺の形状は割竹形木棺で、直葬されたものと思われる。また、他の埋葬施設でみられる板石を木棺木口面に立てた痕跡は当埋葬施設ではみられない。

木棺内の埋土は黒褐色土で、掘形に比べ橙褐色土は粒で入るものであった。

埋葬施設に伴う遺物としては、墓壙掘形東端で須恵器の杯身蓋セット１が、また棺内の東端付近で、須恵器杯身１、瑳１が出土した。墓壙の杯身蓋セットは蓋をした状態で出土し、棺内の須恵器杯身は正位で、瑳は口縁を西に向けた横転位で検出したものである。棺内の埋土をふるい掛けしたが、玉類は検出されなかった。

②　埋葬施設２

埋葬施設１の南に並行し、11号墳の墳丘中央に位置するのが埋葬施設２である。

墓壙の掘削開始は埋葬施設１と同様で、黒褐色土の最終盛土層上面から行っている。掘形の規模は、短軸1.7m、長軸5.1mの隅丸長方形である。掘形の掘削の仕方は埋葬施設１とは異なり、墓壙内全体を棺を据える深さまで掘り下げ、棺が設置される底部に泥岩の砕石を混入した土で薄く叩き締めた後に棺を据え、その南北両側面のみ同様の土で叩き締めを行い棺の両木口面側では叩き締めの痕跡が認められなかった。墓壙内の埋土は黒褐色土に橙褐色土がブロックで混入したものであった。

棺跡の規模は、短軸0.7m、長軸3.3m、土層断面の観察から割竹形木棺による直葬であったものと思われる。この埋葬施設にも棺の木口側に板石を設置した痕跡は認められなかった。棺内の埋土は黒褐色土に橙褐色土の粒が混入したものであった。

埋葬施設に伴う遺物に、墓壙内の東木口外側と棺内の副葬遺物とがある。棺外の墓壙東端のものには、須恵器台付壺１、杯身どうしによる蓋杯セット１、土師器椀が７、鉄鏃１があった。須恵器の台付壺を木口東端に据え、その北側で須恵器壺の体部にもたれ掛けさせるように杯身どうしの蓋身セットが置かれ、土師器椀は壺の北東側に358以外は２個体ずつのセット関係で副えられたようである。また鉄鏃は須恵器壺の東南、土師器椀358の南側に、鏃身の切先を東側に向け出土したものである。一方、棺内では須恵器の平底壺342と棺内中央の埋土をふるい掛けしたところ玉類５点が出土した。

c　出土遺物

①　埋葬施設１

棺外墓壙内からは須恵器の杯身蓋セット（340・341)、棺内から須恵器杯身（338)、瑳（339）が出土している。

須恵器杯身(338)　棺の東端近くで正位で後述の瑳とともに出土したもので、蓋は伴わなかった。口径は12.0前後、器高5.0㎝の完形である。ロクロケズリは底部全体のの約1/2でとどまる。身の内部には何も含まれていなかった。

須恵器瑳(339)　杯身（338）とともに出土した。瑳は西へ口縁を向けた横位で出土している。口縁直下に12本単位の波状文と、口縁端部にも現状で９本確認できる波状文があるが、端部が擦り切れている。口縁端部内面にはケズリ痕跡が１段確認できることから、元はさらに外反して端部に至った形状であったものを現在の形に削って成形したものと考えられる。体部に径1.7㎝の透かし孔を一方向にもち、肩部の透かし孔周囲に５本／単位の刺突が１条めぐる。

底部は平行タタキで成形したのち、透かし孔の下の幅約3.0㎝までの間をロクロケズリで仕上げる。部分的に自然釉がかかるが、焼成はやや軟質である。

須恵器杯身蓋(340・341)　340は、一部欠損するが、口縁端部に面をもち、焼成良好で外面一部に自然釉がかかる。また341も口縁端部に面をもち、これも全体の1/3を打ち欠いている。

② 埋葬施設２

鉄鏃(348)　残存長7.6㎝、平造の圭頭鏃で頸部途中より欠損している。　(山岡)

須恵器平底壺(342)　棺内西端付近で正位で出土したもので、口縁部は頸部以上を打ちかかれており、棺・墓壙埋土から破片は出土していない。底部外面はオサエでやや上底気味に仕上げ、底部からの立ち上がりをロクロケズリ、体部上半にカキメを施し、肩部はロクロナデで、明瞭に肩の平坦部をつくる。内面は横方向のナデで仕上げており、頸部の径は約3.5㎝である。焼成は軟質で、全体的にやや白っぽい紫灰色である。

須恵器台付壺(349)　棺の東端、外側でやや棺に寄りかかるように正位で出土したもので完形である。口径約11.6㎝で径13.6㎝の鍔をもち、径約20.2㎝の高台を貼りつけ、器高29.2㎝である。体部上半は平行タタキ、下半は高台の貼付け部を除いて同単位の工具により格子目状にタタキを施す。口頸部は貼付けにより接合されていて、ロクロナデで成形される。体部内面は下半が工具による斜めのナデ上げ、上半は上方向へ向かってナデ上げている。焼成は軟質で灰白色である。

須恵器杯身(350･351)　台付壺（349）の胴部北側に副える状態で、杯身どうしの口縁をつき合わせた形で出土したものである。口径はほぼ同寸で蓋（350）・身（351）ともに完形である。その内部には土が充填されていたが、身（351）の土を除去すると中に二枚貝の殻の破片が少量確認できた。350・351ともに、底部から1/3をロクロケズリする。副葬土器内に貝を入れた類例として、上野市高猿地内古墳[1]、七ツ塚古墳[2]でハマグリ等が入れられた例が報告されている。11号墳例では残存するのは極小片であり、アサリ大以上の二枚貝のものとしか判別できない。

土師器椀(352～358)　須恵器台付壺の北側から墓壙東端に至るまでの間に置かれたもので、352・353は棺の方にやや内傾するが正位で、また358は須恵器台付壺（349）の東側に横位でいずれも完形で出土した。その他も割れてはいるものの副葬原位置を保っているものと考えられる。法量も同規模で、器壁は薄い。

玉類(343～347)　343・344は滑石製かと思われる臼玉、345～347は管玉で碧玉製と思われる。いずれも棺内中央埋土をふるい掛けして検出したもので、この５点のほかには見つかっていない。臼玉（343）は穿孔は両方向から行っている。また臼玉（344）は一回り大きく、穿孔は片方向からのみ行い皮一枚手前で止め押圧で開けていることが観察できる。臼玉は２点とも孔面から側面への角が丸く成形されている。管玉は３点とも径・長さともに大きさが異なるが、穿孔径は同じで、穿孔方法も一方向からのもので、片側の穿孔面では中心を大きく外れる。

③ 11号墳周溝遺物

須恵器杯身(359)　周溝の西側から約1/2個体が出土したもので、ロクロケズリは底部から1/3ほどにとどまり、ロクロナデの一部にハケメが薄く残存する。内面見込み部には、同心円のタタキ目が残る。

須恵器横瓶(360)　周溝の南側から出土したもので、全体の約1/4個体が残存する。体部下半をロクロケズリ、上半にカキメを施し、口縁部をつけたロクロナデがわずかに観察できる。頸部の径から胴長約21.8㎝、胴径約17.4㎝に推定復原できるもので、焼成は灰白色で硬質である。

d　古墳の時期

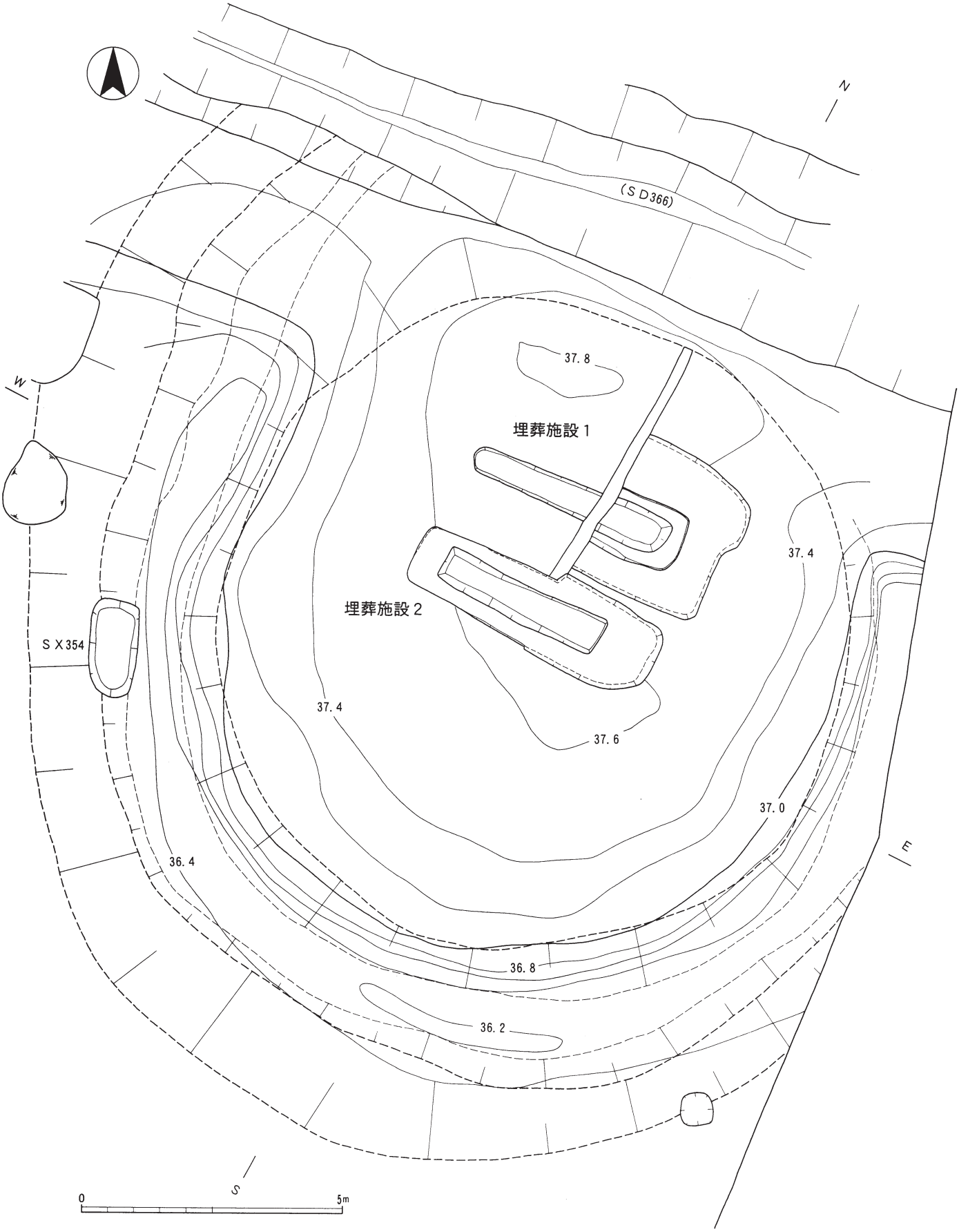
11号墳の須恵器には埋葬施設１と２の間に時期差がある。出土須恵器からみると、他の古墳とはやや先行する13号墳の埋葬施設に引き続いて、田辺編年によるＭＴ15型式併行時期に11号墳の埋葬施設１が、そして板石を有する埋葬施設の時期には埋葬は行われず、今回調査した古墳の中では最も後出の、土壙墓ＳＸ350・381も造営されるＴＫ43型式併行時期になって埋葬施設２が造られたものと考えられる。

(大川)

〔註〕

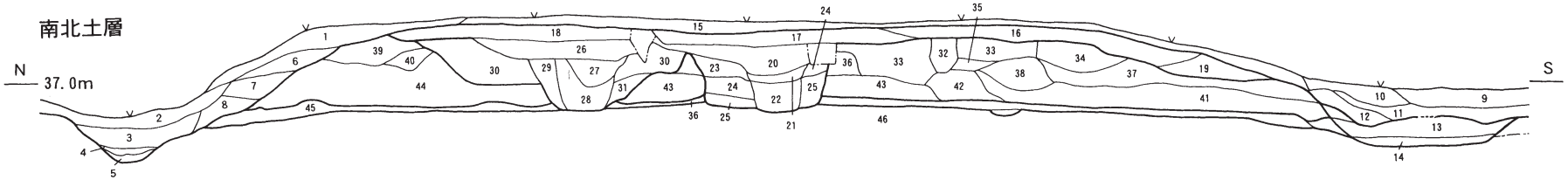
⑴　阿山郡友生村喰代字高猿所在の通称「王塚」から出土須恵器に４個体にハマグリ・アワビ・カレイ・茸の笠裏が分けていれられていた例がある。
大西源一「伊賀の遺跡遺物（六)」(『考古学雑誌』第２巻第９号　1954年)

⑵　名賀郡滝川村長屋所在の七ツ塚古墳出土須恵器杯蓋にハマグリ・サソリガイ等20入る例がある。
「古墳の時代」三重県教育委員会（『三重考古図録』　1954年)



第47図　小谷11号墳　墳丘測量図（1：100）

南北土層



1　橙色粘質土　５ＹＲ６／８に黒褐色土 10ＹＲ３／２　ブロック混

2　表土　黒褐色土　2.5Ｙ３／１

3　明褐色土　7.5ＹＲ５／６

4　暗灰色土　Ｎ３／０　炭粒混じり

5　にぶい褐色土　7.5ＹＲ５／４

6　灰黄褐色土　10ＹＲ３／２

7　黒褐色土　10ＹＲ３／２

8　未記入

9　表土・にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４

10　盛土流出土・黄褐色土　10ＹＲ５／６

11　包含層・暗灰黄色土　2.5Ｙ４／２

12　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）オリーブ黒色土　５Ｙ３／１からの流出土　オリーブ黒色土５Ｙ３／２

13　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　炭粒混じり

14　赤褐色粘質土　2.5ＹＲ４／８

15　明黄褐色土　10ＹＲ７／６

16　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）黒褐色土　2.5Ｙ３／２

17　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）

18　暗褐色土　7.5ＹＲ３／４

19　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）オリーブ黒色土　５Ｙ３／１

20　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４

21　黒灰褐色土

22　暗褐色土　10ＹＲ６／４

23　黒ボクブロック含む暗褐色土 10ＹＲ　３／３

24　暗褐色土　10ＹＲ３／３

25　明黄褐色ブロック含む黒褐色土

26　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４

27　暗褐色土・明赤褐色粒含む 10ＹＲ　４／３

28　暗褐色土　10ＹＲ３／３

29　黄褐色・淡青灰色ブロック含む暗褐色土

30　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３

31　暗褐色土　10ＹＲ３／３に明褐色 7.5ＹＲ５／６　粒混り

32　黒色土　2.5Ｙ２／１　黒ボクブロック層

33　明黄褐色土　10ＹＲ７／６＋灰黄褐色土 10ＹＲ５／２　黄色＋灰色＋黒褐色ブロック層

34　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）黒褐色土　2.5Ｙ３／１

35　旧表土も黒ボク土による盛土（基盤）黒褐色土　2.5Ｙ３／１と黒ボクブロック層

36　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２

37　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）

38　黄褐色土　2.5Ｙ５／６

39　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２

40　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２と黄褐色 10ＹＲ５／８　ブロック層

41　旧表土黒ボク土　黒褐色土　2.5Ｙ２／１

42　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２

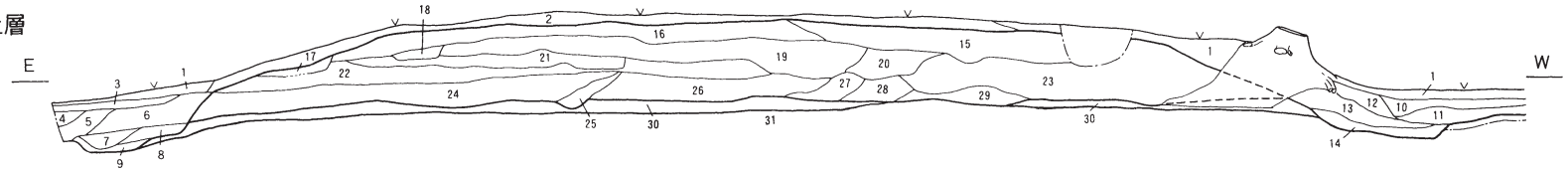
43　黒褐色土　10ＹＲ３／２＋黒色　10ＹＲ２／１　ブロック層

44　黒ボク、黒色土　2.5Ｙ２／１と黒褐色 2.5Ｙ３／２ブロック

45　黄褐色土　10ＹＲ５／６とにぶい黄褐色 10ＹＲ５／３　ブロック層

46　地山、橙色粘質土　５ＹＲ６／８

東西土層



1　表土　黒褐色土　５ＹＲ２／１

2　明黄褐色土　10ＹＲ６／６

3　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）からの流出土　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２

4　包含層？　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４

5　包含層　暗灰黄色土　2.5Ｙ４／２

6　旧表土黒ボク土　黒褐色土　2.5Ｙ２／１

7　明褐色粘質土　7.5ＹＲ５／６

8　褐灰色土　7.5ＹＲ４／１

9　明褐色粘質土　7.5ＹＲ５／８

10　黒褐色土　10ＹＲ２／３　スミ片多

11　包含層・暗赤褐色土　５ＹＲ３／２

12　黒褐色土　10ＹＲ３／１

13　黒褐色土　2.5Ｙ３／１

14　黒褐色土　2.5Ｙ３／１＋7.5ＹＲ５／６ 明褐色土　ブロック層

15　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２

16　旧表土の黒ボク土による盛土（基盤）

17　盛土・明黄褐色土　10ＹＲ７／６＋暗褐色

18　黄橙色粘土ブロック・橙色土　7.5ＹＲ６／８

19　暗褐色土・にぶい黄褐色土 10ＹＲ４／３

20　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３

21　明黄褐色土　10ＹＲ７／６＋灰黄褐色土　10ＹＲ５／２　黄色＋灰色＋黒褐色ブロック層

22　黒ボク土　黒褐色土　10ＹＲ２／２

23　黒ボク土　2.5Ｙ３／２と黒褐色土 2.5Ｙ３／１とのブロック層

24　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２

25　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　暗褐色＋暗黒色ブロック層

26　黒褐色土　10ＹＲ３／１

27　黒ボク土　2.5Ｙ２／１　ブロック

28　黒褐色土　2.5Ｙ３／２

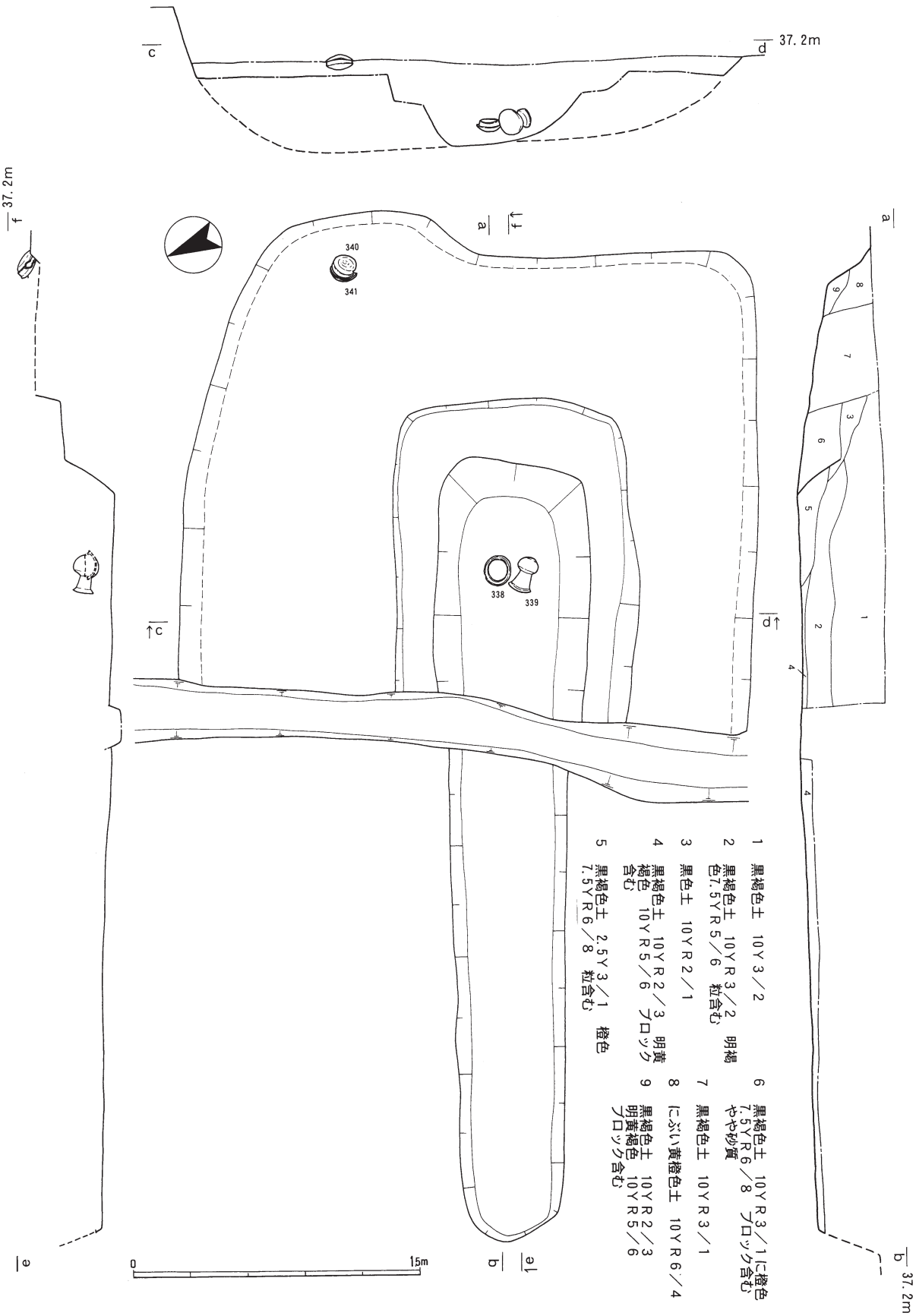
29　黒ボク土　2.5Ｙ２／１に明褐色粘質土　10ＹＲ６／８　ブロック混じり

30　黒ボク土　2.5Ｙ３／２と明黄褐色土 10ＹＲ６／６　ブロック層

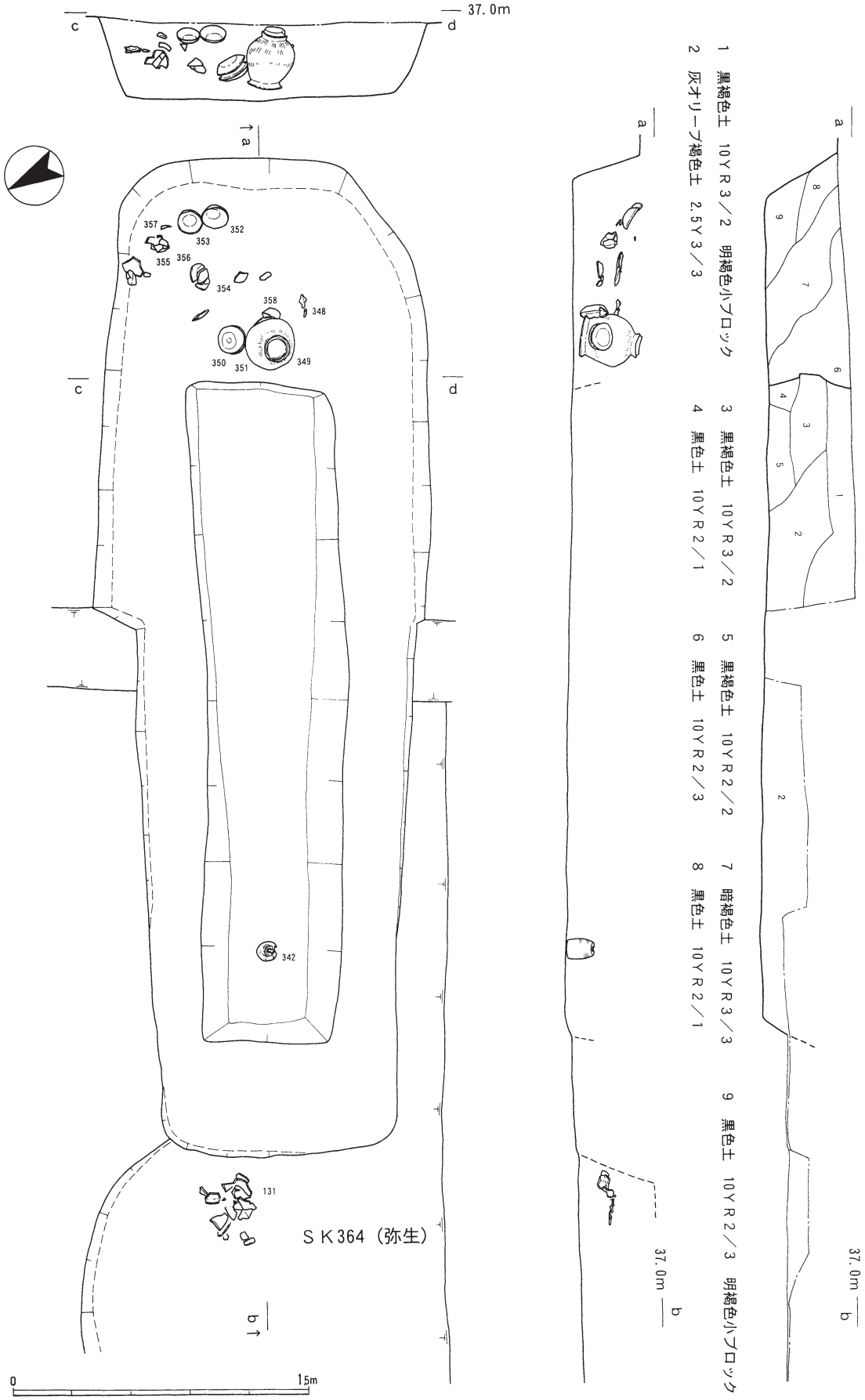
31　地山、橙色粘質土　５ＹＲ６／８

0　5m

第48図　小谷11号墳　墳丘土層断面図（1：100）

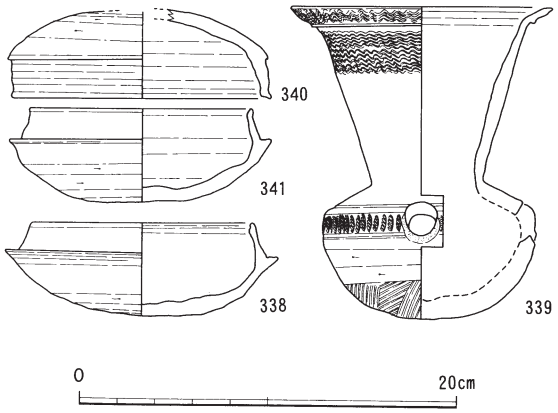


第49図　小谷11号墳　埋葬施設１　平面・断面図（１：30）

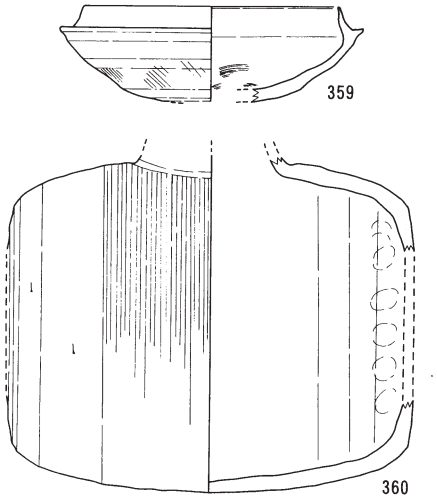


第50図　小谷11号墳　埋葬施設２　平面・断面図（１：30）

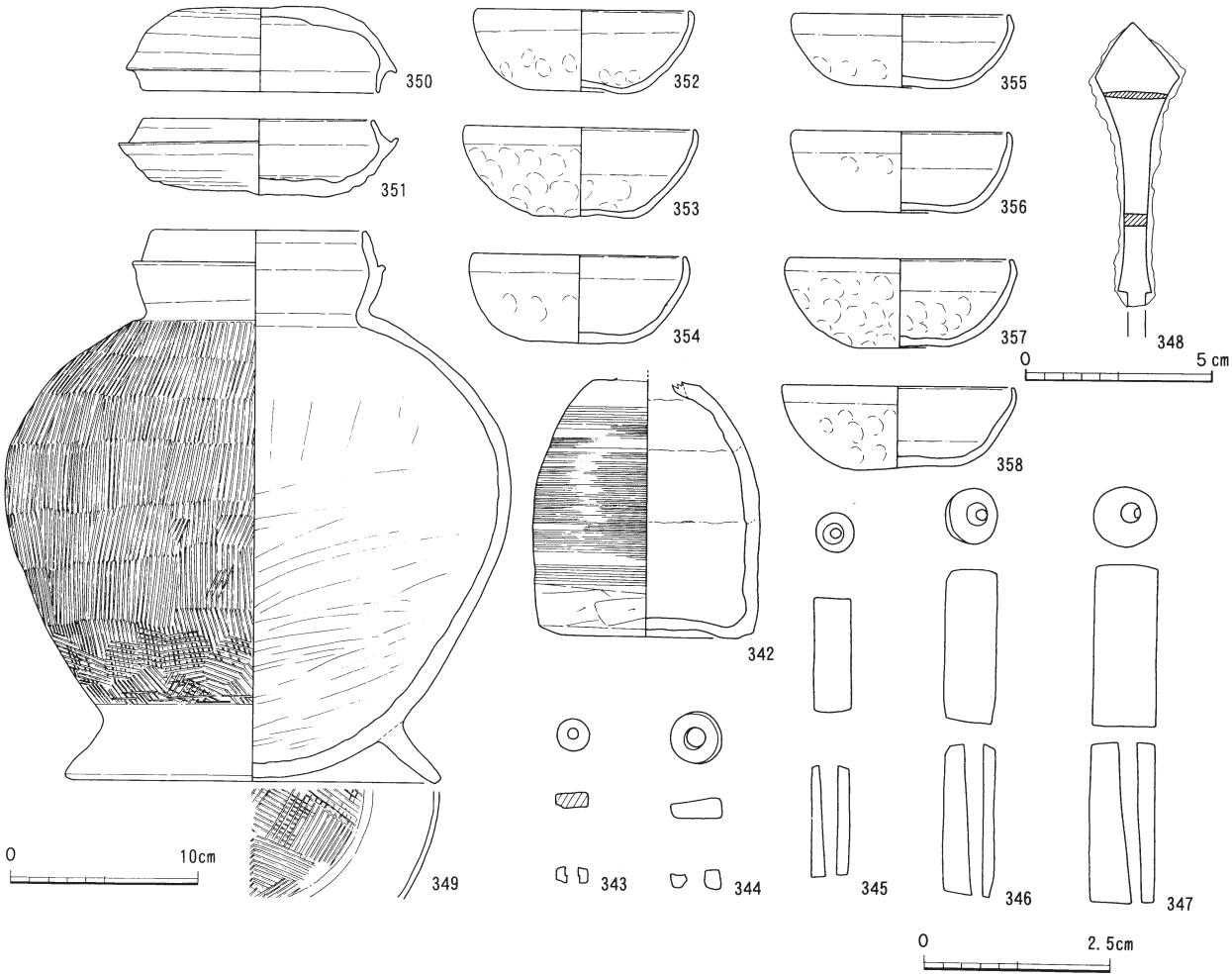
埋葬施設１（338～341）



11号墳　周溝（359～360）



11号墳　埋葬施設２（342～358）



第51図　出土遺物実測図　小谷11号墳（343～347は１：１　348は１：２　他は１：４）

7　小谷12号墳

a　墳丘・関連施設

①　墳丘

丘陵東端の東支群のうち、最も丘陵内部に位置する古墳で、11号墳の南西に築かれている。今回の調査は墳丘東半の一部である。12号墳墳丘南西裾部にある伏見稲荷社と古墳の南側にある稲荷社からへの参道により、墳丘・周溝が全体の約1/3ほど破壊されている現状であった。平成11年度の調査時点では、伏見稲荷社保存のため、工事による掘削は墳丘に及ばないことから、東半の墳丘測量と掘削される周溝のみ調査をしたが、その後工事の掘削工法検討の結果、墳丘の掘削が必要となってきたため、平成12年度において工事による掘削がおよぶ墳丘の東1/3を調査することとなった。この墳丘の東1/3の調査で墳丘盛土の確認が終わった時点でさらに工事変更がなされ、結局、墳丘の東1/2の開削が免れ得ない状況となったため、調査範囲を墳丘中央へ拡張して調査を実施したものである。

調査前の標高は38.3m、径16.4mの円墳と思われたが、調査後の測量で、径16.0mの円墳であることが明らかとなった。

墳頂部には、表面観察では盗掘坑は見当たらない。先述のように伏見稲荷社設置のために墳丘の南西裾が開削されており、当該場所の墳丘および周溝が破壊されている。

基盤は黒褐色土（黒ボク土）で、表土から約1.2m下がった面である。さらに表土から約1.5m下がると橙褐色土の地山に達する。

墳丘の土層は、事業計画線で切られる南北断面とそれに直交する東側のセクションベルトで断面の確認を行った。墳丘は盛土により成形されており、盛土厚は約1.0m、周辺も黒褐色土（黒ボク土）の堆積が厚いため、12号墳盛土も橙褐色土のブロックが混じるものの、粘性は少ない黒褐色系の土で盛土される。植物に起因する撹乱を受ける他はほぼ水平な互層で盛土されている。各層毎に叩き締められた痕跡や、盛土前あるいは埋葬施設の設置に際して土器などを用いた祭祀行為が行われた痕跡はなかった。

盛土内には、多くの弥生土器を含んでいた。また、東側周溝内に炭化材がつまった炭溜まりが見られた。

②　周溝

調査開始前の周溝は、腐葉土の堆積が厚く、また稲荷社裏の参道および伏見稲荷社の設置等などで後世の造作が加えられており、他の古墳に比べ周溝の有無・規模などが不明瞭であったが、墳丘北側ではその凹みがわずかではあるが観察できた。

調査の結果、周溝は幅4.0～4.5mで、南側は浅く段をもっていないが、北側へと徐々に深くなり土塁に面する側では明瞭な外縁が浅い２段構成の周溝となることがわかった。周溝内から出土した遺物は、周溝東から須恵器の杯身、土師器甕口縁破片などが出土している。このほか、９・10号墳のような周溝内に土器等を伴う当該時期の遺構はなかった。

b　埋葬施設

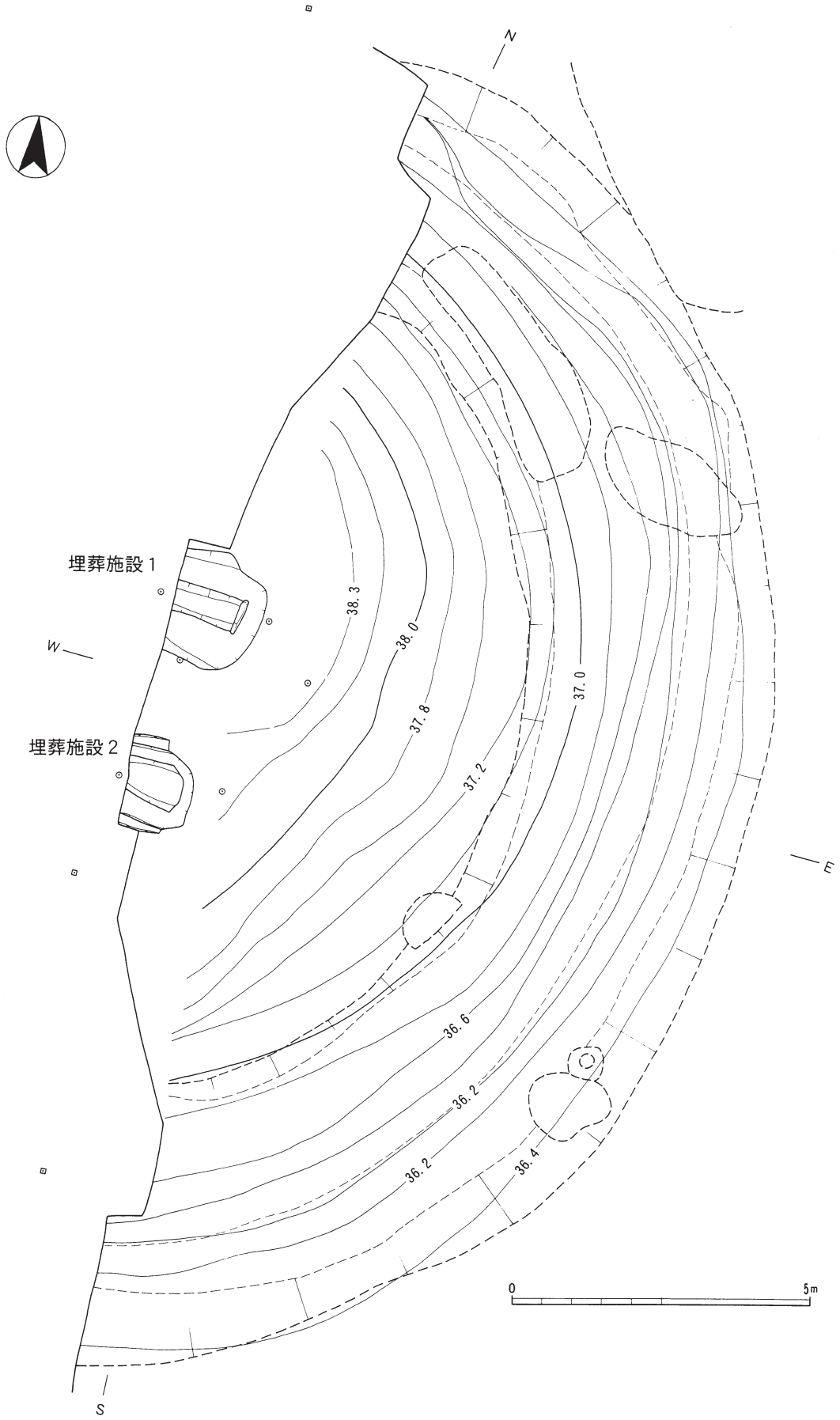
埋葬施設は、墳頂から0.3～0.4m下げたところから、後述の埋葬施設１の板石を検出して明かとなったものである。墳丘中央に東西に主軸をもつ２基の並列する埋葬施設には、重複関係は見られない。

①　埋葬施設１

古墳の墳丘中央やや北寄りのところに、東西に主軸をもつものである。

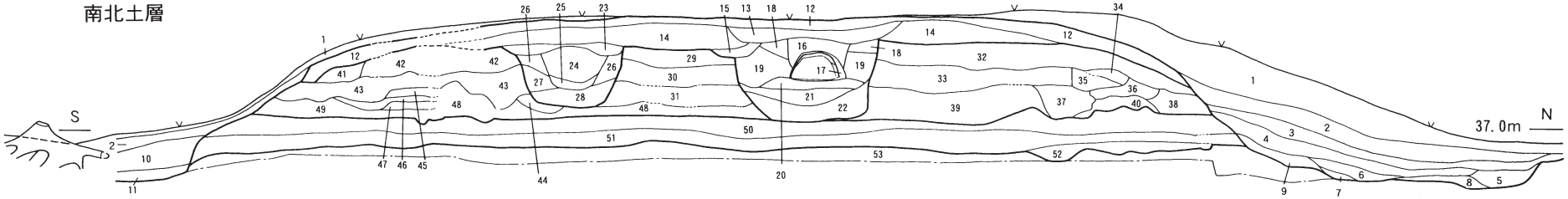
墓壙掘形は、黒褐色盛土層の最終盛土層上面から掘削をされている。墓壙の規模は短軸方向が1.8m、長軸方向については約1.5mまで確認できたものである。全体の約1/３ほどを検出できたものと思われるが、東半の状況から隅丸方形になると考えられる。墓壙内掘形の埋土は黒褐色土に褐色土粒がわずかに入るもので、棺跡と思われる範囲の埋土は黒色土で、その周辺に泥岩の砕石が入る黒褐色土による叩き締めが行われていた。

棺跡として短軸は0.6m、長軸方向は1.2mまでを確認しており、土層断面の観察から割竹形木棺の直葬によるものと考えられる。棺跡の東端には９号墳の埋葬施設２・10号墳の埋葬施設１同様の板石が立てられている。棺内縦断方向の土層断面の観察で、上記の２例と同様に、板石が直接棺に接して木口を塞いでいたものではなく、板石を黄褐色粘質土によって取り巻いており、この粘質土が棺に直接接してい



第52図　小谷12号墳　墳丘測量図（１：100）

南北土層



1 腐養土

2 暗オリーブ褐色土 2.5Y３／３（流出土）

3 にぶい黄褐色土 10ＹＲ５／３ 黄褐色、橙色ブロック含む

4 黒褐色土 2.5Y３／２ 橙色粒含む

5 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 灰黄褐色、橙色ブロック含む

6 暗褐色土 10ＹＲ３／４ 明褐色粒含む粘質土

7 黒褐色土 10ＹＲ２／２ 黒色 10ＹＲ２／１ブロック含む粘質土

8 明褐色土 7.5ＹＲ５／６ 粘質土

9 黒褐色土 10ＹＲ２／３ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／８ 含む

10 灰黄褐色土 10ＹＲ４／２（粘性弱い）

11 黒褐色土 10ＹＲ３／１（やや粘性あり）

12 黄褐色土 10ＹＲ５／６

13 褐色土 7.5ＹＲ４／４

14 黒褐色土 7.5ＹＲ３／１ 橙色小ブロック 7.5ＹＲ６／８ 含む

15 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 橙色粒含む

16 黒褐色土 7.5ＹＲ３／２

17 灰褐色粘質土 7.5ＹＲ４／２ 褐色土粒 7.5ＹＲ４／６ 含む

18 灰褐色土 7.5ＹＲ４／２ 褐色土 7.5ＹＲ４／４ 明褐色土 7.5ＹＲ５／６ 含む

19 褐色土 7.5ＹＲ４／４ 明褐色土 7.5ＹＲ５／６ 粒含む

20 褐色土 7.5ＹＲ４／４ ブロック 黒褐色土ブロック 10ＹＲ ３／１ 泥岩ブロック含む

21 明褐色土ブロック 7.5ＹＲ５／８ 黒色土ブロック 10ＹＲ２／１ 暗褐色土ブロック 7.5ＹＲ３／３含む

22 明褐色土ブロック 7.5ＹＲ５／８ 暗褐色土ブロック 10ＹＲ３／３ 含む

23 灰黄褐色土 10ＹＲ４／２ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／８ 黒色ブロック 2.5Y２／１ 含む

24 暗褐色土 7.5ＹＲ３／３ 黄橙色ブロック 7.5ＹＲ７／８ 含む

25 暗褐色土 7.5ＹＲ３／３ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／６ 黒色ブロック 2.5Y２／１ 含む

26 黒褐色土 10ＹＲ３／２ 橙色粒 7.5ＹＲ６／６ 含む

27 にぶい黄褐色土 10ＹＲ４／３

28 褐色土 10ＹＲ４／４ 橙色粒 7.5ＹＲ６／６ 黒色ブロック 2.5Y２／１含む

29 暗褐色土 10ＹＲ３／３ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／８ 含む

30 にぶい黄褐色土 10ＹＲ４／３ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／６ 含む

31 灰黄褐色土ブロック 10ＹＲ４／２ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／６ 黒色ブロック 2.5Y２／１ 含む

32 黒褐色土 7.5ＹＲ３／２ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／６ 黒色ブロック 2.5Y２／１ 含む

33 にぶい黄褐色土 橙色ブロック多く含む

34 にぶい黄褐色土 10ＹＲ５／３ 黄褐色ブロック含む

35 にぶい黄褐色土 10ＹＲ５／４ 細かい橙色ブロック含む

36 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 橙色ブロック若干含む

37 暗灰黄色土 2.5Y４／２ 橙色ブロック 黒ボク含む

38 暗オリーブ褐色土 2.5Y３／３ 細かい橙色ブロック含む

39 灰黄褐色土 10ＹＲ４／２ 橙色ブロック含む

40 黒褐色土 2.5ＹＲ３／２ 明黄褐色の大きなブロック含む

41 暗灰黄色土 2.5Y５／２ 黒褐色土含む 粘性弱い

42 褐色土 7.5ＹＲ４／３ 橙色ブロック 7.5ＹＲ６／８ 含む

43 暗オリーブ褐色土 2.5Y３／３ 橙色ブロック 砂利含む

44 暗褐色土ブロック 10ＹＲ３／３ 黒色土ブロック 10ＹＲ２／１ 含む

45 にぶい黄色土 2.5Y６／４ 橙色ブロック多く含む

46 オリーブ黒土 5Y２／２ 細かい橙色ブロック含む

47 黄灰色土 2.5Y４／１ 大きめの橙色ブロック含む

48 にぶい黄褐色土ブロック 10ＹＲ４／３ 橙色土ブロック 7.5ＹＲ６／８ 黒色土ブロック N２／０ 含む

49 黒褐色土 2.5Y３／１ 粘性弱い 若干橙色ブロック含む

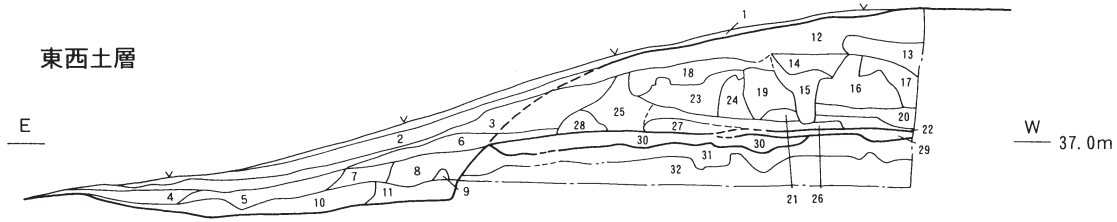
50 黒色土 N２／０

51 黄灰色土 2.5Y４／１ 明黄褐色土若干含む

52 灰黄褐色土 10ＹＲ４／２

53 橙色土 7.5ＹＲ６／８ 粘質土

東西土層



1 腐養土

2 黄褐色土 2.5ＹＲ５／３ 小石含む

3 褐灰色土 10ＹＲ４／１ 粘性弱い

4 未記入

5 暗オリーブ褐色土 2.5Y３／３

6 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 粘性弱い

7 灰黄褐色土 10ＹＲ４／２

8 黄灰色土 2.5Y４／１

9 暗黄灰色土 2.5Y５／２ 明黄褐色、浅黄色の細かいブロック含む

10 にぶい黄橙色土 10ＹＲ５／４

11 黒褐色土 10ＹＲ３／２ 細かい黄橙色ブロック含む

12 黄褐色土 2.5ＹＲ５／３ 小石含む

13 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 明黄褐色ブロック若干含む

14 黒褐色土 10ＹＲ３／２ 明黄褐色ブロック多く含む

15 黒褐色土 7.5ＹＲ３／２ 細かい黄褐色ブロック含む

16 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 黄褐色ブロック、黒ボク含む

17 黒褐色土 10ＹＲ３／１ 細かい黄褐色ブロック含む

18 黄褐色土 2.5ＹＲ５／３ 炭、細かい黄色ブロック含む

19 暗灰黄色土 2.5Y４／２ 黄色ブロック含む

20 明黄褐色土 10ＹＲ６／６ 灰黄褐色土含む

21 暗灰黄色土 2.5Y５／２ 黄色ブロック含む

22 黄灰色土 2.5Y４／１ 黒ボク明黄褐色土含む

23 黒褐色土 7.5ＹＲ３／２ 細かい黄褐色ブロック含む

24 黄灰色土 2.5Y４／１ 黄色の細かいブロック含む

25 暗黄灰色土 2.5Y５／２ 明黄褐色、浅黄色の細かいブロック含む

26 黄灰色土 2.5Y４／１

27 黄灰色土 2.5Y５／１ 黄褐色ブロック含む

28 黒色土 2.5Y２／１ 浅黄色ブロック含む

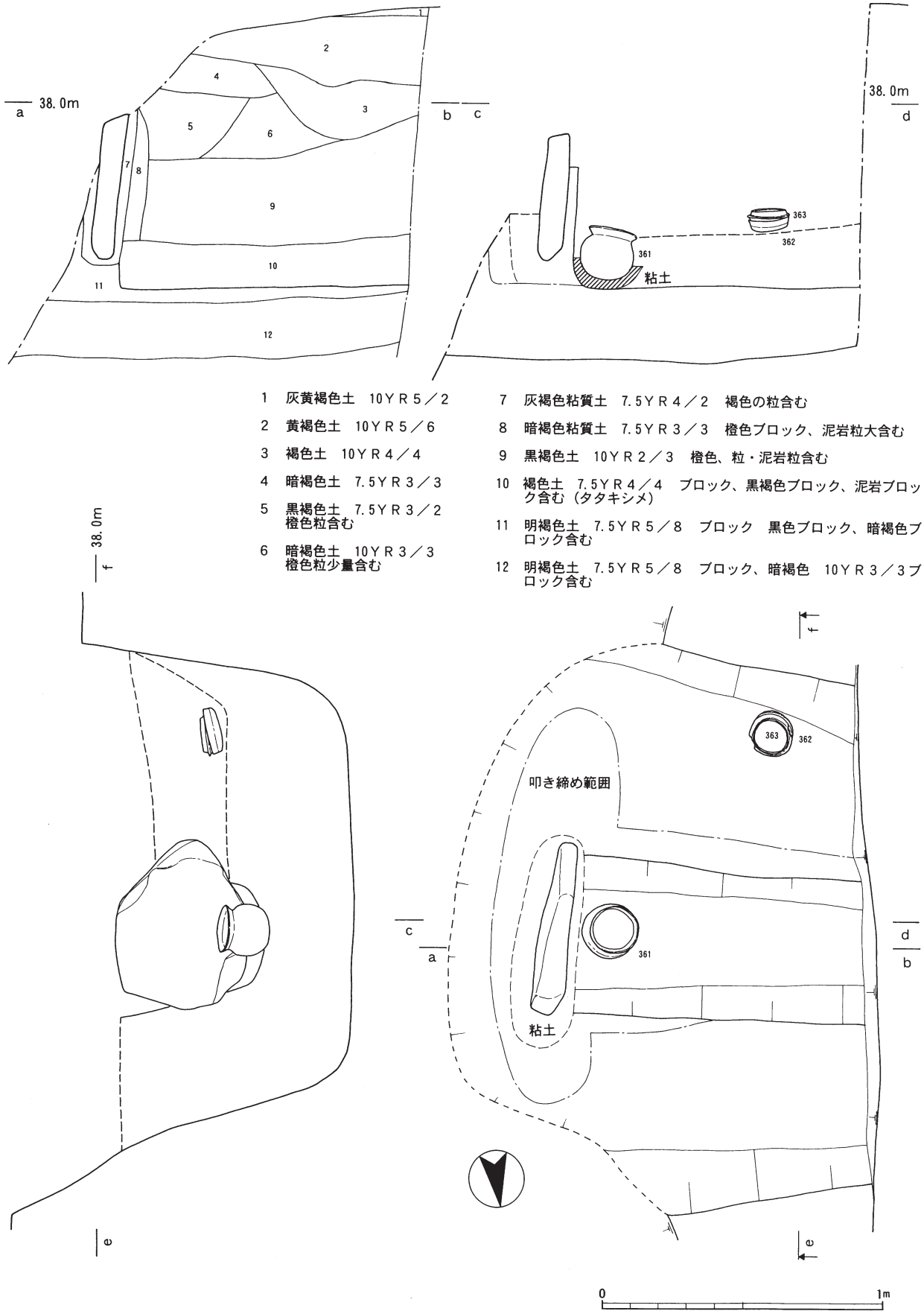
29 黒色土 2.5Y２／１ 黄褐色の細かいブロック含むやや硬い

30 黒色土 5Y２／１ 29より軟らかい

31 褐灰色土 10ＹＲ４／１ 黄色、黒褐色土、小石含む

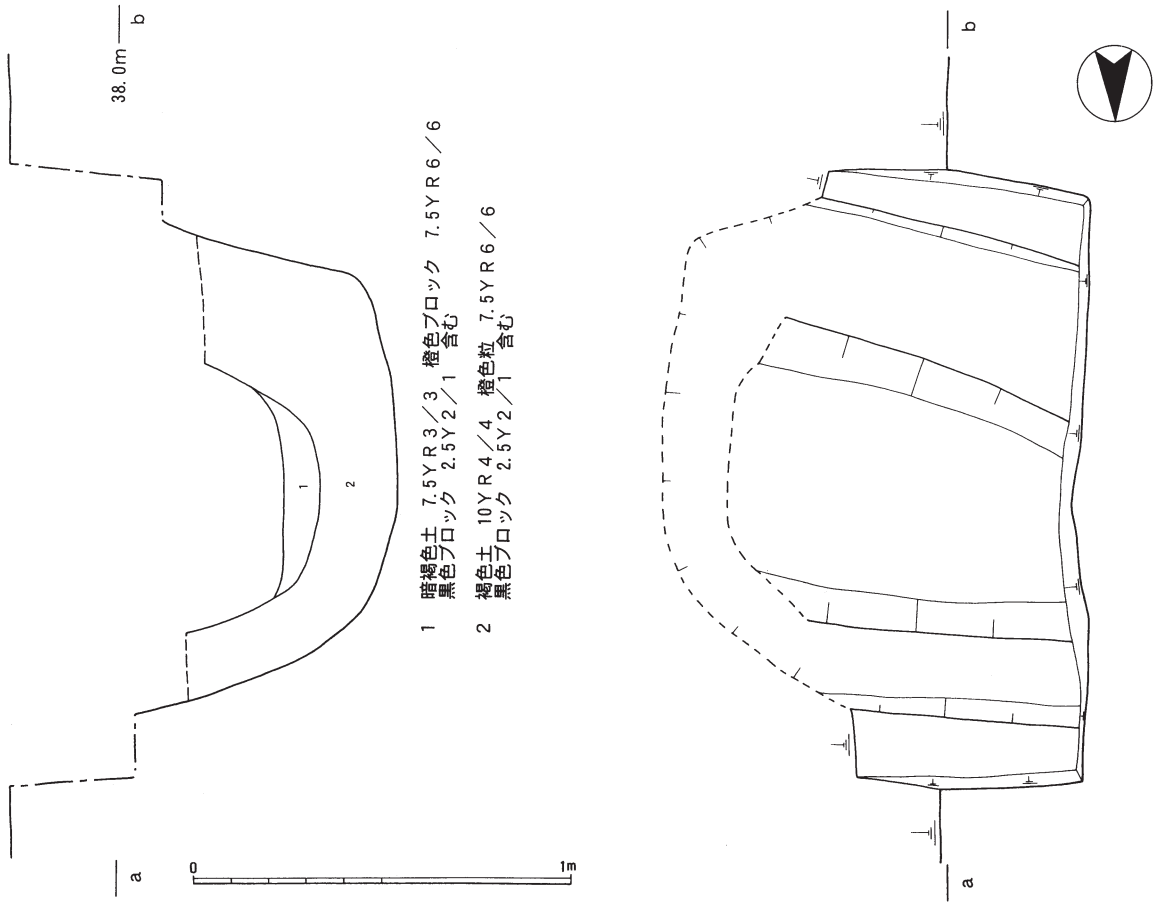
32 黄橙色土 10ＹＲ７／８ 粘性あり

第53図 小谷12号墳 墳丘土層断面図（1：80）



1　灰黄褐色土　10ＹＲ５／２
2　黄褐色土　10ＹＲ５／６
3　褐色土　10ＹＲ４／４
4　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
5　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２　橙色粒含む
6　暗褐色土　10ＹＲ３／３　橙色粒少量含む
7　灰褐色粘質土　7.5ＹＲ４／２　褐色の粒含む
8　暗褐色粘質土　7.5ＹＲ３／３　橙色ブロック、泥岩粒大含む
9　黒褐色土　10ＹＲ２／３　橙色、粒・泥岩粒含む
10　褐色土　7.5ＹＲ４／４　ブロック、黒褐色ブロック、泥岩ブロック含む（タタキシメ）
11　明褐色土　7.5ＹＲ５／８　ブロック　黒色ブロック、暗褐色ブロック含む
12　明褐色土　7.5ＹＲ５／８　ブロック、暗褐色　10ＹＲ３／３ブロック含む

第54図　小谷12号墳　埋葬施設１　平面・断面図（１：20）



第55図　小谷12号墳　埋葬施設２　平面・断面図（１：20）

る。棺底部を掘削中に、ごく少量の赤色顔料が認められ、棺の底部にも叩き締めが行われていた。

埋葬施設に伴う副葬遺物としては、棺内には東端の板石際から土師器の甕（361）が1点出土したのみで、その他の土器、鉄製品などは検出した範囲からは出土しなかった。361は正位で据えられた底部には黄白色粘質土によりしっかりと固められており、据えるときに転倒防止のため安定措置がなされたものと思われる。また同様の粘質土が、甕内部の底にも厚さ4.0㎝ほど確認できており、これも安定措置のための造作かと考えられる。この粘質土のほかに内容物はなかった。棺跡の南側外墓壙内からは、須恵器の杯身蓋が１セット出土している。棺設置後の棺側面の叩き締めを中程まで行った時点で置かれたもので、杯身（363）は正位で、その上に蓋（362）を天地逆にして身を蓋していたものである。９号墳埋葬施設２の須恵器壺の蓋である杯身（199）と同様な状況で、身内部には隙間から入りこんだと思われる程度の土しか認められなかった。

②　埋葬施設２

埋葬施設１の約1.5m南側に、同じ東－西の主軸で並列して設置される。埋葬施設１の墓壙掘形と重複はしていない。

墓壙の掘削は黒褐色盛土層の最終層から２番目の盛土層上面から掘削をされており、埋葬施設２の方が埋葬施設１に先行して設置され、黒褐色土の最終盛土層をした後に埋葬施設１の開削を行っていることが、土層断面から観察できる。墓壙の規模は、短軸1.3m、長軸方向は1.1mまで確認できたものであるが、全体の約1/3ほどしか検出したに留まるものと考えられ、東端で見る限りは、全体的に隅丸方形の墓壙になるものと推定される。墓壙内の埋土は、黒褐色土にわずかな黄褐色粘質土のブロックを含むもので、埋葬施設１と同様、棺跡と思われる黒色土

との間に、泥岩のブロックを含んだ叩き締められた黒褐色土が棺跡両側面において観察できた。また同様の叩き締めは、棺底面でも観察され、棺の設置前に叩き締めが行われたことがうかがえる。棺底における赤色顔料の散布は確認されなかった。

棺跡としては、短軸0.8m、長軸方向も0.8mを確認したに留まる。棺内埋土は黒色土で、土層断面の観察から木棺は割竹形で直葬されたことが明らかとなったが、埋葬施設２の方では板石による木口閉塞の施設はみられなかった。

埋葬施設２に伴う副葬施設は、検出範囲が狭かったためか、棺内・棺外墓壙内ともに出土していない。

c　出土遺物

①　埋葬施設１

副葬位置が明らかとなったものは、埋葬施設１から出土した土師器甕（361）が１点と、須恵器杯身蓋が１セットがある。その他は墳丘盛土から土師器甕（361）と須恵器甕（365）、周溝から出土した須恵器杯身（364）がある。棺内の埋土はすべてふるい掛けしたが、玉類の出土はみられなかった。

土師器甕(361)　口径18.8㎝、器高18.4㎝で体部外面は下半から底部に斜めハケ、上半から口縁の一部にかけてタテハケ、内面は底部をオサエ、体部内面から口縁に至るまでヨコハケを施し、口縁部のみヨコナデでナデ消す。内面には粘土接合痕跡が明瞭に観察でき、色調は黄褐色である。

須恵器杯身・蓋(363･362)　蓋（362）は口径14.8㎝、器高3.8㎝紫灰色で焼成良好である。ロクロケズリは頂部1/2までに留まり、ヘラ切後未調整である。杯身（363）は、口径12.6㎝、器高4.8㎝、底部はヘラ切後未調整でロクロケズリは1/3にとどまる。

②　12号墳周溝その他

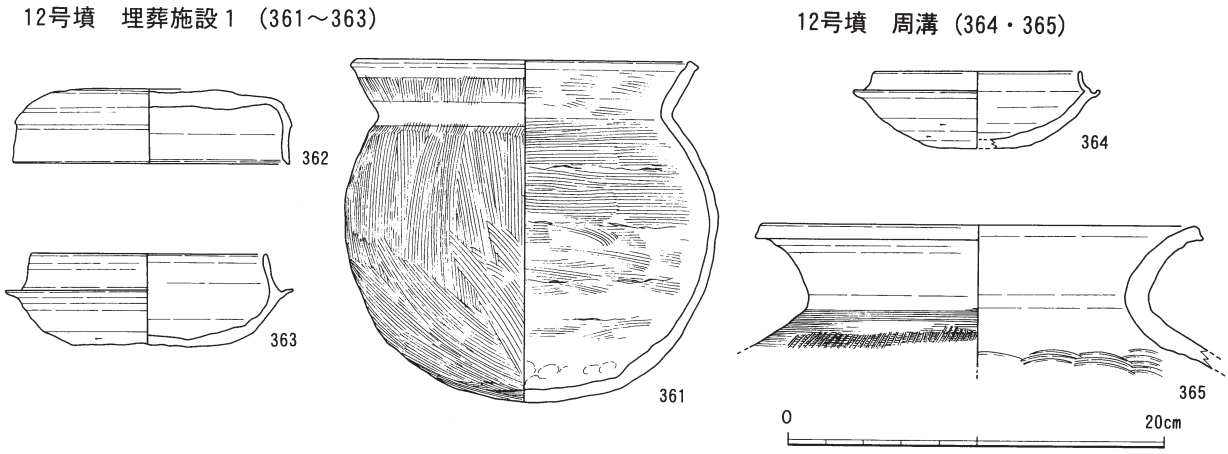
須恵器杯身(364)　周溝東側から出土したもので、口径11.2㎝、器高4.2㎝、外面のロクロケズリは底部から2/3まで施される。

須恵器甕(365)　墳丘の北側で出土したもので、口径23.2㎝で口縁部のみが残存する。体部外面にカキメを施した後平行タタキを施すが、残存部位がわずかでありタタキの重複等については不明瞭である。口縁部はロクロナデで、内面には同心円のタタキがわずかに観察できる。

d　古墳の造営時期

埋葬施設１から出土した須恵器から、田辺編年のＴＫ10型式併行時期に埋葬が始まるとみられる。周溝出土遺物には７世紀前半～平安時代後期の遺物があるが、埋葬施設２の詳しい時期は不明である。

（大川）



第56図　出土遺物実測図　小谷12号墳（１：４）

8　小谷13号墳

a　墳丘・関連施設

13号墳は丘陵東端の東支群のうち最南端の崖際に位置し、墳丘の約1/4は調査区外にあたる。墳丘の北西斜面は防空壕によって破壊され、墳頂も近世に稲荷社が設置されたことにより社の基壇部の残骸が残っており若干の撹乱をうけている。

墳丘　墳丘は盛土によって構築される。盛土の厚さは約1.8mで、基盤の黒褐色土と地山と同質の橙色粘質土のブロック層と黒褐色土とを交互に水平に盛っていく。地山面では炭や焼土が広がる箇所が確認されたが、墳丘構築過程に伴う祭祀の痕跡の可能性もある。

墳形については、調査前には方墳の可能性があったものの調査の結果により径約20.0mの円墳であることが明らかになった。

埴輪列　墳頂では調査前から円筒埴輪列が数個体確認できていた。表土をめくると基底部のみではあったものの、墳頂東縁を中心に埴輪列が巡っていた。墳頂西側に関しては残存状況が悪く、４個体確認できたのみである。埴輪列は直径約７.0mのやや楕円形を呈する円弧を描くかたちで並べられいた。

また、円筒埴輪を取り上げ、墳頂部を若干掘り下げたところ墳頂のほぼ中央から家形埴輪と須恵器の壺がつぶれたような状態で出土した。この地点は、２つの埋葬施設との間に位置する。家形埴輪は基部が欠損し、破片の出土位置も周辺に散らばっており、稲荷社建立の際に撹乱を受けたものと推測される。しかし、撹乱は受けているものの、残存状況は良好であり、原位置に近いものと考えられ、家形埴輪は墳頂の中央部に最低２個体は配置されていたといえる。

また、埋葬施設２の墓壙は、埴輪列の円弧上にかかっているものと推定されることから、埋葬行為が終わった後に並べられたものとみられる。

周溝　幅は２～３mで、深さは約70㎝である。外縁が浅く、墳丘裾付近はやや深くなる。周溝の床面直上からは埴輪片が多数出土したが、墳丘斜面の流出土中からも多数の埴輪片が出土しており、墳丘から転落したものと思われる。西側は調査区外、東側は崖崩落のため不明であるが、現在の崖断面において周溝断面が確認できることからほぼ円弧を描いて全周していたと考えられる。

b　埋葬施設

埋葬施設は２基確認できた。黄橙褐色土の盛土中に設置されるもので、埋葬施設１の墓壙の検出は困難を極め、その規模等は不明であるものの、割竹形木棺と考えられる木棺痕跡を検出した。

埋葬施設は２基が墳頂の中央に並列してあることから、計画的に構築されたことが窺える。

①　埋葬施設１

中央に盗掘を受けていたが、それ以外は良好に残存しており、武具をはじめ多数の副葬品が出土した。

墓壙は明確に検出できてないものの、断片的に輪郭を捉えられたところがあり、そこから推定すると長軸方向5.1m、短軸方向1.2m程度の規模になると思われる（第59図）。木棺痕跡は長軸4.4m、短軸0.7mで、割竹形木棺と考えられる。

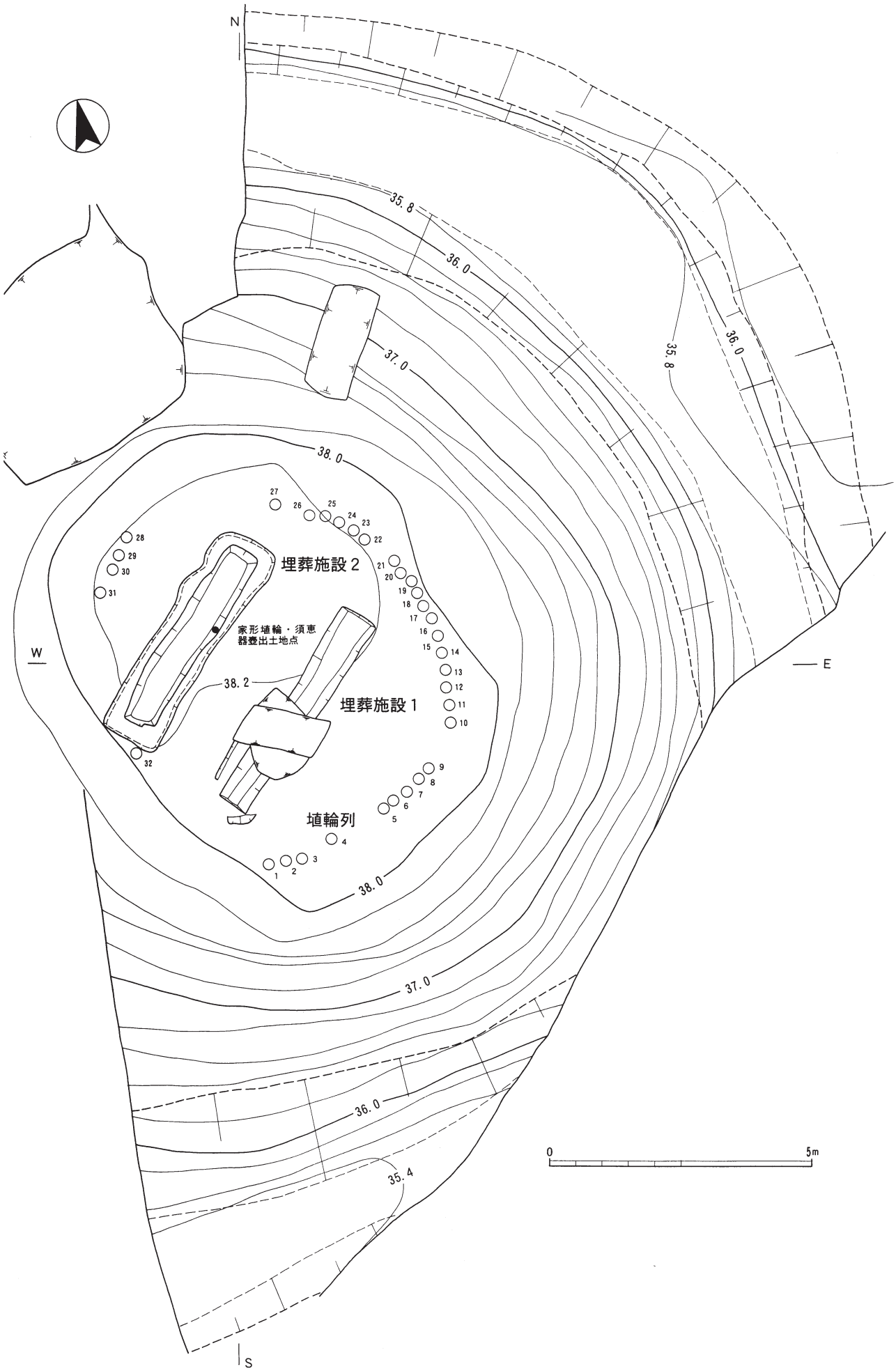
副葬品の出土状況は木棺の北東端から短甲（366）、短甲裾部の南側には棺西側面に剣（369）、棺東側面に鉄斧（386）、直刀（367）、剣（370～372）、鉄鏃12本以上、竪櫛（391）、棺中央に鑷子状鉄製品（390）、鹿角装刀子（389）が出土した。

短甲は後胴を上に、棺内に裾部を向けた横位で出土したもので、棺底に設置した前胴は左前の打ち合わせで銹着する。短甲の内部の鉄板際には白灰色の固化した粘土が貼り付いており、短甲の形状を維持するために粘土貼り付けを行ったものと思われる。

剣は369のみが西側におかれ、東側におかれた３本の剣（370～372）は直刀（367）を挟んで370は内、371・372は外側におかれたもので372のみ切先を短甲側に向ける。

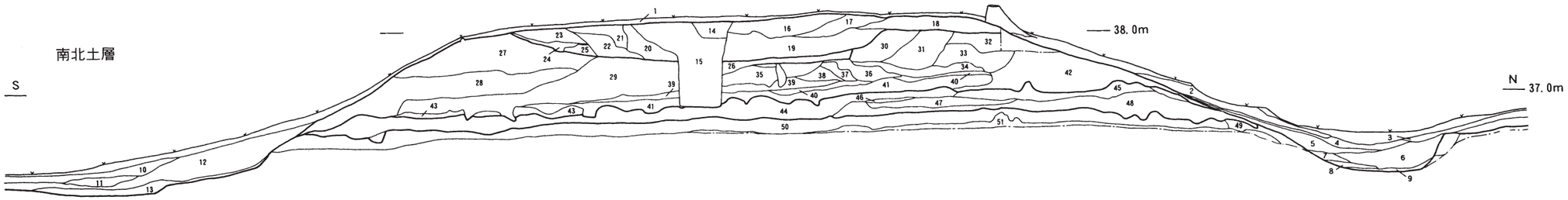
鉄鏃は直刀切先にまとまった一群と、棺南側の農工具類とともに棺東側面に片刃長頸鏃の一群がある。

また、盗掘坑内埋土と鉄鏃との間にはおびただしい数の緑色凝灰岩製の臼玉が散らばった状態で出土した。埋葬施設１の棺内を４区分し、北から順に１区→４区とした。鉄製品の検出中の埋土をふるい掛けし、鉄製品検出中に取り上げられてしまった臼玉の検出を行った。棺跡中央部の２区南から集中した



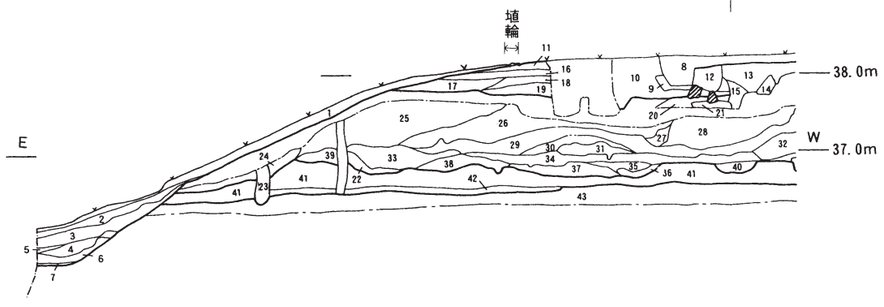
第57図　小谷13号墳　墳丘測量図（１：100）

南北土層



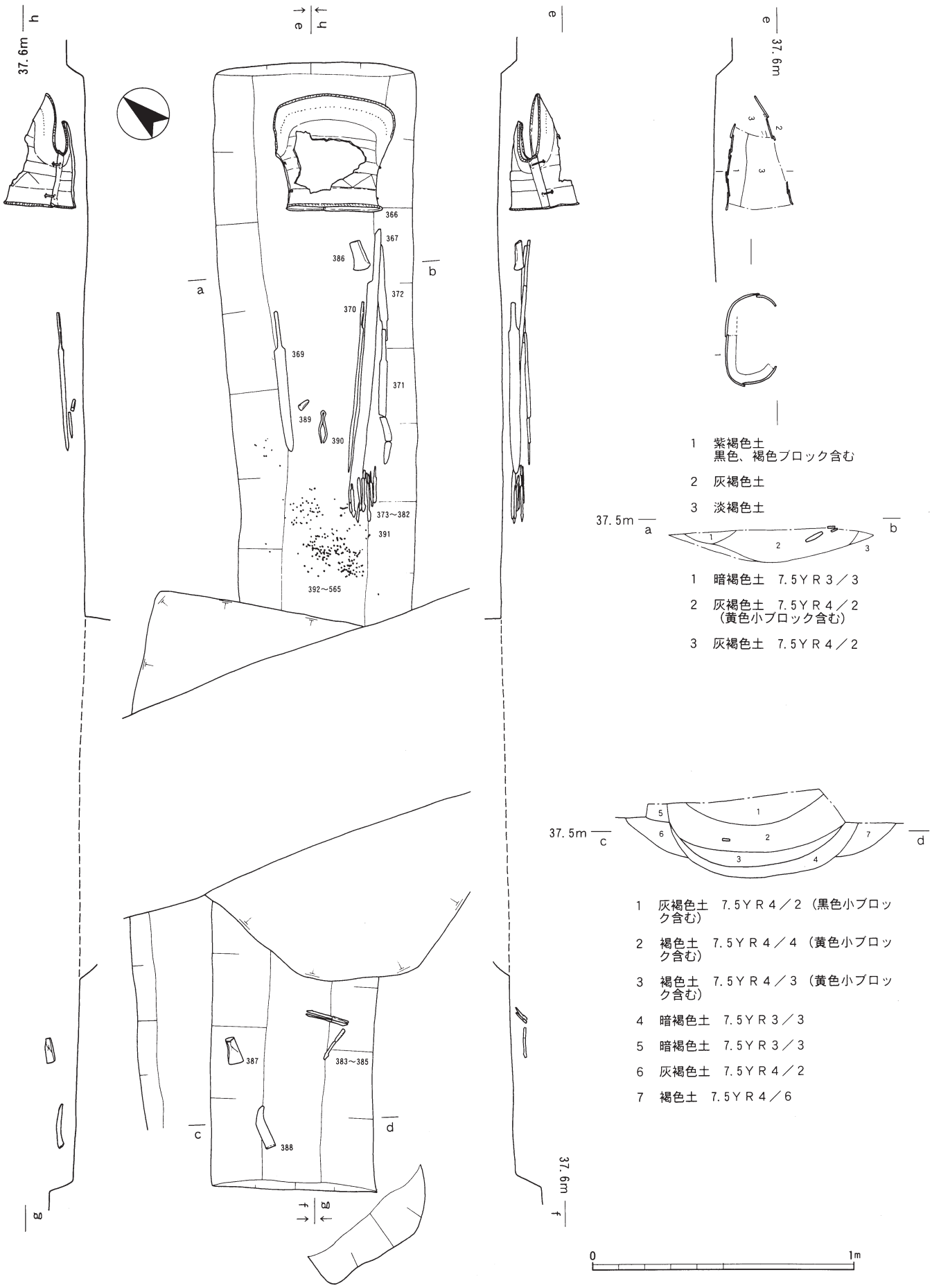
1　腐養土　褐灰色土　10ＹＲ４／１
2　橙色土　５ＹＲ６／８
3　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４
4　黄灰色土　2.5Ｙ４／１
5　褐色土　10ＹＲ４／４
6　黒褐色土　10ＹＲ３／１
7　暗褐色土　10ＹＲ３／４
8　黄褐色粘質土　10ＹＲ５／６
9　橙色粘質土　7.5ＹＲ６／８
10　明褐色土　7.5ＹＲ５／６
11　黒褐色土　2.5Ｙ３／２
12　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　埴輪含む
13　オリーブ黒色土　５Ｙ３／２
14　橙色土　7.5ＹＲ６／６　砂利含む
15　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　粘性弱い（盗掘坑）
16　明褐色土　7.5ＹＲ５／８
17　黒灰色土　10ＹＲ３／４　炭含む
18　暗橙褐色土　7.5ＹＲ５／６
19　褐色土　7.5ＹＲ４／４　明黄褐色ブロック、ハニワ、スエキ含む
20　橙色土　7.5ＹＲ６／８　粘性あり、炭若干、ハニワ片含む
21　褐灰色土　7.5ＹＲ７／１　粘性弱い
22　橙色土　7.5ＹＲ６／６　黄橙色シルトブロック、ハニワ片含む
23　明褐色土　7.5ＹＲ５／８　やや粘性あり
24　褐灰色土　10ＹＲ４／１　やや粘性あり
25　未記入
26　褐色土　7.5ＹＲ５／６　黄色粒、管玉含む
27　褐色土　7.5ＹＲ４／３　砂利含む
28　黒褐色土　10ＹＲ２／２　黄色ブロック含む
29　褐色土　7.5ＹＲ４／３　砂利含む
30　暗黄褐色土　10ＹＲ４／６　黒色小粒含む
31　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
32　暗褐色土　7.5ＹＲ２／３
33　褐色土　7.5ＹＲ４／３　黄色ブロック含む
34　明褐色土　7.5ＹＲ５／８　砂利含む
35　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　明黄褐色ブロック、砂利、炭含む
36　明黄褐色土　10ＹＲ６／８
37　明黄褐色土　10ＹＲ５／４　明黄褐色ブロック、炭含む
38　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　明黄褐色、黄橙ブロック含む
39　にぶい黄橙色土　10ＹＲ６／４　黄橙色ブロック、炭含む
40　灰褐色土　10ＹＲ４／１　黒ボク含む
41　暗褐色土　10ＹＲ３／４　黄色ブロック、黒ボク含む
42　黒褐色土　10ＹＲ３／２　黄橙色ブロック、黒ボク含む
43　暗褐色土　10ＹＲ３／３
44　黒色土　10ＹＲ２／１　弥生土器含む
45　黒褐色土　10ＹＲ３／１　黄橙色ブロック含む
46　褐灰色土　10ＹＲ４／１　炭含む
47　灰黄褐色土　10ＹＲ４／２　炭含む
48　黒褐色土　10ＹＲ３／２
49　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３
50　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／４
51　明黄褐色土　10ＹＲ６／８

東西土層



1　腐養土　褐色土　10ＹＲ４／１
2　明褐色土　7.5ＹＲ５／６
3　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２
4　黒褐色土　7.5ＹＲ３／１
5　明赤褐色土　５ＹＲ４／６
6　灰褐色土　7.5ＹＲ４／２
7　明赤褐色土　５ＹＲ４／６
8　褐色土　7.5ＹＲ４／４　明黄褐色ブロック含む
9　明黄褐色土　10ＹＲ６／６
10　明褐色土　7.5ＹＲ５／６
11　明褐色土　7.5ＹＲ５／６
12　褐色土　7.5ＹＲ４／３
13　橙色土　7.5ＹＲ６／８　やや粘性あり
14　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３　橙色ブロック含む
15　黄褐色土　10ＹＲ５／８
16　橙色土　7.5ＹＲ６／８
17　明褐色土　7.5ＹＲ　やや粘性あり
18　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　粘性強い
19　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　橙色ブロック含む
20　にぶい黄橙色土　10ＹＲ６／３　やや粘性あり
21　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３
22　黒褐色土　10ＹＲ３／２　粘性弱い
23　黒褐色土　10ＹＲ３／１　粘性弱い
24　暗灰黄色土　2.5ＹＲ５／２　橙色ブロック含む
25　橙色土　7.5ＹＲ６／８　やや粘性あり、砂利含む
26　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色ブロック、炭含む
27　明褐色土　7.5ＹＲ５／６　橙色ブロック含む
28　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３　橙色ブロック、炭含む
29　黄橙色土　10ＹＲ７／８　砂利多く含む
30　未記入
31　黒褐色土　2.5Ｙ３／２　黄橙色ブロック含む
32　黒褐色土　2.5ＹＲ３／２　砂利、橙色ブロック含む
33　黄褐色土　2.5ＹＲ５／３　黄橙ブロック含む
34　黒褐色土　10ＹＲ３／２　橙色・黄橙色ブロック多く含む
35　暗灰黄色土　2.5ＹＲ４／２　橙色ブロック含む
36　黒褐色土　7.5ＹＲ３／１
37　黒褐色土　2.5ＹＲ３／２　黒ボク、土器含む
38　暗灰黄色土　2.5ＹＲ４／２　橙色、黒褐色ブロック含む
39　黒褐色土　2.5ＹＲ３／１　細かい黄橙色ブロック含む
40　黒褐色土　10ＹＲ３／２　砂利、橙色ブロック含む
41　黒色土　10ＹＲ２／１　にぶい黄褐色ブロック含む
42　にぶい黄褐色土　10ＹＲ５／３
43　黄褐色土　10ＹＲ５／６

第58図　小谷13号墳　墳丘土層断面図（１：80）



第59図　小谷13号墳　埋葬施設1　平面・断面図（1：20）

検出が見られたため、慎重に精査を行いながら検出作業にあたったところ、587個体以上の臼玉が出土した。また、撹乱坑埋土から1,048個体以上の臼玉が出土し、総計1,635個体以上の臼玉が棺跡中央部に集中していたことが判明した。出土状況は、棺跡西側の剣（369）と東側の直刀（367）の間にかけて集中域が見られた。これらの出土位置は標高37.3m～37.4mの約12㎝間に重複して確認できた。その中で特に穿孔面を接して連なって検出されたものは見られず、穿孔部に通されていた紐状有機質の腐食に伴い、散逸したものと推察される。この状況から、撒玉行為を行ったにしては、分布域が一定範囲に限られることから、使用方法としては、撒玉というよりは頸飾を目的とした環状に連ねた臼玉を幾連にも巻いて、遺体上に置いていたものと考えられる。

盗掘坑を挟んで南西部の木棺内からは、袋状鉄斧(387)・曲刃鎌（388)、片刃の鉄鏃３本（383～385)が出土した。盗掘坑があるものの副葬品は北東側に多いことなどから、頭を北東に向けて埋葬したものと考えられる。

①　埋葬施設２

埋葬施設２の墓壙は、長軸4.5m、短軸1.2mの隅丸長方形を呈し、長さ3.8m、幅0.8mの割竹形木棺と考えられる痕跡が認められた（第67図)。

副葬品は棺の中央と棺の北隅から鹿角装刀子（566・567）と玉類が出土した。棺内を３区分し、北から順に１区→３区とした。出土位置を確認できた11点の他は、棺内埋土をふるい掛けし、検出したもので、臼玉318個体、管玉８個体、勾玉１個体が出土した。

棺部南側に玉類がみられないことから、頭位は埋葬主体１と同様に北東に向けられて埋葬されたと思われる。

c　出土遺物

①　埋葬施設１

短甲(366)（第60・61図）　前胴、後胴ともに竪上３段、長側４段、計７段で構成される左右開閉式の三角板鋲留短甲である。

後胴は検出の際破損してしまったものの、全体的に遺存状況は良好で革組覆輪もかなり残存している。前胴高33.0㎝、後胴高43.3㎝である。

前胴　前胴は、左右とも同じ鉄板構成である。引合板は左右各１枚で、上端は角がとれ丸みをもつ。幅はほぼ一定で2.4㎝である。左前胴引合板～竪上第２段・３段にかけて、受緒と思われる織物が立体的(袋状）に付着している。構成糸の径は経約0.4㎜、緯約0.3㎜、織密度が経18本×緯16本の平織である。袋状に重なった状態なので目が何重かに重なり、見た目にはもっと細かく見える。糸に撚りが見られないことから絹製であると思われる。

前胴竪上第１段は引合板と連結する部分で幅7.4㎝、脇に向かって下降しながら、徐々に幅が狭くなり、押付板と連結する箇所では、幅5.7㎝となる。押付板上縁には1.1㎝の幅で革組覆輪が施されている。革組は、第61図右下に示したようになる。

前胴竪上第２段の地板は左右とも各１枚で、押付板と連結する地板①・⑤は押付板の形状にあわせて斜めに裁断している。左側の引合板から約６㎝のところにはワタガミ受緒孔が１孔確認できるが、Ｘ線写真でみると横位に２孔認められることがわかった。右側にも施されているのを確認した。孔は直径４～５㎜ほどである。

前胴竪上第３段の帯金は左右各１枚で構成される。

前胴長側第１段の地板は左右各２枚で構成され、引合板側の地板⑥・⑭は三角板であるが、脇部側の押付板との連結部分には押付板の形状に合わせて裁断された地板⑦・⑬を用いている。

前胴長側第２段の帯金は、左右各１枚からなる。肉眼では観察できないが、Ｘ線写真ではやや脇部よりの帯金中央部に受緒孔が横位に２孔認められる。

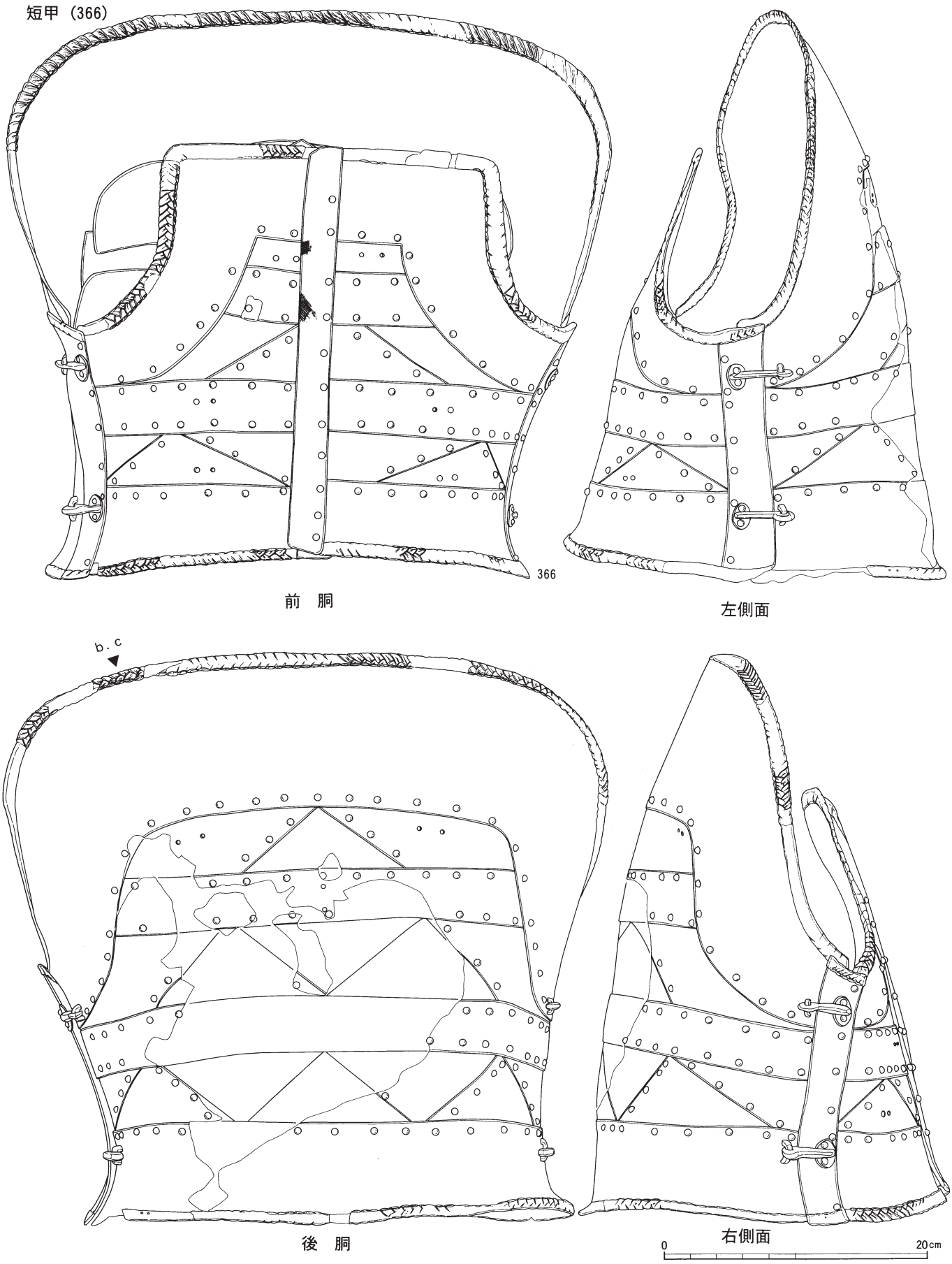
前胴長側第３段の地板は、左右各３枚で構成され、逆三角の地板⑮・㉗と三角の地板⑯・㉖を連結し、脇部の蝶番板に連結する部分には直角三角形の地板⑰・㉕を用いている。

また、地板のやや脇部よりにはそれぞれ腰緒孔が横位に２孔確認できたものの肉眼では観察できない。

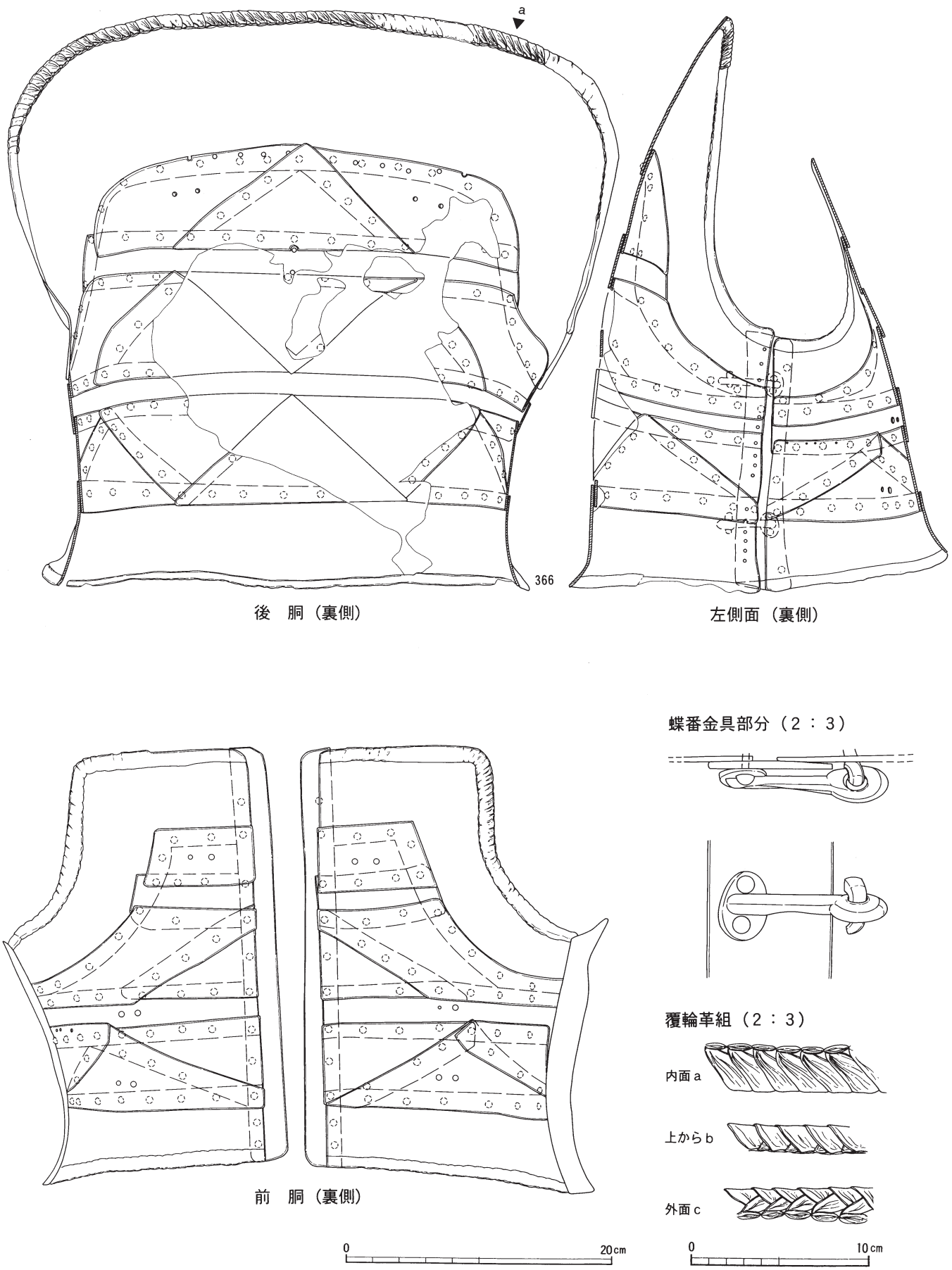
前胴長側第４段の裾板は、左右各１枚で構成される。裾板下縁にも革組覆輪が施される。

後胴　後胴は、左側の破損が大きいものの、右側は比較的残っており、鉄板構成が推定出来る。

後胴竪上第１段の押付板は、上縁が比較的直線状をなし、１枚の鉄板を彎曲させて形成される。押付板の幅は左右45.7㎝、上下11.8㎝である。



第60図　出土遺物実測図　小谷13号墳（1）　埋葬施設1　短甲（1：4）（b、cは第61図に対応）



第61図　出土遺物実測図　小谷13号墳（２）　埋葬施設１　短甲（１：４）（ｂ、ｃは第60図に対応）

後胴竪上第２段の地板は、３枚で構成される。底辺18.3㎝、高さ8.1㎝の二等辺三角形の地板③を中央に配し、その左右に逆台形を呈した地板②・④を連結し、懸緒孔とみられる小孔がＸ線写真よりそれぞれ横位に２孔確認出来る。また内面には地板の上縁付近に小孔が並んでいるのが観察できる。孔のピッチや孔径が３㎜程であることから鋲留孔であると考えられるが、鉄板からはみだして穿孔されている箇所もあり失敗した痕跡とみられる。

後胴竪上第３段の帯金は１枚の鉄板で、幅は約４㎝である。Ｘ線写真ではほぼ中央に懸緒孔とみられる小孔が縦位に２孔確認できた。

後胴長側第１段の地板は５枚の鉄板で構成されていたと考えられ、中央部に逆三角形の地板⑩を配し、その左右に三角板の地板⑨・⑪を連結し、押付板の形状にあわせて裁断された地板⑧・⑫を配する。

後胴長側第２段の帯金は１枚で、幅は中央部で3.8㎝である。

後胴長側第３段の地板は７枚の鉄板で中央に二等辺三角形の地板を配し、逆三角と三角板を交互に連結し、左右両端に逆台形の地板⑱・㉔を配する。

後胴長側第４段の裾板は、１枚の鉄板で、幅約7.6㎝である。

部材構成　地板の配置は左右ともほぼ対象である。前胴の地板配置は小林謙一氏によるＢ型[1]、鈴木一有氏による菱形系統[2]に属する。

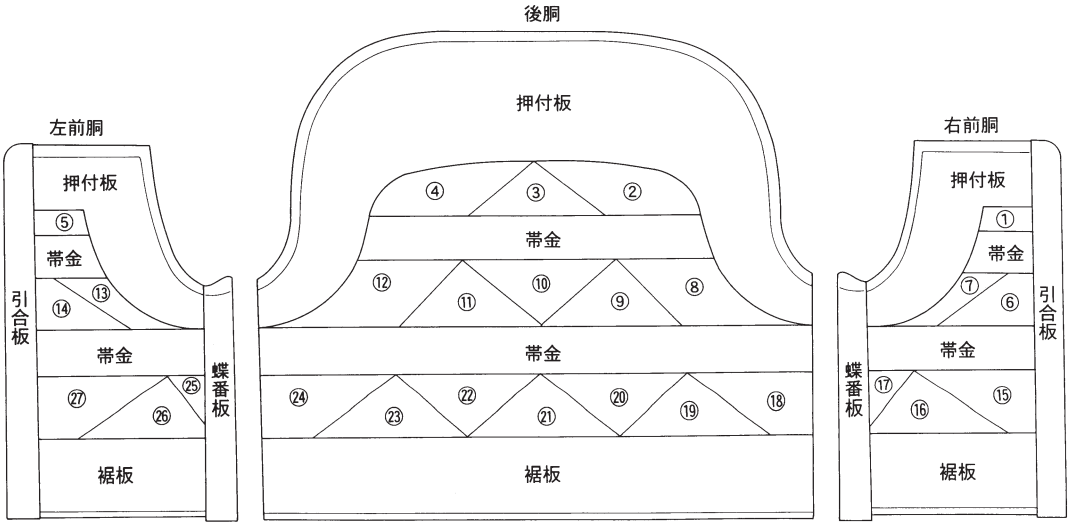
鋲留の技法　鋲頭径は５㎜ほどで、滝沢誠氏の属性分類[3]（以下滝沢分類と称する）の「大型鋲」に相当するが、５㎜未満が「小型鋲」とされており、大型鋲の中では最小の部類に属する。

鉄板の連結数については吉村和昭氏が後胴竪上第３段における連結数を編年の指標[4]としており、滝沢氏もそれに準拠している。小谷13号墳の短甲は一部欠損しているものの、残存部分から連結数が「11」であると推定できる。

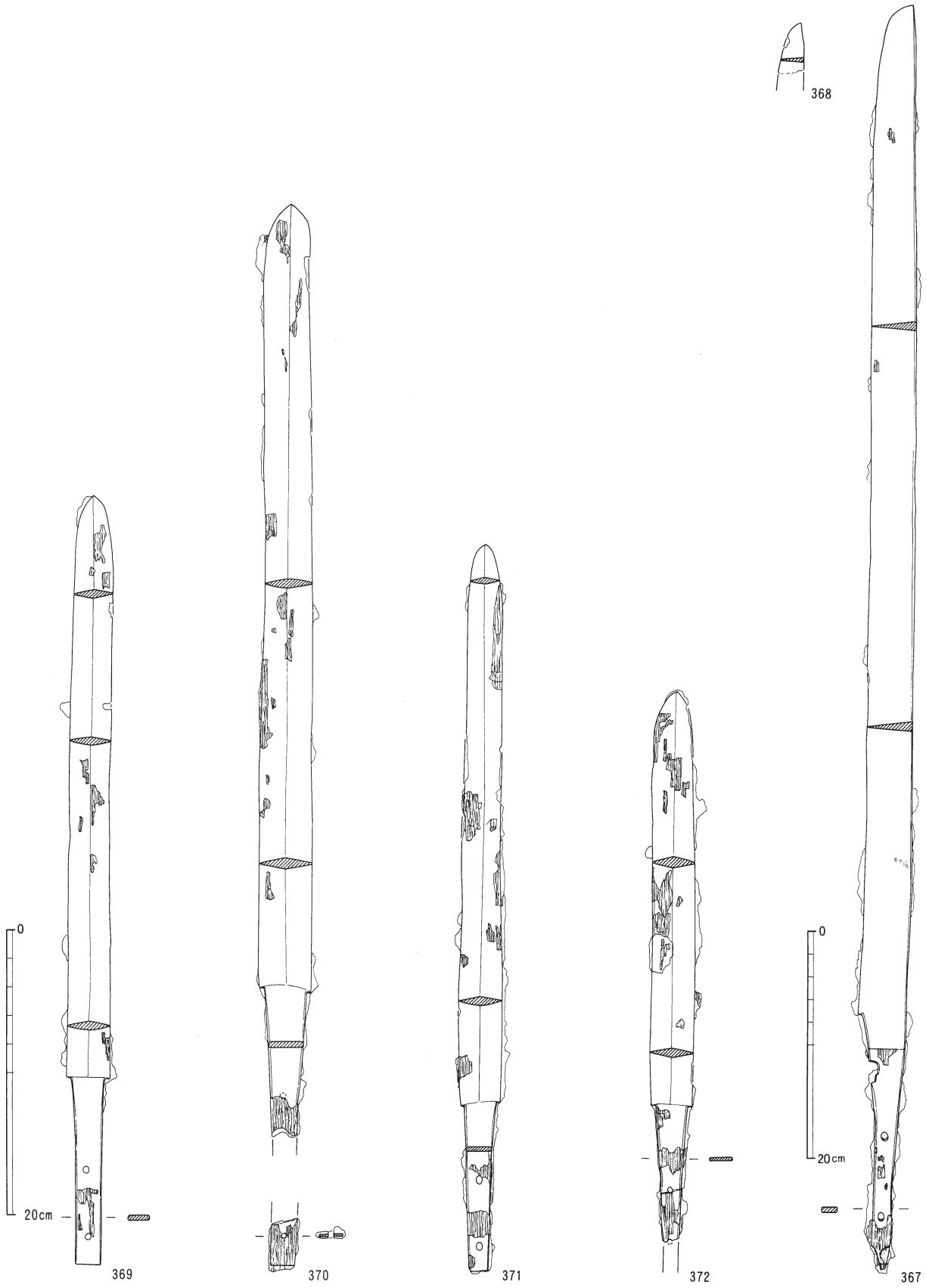
帯金と引合板などの縦板との連結位置は縦板の２箇所で帯金を連結しており、地板・帯金・引合板の３枚の鉄板を鋲で固定する「３枚締め」が多用されている。連結位置は滝沢分類の「ｂ類」に、引合板の連結位置は「Ｂ－１類」に相当する。

覆輪　覆輪は押付板上縁、裾板下縁に施され、蝶番板の上縁と下縁にもまわるが、引合板にはまわらない。覆輪革組は第61図右下に示したようになる。また、Ｘ線写真でみると、後胴の両脇端部にそって孔列が存在することが確認され、その位置と孔の間隔からこれらの孔は本来革組ないしは革包覆輪を施すために穿孔されたものと推察される。また、覆輪は蝶番板にも施される。

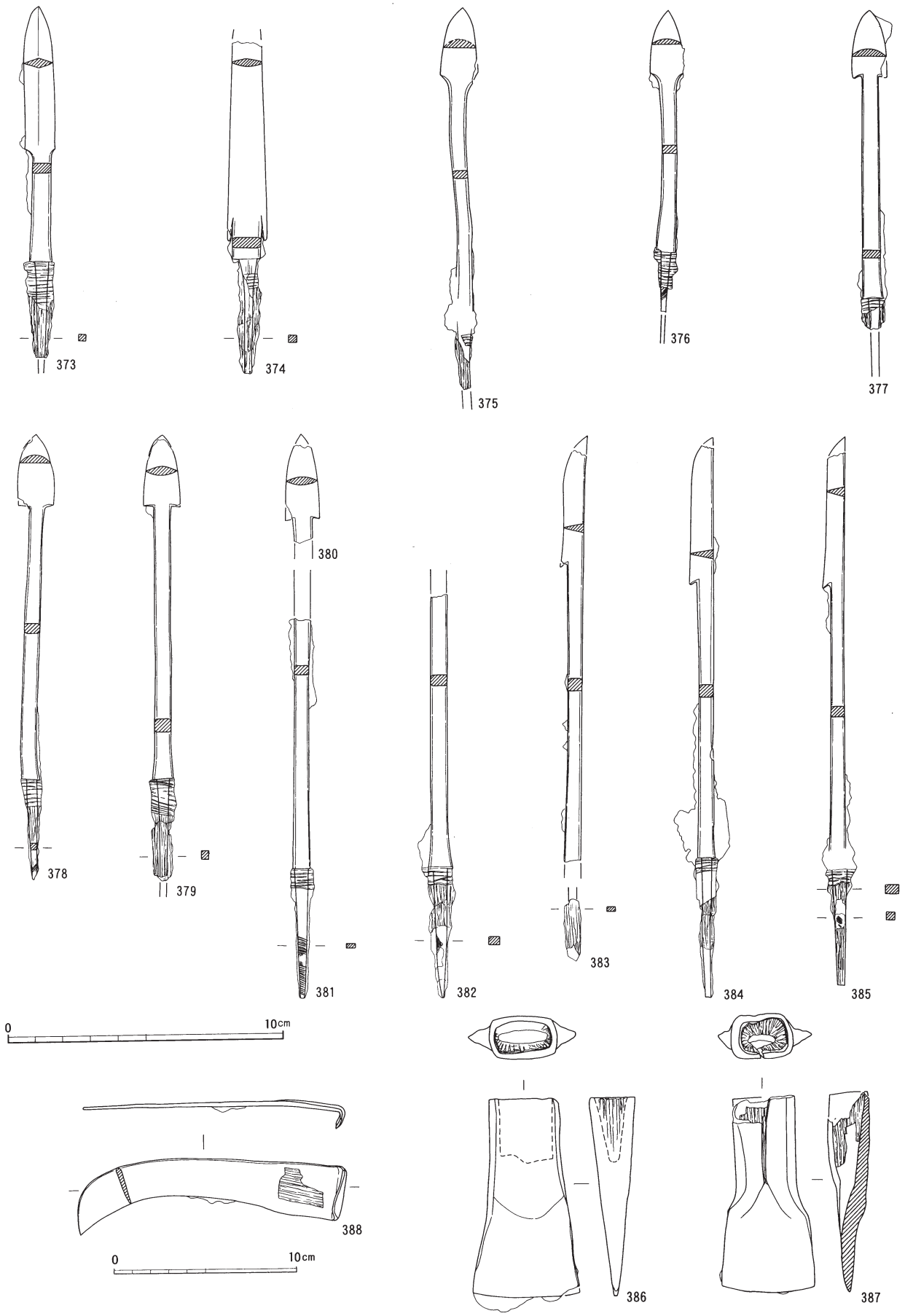
蝶番金具　蝶番金具は、左右の蝶番板の上に後胴に向かって伸びる棒状製品の先端を縦長の楕円形に加工した金具を取り付け、２つの鋲で前胴に固定する頭部金具と、断面円形の鉄棒を半円形に曲げて後胴に固定する足金具の２つの部材より構成されることから高橋工氏による分類[5]の「長釣壺式」に相当す



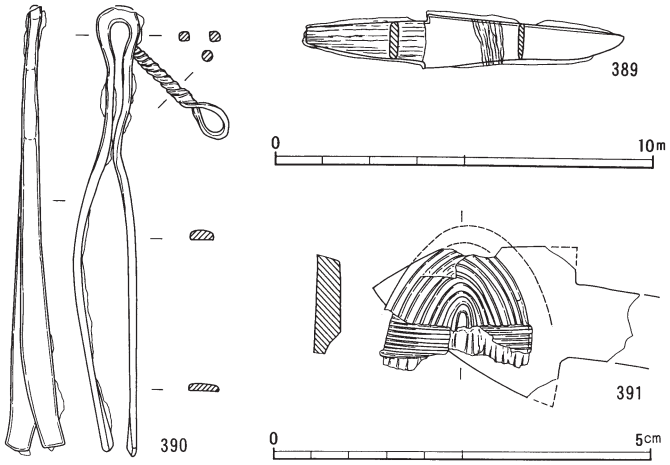
第62図　小谷13号墳　埋葬施設１　出土短甲展開模式図



第63図　出土遺物実測図　小谷13号墳（３）　埋葬施設１　刀剣類（直刀１：５、剣１：４）



第64図　出土遺物実測図　小谷13号墳（4）　埋葬施設1　武器・農工具類（386～388は1：3、他は1：2）



第65図　出土遺物実測図　小谷13号墳（５）　埋葬施設１
鑷子ほか（389・390は１：２、391は１：１）

ると思われる。なお、蝶番は、竪上第１段押付板の脇部と長側第４段裾板の両脇にそれぞれ２箇所ずつ取り付き、両前胴が開閉できるようになっている。

（豊田）

直刀(367・368)　367は全長111.1cm、刃部幅3.6cmの平造の直刀である。切先はフクラをもち、関は抉入関[6]で関から約4.0cm下の刃側に抉りが入る。茎は背・刃側共に、関より緩い曲線を描きながら徐々に幅が細くなる。茎尻は隅抉尻[7]である。X線写真より直径0.7cmの目釘孔が２箇所確認できた。両面共に鞘・把材の木質が部分的に付着する。関付近に木質の付着が見られず、その3.0cm下から付着していることから、刀装具が装着されていた可能性が考えられる。368は刀の切先と思われ、鉄刀は２本副葬されていた可能性がある。

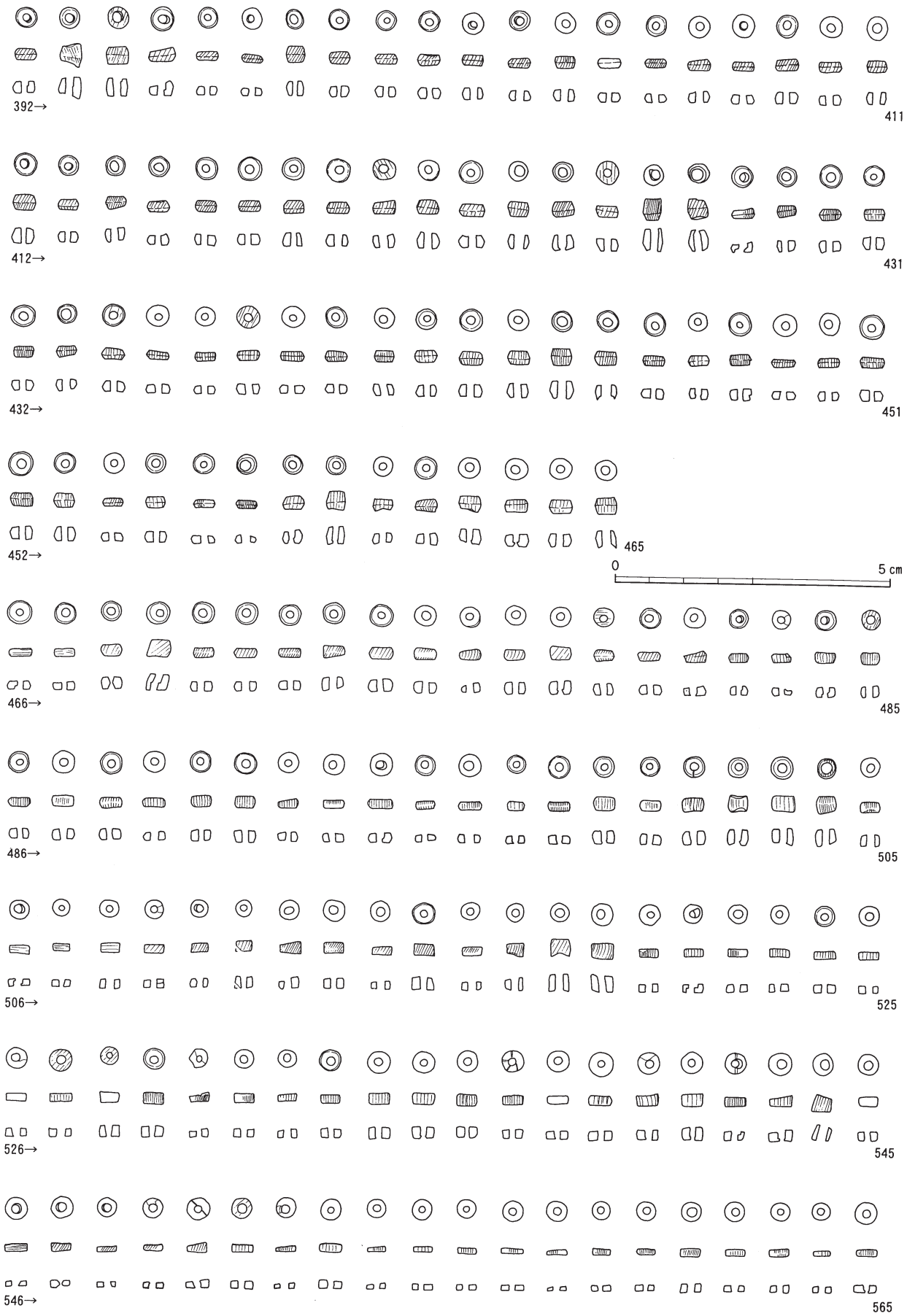
剣(369～372)　369のみ棺の西側より出土しており、全長54.1cm、刃部幅2.7cm、刃部にはわずかに鎬が見られる。関は直角関、茎尻は一文字尻で、X線写真より直径0.4cmの目釘孔が２箇所確認できた。370は４本の中で最大で、残存長65.5cm、刃部幅3.0cmである。刃部にはわずかに鎬が見られる。関は直角関だが左右非対称になっている。X線写真より直径0.6cmの目釘孔が１箇所確認できる。茎は先端が欠損しており、目釘孔のある茎先端破片が同一個体である可能性が高い。371は全長51.0cm、刃部幅2.6cm、刃部にはわずかに鎬が見られる。関は直角関で、茎尻は一文字尻である。X線写真より直径0.5cmの目釘孔が２箇所確認できた。372は切先を北へ向け、直刀（367）の茎部に錆着した状態で出土した。残存長39.0cm、刃部幅2.8cmで刃部にはわずかに鎬が見られる。関は直角関で茎の先端は欠損している。X線写真より直径0.4cmの目釘孔が２箇所確認できた。４本全ての剣の両面に鞘・把材の木質が部分的に残存している。

鉄鏃(373～385)　棺内北側より373～382、棺内南側より383～385が出土した。373は鏃身が両鎬造の柳葉鏃[8]である。鏃身関は斜関、茎関は台形関で、矢柄の木質と口巻の樹皮が残存する。374は鏃身が両丸造の腸抉柳葉鏃である。鏃身関は逆刺、茎関は角関で矢柄の木質と口巻の樹皮が残存する。茎関を角関としているがX線写真では明瞭に見えていないことから、形状が異なる可能性を否定できない。375～385は全て長頸鏃である。375・376は鏃身が片丸造の三角形で鏃身関は斜関、377は片丸造の腸抉三角形で鏃身関は逆刺、いずれも茎関は台形関である。378・379は鏃身関が両角関、茎関が台形関の三角形鏃で、矢柄の木質と口巻の樹皮が残存する。ほぼ同じ形をしているが378は片丸造、379は両丸造である点が異なる。381・382は鏃身部を欠損しており、380がどちらかの鏃身である可能性が高い。381には口巻きの下に幅1.0mm以下の植物繊維製の紐が螺旋状に巻かれている。383～385は平片刃造の片刃鏃である。鏃身関は浅い逆刺、茎関は384が角関で、383・385については欠損や錆のため不明である。384・385には矢柄の木質と口巻が残存する。

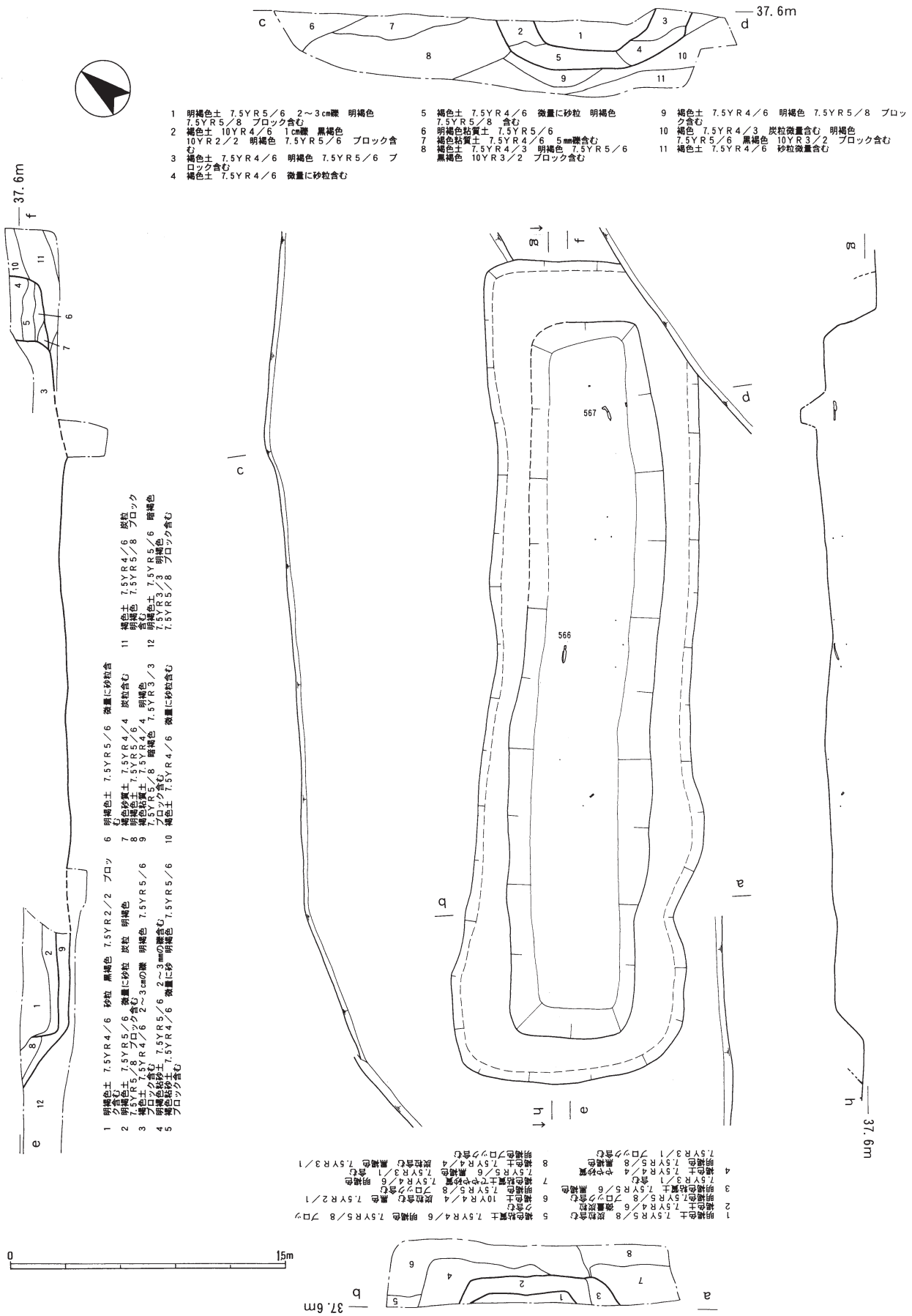
鉄斧(386・387)　短甲と刀剣類との間より386が、鉄鎌・片刃の鉄鏃と供に387が出土した。386は鋳造鉄斧で、全長11.5cm、刃部幅5.6cm、袋部幅3.9cm、袋部厚さ2.2cmである。387は鍛造鉄斧で全長10.7cm、刃部幅4.5cm、袋部幅3.4cm、袋部厚さ2.5cmである。どちらも袋部内部には柄の木質が残存する。

鉄鎌(388)　棺内南から１点出土している。388は全長14.3cm、刃部幅2.1cmである。背・刃側共に基部から先端部にかけて緩やかな曲線を描く。刃部を手前に置いたとき基部の折り返しが上を向く都出比呂志氏による分類の「甲技法」である[9]。基部には柄の木質が残存する。

刀子(389)　全長8.6cm、刃部幅1.2cmの小形の刀子



第66図　出土遺物実測図　小谷13号墳（6）　埋葬施設1　玉類（1：1）



第67図　小谷13号墳　埋葬施設２　平面・断面図（１：30）

である。両角関で把の木質が良く残る。刃部中央には、刀身に直交方向の木質が見られ、出土時には表面に鹿角と思われる付着物が確認できたことから、鞘が鹿角装であった可能性がある。

鑷子状鉄製品(390)　全長12.2㎝、脚部幅0.8㎝で、断面は頭部が丸みのある四角形、脚部は扁平である。頭部は環状を呈し、頸部は接していない。肩部で膨らみを持たせた後、脚部で狭くなる形状をしている[10]。本体直下からは、直径が0.1㎝の針金状の鉄を折り返し、９回の捩りを入れた全長3.5㎝の金具が出土しており、他県の出土例から鑷子状鉄製品の頭部に付属する連結金具であると考えられる。

竪櫛(391)　391は鉄鏃に銹着した状態で出土した。残存長はムネの最大幅2.0㎝、最大長1.6㎝だが、鉄鏃の錆上に薄く漆の痕跡が見られることから実際には幅2.3㎝以上であったことが分かる。現存では10本の竹ヒゴをU字形に折り曲げ、樹皮か糸のようなもので横巻きして下半部を巻縛した構造[11]となっている。縦糸は確認できない。　(山岡)

臼玉(392～565)　出土玉類の観察については、篠原祐一氏の分類[12]に準拠し、形状についてＡ～Ｅ、側面の研磨方向で１～４、孔面の研磨状況をａ～ｃ、穿孔方向でⅠ～Ⅲの４つの観察項目に色調と重量を加えて、第21～53表のとおり、観察を行った。

1,635個すべてが臼玉で、管玉、勾玉の出土はない。このことから、臼玉のみで構成した単純構成の連と想定される。臼玉の観察から、Ｃ・Ｅには、側面研磨の手抜きで多角形時の稜線を残すもの530、側面研磨時の滑り止めに関係すると思われる、孔面に残る放射状の溝痕が観察されるもの530・537・542など、製品の品質に差異が認められる。　(大川)

②　埋葬施設２

刀子(566・567)　全長10.0㎝、刃部幅1.0㎝、直角関で茎尻は一文字尻である。567は残存長7.9㎝、刃部幅1.1㎝、直角関で茎尻は刃上がり栗尻である。共に把の木質が良く残る。　(山岡)

玉類(568～726)　臼玉のほかにも、ごく少数ではあるが管玉・勾玉が出土した。この出土玉数の構成比率から、勾玉を中心とした均等割りによる管玉・臼玉の配列が何通りか考えられる。幾連かの掛け回しによる埋葬施設１の連とは異なり、総延長82.6㎝の、明らかに形状の異なる玉類の組み合わせにより構成される連は、勾玉を中心とした下垂タイプの装身具が想定できる。

管玉に分類した718であるが、かろうじて篠原分類の基準で管玉にはいるものの、他の７点とは明らかに径・長とも異なり、材質も全個体数の中で最も不良である。両側孔面も破断面ではないため、0.7㎝で完形の個体であるが、材質的に極めて軟質で、折損した管玉の補遺個体であることも考えられる。

この埋葬施設２の管玉の特徴として、11号墳で出土した３点の管玉とは異なり、標準寸法の個体については孔面両側から穿孔を行う篠原分類Ⅰ類である。工人による採用手法の相違という原因の他にも、管玉の径：長（厚）の比率の相違からおこる採用手法の差異、また穿孔工具の作業口径に起因する採用穿孔方法の差異との観点も見出せるのではなかろうか。

勾玉(726)　丁字頭勾玉といわれるもので、石材は緑色凝灰岩製のものであると思われる。長さ3.0㎝、厚0.9㎝、頭部に径２㎜の穿孔を両側から穿孔する。この穿孔へ向けて３本の線刻によるラインが入っており、玉の背あるいは腹の面から孔へ向けて線刻が施され、背側において刻線のズレが明瞭に観察できる。部分的に表層の剥離箇所があるが、いずれも面も丁寧に研磨され整形されている。　(大川)

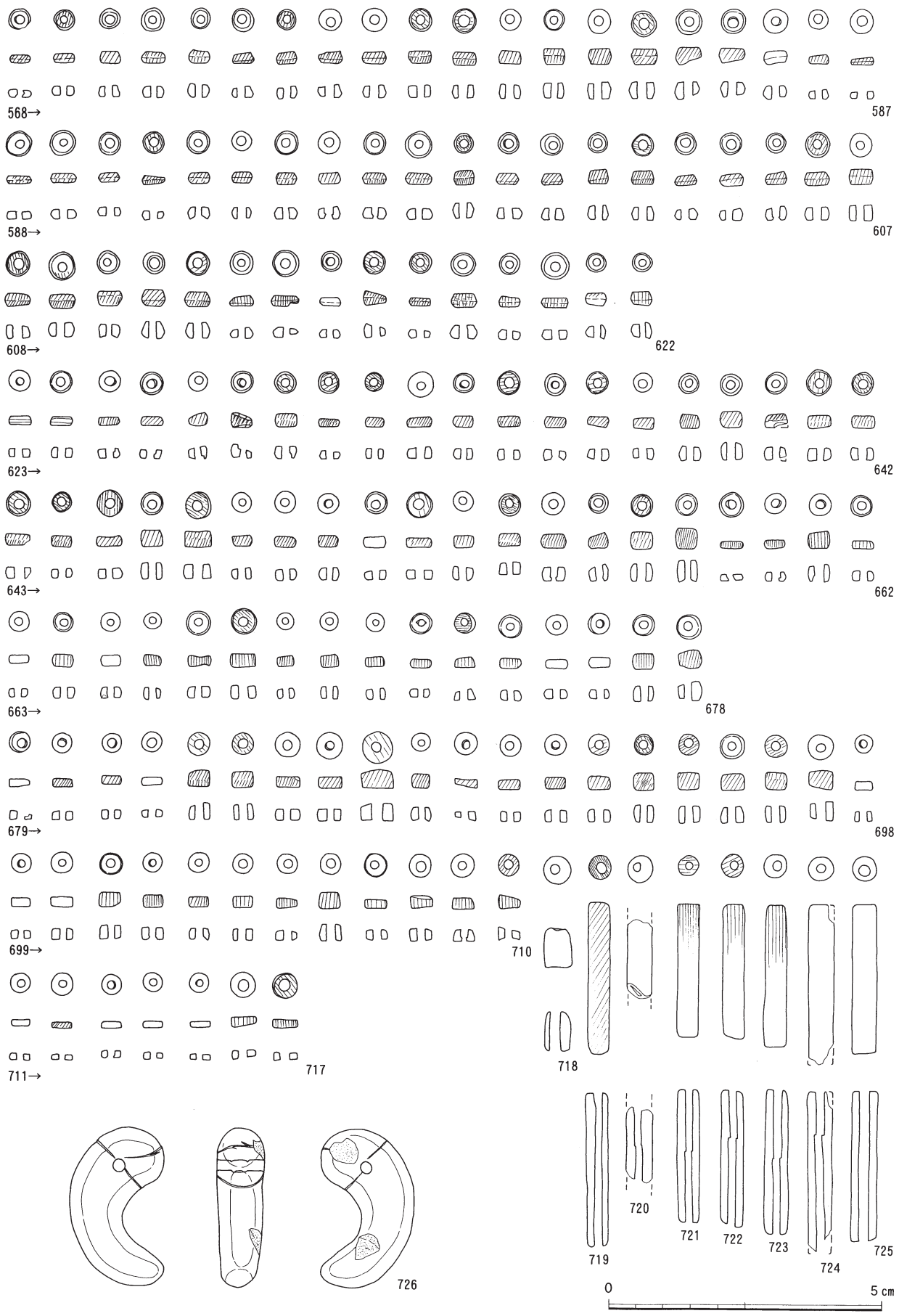
③　墳丘ほか出土土器

須恵器(727～734)　墳頂からは須恵器・土師器片が出土したが、原位置を留めたものはなく、小片でバラバラに散らばっていた。須恵器は杯身（727)、短頸壺（731）、広口壺（734)、高杯（728)、樽形瓶(733)、瓶（732)、把手付椀（729）があり、田辺編年のＴＫ216型式併行に相当すると思われる。733の樽形瓶は片側の小口を意図的に閉じられていない。734の壺は家形埴輪と共に出土したもので、底部は焼成後穿孔されている。

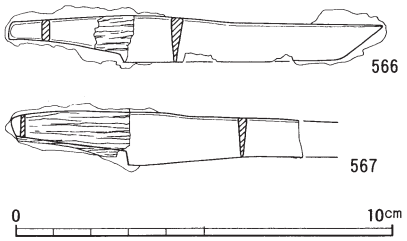
土師器(735～737)　735は高杯の脚部、736は壺、737は二重口縁壺である。737は薄手で風化が著しいが、いわゆる「伊勢型二重口縁壺」に相当しよう。土師器は小片が多く、３点以外に図示できるものはなかった。

④　埴輪

墳頂からは円筒埴輪列、家形埴輪が出土し、周溝の埋土中からも蓋形埴輪を含む多くの埴輪片が出土



第68図　出土遺物実測図　小谷13号墳（7）　埋葬施設２　玉類（１：１）



第69図　出土遺物実測図　小谷13号墳（８）
埋葬施設２　刀子（１：２）

した。しかしながら墳頂部は後世に建てられた社祠のためやや撹乱を受けており、円筒埴輪列も基底部をかろうじて残すのみで上部の破片も基底部の数に対して極めて少なく全形を復元できた個体はなかった。以下円筒埴輪の主だった特徴を述べる。

円筒埴輪(738～805)

焼成　土師質のものとやや硬質のものがある。やや硬質のものは須恵質ほど堅緻な焼成ではない。黒斑の確認できるものはごく僅かである。

胎土　胎土はやや粗く砂粒、4.0～5.0㎜の小石を含むものもみられる。

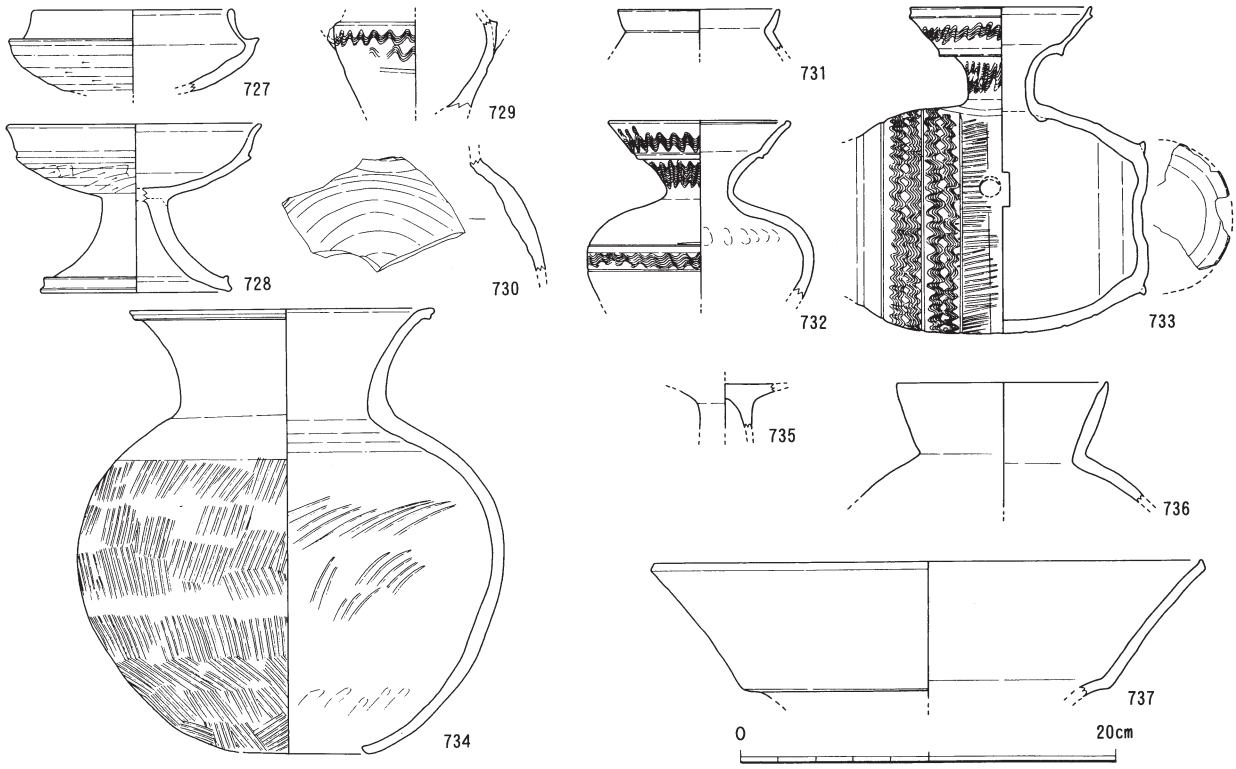
調整技法　外面には突帯貼り付け前にタテハケを施し、突帯貼り付け後に第２・３段に部分的にヨコハケを施している[13]。ヨコハケにはＢ種ヨコハケが用いられているのが観察できるが静止痕は判然としない。内面は第３段にのみヨコハケが施されるものの、基本的にタテハケないしはナナメハケである。ハケメは非常に細かく条線は２㎝間に17～20本ほどある。一部の個体には基底部内面にヨコ方向のケズリがみられるが、粘土紐積み上げ後、自重で歪んだ部分を整形するためのものであろう。

口縁部　焼成の違いに関わりなく全ての個体で口縁端部を屈曲させる。

突帯　突帯の高さは約0.7～0.8㎝で、断面形がM字ないしは台形を呈する。

透孔　円筒埴輪の第２段に相当する破片は口縁部や、基底部に比して少ないため透孔が確認できる個体はわずかであるが、円形で統一されているものと思われる。穿孔の方向は判断材料に乏しいが１方向であろうと予想される。

形態　全形を復元できた個体がないものの、底部径がおおむね16～20㎝の範囲に収まり、口縁部径も30㎝前後を測るものがみられることから、２条３段の比較的小形品であったと推測されよう。なお、突帯



第70図　出土遺物実測図　小谷13号墳（９）　墳丘ほか（１：４）

間隔は揃っておらず、基底部から最下段の突帯までの間隔がやや広めであるが、淡輪技法をもつ埴輪にみられるような最下段の突帯が胴部の中央に貼り付けられることはない。以下各個体について詳述する。

738～744、746～765、767～769は円筒埴輪の基底部である。基底部の径は16㎝～18㎝のものが殆どである。最下段の外面調整は１次調整のタテハケが主体である。内面調整はタテ方向のナデで、743・753・769は最後の成形にヨコ方向のケズリを施し、758・762・768は底部の最下部をヘラ状工具で面取りを行い、重みで歪んだ器壁それぞれ整形したものと思われる。また、752のみ内外面とも板ナデで成形される。766は口縁部から第２段までが唯一残るものである。口縁部の復元径は31㎝である。777～792は口縁部の破片である。殆どの個体は口縁部端部が屈曲しており、端部の端面を平旦に収めるようなものは確認できない。

朝顔形埴輪(806～819)　朝顔形埴輪の口縁部は直線状に開く。外面調整は基本的にタテハケのみであるが813のようにヨコハケの後タテハケを施すものもある。内面はランダムなヨコハケである。808・810は、朝顔形埴輪の肩部～頸部で、くびれ部に貼り付けられる突帯は断面三角形を呈する。

壺形埴輪(820)　口縁部復元径が22.0㎝と小さく、二重口縁を形成する際に一次口縁端部を突帯の一部として利用し、その上に粘土紐を積み上げていくいわゆる「擬口縁手法」を用いているとみられ、朝顔形埴輪とするよりは壺形埴輪とした。

蓋形埴輪(821～830)　821は蓋形埴輪の笠部の破片[14]である。笠部上半部から笠下半部の一部まで残存しているものの、笠部下半部の大部分は欠損している。笠部上半部には放射状沈線を施し、下半部を境に２段に区画して２条の沈線を施す。しかし、笠部は扁平で、笠部中央突帯は省略されているなど新しい要素がみられ、退化の傾向が顕著である。また、当古墳の蓋形埴輪は、少なくとも４個体は樹立されていたと思われるが笠部の放射状沈線の表現が斉一化されておらず、825は沈線が１本であり、827は軸受部の突帯から沈線が施されているなど各個体で表現が異なっている。831は唯一出土した立ち飾り部の破片である。830は軸受部の破片であろう。なお蓋形埴輪はすべて土師質である。

不明埴輪(832～833)　832は突帯状の突起部の傍に斜格子状の線刻が施されている。馬形埴輪の鞍の可能性もある[15]。833はＶ字状の線刻が描かれている。

家形埴輪(834～837)　834は墳頂で出土した家形埴輪である[16]。上半部は比較的残存しているものの基部は欠損している。

屋根は切妻で左右の破風板は下半部が欠けている。破風板にはタテハケが施される。妻壁の頂部には円形の透孔が穿たれる。透孔の下には突帯が横方向に貼り付けられている。それとは別にその突帯から垂直に幅１㎝程の細い突帯が延び、束柱を表現している。その突帯の向かって右には窓を表現したと思われる四角形の沈線が１本により刻まれる。さらにその右には２条の沈線が施されるが、束柱左側にこの表現はみられない。下方に延びた束柱は、梁を表現した水平方向に貼り付けられた突帯まで延びている。梁を表現した突帯の下には開口部をもつが、これより下部は欠損のため不明である。なお、棟木や桁といった表現はみられない。また、妻側の片方には赤彩の痕跡が残る。

屋根については第78図の834のＡ面側は風化が激しいが、Ｂ面はハケメも比較的よく残っていた。屋根部の調整はタテハケの後、ランダムなヨコハケが施される。屋根の平側上半部には押縁が沈線で２条描かれる。

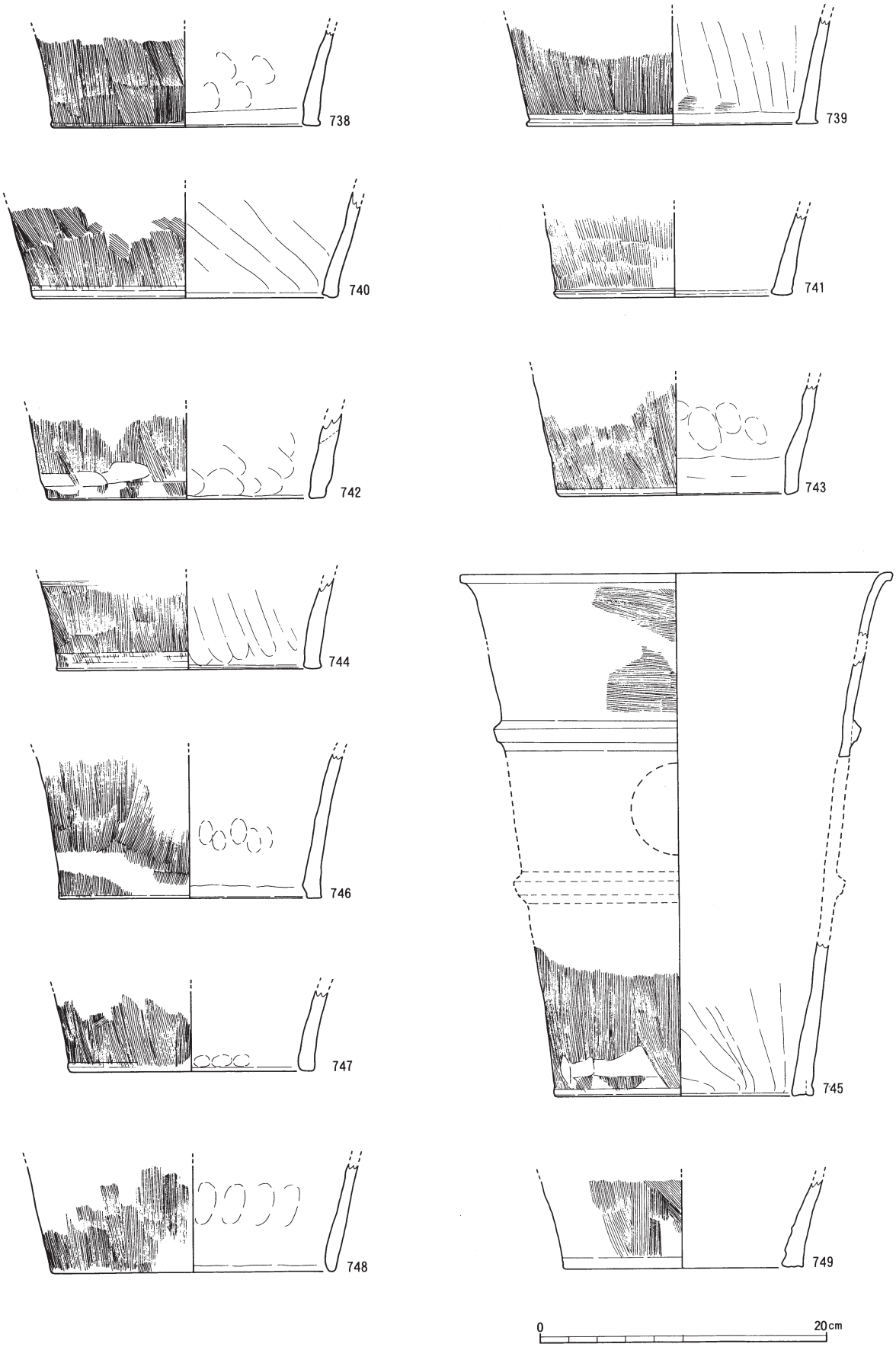
壁については欠損部分が多く、詳細は不明である。

第78図834のＣ面は開口部が見受けられるが、柱の表現などはみられない。開口部は平側に各２箇所ずつ、妻側に各１箇所あったものと思われる。

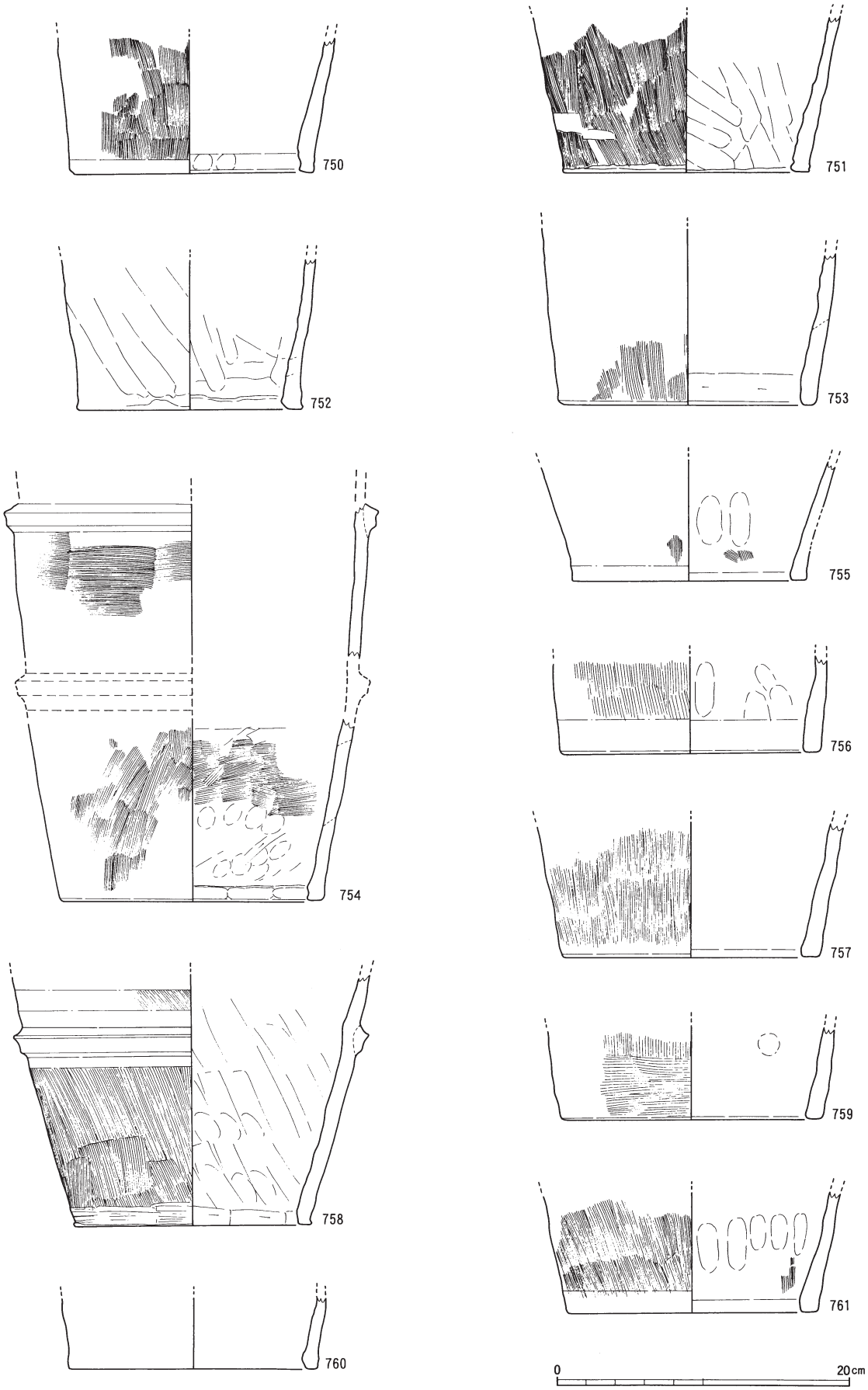
屋根(835)　妻側の屋根の頂部破片である。風化のため調整等は不明であるが２条の沈線が縦方向に施され押縁を表現している。836は平側の屋根の頂部である。押縁を表現したとみられる沈線がみえるが沈線は１条ずつである。ヨコハケが散見される。

ｄ　古墳の造営時期

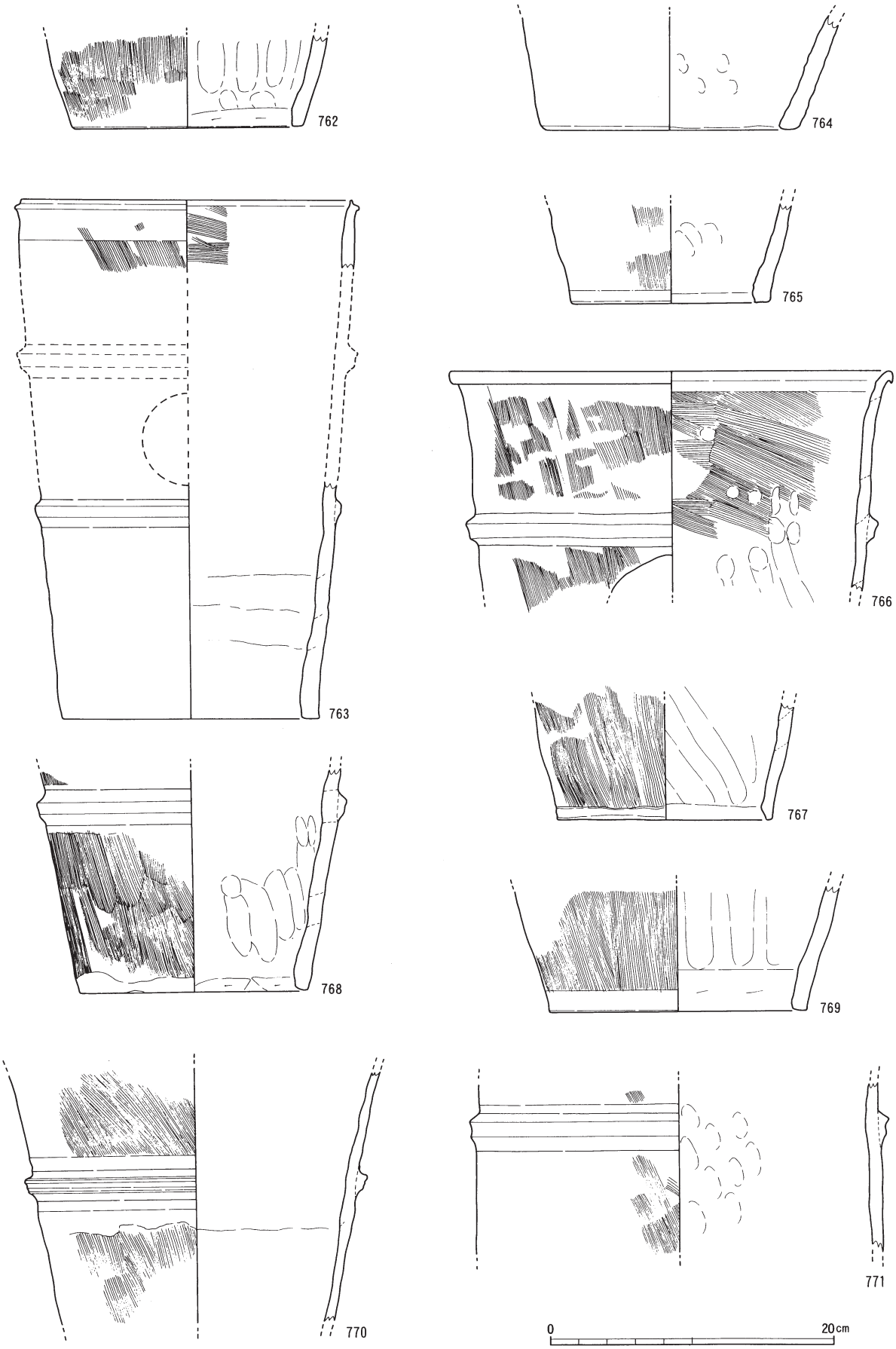
墳丘から出土した須恵器から、13号墳の造営は田辺編年によるＴＫ216型式に併行する時期としてとらえたい。これは短甲や鉄鏃といった鉄製品、埴輪の特徴からしても整合性をもつ。　(豊田)



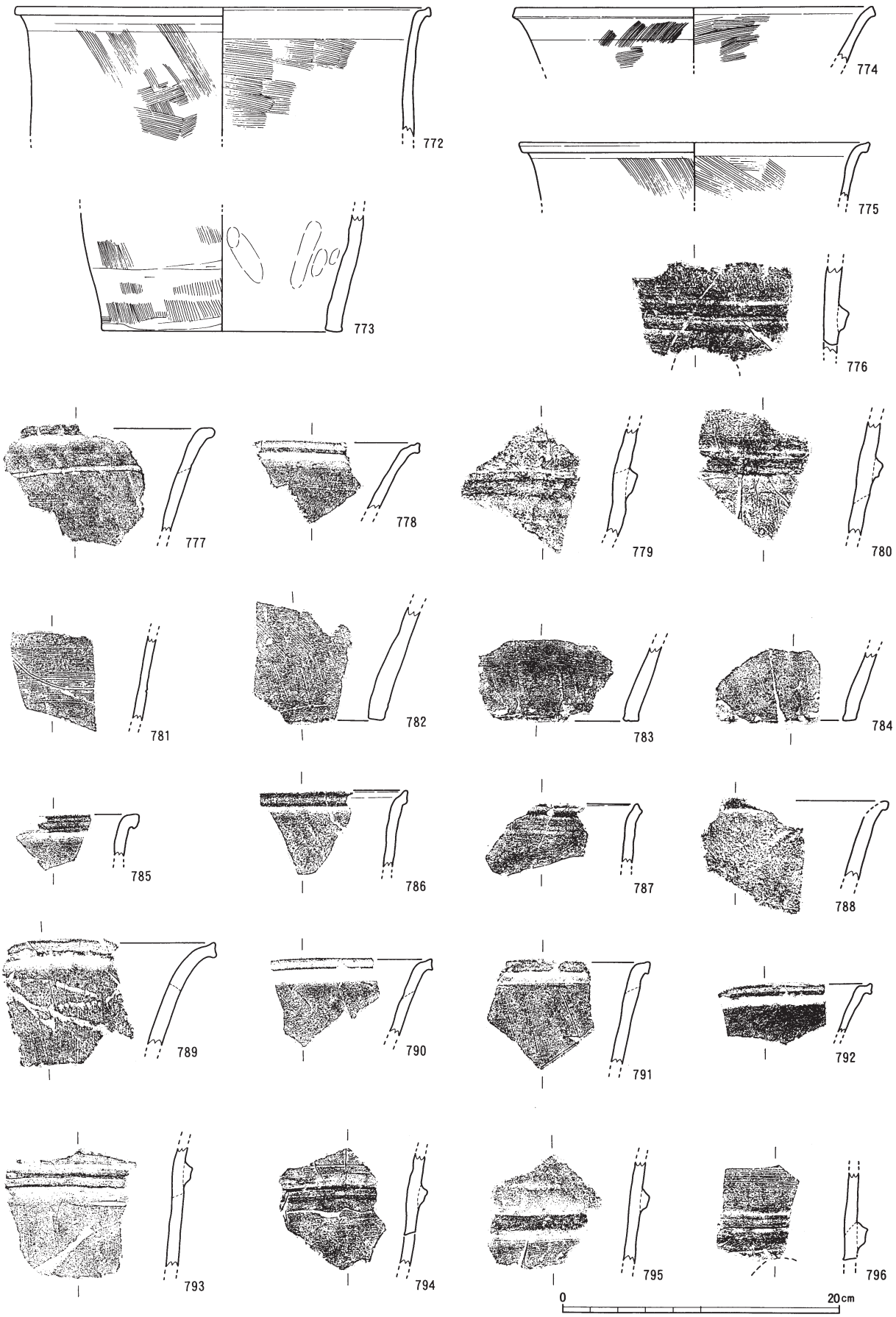
第71図　出土遺物実測図　小谷13号墳(10)　埴輪（1：4）



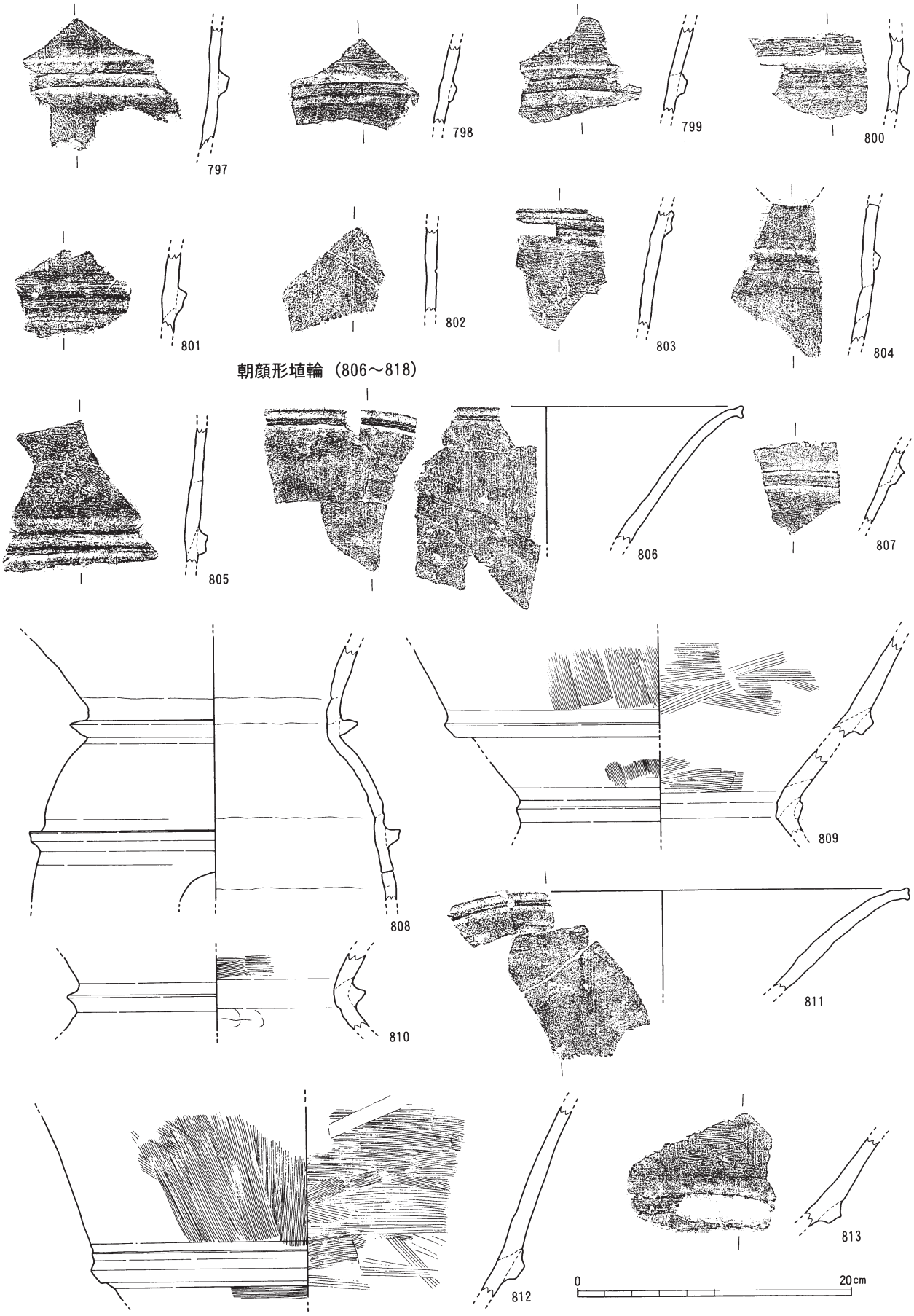
第72図　出土遺物実測図　小谷13号墳(11)　埴輪（1：4）



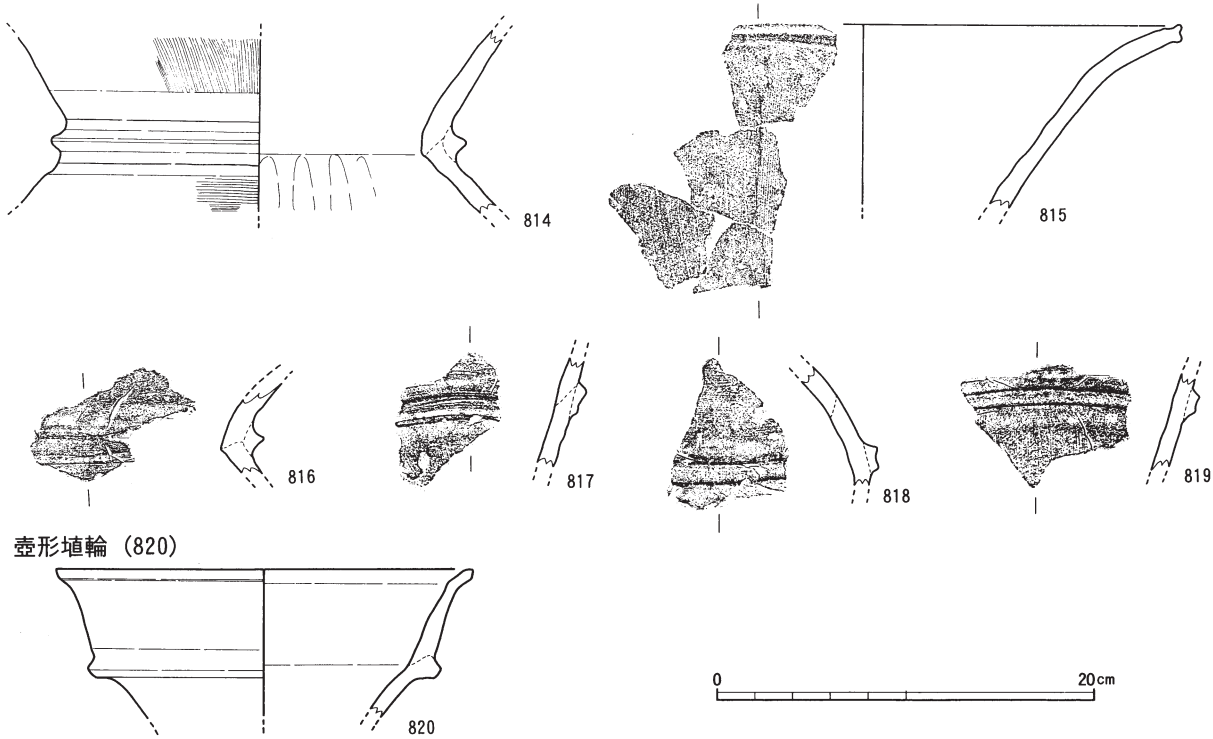
第73図　出土遺物実測図　小谷13号墳(12)　埴輪（1：4）



第74図　出土遺物実測図　小谷13号墳(13)　埴輪（1：4）



第75図　出土遺物実測図　小谷13号墳(14)　埴輪（1：4）



第76図　出土遺物実測図　小谷13号墳(15)　埴輪（１：４）

〔註〕

⑴　小林謙一「甲冑製作技術の変遷と工人の系統（上・下)」(『考古学研究』第20巻第４号・第21巻２号　1974年)

⑵　鈴木一有「三角板系短甲について－千人塚古墳の研究－」(『浜松市博物館館報Ⅷ』1996)

⑶　滝沢　誠「鋲留短甲の編年」(『考古学雑誌』　第76巻第３号　1991)

⑷　吉村和昭「短甲系譜試論－鋲留短甲導入以後を中心として－」(『橿原考古学研究所紀要考古學論攷』第13冊　1988)

⑸　高橋　工「東アジアにおける甲冑の系統と日本－特に５世紀までの甲冑製作技術と設計思想を中心に－」(『日本考古学第２号』1995年)

⑹　池淵　俊一「鉄製武器に関する考察」(『古代文化研究』第１号　1993年)

⑺　川上　博子「畿内における古墳出土の刀剣について」(『古代武器研究』) Vol. 1　古代武器研究会・滋賀県立大学考古学研究室　2000年

⑻　杉山　秀宏「古墳時代の鉄鏃について　(『橿原考古学研究所論集』第８　吉川弘文館　1988年)

⑼　都出　比呂志　(『日本農耕社会の成立過程』岩波書店　1989年)

⑽　宇野　慎敏「鑷子考」(『末永先生米壽記念獻呈論文集（乾)』1985年)

⑾　亀田　博「竪櫛」(『末永先生米壽記念獻呈論文集（乾)』1985年)

⑿　篠原祐一「臼玉研究私論」(『研究紀要』第３号　財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995年)

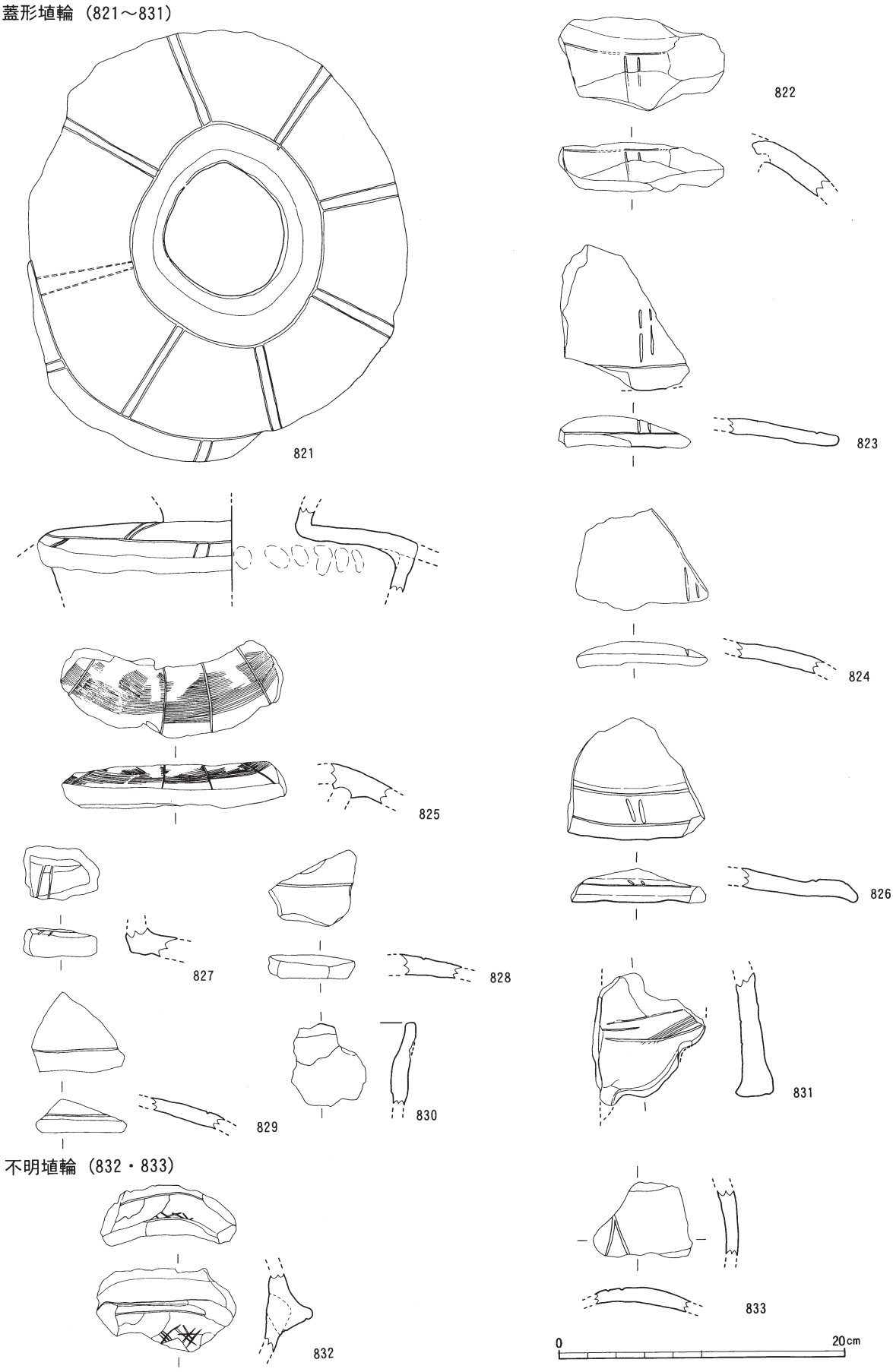
⒀　調整方法の呼称については川西宏幸氏の区分にならう
　川西宏幸「円筒埴輪総論」(『考古学雑誌』第64巻第２号 1978年)

⒁　部分名称については下記の文献にならう
　松木武彦「蓋形埴輪の変遷と画期」(『鳥居前古墳－総括編－』大阪大学文学部考古学研究室　1990年)

⒂　高橋克壽氏、穂積裕昌氏にご教示戴いた。

⒃　家形埴輪については以下の文献を参考にした。
宮本長二郎「建築史としての家形埴輪」(『日本の美術第348号家形はにわ』1995年)、宮本長二郎「古墳時代の家形埴輪」(『日本原始古代の住居建築』中央公論出版　1996年)、伊藤友久「建築部材」(『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告37上信越自動車道埋蔵文化財発掘報告12　長野市内その10　榎田遺跡第２分冊（本文編Ⅱ)』日本道路公団・長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター)

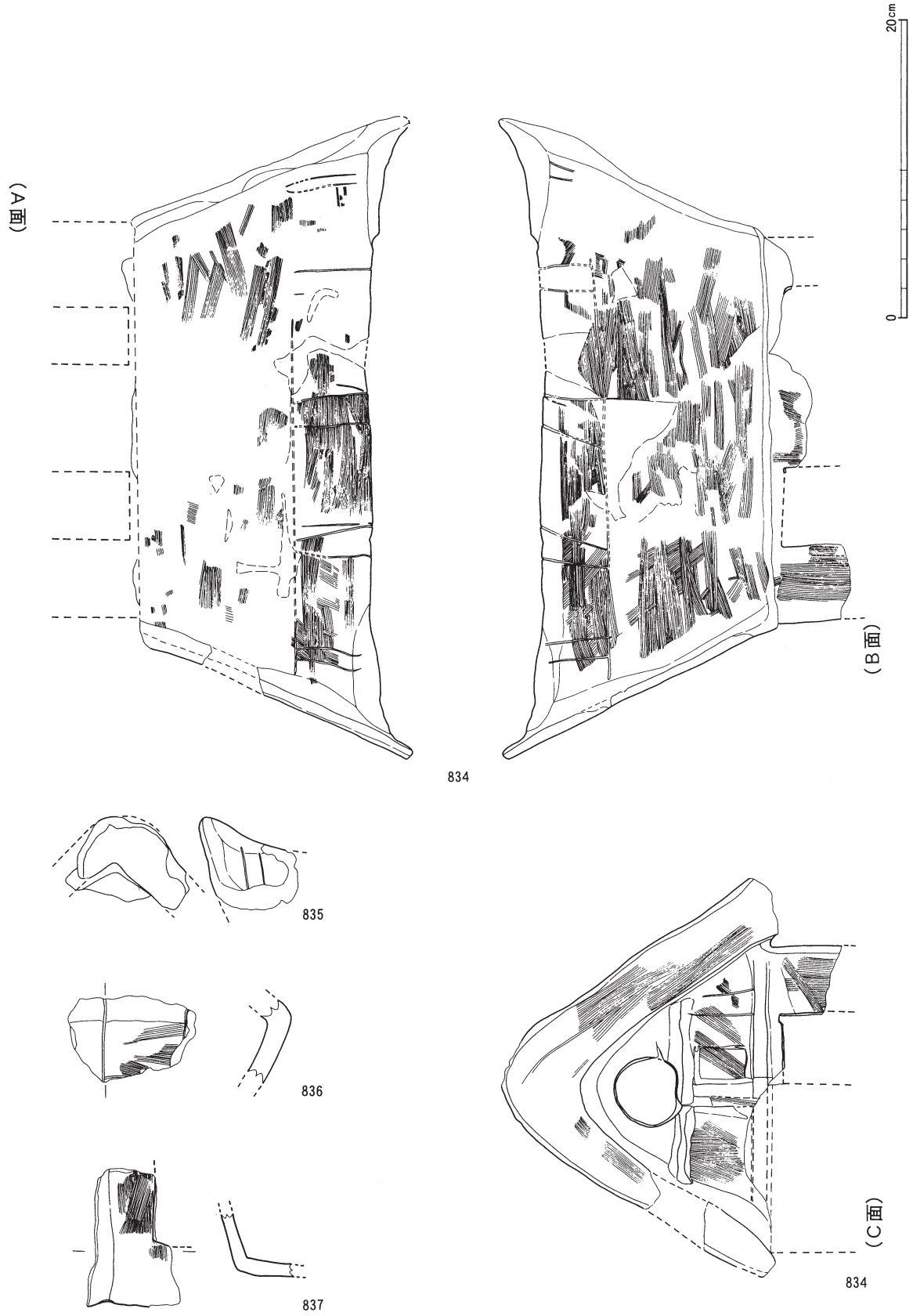
蓋形埴輪（821～831）



不明埴輪（832・833）

第77図　出土遺物実測図　小谷13号墳(16)　埴輪（1：4）

家形埴輪（834～837）



第78図　出土遺物実測図　小谷13号墳(17)　埴輪（1：4）

9　小谷24号墳

a　墳丘・関連施設

①　墳丘

24号墳は、丘陵東端に集中する東支群のうち、最北端に位置している。

調査前はわずかに墳丘の高まりが確認できる程度であり、標高が37.8mであった。墳径は約12.0mの円墳であると思われた。調査後の測量で直径約11.5mの円墳であることが明らかとなった。表土を除去すると、墳頂には小規模の墳丘の割に大きく盗掘された撹乱坑が確認でき、埋葬施設の遺存状況は期待できそうになかった。今回の事業で開削されるのは24号墳全体の1/4程度であり、事業計画範囲は墳頂の盗掘坑まで達しないものである。

墳丘は盛土により行われていることが、南北断面とそれに直交して西へ設けた土層確認ベルトで観察できた。基盤は黒褐色土で表層から約1.0m下げてこの黒褐色土に到達する。さらに表層から約1.2mで地山の橙褐色土となる。盛土の厚さは約1.0mで、各層の盛土は粘性の少ない、黒褐色土に地山の橙褐色土のブロックが混じる土で、縁辺でやや高めに盛った中にほぼ水平な互層で盛土がなされていた。各層を盛っていく途中段階での叩き締めはなされていないものと思われる。盛土内には、弥生土器が少量含まれるのみであった。墳丘の西側で黒褐色土の第１層盛土がなされる前に墳丘から周溝にかかる法面に炭化材を多く含む炭溜まりが検出されたが、炭化材のみで土器等を伴うものではなかった。

②　周溝

24号墳の調査前に行った測量調査時には、周溝の痕跡は凹みが浅かったため不明瞭ではあったものの、西半については巡ることが予測されるものであった。調査後明らかになった周溝は幅が2.0～2.5mで、他の古墳に比べて周溝の深さが浅く、南側では２段構成を意識したものかと思われるが、北半に２段構成を意識した気配は見うけられなかった。周溝の北面に、約30㎝大の川原石が２個出土した。掘形は確認できなかったが、天花寺城期の建物に関わるものである可能性がある。この周溝内からは、南西側から須恵器甕口縁破片(838・839)が出土している。

b　埋葬施設

調査範囲が墳丘の中心にまで及ばなかったものの、２基の埋葬施設が、東-西に主軸をおいて南北に並列することが明らかとなった。墳頂から約25㎝下がったところから検出し、相互の埋葬施設に重複関係はみられない。

①　埋葬施設１

墳丘中央やや北寄りで検出された埋葬施設である。墓壙掘形は、盛土の表層を除き、黒褐色土の最終盛土から２番目の盛土層上面から掘削を始めている。墓壙掘形の規模は短軸1.5m、長軸方向は1.4mまでを確認しており、長楕円形になるものと思われる。掘形外縁の埋土は黒褐色土に橙褐色粘質土のブロックが含まれるもので、この内側に、棺を覆っていたと考えられる泥岩のブロックが混じった黒褐色土が叩き締めをされている範囲が観察できたが、その内側の棺跡は確認されなかった。そこで、墳頂の根株を避けて控えていた調査範囲を、事業計画線まで拡張したところ、棺木口板である板石の西端面を確認した。

これより東へ向けて棺跡があるものと考えられる。しかしその上面にあたるところに墳頂からみえる盗掘坑があり、棺内を大きく撹乱されている可能性が高い。この板石を確認したことで推定できる墓壙の規模は、他の板石をもつ主体部の規模から推定すると、長軸方向は5.0m前後、棺跡の規模は板石間が3.5～4.0mの埋葬施設になるものと考えられる。

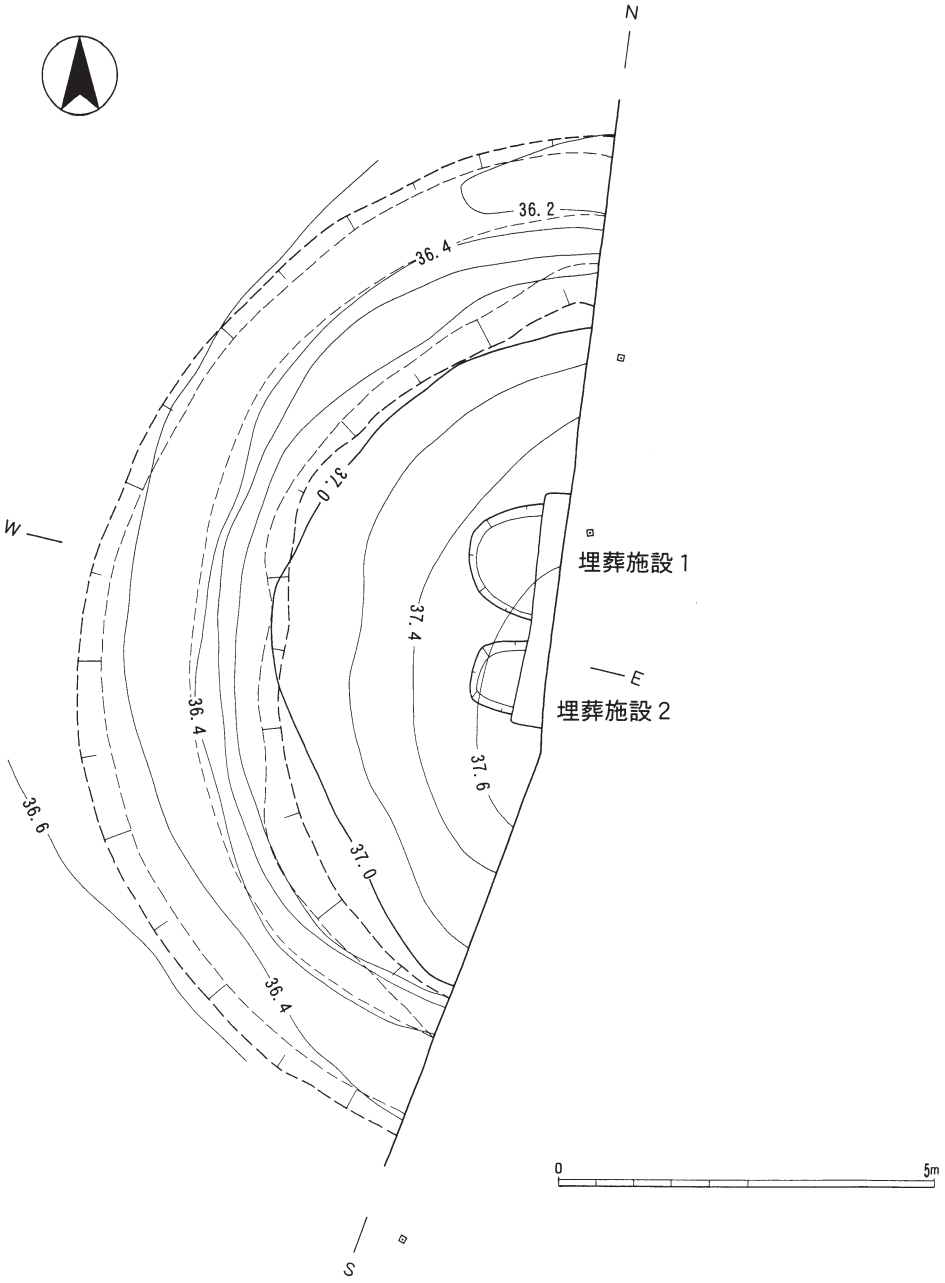
この墓壙西端での、埋葬施設に伴う土器等の副葬遺物は見られなかった。

②　埋葬施設２

埋葬施設１の南約0.3mに、埋葬施設１と同様、最終の黒褐色土から2番目の土層上面から掘削を始めている。

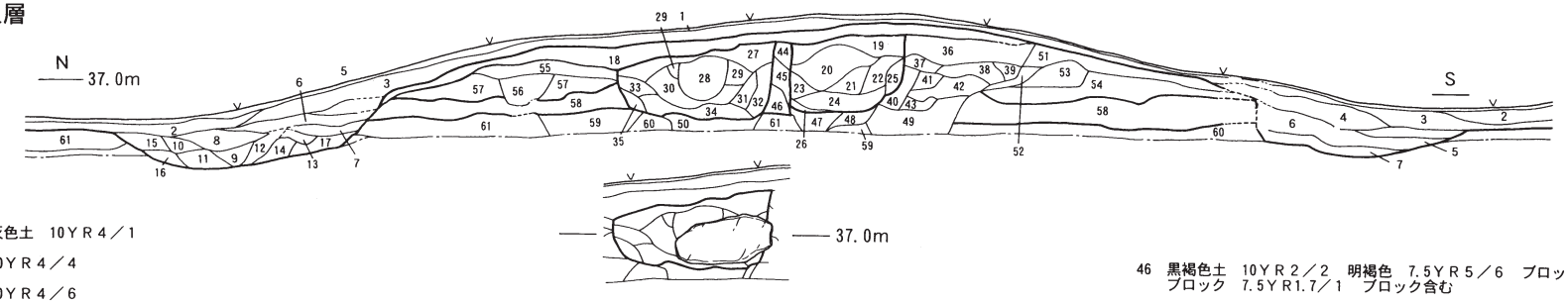
墓壙掘形の規模は、短軸方向で1.0m、長軸方向で1.0mのみを確認している。墓壙掘形の埋土は黒褐色土で橙粘質土のブロックを含む。その中で泥岩のブロックを含んだ叩き締めの痕跡の端部が確認でき、この内側が棺跡であろうと思われる。

棺跡は、短軸が0.48m、長軸方向は0.6mしか確



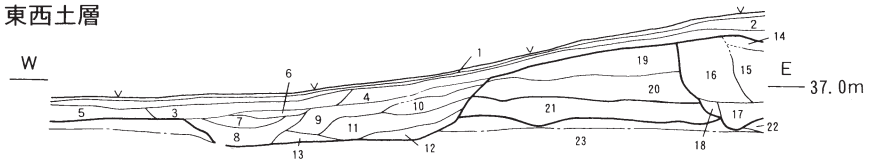
第79図　小谷244号墳　墳丘測量図（1：100）

南北土層



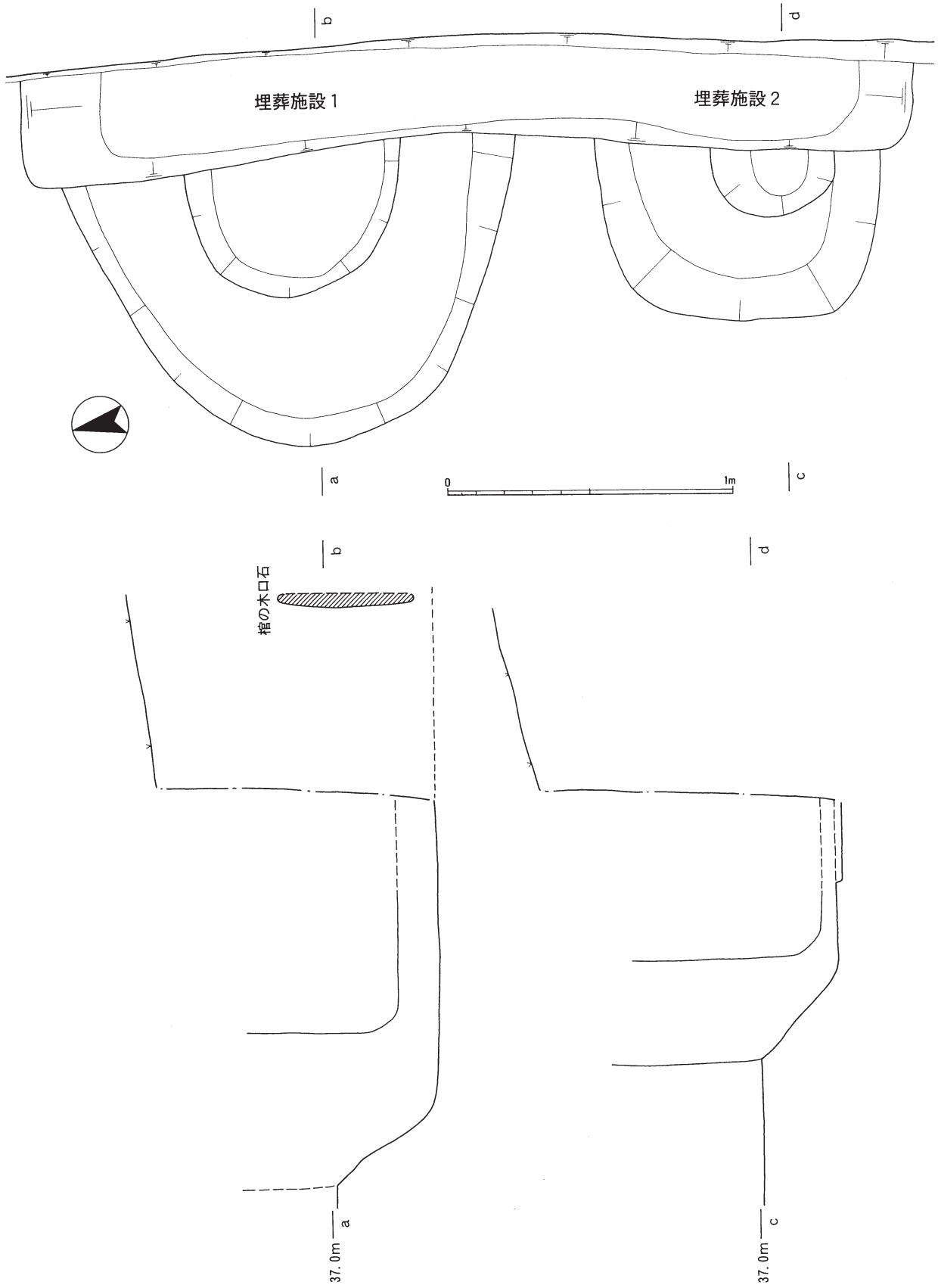
1　表土　褐灰色土　10ＹＲ４／１
2　褐色土　10ＹＲ４／４
3　褐色土　10ＹＲ４／６
4　暗褐色土　10ＹＲ３／４
5　褐色土　7.5ＹＲ４／６
6　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２　炭粒含む
7　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色粒含む
8　暗褐色土　10ＹＲ３／３　炭粒含む
9　黒褐色土　10ＹＲ２／２　砂粒含む
10　黒褐色土　10ＹＲ２／３
11　黒色土　10ＹＲ２／１　炭粒・砂含む
12　黒褐色土　10ＹＲ２／３
褐色　7.5ＹＲ４／６　ブロック含む
13　黒褐色土　10ＹＲ２／２
14　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色粒含む
15　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
16　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
17　暗褐色土　10ＹＲ３／４　褐色
7.5ＹＲ４／４　ブロック含む、小石混じり
18　暗褐色土　10ＹＲ３／４
19　暗褐色土　10ＹＲ３／４　暗褐色粒含む
20　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色　7.5ＹＲ５／８
ブロック、黒　2.5Ｙ２／１　ブロック少量含む
21　暗褐色土　10ＹＲ　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック、
砂含む
22　褐色土　7.5ＹＲ４／６　にぶい黄褐色　10ＹＲ４／３
ブロック、砂含む
23　黒色土　2.5Ｙ２／１
24　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色　7.5ＹＲ５／８ブロッ
ク、黒色　2.5Ｙ２／１　ブロック、砂含む
25　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色　7.5ＹＲ５／８ブロッ
ク、砂含む
26　黒色土　2.5Ｙ２／１　砂含む
27　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色粒・砂粒含む
28　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色ブロック
7.5ＹＲ５／８　小含む
29　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐ブロック　7.5ＹＲ５／８
大、黒　10ＹＲ２／１　ブロック含む
30　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色・黒粒含む
31　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２　明褐色粒含む
32　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色　7.5ＹＲ５／６、砂
粒含む
33　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色粒含む
34　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色　7.5ＹＲ５／６、
黒色　7.5ＹＲ1.7／１ブロック含む
35　黒褐色土　10ＹＲ２／２
36　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色　7.5ＹＲ５／８ブロッ
ク含む
37　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　7.5ＹＲ４／６　ブロッ
ク含む
38　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　7.5ＹＲ４／６、
黒　2.5Ｙ２／１　ブロック含む
39　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色粒含む
40　黒褐色土　10ＹＲ２／３　明褐色　7.5ＹＲ５／８、
黒色　2.5Ｙ２／１　ブロック含む
41　黒色土　7.5ＹＲ２／１　明褐色　7.5ＹＲ５／６ブロッ
ク含む
42　黒色土　10ＹＲ1.7／１　暗褐色　10ＹＲ３／３ブロッ
ク含む
43　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色粒含む
44　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色粒含む
45　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色　7.5ＹＲ５／６ブロッ
ク含む
46　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック小　黒色
ブロック　7.5ＹＲ1.7／１　ブロック含む
47　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３　砂粒含む
48　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック含む
49　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　7.5ＹＲ４／４　ブロック、砂粒含む
50　暗褐色土　10ＹＲ３／３　褐色　7.5ＹＲ４／４　ブロック、砂粒含む
51　暗褐色土　10ＹＲ３／４　砂、褐色粒含む
52　褐色土　7.5ＹＲ４／６
53　黒褐色土　10ＹＲ２／２　明褐色　7.5ＹＲ５／８　ブロック含む
54　黒色土　10ＹＲ1.7／１　褐色　10ＹＲ４／４　ブロック含む
55　暗褐色土　10ＹＲ３／４　明褐色　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む
56　暗褐色土　10ＹＲ３／３　褐色　10ＹＲ４／６、黒色　2.5Ｙ２／１
ブロック含む
57　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色　7.5ＹＲ５／６、黒色
2.5Ｙ２／１　ブロック含む
58　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　10ＹＲ４／６、黒色　10ＹＲ1.7／１
ブロック含む
59　暗褐色土　10ＹＲ３／３　褐色　7.5ＹＲ４／４、黒色　10ＹＲ２／１
ブロック含む
60　褐色土　7.5ＹＲ４／６　暗褐色　10ＹＲ３／３　ブロック、砂粒含む、
粘質土
61　暗オリーブ褐色土　2.5Ｙ３／３　褐色　7.5ＹＲ４／４　ブロック、
炭粒含む

東西土層



1　表土　褐灰色土　10ＹＲ４／１
2　褐色土　10ＹＲ４／６
3　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３
炭粒少量含む
4　暗褐色土　10ＹＲ３／４
5　暗褐色土　10ＹＲ３／３
6　黒褐色土　10ＹＲ２／２
7　暗褐色土　10ＹＲ３／４
8　黒褐色土　7.5ＹＲ３／２
黄色粒少量含む
9　暗褐色土　10ＹＲ４／３　炭粒・褐色　7.5ＹＲ４／４　ブロック含む
10　黒褐色土　10ＹＲ２／３
11　黒褐色土　10ＹＲ２／２
12　黒褐色土　7.5ＹＲ
明褐色土　7.5ＹＲ５／６　ブロック含む
13　褐色土　7.5ＹＲ４／６
14　にぶい黄褐色土　10ＹＲ４／３
明褐色　7.5ＹＲブロック少量含む
15　暗褐色土　10ＹＲ３／３　明褐色　7.5ＹＲ５／８
ブロック含む
16　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２　褐色　10ＹＲ４／４　粒含む
17　暗褐色土　10ＹＲ３／４　橙色　7.5ＹＲ６／６
ブロック含む
18　黒褐色土　10ＹＲ２／３　褐色　7.5ＹＲ４／４
ブロック含む　砂粒含む
19　暗褐色土　10ＹＲ３／４　褐色粒含む
20　黒色土　10ＹＲ２／１　褐色　10ＹＲ４／４
粒含む
21　暗褐色土　10ＹＲ３／４　褐色　7.5ＹＲ４／４
黒褐色　10ＹＲ２／２　ブロック含む
22　褐色土　7.5ＹＲ４／３　橙色　7.5ＹＲ６／６
ブロック含む
23　褐色土　7.5ＹＲ４／６　明褐色　7.5ＹＲ５／６
ブロック含む

0　4m



第81図　小谷24号墳　埋葬施設１・２　平面・断面図（１：20）

認できておらず、西端の一部を確認したのみにすぎず、短軸方向もやや幅が広がる可能性もある。土層断面の観察から、板石は用いないが、割竹形木棺の直葬に代よる埋葬施設であったものと考えられる。したがって埋葬施設に伴う副葬遺物も調査した範囲ではみられなかった。

c　出土遺物

前述のように埋葬施設に伴う副葬遺物はなかったが、周溝南側から出土した須恵器甕が2点ある。

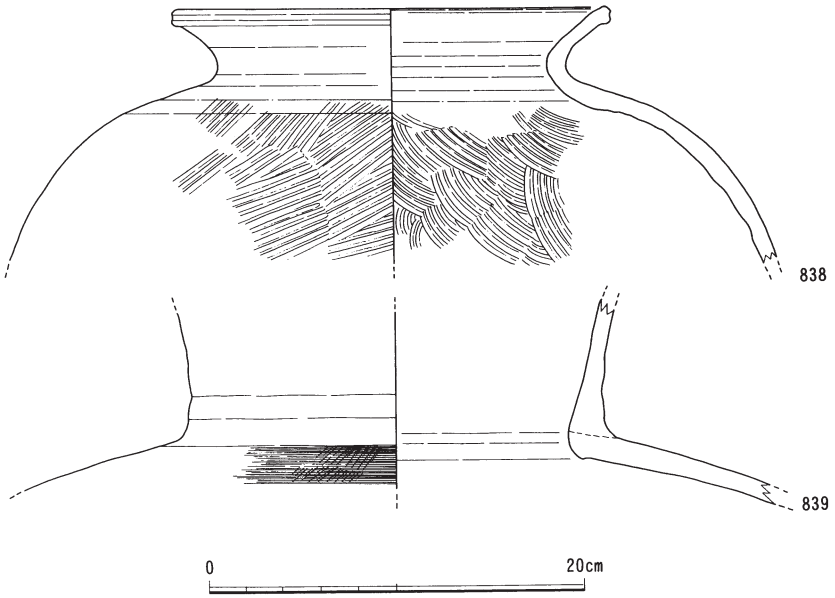
須恵器甕(838・839) 838は口径約23.0cmで口縁部から体部へ至る肩までが残存する。外面は平行タタキ、内面には同心円状のタタキ痕跡が残る。

839は同じく口縁から肩までが残存するもので、口縁端部も欠損して口径不明である。外面には平行タタキ後にカキメを施しており、内面の残存部には工具の当痕跡はみられず、口縁部のロクロナデがみられるのみである。

d　古墳の時期

古墳の時期については、出土遺物が須恵器の甕２点しかなく、時期の限定が難しいが、古墳時代後期に属することには違いないものと考える。埋葬施設に板石を用いた埋葬方法をとっていることから、近接する９号墳の埋葬施設２・10号墳の埋葬施設１と同様の時期の造作と捉えられるのではなかろうか。

(大川)



第82図　出土遺物実測図　小谷24号墳（１：４）

10　土壙墓

土壙墓は計８基を確認した。木棺の痕跡が確認できたものは、ＳＸ350・351・358・381・392・399の６基、また、木棺の痕跡を明らかにし得なかったが遺構としては捉えられたＳＸ354・393、さらに弥生時代後期の竪穴住居ＳＨ390上面において輪郭は検出し得なかったものの、土壙墓があったと推測できる遺物の一群ＳＸ398がある。このうち、副葬遺物を伴ったＳＸ350・381・393・392・398を中心に概述する。

ａ　ＳＸ350

①　遺構

11号墳の南西約6.0mの場所に、墓壙の規模が、長軸2.6m、短軸1.1m、北西-南東の主軸をもつ土壙墓である。墓壙内に長軸1.6m、短軸0.7m規模の木棺痕跡が確認できた。この木棺内の埋土は黒色土にわずかに橙褐色土の粒が入るもので、棺外墓壙内の埋土は黒色土に橙褐色土の大きめのブロックが入る。棺の底部にはやや締まった埋土があった他は古墳埋葬主体でみられた棺周辺の叩き締めは顕著に検出されなかった。また棺の底部まで30㎝弱しかなく、棺の形状については、土層断面から箱型の木棺であった可能性が考えられる。副葬遺物としては、棺内に鉄鏃が２本、切先を西に向け出土した。また、棺外西端墓壙内に須恵器の杯身蓋４セットが、２個体づつ並列して置かれていた。棺の底部から５～10㎝上面で出土したことから、棺を据え、徐々に墓壙内を埋める途中段階で副葬されたものと思われる。

②　ＳＸ350出土遺物

鉄鏃(840・841)　２本とも平造の三角形鏃で、鏃身関は撫角関、茎関は840が角関、841が棘状関となっている。841は矢柄が良く残り、木柄を装着して樹皮による口巻きを茎関から3.9㎝施しているのがわかる。銹化により一部は膨らんで欠損し、中空になっている。　(山岡)

土器(842～850)　棺外墓壙内の須恵器杯身蓋４セットがある。844・845以外は、蓋および身の一部を打ち欠いた痕跡がある。844・845は蓋・身ともに完形であり開口部がなかったため、Ｘ線透過撮影を行ったがわずかに土が見られた他は何も検出できなかった。その他の842・843、846・847についても杯身あるいは蓋の一部に意図的に打ち欠いた痕跡が認められる。848・849については、蓋が約1/2個体欠損していたため、残存する蓋をはずし、身内部の土を除去し始めたところ内部から土師器小椀が出土した。身内部で原位置を保ったまま押圧で割れていたもので、接合復原した小椀（850）の器高は、外容器の須恵器杯身（849）と蓋（848）を合わせた時の内部空間の高さをわずかに上回るもので、須恵器杯蓋(848）が若干持ち上げられた状態で副葬されたものと考えられる。この小椀（850）は遺存状態が極めて悪く、合成樹脂で強化しながら、器形の現状をできるだけとどめたまま検出を行った。このとき、小椀内部からは土の他は検出されなかった。須恵器はＴＫ43型式に属するものであるとみられる。(大川)

ｂ　ＳＸ351・ＳＸ354・ＳＸ358・ＳＸ399

ＳＸ351　主軸をＳＸ350と同じ北西‐南東方向におく。東半を根株に撹乱されて、墓壙・棺跡ともに輪郭が不明瞭であるが、ＳＸ350とほぼ同規模のものと思われる。残存する西半に副葬遺物は残存しておらず、詳細が不明であるが、ＳＸ350と平行に並ぶことからＳＸ350に近い時期の土壙墓と考えたい。

ＳＸ354　11号墳周溝内で検出した。木棺痕跡を確認できなかったが、遺構の方位も周溝に揃えているため、古墳関連の土壙墓と判断した。

ＳＸ358　検出位置が11号墳、ＳＸ350等とはやや離れた位置にあり、主軸も東－西にとっていることから、ＳＸ350・351とはやや時期を違える可能性はあるものの、棺跡は明確にできたが、副葬遺物はなく、詳細な時期については不明である。しかし、墓壙・棺跡の規模はＳＸ350に近く、ほぼ同時期の土壙墓である可能性が高いものと考えられる。

ＳＸ399　小谷９号墳西側で検出した。棺痕跡を確認できたため土壙墓と認識したが、副葬品はみられなかった。

Ｃ　ＳＸ381

①　遺構

小谷24号墳の周溝北西側にある土壙墓である。短軸1.2m、長軸2.8mの墓壙内で短軸0.6m、長軸1.7mの棺跡を確認した。棺跡の四周は、古墳の埋葬施

設同様泥岩のブロックを混ぜた黒褐色土で叩き締めを行っていた。とくに副葬遺物を設置していた棺の東端側は棺木口から墓壙掘形までの間に他三辺とは幅広く叩き締められていた。墓壙内の土層断面の観察からこの木棺痕跡は箱式木棺とみられるが、古墳の埋葬施設と同様の叩き締めが行われるのは、この造作が棺の形状を問わずに行われる作業工程であったものと思われる。棺内の南側面で根株による撹乱を受ける他は副葬遺物の出土状況も良好に観察できるものである。副葬遺物は、棺内の中央やや東に土師器の椀（851）、中央やや西に須恵器壺（852）が出土している。また棺外東端では棺を設置して10cmほど埋めたところで叩き締めをしている範囲内に土師器の脚台を打ち欠いた台付甕底部（854）と刀子もしくは工具と思われる鉄製品（853）が、また叩き締めの範囲外で同じく墓壙東端・棺東隅の延長に須恵器杯身（855・856）が正位で、棺の中軸延長にあたる墓壙内に、土師器長胴甕の体部下半（857）・台付甕（858）が副葬されていた。858はやや口縁を墓壙東端側へ倒し、ほぼ正位で据えられたところへ857で口縁を覆うように被せられた状況で出土したものである。

②　ＳＸ381出土遺物

刀子(853)　残存長6.2cm、最大厚1.8cmである。把の木質のほか把縁装具と思われる幅1.0cmの部材[1]が残存する。刀子片としているがＸ線写真による観察では明確な関が確認できず、把の構造も他の刀子のものとは異なるようにもみえることから、小型の農工具類である可能性も考えられる。　(山岡)

土師器椀(851)　器壁が大変薄く、黄褐色である。11号墳の埋葬施設２で出土した土師器椀（352～358）と同じ調整で、法量も近似する。

須恵器壺(852)　口縁端部が打ち欠かれており、埋土からも破片の出土はなかった。肩部から体部中程までカキメを施し、肩部の最も張り出すところに上下各１本づつ幅３㎜の沈線を巡らせて幅1.5cmの区画をつくりここに櫛状工具による刺突１段を施す。

須恵器杯身(855・856)　口径・器高ともほぼ同様の法量の杯身である。いずれも蓋は伴わない。855の底部外面に「Ｎ」のヘラ描きがある。

土師器長胴甕(857)　体部上半～口縁にかけての破片は埋土に含まれていなかったため、副葬時から体部下半のみであったものと思われる。

台付甕(858)　被された長胴甕（857）とのわずかな隙間から台付甕内部には土が流入してきており、形状は保っていたものの上方は土圧により割れてはいたが、接合で体部は完形復原できる。脚台は検出当初から脚台径の1/3ほどが半月状に欠失していて、墓壙内埋土に破片はなく、副葬時点で打ち欠きをしたものと考えられる。この台付甕は赤塚次郎氏の分類[2]によるＤ類の最終末期に相当するものと考えられ、須恵器（855・856）との共伴が注目される。

台付甕(854)　台付甕の体部下半であり、脚部を打ち欠かれた状態で、正位で据えられていたもので、土圧により割れていた。台付甕（858）に比べやや焼成不良で、淡黄褐色の器壁の遺存状況は悪い。

ｄ　ＳＸ392・393・398の遺構と遺物

ＳＸ392　規模は他の土壙墓とほぼ同規模である。棺内で須恵器蓋（859）が出土した。この上面から須恵器蓋（860・861）が出土しており、859の打ち欠きされたツマミからこのいずれかと身・蓋のセットとして副葬されていたことがうかがえる。

ＳＸ393　この土壙墓のみ、規模が他とは異なる。副葬されたとみられる須恵器短頸壺（862）の肩部には「川」の字形のヘラ描き記号が、また長頸壺(863）は口縁が全周打ち欠きされる。

ＳＸ398　墓壙の規模は認識できなかったが、864～867の須恵器が副葬品であると考えられる。867の口縁は打ち欠きされたものとみられる。このほかにカキメの施される瓶類破片等も出土している。

ｅ　土壙墓の時期

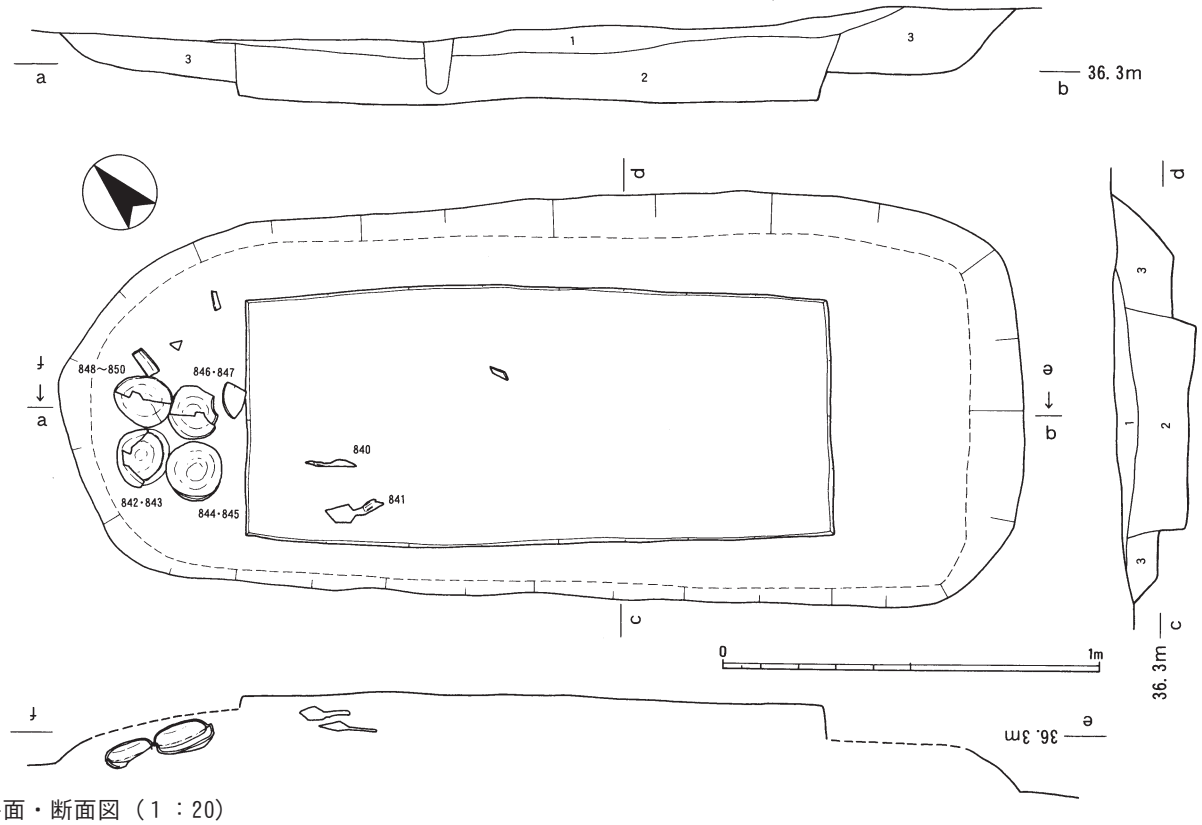
ＳＸ350とＳＸ381は、出土須恵器から田辺編年によるＴＫ43型式併行時期と考えられよう。また、ＳＸ392・ＳＸ393・ＳＸ398については、上記の土壙墓に引き続いて古墳末期（７世紀代）の造営と考えられる。　(大川)

〔註〕

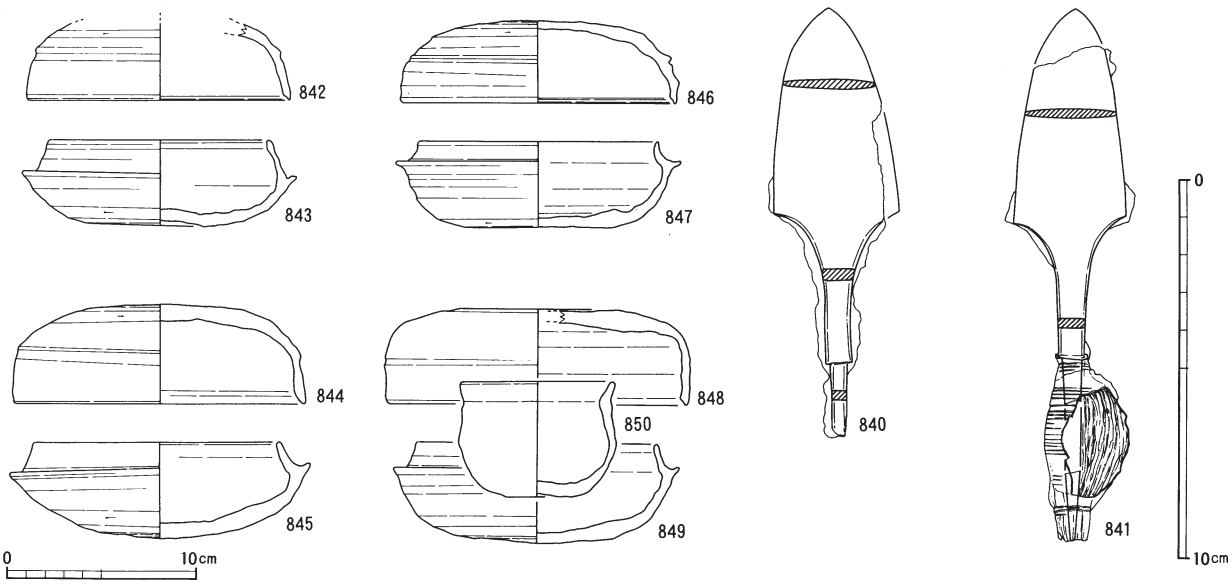
(1)　明確に把縁装具が認識できるものの、材質について蛍光Ｘ線等による分析を試みたが特定できるデータは得られなかった。

(2)　赤塚次郎「廻間式土器」(『廻間遺跡』（財)愛知県埋蔵文化財センター　1990年)

1　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２（炭化物含む）
2　暗褐色土　7.5ＹＲ２／３（明褐色土ブロック混じり）
3　暗褐色土　7.5ＹＲ３／３（橙色土ブロック混じり）

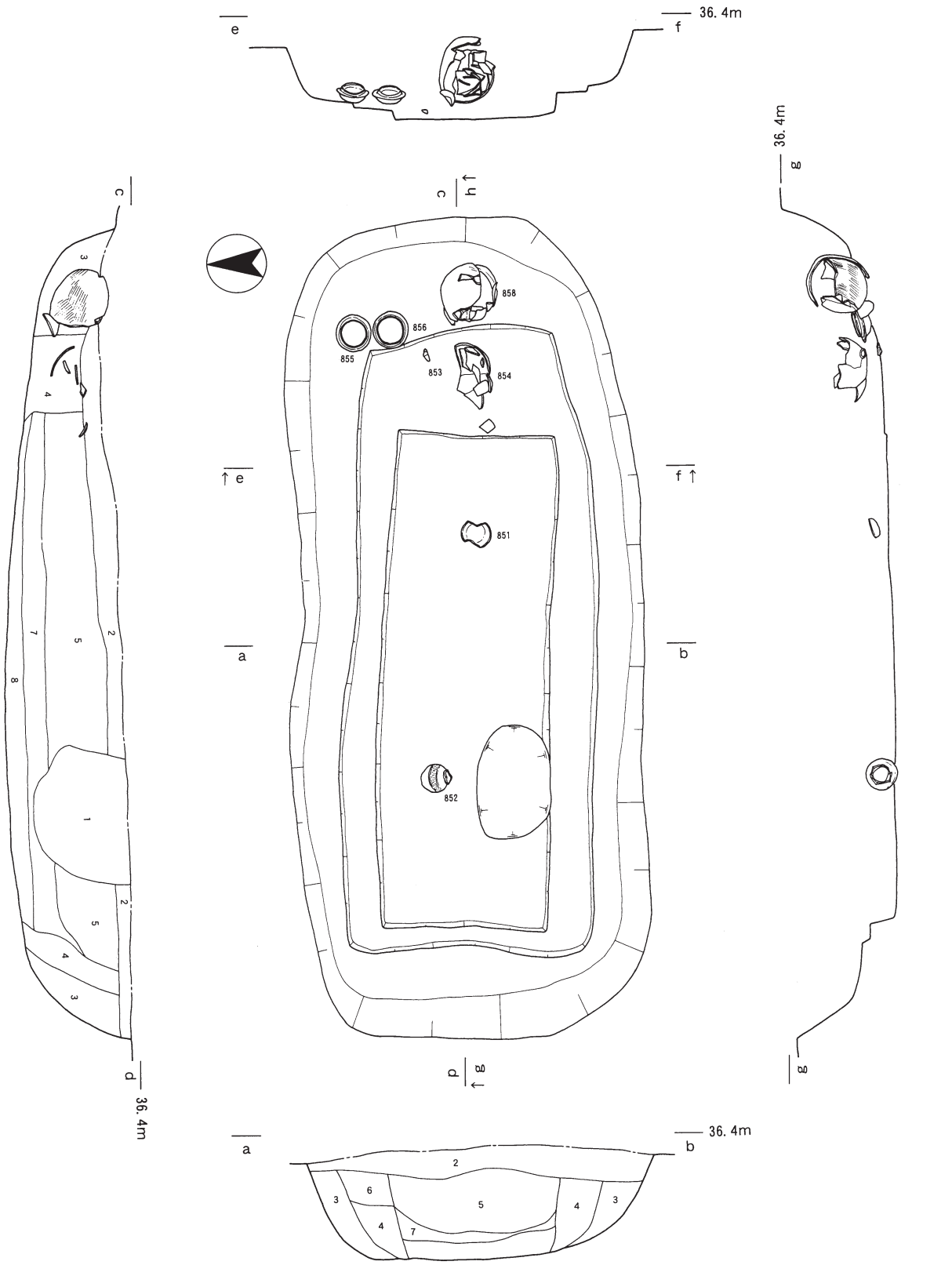


平面・断面図（１：20）



遺物実測図（840・841は１：２　ほか１：４）

第83図　土壙墓ＳＸ350関係図



1　黒色土　10ＹＲ２／１

2　黒色土　7.5ＹＲ２／１（表土）

3　暗褐色土　10ＹＲ３／３（掘形埋土）

4　黒褐色土　10ＹＲ２／２　褐色　7.5Ｙ４／６ブロック含む（掘形タタキシメ）

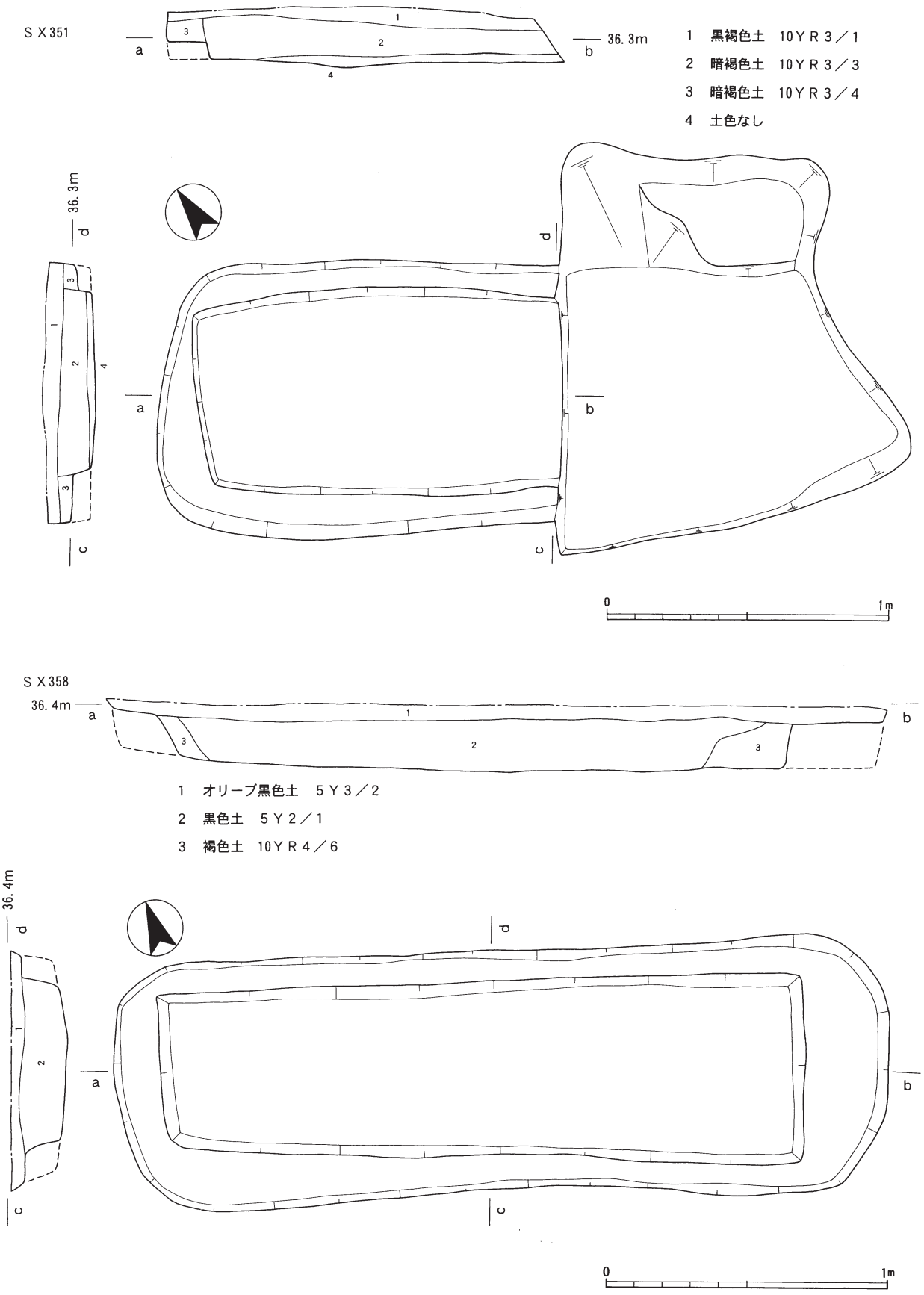
5　黒色土　10ＹＲ1.7／１（棺跡）

6　黒色土　10ＹＲ２／１（棺底土）

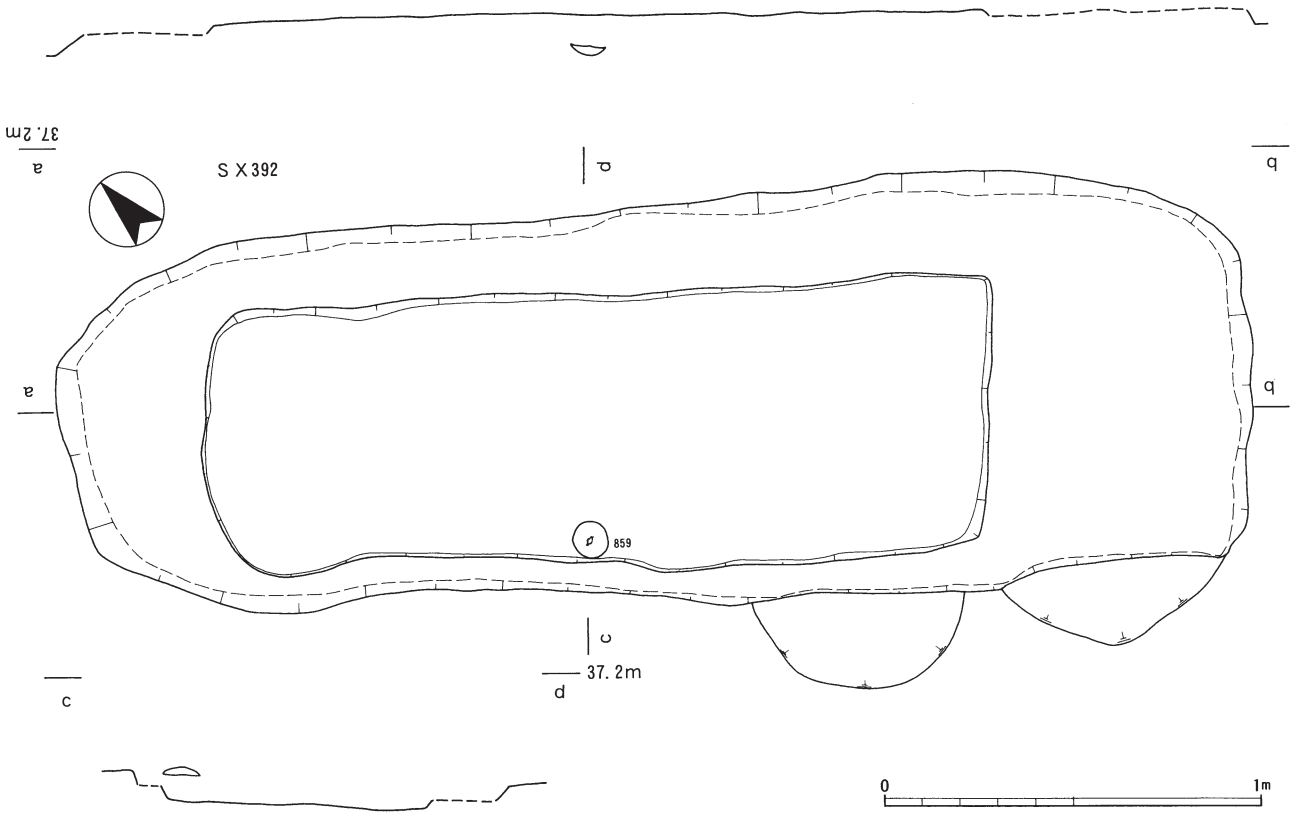
7　灰オリーブ色土　５Ｙ４／２　明赤褐色　５ＹＲ５／８　ブロックを含む

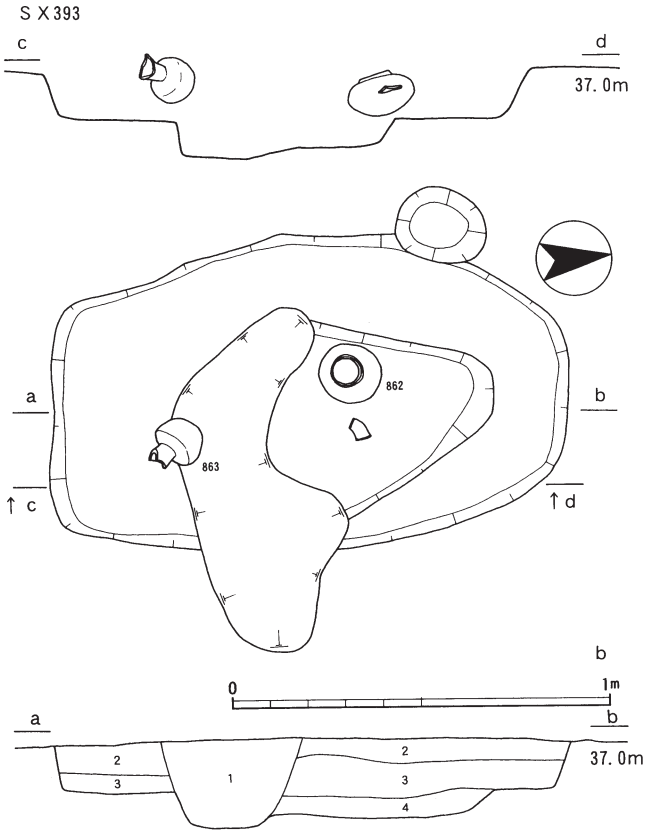
8　黒褐色土　7.5ＹＲ２／２　やや粘質　暗褐色　10ＹＲ３／３　ブロック少し含む

第84図　土壙墓ＳＸ381　平面・断面図（１：20）



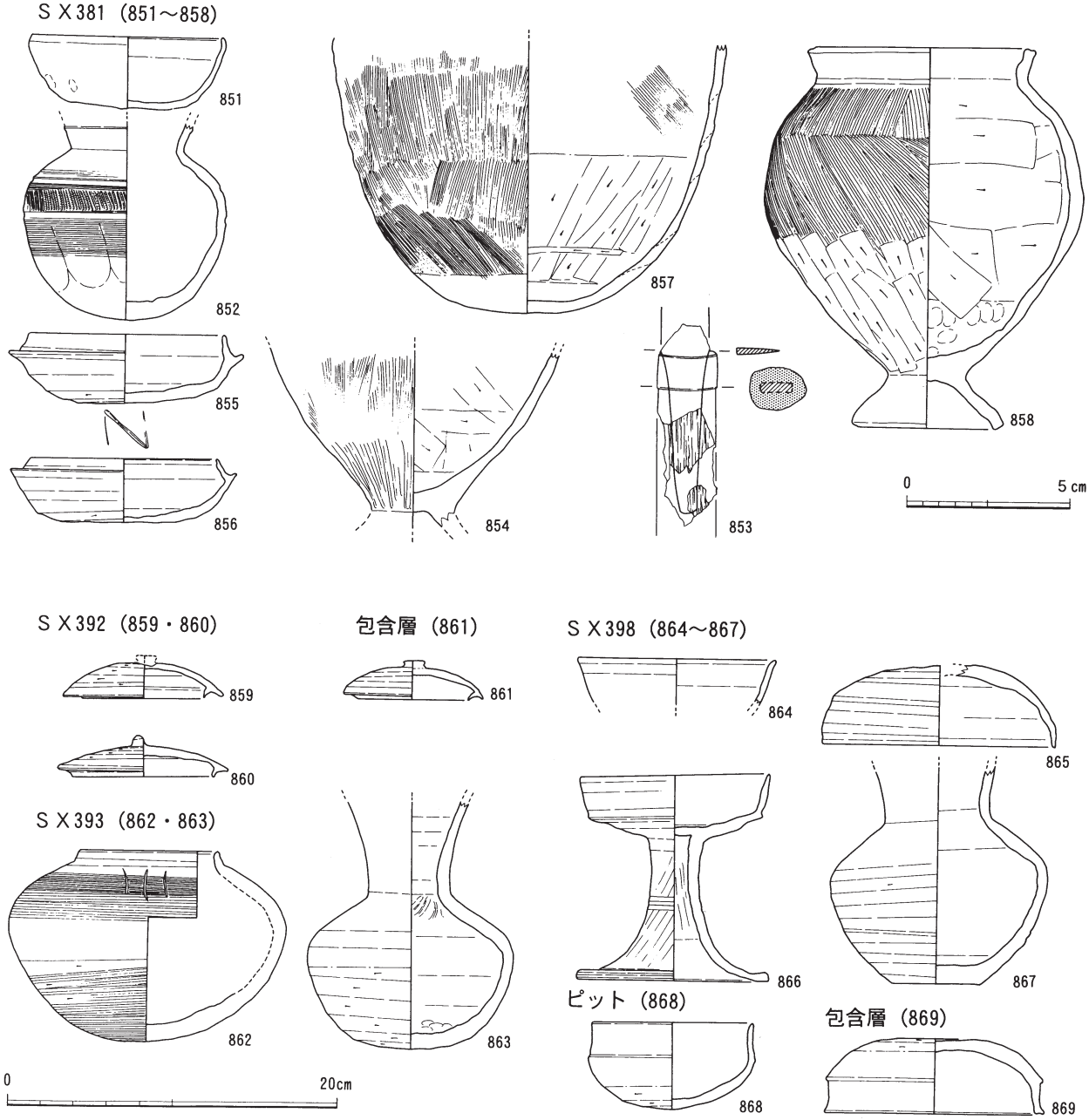
第85図　土壙墓ＳＸ351・358　平面・断面図（１：20）





1　カクラン
2　黒色土　10ＹＲ７／１
3　黒褐色　10ＹＲ２／２（褐色ブロック含む）
4　暗褐色　10ＹＲ３／３（褐色ブロック含む）

第86図　土壙墓ＳＸ392・393　平面・断面図（１：20）



第87図　出土遺物実測図　土壙墓　ＳＸ381・ＳＸ392・ＳＸ393・ＳＸ398ほか（853は１：２　他は１：４）

遺構番号	遺構種別	時期	調査次数	地区	特徴・形状等
ＳＫ340	投棄土器群	奈良～平安初期	６次	B6・B7	10号墳周溝北側に投棄された土器群
ＳＸ341	周溝遺構北辺	弥生後期	６次･７次	F2・E3	→ＳＸ386に統一　東辺はなし
ＳＸ342	周溝遺構南辺	弥生後期	６次･７次	F2・E3	→ＳＸ386に統一　東辺はなし
ＳＨ343	竪穴住居	弥生後期	６次	I2・I3・J2・J3	周堤状痕跡あり　ほぼ正方形
ＳＨ344	竪穴住居	弥生後期	６次	P2・P3・Q2・Q3	やや長方形
ＳＫ345	土坑	弥生前期	６次	I4	石器多く含む
ＳＫ346	土坑	時期不明	６次	M5	遺物なし
ＳＫ347	土坑	時期不明	６次	M6	遺物なし
ＳＫ348	土坑	時期不明	６次	N6	遺物なし
ＳＫ349	土坑	時期不明	６次	G6	土師器片
ＳＸ350	土壙墓	古墳後期	６次	M4・M5・N4・N5	木棺直葬墓　棺内：鉄鏃　棺外：土器（須恵器）
ＳＸ351	土壙墓	時期不明	６次	N3・N4	
ＳＫ352	土坑	弥生前期	６次	O6・P6	径2.2m　石器多数
ＳＨ353	竪穴住居	弥生後期	６次	O4・O5・P4・P5	ほぼ正方形
ＳＸ354	土壙墓	時期不明	６次	J5・K5	
ＳＫ355	土坑	弥生か?	６次	N6	
ＳＨ356	竪穴住居	弥生後期	６次	P6・P7	やや長方形
ＳＫ357	土坑	時期不明	６次	R4	
ＳＸ358	土壙墓	古墳か?	６次	R１	
ＳＫ359	土坑	時期不明	６次	R3・S3	
ＳＢ360	掘立柱建物	弥生後期?	６次	K5・K6・L5・L6	棟持柱建物（両棟持）
ＳＢ361	掘立柱建物	弥生後期?	６次	S1・S2	棟持柱建物（片棟持）
ＳＫ362	土坑	弥生中期?	６次	H1	土墨下から検出
ＳＸ363	土器棺墓	平安前期	６次	F5	10号墳墳丘南斜面で検出　横位長胴甕（頭骸骨等入る）の開口部を石で塞ぐ
ＳＫ364	土坑	弥生後期	６次	J6	11号墳埋葬施設２の西側で検出
ＳＺ365	土墨	室町?	６次	H1～9・I2～9	11号墳へ取り付き墳頂も利用?
ＳＤ366	堀	室町?	６次	G1～7・H3～9	薬研堀
367	―	―	―	―	欠番
368	―	―	―	―	〃
369	―	―	―	―	〃
370	―	―	―	―	〃
371	―	―	―	―	〃
372	―	―	―	―	〃
373	―	―	―	―	〃
374	―	―	―	―	〃
375	―	―	―	―	〃
376	―	―	―	―	〃
377	―	―	―	―	〃
378	―	―	―	―	〃
379	―	―	―	―	〃
ＳＫ380	土坑	室町	７次	C6・C7	10号墳墳丘東斜面の裾で検出
ＳＸ381	土壙墓	古墳後期	７次	K6・K7	木棺直葬墓　棺内：須恵器･土師器　棺外：刀子･須恵器･土師器
ＳＫ382	土坑	古墳末期	７次	L5・L6・M5・M6	須恵器・瓦片
ＳＫ383	土坑	古墳末期	７次	M6	須恵器・瓦片
ＳＫ384	土坑	時期不明	７次	K3	
ＳＨ385	竪穴住居	弥生後期	７次	N6・N7・O6・O7	壁周溝を伴わず
ＳＸ386	周溝遺構	弥生後期	７次	E2・F2・G2	６次検出のSX341･342が繋がったため改称
ＳＫ387	土坑	時期不明	７次	K5	

第７表　遺構一覧表（１）

遺構番号	遺構種別	時期	調査次数	地区	特徴・形状等
ＳＨ388	竪穴住居	弥生後期	７次	P3・P4・Q3・Q4	ほぼ正方形で小型
ＳＫ389	土坑	時期不明	７次	Q2・Q3・R2・R3	
ＳＨ390	竪穴住居	弥生後期	７次	A1・A2・A3・B1・B2・B3	上面を土壙墓SX398により撹乱 主柱穴に廃絶時の埋設土器片あり
ＳＫ391	土坑	古墳末期	７次	S2	
ＳＸ392	土壙墓	古墳末期	７次	S4	棺内：須恵器蓋　棺上面：須恵器蓋
ＳＸ393	土壙墓	古墳末期	７次	Q4・Q5	SK→SX改称　1.6×1.0m不整形
ＳＫ394	土坑	平安末期～鎌倉	７次	Q5・Q6	不整形
ＳＫ395	土坑	古墳末期	７次	R2	
ＳＫ396	土坑	時期不明	７次	R4	
ＳＫ397	土坑	時期不明	７次	R2・S2	
ＳＸ398	土壙墓	古墳末期	７次	A1・A2・A3・B1・B2・B3	弥生後期の竪穴住居SH390上面で出土の土器群を土壙墓と判断した
ＳＸ399	土壙墓	時期不明	７次	P4	
ＳＫ400	土器投棄遺構	奈良～平安初期	７次	９号墳周溝	10号墳SK340と同じく、埋まりかけた周溝への投棄土器群
小谷９号墳	古墳	６ｃ前葉～中葉	７次	Q7・Q8・R7・R8・R9・S7・S8・S9・A7・A8・A9	埋葬施設１～５
小谷10号墳	古墳	６ｃ前葉～中葉	６次	B4-7・C3-8・D2-8・E2-8・F3-8・G4-7	埋葬施設１～３
小谷11号墳	古墳	６ｃ後葉	６次	I5-9・J5-9・K5-9・L5-9・M6・7	埋葬施設１・２
小谷12号墳	古墳	６ｃ前葉～中葉	７次	J1・2・K1・2・L1-3・M1-3・N1・2・O1	埋葬施設１・２
小谷13号墳	古墳	５ｃ中葉	６次	S1・T1・2・U1・2・V1-3・W1・2・X1・2・Y1	埋葬施設１・２
小谷24号墳	古墳	６ｃ前葉～中葉	７次	K8・L7・8・M7・8・N8	埋葬施設１・２

第８表　遺構一覧表（２）

遺構名	規模		主柱穴(本)	貯蔵穴	炉跡	壁周溝	壁柱穴	その他
	短辺(m)	長辺(m)						
ＳＨ343	5.6	5.7	4	南	中央	○	○	
ＳＨ344	4.8	6.2	4	東	中央	○	○	
ＳＨ353	4.0	4.0	4	東	(中央)	○	○	
ＳＨ356	2.8	4.1	4	―	中央	○	○	
ＳＨ385	3.5	4.5	4	東	―	―	―	
ＳＨ388	4.3	4.5	4	東	中央	○	○	炉石あり
ＳＨ390	5.1	5.8	4	南	中央	○	○	各主柱穴内にSH放棄時の埋設(?)土器あり

遺構名	地区	規模		柱間		時期	備考
		桁行	梁行	桁	梁		
ＳＢ360	K5・K6・L5・L6	4.6	2.7	1.1　1.2	2.7	弥生後期	棟持柱建物（両棟持）
ＳＢ361	S1・S2	3.3	2.1	不揃い	2.1	弥生後期	棟持柱建物（片棟持）

第９表　小谷赤坂遺跡６・７次調査　竪穴住居・掘立柱建物一覧

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	遺構・属名など	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎　土	色　調	残存度	特記事項
151	3004	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋1墓壙掘形	(口) 12.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密	内：灰 外：灰	口縁 3/12	
198	3103	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2棺内48	(口) 12.8 (高) 4.7	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕→一方向ナデ	やや粗 ～1mm砂粒・8mm小石含む	内：灰 外：灰	口縁 7/12	底部外面に「一」ヘラ記号
199	3104	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2棺内49	(口) 14.7 (高) 4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ,内面見込に同心円工具痕跡→一方向ナデ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	頂部に「一」ヘラ記号　反転して200の蓋とされる
200	3601	須恵器	壺	7	小谷9号墳 埋2棺内50	(口) 16.2 (高) 25.7	外；ロクロナデ,平行タタキ 内；ロクロナデ,工具ナデ,オサエ	やや密 ～6mm小石含む	内：明黄褐～浅黄橙 外：明黄褐～浅黄橙	完存	反転した199に蓋される
201	3102	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2墓壙掘形51	(口) 12.6 (高) 4.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕→一方向ナデ	やや粗 ～3.5mm砂粒多い	内：灰 外：灰	完存	底部外面に「一」ヘラ記号 口縁端部に釉着痕 受部縁辺に1ヶ所工具痕跡あり
202	3002	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2墓壙掘形47+52	(口) 13.1 (高) 4.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ→一方向ナデ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰黄 外：黄灰	口縁 6/12	受部に重ね焼痕跡あり
203	2901	須恵器	杯蓋	7	小谷9号墳 埋２墓壙掘形⑤	(口) 14.1 (高) 4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～3.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	
204	2902	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋２墓壙掘形⑤	(口) 13.2 (高) 4.8	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕→一方向ナデ	やや密 ～2.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	底部外面に「一」ヘラ記号 受部縁辺に1ヶ所工具痕跡あり
205	3105	須恵器	杯蓋	7	小谷9号墳 埋2墓壙掘形54	(口) 14.8 (高) 4.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕→一方向ナデ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 11/12	頂部に「一」ヘラ記号
206	3101	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2墓壙掘形53	(口) 12.8 (高) 4.7	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕→ナデ	やや粗 ～1mm砂粒・8mm小石含む	内：灰 外：灰	口縁 11/12	底部外面に「一」ヘラ記号
207	2903	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2棺内②	(口) 15.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 3/12	4本の交錯するヘラ記号あり
208	3003	須恵器	杯蓋	7	小谷9号墳 埋2棺内①	(口) 15.0 (高) 4.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・内面見込に工具痕跡	やや粗 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰黄	口縁 4/12	
209	3001	須恵器	杯蓋	7	小谷9号墳 埋2盗掘坑南	(口) 16.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ→ナデ	やや粗 ～3.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 2/12	
210	2904	須恵器	杯	7	小谷9号墳 埋2盗掘坑南	(口) 13.3	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰白	口縁 5/12	
282	5005	須恵器	高杯	7	小谷9号墳 周溝南	(脚裾) 14.2	外；ロクロナデ 内；ロクロナデ	やや密	内：灰白 外：灰白	脚部 3/12	
290	5102	須恵器	平底壺	6	小谷10号墳 埋1棺内5	(頸) 3.8 (体) 13.4 (底) 11.0	外；ナデ→ロクロナデ,カキメ・ナデ 内；ロクロナデ→ロクロケズリ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰 外：灰	体部 完存	底部中央が上げ底状となっており当て布の痕跡あり
291	5003	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 埋1棺外9	(口) 15.6 (高) 4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ→一方向ナデ	やや密 ～6mm小石含む	内：灰 外：灰	口縁 8/12	
292	5004	須恵器	有蓋高杯	6	小谷10号墳 埋1棺外1	(口) 12.0 (高) 12.0 (脚裾) 12.0	外；ロクロナデ→カキメ→三方方形透孔 内；ロクロナデ	やや粗 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰黄	口縁 8/12 脚部 6/12	
293	5001	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 埋1棺外8	(口) 15.6 (高) 4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ→ナデ	やや密 ～5mm小石含む	内：灰 外：灰	完存	
294	4901	須恵器	有蓋高杯	6	小谷10号墳 埋1棺外4	(口) 12.6 (高) 12.6 (脚裾) 11.5	外；ロクロナデ→カキメ・ロクロケズリ→三方方形透孔 内；ロクロナデ	やや密 ～1mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	
295	4903	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 埋1棺外2	(口) 15.2 (高) 4.7	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕	粗 ～3mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	口縁端部外面にハケ状工具の当たり痕
296	4903	須恵器	有蓋高杯	6	小谷10号墳 埋1棺外2	(口) 13.0 (高) 11.0 (脚裾) 10.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～1mm砂粒・5mm大小石含む	内：灰 外：灰	完存	
297	4902	須恵器	高杯	6	小谷10号墳 埋1棺外3	(脚裾) 11.5	外；ロクロナデ→カキメ,三方方形透孔 内；ロクロナデ	やや密 ～1mm砂粒含む	内：灰 外：灰	脚部 7/12	5002も同一個体片
298	5101	須恵器	壺	6	小谷10号墳 埋1棺外7	(体) 14.7	外；タタキメ→ロクロナデ・カキメ・タタキ後ナデ消し 内；同心円あて具痕→ナデ・ヨコナデ	やや密 ～3.5mm小石含む	内：灰 外：灰白	体部 完存	
306	13101	須恵器	壺	6	小谷10号墳 埋2棺外4	(口) 14.4 (体) 19.4 (高) 20.0	外；タタキメ→ロクロナデ・カキメ 内；ロクロナデ・ナデ	密 ～2.3mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	完存	
307	4801	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋２棺外5	(口) 13.0 (高) 7.0 (脚裾) 8.0	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ヨコナデ	粗 ～3.0mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部 7/12 脚部 11/12	
308	4802	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋２棺外6	(口) 12.0 (高) 7.3 (脚裾) 8.0	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ヨコナデ	粗 ～3.0mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部 6/12 脚部 6/12	

第10表　出土遺物観察表（５）小谷古墳群・土壙墓

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	遺構・属名など	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎　土	色　調	残存度	特記事項
309	4804	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋2棺外7	（口）11.5 （高）7.2 （脚裾）7.5	外；ナデ→ヨコナデ,オサエ後ナデ→ヨコナデ 内；ロクロナデ	粗 ～2.5mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部　6/12 脚部 10/12	
310	4806	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋2棺外8	（口）11.0 （高）7.7 （脚裾）7.5	外；ナデ→ヨコナデ,オサエ後ナデ→ヨコナデ 内；ロクロナデ	粗 ～3.0mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部　6/12 脚部　8/12	
311	4805	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋2棺外9	（口）13.0 （高）7.0 （脚裾）7.5	外；ナデ→ヨコナデ,オサエ後ナデ→ヨコナデ 内；ロクロナデ	粗 ～3.0mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部　7/12 脚部 11/12	
312	4803	土師器	台付椀	6	小谷10号墳 埋2棺外10	（口）12.5 （高）7.5 （脚裾）8.0	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ヨコナデ	粗 ～3.0mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	杯部　5/12 脚部　4/12	
313	13003	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 埋2棺外3	（口）14.2 （高）4.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ヨコナデ 内；ロクロナデ→一方向ナデ	粗 ～5.5mm小石含む	内：灰白 外：灰	口縁 11/12	外面にハケ状工具の当たり痕
314	13004	須恵器	杯	6	小谷10号墳 埋2棺外3	（口）11.8 （高）4.0	ロクロナデ→ロクロケズリ ロクロナデ	やや粗 ～1.5mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	完存	
315	13001	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 埋2棺外2	（口）13.8 （高）4.6	ロクロナデ→ロクロケズリ,ヘラ切後ナデ 一方向ナデ→ロクロナデ	粗 ～3.5mm小石含む	内：灰白 外：灰	口縁 11/12	
316	13002	須恵器	杯	6	小谷10号墳 埋2棺外2	（口）12.9 （高）4.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り 内；ロクロナデ	粗 ～3.1mm小石含む	内：オリーブ灰 外：灰白～灰	完存	外面に板状圧痕
317	13005	須恵器	高杯	6	小谷10号墳 埋2棺上	（口）12.6 （高）9.8 （脚裾）9.8	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～4.5mm小石含む	内：灰白～灰 外：灰白	完存	
318	4701	土師器	平底甕	6	小谷10号墳 埋2墓壙上	（口）14.5 （体）20.5 （高）21.0 （底）6.0	内；ナデ・工具ナデ→ヨコナデ 外；ナデ→工具ナデ（横）→工具ナデ（縦）→ヨコナデ	やや粗 ～2mm砂粒含む	内：浅黄橙 外：にぶい橙	口縁　8/12	
319	5005	須恵器	杯	6	小谷10号墳 埋3棺外	（口）12.3 （高）4.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ナデ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁 11/12	
320	5207	土師器	高杯	6	小谷10号墳 墳頂	（口）14.6	外；ナデ→ヨコナデ 内；ヨコナデ	粗 ～2mm砂粒含む	内：橙 外：橙	口縁　2/12	
321	5206	土師器	高杯	6	小谷10号墳 周溝東	（口）13.0	外；ヨコナデ→ケズリ 内；ナデ→ヨコナデ	やや粗 ～1.5mm砂粒含む	内：橙 外：橙	口縁　3/12	
322	5203	土師器	高杯	6	小谷10号墳 周溝南	（脚裾）9.4	外；板ナデ→ヨコナデ 内；シボリ→ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1.5mm砂粒多く含む	内：橙 外：橙	脚部 10/12	
323	2803	須恵器	杯蓋	7	小谷10号墳 墳丘盛土東	（口）14.1 （高）4.7	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り→工具ナデ 内；ロクロナデ	やや粗 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰	口縁　2/12	埋１棺外の可能性が高い
324	2802	須恵器	杯蓋	7	小谷10号墳 墳丘盛土北	（口）14.1 （高）4.75	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ→ナデ	やや粗 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰	口縁　2/12	
325	5405	須恵器	杯	6	小谷10号墳 墳丘盛土北	（口）12.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～4mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　3/12	
326	3401	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 周溝内SK340	—	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕	やや密 1～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰	蓋頂部 5/12	
327	5404	須恵器	杯	6	小谷10号墳 周溝北	（口）12.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ・ナデ 内；ロクロナデ	やや密 ～1.5mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁　4/12	
328	5401	須恵器	杯蓋	6	小谷10号墳 周溝南	（口）14.5 （高）4.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；オサエ→ロクロナデ	粗 ～4mm小石含む	内：灰白 外：灰	完存	
329	5402	須恵器	杯	6	小谷10号墳 周溝南	（口）12.0 （高）4.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；オサエ→ロクロナデ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	
330	5501	須恵器	横瓶	6	小谷10号墳 周溝西	（口）8.0	外；ロクロナデ→カキメ・ロクロケズリ→口縁部付加 内；ロクロナデ	やや密 ～2.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　4/12 体部　4/12	
335	4505	須恵器	壺	6	G2　包含層	（頸）4.8	外；ロクロナデ 内；ナデ→ロクロナデ	やや密	内：暗灰黄 外：黄灰	頸部　6/12	
336	4504	須恵器	壺	6	H4　包含層	（体）11.6	外；ロクロナデ→カキメ・刺突文 内；ロクロナデ	やや密	内：灰 外：灰	頸部～体部 4/12	
337	5406	須恵器	壺	6	10号墳周溝北	（底）8.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～1.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	底部　4/12	古代の瓶類底部の可能性あり
338	5601	須恵器	杯	6	小谷11号墳 埋1棺内2	（口）12.1 （高）5.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 1～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰	完存	
339	5602	須恵器	甑	6	小谷11号墳 埋1棺内3	（口）13.4 （頸）6.6 （高）16.6	外；タタキメ→ロクロケズリ→波状文（口縁１段・頸部２段）刺突文 内；ナデ→ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰～灰褐	完存	透かし孔径1.6cm　さらに上方に続いていた口縁短部を削って現況に成形したものか？

第11表　出土遺物観察表（６）小谷古墳群・土壙墓

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	遺構・属名など	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎　土	色　調	残存度	特記事項
340	5603	須恵器	杯蓋	6	小谷11号墳 埋1棺外1	（口）13.8	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 1～3㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　8/12	
341	5603	須恵器	杯	6	小谷11号墳 埋1棺外1	（口）12.2 （高）5.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 1～3㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 10/12	
342	5801	須恵器	平底壺	6	小谷11号墳 埋2棺内1	（頸）3.6 （底）11.4	外；ロクロナデ→ケズリ→カキメ 内；ナデ	やや密 ～2㎜砂粒含む	内：黄灰 外：褐灰	体部　完存	底部中央は上げ底状となる
349	6001	須恵器	脚付壺	6	小谷11号墳 埋2棺外2	（口）11.5 （高）29.2 （脚裾）20.1	外；タタキメ→ロクロナデ・貼付ヨコナデ 内；ナデ→ロクロナデ	やや密 ～1.5㎜砂粒含む	内：灰 外：灰白	完存	脚部は球胴の壺体部に貼付けるのみ
350	5803	須恵器	杯	6	小谷11号墳 埋2棺外3-蓋	（口）12.6 （高）4.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～2.5㎜砂粒含む	内：浅黄 外：にぶい黄橙	完存	杯身を蓋として351に被せる 底部に板状圧痕
351	5802	須恵器	杯	6	小谷11号墳 埋２棺外3-身	（口）12.3 （高）4.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～1.8㎜砂粒含む	内：灰N5/0 外：灰N6/0	完存	内部から貝殻片（微小片）出土
352	6104	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外4	（口）12.3 （高）4.5	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1㎜砂粒含む	内：にぶい黄橙 外：にぶい黄	口縁 11/12	
353	6102	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外5	（口）12.7 （高）4.7	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1㎜砂粒含む	内：橙 外：明赤褐～橙	口縁 10/12	
354	6106	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外6	（口）11.5 （高）4.7	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1㎜砂粒含む	内：橙 外：にぶい黄橙	口縁　9/12	
355	6105	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外7+8	（口）12.0 （高）4.0	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密	内：橙～にぶい橙 外：にぶい橙	口縁　6/12	
356	6107	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外7+9	（口）12.0 （高）4.3	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1㎜砂粒含む	内：橙 外：橙	口縁　5/12	
357	6101	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外10	（口）12.4 （高）4.7	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密 ～1㎜砂粒含む	内：にぶい橙 外：橙	口縁 11/12	
358	6103	土師器	椀	6	小谷11号墳 埋2棺外11	（口）12.5 （高）4.5	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや密	内：橙 外：橙	口縁 11/12	
359	6202	須恵器	杯	6	小谷11号墳 周溝西	（口）13.5 （高）4.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→タタキメ痕 内；ロクロナデ・同心円あて具痕	やや密 ～2.5㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　6/12	外面にハケ状工具の当たり痕跡
360	6201	須恵器	横瓶	6	小谷11号墳 周溝南	（頸）8.4	外；ロクロナデ→カキメ→口縁部貼付ナデ 内；ロクロケズリ	やや密 ～6㎜小石含む	内：灰白 外：灰白	体部　2/12	
361	2601	土師器	丸底甕	7	小谷12号墳 埋１棺内	（口）18.4 （高）18.0	外；ハケメ→ヨコナデ 内；オサエ→ハケメ→ヨコナデ	やや粗 ～3㎜砂粒含む	内：橙 外：橙	完存	底に厚さ1.5～2.0㎝の固化した白色粘質土が器壁に密着していた
362	2602	須恵器	杯蓋	7	小谷12号墳 埋１棺外	（口）14.6 （高）3.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・同心円あて具痕	やや粗 ～1.5㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	見込部に円周を描く同心円当て具痕跡あり　363を頂部で塞ぐ
363	2603	須恵器	杯	7	小谷12号墳 埋１棺外	（口）12.4 （高）4.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～3㎜砂粒含む	内：灰 外：灰白	口縁 11/12	362の頂部で塞がれ、内容物なし
364	6304	須恵器	杯	6	小谷12号墳 周溝東	（口）10.8	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～1.5㎜砂粒含む	内：灰 外：浅黄	口縁　3/12	
365	2501	須恵器	甕	7	小谷12号墳 墳丘北	（口）23.7	外；タタキメ→ロクロナデ・カキメ 内；同心円あて具痕→ロクロナデ	密	内：灰 外：灰	口縁　2/12	
727	6502	須恵器	杯	6	小谷13号墳 墳丘盛土東	（口）11.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 4.5㎜小石、 ～2.5㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　2/12	
728	6401	須恵器	高杯	6	小谷13号墳 墳丘盛土東	（口）13.6 （高）9.0 （脚裾）5.2	外；ロクロナデ→手持ヘラケズリ→脚部貼付け工具痕 内；ロクロナデ	やや密	内：灰白 外：灰	杯部　9/12 脚部　6/12	
729	6405	須恵器	把手付椀	6	小谷13号墳 埋1攪乱坑	（体）4.5	外；ロクロナデ→波状文→把手貼付け 内；ロクロナデ	やや密 ～1.0㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	体部　2/12	
730	6603	須恵器	提瓶？	6	小谷13号墳 周溝北	―	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→口縁貼付ナデ 内；ロクロナデ	密	内：灰白 外：灰黄褐	体部小片	
731	6403	須恵器	短頸壺	6	小谷13号墳 埋1攪乱坑	（口）9.0	外；ロクロナデ 内；ロクロナデ	やや密	内：灰 外：灰黄	口縁　4/12	
732	6601	須恵器	甑	6	小谷13号墳 埋1攪乱坑	（口）9.8	外；ロクロナデ→波状文（口縁１段・頸部１段・体部１段） 内；オサエ→ロクロナデ	やや密 ～3.0㎜砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁～体部 4/12	
733	6402 6401	須恵器	樽形 甑	6	小谷13号墳 墳丘盛土東・南　周溝南	（口）9.8 （体）12.4 （高）17.4	外；タタキメ→ロクロナデ→体部に波状文（４段）→口縁貼付ヨコナデ→口縁部に波状文（口縁１段・頸部１段）・体部に穿孔　内；ナデ・ロクロナデ	やや密	内：灰 外：灰	口縁　8/12 体部　6/12	透かし孔径1.1㎝

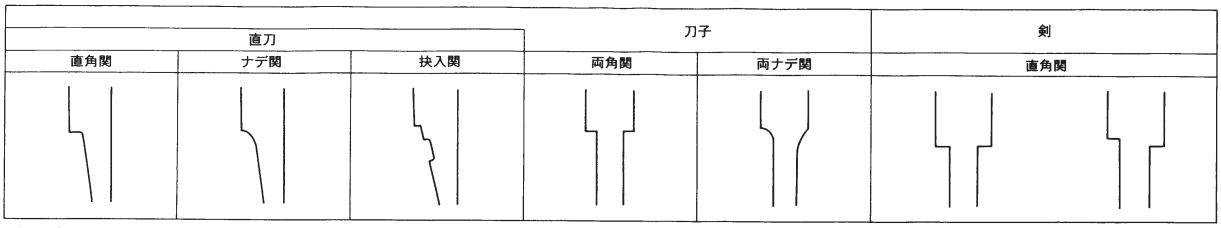
第12表　出土遺物観察表（７）小谷古墳群・土壙墓

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	遺構・属名など	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎　土	色　調	残存度	特記事項
734	6701	須恵器	壺	6	小谷13号墳 墳丘盛土西	(口) 16.0 (高) 23.4	外；タタキメ→ロクロナデ 内；オサエ・同心円あて具痕→ロクロナデ	やや密 ～3.5mm小石含む	内：灰白5Y7/2 外：灰7.5Y6/1	口縁 10/12	底部中央に焼成後径6.6cmの穿孔
735	14702	土師器	高杯	6	小谷13号墳 墳頂	(脚柱) 2.8	外；ナデ？ 内；ナデ？	やや密 ～1mm砂粒含む	内：にぶい橙 外：にぶい橙	脚柱 1/12	剥離のため調整不明瞭
736	14701	土師器	壺	6	小谷13号墳 墳頂　東	(口) 11.2 (頸) 8.8	外；ナデ？ 内；ナデ？	やや密 ～2mmの砂粒踏む粉	内：橙 外：橙	口縁 4/12	剥離のため調整不明瞭
737	14703	土師器	二重口縁壺	6	小谷13号墳 墳頂　西	(口) 29.2	外；ナデ？ 内；ナデ？	やや密 ～1mm砂粒含む	内：明赤褐 外：明赤褐	口縁 1/12	剥離のため調整不明瞭
838	3701	須恵器	甕	7	小谷24号墳 周溝南	(口) 23.1 (頸) 18.4	外；平行タタキ→ロクロナデ 内；同心円あて具痕→ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁～体部 3/12	
839	3801	須恵器	甕	7	小谷24号墳 周溝南	(頸) 22.0	外；タタキメ→カキメ・ロクロナデ 内；ナデ・ロクロナデ	やや粗 ～3mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁～肩部 2/12	口縁端部欠損
842	13201	須恵器	杯蓋	6	ＳＸ350 棺外①	(口) 14.3	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 1～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰白	口縁 8/12	
843	13202	須恵器	杯	6	ＳＸ350 棺外①	(口) 12.0 (高) 4.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ・平行線あて具痕	やや粗 1～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰白	完存	
844	13203	須恵器	杯蓋	6	ＳＸ350 棺外②	(口) 15.4 (高) 5.3	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 黒色粒子含む	内：灰 外：灰白	完存	
845	13204	須恵器	杯	6	ＳＸ350 棺外②	(口) 13.6 (高) 5.1	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰	完存	外面に板状圧痕
846	13205	須恵器	杯蓋	6	ＳＸ350 棺外③	(口) 14.6 (高) 4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 1～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰	完存	
847	13206	須恵器	杯	6	ＳＸ350 棺外③	(口) 12.8 (高) 4.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り 内；ロクロナデ	やや粗 1～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 8/12	外面に板状圧痕
848	13401	須恵器	杯蓋	6	ＳＸ350 棺外④	(口) 16.2 (高) 5.0	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密	内：浅黄 外：浅黄	口縁 7/12	見込部に850土師器小椀の圧痕あり　外面に板状圧痕
849	13402	須恵器	杯	6	ＳＸ350 棺外④	(口) 12.9 (高) 12.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り 内；ロクロナデ	やや密 ～2.5mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 10/12	見込部に850土師器小椀の圧痕あり
850	3602	土師器	小椀	6	ＳＸ350 棺外④内	(口) 8.5 (高) 6.0 (底) 3.7	外；ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	粗 ～1.0mm砂粒含む	内：浅黄橙 外：浅黄橙	11/12	848と849の内部に納まる 850の内容物なし
851	4004	土師器	椀	7	ＳＸ381 棺内⑥	(口) 11.6 (高) 4.4	外；オサエ・ナデ→ヨコナデ 内；ナデ→ヨコナデ	やや粗 ～1.0mm砂粒含む	内：にぶい赤褐～暗赤褐 外：橙	完存	
852	3901	須恵器	壺	7	ＳＸ381 棺内⑦	(頸) 6.8 (体) 12.2	外；ロクロナデ→カキメ→刺突文 内；ロクロナデ	やや粗 ～1.7mm砂粒含む	内：灰白 外：灰	頸部～底部完存	口縁部打ち欠く　体部下半を大きく面取り成形する
854	4003	土師器	台付甕	7	ＳＸ381 棺外④	(脚柱) 5.2	外；ハケメ 内；ナデ・板ナデ	密	内：にぶい黄橙 外：にぶい橙	体部 6/12	脚部を打ち欠き
855	3902	須恵器	杯	7	ＳＸ381 棺外①	(口) 12.0 (高) 4.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	粗 ～3.3mm小石含む	内：灰 外：灰	完存	底部外面に「N」ヘラ記号
856	3903	須恵器	杯	7	ＳＸ381 棺外②	(口) 11.4 (高) 3.8	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	粗 ～6.0mm小石含む	内：灰 外：灰	完存	
857	4002	土師器	長胴甕	7	ＳＸ381 棺外③B	—	外；ナデ・ハケメ 内；ナデ→ケズリ	やや粗 ～1.0mm砂粒含む	内：明黄橙 外：橙	体部～底部 6/12	
858	4001	土師器	台付甕	7	ＳＸ381棺外 ③A+C+D+E	(口) 13.8 (高) 22.9 (脚柢) 9.2	外；オサエ・ナデ→ハケメ→ヨコナデ・ケズリ 内；オサエ・ナデ→板ナデ→ヨコナデ	やや粗 ～1.5mm砂粒含む	内：にぶい黄橙 外：にぶい黄橙～橙	11/12	墓壙内東端で857長胴甕体部下半を被せて副葬される
859	4506	須恵器	杯蓋	7	ＳＸ392棺内	(口) 7.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや粗 ～4.0mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 11/12	ツマミは打ち欠きか？
860	4502	須恵器	杯蓋	7	ＳＸ392上層	(口) 8.6 (高) 2.6	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→摘部貼付ナデ 内；ロクロナデ	やや密 ～4.0mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁 11/12	
861	4505	須恵器	杯蓋	7	ＳＸ392上層	(口) 6.7 (高) 2.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→摘部貼付ナデ 内；ロクロナデ	やや密 ～4.0mm砂粒含む	内：灰黄 外：灰	口縁 11/12	
862	4501	須恵器	短頸壺	7	ＳＸ３９３②	(口) 8.5 (体) 16.9 (高) 11.5	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→カキメ 内；ナデ→ロクロナデ	やや密 ～5mm石粒含む	内：灰 外：灰	完存	肩部に体部→口縁部方向に描いたヘラ記号「川」字あり
863	4503	須恵器	長頸壺	7	ＳＸ３９３①	(頸) 4.2 (体) 12.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；同心円あて具痕→ロクロナデ・口縁部貼付部にシボリ痕	やや密 ～5mm石粒含む	内：灰黄 外：黄灰	頸部～底部完存	口縁端部を欠損のみ

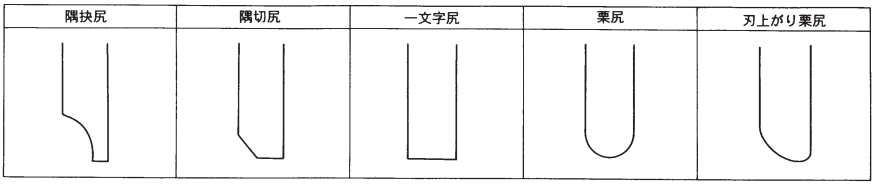
第13表　出土遺物観察表（８）小谷古墳群・土壙墓

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	遺構・属名など	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎　土	色　調	残存度	特記事項
864	1801	須恵器	杯	7	ＳＸ398	（口）12.0	外；ロクロナデ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰黄 外：暗灰	口縁　2/12	
865	1803	須恵器	杯蓋	7	ＳＸ398	（口）14.2 （高）4.9	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁　6/12	
866	1802	須恵器	高杯	7	ＳＸ398	（口）11.6 （高）12.6 （脚裾）11.7	外；脚部にシボリメ→ロクロナデ 内；脚部にシボリメ→ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰白 外：灰白	口縁　4/12 脚部　6/12	
867	1804	須恵器	長頸壺	7	ＳＸ398	（頸）6.6 （体）13.2 （底）5.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ→底部糸切痕 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒・黒色粒子含む	内：灰 外：灰白	頸部～底部 10/12	底部に焼膨れあり
868	4503	須恵器	杯	6	M6 Pit2	（口）10.4 （高）5.2	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒・黒色粒子含む	内：灰 外：青灰	完存	
869	4502	須恵器	杯蓋	6	包含層	（口）14.2 （高）4.4	外；ロクロナデ→ロクロケズリ 内；ロクロナデ	やや密 ～2mm砂粒含む	内：灰 外：灰	口縁　6/12	

第14表　出土遺物観察表（９）小谷古墳群・土壙墓



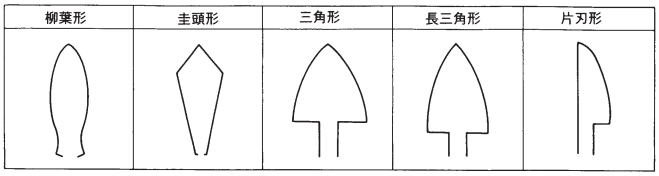
〈刃関〉　池淵俊一「鉄製武器に関する考察」(『古代武器研究』第1号　1993年)　より引用



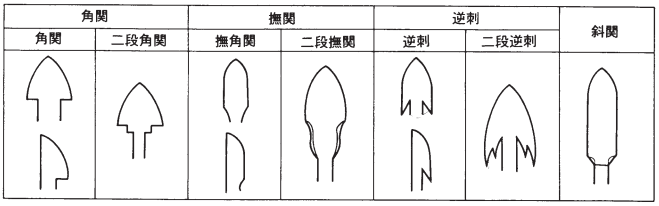
刃剣類分類要素

〈茎尻〉　川上博子「畿内における古墳出土の刀剣について」(『古代武器研究』vol. 1 古代武器研究会・滋賀県立大学考古学研究室　2000年)　より引用

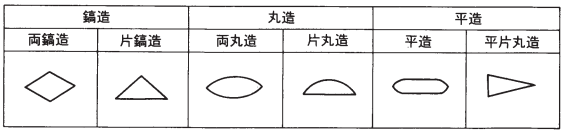
鉄鏃分類要素



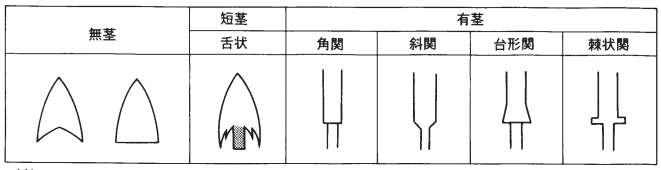
〈鏃身外形〉



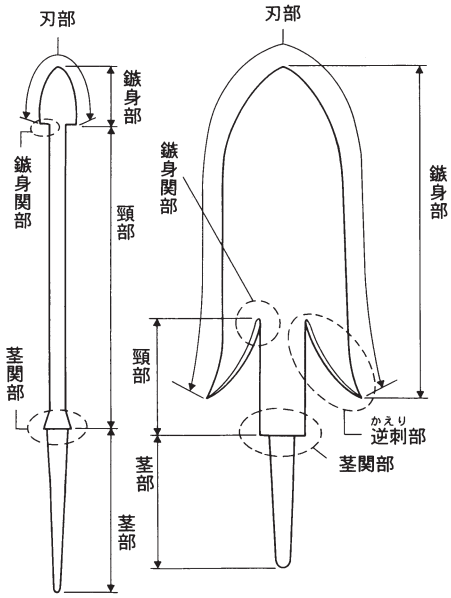
〈鏃身関部〉



〈断面形〉

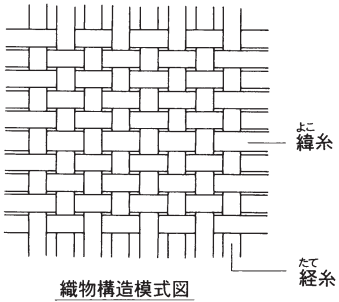


〈茎関部〉



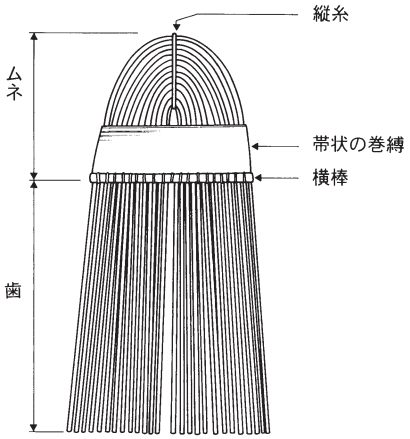
鉄鏃各部名称

杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」(『橿原考古学研究所論集』第8　吉川弘文館　1988年)　より引用



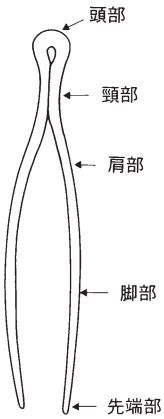
織物構造模式図

角山幸洋「XIII繊維―織物・組紐―」(『斑鳩　藤ノ木古墳第2・3次調査報告書』　奈良県立橿原考古学研究所　1993年)　より引用



竪櫛各部名称

亀田博「竪櫛」(『末永先生米壽記念献呈論文集(乾)』1985年)より引用



鑷子状鉄製品各部名称

宇野慎敏「鑷子考」(『末永先生米壽記念献呈論文集(乾)』1985年)より引用

第88図　鉄製品ほか各部名称

9号墳

〈埋葬施設１〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	織物痕	備考
147	鹿角装刀子	11-02	1	11.8+	1.3	0.2	両角	栗	皮？	鹿	鹿角表面	切先欠損

〈埋葬施設２〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	織物痕	備考
154	鹿角装刀子	03-02	14	13.3	1.6	0.3	両角	栗	鹿？	木＋鹿	刀身	
155	鹿角装刀子	03-05	45	13.2	1.3	0.3	両角	栗	―	螺＋鹿	―	
156	鹿角装刀子	03-01	11	22.1	2.1	0.4	―	栗	―	木	刀身、把縁	把縁装具：鉄板？
157	鹿角装刀子	03-04	16	9.5+	1.2	0.4	角，ナデ	栗	―	木＋鹿	―	把材が残存
158	鹿角装刀子	03-03	15	7.2+3.8+	1.5	0.3	両角	刃上がり栗	鹿？	螺＋木	―	
159	刀子片	04-01		3.2+	1.2	0.3	―	―	―	―	―	④地区より出土
160	刀子片	04-02		3.1+	1.2	0.3	―	―	木	―	―	⑤地区より出土

〈埋葬施設３〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	織物痕	備考
267	鹿角装刀子	11-01		13.8+	1.6	0.4	両角	栗	木	木＋鹿	―	呑口式？

〈埋葬施設５〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	織物痕	備考
280	鹿角装刀子	11-07	c	7.0+	1.4	0.3	両ナデ	栗	皮？	鹿	両面	帯金具に刃先片付着？

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	最大幅(cm)	白色付着物(cm) 全長	白色付着物(cm) 幅	備考
279	帯金具(鉸具)	11-05	a	4.6	4.0	2.4	1.9	別材が付着

10号墳

〈埋葬施設１〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
283	直刀	02-01		94.7	3.2	0.7	直角	一文字	木	木	
284	鹿角装刀子	02-02		9.2	1.4	0.4	両角	栗	―	木＋鹿	

〈埋葬施設２〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
299	鹿角装刀子	04-01		11.9+	1.2	0.2	両角	尖頭？	―	螺+鹿	茎尻は栗尻が変化？
300	鹿角装刀子	04-02		12.3+	1.1	0.2	両角	一文字	木＋鹿	鹿	

13号墳

〈埋葬施設１〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
367	直刀	01-01		111.1	3.6	0.8	直角	隅抉	木	木	
368	刀切先	08-04		4.5+	2.0	0.2	―	―	―	―	
369	剣	01-03	1	54.1	2.7	0.6	直角	一文字	木	木	２点分割
370	剣	01-02	2	65.5+	3.0	0.8	直角	―	木	木	４点分割、切先･茎尻欠損
371	剣	01-04	3	51.0	2.6	0.6	直角	一文字	木	木	４点分割
372	剣	01-05	4	39.0+	2.8	0.8	直角	―	木	木	
389	刀子	08-03		8.6	1.2	0.3	両角	一文字	木+鹿	木	鞘は鹿角装?

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ	関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
386	鋳造鉄斧	07-02	1	11.5	5.6	1.1	有袋式	3.9	2.2	木質残存	
387	鍛造鉄斧	07-01	2	10.7	4.5	0.4	有袋式	3.4	2.5	木質残存	

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm) 幅	刃部(cm) 厚さ：背・刃	形式	備考
388	鉄鎌	08-01		14.3	2.1	0.4・0.1	甲技法	木質残存：柄（表面）、楔痕跡（裏面）

第15表　小谷古墳群出土刀剣類ほか観察表（１）

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm)		備考
					幅	厚さ	
390	鏃子状鉄製品	08-02		12.2	0.8	0.2	
〃	付属金具	08-02		3.5	0.2	0.2	捻りが9回入る、連結金具？

No.	遺物名	登録No.	取上No.	ムネ部(cm)		竹ヒゴ		備考
				幅	厚さ	本数	厚さ(cm)	
391	竪櫛	11-08		2.0+	1.6	１０+	0.1	歯部欠損、鉄鏃に錆着して出土

〈埋葬施設２〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm)		関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
					幅	厚さ					
566	刀子	09-01	1	10.0	1.0	0.2	直角	一文字	―	木質	
567	刀子	09-02	2	7.9+	1.1	0.2	直角	刃上がり栗	―	木質	

〈ＳＸ381〉

No.	遺物名	登録No.	取上No.	全長(cm)	刃部(cm)		関形状	茎尻	鞘材	把材	備考
					幅	厚さ					
853	刀子片	02-06	5	6.2+	―	―	―	栗	―	木	刃部欠損

＊数値横の「+」は、原形はその数値よりも長いことを示す。
＊刃部寸法は中央部について測定。
＊「厚さ」は背側を測定。
＊「鹿」＝鹿角装
＊「木」＝木質
＊「皮」＝皮革
＊「螺」＝螺旋状の樹皮巻が施されている

第16表　小谷古墳群出土刀剣類ほか観察表（２）

9号墳

〈埋葬施設１〉

No.	登録 No.	取上 No.	形式	全長 (cm)	鏃身長 (cm)	頸部長 (cm)	茎長 (cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
148	11-03	2	長頸三角	10.2+	2.1	7.6	0.3+	逆刺	台形	口	
149	11-04	3	長頸長三角	9.4+	4.2	5.9	0.6+	逆刺	台形	口	
150	02-05	—	—	4.4+	—	—	4.4+	—	—	木	148or149の先端か?

〈埋葬施設２〉

No.	登録 No.	取上 No.	形式	全長 (cm)	鏃身長 (cm)	頸部長 (cm)	茎長 (cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
161	05-04	4	無茎	4.0+	4.0+	—	—	—	—	木	上層
162	05-03	3	長頸三角	4.8+	2.4	3.0+	—	逆刺	—	—	上層
163	05-01	1	長頸三角	10.9+	3.3	7.7+	—	逆刺	—	—	上層
164	05-02	2	—	2.7+,4.6+	—	2.7+,3.2	1.4	—	台形	糸(?)+木	上層
165	05-05	9	—	6.3+	—	6.3+	—	—	—	—	上層
166	10-01	10	三角形	9.6+	4.7	4.0	0.9+	二段角	角	—	上層
168	10-07	20	—	7.8+	—	7.2+	0.7+	—	台形	—	A
169	05-07	21	—	2.4+,3.5+	—	2.4+,3.5+	—	—		—	A
170	10-10	35	長頸三角	11.3+	1.6	9.1	0.5+	—	台形	螺	A
171	10-11	36	長頸三角	10.0+	1.9	7.3	1.4+	逆刺	台形	口+木	A
172	10-04	23	長頸三角	10.6+	2.1	7.8	0.6+	逆刺	台形	口	A
173	009-01	37	腸抉三角	13.1+	6.1	4.6	3.4+	逆刺	台形	木	A
174	10-03	22	三角形	12.4	4.3	4.6	3.6	二段角	角	口+木+螺	A
175	08-02	25	長頸三角	13.9	1.8	8.3	4.1	両角	台形	口+木	B
176	10-05	24	長頸三角	11.4+	2.8	7.4	1.8+	逆刺	台形	木+螺	B
177	08-03	26	長頸三角	13.4+	3.0+	8.3	2.7+	逆刺	台形	口+木	B
178	10-02	17	長頸三角	2.4+,8.1+	2.1	0.3,8.1+	—	逆刺	—	—	B
179	10-09	29	—	9.7+	—	7.7+	1.8+	—	台形	口+木	B
180	07-05	30-②	—	2.3+	2.3+	—	—	—	—	—	B
181	07-08	30-③	長頸三角	2.9+	1.9	1.0+	—	両角	—	—	B
182	07-03	31	—	2.0+	2.0+	—	—	—	—	—	B
183	06-01	30-④	—	7.3+	—	6.7+	0.6+	—	台形	—	B
184	10-08	32	—	6.1+	—	4.5+	1.7+	—	台形	口	B
185	05-08	28	—	1.6+,4.2+	—	—	1.6+,4.2+	—	—	木	B
186	07-02	30-①	三角形	9.5+	3.7+	4.2	1.9	斜	角	木	B
187	09-02	38	長頸三角	10.5+	1.7+	7.7	1.1+	両角	台形	口+木	C　折れて錆着
188	09-04	40	長頸三角	11.0+	2.2	7.7	1.2+	両角	台形	糸+木	C
189	10-06	19	長頸三角	3.9+	3.1	1.3+	—	逆刺	—	—	C　2点が錆着
			長頸三角	2.5+	1.8	0.3+	—	両角	—	—	
190	10-12	13	長頸三角	11.5+	2.6	6.8	2.3+	逆刺	台形	口+木	C
191	08-01	12	長頸三角	10.3+	3.8	6.7	0.5+	逆刺	台形	—	C
192	09-03	42	長頸三角	10.1+	3.2	6.7	1.0+	逆刺	台形	口+木	C
193	06-03	44	—	2.7+	0.9+	1.8+	—	両角	—	—	C
194	06-02	41	—	2.5+	2.5+	—	—	—	—	—	C
195	05-06	18	—	3.0+	—	3.0+	—	—	—	—	C
196	06-04	43	—	7.4+	—	6.7+	0.7+	—	台形	—	C
197	07-01	39	腸抉三角	9.6+	6.2	4.2	1.1+	逆刺	台形	木	C

〈埋葬施設４〉

No.	登録 No.	取上 No.	形式	全長 (cm)	鏃身長 (cm)	頸部長 (cm)	茎長 (cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
268	02-03	9，12	長頸三角	8.0+	3.3	5.5+	—	逆刺	—	—	
269	01-01	1	長頸三角	9.0+	3.8	5.7+	—	逆刺	—	—	
270	01-03	3	長頸長三角	4.6+	4.3	0.7+	—	逆刺	—	—	
271	01-02	2	長頸長三角	7.7+	4.5	4.0+	—	逆刺	—	—	
272	02-04	13	長頸長三角	7.0+	4.5	3.0+	—	逆刺	—	—	
273	01-07	8	長頸長三角?	11.5+	1.8+	6.2	4.3+	逆刺	—	口+木+螺	鏃身先端欠損
274	01-04	4，6	長頸長三角?	7.3+	2.5+	5.1	0.2+	逆刺	台形	—	〃
275	02-02	11	長頸長三角?	7.0+	2.1+	4.7	0.6+	逆刺	台形	口	〃
276	01-06	7	—	6.5+	—	5.4+	1.2+	—	台形	—	
277	02-01	10	—	6.4+	—	4.2+	2.3+	—	台形	木	
278	01-05	5	—	2.2+	—	—	2.2+	—	—	木	

第17表　小谷古墳群出土鉄鏃観察表（１）

〈埋葬施設４〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
281	11-06	b	―	7.6+	―	5.5+	2.1+	―	台形	木	

10号墳

〈埋葬施設１〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
285	03-05	―	―	4.4+	4.4+	―	―	―	―	―	鏃身先のみ
286	03-06	―	三角形	4.7+	2.7	2.0+	―	斜	―	―	頸部途中より欠損
287	03-04	―	三角形	8.8+	4.1+	4.2	―	両角	―	―	頸部途中より欠損
288	03-07	―	長頸三角	10.5+	2.4+	7.0	1.3+	両角	台形	螺+口	茎先欠損
289	03-08	―	圭頭	6.8+	2.8	―	0.3+	撫角	角	口	茎先欠損

〈埋葬施設２〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
301	05-02	8	三角形	11.9	3.7	4.5	3.6	二段角	台形	螺+木	
302	03-01	7,9	三角形	9.5+	4.8	3.7	0.9+	二段角	台形	木	
303	03-02	6	腸抉三角	8.7+	5.5	3.4	0.4+	逆刺	台形	―	茎欠損
304	03-03	5	長頸三角	6.3+	1.8+	4.6+	―	逆刺	―	―	頸部途中から欠損
305	05-01	10	短茎	6.6+	5.8	0.8+	―	二段逆刺	舌状	木+糸	木質残存良好、根挟み式

11号墳

〈埋葬施設２〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
348	04-03		圭頭	7.6+	1.5	5.7	0.5+	斜	台形	―	関付近より欠損

13号墳

〈埋葬施設１〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
373	10-03	11	柳葉	12.8+	5.2	4.3	3.3+	斜	台形	木+口	ほぼ完形
374	11-06	5	腸抉柳葉	12.0+	7.1+	1.1	4.2	逆刺	角	木+口	鏃身先欠損
375	11-05	4	長頸三角	13.8+	2.4	8.5+	2.1+	斜	―	木+口	茎屈折
376	11-03	12	長頸三角	10.9+	2.2	6.5	2.2+	斜	台形	木+口	完形、茎屈折
377	11-02	8	長頸三角	11.6+	2.5	8.2	1.1+	逆刺	台形	木+口	茎先欠損
378	11-04	7	長頸三角	16.2	2.6	10.0	3.6	両角	台形	木+口	完形、茎屈折
379	11-01	6	長頸三角	15.8+	2.4	9.9	3.6+	両角	台形	木+口	茎先欠損
380	11-07	―	長頸三角	3.6+	2.6+	0.9+	―	逆刺	―	―	鏃身のみ、⑨or⑩と接合か
381	10-04	10	―	13.8+	―	9.1+	4.7+	―	角	螺+口	鏃身欠損
382	10-06	9	―	14.7+	―	10.0+	4.7	―	台形	木+口	鏃身欠損
383	10-05	1	長頸片刃	15.0+	4.1+	10.9+	―	逆刺	―	木	茎欠損
384	10-01	2	長頸片刃	20.1+	5.0+	10.1	5.1	逆刺	角	木+口	茎先欠損
385	10-02	3	長頸片刃	19.4+	4.9+	9.5+	4.2+	逆刺	―	木+口	茎先欠損

〈ＳＸ381〉

No.	登録No.	取上No.	形式	全長(cm)	鏃身長(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	鏃身関	茎関	矢柄	備考
840	06-01	1	三角形	11.4	5.5	4.0	1.9	撫角	角	―	茎先欠損
841	06-02	2	三角形	13.1+	4.7+	3.5	1.3，1.3	撫角	棘状	木+口	柄残存良好

〔凡例〕 ＊数値横の「+」は、原形はその数値よりも長いことを示す。
＊「口」＝樹皮による口巻きが残存
＊「木」＝縦方向繊維の木質が残存
＊「糸」＝撚り糸による口巻きが残存
＊「螺」＝茎に螺旋状の樹皮巻が施されている。
＊「形式」は杉山秀宏氏の分類に基づく。

第18表　小谷古墳群出土鉄鏃観察表（２）

〈埋葬施設１〉

No.	遺物名	構成糸		織密度		付着位置		備考
		経(㎜)	緯(㎜)	経(本)	緯(本)	表	裏	
147	鹿角装刀子			10	10		○	刃に沿って錆着

〈埋葬施設２〉

No.	遺物名	構成糸		織密度		付着位置		備考
		経(㎜)	緯(㎜)	経(本)	緯(本)	表	裏	
156	鹿角装刀子11			10	10	○	○	
154	鹿角装刀子14			8	8	○	○	
157	鹿角装刀子16			6	6	○		
155	鹿角装刀子45			10	8	○	○	
163	鉄鏃１			10	10	○		
164	〃　２※	0.1～0.2	0.1～0.2	25	25	○	○	細Ⅱ
162	〃　３			10	10	○	○	細Ⅲ
161	〃　４			10	8	○	○	
165	〃　９			10	10	○		
166	〃　10※	0.8～1.0	0.8～1.0	10	10	◎	◎	
191	〃　12			10	8	○	○	
190	〃　13					○	○	鏃身縁沿い
178	〃　17※	0.1	0.1	25	20	◎	○	細Ⅱ
189	〃　19					○	○	細Ⅱ
168	〃　20※	0.7	0.7	10	10	○		
169	〃　21					○		
174	〃　22※	0.8	0.8	10	10	◎		立体的に残存
172	〃　23			10	10	○	○	
176	〃　24			10	8	○	○	
175	〃　25					○		
177	〃　26			15	10	○	○	
179	〃　29※			10	10	○		
186	〃　30-１			10	10	○		
180	〃　30-２					○		細Ⅱ
181	〃　30-３※	0.5	0.5	15	10	○	○	細Ⅲ
183	〃　30-４			10	10	○		
182	〃　31					○		細Ⅱ
184	〃　32					○		
170	〃　35※	0.4～0.6	0.4～0.6	10	12	◎	○	側面にも付着
171	〃　36※	0.4～0.6	0.4～0.6	10	10	◎	○	立体的に残存
173	〃　37			10	10	○		
187	〃　38			10	10	○	○	
197	〃　39			10	10	○		
188	〃　40			10	10	○	○	
194	〃　41※	0.1	0.1	25	25	○		細Ⅰ
192	〃　42					○	○	
196	〃　43※	0.1	0.1	25	20	○		細Ⅱ

〈埋葬施設４〉

No.	遺物名	構成糸		織密度		付着位置		備考
		経(㎜)	緯(㎜)	経(本)	緯(本)	表	裏	
269	鉄鏃１					○		
271	〃　２			10	10		○	
273	〃　８					○		
268	〃　９,12					○		
277	〃　10					○		
275	〃　11					○		
272	〃　13					○		

〔註〕・「※」…現存する織物
・「◎」…特に残存状況の良いもの
・「細Ⅰ～Ⅲ」…目の細かさから３種類に分類。（細Ⅰ←→Ⅲ粗）

第19表　小谷古墳群鉄製品銹着織物観察表

小谷９号墳　埋葬施設１　　土製練玉計測表

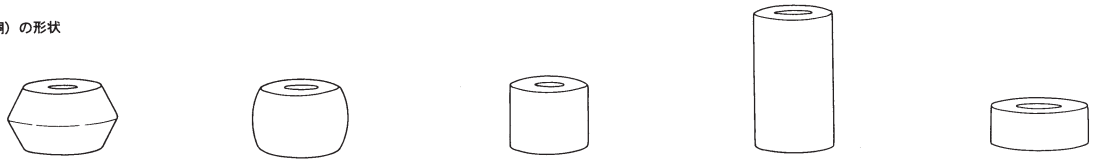
No.	登録番号	出土位置	形状	大a 小b	孔面研磨	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 g	備　考
152	035-12	棺内-③	A	b	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.00	7.0	2.0	0.38	
153	035-13	棺内-③	B	a	○	黒褐10YR3/1	4.50	8.50	8.0	2.0	0.47	

小谷９号墳　埋葬施設２　　土製練玉計測表

No.	登録番号	出土位置	形状	大a 小b	孔面研磨	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 g	備　考
211	032-01	棺内-③	A	a	○	褐灰10YR4/1	3.50	9.00	7.0	2.0	0.49	取上No.b-1
212	032-02	棺内-④	A	a	○	褐灰10YR4/1	4.00	8.00	6.5	1.5	0.34	取上No.b-2
213	032-03	棺内-④	A	a	○	褐灰10YR4/1	5.00	8.50	7.5	2.0	0.49	取上No.b-3
214	032-04	棺内-④	A	a	○	黒褐10YR3/1	3.00	8.00	7.5	1.5	0.40	取上No.b-4
215	032-05	棺内-②	A	a	○	黒褐10YR3/1	5.00	9.50	7.5	3.0	0.59	取上No.b-5
216	032-06	棺内-②	A	a	○	黒褐2.5YR3/1	5.00	8.50	7.5	2.0	0.59	取上No.b-6
217	032-07	棺内-③	A	a	○	黒褐10YR3/1	3.50	8.00	7.0	1.5	0.36	取上No.b-7
218	032-08	棺内-③	A	a	○	黒褐10YR3/1	4.00	9.00	8.0	1.5	0.54	取上No.b-8
219	032-09	棺内-③	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.00	8.50	8.0	1.5	0.54	取上No.b-9
220	032-10	棺内-③	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	3.50	9.50	7.5	1.8	0.46	取上No.b-10
221	032-11	棺内-④	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.00	8.50	8.0	2.0	0.51	取上No.b-11
222	032-12	棺内-④	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.00	8.50	8.0	2.0	0.52	取上No.b-12
223	032-13	棺内-④	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	3.00	8.00	7.0	1.8	0.34	取上No.b-13
224	032-14	棺内-④	B	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.00	9.00	8.0	2.0	0.59	取上No.b-14
225	032-15	棺内-④	A	b	○	黒褐2.5YR3/1	5.00	8.00	7.0	1.8	0.39	取上No.b-15
226	033-01	棺内-④	B	b	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.00	6.5	1.8	0.33	取上No.b-16
227	033-02	棺内-④	A	a	○	黒褐10YR3/1	3.50	8.00	7.5	1.8	0.39	取上No.b-17
228	033-03	棺内-④	B	a	○	黒褐10YR2/1	5.00	8.50	7.0	2.0	0.44	取上No.b-18
229	033-04	棺内-④	B	a	○	褐灰10YR4/1	4.00	8.00	7.0	1.8	0.39	取上No.b-19
230	033-05	棺内-④	B	a	○	褐灰10YR4/1	6.00	9.00	7.8	2.2	0.55	取上No.b-20
231	033-06	棺内-④	B	a	○	褐灰10YR4/1	6.00	9.00	7.0	2.2	0.48	取上No.b-21
232	033-07	棺内-④	B	a	○	褐灰10YR4/1	4.50	7.50	7.0	2.0	0.32	取上No.b-22
233	033-08	棺内-②	B	a	○	褐灰10YR4/1	6.00	9.00	8.5	2.0	0.69	取上No.b-23
234	033-09	棺内-②	B	a	○	黒褐7.5YR3/1	5.00	9.50	8.5	2.0	0.73	取上No.b-24
235	033-10	棺内-③	B	b	○	黒7.5Y2/1	5.00	7.50	6.0	2.0	0.32	取上No.b-25
236	033-11	棺内-③	A	b	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.00	7.0	2.0	0.35	取上No.b-26
237	033-12	棺内-③	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.50	8.50	7.5	2.0	0.43	取上No.b-27
238	033-13	棺内-④	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.50	7.50	6.0	2.0	0.34	取上No.b-28
239	033-14	棺内-②	B	a	○	黒褐10YR3/1	6.00	9.50	9.0	2.0	0.89	取上No.b-29
240	033-15	棺内-④	B	b	○	褐灰10YR4/1	5.00	8.00	7.0	1.7	0.34	取上No.b-30
241	034-01	棺内-①	B	b	○	黒褐2.5Y3/1	4.50	8.00	6.0	2.0	0.28	取上No.b-31
242	034-02	棺内-①	A	b	○	黒褐2.5Y3/1	3.50	8.00	7.5	2.0	0.33	取上No.b-32
243	034-03	棺内-①	B	a	○	黒褐10YR3/1	5.00	8.50	8.0	2.0	0.48	
244	035-01	棺内-③	A	a	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.50	7.5	2.0	0.42	
245	035-02	棺内-③	A	a	○	黄灰2.5Y4/1	4.00	8.50	8.0	2.0	0.50	
246	034-04	棺内-③	B	b	○	黒褐2.5Y3/1	4.00	7.50	6.5	2.0	0.30	刀子⑪・45の下
247	034-07	棺内-③	A	a	○	黄灰2.5Y4/1	4.00	8.00	4.0	1.8	0.38	
248	034-05	棺内-③	A	a	○	黄灰2.5Y4/1	4.00	8.00	7.5	2.0	0.40	
249	034-08	棺内-③	B	a	○	黄灰2.5Y4/1	5.00	8.00	8.0	2.0	0.34	
250	034-06	棺内-③	A	a	○	黒褐2.5Y3/1	3.50	4.00	2.0	1.5	0.39	
251	034-11	棺内-③	B	a	○	黒褐2.5Y3/1	4.50	8.00	8.0	1.8	0.46	
252	034-14	棺内-③	A	a	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.50	7.5	2.0	0.43	
253	034-15	棺内-③	B	a	○	褐灰10YR4/1	4.50	8.00	7.5	2.0	0.42	
254	034-09	棺内-③	A	a	○	黒2.5Y2/1	4.50	8.00	7.0	1.7	0.38	中アゼ下
255	034-10	棺内-③	A	a	○	黒2.5Y2/1	4.50	9.00	8.0	1.8	0.51	
256	034-12	棺内-③	A	a	○	黒褐10YR3/1	4.00	8.50	7.5	2.0	0.40	
257	034-13	棺内-③	A	a	○	黒10YR2/1	4.00	8.00	7.0	2.0	0.29	
258	035-08	棺内-④	B	a	○	黒10YR2/1	4.50	8.00	7.0	1.8	0.40	
259	035-09	棺内-④	B	a	○	黒10YR2/1	4.00	8.00	7.5	2.0	0.43	
260	035-10	棺内-④	A	a	○	黒10YR2/1	5.00	9.00	7.5	2.0	0.45	
261	035-03	棺内-④	B	a	○	黒褐10YR3/1	4.50	7.50	6.5	1.8	0.33	棺底
262	035-04	棺内-④	A	a	○	黒褐10YR3/1	4.50	8.00	6.5	2.0	0.34	棺底
263	035-05	棺内-④	A	a	○	黒10YR2/1	4.50	8.00	7.0	1.8	0.37	鉄下層
264	035-06	棺内-④	A	a	○	黒10YR2/1	4.50	8.00	7.5	2.0	0.41	鉄下層
265	035-07	棺内-④	B	b	○	黒10YR2/1	4.50	7.00	5.5	2.0	0.23	鉄下層
266	035-11	棺内-⑤	B	b	○	黒褐10YR3/1	4.50	8.00	7.0	2.0	0.35	

第20表　小谷９号墳　土製練玉計測表

側面（胴）の形状



A
（算盤玉状）
A　中央部が外彎し
若干の稜をつくる

B
（棗玉状）
B　中央部が外彎し
太鼓胴となる

C
（臼玉状）
C　直線的で、円筒状
臼玉直径未満の厚さ

D
（管玉状）
D　直線的で、円筒状
臼玉直径以上の厚さ

E
（平玉状）
E　直線的で、円筒状
臼玉直径三分の一以
下の厚さ

側面研磨状態（擦痕）

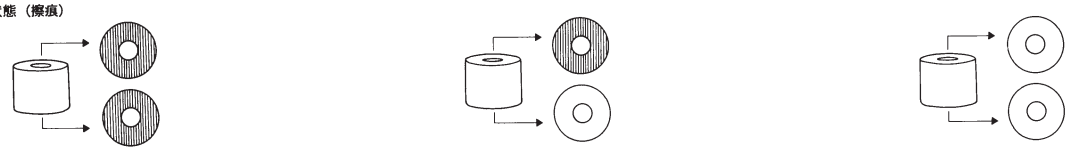
1　タテ
（側面研磨縦）
1　縦方向に研磨

2　斜
（側面研磨斜）
2　斜方向に研磨

3　ヨコ
（側面研磨横）
3　横方向に研磨

4
（側面無研磨）
4　研磨なし

孔面研磨状態（擦痕）

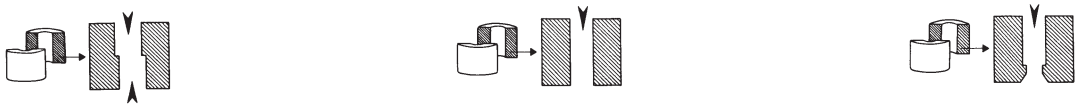


a
（孔面両面研磨）
a　両面に研磨

b
（孔面片面研磨）
b　片面に研磨

c
（孔面無研磨）
c　研磨なし

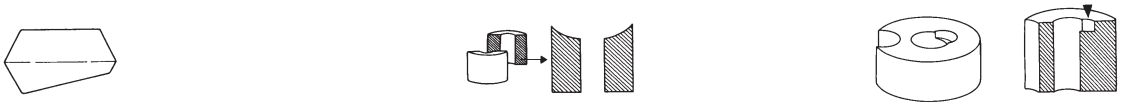
穿孔方法



Ⅰ
Ⅰ　両面穿孔

Ⅱ
（片面穿孔直接貫通）
Ⅱ　片面から穿孔し、錐先を貫通させる

Ⅲ
（片面穿孔押圧貫通）
Ⅲ　片面から穿孔し、錐先を途中で止め
押圧により裏面を剥離させ貫通する



i
i　A形状の孔面が極端に斜めとなる

ii
ii　孔面が凹形状に湾曲する

iii
iii　穿孔位置がズレた痕跡をとどめる

石製臼玉、分類

・篠原祐一「臼玉研究私論」（『研究紀要』第３号財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995年）
上記論文を基本として臼玉を分類，上記論文所収の分類図を一部トレース・一部加筆

Ａａ
太鼓胴形大型品

Ａｂ
太鼓胴形小型品

Ｂａ
臼形大型品

Ｂｂ
臼型小型品

土製練玉分類

第89図　臼玉・練玉分類図

小谷11号墳埋葬施設２

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
343	1800	11号墳埋２　棺内4区	C	2	a	Ⅲ	緑	4.50		2.50	1.5	80	滑石製
344	1801	11号墳埋２　棺内6区	C	3	a	Ⅰ	灰緑	7.50		2.5-3.0	2.5	200	滑石製
347	1804	11号墳埋２　棺内6区	D	3	a	Ⅱ	緑	5.50		15.00	1.0-2.0	695	
346	1803	11号墳埋２　棺内6区	D	3	a	Ⅱ	緑	7.50		20.00	1.0-2.5	1,910	
345	1802	11号墳埋２　棺内6区	D	3	a	Ⅱ	緑	8.50		21.50	1.0-2.0	2,840	

小谷13号墳埋葬施設１

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
392	424	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
393	1920	埋１　２区北	B	2	a	Ⅰ	青緑	3.00	4.00	2.5-4.0	1.5-1.75	60	i・ii
394	281	埋１　棺内	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	85	
395	441	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	20	
396	438	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
397	321	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
398	388	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
399	383	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
400	426	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
401	453	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
402	314	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
403	422	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	35	
404	299	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
405	434	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	1.00	1.00	35	
406	1829	埋１　２区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.75	1.00	50	
407	282	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
408	293	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
409	444	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
410	285	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
411	303	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
412	387	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	65	
413	457	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
414	373	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.50	35	
415	425	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
416	352	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
417	371	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
418	420	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	50	
419	269	埋１　棺内	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	
420	289	埋１　棺内	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
421	310	埋１　棺内	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
422	452	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.00	60	
423	294	埋１　棺内	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.50	40	
424	368	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.50	45	
425	271	埋１　棺内	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
426	323	埋１　棺内	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	4.00	1.50	60	
427	378	埋１　２区南　実測(下層)	A	2	c	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.50	1.50	60	
428	1876	埋１　２区北	A	3	a	Ⅰ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.75	50	i
429	365	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.5-2.0	1.50	30	
430	360	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
431	347	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
432	350	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	40	
433	363	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	25	
434	456	埋１　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
435	322	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
436	292	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
437	287	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
438	320	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
439	382	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
440	266	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
441	435	埋１　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	

第21表　小谷13号墳臼玉計測表（１）

№	管理 No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 mg	備　考
442	446	埋１　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
443	1855	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	2.50	1.50	50	
444	431	埋１　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	60	
445	1841	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	4.00	2.50	1.75	55	i・ii
446	346	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
447	1866	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.50	2.00	1.25	40	
448	358	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
449	295	埋１　棺内	A	3	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
450	297	埋１　棺内	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	40	
451	337	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	60	
452	341	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
453	450	埋１　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
454	1864	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
455	1885	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	45	
456	1865	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
457	1827	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	緑	3.25	3.50	1.50	1.50	20	
458	1813	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.50	1.50	40	
459	1904	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	緑	3.25	3.50	3.25	1.50	55	
460	1932	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	青緑	3.50	3.75	2.00	1.50	30	i・ii
461	1939	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.50	50	i
462	1948	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	青緑	3.25	4.00	2.0-3.0	1.50	55	i
463	1956	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.50	1.5-1.75	65	ii
464	1882	埋１　２区北	A	3	b	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	
465	261	埋１　棺内	A	3	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	55	
466	1843	埋１　２区北	B	1	a	Ⅰ	褐灰	4.00	4.25	1.50	1.00	40	
467	1870	埋１　２区北	B	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
468	366	埋１　２区南　実測(下層)	B	1	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
469	1807	埋１　２区北	B	2	a	Ⅰ	灰白	3.00	3.50	3.00	1.50	45	孔面ナナメ
470	370	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	錆付着
471	440	埋１　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
472	342	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
473	369	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
474	442	埋１　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
475	270	埋１　棺内	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
477	279	埋１　棺内	B	2	B	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
478	1875	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.00	2.50	1.50	50	
479	276	埋１　棺内	B	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
480	439	埋１　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
481	349	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	b	Ⅲ	緑	3.50		2.00	1.00	35	
482	428	埋１　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
483	262	埋１　棺内	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
484	389	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
485	300	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	40	
486	427	埋１　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
487	1919	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.75	4.00	2.00	1.25-1.5	55	
488	374	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
489	263	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
490	381	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	3.75	2.00	1.00	40	
491	362	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
492	315	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
493	288	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
494	274	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
495	354	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	20	
496	286	埋１　棺内	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
497	1928	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	青緑	3.00	3.50	1.50	1.50	30	
498	357	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
499	1816	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
500	1925	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.75	2.00	1.25	35	
501	1832	埋１　２区北	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
502	1878	埋１　２区北	B	3	b	Ⅲ	緑	3.25	4.00	3.00	1.50	50	ii
503	1957	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	65	

第22表　小谷13号墳臼玉計測表（２）

№	管理 No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 mg	備　考
504	379	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.5-3.0	1.50	45	
505	268	埋１　棺内	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
506	1912	埋１　２区北	C	1	b	Ⅰ	褐灰	3.75		1.50	1.50	30	
507	1822	埋１　２区北	C	1	a	Ⅲ	褐灰	3.00		1.25	1.00	20	
508	1974	埋１　２区北	C	1	a	Ⅲ	褐灰	3.50		1.50	1.00	35	
509	1947	埋１　２区北	C	2	a	Ⅰ	褐灰	3.50		1.50	1.00	30	iii
510	277	埋１　棺内	C	2	b	Ⅱ	緑	3.00		1.50	1.00	25	
511	1915	埋１　２区北	C	2	a	Ⅲ	灰白	3.00		2.00	1.00	25	1/3欠損
512	325	埋１　棺内	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.0-2.0	1.00	40	
513	351	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		2.00	1.00	35	
514	1824	埋１　２区北	C	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.50	25	
515	339	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	50	
516	291	埋１　棺内	C	1	b	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	35	
517	280	埋１　棺内	C	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50		1.5-2.5	1.50	60	
518	1895	埋１　２区北	C	2	b	Ⅲ	青緑	3.50		3.00	1.50	50	ii
519	284	埋１　棺内	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		3.00	1.00	70	
520	1815	埋１　２区北	C	1	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	側面に平滑面1面残存
521	1966	埋１　２区北	C	3	b	Ⅰ	灰白	3.50		1.75	1.00	30	iii
522	1971	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	青緑	3.75		1.50	1.25-1.5	35	
523	1899	埋１　２区北	C	3	A	Ⅱ	灰白	3.25		1.50	1.00	30	
524	1850	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.75		1.50	1.00	40	
525	1893	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	青灰	3.75		1.50	1.00	40	
526	264	埋１　棺内	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
527	273	埋１　棺内	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	45	
528	1871	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	35	
529	1828	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	45	
530	918	埋１　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	25	1/2欠損
531	1955	埋１　２区北	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.75	1.25	35	
532	301	埋１　棺内	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
533	361	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
534	1879	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	55	
535	1901	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	50	錆付着
536	390	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.00	35	
537	364	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	内壁一方に切込溝6方向
538	1872	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	
539	1905	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	緑	4.25		1.50	1.00	50	
540	1908	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.50	40	
541	1898	埋１　２区北	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		2.50	1.00	45	1/3欠損
542	353	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	b	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.50	30	
543	1891	埋１　２区北	C	3	b	Ⅲ	緑	4.00		1.5-2.0	1.50	45	
544	306	埋１　棺内	C	3	b	Ⅰ	緑	3.50		3.00	1.50	45	
545	384	埋１　２区南　実測(下層)	C	4	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
546	1809	埋１　２区北	E	1	a	Ⅱ	褐灰	4.00		1.00	1.00	30	
547	338	埋１　２区南　実測(下層)	E	2	a	Ⅰ	緑	4.00		1.00	1.00	25	
548	283	埋１　棺内	E	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.00	25	
549	1972	埋１　２区北	E	2	c	Ⅲ	灰白	3.50		1.00	1.50	5	粗悪品
550	1946	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	青緑	4.00		1.00	1.0-1.5	10	
551	1924	埋１　２区北	E	3	a	Ⅰ	灰緑	3.75		1.25	1.50	35	
552	309	埋１　棺内	E	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
553	1814	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	
554	1892	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		0.5-1.0	1.00	5	
555	1884	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.75		1.00	1.00	30	
556	1967	埋１　２区北	E	1	a	Ⅱ	褐	3.50		1.00	1.00	30	
557	1960	埋１　２区北	E	1	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	25	
558	1945	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	褐灰	3.75		0.75	1.25-1.5	5	
559	1935	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.50	25	ii
560	1927	埋１　２区北	E	1	a	Ⅱ	褐灰	3.50		1.00	1.50	25	
561	1818	埋１　２区北	E	3	a	Ⅱ	緑	3.75		1.25	1.50	30	
562	1923	埋１　２区北	E	3	b	Ⅱ	褐灰	3.75		1.00	1.25-1.5	20	
563	1811	埋１　２区北	E	3	a	Ⅲ	灰白	3.75		1.00	1.00	25	
564	1937	埋１　２区北	E	3	a	Ⅲ	褐灰	3.50		1.00	1.25-1.5	20	

第23表　小谷13号墳臼玉計測表（３）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
565	1821	埋１　２区北	E	3	c	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	1	埋１　２区北	B	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	2	埋１　２区北	C	3	b	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	1/5欠損
	3	埋１　２区北	A	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	4	埋１　２区北	A	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	5	埋１　２区北	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	6	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	7	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	8	埋１　２区北	A	1	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	9	埋１　２区北	E	1	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.00	1.50	20	
	10	埋１　２区北	E	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.00	1.00	20	
	11	埋１　２区北	A	1	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	12	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.00	1.00	25	
	13	埋１　２区北	C	1	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	45	
	14	埋１　２区北	C	3	b	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	40	
	15	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	16	埋１　２区北	B	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
	17	埋１　２区北	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	18	埋１　２区南	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	80	
	19	埋１　２区南	B	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	20	埋１　２区南	A	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	21	埋１　２区南	B	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	50	
	22	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	60	
	23	埋１　２区南	B	3	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	24	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		3.00	1.00	60	
	25	埋１　２区南	E	3	a	Ⅲ	緑	3.50		0.50	1.00	5	
	26	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	27	埋１　２区南	B	3	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	28	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	29	埋１　２区南	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.00	1.50	20	
	30	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.00	1.00	20	
	31	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	32	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	1/2欠損
	33	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	35	
	34	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	35	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	36	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	37	埋１　２区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	38	埋１　２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	39	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	40	埋１　２区南	C	3	b	Ⅲ	灰白	3.00		2.00	1.00	30	
	41	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.50	0.50	60	
	42	埋１　２区南	E	1	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	43	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	44	埋１　２区南	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	45	埋１　２区南	E	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.00	1.00	20	
	46	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	30	錆付着
	47	埋１　２区南	B	1	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	48	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	49	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	40	
	50	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	55	
	51	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	52	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	53	埋１　２区南	C	3	b	Ⅰ	緑	3.50		1.50	1.00	30	
	54	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	55	埋１　２区南	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	56	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	57	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	58	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	59	埋１　２区南	E	4	c	Ⅲ	青緑	4.00		1.00	1.00	25	
	60	埋１　２区南	B	3	c	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	

第24表　小谷13号墳臼玉計測表（４）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	61	埋1　2区南	C	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50		0.5-2.5	1.50	25	斜めスライス
	62	埋1　2区南	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.00	1.00	30	
	63	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	64	埋1　2区南	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	65	埋1　2区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
	66	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	67	埋1　2区南	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	68	埋1　2区南	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	69	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	70	埋1　2区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	71	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	72	埋1　2区南	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	73	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	74	埋1　2区南	B	4	c	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	75	埋1　2区南	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.0 -1.5	25	
	76	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	77	埋1　2区南	A	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	80	
	78	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	79	埋1　2区南	C	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.50	35	1/3欠損
	80	埋1　2区南	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	81	埋1　2区南	C	2	a	Ⅱ	青緑	3.50		1.50	1.00	30	
	82	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	83	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.00	30	
	84	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	45	
	85	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	40	
	86	埋1　2区南	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	87	埋1　2区南	E	1	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.50	25	
	88	埋1　2区南	B	4	b	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	89	埋1　2区南	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	90	埋1　2区南	C	2	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	1/6欠損
	91	埋1　2区南	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.00	35	
	92	埋1　2区南	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	93	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	40	
	94	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	95	埋1　2区南	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	96	埋1　2区南	A	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	97	埋1　2区南	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	98	埋1　2区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	45	
	99	埋1　2区南	A	1	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
	100	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	101	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	102	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	103	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	104	埋1　2区南	C	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.00	40	
	105	埋1　2区南	A	2	c	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.50	1.50	65	
	106	埋1　2区南	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	107	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	108	埋1　2区南	A	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	109	埋1　2区南	B	4	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	110	埋1　2区南	C	3	a	Ⅰ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	111	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	112	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	113	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	114	埋1　2区南	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.50	1.50	65	
	115	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.00	40	
	116	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.00	1.00	15	
	117	埋1　2区南	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.00	40	
	118	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	119	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	120	埋1　2区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	121	埋1　2区南	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	65	

第25表　小谷13号墳臼玉計測表（5）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	122	埋１　２区南	A	3	c	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	3.50	1.50	50	
	123	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	124	埋１　２区南	E	3	a	Ⅱ	青緑	3.50		1.00	1.00	20	
	125	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	126	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	127	埋１　２区南	A	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	
	128	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	129	埋１　２区南	C	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		0.5-1.5	1.50	20	1/2欠損
	130	埋１　２区南	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	131	埋１　２区南	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		0.5-1.0	1.00	5	1/2欠損
	132	埋１　２区南	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		2.50	1.00	50	
	134	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	135	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	136	埋１　２区南	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	137	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	138	埋１　２区南	C	3	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.0-2.0	1.00	25	
	139	埋１　２区南	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	140	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
	141	埋１　２区南	C	1	B	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.00	35	
	142	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	143	埋１　２区南	C	3	c	Ⅰ	灰白	3.50		2.00	1.00	35	
	144	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	145	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	146	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	40	
	147	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	148	埋１　２区南	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	35	
	149	埋１　２区南	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	150	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	151	埋１　２区南	C	1	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	20	
	152	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	55	
	153	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	154	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		2.50	1.00	60	錆付着
	155	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	156	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	157	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	158	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	159	埋１　２区南	A	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	160	埋１　２区南	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	161	埋１　２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	162	埋１　２区南	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	163	埋１　２区南	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	164	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	35	
	165	埋１　２区南	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	60	
	166	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.50	1.00	35	
	167	埋１　２区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	168	埋１　２区南	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	169	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.50	45	錆付着
	170	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	171	埋１　２区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	40	
	172	埋１　２区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		3.00	1.00	45	
	173	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	174	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	175	埋１　２区南	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	176	埋１　２区南	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	177	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	25	
	178	埋１　２区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	45	
	179	埋１　２区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.50	25	
	180	埋１　２区南	B	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	20	
	181	埋１　２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	182	埋１　２区南	C	3	b	Ⅲ	灰緑	4.00		2.50	1.00	50	
	183	埋１　２区南	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	

第26表　小谷13号墳臼玉計測表（６）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	184	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	185	埋1　2区南	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	186	埋1　2区南	C	c	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.50	25	
	187	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	40	
	188	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	189	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	190	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.00	1.50	20	
	191	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	192	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	193	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	194	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	195	埋1　2区南	A	2	c	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	45	
	196	埋1　2区南	A	2	c	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.50	30	
	197	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	198	埋1　2区南	B	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.50	1.50	60	
	199	埋1　2区南	E	1	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	200	埋1　2区南	C	3	b	Ⅲ	緑	4.00		2.00	1.00	45	
	201	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	2.00	35	
	202	埋1　2区南	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	203	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	204	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	205	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	206	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
	207	埋1　2区南	B	2	b	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	25	
	208	埋1　2区南	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.00	50	
	209	埋1　2区南	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	210	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.5-3.0	1.00	50	
	211	埋1　2区南	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
	212	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	213	埋1　2区南	A	2	b	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	214	埋1　2区南	A	2	b	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	215	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	3.00	1.00	65	
	216	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	50	
	217	埋1　2区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	218	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	青緑	4.00		2.00	1.00	40	
	219	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	220	埋1　2区南	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	45	
	221	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	222	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	223	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.0-1.5	1.50	25	
	224	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	225	埋1　2区南	C	3	a	Ⅰ	灰白	4.00		2.00	1.00	35	
	226	埋1　2区南	B	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	227	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	228	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	229	埋1　2区南	C	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	40	
	230	埋1　2区南	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	231	埋1　2区南	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	232	埋1　2区南	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	233	埋1　2区南	C	3	a	Ⅰ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	234	埋1　2区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.50	1.00	55	1/3欠損
	235	埋1　2区南	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	60	
	236	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	35	
	237	埋1　2区南	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	4.00	1.50	80	
	238	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	239	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	240	埋1　2区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	55	
	241	埋1　2区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	242	埋1　2区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	243	埋1　2区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	1/3欠損
	244	埋1　2区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	

第27表　小谷13号墳臼玉計測表（7）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	245	埋１　２区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	3.50	1.50	45	
	246	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	247	埋１　２区南	E	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.00	1.00	30	
	248	埋１　２区南	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	249	埋１　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
	250	埋１　２区南	B				灰緑	3.50		2.00	1.00	20	1/2欠損
	251	埋１　２区南	B				灰緑	3.50		1.00	1.00	15	1/2欠損
	252	埋１　２区南	B				灰白	3.50		1.00	1.00	5	1/2欠損
	253	埋１　２区南	B				灰白	4.00		2.00	1.00	20	1/2欠損
	254	埋１　２区南	B				灰白	4.00		1.50	1.00	10	1/2欠損
	255	埋１　２区南	B				灰白	3.50		1.00	1.00	5	1/2欠損
	256	埋１　２区南	B				灰白	3.50		1.50	1.00	5	1/2欠損
	257	埋１　２区南	B				灰白	3.50		1.50	1.00	5	1/2欠損
	258	埋１　２区南	B				灰白	4.00		1.50	1.00	10	1/2欠損
	259	埋１　２区南	B				灰緑	3.50		1.50	1.50	15	1/2欠損
	260	埋１　２区南	B				灰緑	3.50		1.50	1.50	10	1/2欠損
	265	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	267	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.51	35	
	272	埋１　棺内	C	3	c	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	275	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	278	埋１　棺内	B	4	b	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	20	
	290	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	296	埋１　棺内	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	298	埋１　棺内	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.50	45	
	302	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	304	埋１　棺内	E	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	305	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	307	埋１　棺内	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	308	埋１　棺内	E	3	b	Ⅱ	灰緑	4.00		1.00	1.50	25	
	311	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	312	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	313	埋１　棺内	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	316	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	317	埋１　棺内	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.50	25	
	318	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	319	埋１　棺内	E	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.00	1.00	30	
	324	埋１　棺内	B	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	30	
	326	埋１　棺内	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	327	埋１　棺内	C	3	b	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	328	埋１　棺内	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	iii
	329	埋１　棺内	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	330	埋１　棺内	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	331	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	332	埋１　棺内	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.00	1.00	15	
	333	埋１　棺内	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	iii
	334	埋１　棺内	B				灰白	3.50		1.50	1.00	20	1/2欠損
	335	埋１　棺内	B				灰緑	3.50		0.50	1.00	50	1/2欠損
	336	埋１　棺内	B				灰白	3.50		1.00	1.50	15	1/2欠損
	340	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.00	1.50	1.00	30	
	343	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	344	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	345	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	348	埋１　２区南　実測(下層)	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	70	
	355	埋１　２区南　実測(下層)	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	20	
	356	埋１　２区南　実測(下層)	B	4	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.0-1.5	25	
	359	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	367	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	372	埋１　２区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	376	埋１　２区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	375	埋１　２区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	377	埋１　２区南　実測(下層)	B	1	a	Ⅰ	灰白	4.00	4.50	2.50	1.00	65	

第28表　小谷13号墳臼玉計測表（８）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	380	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
	385	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	386	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	391	埋1　2区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	392	埋1　2区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00			1.00	35	
	393	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00		1.00	25	1/3欠損
	394	埋1　2区南　実測(下層)	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	395	埋1　2区南　実測(下層)	E	1	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.00	1.00	5	
	396	埋1　2区南　実測(下層)	C	3	b	Ⅲ	灰白	3.50		1.0-1.5	1.00	25	
	397	埋1　2区南　実測(下層)	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.00	45	
	398	埋1　2区南　実測(下層)	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	399	埋1　2区南　実測(下層)	C	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	400	埋1　2区南　実測(下層)	A	2	c	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	2.00	30	
	401	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	402	埋1　2区南　実測(下層)	B	1	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	403	埋1　2区南　実測(下層)	E	3	a	Ⅰ	灰白	3.00		1.00	1.00	10	
	404	埋1　2区南　実測(下層)	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	15	
	405	埋1　2区南　実測(下層)	C	1	c	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	406	埋1　2区南　実測(下層)	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		0.50	1.00	5	
	407	埋1　2区南　実測(下層)	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	408	埋1　2区南　実測(下層)	B				灰白	3.50		1.00	1.00	5	1/2欠損
	409	埋1　2区南　実測(下層)	B				灰緑	3.50		1.50	1.00	5	1/2欠損
	410	埋1　2区南　実測(下層)	B				灰白	3.50		1.50	1.00	10	1/2欠損
	411	埋1　4区	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	412	埋1　4区	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	413	埋1　4区	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	414	埋1　4区	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	415	埋1　4区	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	416	埋1　4区	E	3	a	Ⅰ	灰緑	4.00		1.00	1.00	30	
	417	埋1　4区	E	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	418	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	40	
	419	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	40	
	421	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	40	
	423	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	429	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅱ	緑	3.50		1.0-2.0	1.00	35	
	430	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	432	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	60	
	433	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	436	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	437	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	443	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	445	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	40	
	447	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	448	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	35	
	449	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	451	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰白	3.00	3.50	2.0-2.5	1.00	40	
	454	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	455	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	458	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	緑	3.00		1.50	1.00	25	
	459	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.5-2.5	1.00	65	
	460	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00		2.00	1.00	35	
	461	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	4.00	2.00	1.00	50	
	462	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	463	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50		2.50	1.00	60	1/3欠損
	464	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	465	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.50	35	
	466	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50		2.00	1.00	40	
	467	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	468	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	25	
	469	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
	470	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		0.5-1.5	1.00	30	

第29表　小谷13号墳臼玉計測表（9）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	471	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	青緑	4.00		0.5-1.5	1.00	25	1/2欠損
	472	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	473	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	1/3欠損
	474	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	35	
	475	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.00	1.00	20	
	476	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	477	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	478	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	479	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	35	1/4欠損
	480	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	481	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	青灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	482	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	483	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	484	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	35	
	485	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	40	
	486	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	1/4欠損
	487	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	35	
	488	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.50	1.50	55	
	489	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	490	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	491	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	492	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	493	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	45	
	494	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	495	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	496	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	497	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	498	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	499	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	65	
	500	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	501	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	青灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
	502	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	50	
	503	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	504	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
	505	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	青緑	3.50	4.00	1.00	1.00	30	
	506	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	507	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.00	2.50	1.00	75	
	508	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	509	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	40	
	510	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	511	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	512	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	513	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	514	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	515	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	1.5-2.5	1.00	35	
	516	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	517	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	1.50	1.00	30	
	518	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	40	
	519	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	520	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50		2.50	1.00	50	
	521	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	40	
	522	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅰ	灰白	3.00		1.0-1.5	1.50	25	
	523	埋1　南攪乱	E	1	b	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	524	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	525	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	526	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	527	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	528	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	529	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	青灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	60	
	530	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.75		1.00	1.00	40	
	531	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	

第30表　小谷13号墳臼玉計測表（10）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	532	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	533	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	534	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.50	45	
	535	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.00	25	
	536	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	537	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.00	1.00	30	錆付着
	538	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.00	55	錆付着
	539	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	40	錆付着
	540	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.00	45	錆付着
	541	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	50	
	542	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	55	
	543	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	544	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	錆付着
	545	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	50	
	546	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.00	1.00	20	1/3欠損
	547	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	
	548	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	4.00		1.00	1.00	20	
	549	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	550	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.75	4.00	1.50	1.00	30	
	551	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	552	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	553	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.0-1.5	1.00	25	
	554	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.00	40	
	555	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	556	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	0.5-1.5	1.50	15	
	557	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	0.5-1.5	1.00	20	
	558	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	65	
	559	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	褐	3.50	4.00	1.50	1.00	35	錆付着
	560	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	55	
	561	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.5-2.0	1.50	35	
	562	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	563	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	564	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	565	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰白	3.25	3.50	1.5-2.0	1.00	25	
	566	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	4.00	1.50	1.00	30	
	567	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	568	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	35	
	569	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.50	20	
	570	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	571	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.50	45	
	572	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.55	1.0-1.5	1.00	25	
	573	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	574	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	575	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	576	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	577	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	578	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	25	1/4欠損
	579	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	580	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	35	
	581	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	582	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	583	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	50	
	584	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.50	40	
	585	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	30	
	586	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	587	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.25	3.50	1.50	1.00	30	
	588	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	35	
	589	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.50	50	
	590	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	591	埋1　南攪乱	B	1	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.50	25	
	592	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	

第31表　小谷13号墳臼玉計測表（11）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	593	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	50	
	594	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	595	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	596	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	597	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	598	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	599	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	3.00	1.50	45	
	600	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	601	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	602	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.50		2.00	1.00	40	
	603	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	0.5-3.0	1.50	40	
	604	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	605	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	30	
	606	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.00	45	
	607	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	608	埋1　南攪乱	B	4	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.00	1.50	20	
	609	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	45	錆付着
	610	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	611	埋1　南攪乱	B	1	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	612	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	613	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.00	1.00	20	
	614	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	40	
	615	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
	616	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	緑	4.00		1.00	1.00	30	
	617	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	40	
	618	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	619	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	620	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	65	
	621	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	40	
	622	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.00	1.00	25	
	623	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00		2.00	1.00	40	
	624	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
	625	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	1.00	1.00	15	
	626	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	627	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.00	25	
	628	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	629	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.00	1.00	20	
	630	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	631	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	632	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	633	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	634	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	635	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.00	1.00	20	
	636	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.00	25	
	637	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.25	3.55	0.5-1.0	1.00	20	
	638	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	639	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	640	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	641	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	642	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	2.00	35	
	643	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	644	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.55	3.75	1.50	1.00	35	
	645	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	646	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		0.5-1.0	1.00	20	
	647	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	25	
	648	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	60	
	649	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	650	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	0.5-2.0	1.50	25	
	651	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	1/2欠損
	652	埋1　南攪乱	B	3	1	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	1/3欠損
	653	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.50	2.00	1.50	55	

第32表　小谷13号墳臼玉計測表（12）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	654	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	655	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	656	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		0.5-1.5	1.50	20	
	657	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	658	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.0-1.5	1.50	35	
	659	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	褐	3.00	3.50	2.00	1.00	35	錆付着
	660	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
	661	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
	662	埋1　南攪乱	B	4	c	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	2.00	30	
	663	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	1/4欠損
	664	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.00		1.50	1.00	30	
	665	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	666	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	667	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	668	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.50	35	
	669	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	3.75	1.00	1.00	30	
	670	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	1.00	1.00	25	
	671	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	672	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	673	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		0.5-1.0	1.00	20	
	674	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.00	1.00	25	1/3欠損
	675	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	676	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	40	
	677	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.25	3.45	2.00	1.00	35	
	678	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	褐	3.00	3.50	2.00	1.00	35	錆付着
	679	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	4.00	4.00	1.00	80	
	680	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	681	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	70	
	682	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	65	
	683	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	684	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.50	1.00	50	
	685	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	686	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	687	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.25	3.55	1.50	1.00	35	1/3欠損
	688	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	35	
	689	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.0-1.5	1.00	30	1/3欠損
	690	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	35	
	691	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	692	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	693	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.5-3.0	1.50	50	
	694	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	695	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.00	40	
	696	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	3.75	1.00	1.00	35	
	697	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.50	20	
	698	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	35	
	699	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.50	1.50	70	
	700	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	701	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	702	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	703	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	40	
	704	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅰ	灰緑	4.00		1.00	1.50	35	1/2欠損
	705	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	706	埋1　南攪乱	B	4	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	707	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.45	3.75	2.00	1.00	40	
	708	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	709	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.50		1.50	1.00	25	
	710	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.50	40	
	711	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	712	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	713	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	714	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.50	2.00	1.00	40	

第33表　小谷13号墳臼玉計測表（13）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	715	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	35	
	716	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	717	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	718	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	30	
	719	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.75	2.00	1.00	40	
	720	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.75	4.00	1.50	1.00	40	
	721	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.25	3.55	2.00	1.00	35	
	722	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	灰白	4.00		2.00	1.00	40	
	723	埋1　南攪乱	B	1	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	724	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.50	1.00	55	
	725	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		2.50	1.00	50	
	726	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.0-1.5	1.50	25	
	727	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	1.0-1.5	1.00	40	
	728	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	729	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.50	2.00	1.00	50	
	730	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	731	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	45	1/4欠損
	732	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	40	
	733	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	30	
	734	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	1/4欠損
	735	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	1/6欠損
	736	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.25	3.55	1.00	1.00	20	
	737	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	738	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	739	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.50	20	
	740	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.55	1.00	1.00	20	
	741	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	1/3欠損
	742	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	1.50	1.00	35	
	743	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	35	
	744	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.00	2.00	1.00	55	
	745	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.00	35	
	746	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	747	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	30	
	748	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	749	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.25	3.50	1.50	1.00	30	
	750	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	751	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.50	1.50	1.00	30	
	752	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.25	3.55	1.50	1.00	35	
	753	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.25	3.55	2.00	1.00	40	
	754	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	755	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	35	
	756	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	
	757	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	
	758	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	70	
	759	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅰ	褐	3.75		2.00	1.00	55	錆付着
	760	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	761	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	762	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.50	1.50	55	
	763	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	錆付着
	764	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	錆付着
	765	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	766	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	1.50	1.00	40	
	767	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	768	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	
	769	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.50	3.75	1.50	1.00	35	
	770	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	771	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	灰緑	2.75	3.25	2.00	1.00	30	
	772	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2..5-3.5	1.50	65	
	773	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	30	1/3欠損
	774	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	1/3欠損
	775	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	

第34表　小谷13号墳臼玉計測表（14）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	776	埋1　南攪乱	A	2	a	I	緑	3.50	3.75	1.50	1.00	35	
	777	埋1　南攪乱	B	3	a	III	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	20	
	778	埋1　南攪乱	B	3	a	I	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	779	埋1　南攪乱	B	2	a	III	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
	780	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	781	埋1　南攪乱	A	2	a	II	灰白	3.00	4.00	1.50	1.00	35	
	782	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	80	
	783	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	784	埋1　南攪乱	B	3	a	III	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	785	埋1　南攪乱	A	2	a	III	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	1/3欠損
	786	埋1　南攪乱	C	2	a	III	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	787	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰緑	3.50	3.75	2.00	1.00	35	
	788	埋1　南攪乱	B	2	a	III	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	789	埋1　南攪乱	A	2	b	I	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	790	埋1　南攪乱	C	3	a	II	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	791	埋1　南攪乱	C	3	a	I	緑	4.00		2.00	1.00	45	
	792	埋1　南攪乱	B	2	b	III	灰緑	3.40	4.00	2.00	1.00	40	
	793	埋1　南攪乱	C	3	a	II	灰白	3.75		1.50	1.00	30	
	794	埋1　南攪乱	B	3	a	II	緑	3.25	3.50	1.00	1.00	25	
	795	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	796	埋1　南攪乱	C	3	b	III	緑	3.50		1.50	1.50	35	
	797	埋1　南攪乱	B	3	a	III	灰緑	3.75	4.00	1.50	1.00	30	
	798	埋1　南攪乱	C	3	a	II	灰緑	4.00		1.50	1.00	30	
	799	埋1　南攪乱	B	2	a	III	灰緑	3.75	4.00	2.00	1.00	50	
	800	埋1　南攪乱	B	2	a	III	緑	3.50	4.00	2.0-3.0	1.00	60	
	801	埋1　南攪乱	B	2	a	III	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	802	埋1　南攪乱	E	2	a	II	緑	3.50		1.00	1.50	25	
	803	埋1　南攪乱	B	3	a	III	灰白	3.75	4.00	1.00	1.00	25	
	804	埋1　南攪乱	E	3	a	II	緑	4.00		1.00	1.00	25	
	805	埋1　南攪乱	B	2	a	II	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	806	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	807	埋1　南攪乱	A	3	a	II	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	808	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
	809	埋1　南攪乱	B	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	810	埋1　南攪乱	B	3	a	II	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	811	埋1　南攪乱	B	2	a	II	緑	3.75	4.00	1.00	1.00	30	
	812	埋1　南攪乱	B	2	a	I	灰緑	3.00	3.50	1.00	1.00	20	
	813	埋1　南攪乱	A	2	a	III	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	814	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.00	4.00	2.0-2.5	1.50	45	
	815	埋1　南攪乱	A	2	b	III	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	60	
	816	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰白	3.00	3.50	1.50	1.50	25	
	817	埋1　南攪乱	C	4	c	III	灰白	4.00		1.50	1.50	25	
	818	埋1　南攪乱	B	3	a	I	灰白	3.50	3.75	0.5-1.0	1.00	20	1/2欠損
	819	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	820	埋1　南攪乱	A	2	b	III	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	錆付着
	821	埋1　南攪乱	B	2	a	II	灰白	3.75	4.00	1.50	1.00	40	
	822	埋1　南攪乱	B	2	a	II	緑	3.50	4.50	2.50	1.50	45	
	823	埋1　南攪乱	B	3	a	II	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	824	埋1　南攪乱	A	2	a	I	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	825	埋1　南攪乱	A	3	a	III	灰白	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	826	埋1　南攪乱	B	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	827	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	30	
	828	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	829	埋1　南攪乱	A	3	a	II	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	830	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	831	埋1　南攪乱	C	3	a	III	灰緑	3.50		2.00	1.00	30	
	832	埋1　南攪乱	B	3	a	II	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	833	埋1　南攪乱	A	2	a	III	灰白	3.50	3.75	1.50	1.50	35	
	834	埋1　南攪乱	A	2	a	III	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	45	
	835	埋1　南攪乱	B	2	a	II	灰緑	3.75	4.00	2.0-3.0	1.00	65	
	836	埋1　南攪乱	A	2	b	I	緑	3.00	4.00	2.50	2.00	35	

第35表　小谷13号墳臼玉計測表（15）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	837	埋1　南攪乱	C	3	c	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	30	
	838	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	839	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.25	3.50	1.5-2.0	1.00	30	
	840	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	3.75	1.5-2.0	1.50	45	
	841	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	842	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	35	
	843	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	35	
	844	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	845	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	60	
	846	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	50	
	847	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	848	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	849	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	850	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.50	50	
	851	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	852	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	853	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.50	2.50	1.00	55	
	854	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	40	
	855	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.50	1.50	1.00	35	
	856	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	857	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.0-3.0	1.50	55	
	858	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.50	35	
	859	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	4.00	3.00	1.50	45	錆付着
	860	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	65	
	861	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	862	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	863	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	1.00	1.00	30	
	864	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.51	1.00	40	
	865	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	866	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	867	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.0-2.5	1.00	40	
	868	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	25	
	869	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00		2.00	1.00	25	
	870	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	871	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.00	1.00	30	
	872	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	873	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	874	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	30	
	875	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	876	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.25	3.75	1.50	1.00	30	
	877	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	30	1/2欠損
	878	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	4.50	4.75	1.00	1.00	35	
	879	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	880	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	4.00	3.00	1.00	60	
	881	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	40	
	882	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
	883	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	884	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	885	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.75	1.0-1.5	1.00	35	錆付着
	886	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.00		2.00	1.00	35	
	887	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	888	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		0.5-1.0	1.00	20	
	889	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.00	20	
	890	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	891	埋1　南攪乱	A	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	892	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	893	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	2.00	1.00	45	
	894	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	3.75	1.0-1.5	1.00	25	
	895	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	896	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	897	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.25	1.50	1.50	40	

第36表　小谷13号墳臼玉計測表（16）

№	管理 No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 mg	備　考
	898	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	30	
	899	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	緑	3.50		2.00	1.00	35	
	900	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.50		2.0-2.5	1.50	50	
	901	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	902	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	903	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	2.00	40	
	904	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	40	
	905	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.00	1.00	1.00	35	
	906	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	45	
	907	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.00	45	
	908	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.50	45	
	909	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	55	
	910	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	4.00	1.50	1.00	35	
	911	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	2/3欠損
	912	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	913	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	914	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	45	
	915	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	55	
	916	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.45	3.55	1.50	1.00	45	錆付着
	917	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	3.75	2.50	1.00	50	
	919	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	2.00	35	
	920	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	70	
	921	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	灰白	3.75	4.25	1.50	1.00	20	
	922	埋1　南攪乱	A	3	c	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	2.00	35	
	923	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	924	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
	925	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.50	30	
	926	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	927	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	928	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
	929	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	930	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	4.00	1.5-2.0	1.00	40	
	931	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰白	4.00		1.50	1.50	35	
	932	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	65	
	933	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	934	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.50	1.50	50	
	935	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	936	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	937	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.00	1.50	50	
	938	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	939	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	30	
	940	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	40	
	941	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	942	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	943	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	944	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	945	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	946	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	947	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	948	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	1/3欠損
	949	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	950	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		0.5-1.5	1.00	20	1/3欠損
	951	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	25	
	952	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	953	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	75	
	954	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	955	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.50	40	
	956	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.00	20	
	957	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	958	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.0-1.5	1.00	25	
	959	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.50	5.00	2.00	1.00	70	

第37表　小谷13号墳臼玉計測表（17）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	960	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.25	3.55	2.50	1.00	50	
	961	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	2.00	30	
	962	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	40	
	963	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	964	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.75	1.50	1.00	30	
	965	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.0-2.5	1.00	40	
	966	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.00	1.00	20	
	967	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	968	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	969	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	970	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.45	1.50	1.00	25	
	971	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	972	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	45	
	973	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	
	974	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	975	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	4.00	2.00	1.00	35	
	976	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	977	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	灰緑	3.75	4.00	2.50	1.00	55	
	978	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.50	1.5-2.0	1.00	35	
	979	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	980	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.00	35	
	981	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	30	
	982	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰緑	4.00		3.00	1.50	60	
	983	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	984	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	35	錆付着
	985	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	35	
	986	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.25	3.55	1.50	1.00	30	
	987	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	25	
	988	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.50	1.00	60	
	989	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	60	
	990	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅰ	灰緑	3.50		2.0-2.5	2.00	40	
	991	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.0-1.5	1.00	40	
	992	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	993	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.50	25	
	994	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	緑	3.50		3.00	1.50	60	
	995	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	996	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.50	40	
	997	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.50	2.00	1.00	55	
	998	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
	999	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.45	3.75	2.50	1.00	45	
	1000	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1001	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	1002	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.75	4.00	3.00	1.00	65	
	1003	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1004	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	4.00	3.50	2.00	60	
	1005	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	1006	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	1007	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	1008	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1009	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1010	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1011	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	1/3欠損
	1012	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1013	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1014	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1015	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	1016	埋1　南攪乱	E	1	a	Ⅲ	灰白	3.50		0.5-1.0	1.00	20	
	1017	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	緑	4.00		1.00	1.50	25	
	1018	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	30	錆付着
	1019	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50		1.50	1.00	25	
	1020	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	50	

第38表　小谷13号墳臼玉計測表（18）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1021	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	45	
	1022	埋1　南攪乱	E	2	b	Ⅱ	灰白	3.50		0.5-1.0	1.00	25	
	1023	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		1.50	1.00	30	
	1024	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1025	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1026	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	1027	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1028	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	1029	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1030	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.0-2.0	1.00	30	
	1031	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1032	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1033	埋1　南攪乱	E	2	c	Ⅲ	緑	4.00		1.00	2.00	20	
	1034	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	2.50	3.50	1.50	1.00	25	
	1035	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.5-2.0	1.50	30	
	1036	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
	1037	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1038	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1039	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	45	
	1040	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	1041	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00	4.50	2.0-2.5	1.00	60	
	1042	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1043	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	1044	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.50	1.00	25	
	1045	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.0-2.0	1.00	30	
	1046	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	1047	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	1048	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1049	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	1050	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.50	30	
	1051	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1052	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1053	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.55	1.5-2.0	1.00	40	
	1054	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	1055	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	45	
	1056	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	錆付着
	1057	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.45	3.75	3.50	1.00	80	
	1058	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	4.00	1.50	75	
	1059	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	4.00	1.50	95	i
	1060	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅲ	緑	3.00		2.00	1.00	35	
	1061	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1062	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1063	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00		1.0-1.5	1.50	35	
	1064	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.00	70	
	1065	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	30	
	1066	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.50	55	
	1067	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.00	35	
	1068	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	45	
	1069	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅱ	灰白	3.00	4.00	2.50	1.50	40	
	1070	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.5-2.0	1.50	35	
	1071	埋1　南攪乱	E	3	c	Ⅰ	灰白	4.00		1.00	1.00	30	
	1072	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1073	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1074	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.00	1.00	20	錆付着
	1075	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1076	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1077	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	
	1078	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	灰白	4.50	4.75	1.50	1.00	45	
	1079	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1080	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	1081	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	65	

第39表　小谷13号墳臼玉計測表（19）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1082	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.0-1.5	1.00	25	
	1083	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	1084	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1085	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	3.00	1.00	70	
	1086	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.50	1.50	70	1/2欠損
	1087	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.50	2.00	1.00	40	
	1088	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	25	
	1089	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	3.75	1.50	1.00	20	
	1090	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1091	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.50	70	
	1092	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.50	1.50	50	
	1094	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅱ	灰白	4.50		1.50	1.00	45	
	1095	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1096	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1097	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	75	
	1098	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.50	50	
	1099	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.75	2.50	1.00	65	
	1100	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1101	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.50	35	
	1102	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	55	
	1103	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.00	25	
	1104	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1105	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1106	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	1107	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	3.75	1.00	1.00	30	
	1108	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	1109	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	2.50	1.00	75	
	1110	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1111	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	2.50	1.00	70	
	1112	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1113	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1114	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	55	
	1115	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1116	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	
	1117	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.00	50	
	1118	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.50	35	1/2欠損
	1119	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	3.75	2.50	1.00	60	
	1120	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.00	45	
	1121	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.00	30	
	1122	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	褐	4.00		1.50	1.00	30	錆付着
	1123	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.25	1.00	1.00	40	
	1124	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	1125	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1126	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1127	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	4.00	2.50	1.50	45	
	1128	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1129	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	1/3欠損
	1130	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	55	
	1131	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	1132	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	1133	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	50	
	1134	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	1135	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	1136	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1137	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.0-1.25	1.00	25	
	1138	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		0.5-1.0	1.00	20	
	1139	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.00	40	
	1140	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.50	40	
	1141	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.50		1.75	1.00	45	
	1142	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.00	45	
	1143	埋1　南攪乱	A	3	c	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.50	35	

第40表　小谷13号墳臼玉計測表（20）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1144	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.5-2.0	1.50	35	
	1145	埋1　南攪乱	C	1	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	30	
	1146	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	1147	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	35	
	1148	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.50	30	
	1149	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.25	3.55	2.00	1.50	30	
	1150	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1151	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1152	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.00	1.00	30	
	1153	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1154	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1155	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	30	
	1156	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰緑	4.00		3.00	1.50	50	
	1157	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	1158	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	錆付着
	1159	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1093	埋1　南攪乱	E	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		0.5-1.0	1.00	25	
	1160	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1161	埋1　南攪乱	C	3	c	Ⅱ	灰白	3.00		1.5-2.0	1.00	20	
	1162	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	1163	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	1164	埋1　南攪乱	C	3	c	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	40	
	1165	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	40	
	1166	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1167	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.25	3.75	2.50	1.00	50	
	1168	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1169	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅲ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	1170	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	45	
	1171	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1172	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	35	
	1173	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	1174	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	錆付着
	1175	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1176	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.25	2.00	1.50	35	
	1177	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	緑	4.00		1.50	1.00	40	
	1178	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	1179	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	45	
	1180	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	1181	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	65	
	1182	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	65	
	1183	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	35	
	1184	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	40	
	1185	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅰ	緑	3.00	3.50	1.00	1.00	25	
	1186	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.50	50	
	1187	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	35	
	1188	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	0.5-2.0	1.00	25	
	1189	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.0-1.5	1.00	35	
	1190	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.00	40	
	1191	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1192	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1193	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1194	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.5-2.0	1.50	40	
	1195	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	1196	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	錆付着
	1197	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	60	
	1198	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1199	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	1200	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.50	30	
	1201	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	1202	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1203	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	30	

第41表　小谷13号墳臼玉計測表（21）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1204	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.45	3.75	2.00	1.00	40	
	1205	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	灰白	4.00		2.00	1.00	30	1/3欠損
	1206	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1207	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	1/2欠損
	1208	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1209	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.00	50	
	1210	埋1　南攪乱	E	2	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1211	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1212	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1213	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅱ	緑	3.00	4.00	3.00	2.00	45	
	1214	埋1　南攪乱	A	2	c	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.00	1.50	35	
	1215	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	40	
	1216	埋1　南攪乱	A	3	c	Ⅱ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
	1217	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1218	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	緑	3.50		2.0-2.5	1.00	40	
	1219	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	40	
	1220	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	35	
	1221	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	40	
	1222	埋1　南攪乱	C	1	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.0-1.5	1.00	25	
	1223	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.00	45	
	1224	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	40	錆付着
	1225	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	30	
	1226	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.00	2.00	30	
	1227	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	30	
	1228	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	1229	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	3.25	3.55	1.50	1.00	30	
	1230	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	1231	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰緑	4.00		2.50	1.00	50	
	1232	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅰ	灰白	4.50		1.50	1.00	35	
	1233	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	4.25	4.50	1.75	1.00	50	
	1234	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1235	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.25	4.00	1.50	1.00	35	
	1236	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	45	
	1237	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰緑	3.25	3.75	1.0-1.5	1.00	30	
	1238	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.0-1.5	1.00	25	1/2欠損
	1239	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	45	
	1240	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	緑	3.50		1.45	1.00	20	
	1241	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1242	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	25	
	1243	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	1244	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	1245	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	緑	4.00	4.50	2.50	1.00	60	
	1246	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	灰緑	4.00		1.50	1.00	45	
	1247	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	40	
	1248	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	1.0-1.5	1.00	20	
	1249	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1250	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	緑	3.50		1.0-1.5	1.00	25	
	1251	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.25	3.55	1.5-2.0	1.50	35	
	1252	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	緑	4.00		1.00	1.00	30	
	1253	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	1254	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1255	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.00	30	
	1256	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	1257	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.00	4.00	2.0-3.5	1.50	50	
	1258	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	褐	3.50	4.00	2.00	1.00	40	錆付着
	1259	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.50	20	
	1260	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅰ	灰緑	3.50		2.00	1.00	35	
	1261	埋1　南攪乱	B	1	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1262	埋1　南攪乱	C	1	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	2/3欠損
	1263	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1264	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	

第42表　小谷13号墳臼玉計測表（22）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1265	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1266	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1267	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		2.50	1.00	40	
	1268	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1269	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1270	埋1　南攪乱	E	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.00	20	
	1271	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.00	20	
	1272	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	3.50	1.50	1.00	35	1/4欠損
	1273	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1274	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	35	錆付着
	1275	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	3.00		1.50	1.00	40	
	1276	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	20	
	1277	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	3.50	1.50	1.00	25	
	1278	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	25	
	1279	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.75	4.00	1.0-1.5	1.50	35	
	1280	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.00	1.00	30	
	1281	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	35	
	1282	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1283	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	1284	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	30	
	1285	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1286	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	25	
	1287	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.00	45	
	1288	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1289	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	45	
	1290	埋1　南攪乱	B	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.0-1.5	1.00	35	
	1291	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1292	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	1293	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.45	3.75	1.00	1.00	30	
	1294	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.50	3.00	1.00	75	
	1295	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	1296	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1297	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	30	
	1298	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	1.5-2.0	1.00	30	
	1299	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1300	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	緑	4.00		1.50	1.00	20	
	1301	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	25	
	1302	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	35	
	1303	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1304	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	緑	3.00	4.00	1.5-2.0	2.00	35	
	1305	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1306	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	2.00	1.00	50	
	1307	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1308	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1309	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅰ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	40	
	1310	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	1.25	1.00	25	
	1311	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1312	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	20	
	1313	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1314	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	35	
	1315	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.50		1.50	1.00	30	
	1316	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.00	40	
	1317	埋1　南攪乱	A	3	c	Ⅱ	緑	3.00	3.50	4.00	1.50	60	
	1318	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	1319	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.50	1.00	65	
	1320	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	40	
	1321	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	3.50	3.50	1.50	50	
	1322	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1323	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1324	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	3.50		1.50	1.00	30	
	1325	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	

第43表　小谷13号墳臼玉計測表（23）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1326	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	30	
	1327	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	1328	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	緑	3.50		1.45	1.00	25	
	1329	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅱ	緑	3.00	4.00	4.00	1.50	50	
	133	埋1　２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	40	
	1330	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.00	65	
	1331	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.00	60	
	1332	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	4.00	1.50	1.50	25	
	1333	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	4.00	2.00	1.50	40	
	1334	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.50	2.00	1.00	50	
	1335	埋1　南攪乱	B	1	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1336	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	緑	3.50		1.0-1.5	1.00	25	
	1337	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅰ	緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1338	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	1.50	55	
	1339	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	45	
	1340	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	40	
	1341	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1342	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.50	35	
	1343	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1344	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50		2.00	1.00	30	1/3欠損
	1345	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	50	
	1346	埋1　南攪乱	B	1	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1347	埋1　南攪乱	B	1	c	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	20	
	1348	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	1349	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅰ	緑	4.00		2.00	1.00	45	
	1350	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.50	1.00	70	
	1351	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.25	1.00	45	
	1352	埋1　南攪乱	E	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1353	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.75	4.00	1.0-1.5	1.00	25	
	1354	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.00	40	
	1355	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1356	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.00	1.50	35	
	1357	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	4.00	3.50	1.50	1.00	45	
	1358	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	褐	3.50	4.00	3.00	1.00	80	錆付着
	1359	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.5-3.0	1.00	65	
	1360	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	55	
	1361	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	4.00	1.5-2.0	1.00	40	
	1362	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	55	
	1363	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1364	埋1　南攪乱	A	3	b	Ⅰ	緑	4.00	4.50	4.00	1.50	65	1/2欠損
	1365	埋1　南攪乱	B	3	b	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.00	40	
	1366	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.50	1.00	30	
	1367	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.50	45	1/2欠損
	1368	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	1369	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	70	
	1370	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.0-1.5	1.50	30	
	1371	埋1　南攪乱	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		2.50	1.00	60	
	1372	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1373	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	緑	4.00		2.00	1.00	50	
	1374	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1375	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	2.00	30	
	1376	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		2.00	1.00	40	
	1377	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	1/2欠損
	1378	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.00	45	
	1379	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1380	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.5-2.5	1.50	35	
	1381	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	40	
	1382	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1383	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		3.00	1.00	60	
	1384	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.0-2.0	1.50	30	
	1385	埋1　南攪乱	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	4.00	3.50	1.50	60	

第44表　小谷13号墳臼玉計測表（24）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1386	埋1　南攪乱	E	2	a	Ⅱ	灰白	4.50		1.00	1.00	20	
	1387	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	35	錆付着
	1388	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.0-3.0	1.50	40	
	1389	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1390	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.5-3.0	1.00	45	
	1391	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	2.50	4.00	3.00	1.50	45	
	1392	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.50	30	
	1393	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1394	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅰ	灰白	4.00		0.5-1.5	1.00	20	
	1395	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1396	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1397	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.00	1.00	20	
	1398	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	35	
	1399	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅰ	緑	4.00		2.00	1.00	50	
	1400	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	
	1401	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	錆付着
	1402	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.00	20	
	1403	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1404	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1405	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅰ	緑	4.00	4.50	1.5-2.0	1.50	45	1/3欠損
	1406	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.00	45	
	1407	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	50	
	1408	埋1　南攪乱	E	1	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.00	25	
	1409	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	20	
	1410	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	緑	4.00		1.5-2.0	1.50	35	
	1411	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	35	
	1412	埋1　南攪乱	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.00	1.00	20	
	1413	埋1　南攪乱	E	1	a	Ⅰ	灰白	3.00		1.00	1.00	5	
	1414	埋1　南攪乱	B	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.00	45	
	1415	埋1　南攪乱	C	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.00	40	
	1416	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	50	
	1417	埋1　南攪乱	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1418	埋1　南攪乱	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		1.50	1.00	35	
	1419	埋1　南攪乱	E	1	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.00	1.00	25	
	1420	埋1　南攪乱	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	40	
	1421	埋1　南攪乱	C	3	b	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.00	20	
	1422	埋1　南攪乱	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.50		0.5-1.0	1.00	35	錆付着
	1423	埋1　南攪乱	B				灰緑	3.00	3.50	4.00	1.00	35	1/3欠損
	1424	埋1　南攪乱	B				緑	3.50	4.00	0.5-1.5	1.50	20	1/3欠損
	1425	埋1　南攪乱	A				灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	20	1/4欠損
	1426	埋1　南攪乱	C				灰白	3.50		3.00	1.00	35	1/2欠損
	1427	埋1　南攪乱	A				灰白	3.50	4.00	2.00	1.00	20	1/2欠損
	1428	埋1　南攪乱	C				灰緑	3.50		1.50	1.00	15	1/2欠損
	1429	埋1　南攪乱	C				灰緑	3.50		2.00	1.00	20	1/2欠損
	1430	旧主(1)東	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	30	
	1431	旧主(1)北	C	3	c	Ⅱ	灰緑	5.00		3.00	1.50	100	
	1432	旧主(1)北	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	35	
	1433	旧主(1)北	C	3	b	Ⅱ	緑	3.50		2.00	1.50	40	1/3欠損
	1434	旧主(1)北	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00		2.00	1.00	30	
	1435	旧主(1)北	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.00	30	
	1436	旧主(1)北	E	3	a	Ⅲ	灰白	3.00		1.00	1.00	10	
	1437	旧主(1)北	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.75		2.00	1.00	45	
	1438	旧主(1)北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1439	旧主(1)北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	4.00	1.50	1.00	30	
	1440	旧主(1)北	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.50	2.00	1.00	60	
	1441	旧主(1)西	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1442	旧主(1)西	B	2	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1443	旧主(1)西	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.00	40	
	1444	旧主(1)南	C	2	c	Ⅲ	灰緑	3.50		2.0-3.0	1.50	45	
	1445	旧主(1)	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1446	旧主(1)	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	4.00	1.50	1.00	35	

第45表　小谷13号墳臼玉計測表（25）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1447	旧主(1)	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.00	30	
	1448	旧主(1)	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.00	1.00	25	
	1449	旧主(1)	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.00	25	
	1450	旧主(1)	E	3	a	Ⅰ	緑	3.50		1.00	1.00	20	
	1451	旧主(1)	C	3	a	Ⅰ	緑	3.50		1.50	1.00	20	
	1452	旧主(2)東	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.0-2.5	1.50	30	
	1454	埋葬施設検出前 東	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.00	25	埋葬施設1
	1455	埋葬施設検出前 東	A	3	a	Ⅲ	緑	3.75	4.00	1.00	1.00	35	埋葬施設1
	1456	埋葬施設検出前 東	C	2	c	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.00	45	埋葬施設1
	1457	埋葬施設検出前 東	C	2	a	Ⅱ	緑	3.50		1.50	1.00	30	埋葬施設1
	1458	埋葬施設検出前 東	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	埋葬施設1
	1459	埋葬施設検出前 東	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	2.50	1.50	30	埋葬施設1
	1460	埋葬施設検出前 東	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.50	35	埋葬施設1
	1461	埋葬施設検出前 東	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	1.50	1.00	25	埋葬施設1
	1462	埋葬施設検出前 東	A	2	b	Ⅱ	緑	3.50	3.75	2.0-3.0	1.00	55	埋葬施設1
	1463	埋葬施設検出前 東	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.75	4.00	1.50	1.00	30	埋葬施設1
	1464	埋葬施設検出前 東	A	2	a	Ⅱ	緑	3.00	4.00	3.00	2.00	45	埋葬施設1
	1465	埋葬施設検出前 東	B	3	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	45	埋葬施設1
	1805	埋１　２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.75	1.00	50	
	1806	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.50	45	1/3欠損
	1808	埋１　２区北	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.50	1.50	55	孔面ナナメ
	1810	埋１　２区北	B	3	b	Ⅲ	青緑	3.00	3.50	2.50	1.00	50	
	1812	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	1.50	1.50	30	
	1817	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.75	4.00	1.25	1.00	35	厚<外径であるが稜を有する
	1819	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.00	60	
	1820	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.25	3.50	2.00	1.00	40	
	1823	埋１　２区北	A	2	a	Ⅲ	青緑	3.75	4.00	1.50	1.00	40	
	1825	埋１　２区北	B	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.00	40	
	1826	埋１　２区北	B	3	a	Ⅰ	青灰	4.00	4.25	1.0-2.5	1.00	30	
	1830	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	青灰	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1831	埋１　２区北	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	1.50	1.00	40	
	1833	埋１　２区北	A	3	a	Ⅲ	緑	3.25	4.00	2.50	1.50	50	
	1834	埋１　２区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.75	2.00	1.00	35	
	1835	埋１　２区北	B	2	a	Ⅰ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.00	35	
	1836	埋１　２区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	2.00	1.00	45	
	1837	埋１　２区北	B	3	b	Ⅲ	灰白	3.25	3.50	2.00	1.25	35	
	1838	埋１　２区北	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.75	1.50	50	ii
	1839	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.50	1.25	60	
	1840	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.25	3.75	1.50	1.00	30	
	1842	埋１　２区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	1844	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.75	4.00	1.50	1.00	40	
	1845	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	1.50	1.25	35	
	1846	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.00	35	
	1847	埋１　２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	60	
	1848	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.00	50	i
	1849	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.50	40	
	1851	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.25	1.50	1.00	45	
	1852	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.00	40	
	1853	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1854	埋１　２区北	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	1856	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.75	4.00	1.50	1.25	40	
	1857	埋１　２区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.25	1.50	20	
	1858	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.25	1.50	1.25	30	
	1859	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.25	3.50	1.50	1.25	25	
	1860	埋１　２区北	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	1.00	1.25	25	
	1861	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.75	4.00	1.50	1.00	45	
	1862	埋１　２区北	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.25	1.50	40	
	1863	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1867	埋１　２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.75	4.00	1.50	1.00	40	
	1868	埋１　２区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.50	70	
	1869	埋１　２区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.75	1.50	1.50	35	

第46表　小谷13号墳臼玉計測表（26）

№	管理 No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 mg	備　考
	1873	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	1874	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.75	1.50	1.00	35	
	1877	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.00	55	
	1880	埋1　2区北	A	2	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.50	1.50	30	
	1881	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.00	55	
	1883	埋1　2区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.25	1.50	1.50	40	
	1886	埋1　2区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	i
	1887	埋1　2区北	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.00	60	
	1888	埋1　2区北	A	2	c	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.50	35	
	1889	埋1　2区北	B	2	b	Ⅲ	緑	3.25	3.75	2.50	1.50	50	
	1890	埋1　2区北	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.00	1.50	35	
	1894	埋1　2区北	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	3.75	2.00	1.00	40	
	1896	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.25	1.00	55	
	1897	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	青灰白	3.75	4.00	2.75	1.50	70	
	1900	埋1　2区北	A	2	b	Ⅲ	青緑	3.25	3.75	2.00	1.50	45	
	1902	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.25	2.00	1.00	50	1/3欠損
	1903	埋1　2区北	B	2	b	Ⅲ	灰緑	2.75	3.25	2.50	1.50	40	
	1906	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	35	
	1907	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.25	1.50	1.25-1.5	35	
	1909	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.50	1.50	1.25	20	1/3欠損
	1910	埋1　2区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	1.50	1.00	30	
	1911	埋1　2区北	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.5-1.75	35	ii
	1913	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	1.50	1.00	35	
	1914	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.25	4.00	2.00	1.50	40	
	1916	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	1.50	1.00	40	
	1917	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	1.50	1.50	30	
	1918	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	3.75	1.50	1.00	30	
	1921	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	3.00	1.50	50	
	1922	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.50	35	
	1926	埋1　2区北	A	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.25-1.5	40	
	1929	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.50	1.50	70	
	1930	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.75	4.00	2.00	1.25-1.5	55	
	1931	埋1　2区北	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.25-1.5	35	
	1933	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.50	1.25-1.5	65	
	1934	埋1　2区北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.50	70	
	1936	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	2.75	3.50	1.00	1.25-1.5	20	
	1938	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	青灰	4.00	4.25	1.75	1.25	50	
	1940	埋1　2区北	B	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.50	50	
	1941	埋1　2区北	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	1.0-2.5	1.50	35	i
	1942	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.75	2.00	1.25-1.75	40	
	1943	埋1　2区北	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.00	35	
	1944	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	青緑	3.50	3.75	1.50	1.25	35	
	1949	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.25-1.5	45	
	1950	埋1　2区北	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.25	3.75	2.50	1.50	50	
	1951	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	青緑	3.75	4.00	1.25-1.5	1.25-1.5	40	
	1952	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.75	4.25	1.50	1.25	50	
	1953	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	青緑	3.75	4.00	1.50	1.25-1.5	30	
	1954	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	青緑	3.75	3.50	1.25	1.00	30	ii
	1958	埋1　2区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.50	40	
	1959	埋1　2区北	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.75	1.50	1.00	40	
	1961	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.25-1.5	35	
	1962	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	3.75	1.50	1.50	30	
	1963	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.25-1.75	35	i
	1964	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.25	2.00	1.00	50	iii
	1965	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	1.50	1.25-1.5	40	
	1968	埋1　2区北	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.50	30	
	1969	埋1　2区北	B	3	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.25-1.5	45	
	1970	埋1　2区北	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.00	25	
	1973	埋1　2区北	B	1	b	Ⅱ	褐灰	3.50	4.00	1.50	1.00	40	

第47表　小谷13号墳臼玉計測表（27）

小谷13号墳埋葬施設２

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
568	1637	埋２　棺内２区中	A	2	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	30	
569	1702	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.25	3.75	1.50	1.0	45	
570	1708	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.0	40	
571	1645	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.5	40	
572	1620	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.00	4.00	2.50	1.5	45	
573	1608	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.00	4.00	2.00	1.5	50	
574	1548	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	30	
575	1598	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.5	55	
576	1592	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	灰白	4.00	5.00	2.00	1.5	65	
577	1555	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	55	
578	1540	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	50	
579	1583	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	55	
580	1562	埋２　棺内１区東	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	3.50	3.00	1.5	50	
581	1587	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	5.00	3.00	1.5	85	
582	1541	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.50	1.5	70	
583	1666	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅱ	緑	4.00	4.50	1.5-2.5	1.5	80	
584	1703	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅱ	緑	4.50	5.00	2.0-3.0	1.5	85	
585	1683	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.5	55	
586	1586	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
587	1589	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.00	1.5	30	
588	1656	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.50	1.5	40	
589	1647	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	青緑	4.00	5.00	1.50	1.0	50	
590	1701	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.5	35	
591	1551	埋２　棺内１区東	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	30	
592	1628	埋２　棺内２区中	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
593	1590	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.0	35	
594	1648	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.0	45	
595	1585	埋２　棺内２区北	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.0	45	
596	1629	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	45	
597	1636	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	緑	4.50	5.00	2.00	1.0	70	
598	1568	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.00	1.5	45	
599	1697	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
600	1687	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.0	50	
601	1597	埋２　棺内２区北	A	2	b	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.50	1.5	50	
602	1564	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.5	50	
603	1602	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
604	1700	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.0	35	
605	1604	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.5	40	
606	1546	埋２　棺内１区東	A	2	b	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.50	1.5	60	
607	1588	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.75	4.00	3.00	1.5	75	
608	1557	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.50	2.0-3.0	1.5	65	
609	1536	埋２	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	5.00	2.50	1.0	80	
610	1623	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	55	
611	1711	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅲ	緑	3.00	4.00	3.00	2.0	50	
612	1544	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.50	2.50	1.5	60	
613	1607	埋２　棺内２区北	A	3	a	Ⅰ	緑	4.00	4.50	2.00	1.5	45	
614	1625	埋２　棺内２区中	A	3	b	Ⅰ	青緑	4.50	5.00	1.0-2.0	1.5	50	
615	1696	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
616	1559	埋２　棺内１区東	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.0-2.5	1.5	45	
617	1554	埋２　棺内１区東	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.5	30	
618	1634	埋２　棺内２区中	A	3	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	3.00	1.5	75	
619	1624	埋２　棺内２区中	A	3	b	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.0-2.0	1.5	30	
620	1630	埋２　棺内２区中	A	3	a	Ⅲ	緑	4.50	5.00	1.50	1.5	65	
621	1670	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.5	40	
622	1673	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.0-3.0	1.0	50	
623	1691	埋２　棺内２区南	B	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	40	
624	1704	埋２　棺内２区南	B	1	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
625	1593	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅰ	緑	3.50	3.75	1.50	1.5	35	
626	1672	埋２　棺内２区南	B	2	b	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.5	30	

第48表　小谷13号墳臼玉計測表（28）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
627	1594	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅰ	緑	3.25	3.50	1.5-2.0	1.5	40	
628	1657	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.0-2.5	1.5	40	i
629	1553	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅰ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.5	55	
630	1550	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.0	30	
631	1605	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.5	30	
632	1653	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅱ	緑	4.50	4.75	2.00	1.5	65	
633	1671	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	緑	3.25	3.50	2.00	1.5	40	
634	1549	埋２　棺内１区東	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
635	1631	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.5	40	
636	1714	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.5-2.0	1.0	45	
637	1712	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	45	
638	1627	埋２　棺内２区中	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.5	35	
639	1698	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.0	60	
640	1619	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	45	
641	1547	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.50	2.00	1.0	60	
642	1556	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.50	1.5	50	
643	1558	埋２　棺内１区東	B	2	b	Ⅱ	緑	4.50	5.00	1.0-2.0	1.5	60	
644	1560	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.50	2.00	1.5	30	
645	1699	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	緑	4.50	5.00	2.00	1.5	65	
646	1693	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	3.00	1.5	70	
647	1565	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅲ	緑	4.25	4.75	2.50	1.5	110	
648	1596	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅲ	灰白	3.00	4.00	1.5-2.0	1.5	40	
649	1651	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅲ	緑	3.25	3.55	2.00	1.5	40	
650	1642	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
651	1690	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
652	1566	埋２　棺内１区東	B	3	b	Ⅲ	緑	4.25	4.55	1.50	1.5	60	
653	1591	埋２　棺内２区北	B	2	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.0	45	
654	1570	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
655	1643	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.0	55	
656	1603	埋２　棺内２区北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.5-3.0	1.5	40	
657	1543	埋２　棺内１区東	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.0	60	
658	1638	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	4.00	1.5	70	
659	1633	埋２　棺内２区中	B	3	a	Ⅰ	緑	3.25	3.50	1.50	1.5	40	
660	1622	埋２　棺内２区中	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.5	35	
661	1582	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	3.00	1.5	75	
662	1684	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.5	25	
663	1707	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.0	30	
664	1713	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.0	40	
665	1674	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.0	45	
666	1606	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	1.50	1.5	30	
667	1649	埋２　棺内２区中	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.5	50	
668	1563	埋２　棺内１区東	B	3	a	Ⅱ	緑	4.25	4.50	2.50	1.0	95	
669	1600	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	1.5-2.0	1.0	35	
670	1601	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.00	1.0	35	
671	1595	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.0	40	
672	1655	埋２　棺内２区中	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	25	
673	1609	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	1.5-2.0	1.5	35	
674	1621	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	50	
675	1710	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	30	
676	1681	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	40	
677	1644	埋２　棺内２区中	B	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.5	55	
678	1599	埋２　棺内２区北	B	3	b	Ⅲ	灰緑	4.50	5.00	3.25	1.5	105	
679	1692	埋２　棺内２区南	C	1	a	Ⅰ	灰白	4.00		0.5-1.5	1.0	30	
680	1635	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.5	30	
681	1706	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.0	40	
682	1688	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		1.50	1.5	25	
683	1522	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.0	35	
684	1569	埋２　棺内１区東	C	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50		2.50	1.5	55	
685	1626	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅱ	緑	4.50		2.00	1.5	65	
686	1646	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅱ	緑	4.50		2.00	1.5	75	
687	1539	埋２　棺内１区東	C	2	a	Ⅱ	緑	6.00		3.00	1.5	180	

第49表　小谷13号墳臼玉計測表（29）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
688	1652	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅲ	緑	3.50		2.50	1.0	40	
689	1668	埋２　棺内２区南	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.0-1.5	1.5	35	
690	1654	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.5	40	
691	1640	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.5	55	
692	1545	埋２　棺内１区東	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.5	45	
693	1537	埋２	C	2	a	Ⅲ	緑	3.50		3.00	1.5	60	
694	1709	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50		3.00	1.5	55	
695	1685	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.50		2.50	1.5	75	
696	1542	埋２　棺内１区東	C	2	a	Ⅲ	緑	4.00		3.00	1.5	70	
697	1669	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅲ	緑	4.50		2.5-3.0	2.0	110	
698	1682	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00		1.50	1.0	20	
699	1694	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.0	35	
700	1675	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	緑	4.00		2.00	1.0	50	
701	1715	埋２　棺内２区南	C	3	b	Ⅱ	灰緑	4.00		2.0-2.5	1.0	60	
702	1639	埋２　棺内２区中	C	3	a	Ⅲ	灰白	3.50		2.00	1.0	40	
703	1641	埋２　棺内２区中	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		1.50	1.5	35	
704	1678	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		2.00	1.0	40	
705	1686	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.0	30	
706	1584	埋２　棺内２区北	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		3.00	1.5	55	
707	1680	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅲ	緑	4.00		1.50	1.5	40	
708	1705	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.5-2.0	1.5	40	
709	1650	埋２　棺内２区中	C	3	a	Ⅲ	灰白	4.00		2.00	1.5	50	
710	1561	埋２　棺内１区東	C	3	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.0-2.5	1.5	30	
711	1689	埋２　棺内２区南	E	1	a	Ⅲ	灰白	3.50		1.00	1.0	25	
712	1632	埋２　棺内２区中	E	2	a	Ⅲ	灰白	4.00		1.00	1.5	20	
713	1677	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅰ	緑	3.50		1.00	1.0	30	
714	1676	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅱ	緑	3.50		1.00	1.0	25	
715	1695	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.3	15	
716	1679	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅱ	緑	4.50		1.50	2.0	55	
717	1567	埋２　棺内１区東	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.50		1.00	1.5	40	
718	1581	埋２　棺内１区東	D				緑	4.00		7.00	1.5	90	
719	1571	埋２　棺内１区東	D	2	a	Ⅰ	灰緑	4.00		27.50	1.5	695	
720	1535	埋葬施設検出前 南（埋２）	D	3	a	Ⅰ	緑	5.00		13.00	1.5	195	1/2欠損
721	1534	埋葬施設検出前 南（埋２）	D	3	a	Ⅰ	緑	4.00		24.00	1.5	595	
722	1538	埋２	D	3	a	Ⅰ	緑	4.00		24.50	1.5	615	
723	1533	埋葬施設検出前 南（埋２）	D	3	a	Ⅰ	緑	4.00		26.00	1.5	655	
724	1716	埋２　棺内２区南	D	3	b	Ⅰ	灰緑	4.50		28.00	1.5	780	
725	1667	埋２　棺内２区南	D	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	26.60	1.5	905	
726	1772	埋２　棺内北					灰白					5,285	丁字頭勾玉
	1453	埴輪列(28)脇	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	埋葬施設2
	1466	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅰ	緑	3.00	4.00	2.50	1.5	55	
	1467	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.50	1.5	60	
	1468	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.50	2.50	1.5	70	
	1469	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	1.50	1.0	50	
	1470	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅰ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
	1471	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	5.00	2.50	1.5	80	
	1472	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.0	50	
	1473	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	c	Ⅱ	灰白	3.50		1.5-2.0	1.5	35	
	1474	埋葬施設検出前 南（埋２）	2	a		Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
	1475	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	4.00	2.50	1.0	55	
	1476	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	35	
	1477	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.50	2.50	1.5	65	
	1478	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	5.00	1.00	1.5	40	
	1479	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	3	b	Ⅲ	灰白	4.00		1.50	1.0	35	1/2欠損
	1480	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	c	Ⅰ	灰緑	3.75		3.25	1.0	70	
	1481	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.0	40	
	1482	埋葬施設検出前 南（埋２）	E	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.5	25	
	1483	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.5	35	
	1484	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	4.50	5.00	1.0-2.0	1.5	55	
	1485	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	3.50	0.5-1.5	1.0	35	
	1486	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.0	40	

第50表　小谷13号墳臼玉計測表（30）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1487	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.00	1.5	35	
	1488	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.0-2.5	1.5	55	
	1489	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	b	Ⅲ	緑	4.00	4.50	2.00	1.5	60	
	1490	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	5.00	2.50	1.5	100	
	1491	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	4.00	2.00	1.5	45	
	1492	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.0	40	
	1493	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅰ	緑	4.00	4.50	1.5-2.0	1.0	60	
	1494	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	b	Ⅱ	灰白	4.00		2.0-3.0	1.5	55	
	1495	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅰ	緑	4.00	4.50	1.00	1.5	35	
	1496	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
	1497	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.00	4.00	2.50	1.5	45	
	1498	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	3	a	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	2.00	1.0	65	
	1499	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		2.00	1.5	40	
	1500	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.50	4.00	1.50	1.0	30	
	1501	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.55	2.0-3.5	1.5	75	
	1502	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.50	1.5	40	
	1503	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	a	Ⅰ	緑	4.50		2.50	1.5	80	
	1504	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	b	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.0-1.5	1.5	40	
	1505	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.0-1.5	1.0	30	
	1506	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	5.00	3.50	1.0	90	
	1507	埋葬施設検出前 南（埋２）	D	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50		3.50	1.5	60	
	1508	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.50	1.50	1.5	35	
	1509	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	45	
	1510	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.0	50	
	1511	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅰ	緑	3.50	4.00	1.00	1.0	35	
	1512	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	c	Ⅲ	灰白	4.00		2.50	1.5	55	
	1513	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	5.00	2.00	1.0	60	
	1514	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	2.00	1.5	60	
	1515	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	3	c	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	3.75	1.0	40	
	1516	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		3.00	1.5	70	
	1517	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.0	45	
	1518	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	4.50	1.50	1.5	45	
	1519	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅱ	緑	3.00	4.00	3.00	1.5	70	
	1520	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅲ	灰緑	3.25	3.75	3.00	1.5	55	
	1521	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	3.00	1.5	70	
	1523	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.00	4.00	2.00	1.5	50	
	1524	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	5.00	2.00	1.5	55	
	1525	埋葬施設検出前 南（埋２）	C	2	b	Ⅱ	灰白	4.00		1.5-2.0	1.0	35	
	1526	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	3	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.0	45	
	1527	埋葬施設検出前 南（埋２）	A	2	a	Ⅲ	緑	3.75	4.25	1.5-2.0	1.0	45	
	1528	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	b	Ⅲ	灰緑	4.50	5.00	3.50	1.0	90	
	1529	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	50	
	1530	埋葬施設検出前 南（埋２）	B	2	c	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	1.5-2.0	1.5	45	
	1531	埋葬施設検出前 南（埋２）	C				灰緑	4.00		1.50	1.5	15	1/2欠損
	1532	埋葬施設検出前 南（埋２）	E				灰白	4.00		1.00	1.5	10	1/2欠損
	1552	埋２　棺内１区東	C	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		3.00	1.5	55	
	1572	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	5.00	1.00	1.5	40	
	1573	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	4.50	1.50	1.5	55	1/3欠損
	1574	埋２　棺内１区東	A	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00	4.50	2.00	1.5	55	1/3欠損
	1575	埋２　棺内１区東	A	3	a	Ⅲ	緑	4.00	2.50	1.00	1.5	40	
	1576	埋２　棺内１区東	B	2	b	Ⅲ	灰緑	3.45	3.55	1.5-2.0	1.0	40	
	1577	埋２　棺内１区東	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.75	4.25	1.0-1.5	1.0	30	
	1578	埋２　棺内１区東	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.0	35	1/3欠損
	1579	埋２　棺内１区東	C				灰緑	4.00		2.00	1.5	20	1/2欠損
	1580	埋２　棺内１区東	E				灰緑	4.00		1.00	1.5	15	1/2欠損
	1610	埋２　棺内２区北	A	2	a	Ⅱ	緑	4.25	4.50	2.50	1.5	95	
	1611	埋２　棺内２区北	A	3	b	Ⅱ	灰白	4.00	4.50	2.50	1.5	65	
	1612	埋２　棺内２区北	B	3	a	Ⅱ	緑	4.50	4.75	1.50	1.0	65	
	1613	埋２　棺内２区北	C	2	a	Ⅲ	緑	3.25	3.75	1.50	1.5	45	
	1614	埋２　棺内２区北	A	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	2.00	1.0	40	
	1615	埋２　棺内２区北	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	50	

第51表　小谷13号墳臼玉計測表（31）

№	管理No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径mm	最大径mm	厚mm	孔径mm	重量mg	備　考
	1616	埋２　棺内２区北	A	2	b	Ⅰ	青緑	4.25	4.75	0.5-1.5	1.5	45	
	1617	埋２　棺内２区北	A	3	a	Ⅰ	青緑	3.50	4.00	1.50	1.5	45	
	1618	埋２　棺内２区北	E	3	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.00	1.5	10	1/2欠損
	1658	埋２　棺内２区中	A	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00	5.00	3.50	1.5	105	
	1659	埋２　棺内２区中	C	2	c	Ⅱ	灰白	4.00		3.00	1.5	60	
	1660	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅲ	灰緑	4.00		1.50	1.5	25	
	1661	埋２　棺内２区中	A	3	a	Ⅲ	灰白	4.00	4.50	2.50	1.0	55	1/2欠損
	1662	埋２　棺内２区中	B	2	a	Ⅱ	緑	4.50	5.00	2.00	2.0	60	
	1663	埋２　棺内２区中	C	2	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.50	1.0	50	
	1664	埋２　棺内２区中	C	2	b	Ⅱ	灰緑	4.00		2.00	1.5	45	
	1665	埋２　棺内２区中	A	2	c	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1717	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅲ	緑	4.00	5.00	1.0-2.0	1.0	65	
	1718	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅲ	緑	3.50	3.75	2.50	1.0	50	
	1719	埋２　棺内２区南	C	2	b	Ⅲ	緑	3.50		1.50	1.5	35	
	1720	埋２　棺内２区南	C	1	a	Ⅰ	灰白	4.00		1.50	1.0	25	
	1721	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅲ	緑	3.00	3.50	3.00	1.5	45	
	1722	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.0	45	
	1723	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅰ	灰緑	3.45	3.75	2.00	1.5	40	
	1724	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	灰緑	3.25	3.75	2.00	1.5	35	
	1725	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	4.00	3.00	1.5	55	
	1726	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	2.00	1.0	40	
	1727	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	3.75	2.00	1.5	45	
	1728	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.0	35	
	1729	埋２　棺内２区南	C	2	a	Ⅱ	灰緑	4.00		1.50	1.5	35	
	1730	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅰ	灰白	3.50		1.50	1.0	15	1/3欠損
	1731	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.00		1.50	1.0	20	
	1732	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1733	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	青緑	3.75	4.25	0.5-1.0	1.5	25	
	1734	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅰ	青緑	3.50	4.00	2.00	1.0	40	
	1735	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.0	20	
	1736	埋２　棺内２区南	E	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.00	1.0	20	
	1737	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅰ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	60	
	1738	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.00	3.50	1.50	1.0	25	
	1739	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	緑	3.45	3.55	2.00	1.5	40	
	1740	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰緑	3.00	3.50	2.00	1.5	30	
	1741	埋２　棺内２区南	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		1.0-1.5	1.5	35	
	1742	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	錆付着
	1743	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	2.00	1.5	40	
	1744	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.0	35	
	1745	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅲ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1746	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	1.50	1.0	40	
	1747	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.0	35	
	1748	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		2.00	1.0	45	
	1749	埋２　棺内２区南	C	2	b	Ⅲ	灰緑	4.00		2.50	1.0	50	
	1750	埋２　棺内２区南	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	45	
	1751	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅰ	青緑	4.00	4.50	2.00	1.5	60	
	1752	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	青緑	3.50	4.00	1.5-2.5	1.5	45	
	1753	埋２　棺内２区南	A	2	a	Ⅱ	緑	4.00	4.50	3.00	1.5	85	
	1754	埋２　棺内２区南	A	3	b	Ⅰ	灰緑	3.00	3.50	2.50	1.5	40	
	1755	埋２　棺内２区南	A	3	b	Ⅲ	灰緑	3.00	3.50	4.50	1.5	65	
	1756	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	青緑	4.00	4.50	1.00	1.5	25	
	1757	埋２　棺内２区南	A	2	b	Ⅱ	緑	3.00	4.00	1.5-2.5	1.5	45	
	1758	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1759	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅱ	緑	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1760	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		1.50	1.0	40	錆付着
	1761	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	3.50		1.50	1.0	35	
	1762	埋２　棺内２区南	A	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50	3.75	0.5-1.0	1.5	20	
	1763	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.50	1.0	25	
	1764	埋２　棺内２区南	C	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		2.00	1.0	45	
	1765	埋２　棺内２区南	B	3	b	Ⅰ	灰白	3.50	4.00	1.50	1.0	35	
	1766	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	灰白	3.50	3.75	2.00	1.0	45	

第52表　小谷13号墳臼玉計測表（32）

№	管理 No.	遺　構	形状	側面研磨	孔面研磨	穿孔方法	色調	外径 mm	最大径 mm	厚 mm	孔径 mm	重量 mg	備　考
	1767	埋２　棺内２区南	B	3	a	Ⅱ	緑	3.00	3.50	1.50	1.0	35	
	1768	埋２　棺内３区東	B	2	a	Ⅱ	緑	4.50	4.75	2.5-3.5	1.5	110	
	1769	埋２　棺内３区西	B	2	a	Ⅲ	緑	3.25	3.55	2.50	1.0	55	
	1770	埋２　棺内３区西	A	2	a	Ⅲ	青緑	3.50	4.50	2.50	1.5	75	
	1771	埋２　棺内３区西	C	2	b	Ⅰ	緑	4.00		2.00	1.0	40	
	1773	埋２　棺内アゼ北	A	2	b	Ⅲ	灰緑	3.50	4.00	2.50	1.5	50	
	1774	埋２　棺内アゼ北	A	2	b	Ⅲ	緑	3.75	4.00	1.50	1.5	45	
	1775	埋２　棺内アゼ北	B	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	2.00	1.5	55	
	1776	埋２　棺内アゼ北	A	3	c	Ⅱ	灰緑	3.25	4.00	2.0-3.0	1.5	55	
	1777	埋２　棺内アゼ北	B	3	b	Ⅲ	緑	3.50	3.75	1.75	1.5	40	
	1778	埋２　棺内アゼ北	A	3	b	Ⅲ	緑	3.00	3.50	2.50	1.5	45	
	1779	埋２　棺内アゼ北	A	2	a	Ⅲ	灰緑	3.50	3.75	2.50	1.5	50	
	1780	埋２　棺内アゼ北	A	2	b	Ⅲ	緑	3.50	3.75	2.50	1.5	50	
	1781	埋２　棺内アゼ北	B	2	a	Ⅲ	緑	3.25	3.50	2.50	1.5	55	
	1782	埋２　棺内アゼ北	C	3	a	Ⅰ	灰緑	3.50		2.00	1.0	45	
	1783	埋２　棺内アゼ北	A	2	a	Ⅰ	緑	3.00	3.50	2.00	1.5	30	
	1784	埋２　棺内アゼ北	E	3	a	Ⅱ	灰白	4.00		1.00	1.5	25	
	1785	埋２　棺内アゼ南	A	2	a	Ⅱ	灰緑	3.50	4.00	1.50	1.0	40	
	1786	埋２　棺内アゼ北	D	3	a	Ⅱ	灰白	5.00		25.50	1.0-2.5	735	やや軟質
	1787	埋２　棺内アゼ南	D	2	a	Ⅰ	緑	4.00		21.50	1.0-2.0	600	

第53表　小谷13号墳臼玉計測表（33）

№	登録番号	種別	出土位置	法量		外面調整	内面調整	焼成	色調	胎土	備考
				口径(cm)	底径(cm)						
331	027-1	朝顔形埴輪	小谷10号墳盛土北	—	—	ナデのち突帯貼り付け,タテハケ,ヨコハケ	指頭ナデ	並	橙色	やや粗い。0.1～0.2cmの石粒含む	
332	027-2	円筒埴輪	小谷10号墳盛土	—	—	ナデのち突帯貼り付け	指頭ナデ	並	橙色～にぶい黄橙色	やや粗い。0.4～0.6cmの石粒含む	
333	053-1	円筒埴輪	小谷10号墳周溝北	—	—	ナデのち突帯貼り付け	ナデか？	並	橙色		
334	053-2	円筒埴輪	小谷10号墳盛土南	—	—	タテハケ	ナデか？	並	橙色		赤彩(ベンガラ)が一部残る
738	070-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(18.6)	タテハケ	指頭ナデ	良	浅黄色	0.1～0.2mmの石粒含む	ハニワ列２
739	070-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	19.0	タテハケ	タテ方向ナデ	やや硬質	にぶい黄橙色	0.1mmの石粒含む	ハニワ列４
740	071-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(21.0)	タテハケ	ナナメ方向のナデ	良	にぶい橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	ハニワ列５
741	071-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.5	タテハケ	ナデか？	良	にぶい橙色	やや粗い。3.5～6.0mmの石粒含む	ハニワ列６
742	072-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	19.0	タテハケのち横方向のナデ	指頭ナデ	良	橙色	やや粗い。3.5mmの石粒含む	ハニワ列７
743	072-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.5	タテハケ	指頭ナデののちヨコ方向のケズリ	良	橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	ハニワ列８
744	073-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(18.5)	タテハケ	タテ方向ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	ハニワ列９
745	073-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	18.2	タテハケのち横方向のナデ	タテ方向ナデ	やや硬質	にぶい黄橙色	やや密。～8.5mの石粒含む	ハニワ列10
746	074-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	18.2	タテハケ	指頭ナデ	良	明黄褐色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	ハニワ列11
747	074-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	17.1	タテハケ	タテ方向ナデのち指頭ナデ	良	にぶい黄橙色		ハニワ列12
748	075-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	19.8	タテハケ	指頭ナデ	良	明黄褐色	やや粗い。2.8～3.5mmの石粒含む	ハニワ列13
749	076-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(16.5)	タテハケ	不明	良	橙色	やや粗い。3.5～5.0mmの石粒含む	ハニワ列14
750	075-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.6	タテハケ	タテ方向の板ナデ	良	橙色	やや粗い。～4.0mmの石粒含む	ハニワ列15
751	136-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.6	タテハケ	タテ方向の工具ナデ	良	橙色	やや密。	ハニワ列17
752	136-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	15.0	縦方向の工具ナデ	タテ方向ナデ	良		やや粗い。2.0～3.5mmの石粒含む	ハニワ列19
753	077-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	17.0	タテハケ	ナデのちヨコ方向のケズリ	良	橙色	やや粗い。～4.0mmの石粒含む	ハニワ列20
754	077-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	18.0	タテハケのちヨコハケ(B種)	ナデのちヨコハケ	良	にぶい橙色	やや粗い。～4.0mmの石粒含む	ハニワ列21
755	079-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	15.8	タテハケ？	指頭ナデ・オサエ	良	橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	ハニワ列22
756	080-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	17.7	タテハケのちヨコナデ	指頭ナデ・オサエのちヨコナデ	良	橙色	やや粗い。3.0～3.5mmの石粒含む	ハニワ列23
757	078-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	19.2	タテハケ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い。2.0～3.5mmの石粒含む	ハニワ列25
758	135-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	15.0	タテハケのちヘラによる面取り	ナデののち基底部にケズリ	良	にぶい黄橙色	やや密。	ハニワ列26
759	080-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(17.7)	タテハケのちヨコハケ	指頭ナデ・オサエ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	ハニワ列28
760	080-3	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.8	風化のため不明	風化のため不明	良	橙色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	ハニワ列29
761	079-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	17.0	タテハケ	指頭ナデ・オサエのちヨコナデ	良	橙色	やや粗い。2.0～3.5mmの石粒含む	ハニワ列30
762	078-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	16.0	タテハケ	指頭ナデ・オサエのちヨコナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	ハニワ列31
763	137-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	18.0	タテハケ	底部タテ方向ナデ・口縁部ヨコハケ	良	黄橙色	やや粗い。	ハニワ列33
764	081-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	18.0	風化のため不明	ナデ	良	橙色	やや粗い。～５mm大の小石含む	円筒ａ
765	081-3	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(14.0)	タテハケ　底面端部ヨコナデ	ナデ？オサエ?	良	橙色	やや粗い。細砂粒含む	円筒ｂ
766	138-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	(31.2)	—	タテハケ	ヨコハケののち指頭ナデ・オサエ	良	黄橙色	1.0～2.0mmの石粒含む	円筒ｃ
767	139-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	15.0	タテハケのちヘラによる面取り	ナナメ方向のナデ	良	明黄褐色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	円筒ｄ
768	139-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	(16.0)	タテハケ	指頭ナデ・オサエ	良	明黄褐色	やや粗い。2.0～3.5mmの石粒含む	円筒ｆ
769	084-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	(18.0)	タテハケ	タテ方向ナデのちヨコ方向のケズリ	良	橙色	やや粗い。～1.5mmの石粒含む	
770	093-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。3.5～5.0mmの石粒含む	
771	069-1	円筒埴輪	小谷13号墳	—	—	タテハケ	指頭オサエ	良	にぶい橙色	やや密。	
772	083-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	(30.0)	—	タテハケ	ヨコハケ（B種）	良	橙色	やや密。	
773	140-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	(17.2)	タテハケのち板状工具でナデ	タテ方向のナデ	良	黄橙色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	
774	083-3	円筒埴輪	小谷13号墳墳丘北	(26.0)	—	タテハケ	ヨコハケ	良	橙色	やや密。	
775	083-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	(25.0)	—	タテハケ	ヨコハケ	良	橙色	やや粗い。	
776	087-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳丘西	—	—	ヨコハケ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	透孔あり(円形)
777	090-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂北	—	—	タテハケのちヨコハケ(B種)	ハケメ	良	橙色	やや密。～4.5mmの石粒含む	
778	090-4	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	—	タテハケのち口縁部ヨコナデ	ハケメ	良	橙色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	
779	087-3	円筒埴輪	小谷13号墳墳丘西	—	—	突帯貼り付け後ナデ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.2mmの石粒含む	
780	088-1	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂南	—	—	タテハケ	風化のため不明	良	橙色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	
781	092-2	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂	—	—	タテハケのちヨコハケ(B種)	ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや密。～3.0mmの石粒含む	ヘラ記号あり
782	092-4	円筒埴輪	小谷13号墳墳丘北	—	—	タテハケ	ケズリ	良	にぶい橙色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	
783	092-3	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂東	—	—	タテハケのちヨコハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。2.0～3.5mmの石粒含む	
784	092-5	円筒埴輪	小谷13号墳墳頂東	—	—	タテハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや密～1.5mmの石粒含む	
785	086-5	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケのち口縁部ヨコナデ	ハケ?	良	にぶい黄橙色	やや密～1.5mmの石粒含む	
786	086-6	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケのち口縁部ヨコナデ	ヨコハケ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.5mmの石粒含む	
787	087-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケのち口縁部ヨコナデ	ヨコハケ	良	にぶい黄橙色	やや密～4,0mmの石粒含む	
788	089-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ヨコハケ	良	にぶい黄橙色	やや密～1.5mmの砂粒含む	
789	090-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。2.0～2.5mmの砂粒含む	
790	090-3	円筒埴輪	小谷13号墳周溝南	—	—	タテハケ	ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。2.0～3.5mmの砂粒含む	

第54表　出土埴輪観察表（１）小谷10・13号墳円筒埴輪

№	登録番号	種別	出土位置	法量		外面調整	内面調整	焼成	色調	胎土	備考
				口径(cm)	底径(cm)						
791	090-5	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ハケメ	良	にぶい橙色	やや粗い。～2.5mmの砂粒含む	
792	090-6	円筒埴輪	小谷13号墳周溝南	—	—	タテハケのちヨコハケ	ハケメ	良	にぶい黄色	やや密～1.5mmの砂粒含む	
793	086-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケ	ハケメ・ナデ	良	にぶい橙色	やや密。～3.0mmの砂粒含む	
794	086-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケのちヨコハケ	ハケ・オサエ	良	にぶい橙色	やや密～2mmの石粒含む	透孔あり(円形)
795	086-3	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケのちヨコハケ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや密～2.5mmの砂粒含む	
796	087-4	円筒埴輪	小谷13号墳周溝南	—	—	タテハケのちヨコハケ	ハケメ・ナデ	良	にぶい橙色	やや密～2.0mmの砂粒含む	
797	091-1	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケのちヨコハケ	オサエ・ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～1.5mmの砂粒含む	
798	091-4	円筒埴輪	小谷13号墳周溝南	—	—	タテハケのちヨコハケ(B種)	ハケメ・ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
799	093-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケのちヨコハケ(B種)	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
800	093-3	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ナデ	良	橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
801	088-3	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケのちヨコハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～1.5mmの砂粒含む	
802	088-4	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ナデ・ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	ヘラ記号あり
803	088-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケのちヨコハケ(B種)	ナデ・オサエ・ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
804	089-2	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～3.0mmの石粒含む	透孔あり(円形)
805	088-5	円筒埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	ヨコハケ	オサエ・ナデ	良	にぶい黄橙色	やや密～1.5mmの砂粒含む	
806	096-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳墳頂	—	—	タテハケ	風化のため不明	良	にぶい橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
807	091-3	朝顔形埴輪	小谷13号墳墳頂東	—	—	タテハケのちヨコハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや密～2.0mmの砂粒含む	
808	068-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	ナデ	ナデ	良	にぶい橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	透孔あり(円形)
809	085-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ヨコハケ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～１mmの砂粒含む	
810	085-2	朝顔形埴輪	小谷13号墳	—	—	ナデ	ヨコハケ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～4.0mmの石粒含む	
811	095-2	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	ハケメ	良	にぶい橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	
812	082-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳墳頂	—	—	タテハケ	タテハケのちヨコハケ(B種)	良	にぶい黄橙色	やや密。	ハニワ列32
813	091-2	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	ヨコハケのちタテハケ	ハケメ	良	橙色	やや密～2.5mmの砂粒含む	
814	081-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	ヨコハケ・タテハケ	オサエ・ナデ	良	橙色	やや粗い。～3.5mmの石粒含む	
815	095-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い～１mmの砂粒含む	
816	092-1	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	ナデのち突帯貼り付け	ナデ・ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
817	086-4	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝東	—	—	タテハケ	オサエ・ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～1.5mmの砂粒含む	
818	087-5	朝顔形埴輪	小谷13号墳墳頂撹乱	—	—	ヨコハケ	ナデ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.5mmの砂粒含む	
819	088-6	朝顔形埴輪	小谷13号墳周溝北	—	—	タテハケ	オサエ・ナデ　一部ハケメ	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	
820	082-2	壺形埴輪	小谷13号墳墳頂東	(22.1)	—	風化のため不明	風化のため不明	良	にぶい黄橙色	やや粗い。～2.0mmの砂粒含む	

〔凡例〕　＊・法量の（　）は復元径を示す

第55表　出土埴輪観察表（２）小谷13号墳円筒埴輪

№	登録番号	種別部位	出土位置	法量	調整・技法	焼成	色調	胎土	備考
821	141-01	蓋形埴輪笠部	周溝東	受部径10.5 残存笠径15.0	軸部との境には突帯を巡らし、笠部には放射状の沈線が２条ずつ施される。	良	明黄褐色	やや粗　～3.0mm砂粒含む	
822	145-01	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	外面には沈線が施される。	良	黄橙色	やや粗　～3.0mmの砂粒含む	
823	142-01	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	外面には沈線が施される。	良	橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
824	142-02	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	外面には２条の沈線が施される。	良	黄橙色	やや粗　～5.0mmの砂粒含む	
825	142-04	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	ヨコハケののち沈線1条を施す。	良	浅黄橙	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
826	142-03	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	外面には沈線が施される。	良	黄橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
827	144-05	蓋形埴輪笠部	周溝東	—	外面には沈線が施される。	良	浅黄色	やや粗　～１.0mmの砂粒含む	
828	145-03	蓋形埴輪笠部	墳頂南	—	外面には沈線が施される。	良	浅黄橙	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
829	144-03	蓋形埴輪笠部	墳頂	—	外面には沈線が施される。	良	明黄褐色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
830	145-02	蓋形埴輪受部	墳頂	—	外面には沈線が施される。沈線？	良	明黄褐色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
831	144-02	蓋形埴輪立ち飾り	北斜面	—	ナナメハケののち（？）ののち沈線が施される。	良	明黄褐色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
832	144-01	不明埴輪	周溝東	—	突帯(？)貼り付け後格子状に沈線(線刻？）が施される。	良	黄橙色	やや粗　～4.0mmの砂粒含む	馬か？
833	144-04	不明埴輪	周溝東	—	逆Ｖ字状に沈線が施される。	良	にぶい黄橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
834	146-01	家形埴輪	墳頂	大棟棟端43.4 屋根部高18.2 桁行幅26.1 破風板幅3.8-5.4 透かし孔径4.2	屋根部にはランダムなヨコハケを施し、押縁は沈線で表現。妻側はタテハケ後突帯を貼付けと2本の沈線で束柱表現２箇所、上部には円形透かし孔、下部に四角の透かし孔を穿孔。平側に同様の方形透かし孔２箇所穿孔。	良	橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	押縁の沈線は引き直す。下層に柱表現なし
835	143-03	家形埴輪妻上部大棟先端部	廃土	—	押縁表現の沈線が２条施される。	良	黄橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
836	143-01	家形埴輪屋根大棟	周溝東	—	ヨコハケのち押縁が沈線1条で表現される。	良	橙色	やや粗　～2.0mmの砂粒含む	
837	143-02	家形埴輪壁（隅部）	墳頂	—	タテハケ　方形透かし孔	良	黄橙色	やや粗　～3.0mmの砂粒含む	窓開口部あり

第56表　出土埴輪観察表（３）小谷13号墳形象埴輪

11　古代の遺構

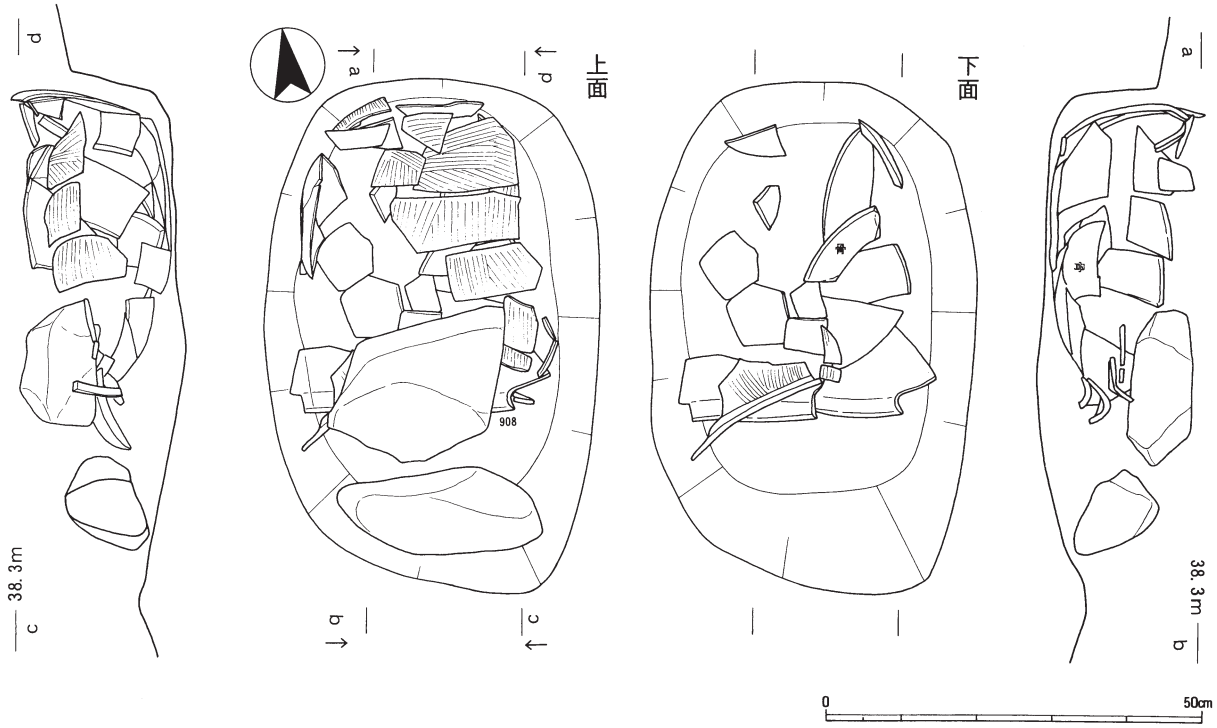
第６・７次調査区における古代の遺構としては、古墳周溝への廃棄土坑、各種土坑、土器棺墓などがある。密度としては、さほど濃くはないが、特に７次調査区の小谷10号墳以北で、調査区西側において多く分布した。丘陵平坦部の中でも縁辺を避け、より平坦部中央に遺構が分布することが予想される。

小谷10号墳周溝ＳＫ340（第91図）　小谷10号周溝が埋まりかけているところへ投棄されたもので、周溝北東部分で、周溝底面から20㎝～25㎝の埋土上面から投棄土器がみられる。須恵器壺・甕類を主体として投棄しており、人頭大の石も多く土器の間に分布していた。小谷９号墳周溝にも同様の投棄土器群ＳＫ400があり、ＳＫ340とＳＫ400は隣り合う古墳の周溝内において対面する位置関係にある。ＳＫ340とＳＫ400で接合がみられる平底壺（877）があったり、同一個体と考えられるものが双方の周溝に分かれて投棄されている須恵器甑（907）があることから、おそらく元は同じ場所にあった土器群を古墳周溝の窪地を利用して投棄したものと推測できる。

小谷９号墳周溝ＳＫ400　小谷９号墳周溝の西～南西部分にかけて投棄された土器群である。小谷10号墳周溝のＳＫ340と同じく周溝底面から約20㎝前後で最下層の土器がみられる。ＳＫ340が比較的まとまった場所に投棄してあったのに比べて、ＳＫ400では個体ごとに分散的に投棄されていた。

土器棺墓ＳＸ363（第90図）　小谷10号墳の南斜面で検出した土器棺墓である。墳頂39.0mから約70㎝下げた位置で検出したもので、墳丘法面から開削したものと考えられる。長径約65㎝、短径45㎝の楕円径の土坑内に横倒しにした長胴甕口縁を南に向け、人頭大の川原石２石でこの開口部を塞いであった。長胴甕の遺存状況は良好で、上半部の破片を除去した甕内部からは人骨が出土した。１片は頭蓋骨頂部破片、もう１片は腕あるいは脚の比較的長い部位の骨片である。この人骨以外には出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ382・383　第７次調査の北部で検出したもので、小谷24号墳の西側に位置する。不整形の土坑が東南隅を接するものである。ＳＫ382は検出面からの深さ約0.5m、ＳＫ383は検出面からの深さ約0.2mであった。ＳＫ382から布目平瓦片（930）と須恵器片、ＳＫ383から須恵器杯片（909）が出土した。この両土坑から出土した破片の間でも接合する個体



第90図　土器棺墓ＳＸ363　平面・断面図（１：10）

(910～912) がみられ、元は同じ場所にあった土器片が廃棄時に分かれたものと考えられる。

土坑ＳＫ395　７次調査区中央西端で、土坑の東半部を検出したものである。遺構検出面からの深さは約25㎝、黒褐色土の埋土から出土した遺物は土師器甕片 (915)、須恵器壺口縁 (914) などがある。

(大川)

第91図　10号墳周溝ＳＫ340　平面・断面図（１：40）

12　古代の出土遺物

古代の遺物には、前代の古墳周溝を利用して廃棄されたもののほか、土器棺として利用されたものなどがある。古代の土器分類と編年については、都城分類・編年[1]、および斎宮編年[2]を用いる。

10号墳周溝ＳＫ340出土遺物（870～893）10号墳の周溝内に遺棄されていた土器類である。時期的には奈良時代中葉頃から平安時代前期頃までのものがある。

870・871は土師器杯・皿類で、斎宮編年のＩ－３あたりに併行するものであろうか。872は須恵器蓋。

873は須恵器杯Ａで、焼きが甘く土師質を呈する。形態も、須恵器というよりも土師器に近いので、土師質土器（ロクロ土師器）の類に含めることもできる。874・875は須恵器杯Ｂで、都城編年の平城Ⅱ併行頃のものであろう。876は須恵器高杯である。

877は口縁部が短く、平底の壺で、分類上は壺Ｋの類であろうか。底部には杯蓋の摘部が釉着している。878も壺Ｋ。879～881は須恵器の短頸壺で、壺Ａに相当する。881は大形品である。

882～884は土師器甕類。882は奈良時代のもの、883・884は斎宮編年のⅡ－１～２に併行するものである。884は把手付鍋であろう。

885・886は須恵器の大形鉢で、鉢Ｄに相当する。886は体部外面に環状の把手が取り付くものと考えられる。

887～893は須恵器壺・甕類。口縁部には、そのまま収めるもの（887～889）と、口縁端部を拡張するもの（890・891・893）がある。89の波状文は、２本の棒状工具を同時に動かして施文したと考えられ、手法的に珍しい。また、口縁部外面にはハケ塗りと思われる施釉が認められる。

９号墳周溝ＳＫ400出土遺物（894～906）９号墳の周溝内に遺棄されていた土器類である。10号墳周溝ＳＫ340と同様、時期的には奈良時代中葉頃から平安時代前期頃までのものがある。

894～900は土師器。894は杯Ｇ、895は杯Ａ（小形）、896は杯Ｃ、897・898は皿Ａに相当する。897は内面に螺旋状・斜放射状暗文が見られる。斎宮Ⅱ－１に併行するものであろうか。899・900は甕で、奈良時代の範疇で把握できる。

901～906は須恵器。901は高杯。902は脚付短頸壺と呼ばれるもので、時期的にはやや古い可能性もあり、９号墳に伴うものかも知れない。903は杯Ｂ。904は皿Ｂで、美濃須衛産と考えられる[3]。905・906は壺・甕類。

ＳＫ340・400出土遺物(907)　907は、底部がＳＫ340から、口縁部がＳＫ400から出土しているが、焼成や調整の状況から、明らかに同一個体と考えられるものである。

907は須恵器甑である。高台を持つ。高台内面にあたる底面には４箇所の切り込みを入れ、その間を棒状に３本残して通気孔としている。体部には薄い把手が付く。焼成は極めて軟質である。近隣での類例を見ない、特殊な器形である。

土器棺ＳＸ363出土土器（908）　908は、土器棺の棺身として用いられていた土師器長胴甕である。口縁端部がやや内傾するもので、斎宮編年のⅡ－２に併行する時期のものと考えられる。

土坑ＳＫ382・383出土土器(909～913)　いずれも須恵器である。909・910は杯Ａ、911は壺、912・913は壺Ｋと考えられるもの。912と913は同一個体の可能性が高い。

土坑ＳＫ395出土土器（914・915）　914は須恵器壺の口縁部。915は土師器甕で、奈良時代後半頃のものであろう。

遺構外出土遺物(916～930)　遺構に伴わずに出土した遺物をここにまとめた。

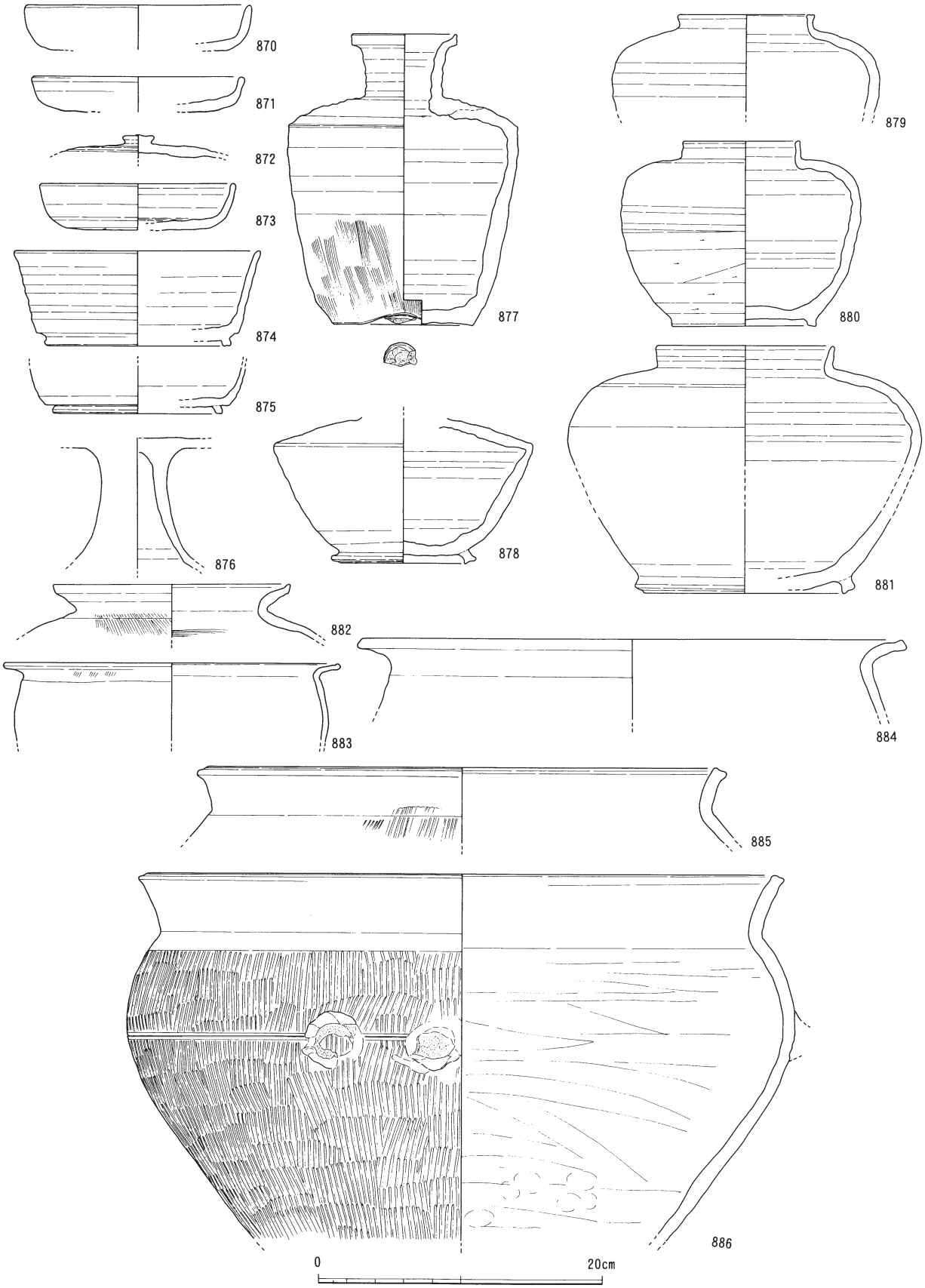
916～920・928は須恵器。916は杯Ｇ、917は大形の蓋で、皿に伴うものか。918は杯Ｂ、919は皿Ａ、920は壺。928は大形の甕である。

921は土師器杯Ａで、斎宮編年のⅡ－２に併行するものか。922は土師質土器椀で、高台内面には糸切り痕が残る。11世紀代のものであろう。

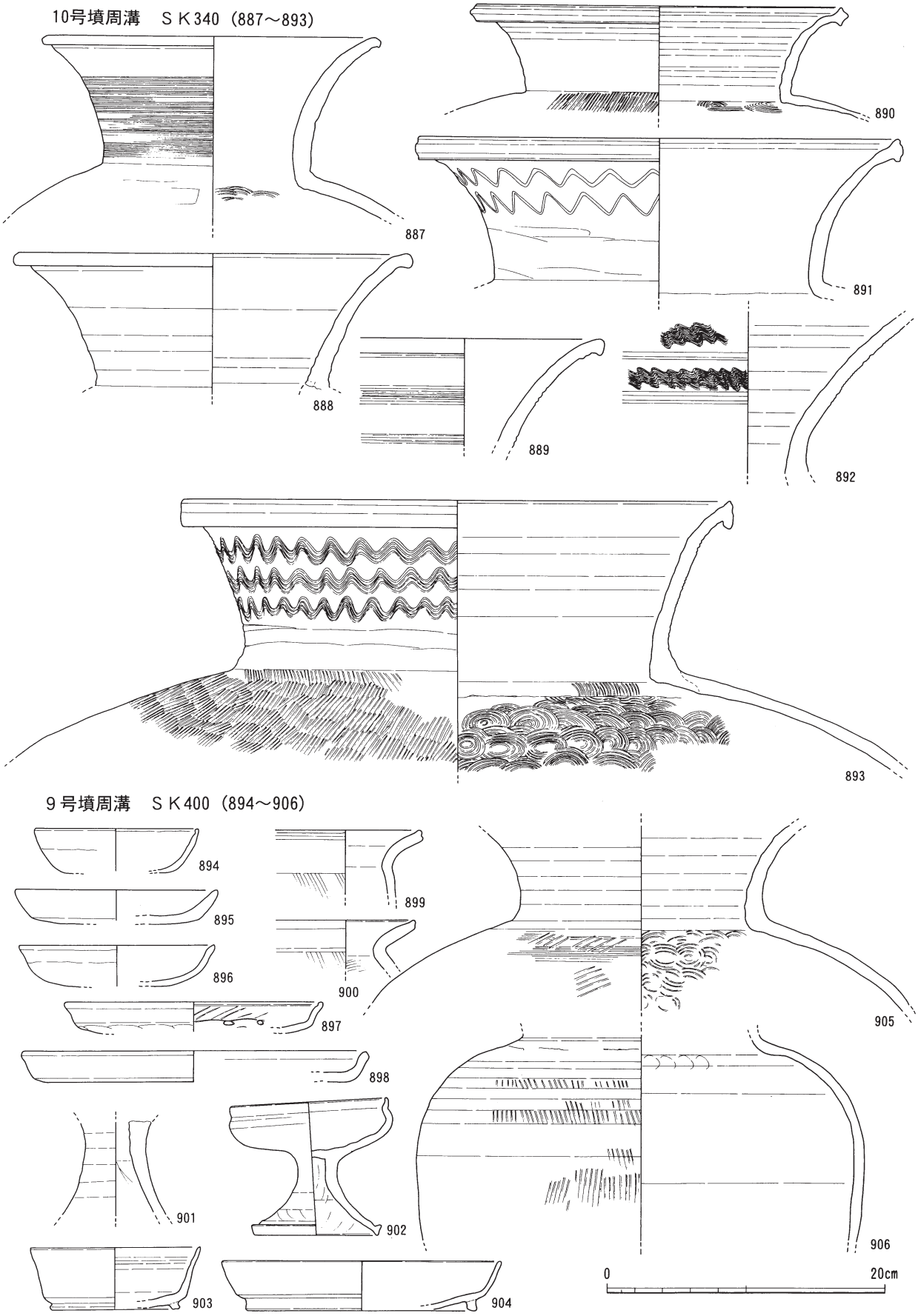
923は緑釉陶器椀。11世紀代のものか。

924～927は土師器甕。924～926は口縁部が外反するもので、奈良時代頃のものと考えられる。927は口縁端部の内面に肥厚が見られ、体部外面に粗いま

10号墳周溝　ＳＫ340（870～886）

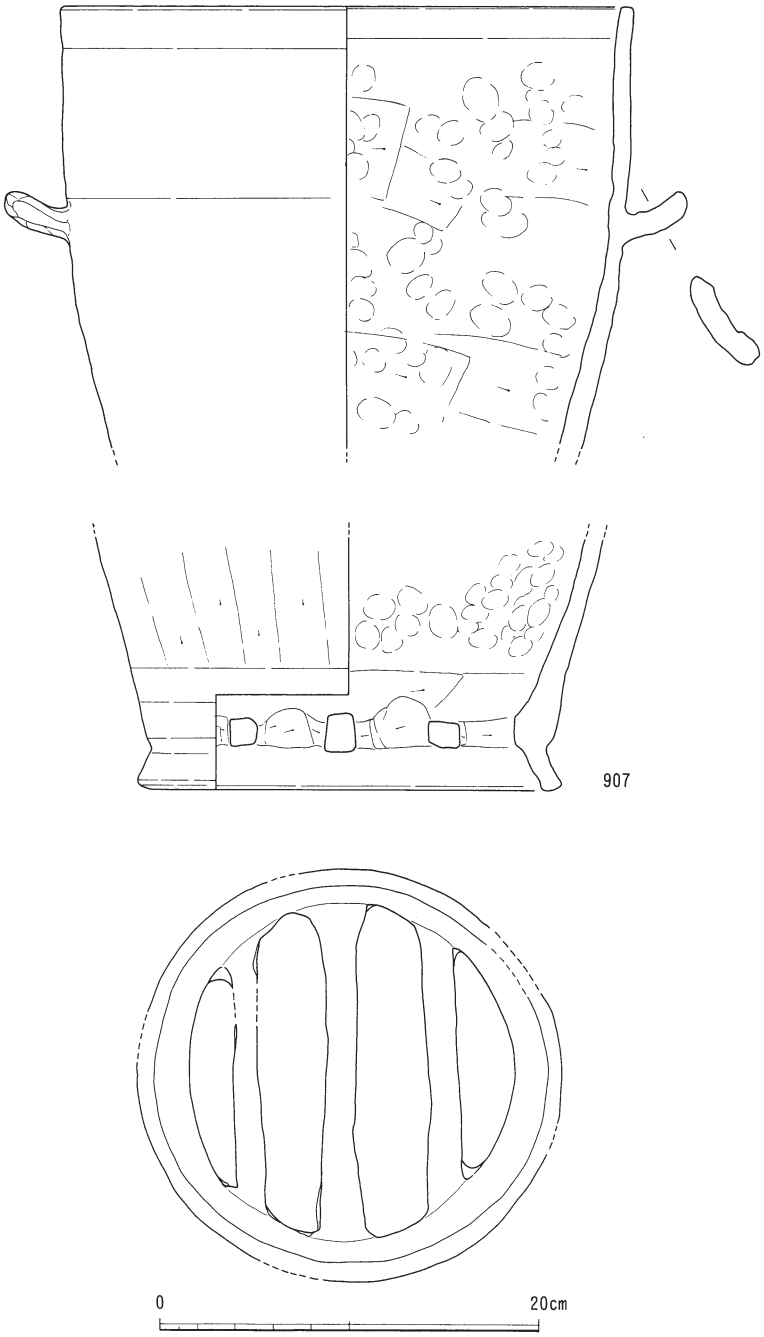


第92図　出土遺物実測図（１）古代（１：40）



第93図　出土遺物実測図（２）古代（１：40）

9・10号墳周溝　ＳＫ340・400（907）



第94図　出土遺物実測図（３）古代（１：４）

ばらなハケメが見られる。斎宮編年のⅢ－２併行頃のもので、11世紀代のものであろう。

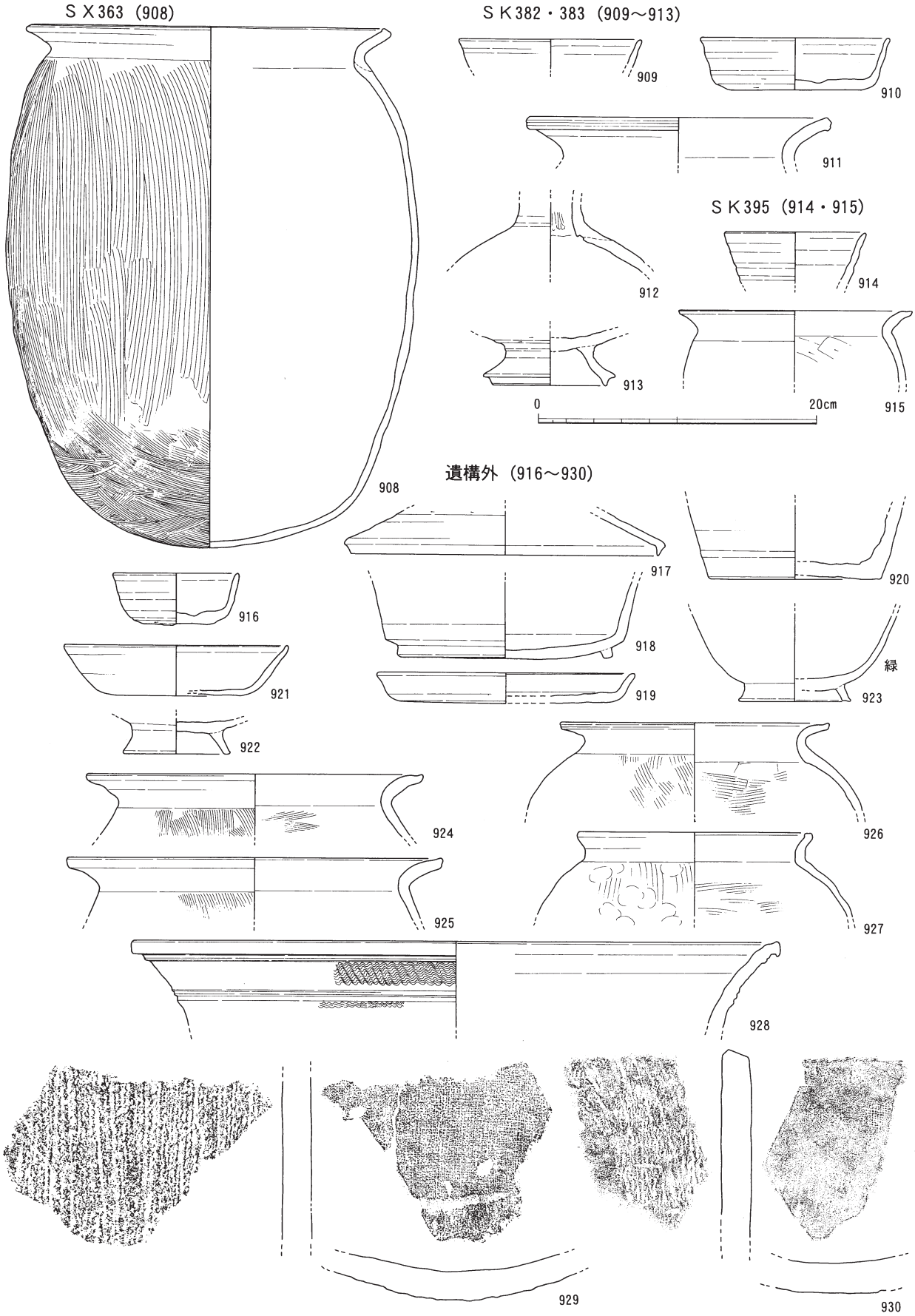
929・930は平瓦。いずれも凹面に布目圧痕、凸面に縄叩き目痕が残る。　（伊藤）

〔註〕

⑴　飛鳥・平城・平安京などの都城における分類と編年を「都城分類」「都城編年」とする。都城編年・分類については、古代の土器研究会編『古代の土器１　都城の土器集成』（1992年）を参照した。

⑵　斎宮歴史博物館『斎宮の土器・みやこの土器』（国史跡斎宮跡発掘30周年記念特別展「器は語る700年」記念シンポジウム資料　2000年）および講演記録（『斎宮歴史博物館研究紀要』10　2001年）、駒田利治・泉雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ　斎宮歴史博物館　2001年）

⑶　美濃須衛産須恵器については、渡辺博人氏（各務原市教育委員会）に実見のうえご教示頂いた。



第95図　出土遺物実測図（4）古代（1：4）

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
870	2604	土師器	杯A	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)16.0 (高)3.1	外：ナデ？→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	橙	口縁1/12 底2/12	
871	2602	土師器	皿	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)15.0	外：ナデ→ヨコナデ（表面摩滅の為、調整不明） 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	橙	口縁1/12 底2/12	平安か
872	3403	須恵器	蓋	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(摘)2.2	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ 内：ロクロナデ	やや密	灰	摘部完存	
873	2603	須恵器	杯A	6	B７	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)13.8 (高)3.3	外：ロクロナデ→ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや密	橙	口縁4/12	
874	3402	須恵器	杯B	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)17.4 (台)14.0 (高)6.7	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや粗	浅黄・灰白・黄灰	口縁1/12 台部2/12	
875	3303	須恵器	杯B	6	C７	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(台)12.0	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付高台 内：ロクロナデ	密	灰・灰白	台部3/12	
876	3404	須恵器	高杯	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(脚柱)4.6	外：ロクロナデ 内：ナデ	密	灰	脚柱完存	８Ｃ代か？
877	2902	須恵器	壺Ｋ？	6・7	B６	９・10号墳周溝 ＳＫ３４０・４００	(底)10.0	外：ナデ→ロクロナデ→ハケメ 内：ロクロナデ→口縁の貼付ナデ	やや密	灰白・灰・灰黄褐	底部8/12	内外面に自然釉有り、底部に杯蓋のヴマミが釉着する
878	3201	須恵器	壺Ｋ	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(台)10.2	外：ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや粗	外：灰白・暗灰・黒 内：灰	台部9/12	
879	3103	須恵器	壺A	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)9.6	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	灰・灰白	口縁2/12	外面に自然釉有り
880	2903	須恵器	壺A	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)8.3 (台)10.2 (高)13.0	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り後ナデ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや密	灰	口縁4/12 台部6/12	
881	3304	須恵器	壺A	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)12.6 (台)15.5	外：ロクロナデ→糸切り→貼付高台 内：ロクロナデ	やや密	灰・灰白	口縁2/12 台部2/12	
882	2601	土師器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)17.0	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ？（摩滅の為、調整不明瞭）→ヨコナデ	粗	明黄褐	口縁2/12	
883	2605	土師器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)24.0	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	橙	口縁1/12 頸部2/12	平安前半
884	2502	土師器	把手付鍋	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)38.0	外：ヨコナデ(口縁部）・他は摩滅の為、調整不明 内：ヨコナデ	粗	橙	口縁2/12	平安前期、斎宮Ⅱ－2頃
885	2901	須恵器	鉢D (大形鉢)	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)37.2	外：タタキメ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	灰・灰白	口縁2/12	
886	2701	須恵器	鉢D (大形鉢)	6	B７	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)45.5	外：タタキメ→沈線2本→ヨコナデ・環状貼付の把手(剥離) 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	灰白・灰	口縁2/12	
887	2301	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)23.5	外：工具ナデ→カキメ→ヨコナデ 内：同心円あて具痕→ヨコナデ	粗	にぶい黄橙	口縁3/12	環状把手は２方向
888	3101	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)28.6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	灰・灰白	口縁1/12	
889	3102	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	—	外：ヨコナデ→沈線 内：ヨコナデ	やや密	灰	口縁部片	内外面に自然釉有り
890	3301	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)27.0	外：タタキメ→ヨコナデ 内：同心円あて具痕→ヨコナデ	やや密	灰	口縁2/12	
891	3001	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)35.0	外：ロクロナデ→工具ナデ→波状文(1条) 内：ロクロナデ	やや密	灰・灰白・灰黄	口縁3/12	外面の釉はハケ塗りか　波状文は、２条を一度に巡らせる。
892	2503	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	—	外：ロクロナデ→凹線・波状文(13条) 内：ロクロナデ	密	外：灰 内：黄灰	口縁部片	
893	2501	須恵器	甕	6	B６	10号墳周溝 ＳＫ３４０	(口)39.0 (頸)32.0	外：タタキメ→ヨコナデ→波状文(4条) 内：同心円あて具痕→ヨコナデ	密	灰黄	口縁3/12 頸部4/12	
894	4401	土師器	杯G	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝f-2	(口)11.8	外：ナデ 内：ナデ	やや密	にぶい黄橙	口縁2/12	
895	4402	土師器	杯A(小形)	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝f-1	(口)14.6 (高)2.45	外：ナデ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	橙	口縁2/12	
896	4403	土師器	杯C	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝j-1	(口)14.0	外：オサエ・ナデ→ヨコナデ 内：ナデ	やや粗	橙	口縁1/12	
897	4406	土師器	皿A	7	Ｓ７ 小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝	(口)18.6	外：オサエ・ナデ→ヨコナデ 内：ヨコナデ→斜放射状＋螺旋状暗文	やや密	橙	口縁1/12	
898	5004	土師器	皿A	7	Ａ７ 小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝	(口)25.0 (高)2.2	外：ナデ？（不明瞭）→ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	橙	口縁1/12	８Ｃ後半か？
899	4404	土師器	甕	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝j-2	—	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	浅黄橙	口縁1/12	８Ｃ代
900	4405	土師器	甕	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｇ	—	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ→ヨコナデ	やや密	橙	口縁部片	
901	4204	須恵器	高杯	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｇ	(脚柱)4.4	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→ケズリ	やや密	灰	脚柱完存	
902	4302	須恵器	脚付短頸壺	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｋ	(口)11.2 (底)8.8 (高)8.2～10.2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→不定方向ナデ、シボリ（脚部内）	やや密	灰	口縁6/12	
903	4202	須恵器	杯B	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｆ-1	(口)12.2 (台)9.2 (高)4.4	外：ナデ→ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや密	外：灰 内：灰黄	口縁4/12 台部3/12	老洞産？
904	4203	須恵器	皿B	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｇ	(口)20.0 (台)16.6 (高)3.5	外：ナデ→ロクロナデ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや密	灰白	口縁2/12	美濃須衛、８Ｃ後半代
905	4201	須恵器	甕	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｅ-3	(頸)17.4	外：ナデ→タタキ→カキメ 内：同心円あて具痕→ヨコナデ	やや密	青灰・灰	頸部3/12	
906	4301	須恵器	甕	7	小谷 ９号墳	ＳＫ４００ 周溝ｈ	(頸)17.0	外：タタキ・口縁貼付痕→ヨコナデ 内：オサエ→ヨコナデ	やや密	灰	体部2/12	
907	4101	須恵器	甑	6・7	Ｂ６ 小谷 ９号墳	ＳＫ３４０・４００ 周溝ａ	(口)35.2 (底)22.2	外：ロクロナデ→沈線・ケズリ→把手貼付・貼付ナデ（高台） 内：オサエ・ナデ→底部に透かし	やや粗	浅黄・にぶい黄・灰黄	口縁2/12 高台完存	剥離顕著
908	3501	土師器	長胴甕	6	小谷 10号墳	ＳＸ３６３	(口)26.0 (高)37.4	外：ケズリ後ハケメ→ヨコナデ 内：オサエ・ナデ→工具ナデ→ナデ→ヨコナデ	やや密	にぶい橙・にぶい黄橙	口縁完存	
909	5103	須恵器	杯	7	Ｍ６	ＳＫ３８３	(口)13.2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰黄	口縁3/12	

第57表　出土遺物観察表（10）古代

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
910	4504	須恵器	杯A	7	M6	SK383	(口)13.6 (底)9.4 (高)3.7	外：ロクロナデ→ロクロケズリ 内：ロクロナデ→ナデ	やや密	灰黄	口縁2/12 底部6/12	
911	5104	須恵器	甕	7	L6・M6	SK382・383	(口)22.0	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	灰黄	口縁2/12	
912	5105	須恵器	長頸壺	7	L6・M6	SK382・383	(頸)4.4	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→工具ナデ	やや密	灰 内：灰黄	頸部10/12	外面に自然釉あり
913	5101	須恵器	壺	7	L6	SK382　西	(台)8.2	外：ロクロナデ→ナデ・ケズリ→貼付ナデ 内：ナデ	密	灰	高台6/12	内面に自然釉あり、７Ｃ後半～８Ｃ初
914	5102	須恵器	壺	7	R2・P2	SK395南・SK391	(口)10.2	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	黄灰	口縁3/12	
915	5003	土師器	甕	7	P2	SK395	(口)16.8 (頸)14.0	外：ナデ→ヨコナデ 内：工具ナデ→ヨコナデ	やや粗	外：にぶい橙 内：灰黄褐	口縁1/12 頸部1/12	７Ｃ代か？
916	5006	須恵器	杯G	7		排土	(口)9.1 (高)3.7	外：ロクロナデ→ケズリ→ヘラ切り 内：ロクロナデ→一方向ナデ	やや密	灰白	口縁2/12	
917	6501	須恵器	蓋	6	13号墳	周溝北	(底)23.0	外：ロクロナデ→ロクロケズリ 内：ロクロナデ	やや密	外：灰白 内：灰オリーブ	底部1/12	
918	4501	須恵器	杯B	6	I6	包含層	(台)15.5	外：ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ→貼付高台 内：ロクロナデ	やや密	浅黄・灰黄	台部3/12	内外面ともに研磨が顕著。転用硯か？
919	1302	須恵器	皿A	6	G6	SK349	(口)18.6 (底)15.3 (高)2.2	外：ロクロナデ→ヘラ起こし 内：ナデ→ロクロナデ	やや粗	灰白	口縁4/12 底部4/12	内面にスス付着
920	6303	陶器	瓶	6	J1	12号墳周濠	(底)12.2	外：ロクロナデ・オサエ・ナデ 内：ナデ・オサエ	やや密	外：灰・灰黄・にぶい黄橙 内：にぶい橙	底部3/12	
921	4904	土師器	杯A2	7	R2	包含層	(口)16.2 (高)4.1	外：摩滅激しい 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	橙・浅黄橙	口縁2/12	平安
922	6302	土師質土器	椀	6	L3	12号墳周濠	(台)7.5	外：糸切り→貼付ヨコナデ 内：回転ナデ	やや密	橙	台部2/12	
923	6602	緑釉陶器	椀	6	T3	13号墳周濠　北	(台)8.0	外：ロクロナデ→貼付高台→施釉（全面） 内：ロクロナデ	やや密	釉：若草色 素地・断面：にぶい黄	高台1/12	
924	2004	土師器	甕	7		SH390上層	(口)24.2 (頸)19.6	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ→ヨコナデ	やや密	にぶい黄褐 外面口縁部：橙	口縁1/12	奈良頃か？
925	4902	土師器	甕	7	R2	包含層	(口)27.0	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁1/12	７Ｃ後半
926	5002	土師器	甕	7	A2	包含層	(口)19.4 (頸)15.9	外：ハケメ→ヨコナデ 内：ハケメ・ナデ→ヨコナデ	やや粗	にぶい黄橙	口縁1/12 頸部2/12	７Ｃ代か？
927	5001	土師器	甕	7	小谷12号墳	墳丘斜面流出土南	(口)17.0 (頸)15.8	外：ハケメ・オサエ・ナデ→ヨコナデ 内：ハケメ後ナデ→ヨコナデ	やや密	にぶい黄橙	口縁3/12 頸部3/12	平安後半
928	4901	須恵器	甕	7	R2	包含層	(口)46.6	外：ヨコナデナデ→波状文 内：ヨコナデ	やや密	灰・暗灰・灰白	口縁1/12	
929	5502	瓦	平瓦	6	E7	10号墳周溝東		凹面：布目痕 凸面：縄目タタキ	粗	にぶい黄褐 凹面：黒い	中央部片	雲母片多く含む
930	5206	瓦	平瓦	7	L6	SK382		凹面：ナデ・布目痕あり 凸面：タタキ縄目痕	やや粗	にぶい黄橙	後部片	

第58表　出土遺物観察表（11）古代

13　中世の遺構

第６・７次調査区における中世の遺構としては、古墳墳丘への廃棄土坑、天花寺城跡曲輪５の土塁および堀がある。遺構密度としては、極めて薄い。

小谷10号墳廃棄土坑ＳＫ380　小谷10号墳墳丘の北東法面で検出した土坑で、土師器皿・小皿が出土した。皿類は全て上向きで置かれ、重なってはいたが、蓋として伏せたものはみられなかった。割れた破片も個体ごとに比較的まとまっており、古墳への「お供え」とした土器群であろうか。

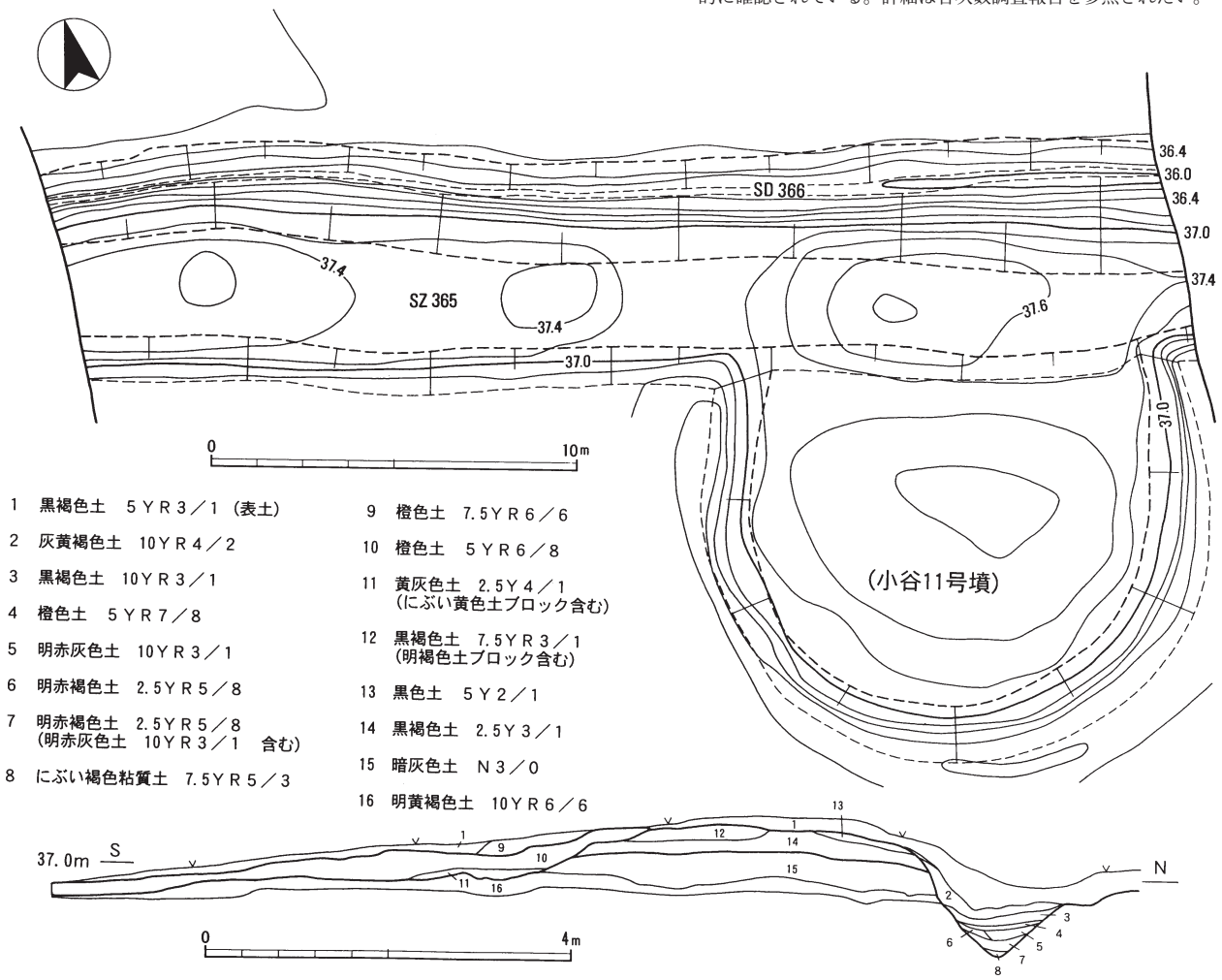
天花寺城跡曲輪５土塁ＳＺ365（第96図）　調査区中央を東西に横切る土塁である。途中、小谷11号墳に取付く。平坦面の幅は約3.0m、比高差約1.0m、土塁の平均標高が37.5mであり、11号墳取付き部の土塁天端平坦部はそれよりやや高い37.8mであった。11号墳表土を土塁へすり付け一体化させて使用していたことが、土層断面から確認できた。東延長は、6.0mほど東進したところで南折し、崖で曲輪５の東端を限る。

天花寺城跡曲輪５堀ＳＤ366（第96図）　先述の土塁ＳＡ365の北側に沿いに、幅約2.5m、深さ約0.8mで東西に延びる堀であり、断面はＶ字形の薬研掘りである。調査区西側断面では鋭いＶ字形を見せるのに比べ、東側断面ではやや堀底に丸みを帯びている。堀底は東勾配の緩やかな傾斜をとる。

その他の遺構　中世の遺構として、顕著に所属時期を示す遺構は上記以外になかった。ただ、抜根時に上面が平らな人頭大よりやや大きめ川原石がみられ、根株により現位置を保って検出することが出来なかったものがあり、これらが中世建物の東石であった可能性が考えられる。　（大川）

〔註〕

・　天花寺城跡の土塁・堀の延長は１次・４次・５次調査で断片的に確認されている。詳細は各次数調査報告を参照されたい。



第96図　土塁ＳＺ365・堀ＳＤ366測量図（１：200）・土層断面図（１：80）

14　中世の出土遺物

中世の遺物は、古墳の斜面に一括廃棄された土器群を中心としている。明確な遺構として認識されたものは無い。また、天花寺城跡曲輪５の堀・土塁に伴う出土遺物も明確にはできなかった。

土坑ＳＫ380出土土器（931～955）　931～954は土師器小皿。955は土師器皿。いずれも南伊勢系のもので、南伊勢中世Ⅲｂ期[1]に相当し、15世紀前半頃のものであろう。10号墳に関する、何らかの祭祀的行為に関係した遺物と考えられる。

13号墳北斜面出土土器(956・957)　いずれも南伊勢系の土師器皿で、Ｄ系統皿[2]である。南伊勢中世Ⅳａ期に相当し、15世紀後半頃のものである。13号墳に対する、何らかの祭祀的行為に関係した遺物と考えられる。

砥石(958・959)　図示した砥石は、いずれも遺構には伴っていないので、所属時期は不明である。原材は長方形で、４面に顕著な使用痕が認められるものである。

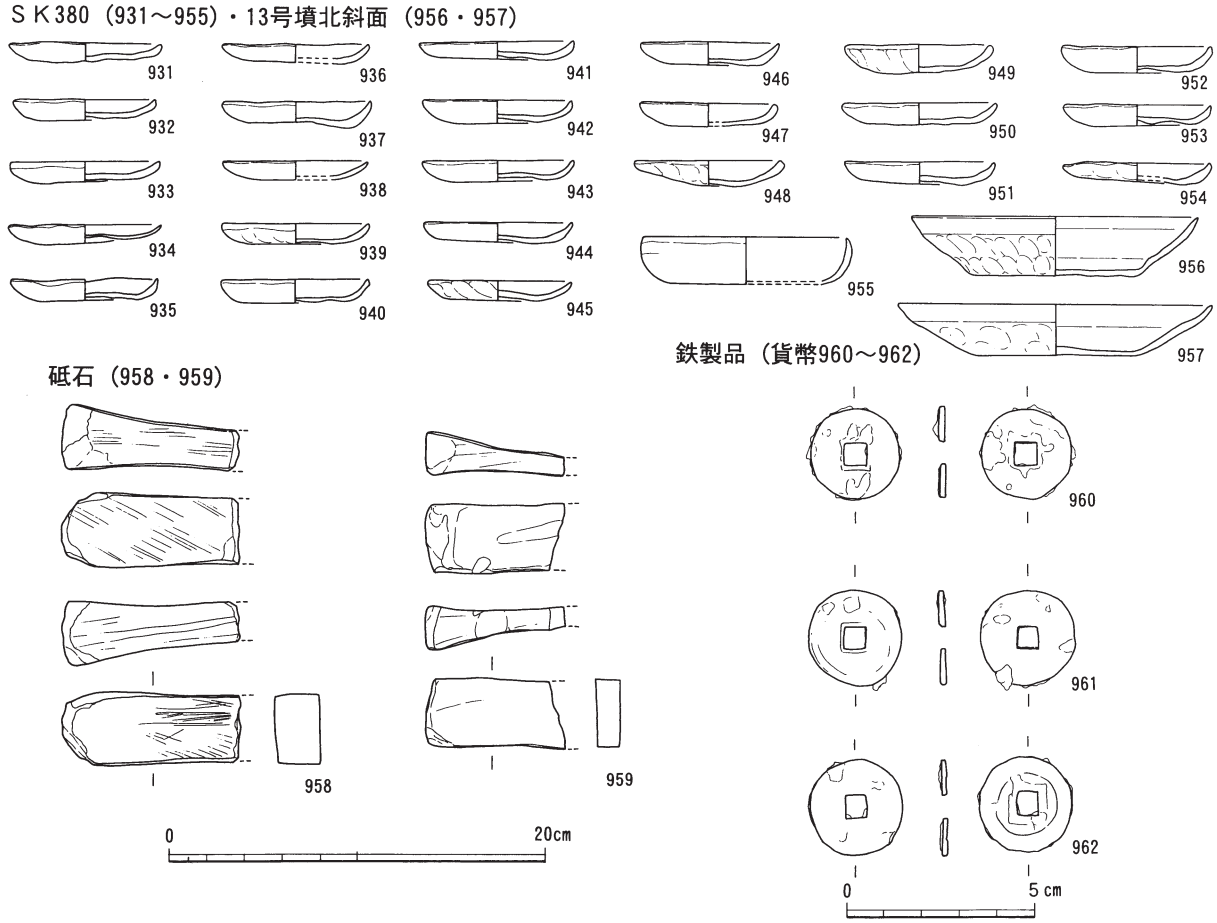
貨幣(960～962)　３点の貨幣は、いずれも10号墳周溝の表土近くから出土したものである。いずれも鉄製で、文字は極めて見にくいものの、わずかに観察できる特徴から「寛永通寶」と考えられる。古墳に対する「賽銭」のようなものであろうか。

(伊藤)

〔註〕

(1)　伊藤裕偉「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」(『関東・東海における中世土器・陶器の最近における研究成果』平成16年度第１回土器・陶磁器編年研究会　2004年)

(2)　三重県埋蔵文化財センター『多気遺跡群発掘調査報告』(1996年)



第97図　出土遺物実測図　中世以降（931～959は１：４、960～962は１：２）

番号	実測番号	様・質	器種など	次数	グリッド	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
931	4803	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.2 (高)1.0	外：オサエ→ナデ 内：ナデ→ナデ	密	にぶい黄橙	口縁8/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
932	4706	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.6～8.0 (高)1.0	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	浅黄橙	口縁11/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
933	4807	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.9 (高)1.1	外：ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁8/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
934	4801	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.2 (高)1.0	外：オサエ 内：ナデ	密	浅黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
935	4603	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.8 (高)1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	にぶい黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
936	4602	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.8 (高)0.9	外：ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁9/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
937	4604	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.8 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
938	4601	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.6 (高)1.0	外：ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙 断面：黒褐	口縁4/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
939	4709	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.8 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	やや密	にぶい黄橙	口縁6/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
940	4605	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.9 (高)1.25	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
941	4708	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.1 (高)0.9	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	ほぼ完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
942	4701	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.0 (高)1.2	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙・浅黄橙	ほぼ完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
943	4608	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.2 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
944	4702	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.9 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙 断面：黒	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
945	4703	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.6 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙・浅黄	ほぼ完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
946	4606	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.2～8.1 (高)1.2	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
947	4804	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.3 (高)1.2	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	浅黄橙	口縁9/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
948	4705	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.7 (高)1.3	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁9/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
949	4607	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.0 (高)1.45	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	ほぼ完存	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb～Ⅳa期
950	4704	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.0 (高)1.2	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁10/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
951	4707	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.0 (高)1.15	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁10/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期か
952	4806	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)8.0 (高)1.45	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙 断面：オリーブ黒	口縁6/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
953	4808	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.9 (高)1.1	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁9/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
954	4802	土師器	小皿	7		ＳＫ３８０	(口)7.2 (高)1.0	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙 断面：黒	口縁8/12	南伊勢系Ａ系統小皿、中世Ⅲb期
955	4805	土師器	皿	7		ＳＫ３８０	(口)11.0 (高)2.55	外：オサエ→ナデ 内：ナデ	密	にぶい黄橙	口縁4/12	南伊勢系Ｂ系統皿、中世Ⅲｂ
956	2401	土師器	皿	7		13号墳墳丘斜面 北東黒ボク境	(口)15.2 (高)3.2	外：ナデ・オサエ→ヨコナデ 内：ナデ・オサエ	やや密	にぶい黄橙	口縁4/12	南伊勢系Ｄ系統皿、中世Ⅳａ
957	2402	土師器	皿	7		13号墳墳丘斜面 北東黒ボク境	(口)16.7 (高)2.7	外：ナデ・オサエ→ヨコナデ 内：ナデ→ヨコナデ	やや密	浅黄橙	口縁4/12	南伊勢系Ｄ系統皿、中世Ⅳａ
958	12701	石製品	砥石	6		10号墳脇　表採	—	研磨面４面、擦痕あり			約半分	凝灰岩？仕上げ砥
959	12702	石製品	砥石	6		13号墳周溝　北	—	研磨面４面			約半分	凝灰岩、仕上げ砥
960	5305	鉄製品	貨幣	6	Ｅ７	10号墳周溝　東	(径)2.4 (厚)0.15	寛永通宝か？			完存	鉄製
961	5304	鉄製品	貨幣	6	Ｆ３	10号墳周溝 表土	(径)2.5 (厚)0.15	寛永通宝か？			完存	鉄製
962	5306	鉄製品	貨幣	6	Ｅ７	10号墳周溝　東	(径)2.5 (厚)0.15	寛永通宝か？			完存	鉄製

第59表　出土遺物観察表（12）中世以降

Ⅳ 調査のまとめと検討

天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群にかかる第６・７次発掘調査では、小谷古墳群を中心に多大な成果を得ることができた。ここでは、今回の調査で特徴的な事項についてまとめておく。

１　総　論

ａ　縄文～弥生時代前期の状況

縄文時代では、明確な遺構は確認されていないものの、早期末および中期末～後期の土器片が出土している。出土量は多くないため、集落が形成されていたとは考えにくい。

早期末の土器としては、当調査区から南西約150mにある第４次調査区で、高山寺式の良好な資料が出土している。また、時期的にはやや遡るものの、当調査区の西約400mにある馬ノ瀬遺跡で早期後半の陥穴状遺構が密集して確認されている。当該期の天花寺丘陵に、散発的に人間活動の痕跡が確認される時期といえる。

縄文中期末～後期の土器は、天花寺丘陵の調査を通じて、今回はじめて確認されたものである。当該期の人間活動は、丘陵東部の一角に限定されて展開していたのであろうか。

弥生時代前期では、土坑が２基確認された。そのうちの１基からはサヌカイトの石核（コア）とともに多くの剥片が出土しており、当地で石器製作がなされたものと考えられる。当調査に引き続き実施された第８次調査区からは、当該時期の平地式住居跡が検出されている。したがって、今回確認された土坑の付近にも、本来は住居跡が存在していた可能性は高いであろう。

なお、弥生時代前期の遺構が確認されたのも、当調査区および北接する第８次調査区に限定される。縄文時代後期に引き続き、丘陵東部に限定された人々の活動が考えられる。

出土遺物は、壺・甕類の頸部に半截竹管を用いる、いわゆる「亜流遠賀川式」に相当し、前期でも後葉にあたるとされるものである。半截竹管文については、報告文のなかで分類を示したように、いくつかのパターンが見られる。

弥生時代前期後葉の遺跡は、近隣では天花寺丘陵北麓にあたる片野遺跡や鳥居本遺跡がある。天花寺丘陵の遺跡動向も、これら周辺遺跡との関係で把握される必要がある。

ｂ　弥生時代後期の状況

弥生時代後期は、当該事業にかかる一連の調査区全てにおいて万遍なく遺構・遺物が確認される時期である。今回の第６・７次調査区では、竪穴住居７棟、掘立柱建物３棟、周溝墓(？)１基、土坑数基が確認された。これらは、これまでの調査次と同様、時期的には後期前半に限定されている。

竪穴住居　小谷赤坂遺跡で確認さている竪穴住居には、つぎのような共通項がある。

①　平面形は、正方形ないしは長方形。
②　周囲には壁周溝がめぐる。
③　四辺いずれかの中央に貯蔵穴がある。
④　中央に炉を持つ。
⑤　主柱穴は４本。
⑥　拡張以外の重複（切り合い関係）が無い。

①については、今回の調査区では長方形プランのものがやや多いように思われる。②は多数派の特徴で、やや歪なものや無いものもある。基本的に逸脱するものは無い。③も同様。④は、厳密には中央よりもややずれた位置である。これは貯蔵穴のある辺に対してのズレであり、炉と貯蔵穴の位置には相互関係がありそうである。なお、この傾向は当調査区以外でも確認できる。⑤は、基本はそうであるが、今回の調査区では、四隅寄りに柱穴を持つものが目立つ（ＳＨ353・356・388など)。また、ＳＨ343のように、控柱を持つと考えられる建物もある。ＳＨ343は堀形の内側に壁面を持つもので、伊勢湾西岸部の事例としては珍しい。この構造で壁面がやや丸みを帯びることも含め、東日本的な雰囲気を有している。

特徴的な竪穴住居は、各調査区に見られる。第６・

７次調査区の竪穴住居群は、南西部の第１・４・５次調査区や、北部の第８次調査区とは別の一群として把握できるものであり、群単位で若干の相違を有していると考えられる。

建物群の構成　第６・７次調査区の竪穴住居・掘立柱建物は、東側に向かって円弧を描くように見られる。竪穴住居どうしは時期的に若干の差があるものの、配置には意味があると考えられる。

これに関して注目できるのは、小谷古墳群と弥生後期の竪穴住居との重複がほとんど見られないという現象である。これは、弥生後期集落廃絶後、古墳群が形成されるまでの約400～500年の間、竪穴住居跡地が「窪地」として残っており、古墳の造成にあたっては、そこを意識的に避けた結果と考えられる。当調査区に北接する第８次調査区で検出した弥生時代の環濠埋土上層部から、奈良時代の土馬が出土している。つまり、弥生時代に開削された遺構は、「窪地」としてその後永らく痕跡を留めていたと考えられる。

弥生時代後期において「円弧」を呈するのは、中央が「広場」状の空間として認識されていたとともに、新しい竪穴住居が廃絶した竪穴住居を避けて造成された結果と考えられる。上述した古墳群と竪穴住居の関係を考慮すれば、廃絶した住居は弥生時代後期の段階においても埋め戻すことなく放置されていたと考えられる。

c　古墳時代の状況

今回の発掘調査では、小谷古墳群のうちの６基の古墳を調査した。このうち、９・11・13号墳についてはほぼ全容が判明した。

小谷古墳群は、天花寺丘陵の東部に群生する古墳群であり、調査で検出したものも含めて36基が確認されている。当古墳群は、立地と群集状況から４つの支群に分けられる。第６・７次調査区付近は15基の古墳が確認でき、小谷古墳群中最もよく群集した支群である。

調査の結果、５世紀中葉から６世紀後葉頃までに造成された古墳群で、全て木棺直葬墳であることが確認された。当支群の初現となる13号墳は、埴輪群や豪華な副葬品を有するもので、際だった存在である。13号墳の造成後はやや時間を置いて、11号墳が６世紀前葉頃に造成されている。11号墳以降は９号墳ほかの造成が連続するので、群集墳としての展開は11号墳にはじまると見てもよい。また、古墳の周囲に造成された土壙墓群もある。小谷古墳群の調査成果は、当該期の古墳時代研究のための重要な資料といえる。

なお、小谷古墳群に関する問題については、後掲の各論および附編で詳述されている。

d　古代の状況

古代の明確な遺構は、10号墳墳頂に築かれた平安時代前半頃の土器棺墓ＳＸ363のみである。古代の土器棺は第１次調査区からも検出されているが、これは奈良時代頃のものである。古墳群の形成が終焉した後、古代においても「葬地」としての意識が継続していたものと把握できる。

小谷９・10号墳周溝に遺棄されていた土器群（ＳＫ340・400）は、奈良時代を中心としながらも、一部平安時代に及ぶものを含む土器群である。周溝の窪みを利用した廃棄と考えられるが、器種構成が豊富であり、須恵器類（とくに壺Ｋ）を中心としているという特徴がある。単なる廃棄ではない意味を有している可能性もある。

e　中世の状況

中世では、天花寺城跡曲輪５の北部土塁が調査対象となった。曲輪５は不整楕円形を呈するもので、小谷古墳群を破壊することなく造作されているという特徴を持つ。調査区内では、土塁の東端を小谷11号墳の墳丘と接続している状況が確認された。古墳の墳丘を土塁の一部として利用していると見なされる。

第６次調査区は曲輪５、第７次調査区は曲輪４に相当するが、いずれの調査区からも建物遺構や、城に伴う遺物は皆無の状態である。小谷10・13号墳斜面で出土した土器類も、城に直接関係する遺物ではなく、古墳に対する何らかの「マツリ」に相当するものであろう。

城に関係する遺構・遺物が極端に少ない傾向は他の調査区でも確認されることで、天花寺城の特長といえる。比較的良好な土塁を調査することになった当調査区でも同様の傾向を示すといえる。　（伊藤）

2　各　論

a　小谷古墳群出土の鉄製品

①　刀剣類

今回の調査で出土した刀剣類は、直刀が10・13号墳から各１振、剣が13号墳から４本、刀子が９号墳から10本、10号墳から３本、13号墳から３本、ＳＸ381から１本である。

まず、13号墳埋葬施設(以下「埋」と省略)１出土直刀367に着目したい。茎尻が「隅抉尻」である。これは、５世紀初頭～６世紀にかけての限られた時期に用いられた形で、特に中期に流行し後期に入ると徐々に出土量が減少していくようである[1]。このタイプの直刀は、本古墳以外に県内では18例の出土が報告されており(表60・61)、各古墳の時期を共伴する須恵器から見ると、ＭＴ15～ＴＫ10型式併行期に集中する傾向が見られるようである。このことから、三重においてこのタイプの直刀は後期中心に副葬されていることがわかる。

また、この刀には関付近に抉りがあることがＸ線写真より確認できた。このような抉りは玉纏太刀に見られるものという指摘があるが、本古墳の場合、付属の刀装具の出土が認められないのでその可能性は低いと考える。この抉りが把装具等の拵えとどのような関わりをもつのかは、今後の類例の新出を待って検討することとしたい。

剣は13号墳埋１でのみ出土している。４本とも僅かな鎬があることから実用のためではなく、副葬品とするために製作されたものだろう。370は、刃関が左右非対称の造りになっている。故意ではなく、製作時にずれただけなのかもしれないが、直刀で見られる両角関に背関と刃関が非対称である例がしばしば見られることから、直刀的な要素を持たせようと意識して製作された、と考えることもできる。また、372については、これのみ切先の向きが異なる点や寸法から、槍である可能性も考えられるだろう。

刀子は、17本中半数近い９本が鹿角装である。その構造には２種類あり、一つは鹿角柄のみのもの、もう一つは木芯の上に鹿角柄を装着したものである。いずれの場合も、茎に植物繊維製の紐を巻きつけて下地としていることが確認できた。鹿角装刀子は県内では63例の出土を確認している(第60・61表)。鹿角は特別な材ではなく一般的な刀装具材として活用されていたのであろう。

なお、13号墳埋１出土の刀子（389）と９号墳埋２出土刀子（158）は、寸法や出土状況から、本来の使用目的とは異なる意味合いを持たせて副葬された可能性もあると考えられる。

②　農工具

13号墳埋葬施設１からのみ、鉄鎌（388）と鉄斧（386・387）が出土した。鉄斧は鋳造製（386）と鍛造製（387）が１点ずつ出土しており、その出土地点も異なっている。このことから、鉄鎌（388）とセットで副葬された鍛造鉄斧（387）は農工具として、刀剣類付近から出土した鋳造鉄斧（386）は武器として副葬された、との見方をすることができる。

③　鑷子状鉄製品

鑷子（じょうし）状鉄製品は「毛抜形鉄器」、「釵子（さいし）」等とも呼ばれ[2]、全国各地で出土しており、関東や九州北部で特に多い。東海圏内では千人塚古墳（静岡県）や龍門寺古墳（岐阜県）、長坂古墳（岐阜県）等で出土しているがその例は少なく、分布の空白地域となっている。三重県内では小屋城１号墳（安濃町）で破片が1点出土しているのみで、完形の出土は県内初である。

現在のピンセットのような形状をしており、これに連結金具とされる附属金具が合わせて出土している。その使用方法については「毛抜きに用いた」、「大刀等の刀装具に用いた」等の諸説があるが未だ明らかになっていない。本製品も出土位置から検討を試みたが、毛抜きに用いた装身具とも、直刀又は剣に伴う刀装具とも判断し難く、用途については不明である。

④　鉄鏃

12・24号墳以外で出土している。その形式は多種に渡り、古墳ごとに形式やその組み合わせに特徴が見られることから次の４類に分類することができる。なお、「細根系」とは鏃身部幅が小さく頸部が細長い鏃を、「広根系」とは鏃身部幅が頸部幅に対し著しく大きい鏃のことを示す[3]。

所在	古墳名	埋葬主体	副葬品	報告No.	鹿角	隅抉	報告書名	刊行年	発行元	備考
亀山	東樺野2号墳		刀子	32	○		国道306号線道路改良事業に伴う東樺野2号墳・東樺野遺跡発掘調査報告	1992.3	三重県埋蔵文化財センター	
名張	尻矢2号墳		短剣	F10			尻矢古墳群	1995.3	名張市遺跡調査会	
津	君ヶ口古墳		刀子	34	○		君ヶ口古墳発掘調査報告	1974.8	津市教育委員会	
津	君ヶ口古墳		刀子	35	○		君ヶ口古墳発掘調査報告	1974.8	津市教育委員会	
津	君ヶ口古墳		刀子	36	○		君ヶ口古墳発掘調査報告	1974.8	津市教育委員会	
津	君ヶ口古墳		直刀			○	君ヶ口古墳発掘調査報告	1974.8	津市教育委員会	
津	坂本山10号墳	北主体	刀子	2	○		坂本山古墳群・坂本山中世墓群発掘調査報告	1970.2	津市教育委員会	把
津	メクサ4号墳	第2主体	刀子	2	○		メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会	把
津	メクサ4号墳	第2主体	刀子	3	○		メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会	鞘・把
津	メクサ4号墳	第2主体	刀子	4	○		メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会	把・直弧文鹿角
津	メクサ4号墳	第2主体	鏃	12			メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会	
津	メクサ4号墳	第2主体	直刀	1		○	メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会	
津	元井池古墳	北主体	刀子	10	○		元井池古墳発掘調査報告	1969.3	三重大学歴史研究会	
松阪	八重田7号墳		刀子	1	○		八重田古墳群発掘調査報告書	1981.3	松阪市教育委員会	
松阪	八重田16号墳		直刀	41		○	八重田古墳群発掘調査報告書	1981.3	松阪市教育委員会	
松阪	八重田16号墳		直刀	42		○	八重田古墳群発掘調査報告書	1981.3	松阪市教育委員会	
松阪	山添2号墳	1号埋葬部	直刀	53			山添2号墳発掘調査報告書	1998.3	松阪市教育委員会	
松阪	浅間3号墳		直刀	200		○	浅間古墳群発掘調査報告書	1995.3	松阪市教育委員会	
明和	曽根崎3号墳	埋葬施設１	直刀	142		○	曽根崎遺跡（第2次）・曽根崎古墳群	1997.3	三重県埋蔵文化財センター	
明和	曽根崎3号墳	埋葬施設１		143		○	曽根崎遺跡（第2次）・曽根崎古墳群	1997.3	三重県埋蔵文化財センター	
玉城	カリコ古墳	第一主体	直刀	1	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	直刀	2		○	カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	23	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	25	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	直弧文
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	26	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	27	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	28	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	29	○		カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	7			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	9			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	20			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
玉城	カリコ古墳	第2主体	直刀	1		○	カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会	
伊勢	南山古墳	第Ｉ主体	直刀	Ｉ　9		○	南山古墳発掘調査報告	1982.3	伊勢市教育委員会	
伊勢	南山古墳	第Ｉ主体	直刀	Ｉ　2		○	南山古墳発掘調査報告	1982.3	伊勢市教育委員会	
伊勢	南山古墳	第Ｉ主体	刀子	Ｉ　3		○	南山古墳発掘調査報告	1982.3	伊勢市教育委員会	
安濃	中大谷13号墳		刀子	38？	○		中大谷13・16号墳発掘調査報告	1988.5	安濃町遺跡調査会	
亀山	釣鐘山古墳		直刀	23	○		小田泰正・村田照久「釣鐘山古墳発掘調査報告」	1975	『ふびと』第32号 三重大学歴史研究会	
亀山	釣鐘山古墳		直刀	26	○		小田泰正・村田照久「釣鐘山古墳発掘調査報告」	1975	『ふびと』第32号 三重大学歴史研究会	
亀山	木ノ下古墳	第１主体	刀子	13	○		三重大学歴史研究会原始古代史部会「亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要」	1982	『考古学雑誌』第67巻第３号	
亀山	木ノ下古墳	第2主体	刀子	9	○		三重大学歴史研究会原始古代史部会「亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要」	1982	『考古学雑誌』第67巻第３号	
亀山	木ノ下古墳	第2主体	刀子	10	○		三重大学歴史研究会原始古代史部会「亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要」	1982	『考古学雑誌』第67巻第３号	
亀山	木ノ下古墳	第３主体	直刀	41		○	三重大学歴史研究会原始古代史部会「亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要」	1982	『考古学雑誌』第67巻第３号	

第60表　鹿角装刀剣類・刀剣類隅抉茎県内類例一覧（１）

所在	古墳名	埋葬主体	副葬品	報告No.	鹿角	隅抉	報告書名	刊行年	発行元	備考
多気	河田古墳群	A-3第一主体	刀子	19	○		河田古墳群発掘調査報告Ⅰ	1974.3	多気町教育委員会	鞘口
多気	河田古墳群	A-3第2主体	直刀	24		○	河田古墳群発掘調査報告Ⅰ	1974.3	多気町教育委員会	
多気	河田古墳群	A-3第2主体	刀子	25	○		河田古墳群発掘調査報告Ⅰ	1974.3	多気町教育委員会	
多気	河田古墳群	A-3第2主体	鏃	29	○		河田古墳群発掘調査報告Ⅰ	1974.3	多気町教育委員会	
多気	河田古墳群	C-4第一主体	直刀	7		○	河田古墳群発掘調査報告Ⅲ	1986.3	多気町教育委員会	
多気	河田古墳群	C-11	刀子	12	○		河田古墳群発掘調査報告Ⅲ	1986.3	多気町教育委員会	
多気	河田古墳群	C-12第3主体	刀子	27	○		河田古墳群発掘調査報告Ⅲ	1986.3	多気町教育委員会	
亀山	井田川茶臼山古墳	一号石棺	刀子	6	○		井田川茶臼山古墳	1988	三重県埋蔵文化財センター	
伊賀	南山ノ奥６号墳	第４主体	刀子	40	○		南山ノ奥６号墳	1999	三重県埋蔵文化財センター	この他に第３・第４主体からも出土している
伊賀	南山ノ奥６号墳	第２主体	刀子	―	○		南山ノ奥６号墳	1999	三重県埋蔵文化財センター	005-08
伊賀	南山ノ奥６号墳	第４主体	直刀	41		○	南山ノ奥６号墳	1999	三重県埋蔵文化財センター	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	剣	3	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	直刀	6		○	昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	刀子	9	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	刀子	11	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	刀子	12	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	鑿状鉄製品	26	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	鑿状鉄製品	27	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	鑿状鉄製品	28	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	棒状鉄製品	29	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
伊賀	高猿６号墳	第１主体	棒状鉄製品	30	○		昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会	
鈴鹿	長法寺４号墳	第１主体	直刀	17	○		平成２年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告―第１分冊―	1991.3	三重県埋蔵文化財センター	鞘口
亀山	大垣内古墳	―	直刀	6	○		大垣内古墳発掘調査報告書Ⅰ	1997	亀山市教育委員会	紋様
松阪	狼谷古墳	―	剣	492			中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書	1990.3	松阪市教育委員会	
松阪	常光坊谷古墳	２号墳	刀子	495	○		中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書	1990.3	松阪市教育委員会	
松阪	川原表古墳	１号墳	直刀	531	○		中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書	1990.3	松阪市教育委員会	
志摩	白浜遺跡	(地蔵貝塚か)	直刀		○		古代学研究第５２号・志摩町史	1968		把縁・鞘口
伊賀	奥小波田古墳群	１号墳	刀子	―	○		上野新都市開発整備区域埋蔵文化財報告書―第4分冊―	1994.3	上野遺跡調査会	127-2
鈴鹿	経塚古墳	―	直刀			○	国鉄伊勢線関係遺跡調査報告	1966	鈴鹿市教育委員会	
嬉野	馬ノ瀬5号墳	第２主体	刀子		○		天花寺山	1991	一志町・嬉野町遺跡調査委員会	
安濃	平塚B-1号墳		刀子	10	○		平塚古墳群発掘調査報告書	1992	安濃町教育委員会	報告書には鉄鏃と記載
鈴鹿	加和良１号墳	第１主体	刀子	1	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	R-21
鈴鹿	加和良１号墳	第１主体	刀子	2	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	R-18
鈴鹿	加和良１号墳	第１主体	刀子	3	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	R-29
鈴鹿	加和良１号墳	第１主体	刀子	4	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	R-19
鈴鹿	加和良１号墳	中央棺内	刀子	―	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	
鈴鹿	加和良１号墳	第２主体	刀子	7	○		年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会	R-11
津	鎌切３号墳		刀子	27	○		年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会	
津	鎌切３号墳		直刀	32	○		年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会	
津	鎌切３号墳		刀子	(5本)	○		年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会	
津	稲葉古墳	１号墳	刀子		○		年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会	
津	稲葉古墳	３号墳	刀子		○		年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会	

第61表　鹿角装刀剣類・刀剣類隅抉茎県内類例一覧（２）

Ⅰ．細根系：13号墳埋１

形式の異なる細根系鉄鏃のみで構成されている。棺内北側出土の一群では、複数の三角形鏃と柳葉・腸抉柳葉鏃が各1本ずつ、棺内南側は片刃鏃のみという構成になっている。

Ⅱ．細根系＞広根系：９号墳埋２

多数の細根系鉄鏃と少数の広根系鉄鏃とを組み合わせて副葬するという、古墳時代後半によく見られる組成である。群ごとに織物を用いて束ねた状態で副葬されている。

Ⅲ．細根系＜広根系：10号墳埋１・２

複数の広根系鉄鏃に少数の細根系鉄鏃を組み合わせた構成となっている。広根系は数種類の形式が組み合わされている。

Ⅳ．単一形式：９号墳埋１・４、11号墳，ＳＸ350

１形式の鉄鏃のみで構成されている。このような構成は一般的だが、埋葬施設ごとに異なる形式が副葬されている点は興味深い。

以上のように分類することでいっそう明らかとなった、本古墳群における鉄族組成の特色をまとめることとする。

まず、Ⅰ類の13号墳埋１は、378・379のように頸部長大化という新しい要素を持った鉄鏃と、373のような両鎬造で柳葉鏃という古い要素を持った鉄鏃が共に副葬されており、この373には他とは違った位置付けがなされていると考えられる。

次に、Ⅱ類の９号墳埋２は、多数ある長頸鏃の形式に差異は見られないが、広根系鉄鏃の鏃身形式が各群ごとに異なる点に注目したい。広根系鉄鏃は鉄鏃の副葬儀礼において重要な役割を担っていると言えよう。更に、他の埋葬施設に同形式が存在し、166・174・197は10号墳埋２のそれぞれ302・303・301と、186はＳＸ350の840・841と対応しており、９号墳と他の埋葬施設の被葬者との間に密接な関係が築かれていたことが想定される。

Ⅲ類では広根系鉄鏃に特徴が見られる。10号墳埋１では289の圭頭鏃が副葬されているが、この形式は古墳時代中期以降、西日本を中心に出土が認められる。特に九州にその分布が集中しており、長頸鏃や三角形鏃とは系統を別にすることから、九州地方を中心とした勢力との交流を考えることができるだろう。10号墳埋２では305の短茎鏃が副葬されている。無茎・短茎鏃は古墳時代前期から中期にかけて盛行する形式である。しかし、出土土器から古墳の築造時期がＴＫ10型式段階と考えられ、共に副葬されている鉄鏃も後期に盛行する形式であることから若干の時期差があり、古式の鉄鏃の副葬という行為は副葬儀礼上特別な位置付けがなされていることが想定される。なお、この形式は９号墳埋２の上層群でも見られ、４群のうち出土層位の異なるこの群にのみ副葬されている点からもその特異性が表れているだろう。

Ⅳ類はごく一般的な副葬方法と言える。しかし、11号墳については出土位置が棺外であること、１本だけでしかも形式が圭頭鏃であることから、他埋葬施設とは性格が異なると考えられるだろう。

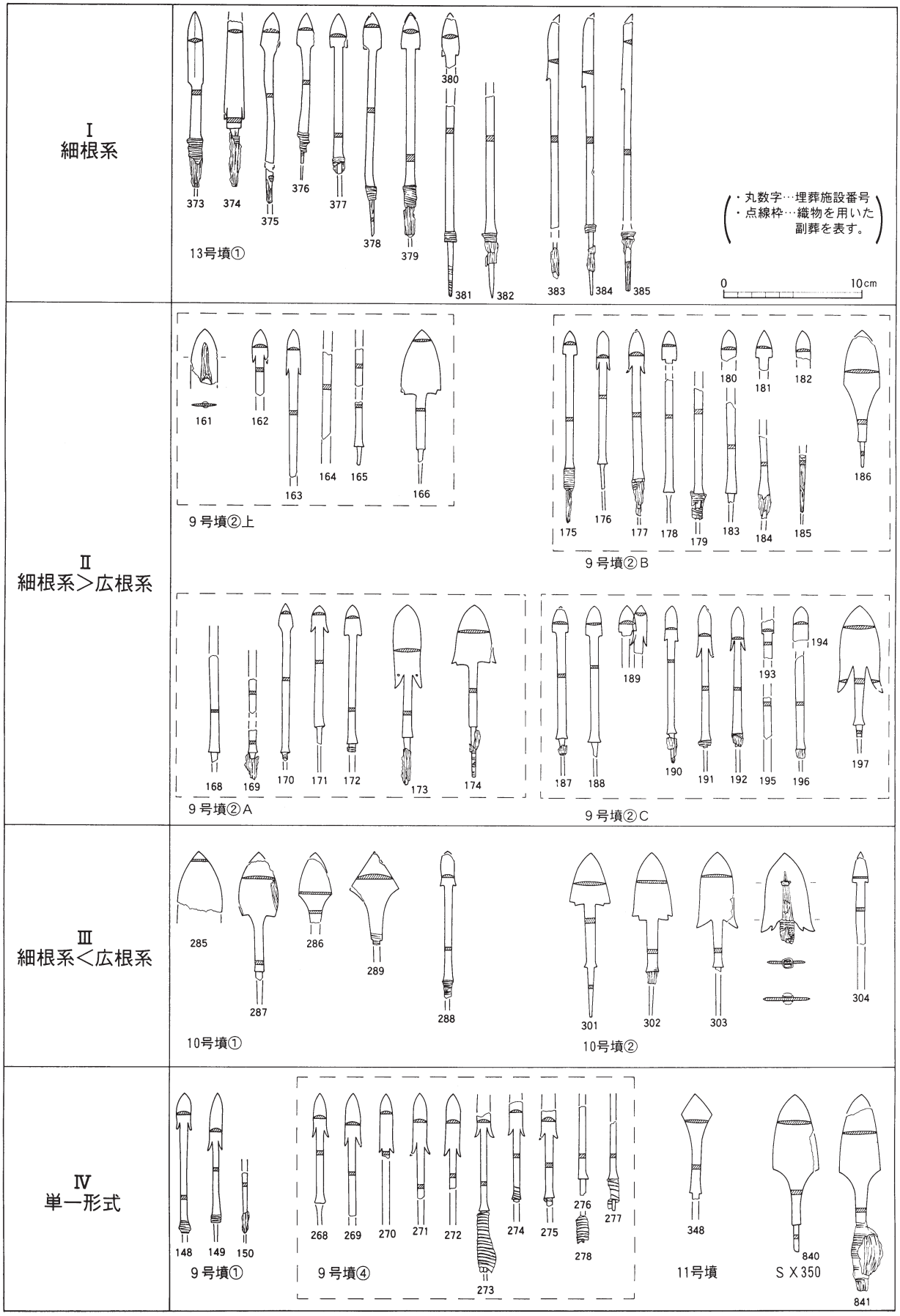
以上のように鉄鏃の形式や組成が異なる背景としては副葬年代の違いが当然考えられる。しかし、それ以外に被葬者の社会的地位や身分の違いといった要素も反映していることが想定される。

同一古墳群内において複数の鉄鏃組成が存在する本古墳群は、今後、古墳時代後期を中心とする時期の鉄鏃を研究する上で良好な資料となるであろう。

(山岡)

〔参考文献〕

⑴　池淵俊一「鉄製武器に関する考察」(『古代文化研究』第１号 1993年)
⑵　宇野慎敏「鏃子考」(『末永先生米壽記念獻呈論文集（乾)』1985年)
⑶　関義則「古墳時代後期鉄鏃の分類と編年」(『日本古代文化研究』第3号古墳文化研究会　1986年)



第98図　小谷古墳群鉄鏃組成分類図（1：4）

b　小谷13号墳出土の短甲の検討

小谷13号墳からは短甲をはじめ多くの鉄製品が出土したが、なかでも短甲は三角板鋲留短甲のなかでも珍しい形式のものである。ここでは本短甲の特徴を整理するとともに、編年的な位置付けと構造的な見地から本短甲の性格を検討したい[1]。

①　編年的位置付けについて

主だった特徴を挙げると、①両前胴開閉式である点。②蝶番金具は長釣壺式で、留金の形状は縦長楕円形で縦位に２箇所で鋲留するタイプのものである。③鋲頭径は５㎜程度、帯金幅は４㎝程である。④後胴竪上第３段の連結数は「11」である。⑤引合板との連結位置は滝沢分類[2]の「Ｂ－１類」に相当し、３枚締めを多用する点。などが挙げられよう。そのなかでも編年的位置を考慮する[3]にあたり重要とされる①③④⑤の諸属性について検討を加える。

まず、①の両前胴開閉式の三角板鋲留短甲の類例としては10例ほどが知られるが、その殆どが５世紀中期中葉から後葉に築造された古墳からの出土で占められており、鋲留短甲は時期が下るにつれ右前胴開閉式に収斂されていくことを考慮すれば、三角板鋲留短甲の中では古相の要素とみることができる。

また、本短甲は鉄板の連結に３枚締めが多用され、後胴竪上第３段の連結数が11と多い点、後胴の押付板上端部や裾板の形状がさほど曲線化が進んでおらず比較的直線状を呈するといった点で、比較的古相の要素をもつ。しかしながら、鋲頭径が５㎜と大型鋲の範疇に含まれることや、帯金の幅も４㎝前後とやや広く、地板の幅もやや狭い点など新しい要素も随所にみられ、省力化の一端がみうけられる。

以上①・③・④・⑤の諸属性から本短甲は、滝沢誠氏による型式分類[4]の「Ⅱａ式」に相当しよう。Ⅱａ式についてはＴＫ73～ＴＫ208型式に対応するとされ、共伴する長頸鏃や須恵器・埴輪とも対応する。また、両前胴開閉式の三角板鋲留短甲で長釣壺式の蝶番をもつ類例としては大阪府・黒姫山古墳出土の４号・６号短甲が挙げられる[5]のみで、珍しい例といえる。

②　蝶番と地板の配置について

小谷13号墳の短甲には長釣壺式と呼ばれる蝶番が採用されている。長釣壺式の蝶番金具については類例に乏しく、先に挙げた黒姫山古墳４・６号短甲[6]のほか、大阪府・野中古墳[7]、滋賀県雲雀山２号墳[8]、黒田長山４号墳[9][10]、静岡県・石ノ形古墳[11]、佐賀県夏崎古墳[12]例があげられるにすぎない。

また、長釣壺式に相当するものの中にも留金の形状はバラエティに富んでおり、図２のように分類できる。

Ａ類　円形で２鋲で固定するもの
Ｂ類　縦長の楕円形で２鋲で固定するもの
Ｃ類　三累環状を呈し３鋲で固定するもの
Ｄ類　隅丸の三角形を呈し２鋲で固定するもの
Ｅ類　爪形で３鋲で固定するもの

類例をみてみると、夏崎古墳の短甲は特殊な地板配置をもち、鋲留技法導入期の製品といえるため、類例中の最古例に相当すると考えられる。一方で小谷13号墳の留金は縦長の楕円形で、縦位に２箇所で鋲留するＢタイプのもので、京都府の宇治二子山古墳南墳出土の１号頸甲[13]に類例が認められる。

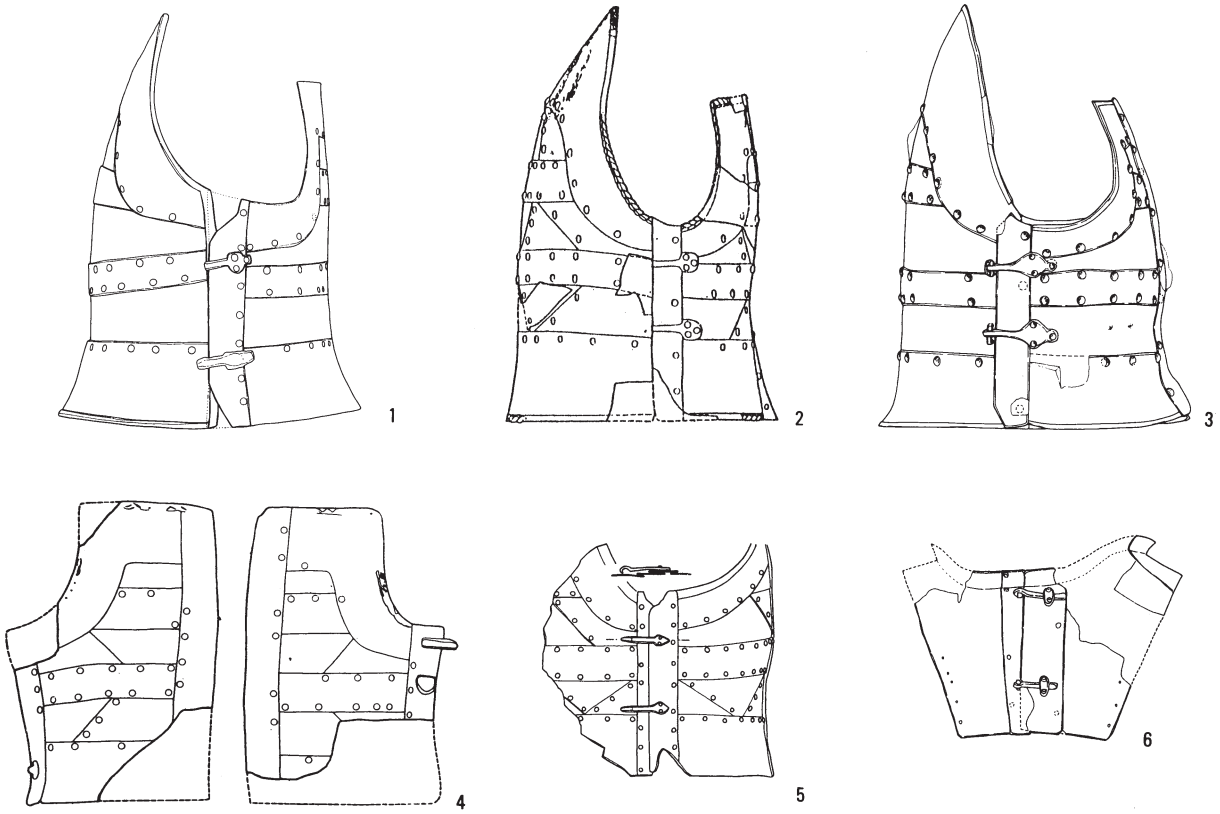
Ｃタイプは黒姫山古墳のほか横矧板鋲留短甲にも類例が確認でき、Ｄ・Ｅ類に関しては今のところ1例のみである。

長釣壺式の蝶番については、高橋氏が「この型式の蝶番金具自体は朝鮮半島南部に起源があり、日本に伝えられて短甲の製作に応用された後、故地の半島南部へ伝えられた」[14]との認識を示されている。朝鮮半島の類例の詳細が明らかになっていないため[15]、今後の資料の増加を待つほかないが、長釣壺式の蝶番にみられるこれらの留金の形態差は、製作工人の系統差ととらえることが出来よう。

前胴地板の配置は鈴木一有氏による菱形系統[16]に属する。菱形系統の短甲に関しては伽耶との関係が指摘されており、長釣壺式の蝶番とともに朝鮮半島との関連性が窺える要素といえる。

③　製作工人についての所見

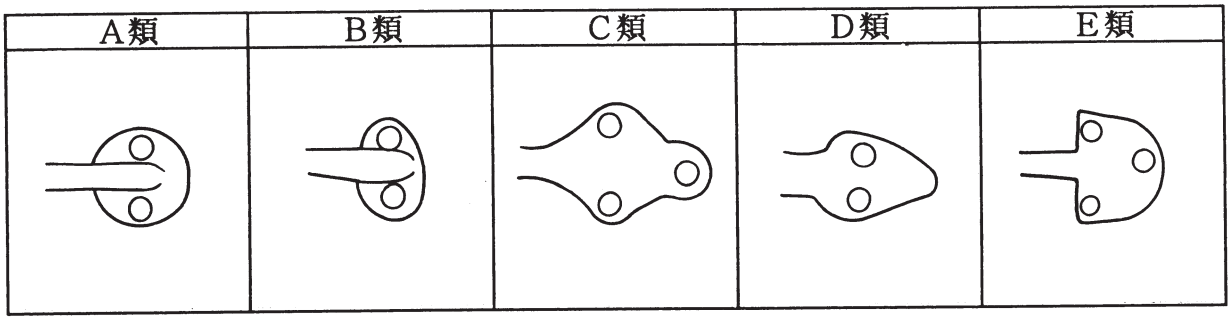
出土した短甲を観察した際、後胴竪上第２段の地板の上縁付近に径３㎜ほどの小孔が並んでいるのが確認出来た。小孔は鉄板の端部にまではみだして穿孔され、半円形になってしまったものもみられ、板の穿孔を失敗した痕跡であるとみられる。また、Ｘ線写真でみると地板の重ね幅にややバラツキがみられ、精巧に組み立てられたとはいえない。しかしな



第99図　長釣壺式蝶番をもつ類例　１．黒田長山古墳　２．雲雀山２号墳　３．石ノ形古墳　４．黒姫山古墳
５．野中古墳　６．宇治二子山古墳（南墳）（Ｓ＝１／８）

古墳名	都道府県	墳形・規模	形式	胴開閉	長釣壺	備考
黒姫山	大阪	前方後円墳　114m	三角板鋲留短甲	左右	C類	4号短甲
黒姫山	大阪	前方後円墳　114m	三角板鋲留短甲	左右	C類	6号短甲
野中	大阪	方墳　28m	三角板鋲留短甲	右	D類	7号短甲
雲雀山２号	滋賀	円墳　17m	横矧板鋲留短甲	右	E類	
黒田長山	滋賀	円墳　17m	横矧板鋲留短甲	右	C類	
小谷13号	三重	円墳　20m	三角板鋲留短甲	左右	B類	
石ノ形	静岡	円墳　約27m	横矧板鋲留短甲	右	C類	
夏崎	佐賀	円墳　(24)m	三角板鋲留短甲	左右？	A類	後胴X形帯金配置
宇治二子山	京都	円墳　20m	頸甲	―	B類	

第62表　長釣壺式蝶番をもつ短甲・頸甲一覧表



第100図　長釣壺式蝶番の留金の形状分類図

がら、先にも触れたとおり帯金と縦板（引合板・押付板・蝶番板）と地板の連結には３枚締めを多用している。綴孔は革綴では一致させる必要はないが、鋲留では一致させなければならず、一般的に３枚締めは手間がかかるものとされており、緻密さと粗雑さが混在しているのである。また、Ｘ線写真より、後胴の両脇の端部に孔列が確認できたが、革組覆輪を施すこともなく使用されていない点などを考慮すると、小谷13号墳の短甲は鋲留短甲の製作に技術的に未熟な工人によって製作されたものと推測される。本短甲は鋲留技法が導入され、定着していく段階に製作されたものであり工人の苦心のあとが窺える興味深い資料であるといえよう。

（豊田）

〔註〕

⑴　短甲については橋本達也、阪口英毅、鈴木一有の諸氏に多くのご指導・ご教示をいただいた。記して感謝いたします。

⑵　滝沢誠「鋲留短甲の編年」（『考古学雑誌』第76巻第３号 1991年）

⑶　滝沢氏による蝶番金具の分類には長釣壺式は挙げられていないため、編年的な位置付けを考える際の要素には含まない。

⑷　註⑵に同じ

⑸　未発表のデータであるが橋本達也氏と美原町教育委員会のご厚意により公表を承諾していただいたのに加え、実見する機会を得た。重ねて感謝いたします。

⑹　森浩一「河内黒姫山古墳の研究」（『大阪府文化財調査報告書第１輯』1953年）

⑺　北野耕平『河内野中古墳の研究』（大阪大学文学部国史研究室研究報告第２冊　1976年）

⑻　大阪市立大学文学部『大阪市立大学文学部歴史学教室紀要』第１冊（1953年）

⑼　田中勝広ほか『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ』（滋賀県教育委員会　(財)滋賀県文化財保護協会　1981年）

⑽　雲雀山２号墳、黒田長山４号墳の短甲については安土城考古博物館の阿刀弘史氏のご厚意により実見する機会を得た。記して感謝いたします。

⑾　白澤　崇（編）『石ノ形古墳』（袋井市教育委員会　1999年）

⑿　伊万里市歴史民俗資料館で実見した。

⒀　杉本宏ほか『宇治二子山古墳発掘調査報告』（宇治市文化財調査報告書　第２冊　宇治市教育委員会　1991年）

⒁　高橋工「東アジアにおける甲冑の系統と日本－特に５世紀までの甲冑製作技術と設計思想を中心に－」（『日本考古学第２号』日本考古学協会　1995年）

⒂　宋桂鉉氏は長釣壺蝶番をもつ短甲については韓国製の可能性があることを指摘されている。
　宋桂鉉「加耶古墳の甲冑の変化と韓日関係」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第110集　2004年）

⒃　鈴木一有「三角系短甲について－千人塚古墳の研究－（２）」（浜松市博物館館報Ⅷ』1996年）

c　埴輪について

小谷13号墳の墳頂からは円筒埴輪列を検出したものの、残存状況は悪く、全形を復元できた資料はなかった。しかしながら、家形埴輪や蓋形埴輪といった形象埴輪が出土し、おおむね使用された埴輪の概観は知りえた。古墳時代中期中葉～後葉に相当する資料は、伊勢においても数例を数えるのみで、本墳の埴輪は、当該期の埴輪の様相を考えるうえで貴重な資料であるといえる。

ここでは小谷13号墳の埴輪の特徴をまとめたうえでの編年的位置付けと、伊勢地域における中期中葉から後葉の円筒埴輪の特徴と、埴輪祭祀について検討する。

①　小谷13号墳出土埴輪の特徴

円筒埴輪　円筒埴輪は土師質と須恵質ではないものの硬質のものが併存し、わずかながら黒斑の認められる破片もみられるなど、野焼きから窖窯焼成への過渡期を示すものといえよう。口縁部端部は屈曲し、タガも台形を呈するなどやや古い要素を残しており、器面調整にＢ種ヨコハケが使用されているものの、部分的に使用されるのみで静止痕は判然としない。これらの諸要素と墳頂から出土した須恵器が、田辺昭三氏による編年[1]のＴＫ216型式に併行するとみられることから、以前、筆者の提示した編年[2]の４期（川西編年Ⅵ期[3]に併行）に相当すると考えられる。

蓋形埴輪　蓋形埴輪は少なくとも４個体は並べられていたとみられる。しかし、笠部の表現[4]は個体差がみられる。形態は立ち飾りをもつものの笠部が扁平で、笠部の中央突帯が省略されるなど新しい要素が多いことからも４期で相違ないであろう。当該期に築造される弥三郎新畑Ａ号墳、神前山１号墳の蓋形埴輪と比較すると笠部が扁平な点は共通するものの笠部の線刻表現は個々に異なるため、系譜は異なる。

家形埴輪　家形埴輪は、妻部に突帯を貼り付け、束柱や梁を表現するなど細かい細工がみられるものの、棟木・桁などが表現されず、束と考えられるものの一方が突帯でなく沈線で表現されるなどやや具体性を欠く部分が多い。家形埴輪については建築的造形と埴輪特有の造形との区別について明確な判断材料が乏しいため、不確定の要素が多く、家形埴輪が当

時の建物の全てを表現しているわけはないとの想定[5]がなされており、小谷例についても、部材表現の推定を行ってはみたが、不自然な表現がみられ不確定の要素は多い。

また、屋根部の整形技法は屋根部の中央部の内面に方形状の粘土紐の凹凸が確認できることから青柳泰介氏による分類の「閉塞Ｂ技法」が用いられている[6]。この技法は５世紀代に全国的にみられる技法であるとされる。

②　伊勢地域の中期中葉～後葉の円筒埴輪との比較

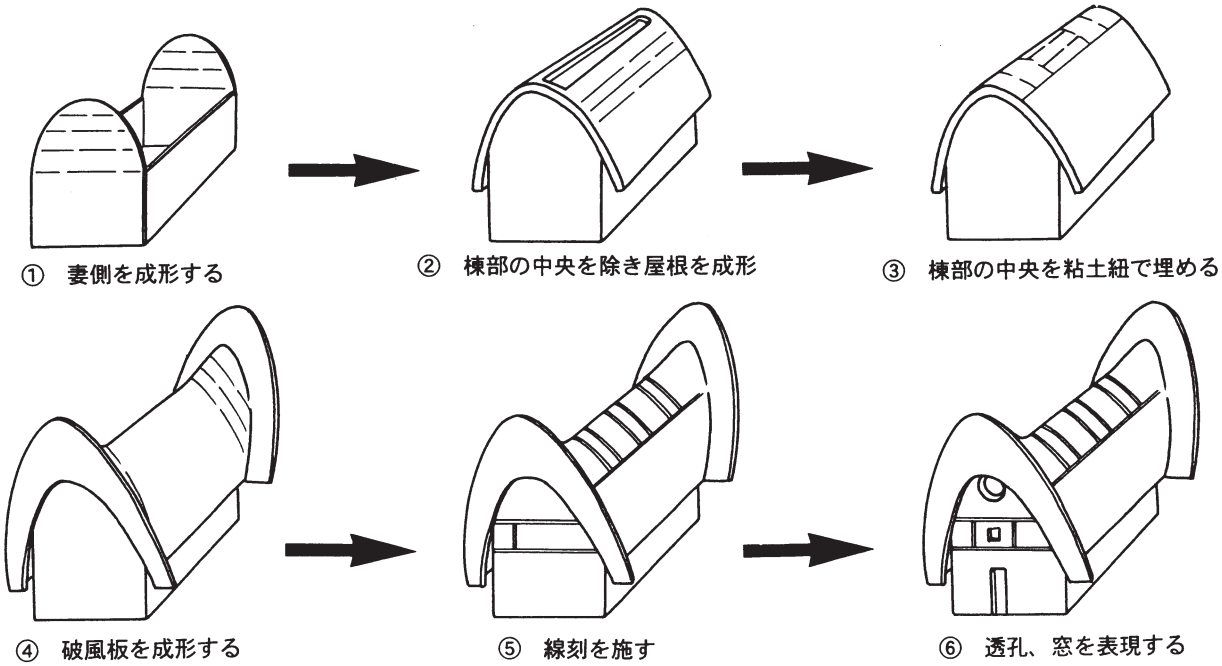
伊勢地方において古墳時代中期中葉～後葉に相当する埴輪をもつ古墳は小谷13号墳のほか南勢では神前山１号墳[7]・八重田16号墳[8]、弥三郎新畑Ａ古墳[9]が挙げられる。

神前山１号墳の円筒埴輪は口縁部端部が屈曲し、外面調整はタテハケが主体であるが、部分的にヨコハケを施す。しかし、Ｂ種ヨコハケはほとんど採用されていない。八重田16号墳のものは、資料数は僅かであるが、口縁部に屈曲を有し、タテハケ主体で一部ヨコハケの使用が確認出来る。また、朝顔形埴輪のくびれ部には突帯を三角状に貼り付ける。弥三郎新畑Ａ古墳の円筒埴輪は、口縁部がやや屈曲部し、外面調整には部分的にＢ種ヨコハケを採用している。このように類例は限られるが古墳時代中期後葉の小型古墳の埴輪をみてみると、突帯の間隔や器高に強い規格性は認められず、製作技法についても共通性に乏しい。しかしながら、口縁端部の屈曲がこの段階までは根強く残ることが大きな特徴であり、端部の屈曲が消失する５期の埴輪とは明確に区別される。

③　壺形埴輪を用いた埴輪祭祀について

小谷13号墳では円筒・朝顔形埴輪や器財埴輪の他、小片ではあるが二重口縁壺形埴輪と伊勢型二重口縁壺の系譜を引くと考えられる土師器の破片が共伴していることが判明した。これにより、伊勢型二重口縁壺が中期後葉まで残存することが明らかとなった。

中・南勢地域は古墳時代前期から壺形埴輪を用いた祭祀が色濃く見られる地域として知られる。小谷古墳群の所在する天花寺丘陵でも古墳時代前期より丘陵北西部の西野７・８号墳[10]、丘陵北側に位置する堀田遺跡[11]において、県内で最古級の円筒・朝顔形埴輪と底部穿孔の二重口縁壺が併伴して出土しており、伊藤裕偉氏はその製作技法の検討から在来的な手法による二重口縁壺と外来的な要素を含む朝顔形埴輪が共存していることの重要性を指摘[12]されている。古墳時代中期初頭になると中勢では類例が確認されていないものの、南勢では宝塚１号墳において大量の円筒・器財・形象埴輪が樹立されるなか、近畿地方にみられるような鍔付きの壺形埴輪が存在する一方で、造り出しの一部に伊勢型二重口縁壺の



第10図　家形埴輪製作工程模式図　（青柳 1995 を参考に作成）

系譜を引く壺形埴輪のみが列状に樹立されており、二重口縁壺を用いた伝統的な祭祀に対する執着が窺える。小谷13号墳の壺形埴輪に関しては、出土量は微量であり、要所に樹立[13]されたものと考えられるが、雲出川から阪内川にかけての一帯では前期以来二重口縁壺形埴輪を用いた祭祀を重視しておりその伝統は中期後葉まで存続していたのである。

④　埴輪祭祀について

甲冑をもつ古墳の被葬者に関しては中央政権との直接的な関連が指摘されることが多い。しかしながら、13号墳出土埴輪を見る限り、形態や製作技法から近畿地方との関連性は積極的には見出せない。また、壺形埴輪や二重口縁壺を用いた旧来からの祭祀も残存しており、短甲を保持していたとはいえ、埴輪に関しては、近畿からの情報は希薄である。

甲冑を出土する古墳でもそこで採用される埴輪については近畿地方からの情報を欠く事例があることが鈴木一有氏によって指摘[14]されている。中央政権が甲冑を配布し中小古墳の被葬者を直接的に掌握したとみるのであれば、より近畿色の強い埴輪が導入されても不思議はない。埴輪の祭祀に地域色がみられる点に関しては、中央政権との関わりが希薄であったのか、中央政権側が祭祀形態にまで介入できなかったのか、慎重に検討していかねばならない。今後は甲冑出土古墳における埴輪祭祀の多様性についても積極的に評価する必要がある。　　(豊田)

〔註〕

(1)　田辺昭三『須恵器大成』(角川書店　1981年)

(2)　豊田祥三「伊勢における円筒埴輪生産」(『研究紀要　第10号』三重県埋蔵文化財センター　2000年)
　ここでは、川西編年に対応するかたちで編年案を提示したが、今後、より細緻な検討が必要であると考える。

(3)　川西宏幸「円筒埴輪総論」(『考古学雑誌』第64巻第２号　1978年)

(4)　松木武彦「蓋形埴輪」(『鳥居前古墳』大阪大学考古学研究室　1990年)

(5)　青柳泰介「家形埴輪のモデルについて」(『季刊考古学　第79号　埴輪が語る古墳の世界』雄山閣　2002年)

(6)　青柳泰介「家形埴輪の製作技法について」(『日本の美術348』至文堂　1995年)

(7)　下村登良男『神前山1号墳発掘調査報告』(明和町教育委員会　1973年)

(8)　下村登良男『八重田古墳群発掘調査報告書』(松阪市教育委員会　1981年)

(9)　下村登良男「弥三郎新畑Ａ古墳」(『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』松阪市教育委員会　1990年)

(10)　山崎恒哉・稲本賢治「西野7号墳」(『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告』第３分冊４　三重県埋蔵文化財センター　1991年)
　伊勢野久好編『天花寺山』(一志町・嬉野町遺跡調査会　1991年)

(11)　伊藤裕偉ほか『堀田　第３～５次調査』(三重県埋蔵文化財センター　2002年)

(12)　註(11)に同じ

(13)　福田哲也ほか『松阪　宝塚１号墳調査概報』(松阪市教育委員会編　2001年)

(14)　鈴木一有「遠江における中期前半の埴輪」(『五ヶ山Ｂ２号墳』静岡県磐田郡浅羽町教育委員会　1999年)

附　編

保存処理について

山岡奈美恵

はじめに

金属製品は長い間土中にあったために錆びてしまい非常に脆くなっている。そのまま大気中に放置しておくと変形、変質を起して崩壊してしまうおそれがあるので、将来に渡りそれが起こらないようにする措置が必要である。

小谷古墳群から出土した金属製品は、㈶元興寺文化財研究所に委託して保存処理を実施した。

本章では、㈶元興寺文化財研究所からの報告を基に、保存処理の工程についての報告を行うこととする[1]。

処理工程

短甲

１．遺物の取り上げ

検出時に後胴中央を大きく欠損してしまったため、そのままの状態では取り上げの際に崩壊してしまう恐れがあった。そこで欠損部周辺の亀裂をセルロース系接着剤[2]で補強し、できるだけ土を除去した状態で取り上げ、センター内において残りの土の除去作業を行った。この際に後胴中央欠損部の補強も合わせて行い、養生用のネットをアクリル樹脂[3](20%キシレン溶液)で塗布して貼り付けた（図版76)。

２．保存処理

（１）保存処理前調査

図版76　短甲の養生作業

処理前の状態を写真や実測図で記録し、合わせてＸ線写真を撮影して状態の把握を行った。なお、撮影は以下の条件で実施された。

装置	Ｘ線透過試験装置
	(フィリップス社) MG225
フィルム	Fuji X-ray film Ix100
増感紙	LF0.03
焦点フィルム間距離	100cm

第63表　Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)

（２）前処置

革覆輪部分について、処理中の欠損を防ぐためアクリル樹脂[3](13%キシレン溶液)を３回塗布して強化した。

（３）第１次クリーニング

表面に付着する土や錆などをニッパー、メス、エアブラシ[4]、小型グラインダー[5]等を用いて除去した。

特に脆弱な箇所や有機質の付着している箇所等についてはこの時点で無理にとらず、樹脂含浸を行って強化させた後、再度クリーニングを行うこととした。

この作業の際に、非常に硬い錆を除去するためにグラインダーを使用していて、誤って後胴中央の三角板の角部分を削り過ぎてしまっている。この部分についてはエポキシ樹脂[10]を用い、欠損前の状態に正確に復元した。

（４）保護材の取り付け(養生)

ポリエチレン製のネット[6]とステンレス製の薄板を取り付けて養生をした。

（５）洗浄

有機溶剤(アルコール・キシレン・酢酸エチルの混合液)に浸漬して表面に付着する不純物や油分を除去した。

（６）脱塩処理

セスキカーボネイト法による脱塩を行った。この方法は、弱アルカリ性であるセスキカーボネイト(炭酸ナトリウムと炭酸水素ナトリウムの混合物)１%水溶液中に遺物を浸漬し、錆の原因となる塩化物イオンを除去する方法である。１週間に１回の割合で溶液中の塩素濃度を測定し、新しい溶液に交換した。処理には約４ヶ月を要した。

（７）樹脂含浸

遺物強化と防錆のために、フッ素系アクリル樹脂[7](25%ナフサ液）による減圧含浸を1回実施した。

（８）第２次クリーニング

第１次クリーニングで除去出来ていなかった錆等の除去を行った。

図版77　短甲後胴地板接合状況

図版78　短甲後胴地板接合・補填状況

（９）樹脂含浸

前述の方法を２回実施した。

(10)接合・復元

シアノアクリレート系接着剤[8]、エポキシ系接着剤[9]を用いて接合した。また、空隙部分や欠損部には質感をより金属に近づけるため、通常とは違うエポキシ系樹脂[10]を使用して充填した。後胴部分については、地板の構成パターンを基に三角板の形を復元し、鋲は本来の部分と区別をするために、復元を行なわないこととした（図版77・78)。

(11)樹脂塗布

外気との接触を少なくして防錆効果を強めるために、含浸時の２倍に薄めた樹脂を２回塗布した。

(12)彩色

復元部には水溶性アクリル絵具[11]を用い、遺物本体と違和感のない程度に補彩を施した。なお、前述の削り過ぎ部分については、現存箇所に出来る限り似せて彩色を施して、復元部と区別した。

(13)処理後調査

上記の工程が終了した後、一定期間遺物の経過観察を行い、異常が認められなかったので写真撮影による記録を行った。

３．展開Ｘ線写真撮影

構成板の形や組合せ方、重なり具合等、短甲の構造を研究するうえで重要となる情報は肉眼では捉えにくく、Ｘ線写真に頼るところが多い。しかし、短甲のように曲線を描いている遺物の場合、通常の撮影方法ではフィルムの両端に歪みが生じて不鮮明な画像となってしまい、必要な情報を得ることが困難である。そこで、この歪みをなくして、より多くの情報を引き出す為に展開Ｘ線撮影を行なった。これは、発生源にスリットを装着して、通常扇形に照射されるＸ線を数㎜幅に抑え、フィルムを遺物内側に密着させて貼り付けた後、遺物を回転台に置いて、回転させながら照射していく方法である。今回の撮影ではスリット幅を2.0㎜に設定し、回転の速度は遺物の直径とフィルムのサイズに応じて調節を行ない、フィルム全面に撮影されるようにした。

撮影は、装置を所有する奈良大学において以下の条件で行なった（第64表)。

撮影は数回に分けて行ない、撮影箇所に応じて通常サイズ(四つ切)とその1/2サイズのフィルムとを使い分けた。各フィルムの撮影条件は別表の通りである（第65表)。

この撮影方法により、特に両脇部分について通常よりも鮮明な画像を得ることが出来た。また、フィルムを繋ぎ合わせると、短甲の構成を平面的に見る

ことが可能となり、理解し易くなった。

装置	工業用携帯式Ｘ線装置
	(理学社)
	Radioflex 250EG-S２
フィルム	Fuji X-ray film Ix80
電流	５mA
焦点フィルム間距離	100㎝

第64表　Ｘ線透過撮影条件（奈良大学）

№	部位	電圧(kv)	時間(分)	備考
1	前胴	140	7.0	焦点間距離＝90㎝
2	右脇～右前胴(下)	150	7.0	フィルム1/2
3	右脇(上)	170	6.3	フィルム1/2
4	右脇(下)	160	7.0	フィルム1/2
5	後胴押付板(右)	150	4.0	
6	後胴中央	150	8.5	
7	後胴中央～右脇	140	7.0	未照射部分有り
8	後胴押付板(左)	150	4.0	
9	左脇(上)	150	7.0	フィルム1/2
10	左脇～後胴中央	140	7.0	
11	左脇(下)	150	7.0	フィルム1/2
12	左脇～左前胴	150	7.0	フィルム1/2

※回転数＝1400

第65表　展開Ｘ線透過撮影条件（奈良大学）

短甲以外の鉄製品

１．遺物の取り上げ

９号墳出土の鹿角装刀子については、発見時は湿潤で安定した状態だったが実測等の作業を行なっている間に乾燥し始め、崩壊する恐れがあったので、アクリル樹脂[3](10%アセトン溶液)を２～３回塗布して強化した後に取り上げを行なった。

２．保存処理

（１）保存処理前調査

処理前の状態を写真や実測図で記録し、合わせてＸ線写真を撮影して状態の把握を行った。なお、撮影は以下の条件で実施された。

装置	Ｘ線透過試験装置
	(フィリップス社) MG225
フィルム	Fuji X-ray film Ix100
増感紙	LF0.03
焦点フィルム間距離	100㎝

第66表　Ｘ線透過撮影条件(元興寺文化財研究所)

（２）前処置

木質や鹿角装等の有機質の部分について、処理中の欠損を防ぐためアクリル樹脂[3](13%キシレン溶液)塗布による強化を行い、鹿角には５回塗布を行った。

（３）第１次クリーニング

表面に付着する土や錆などをニッパー、メス、エアブラシ[4]、小型グラインダー[5]等を用いて除去した。

特に脆弱な箇所や有機質の付着している箇所等については、この時点で無理にとらず、樹脂含浸を行って強化させた後、再度クリーニングを行うこととした。

（４）保護材の取り付け(養生)

ポリエチレン製のネット[6]で網かごを作製し、その中に遺物を１点ずつ水糸で固定した。

（５）洗浄

有機溶剤(アルコール・キシレン・酢酸エチルの混合液)に浸漬して表面に付着する不純物や油分を除去した。

（６）脱塩処理

セスキカーボネイト法による脱塩を行った。１週間に１回の割合で溶液中の塩素濃度を測定し、新しい溶液に交換した。処理に要した期間は鹿角装刀子：約2.5ヶ月、その他：約3.5ヶ月である。

この工程中に、９号墳埋葬施設１・２出土の鹿角装刀子５点の鹿角部分が褐色化し、一部が崩壊してしまっている。いずれも出土時の状態は非常に良く、鹿角の質感・色合いが良く残っていたのだが、これにより鹿角らしさが損なわれてしまった。

これら、変色・崩壊の原因として次のようなことが考えられる。褐色化については、鉄部分が処理中に溶解して鹿角部分に染み込んだと考えられる。残存状態は良好であるように見えたが、内部では劣化が進み、細胞が空洞化したような状態になっていて、鉄分が溶解した脱塩液が染み込み易くなっていた可能性がある。鹿角の崩壊については、脱塩液の交換に伴う乾燥と湿潤の繰り返しが負荷を与えてしまった可能性が考えられる。

（７）樹脂含浸

遺物強化と防錆のために、フッ素系アクリル樹脂[7](25%ナフサ液)による減圧含浸を１回実施した。

（８）第２次クリーニング

第１次クリーニングで除去出来ていなかった錆等の除去を行った。

（９）樹脂含浸

前述の方法を２回実施した。

(10) 接合・復元

シアノアクリレート系接着剤[8]、エポキシ系接着剤[9]を用いて接合した。また、空隙部分や欠損部にはエポキシ系樹脂[12]を充填した。

(11) 樹脂塗布

外気との接触を少なくして防錆効果を強めるために、含浸時の２倍に薄めた樹脂を２回塗布した。

(12) 彩色

復元部には水溶性アクリル絵具[11]を用い、遺物本体と違和感のない程度に補彩を施した。

(13) 処理後調査

上記の工程が終了した後、一定期間遺物の経過観察を行い、異常が認められなかったので写真撮影による記録を行った。

竪櫛

１．取扱いについて

竪櫛は竹ヒゴと漆膜から構成されているので、本来ならば木製品として処理を行なうのだが、今回鉄鏃に銹着した状態で出土した為、金属製品用の保存処理を行なった。

２．保存処理

（１）保存処理前調査

処理前の状態を写真や実測図で記録し、合わせてＸ線写真を撮影して状態の把握を行った。なお、撮影は以下の条件で実施された。

装置	Ｘ線透過試験装置
	(フィリップス社) MG225
フィルム	Fuji X-ray film Ix100
増感紙	LF0.03
焦点フィルム間距離	100㎝

第67表　Ｘ線透過撮影条件（元興寺文化財研究所）

（２）前処置

有機質の部分について、処理中の欠損を防ぐためアクリル樹脂[3] (13%キシレン溶液)塗布による強化を行なった。

（３）第１次クリーニング

表面に付着する土や錆などをニッパー、メス、エアブラシ[4]、小型グラインダー[4]等を用いて除去した。

特に脆弱な箇所についてはこの時点で無理にとらず、樹脂含浸を行って強化させた後、再度クリーニングを行うこととした。

（４）保護材の取り付け(養生)

ポリエチレン製のネット[6]で網かごを作製し、その中に遺物を水糸で固定した。

（５）洗浄

有機溶剤(アルコール・キシレン・酢酸エチルの混合液)に浸漬して表面に付着する不純物や油分を除去した。

（６）脱塩処理

セスキカーボネイト法による脱塩を行った。１週間に１回の割合で溶液中の塩素濃度を測定し、その都度新しい溶液に交換した。処理に要した期間は約3.5ヶ月である。

この工程中に漆膜部分が細片化し、一部については粉状に崩壊してしまった。この原因としては、処理期間の長期化、脱塩液のアルカリ性及び加温による漆膜の脆弱化、処理時の乾燥と湿潤による負荷が考えられる。

漆膜等の有機質は加温や脱塩液のアルカリ性に非常に弱いため、加温を避けたり、処理期間を短縮する、脱塩処理を行なわない、といった通常とは異なる取扱いが必要である。

（７）樹脂含浸

遺物強化と防錆のために、フッ素系アクリル樹脂[7](25%ナフサ液)による減圧含浸を１回実施した。

（８）第２次クリーニング

第１次クリーニングで除去出来ていなかった錆等の除去を行なったのだが、この際に状態の変化に気づいた。

（９）接合・復元

残存していた漆膜部分のうち50%近くの部分が細片化していた。そこで、シアノアクリレート系接着剤[8]、エポキシ系接着剤[9]を用いて、可能な限り破片の接合を行ったが、全体の約40%程しか復元できなかったため、欠損部分をエポキシ系樹脂[12]で復元、

整形した。(図版79)

図版79　竪櫛補填修復状況

(10) 樹脂塗布

外気との接触を少なくして防錆効果を強めるために、含浸時の２倍に薄めた樹脂を２回塗布した。

(11) 彩色

復元部には水溶性アクリル絵具[11]を用い、遺物本体と違和感の無い程度に補彩を施した。

保存処理工程

処理前調査
↓
第１次クリーニング
↓
保護材の取り付け(養生)
↓
脱　塩
↓
樹脂含浸(１回実施)
↓
第２次クリーニング
↓
樹脂含浸(２回実施)
↓
接合・復元
↓
樹脂塗布(２回)
↓
彩　色
↓
処理後調査

(12) 処理後調査

上記の工程が終了した後、一定期間遺物の経過観察を行い、異常が認められなかったので写真撮影による記録を行った。

おわりに

以上のような工程で保存処理が行なわれ、出土時とは比較にならないほど、形状が本来の姿に近づき理解し易くなると同時に、保管・展示に耐え得る強度を備えて現状を維持することが可能となった。

しかし、保存処理を行なえば錆化や変形、崩壊を完全にくい止められるという訳ではなく、その速度を緩やかにする措置であるのだということを忘れてはならない。処理後の取扱いが悪ければ錆化等の進行は促進されてしまうため、遺物に悪影響を及ぼす急激な温度の変化や湿度の上昇がないよう、展示・保管環境には充分な注意が必要である。

〔註〕

(1) 本報告文の作成にあたり下記の文献を参照した。
- 増澤文武・石川恵美（『団子塚九号墳出土遺物保存処理報告書』袋井市教育委員会・(財)元興寺文化財研究所　1994年）
- 尾崎誠「岸和田市風吹山古墳出土金属製品の保存処理」（『創立30周年記念誌　1967～1997』(財)元興寺文化財研究所　1997年）

(2) セメダインＣ　セメダイン社
(3) パラロイドＢ－72　Room ＆ Hass社
(4) パワーブラスト50N　岡本歯研
(5) ミニター　ミニター社
(6) ダイオネット　ダイオ化成
(7) Ｖフロン液マイルドクリア　(株)大日本塗装
(8) セメダイン3000ＲＳ　セメダイン社
(9) セメダインハイスーパー　セメダイン社
(10) アラルダイトＸＮ－6504　チバ・スペシャルティケミカルズ(株)
(11) アクリラ　ホルベイン社
(12) アラルダイトＳＶ426　チバ・スペシャルティケミカルズ(株)

鉄製品付着の織物について

山岡奈美恵

小谷古墳群では、９号墳や13号墳出土の鉄製品に織物の付着やその痕跡が認められた。特に９号墳埋葬施設２は良好で、数点については立体的に残存していた。付着の状況は第68表に示す通りである。

しかし残念ながら、これらは織物内に鉄錆の成分が染み込み、かろうじて形を保っているだけで本来の織物の成分は失われてしまっている。このため、織物の原料を割り出すことは不可能であるが、織の構造や構成糸の寸法などを調べることは可能である。そこで、特に残りの良かった９号墳埋葬施設２出土鉄鏃に付着の繊維製品について、顕微鏡写真を撮影して詳しい調査を行なった。今回使用した装置は以下の通りである。

＊実体顕微鏡　SZ6045TR（OLYMPUS社）

＊全自動顕微鏡写真撮影装置 PN10SP(OLYMPUS社)

１　観察結果（図版80）

鉄鏃164

織物そのものは残っていないが、目の細かい織物痕が認められた。構成糸の径0.1～0.2㎜、織密度は25×25の平織である。錆化が著しいため明瞭ではないが糸に撚りはないものと思われる。

鉄鏃166・167

付着片167のように織物が錆化した状態で残存していた。構成糸の径0.8～1.0㎜、織密度は10×10の平織である。目が粗くざっくりとした感じの織物で糸に撚りが見られる。

鉄鏃168

構成糸の径約0.7㎜、織密度は10×10の目の粗い平織である。糸には撚りが見られる。

鉄鏃170・171

織物が錆化して立体的に残存している。構成糸の径は0.4～0.6㎜、織密度は15×15の平織である。糸には撚りが見られる。170と171は重なり合った状態で出土しているので、同一製品と見て間違いないだろう。

鉄鏃174

織物が筒状になって残存している。構成糸の径は約0.8㎜、織密度は10×10の平織である。糸に撚りが見られる。

鉄鏃178

織物が錆化して立体的に残存している。構成糸の径約0.1㎜、織密度は25×20の平織である。非常に目が細かく詰まっている。糸に撚りは見られない。

鉄鏃181

表面に白色付着物があり、その上にわずかに痕跡が見られる。構成糸の径約0.5㎜、織密度は15×10であると推定される。目の粗い平織である。

鉄鏃194

構成糸の径約0.1㎜、織密度は25×25の平織で非常に目が細かい。糸に撚りは見られない。今回発見された中で最も目が細かい織物である。

鉄鏃196

構成糸の径約0.1㎜、織密度は25×20の平織で目が細かく糸に撚りは見られない。178と織密度や構成糸の径がほぼ同じなので同一の織物だと思われる。

２　考察

観察結果から副葬された織物について若干の考察を試みる。

まず織物の種類についてだが、撚りが見られないことから164・178・194・196は絹製品、166・168・170・171は撚りが入っていることや構成糸の径から、麻布等の植物繊維製品だと考えられる。絹製品については、織密度が若干異なるので、複数の織物が存在する可能性があると言える。

次に用途についてだが、ほとんどの鉄製品について両面に織物痕が見られることから、被葬者の衣服や棺全体を覆うための織物と考えるのは不自然である。また、171にはひだ状に付着していること、複数の種類の織物が使用されていること等から推察すると、数本の鉄鏃を一単位として束ね、刀子も単独

か数本をまとめた状態にして、麻製の布袋に納めたり布にくるんだりして副葬するのに使用されたのではないだろうか。

絹製織物については、付着点数が少なく、その付着鉄製品の出土位置を検討してみたが何らかの規則性を見出すことができなかった。可能性としては、部分的に覆う布として使用したことや、紐のような使い方をされたことが挙げられるだろう。

3　県内古墳出土の鉄製品付着織物

現在、織物の付着が認められる県内古墳出土の鉄製品は、筆者が確認出来ているもので34例を数え、そのうちの４点は布ではなく紐である。多くは報告書などで報告されているが、今回実見して新たに発見された遺物もあった。中にはわずかに痕跡しか残っていないものもあるが、９例については織物が立体的に銹着しており、構成等を観察することが出来た。各々の織密度は第69表を参照されたい。ほとんどの報告について織密度等の詳細が記述されておらず、繊維製品の写真も記載されていないため得られる情報が少ないのが残念である。

実見して調査を行なった昼河Ａ－１・Ａ－３号墳、南山ノ奥６号墳をみてみると、いずれも９号墳埋葬施設２と同様、目の粗い織物と細かい織物がともに使用されており、その割合は粗い方が多い。特に鉄鏃に使用例がよく見られ、出土状況をみると一ヶ所に固まっている場合が多いことから、数本を一単位として束ねた鉄鏃を織物でくるむか布袋に納めて副葬した状況を推察することができるだろう。刀剣については、把部分にすべり止め材や装飾として紐を何重にも巻きつけて使用した例が多いようである。

4　結語

今回、小谷９号墳おいて繊維製品が良好な状態で銹着し、その観察を行うことが出来た。その結果、平織で植物繊維製と絹製と思われる織物が使用され、絹製については数種類あった可能性があることが分かった。

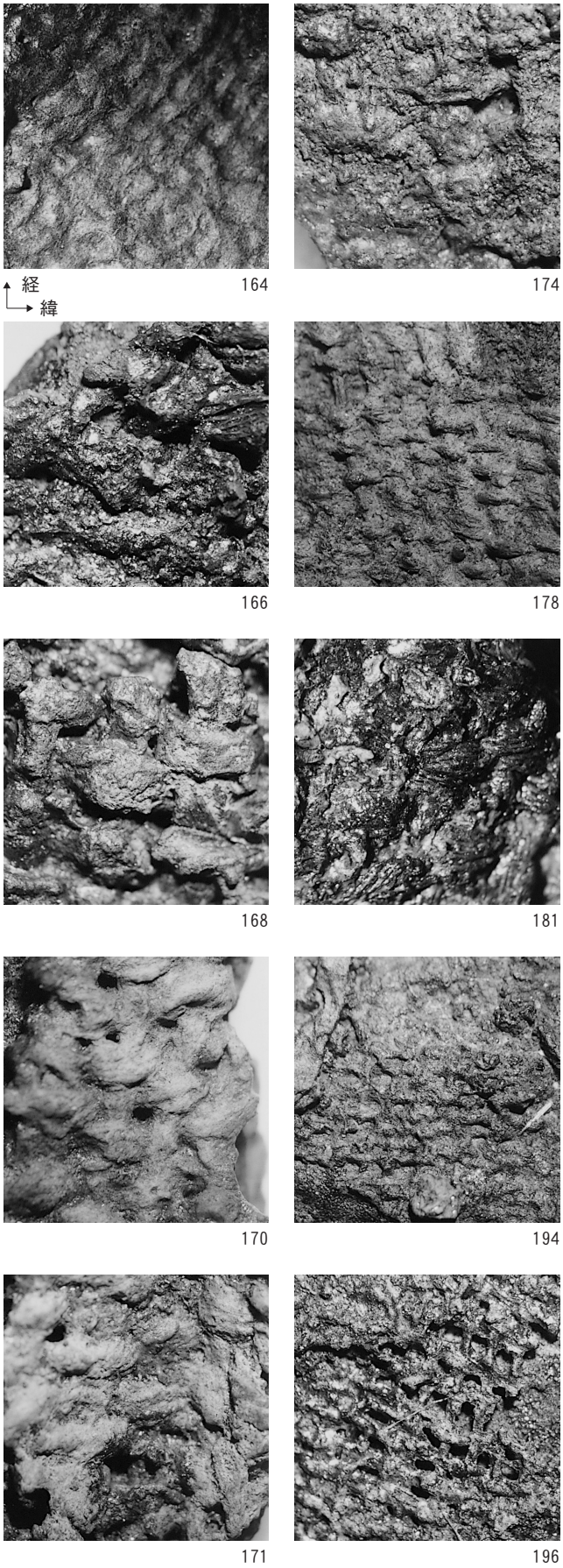
織物のような有機質そのものが残存することは稀だが、その痕跡や形状が銹着している事例は珍しいことではないようである。ただ、認識はされていても詳細調査がなされていなかったり、見落とされてしまっているケースが多く、有効に活用されていない資料が多いのは非常に残念である。調査をすることにより、当時使用されていた織物についての解明がなされるだけでなく、ひいては副葬方法の復元にもつながるであろうし、その資料価値は高いと考える。今後調査事例が増えることを期待したい。

〔註〕

「織密度」とは織物を相対的に比較するための方法で1㎝間に収まる糸本数を表し、「経糸×緯糸（本/㎠）」と表記する。

〔参考文献〕

・　角山　幸洋「Ⅻ繊維－織物・組紐－」(『斑鳩　藤ノ木古墳第２・３次調査報告書』・奈良県立橿原考古学研究所　1993年)
・　立花　るり子「古墳時代の布帛１「アヤ」『大阪文化財研究』第15号　㈶大阪府文化財調査研究センター　1998年)



図版80　織物顕微鏡拡大写真（×10）

〈埋葬施設１〉

No.	遺物名	織密度		付着位置		備考
		経(本)	緯(本)	表	裏	
147	鹿角装刀子	10	10		○	刃に沿って錆着

〈埋葬施設２〉

No.	遺物名	織密度		付着位置		備考
		経(本)	緯(本)	表	裏	
156	鹿角装刀子11	10	10	○	○	
154	鹿角装刀子14	8	8	○	○	
157	鹿角装刀子16	6	6	○		
155	鹿角装刀子45	10	8	○	○	
163	鉄鏃１	10	10	○		
164	〃２※	25	25	○	○	細Ⅱ
162	〃３	10	10	○	○	細Ⅲ
161	〃４	10	8	○	○	
165	〃９	10	10	○		
166	〃10※	10	10	◎	◎	
191	〃12	10	8	○	○	
190	〃13			○	○	鏃身縁沿い
178	〃17※	25	20	◎	○	細Ⅱ
189	〃19			○	○	細Ⅱ
168	〃20※	10	10	○		
169	〃21			○		
174	〃22※	10	10	◎		立体的に残存
172	〃23	10	10	○	○	
176	〃24	10	8	○	○	
175	〃25			○		
177	〃26	15	10	○	○	
179	〃29※	10	10	○		
186	〃30-１	10	10	○		
180	〃30-２			○		細Ⅱ
181	〃30-３※	15	10	○	○	細Ⅲ
183	〃30-４	10	10	○		
182	〃31			○		細Ⅱ
184	〃32			○		
170	〃35※	10	12	◎	○	側面にも付着
171	〃36※	10	10	◎	○	立体的に残存
173	〃37	10	10	○		
187	〃38	10	10	○	○	
197	〃39	10	10	○		
188	〃40	10	10	○	○	
194	〃41※	25	25	○		細Ⅰ
192	〃42			○	○	
196	〃43※	25	20	○		細Ⅱ

〈埋葬施設４〉

No.	遺物名	織密度		付着位置		備考
		経(本)	緯(本)	表	裏	
269	鉄鏃１			○		
271	〃２	10	10		○	
273	〃８			○		
268	〃９,12			○		
277	〃10			○		
275	〃11			○		
272	〃13			○		

〔註〕
・「※」…現存する織物
・「◎」…特に残存状況の良いもの
・「細Ⅰ～Ⅲ」…目の細かさから３種類に分類。（細Ⅰ←→Ⅲ粗）

第68表　銹着織物観察表

所在	古墳名	埋葬主体	副葬品	報告No.	織密度	備考	報告書名	刊行年	発行元
亀山	東樺野2号墳		刀子	32	11×13		国道306号線道路改良事業に伴う東樺野2号墳・東樺野遺跡発掘調査報告	1992.3	三重県埋蔵文化財センター
名張	尻矢2号墳		短剣	F10			尻矢古墳群	1995.3	名張市遺跡調査会
伊勢	昼河A-1号墳	第Ⅰ主体	鏃	T30		粗	昼河古墳群	1993.3	伊勢市教育委員会
伊勢	昼河A-3号墳	第Ⅱ主体	鏃	T3		粗	昼河古墳群	1993.3	伊勢市教育委員会
伊勢	昼河A-3号墳	第Ⅱ主体	鏃	T11	12×18	大	昼河古墳群	1993.3	伊勢市教育委員会
伊勢	昼河A-3号墳	第Ⅱ主体	鏃	T12	12×10	小	昼河古墳群	1993.3	伊勢市教育委員会
伊勢	昼河A-3号墳	第Ⅱ主体	鏃	T13	20×18	小	昼河古墳群	1993.3	伊勢市教育委員会
津	メクサ4号墳	第2主体	鏃	12			メクサ4号墳発掘調査報告	1972.3	津市教育委員会
松阪	山添2号墳	１号埋葬部	直刀	53			山添2号墳発掘調査報告書	1998.3	松阪市教育委員会
明和	世古6号墳	第2主体	鏃				世古6号墳・池村城跡発掘調査報告	1982.3	明和町教育委員会
玉城	カリコ古墳	第一主体	刀子	29			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	7			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	9			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会
玉城	カリコ古墳	第一主体	鏃	20			カリコ古墳・カリコ遺跡発掘調査報告書	1972	玉城町郷土会
明和	明星古墳	１号墳	刀子	10			明星古墳群発掘調査報告	1975.3	明和町教育委員会
伊賀	南山ノ奥６号墳	第１主体	鉄鎌	26	26×32		南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第１主体	鉄斧	27			南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第１主体	鉄鏃	29			南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第１主体	鉄鏃	32			南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第４主体	鉄斧	38	10×7		南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第１主体	鉄鏃	39	12×10		南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第４主体	刀子	40			南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	第４主体	直刀	41			南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	高猿６号墳	第１主体	剣	3		紐	昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会
伊賀	高猿６号墳	第１主体	直刀	6		紐	昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会
伊賀	高猿６号墳	第１主体	鉄斧	38			昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会
伊賀	高猿６号墳	第２主体	短刀	72			昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告	1981	三重県教育委員会
津	西岡古墳	周溝	剣	29			西岡古墳	1995	三重県埋蔵文化財センター
松阪	垣内田古墳群	３号墳	柄頭金具	31			近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告第２分冊２	1990	三重県埋蔵文化財センター
鈴鹿	加和良１号墳	中央棺内	刀子	―			年報19　昭和63年度調査	1989.3	三重県教育委員会
松阪	狼谷古墳	―	剣	492		紐	中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書	1990.3	松阪市教育委員会
松阪	川原表古墳	１号墳	直刀	531			中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書	1990.3	松阪市教育委員会
鈴鹿	経塚古墳	―	鉄斧	13図-2			国鉄伊勢線関係遺跡調査報告	1966	鈴鹿市教育委員会
鈴鹿	経塚古墳	―	不明鉄製品	16図-4			国鉄伊勢線関係遺跡調査報告	1966	鈴鹿市教育委員会
伊賀	南山ノ奥６号墳	―	刀子	―	22×26		南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
伊賀	南山ノ奥６号墳	―	石突	―	8×12		南山ノ奥６号墳発掘調査報告	1999	三重県埋蔵文化財センター
津	鎌切３号墳		直刀				年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会
津	鎌切３号墳		直刀				年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会
津	鎌切３号墳		刀子	―			年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会
津	鎌切３号墳		直刀	―			年報15　昭和59年度	1985.3	三重県教育委員会

第69表　織物類例県内一覧

中南勢地域における初期群集墳の検討
～小谷古墳群の評価をめぐって～

豊田　祥三

はじめに

小谷13号墳は本報告のとおり埴輪をもち、短甲をはじめ多数の鉄製品・埴輪をもつなど、副葬品の内容、立地などを含め、古墳群内で突出した内容をもつ古墳である。出土遺物より築造時期は古墳時代中期中葉と考えられるが、当該期、伊勢地域では宝塚１号墳に代表されるような大型の前方後円墳が築造されなくなり中小の古墳が中心となる時期である。小谷古墳群をはじめ、いわゆる「初期群集墳[1]」に位置付けられる古墳が築造されるのも概ねこの時期であり、古墳時代後期に爆発的に築造される群集墳より先行するこれらの古墳は群集墳の発生の契機と、当時の社会情勢の変化を表すものとして重要である。近年は、こういった小型墳の出現の背景を、大和政権による地域の下位層までを取り込んだ支配関係の成立によるものとの見解が主流である。

しかし、初期群集墳そのものの検討は調査例の多い近畿地方のものが多く、その周辺地域のものについての研究は始まったばかりである。また、築造背景についても政治的背景を強調するあまり、被葬者の性格についての検討も充分に検討がなされてきたとはいい難い。また「初期群集墳」という概念も研究者間での一致をみていない。

また、中期中葉～末葉に造営された初期群集墳は横穴式石室をもつ後期の群集墳に連続していかないことが多く、後期群集墳との間に断絶が認められることが指摘されている[2]。木棺直葬の小型墳群と横穴式石室を主体とした後期群集墳の被葬者との間には被葬者の社会的地位の変質が生じていたと想定される。「初期群集墳」についてはその呼称でひとくくりには出来ない複雑な問題を内包しており、より詳細なレベルでの検討が必要であると考える。

ここでは、小型墳のなかでも小谷古墳群を始めとした中・南勢地域で古墳時代中期中・後葉に築造された、ないしは築造が開始された初現期のものに焦点をあて、古墳群の展開のありかた、副葬品・祭祀形態といった諸要素の比較・検討を行いながら被葬者の性質の変化を検討するとともに、新たに時期を隔てて発生する群集墳との差異、周辺の首長墳との関連性からこの地域における初期群集墳の成立とその背景について検討したい。なお本稿における年代観については田辺昭三氏による須恵器編年に依拠[3]する。

１　中南勢地域における初期群集墳

南勢地域の群集墳について検討した竹内英昭氏は、初源期の群集墳の開始期についてＴＫ208型式（以下「型式」を省略）段階、ＴＫ23～ＴＫ47段階（中期末葉）、ＭＴ15～ＴＫ10段階（後期前葉）と一様ではないことを指摘している[4]が、ここでは古墳時代中期中葉～後葉（ＴＫ216～ＴＫ208段階）に始まる古墳群に焦点をあてる。中南勢地域で中期中葉に築造、ないしは築造が開始された群集墳の調査例はあまり多くはないが４例みられる。以下簡単に各古墳群の概略について触れておく。

①　小谷古墳群

雲出川支流の中村川左岸の丘陵上に位置する36基から構成される古墳群で、南支群の６基、東支群の６基、北支群の２基が調査された[5]。詳細は報告で触れられているので繰り返さないが、主だった特徴をあげると以下の点が挙げられる。

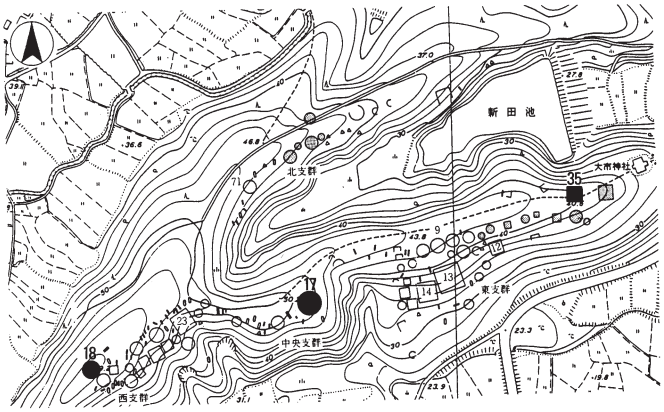
古墳群の初現はＴＫ216段階に東支群の丘陵上の最も見晴らしの良い箇所に、短甲をはじめ鉄製の武具・武具が多く埋葬された13号墳が単独で築造される。墳丘には埴輪をもつ。ＴＫ208段階には南支群おいて方墳である32号墳が、北支群には方墳と考えられる28号墳が築造され、ＴＫ23段階の29号墳は円墳で埴輪をもつ。

ＭＴ15段階に11号墳が築かれ、それ以降９・10・12・24号墳が相次いで築かれ造営のピークを迎える。13号・11号墳を除いては木棺木口部分に泥岩の立石を用いている。

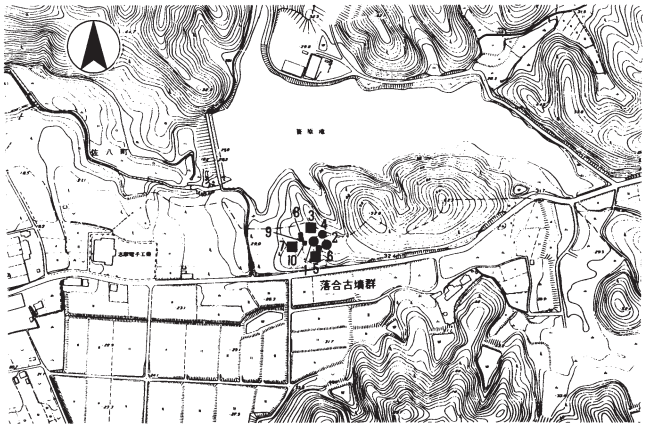
13号墳とＭＴ15段階以降の他の古墳では、木棺直

第102図　小谷古墳群（S＝1／2,000）

第103図　八重田古墳群（S＝1／12,000）



第104図　平田古墳群（S＝1／6,000）



第105図　落合古墳群（S＝1／10,000）

葬という点では共通するが、埴輪の有無、木棺木口部分の板石の有無、須恵器が墓壙・棺内に副葬される点、追葬が頻繁に行われている点などで異なる要素が多く認められ、墓域は同一であるが被葬者の系譜が同じとは言い難く、断絶がみられる。またＴＫ43段階には土壙墓もつくられていることも注意が必要ある。

②平田古墳群

安濃川流域に存在する[6]。古墳群の全面発掘調査がおこなわれた例として著名である。東支群ではＴＫ208段階に35号墳が築造されたのに始まり、ＴＫ47～ＭＴ15段階の18号墳・17号墳には竪穴系横口式石室が導入される。以降は7世紀に築造のピークを迎え、渡来文化の影響が色濃くみられるようになるのが特徴である。

③八重田古墳群

阪内川左岸流域の丘陵上に存在する25基からなる古墳群[7]である。古墳時代前期から中期前半にかけては１号墳や８号墳といった地域の累代墓と考えられる古墳が築かれるが、ＴＫ208段階になると西側の尾根筋に突如として小型の方墳ばかりの一群が出現する。小型の方墳であるが16号墳からは眉庇付冑や短甲、鉄刀、鉄鏃など豊富な副葬品が出土している。古墳群はＴＫ23～ＴＫ47段階に造営のピークを迎え、ＴＫ10段階を最後に造営は終了する。

④落合古墳群

宮川右岸の丘陵上に位置する。発掘調査により10基が確認[8]されている。古墳群の発生は４世紀末ないしは５世紀初頭の７号墳に始まる。古墳群の最盛期はＴＫ208段階で、鉄刀や鉄鏃など多くの鉄製品が出土した３号墳をはじめ６基が造営されている。古墳群は以後も数基築造されるが、ＭＴ15段階をもって終焉する。

２　初期群集墳の比較検討

ａ　築造過程

各古墳群の形成過程をみると、ある特定の１基の古墳が単独で築造されてから、若干の空白期間を経て造営がはじまるパターンと、前代から古墳が築造されているにもかかわらず、突如として小型の墳墓が群をなして形成されるパターンとに区分できる。前者が小谷古墳群・平田古墳群で、後者は八重田古墳群、落合古墳群である。

前者のパターンの「特定の１基」とは、小谷古墳群でいう13号墳、平田古墳群の35号墳に相当する。これらは後続する古墳と墓域は同じではあるものの、埋葬施設や葬送儀礼が異なることから、より単独墳としての性格が強いと考えられる。とりわけ小谷古墳群では各支群ごとに1基みられることは注目される。

八重田古墳群については先にも触れたように、前期以来首長墳と考えられる古墳が累代的に築造ていたが、ＴＫ208段階に小型の方墳群が突如出現する。落合古墳群については周辺で首長墓の存在は不明であるが５世紀初頭前後に最初に７号墳が築造される。しかし、小型の方墳が群をなして築造されるのはＴＫ208段階であることや、伊藤裕偉氏が指摘[9]するように古墳群の初現となる７号墳が最高所に占地せず、後に築かれる３号墳が尾根上の一番良好な場所に築造されていることことなどから、３号墳を中心としたＴＫ208段階前後の古墳群の優位性が窺え、７号墳の被葬者とは系譜を異にすると考えられる。

八重田古墳群の方墳群と落合古墳群の一部はＴＫ208段階にまとまって築造され、最盛期を迎えることから集団墓としての性格が強いが、小谷13・28・32号墳や平田35号墳に関しては単独墳的に築造されており、短期間で数基がまとまって築造された八重田、落合例とは区別して考える必要があろう。

ｂ　墳形

墳形の問題は被葬者の出自差と関連して重要視されるが、小谷古墳群においては南支群の32号墳、北支群の28号墳が方墳であるが13号墳は円墳である。一方、平田古墳群は初現の35号墳が方墳であるのに対し、次段階に築造される18号墳は円墳に転換している。同様のことは、落合、八重田古墳群でも確認でき、森泰通氏[10]は「南勢の場合、その多くは概ねＴＫ23段階頃に方墳から円墳へと墳形を転換するらしい」と指摘している。和田晴吾氏は、「墳丘の円墳化」という点に、群集墳に先行する小型墳墓群と「古式（初期）群集墳」の違いを設定し、ヤマト政権の有力家長層の直接的な掌握の第１段階であると指摘[11]しており、他の群集墳よりも先行して円墳が採用された小谷13号墳の存在は他の例とやや様相を

古墳	墳形	規模	甲	冑	剣	刀	鉾	槍	鏃	刀子	鑿	鎌	鉈	斧	鋤鍬	鑷子	勾玉	玉類	埴輪	時期
平田35号	方	12			2				30	2	1			2	1			○		ＴＫ216
小谷13号（１）	円	16	○		4	1			12	1				2		1		○	○	ＴＫ216
小谷28号	方	8				1			5											ＴＫ208
小谷９号（２）	円	13							30	5								○		ＴＫ10～ＭＴ85
小谷９号（４）	円	13							6											ＴＫ10～ＭＴ85
小谷10号（１）	円	16				1			5	2								○	？	ＴＫ10～ＭＴ85
小谷11号（２）	円	12							1											ＴＫ43
八重田16	方	16	○	○		2	1	2	43				2					○	○	ＴＫ216
八重田19	方	10			1				15			2	1							ＴＫ208
八重田20	方	12			1															ＴＫ208
八重田７号	円	14				2				1			1						○	中期末葉
落合３号	方	11			2	1	1		14	4		1					○			ＴＫ208
落合８号	方	6			1					1										ＴＫ216～ＴＫ208
落合10号（１）	方	5							23	1		1					○	○		ＴＫ216～ＴＫ208
落合５号（１）	方	10			1				20	1										ＴＫ208～ＴＫ23
落合２号	円	11				1			9	1										ＴＫ47
落合４号	円	9				1				3										ＴＫ23
落合１号	円	13								3										ＭＴ15
常光坊谷４号	円	17				1													○	ＴＫ47

第70表　小型墳の副葬品一覧表

異にし、注目される要素といえよう。

ｃ　副葬品

先に挙げた古墳群の副葬品の組成とその数についてまとめたのが第70表である。初期群集墳のなかで核となる古墳の副葬品を比較してみると、武器・農耕具といった鉄製品を多く含むのが特徴である。このなかで甲冑を有していたのは小谷13号墳と八重田16号墳のみであるが、甲冑の有無を除けば、副葬品の組成に目立った差異は認められない。

一般的に甲冑については、中央政権から配布されたとされる。入手の経路がどうであれ、当該期に甲冑や刀剣といった鉄製品が容易に入手出来たとは考えにくく、入手するには上位集団との接触は不可欠であろう。しかし、首長墳に相当するような大型の古墳でも甲冑を有しない例もあり、甲冑を有する古墳が階層的に上位とは限らないと思われる。

また、当該期に群をなして築造される八重田・落合古墳群内においては１基のみ副葬品が豊富な古墳が存在する一方で、鉄刀や鉄剣をも有しない古墳も存在するなど重層的とはいわないまでも被葬者の優劣が古墳群内で認められることは注意されてよい。

小谷13号墳では、鑷子状鉄製品といった渡来系とされる遺物が副葬されているものの、その主体となるものではない。また、埴輪の樹立や木棺直葬である点など前期古墳の系譜をひく要素がみられることから、中期中葉段階ではこれらの古墳が渡来系の集団の墳墓である可能性は低い。

一方で、ＴＫ23段階以降の古墳には、引き続き鉄製品などが副葬されるものの、その内容は全体的に貧弱で、豊富な副葬品をもつ古墳は皆無である。

ｄ　埋葬施設と複次葬について

小谷古墳群、八重田古墳群、落合古墳群とも木棺直葬墳を主体とする。平田古墳群は35号墳には木棺直葬を用いているもののＴＫ47段階になると18・17号墳には竪穴系横口式石室が導入されている。竪穴系横口式石室の出自については北部九州であるとされるが、渡来系の文化の流入は想起できよう。

また、小谷古墳群では13・11号墳の段階には埋葬施設は２基みられたが、後続する10号墳からは３基の埋葬施設が、９号墳には５基確認され、複次葬が頻繁に行われている。さらに９・10・12・24号墳の木口部分には泥岩製の板石がみられ、埋葬者の頭位もすべて東位になるなど埋葬形態に関しては均質的であり、同一支群ではあるが13号墳の被葬者との連続性には乏しく、断絶がみられる。

八重田古墳群においては終始単次葬である。落合古墳群においてはＴＫ208段階の築造である10号墳において３基の埋葬施設が確認されているがそのうちの１基は後のものとみられる。

ｅ　須恵器祭祀について

小谷13号墳では墳丘上からＴＫ216段階の須恵器が小片となって出土している。楠本哲夫氏は、八重田16号墳、平田35号墳の須恵器について「液体をいれる容器、飲み干す高杯・液体を高杯に注ぐ把手付椀などがセットでみられ、それらの一部は意識的に破砕されており、墓前での飲食儀礼、「食い別れ」行為の存在を示す」とし、ＴＫ208段階には「須恵器を使用するある種完成された墳墓祭式のひとつが既に出現していたのであろう」との重要な指摘[12]をされている。

事実、小谷13号墳、落合３号墳からも把手付椀と考えられる破片が出土しており、類似した器種構成をもつ。また、八重田16号墳の高杯の杯部には長方形の透し孔が穿たれ、小谷13号墳の広口壺には焼成後底部に穿孔されており、「非実用」のものであったと考えられる須恵器が使用されている。個々の古墳で古式の須恵器を用いる共通の祭祀が行われていたことが窺え、同時期の築造である神前山1号墳のような首長墳でも同様の祭祀がおこなわれている[13]。

ところが、小谷古墳群では墳頂上ないしは周溝内で須恵器を用いた祭祀は次段階になると様相が変化し、代わって須恵器の墓壙内副葬が登場する。

小谷11号墳では墓壙内に須恵器が埋葬されるようになり、10号・９・24・12号墳にも埋葬されている。しかし、引き続き木棺直葬墳が築造されている八重田古墳群では墓壙内に須恵器は埋葬されないにもかかわらず、中期末葉以降から築造が開始され、横穴式石室を導入する常光坊谷古墳群、浅間古墳群には須恵器の墓壙内埋葬は顕著に認められるようになるのである。この須恵器の墓壙内祭祀は横穴式石室の導入に伴って登場する祭祀とされ、この祭祀を受容しなかった八重田古墳群は小谷古墳群よりも先に造営が終了している。

ｆ　埴輪

埴輪の使用が確認できた古墳は小谷13号墳、八重田16号墳のみで、甲冑をもつような古墳群内で核となる古墳に埴輪の使用がみられる。小谷古墳群では13号墳に併行ないしはやや後出する32・28号墳では埴輪はもたず、八重田古墳群でも16号墳は埴輪をもつが19号・20号墳にはない。中期後葉段階では埴輪を樹立できる階層は限られていたことが窺える。一方、落合古墳群や平田古墳群では、一貫して埴輪は使用されていない。

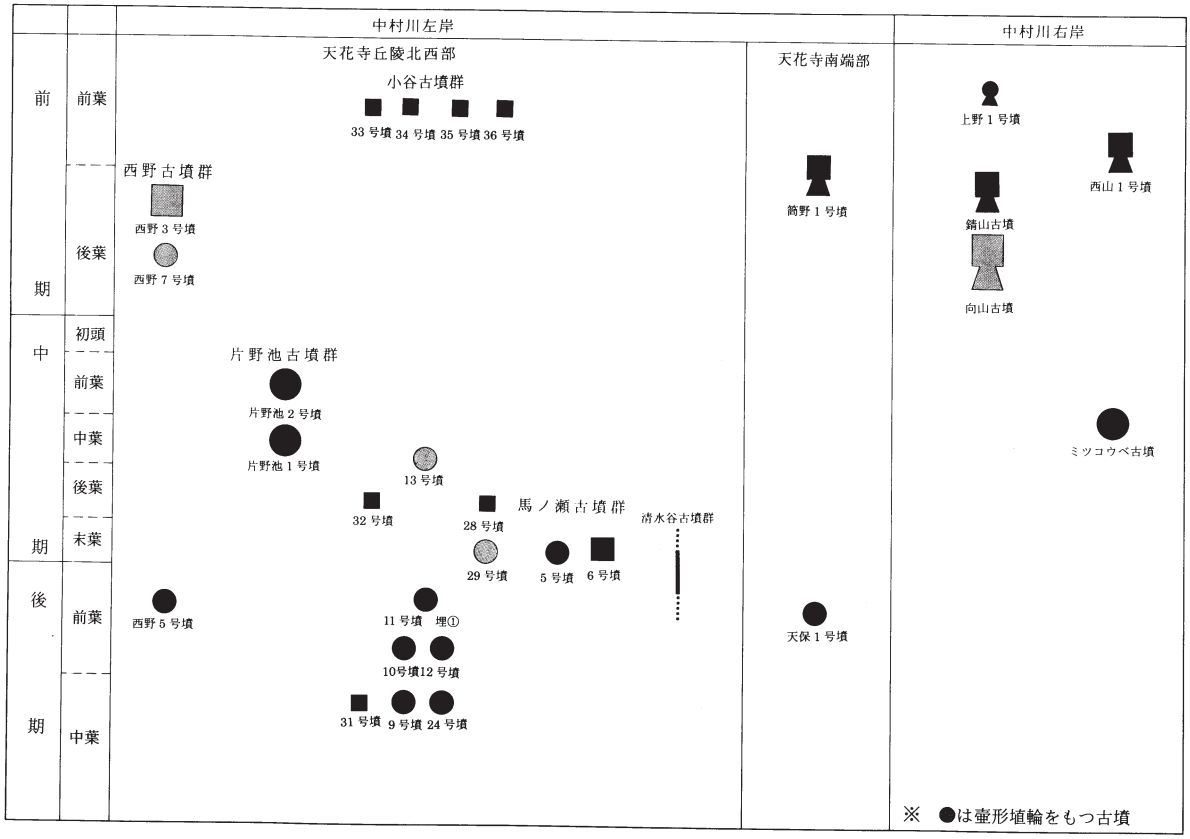
中期末葉段階以降になると、埋葬施設が木棺直葬の古墳群で埴輪の樹立が多くみられるようになるのの、横穴式石室をもつ古墳には埴輪が樹立されないことを考慮すると、埴輪の有無は、被葬者の出自の系譜差もその一つの要因と考えられる。

３　被葬者の変質について

各古墳群内を様々な要素から比較してきた。主だった特徴をみると、中期中～後葉には小型墳であるにもかかわらず甲冑・刀剣類など豊富な副葬品をもち、群中で核となる古墳が築造され、墳頂部ないし周溝においては埴輪や、古手の須恵器を用いた共通した祭祀がおこなわれていたとみられる点など共通した要素が多い。これらの核となるような古墳は、副葬品の内容や埴輪の樹立など、首長墳の小型版ともいうべき内容をもち、その被葬者は当時、社会的に上位の地位にあったと考えられる。

しかし、これらの古墳群は次段階にも古墳は築かれるものの、埋葬施設や須恵器を用いた祭祀が変化する。また、副葬品などのレベルも低下し、核となるような突出した内容をもつものはみられなくなり、古墳間の格差が無くなり徐々に均一化していく様子が窺え、より家族墓的な様相に近くなる。例えば、小谷古墳群においては、次段階になると、埋葬施設に板石が用いられ、埋葬頭位も変化し、複次葬が頻繁になる。副葬品も鉄製品を一定量含むが、馬具や金銅製品などは含まれず、13号墳に匹敵またはこれを凌駕するような古墳は皆無で、八重田古墳群に関してもＴＫ23段階以降にも引き続き古墳は築造されるが、16号墳と同等の副葬品をもつ古墳はみられない。

中期末葉は新たに展開を始める古墳群が増加し、それに伴い小型墳も増加する時期である。これらの古墳群は、埋没古墳も多いため副葬品が不明な例が多いが、木棺直葬墳で埴輪をもつ古墳が多いのが特徴的である。常光坊谷古墳群[14]や舞出北古墳群[15]では、埴輪をもち、核となるような古墳は存在するが、豊富な副葬品をもつ古墳はない。須恵器生産と連動して、埴輪の生産が拡大したこともその要因の一つであるが、中期中～後葉の段階には群中の核となるよ



第106図　天花寺丘陵周辺における古墳の消長

うな古墳にしか埴輪は樹立されておらず、埴輪が樹立できた階層は限定されていたが、中期末葉になると小型墳でも埴輪を採用する古墳が多くなり埴輪祭祀が一般化したと考えられる。

以上のことから中期中～後葉段階の古墳と中期末葉段階の古墳とでは、小型墳の増加、副葬品や埴輪の採用の違いから、被葬者の社会的地位に格差が存在しているものと思われ、連続して捉えられるものではないと考えられる。前者は古墳間の格差が強く認められ、中期古墳の首長墳に準ずる核となる古墳が存在するが、後者は古墳間の格差は存在するものの、中期中～後葉ほど突出する古墳がないことから[16]、均一化が一段と進む後期前葉段階の後期群集墳の前段階として評価できよう。

4　初期群集墳の盛衰について

中期中～後葉に盛行した群集墳で以後、それに匹敵するような副葬品をもつ古墳がみられなくなる一方で、付近に新たに展開を始める古墳群のなかには最新の埋葬施設である横穴式石室をもち、豊富な副葬品をもつ古墳が出現する。小谷古墳群より南に展開する天保古墳群の１号墳[17]はＴＫ10段階の径15m程の円墳にもかかわらず、横穴式石室から剣菱形杏葉を始めとした馬具や刀装具、胡禄など豪華な副葬品をもつ。未調査墳の２号墳は方墳で１号墳より古い古墳である可能性があるが、他の５基は７世紀前葉～中葉に築かれたものである。また、天花寺丘陵の北西の先端部には前期から中期中葉まで古墳が築かれた西野古墳群において横穴式石室をもちｆ字形鏡板付轡や雲珠など、豊富な副葬品をもつ５号墳が出現[18]する。

小谷13号墳の被葬者は、中期中葉にこの地域で、首長級とはいわないまでも、勢力を誇った者とみられる。しかし、11号墳以降の家族墓的な様相が強い古墳と比較すると、伊勢における出現期の横穴式石室をもち、豊富な副葬品を有する西野５号墳や天保１号墳の被葬者の優位性が際立ち、その格差は明白である。

また、八重田古墳群の場合もＴＫ47段階以降、副葬品の内容・量とも16号墳を凌駕する古墳はみられない。一方で、八重田古墳群が造営を停止する前後のＴＫ10段階前後には古墳群の所在する阪内川左岸の対岸に竪穴系横口式石室をもち、胡籙金具など豊

富な副葬品をもつ浅間古墳群が展開[19]していることからも、横穴式石室をもつ小型墳の被葬者の優位性が看取でき、先の事の傍証となろう。

つまり、中期末葉から後期前葉にかけては、古墳の築造数が格段に増加し、新たに展開をはじめる古墳群が出現するが、これは、古墳の築造が首長層といった社会的に上位のものに限定されていた段階よりその規制が緩和され、古墳がより下位のレベルの集団にまで浸透したことを示すものと解してよかろう。そして、同時に、最新の墓制である横穴式石室を採用している古墳では、木棺直葬墳よりも豪華な副葬品をもつ傾向があり、これらの被葬者の優位性が看取できる。反対に一貫して横穴式石室を導入出来なかった古墳群に関しては早い段階で造営を停止していることからも、当該期には横穴式石室に葬られた被葬者が台頭する一方で、中期中～後葉に勢力を誇っていた集団は、横穴式石室という最新の祭式形態を導入できずに造営を終了している。それは、被葬者の社会的地位の没落を意味すると考えられる。

以上のように初期群集墳のなかでもその被葬者の性格は一様でなく時期により変化していることを指摘してきた。中南勢地域における初期群集墳の動向をまとめると以下のようになる。

中期中～後葉…墳形は方墳が主流であるが円墳もみられる。主体部は木棺直葬で、非実用品とみられる須恵器を使用した祭祀がみられる。古墳群のなかで副葬品の内容や埴輪の使用などで古墳間に格差が存在し、小型墳であるにも関わらず鉄製品など豊富な副葬品をもつ核となるような古墳が存在する。中期の首長墳の小型版といった要素が強い。

中期末葉…墳形は円墳に転換し、古墳間の格差が存在する例もあるが、甲冑などの武具・武器の副葬は減る。副葬品などで突出した要素をもつ古墳はみられなくなる。埴輪の樹立例が格段に増加する。小型墳の築造数が格段に増加し、古墳の築造階層がより拡大する。低地部の微高地にも古墳群が築造されるようになる。

後期前葉…中期後葉～末葉にかけて造営を開始した古墳群がこの段階に造営が途絶える一方で新たに築造を開始する古墳群が増加する。伊勢において初現期の横穴式石室を埋葬施設とし、豊富な副葬品をもつ古墳が出現する。木棺直葬墳については、古墳間の格差は少なく、より均質化が進行する。墳形は円墳が主流となる。

このようにみてみると、小型墳の築造が少ない段階で、豊富な副葬品を有している中期中～後葉段階の小型墳群の突出性が抽出でき、後に築造される古墳とは隔絶があるといえる。

5　初期の群集墳成立の背景

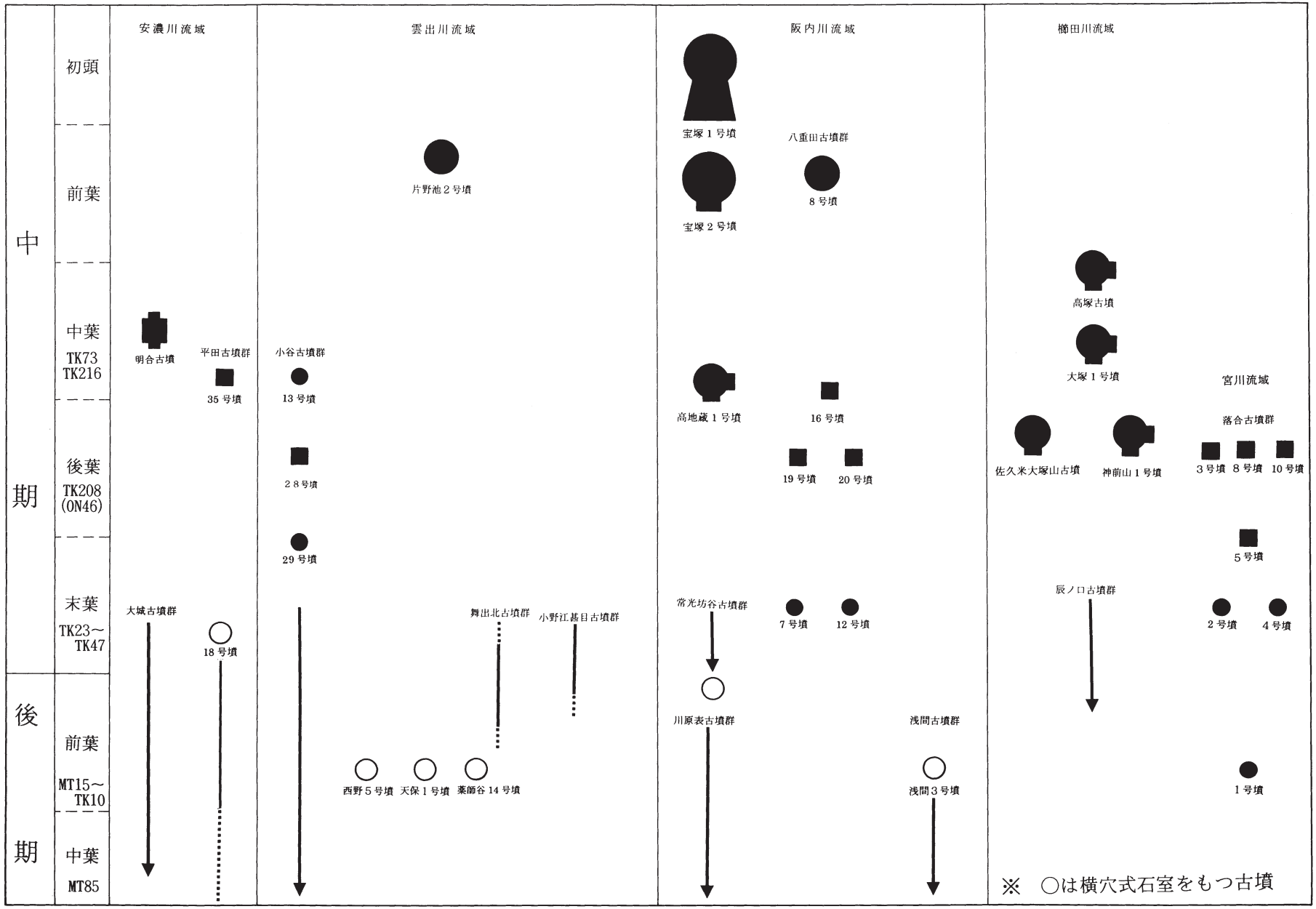
それではこのような小型墳群の発生を促した要因は何であろうか。ここでは天花寺丘陵周辺の動向や中南勢地域の首長墳の動向などから、その発生の契機について検討する。

a　天花寺丘陵における小谷13号墳

小谷13号墳の所在する天花寺丘陵周辺では前期に前方後方墳が相次いで築造された地域として知られるが、中期に入ると片野池１号・２号墳の築造以後は主だった首長墓がみられず中小の古墳に限られることから地域勢力が低迷することが伊勢野久好氏らによって指摘[20]されている。

しかし、天花寺丘陵では中期以降、前方後円墳を始めとした大型古墳が築かれることはないものの天花寺丘陵を中心に中小の古墳が非常に多く築かれており前期以来の勢力が存在していたとみられる。小谷古墳群では各支群においてＴＫ216～208段階前後から古墳が築造されており、小地域首長や特定の家系などが分立しているような状況であったと考えられる。そのなかでも唯一円墳を採用し、豊富な副葬品を有する小谷13号墳の被葬者は、そのなかで最も勢力を有した存在であったと考えられる。

小谷13号墳の位置する天花寺丘陵は、大和から宇陀地方を越えて東国にむかうルート上にあると考えられ、古代より大和からの文化が流入している地域である。大和地方における武器を出土した群集墳の分布は奈良県の東南部に偏ることが和田晴吾氏らによって指摘[21]されており、豊島直博氏は、中期後葉に展開する群集墳から出土した武器を検討し、「中期前葉から中葉にかけて大型の古墳が認められない宇陀地方に、武器をセットで副葬する初期群集墳が数多く分布することは、中央政権が有力な首長が強固な支配体制を形成していた地域を避け、政治的、軍事的介入の容易な地域を選んで軍事組織を形成し



第107図　中南勢地域の大型墳の消長

たことを示唆している」と指摘[22]している。軍事組織が存在したか否かは別にして、このような大和地方の群集墳は、目立った首長墳のみられない地域に分布が集中し、武器が豊富に副葬されている点で伊勢の中南勢地域の例と共通している。分布に偏りがみられることは林部均氏が指摘[23]するように、政治的な産物である可能性があり、中期に主だった首長墳が築造されない嬉野地域はまさに宇陀地方と共通の背景をもつことから、豊富な副葬品をもつ小谷13号墳の出現は嬉野地域が中央政権の影響下にあったことを想起させる。中央政権にとって東国への重要ルート上に位置する宇陀・一志地方は掌握しておくべき地域であったであろうし、伊勢地域の他の初期群集墳に先行して円墳を採用している点、以後も西野５号墳や天保１号墳といった豪華な副葬品をもつ古墳が点在し、釜生田・上尾戸古墳群など畿内系の石室がいち早く導入されていることなどから、主だった大型古墳が築造されていないにも関わらず、伊勢地域のなかでも、近畿地方との親縁性が色濃くみられる地域でありその可能性は十分に考えられる。

つまり、中央政権は、東国に進出するルート上に位置する宇陀地方から嬉野地方にかけての地域を重要視していたと思われ、初期群集墳の被葬者に対し何らかのかたちで接触をもったと考えられる。しかし、埋葬施設が木棺直葬であることや、伊勢型の系譜を引く二重口縁壺や壺形埴輪の採用をみる限り、前期以来の伝統に執着していることが窺え、特に埴輪の祭祀に関しては畿内の情報は希薄であり、独自性の主張がみられる。これらの要素を重視するならば、中央政権側からの積極的な関与が窺えるものの、その支配形態は絶対的な権力を行使するようなものではなく、在地勢力の古墳祭祀に干渉するほど強い集権性は有していなかったと考えたい。

ｂ　中勢地方

平田35号墳が築造された安濃川流域では中期初頭に明合古墳が築造された以降、首長墳ともいうべき古墳はみられない。平田古墳群の造営のピークは７世紀代であり、35号墳が築造されてから６世紀までは、累代的に古墳が築造されている。安濃川流域では渡来系の文化の流入が顕著に認められる地域であり、他の地域とは異なった様相を呈する。平田35号墳に関しては新たに台頭した勢力の出現が考えられるものの、副葬品などをみてもこの段階では渡来的な要素は薄く、渡来系の人物の墓とは考えにくい。

ｃ　南勢地方

南勢地方では中期初頭に伊勢地域最大の前方後円墳である宝塚１号墳が築造されるが、これに後続する大首長墳は姿を消し、変わって造り出し付きの円墳が築造されるようになる。特に、中期前葉頃には宝塚古墳群のある阪内川流域から玉城丘陵や櫛田川右岸の沖積地へと大型古墳の分布の主体が移動する。これらの動きは宝塚１号墳の首長を中心とした支配体制の崩壊を意味し、南勢を統轄した勢力が分裂したと考えられる。

そしてその後、櫛田川右岸の勢力が優勢となったあとでも阪内川の首長墓は途絶えておらず、八重田16号墳を中心とした小型の方墳群が築かれる中期後葉段階でも、南東には高地蔵１号墳という造り出し付きの円墳と、方墳で単独墳である弥三郎新畑Ａ古墳がそれぞれ築造されている。従って八重田16号墳を中心とした小型の方墳群の被葬者については、新興勢力や首長に対抗した集団とするよりは、これらの首長のもとで何らかの職掌を担った集団の墓と考えたい。また、宮川右岸に位置する落合古墳群は、周辺地域の状況が不明であり検討の材料に乏しいが、周辺に主だった首長墳がみられないにも関わらず、中期後葉に小型の古墳が群をなして築かれる。小型墳でありながら３号墳のように蛇行剣など豊富な鉄製品を有しており上部権力と何らかの関連を有していたことが想起される。

おわりに

以上のように小谷13号墳をはじめとした中期後葉に築造される初期群集墳について様様な要素から比較・検討を試みた。その結果、中期後葉段階では副葬品や祭祀形態が比較的共通しているほか、副葬品などの格差、埴輪の使用の制限といった要素がみられ、小型墳の被葬者が勢力を伸張する一方、上部権力との関係を有していたことが想定でき、古墳に葬られる階層がより下位のレベルにまで拡大した中期末葉に築かれる群集墳、展開する古墳群が一変する後期前葉の群集墳とは区別する必要があることを指摘した。

また、中期中～後葉に築造を開始する古墳群は後期前葉になると衰退し造営を停止する一方で新たな場所に展開を始める古墳群が出現する。初現期の横穴式石室をもち、豪華な副葬品をもつ小型墳も出現するなど、これらの集団の優位性が窺える。小型墳の被葬者層と上部権力との関連性については、その関係は一時的なものであって、政治的変動などの要因によって、地域の支配体制は、その都度再編され、上部権力と関係を有した集団は絶えず変化していた可能性が高いと考えられる。

このような古い段階の群集墳の具体的な被葬者像については、まだまだ不明な点が多い。墳形・群構造・埋葬施設・副葬品・葬送儀礼といった諸要素を総合的にみた分析が必要である。とりわけ、同一の墓域内に築造されていても、同じ系列の集団によって造墓されたものとは限らないと考えられ、時期を隔てて築造されている群集墳の分析の際は被葬者集団の性格について注意する必要があろう。

また、本稿では被葬者の性格の変質に主眼をおいたため群集墳のなかでも中期中～後葉に開始されるものと中期末葉・後期前葉から開始するものとに区別して検討を進めた。各地に展開を始める群集墳はその埋葬形態は多様であり、その築造の背景と被葬者の性格は一様ではないものと解される。古墳群の成立過程を探る上でその被葬者像については重要な問題であり、今後検討が必要である。

〔註〕

⑴　本稿における初期群集墳の定義につては「木棺直葬を中心とし多用な埋葬施設をもち、古墳時代中期中葉から後期前葉にかけて築かれる小古墳」とし、やや狭義の意味で用いていることを注意されたい。また、このような中期中葉以降の小型墳の評価については石部正志氏、白石太一郎氏らの研究が挙げられるが本稿ではこのような小型墳群を政治的な産物であると捉えるため「初期群集墳」の呼称を用いる。

⑵　東海考古学フォーラム『古墳時代中期の大型墳と小型墳』2002年

⑶　田辺昭三『須恵器大成』(角川書店　1981年)

⑷　竹内英昭「南勢地域の群集墳」(『立命館大学考古学論集』Ⅰ立命館大学考古学論集刊行会　1997年)

⑸　平成14年度に行われた第８次調査にて丘陵北の尾根上に２基の未確認の古墳が発見された。28号墳は方墳で29号墳は円墳である。28号墳からは鉄剣。鉄鏃、29号墳からは周溝より埴輪が出土した。築造時期については28号墳は墳丘から出土した須恵器よりＴＫ208段階、29号墳に関しては出土した埴輪から28号墳よりやや下るとみられるが時期差は少ないとみられる。
三重県埋蔵文化財センター『平成14年度三重県埋蔵文化財センター年報』2003年

⑹　伊藤秋男他『平田古墳群』(安濃町遺跡調査会　1987年)

⑺　下村登良男『八重田古墳群発掘調査報告書』(松阪市教育委員会　1981年)

⑻　伊藤裕偉『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告第７分冊　落合古墳群』(三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1992年)

⑼　註⑻に同じ

⑽　森泰通「東海地方における５世紀後半の様相」(『渡来文化の受容と展開－５世紀における政治的・社会的変化の具体相（２）－』第46回埋蔵文化財研究集会　1999年)

⑾　和田晴吾「群集墳と終末期古墳」(『新版古代の日本』第５巻近畿Ⅰ　角川書店　1992年)

⑿　楠本哲夫「六文銭以前」(『同志社大学考古学シリーズⅤ　考古学と生活文化』1992年)

⒀　下村登見男『神前山1号墳発掘調査報告書』明和町教育委員会　1973年

⒁　下村登見男「弥三郎新畑Ａ古墳」『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』松阪市教育委員会　1990年

⒂　川畑由紀子「舞出北遺跡」(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報ⅩⅢ』三重県埋蔵文化財センター　2001年)

⒃　中期末葉の小型墳については、北勢地方でも石薬師古墳群など類例が確認されている。

⒄　前川嘉宏・野田修久「天保古墳群」(『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告』第３分冊３　三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1991年)

⒅　伊勢野久好編『天花寺山』(一志町・嬉野町遺跡調査会　1991年)

⒆　福田哲也・福田昭『浅間古墳群発掘調査報告書』1995年

⒇　註⒅に同じ

(21)　註⑾に同じ

(22)　豊島直博「古墳時代中期の畿内における軍事組織の変革」(『考古学雑誌第85巻　第２号』2000年)

(23)　林部均「群集墳とヤマト政権」(『古代を考える　継体・欽明朝と仏教伝来』吉川弘文館　1999年)

東海の甲冑出土古墳にみる古墳時代中期の変革過程

鈴　木　一　有

はじめに

現在の愛知県、三重県、岐阜県、静岡県にあたる東海地方は、古来より近畿地方と東国を結ぶ交通の要衝として重視され、独自性が強い地域圏を形成している。東海地方の古墳の動向から、古墳時代における地域秩序の移り変わりや中央政権の政策的意図を探る研究手法は、地域の特質を明確にする上においても、一定の意味をもつといえる。

近年、東海地方では、古墳出現期にかかわる議論や、後期古墳研究が隆盛をみせる中、中期古墳の調査例も激増し、地域ごとの差異や特性も検討できるようになった。小谷13号墳のような甲冑が出土する事例も豊富に知られるようになり、甲冑出土古墳どうしの比較検討も行われている（藤田1999、鈴木1999・2002）。古墳時代中期には大型の前方後円墳に加え、中小規模の古墳も相当数築造されており、両者の推移を有機的に捉える研究視点も明確に押し出されるようになっている（東海考古学フォーラム2002）。さらに、各地域における須恵器や鉄器の生産など手工業生産にかかわる詳細な情報も蓄積されつつあり、古墳時代中期に達成される様々な技術革新の過程を高い精度で論述できる段階に差しかかっている（森1999）。小論では、小谷13号墳の位置づけを基礎作業にすえ、こうした古墳時代中期に進行した変革過程の様相を射程に入れつつ、東海地方における甲冑出土古墳の動向をまとめてみたい。

なお、小論では中期古墳を副葬品組成の変化から、中期初頭、中期前葉、中期中葉古段階、中期中葉新段階、中期後葉、中期末の６段階に分けて捉える。その詳細は第74表に示しておく。

１　小谷13号墳の築造時期

小谷13号墳の埋葬施設１（以下、特定の指示をしない限り埋葬施設１の内容について触れる）から出土した武器・武具類は、短甲１、刀１、剣４、鉄鏃12である。これらの遺物は、中期中葉の武器組成として一括性が高く、古墳の築造時期を直接的に示すものと考えられる。まず、遺物の編年的位置づけについて検討しておく。

短甲は三角板鋲留式であり、両脇に開閉装置をもつ。鋲頭径が５㎜程度と小さいことは、鋲留短甲の中では古相を示す（吉村1988、滝沢1991）。また、後胴の竪上第３段の上側にみられる鋲留数は推定で11であること、長釣壺式蝶番金具をもつことなどを考慮すると、鋲留短甲の古相を示す一群の中でも、やや新しい様相が見出せる。盛行時期としては、ＴＫ216型式期を中心に若干の前後する段階をあてることができるだろう（本書Ⅳ章、２節ｂ参照）。

刀には、茎元抉りをもつ点が注目できる。茎元抉りは、栃木県七廻り鏡塚古墳や奈良県藤ノ木古墳など三輪玉を用いる刀に散見でき、特定の拵えと関連をもつ造作と考えられる。小谷13号墳例では、柄の構造がうかがえる有機物の付着は確認できなかったが、本来は特徴的な拵えが伴っていた可能性が高い。茎元抉りをもつ刀の初源は奈良県新沢千塚255号墳例など、中期後葉～末（ＴＫ208～47型式期）とみられていたが、兵庫県梅田１号墳のように中期前半の古墳からも類例が知られるようになっている。

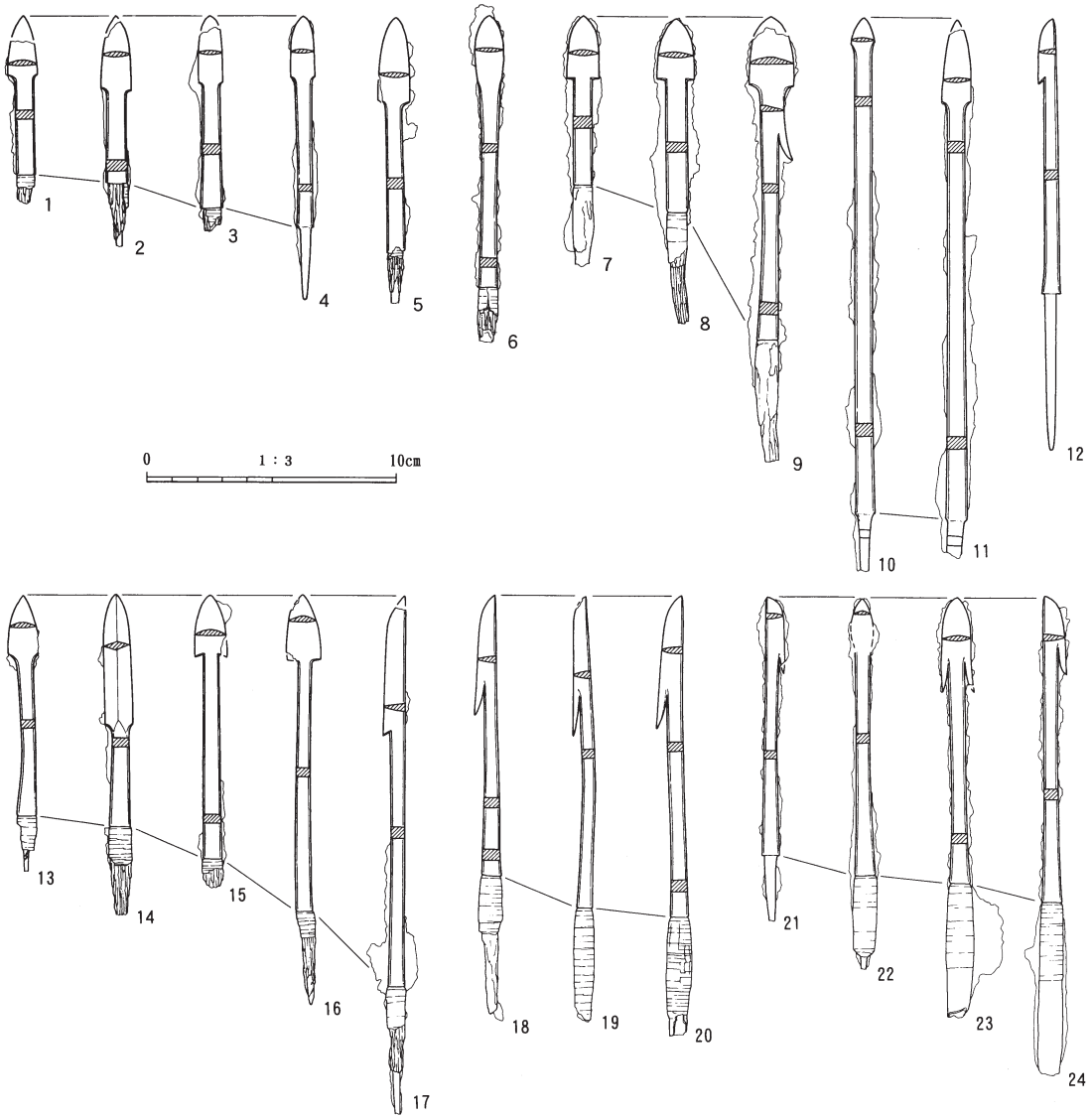
なお、茎元抉りをもつ刀との相関関係は明確でないが、三輪玉の初源例として、石製品が兵庫県小野王塚古墳や石川県和田山５号墳（築造時期はＴＫ216型式期）から、金銅製品が大阪府藤の森古墳（築造時期はＴＫ216～ＯＮ46型式期）から出土している。ともに小谷13号墳と近接する時期の築造であり、茎元抉りとの関係を今後注目する必要がある。

鉄鏃には短頸鏃と長頸鏃が混在している。長頸鏃は短頸鏃を形態の祖形として、「長い頸部」を指向する外来の情報をもとに、新たに成立した形態の鉄鏃である。一般的に、頸部長５㎝以下の短頸鏃と頸部長７㎝以上を示すことが多い長頸鏃の間には隔絶がみられ、その移行は急激であったと考えられる（鈴木2003）。小谷13号墳から出土した鉄鏃群には、両者の中間形態とでも呼べる個体が含まれ、短頸鏃

から長頸鏃への移行過程を示す事例として貴重である。

武器・武具の変化が最も先鋭的に認められる百舌鳥・古市古墳群出土資料において、短頸鏃から長頸鏃への移行過程を瞥見しておこう。軸状の頸部をもつ鉄鏃は中期初頭に出現し、時代が降るとともに頸部が漸進的に伸長化していく。中期中葉古段階(ＴＫ73型式期)の築造と考えられる鞍塚古墳においては、頸部長５㎝以下のものが多数を占め、短頸鏃が主体の段階にあることが分かる(第108図－１～４)。ただし、ほぼ同段階の築造である珠金塚古墳南槨や七観古墳には、頸部長６～７㎝をはかる長頸鏃のプロトタイプ的な形態を示すものが知られる（第108図－５・６)。以上のことから、中期中葉古段階は短頸鏃が主体的位置を占めるものの、部分的に長頸鏃へ変化する端緒が見えはじめる段階と捉えることができる。

さらに、中期中葉新段階（ＴＫ216～ＯＮ46型式期）の野中古墳（第108図－７～９）には両者が混在する状況が認められるいっぽうで、ほぼ同段階の珠金塚古墳北槨では、頸部長16㎝を超える極端に伸長化が進んだ個体（第108図－10・11）が認められ



第108図　短頸鏃と長頸鏃にみる頸部長の変化

１～４鞍塚　５珠金塚南槨　６七観　７～９野中　10・11珠金塚北槨　12長持山　13～17小谷13号　18～20経塚　21～24落合３号

る。ＴＫ216型式期を長頸鏃の成立段階と捉えてよいだろう。このように、長頸鏃の成立期には頸部や鏃身部が異常に長い個体がみられるが、ＴＫ208型式期の築造と考えられる長持山古墳例（第108図－12）に示されるように、中期後葉には頸部長７～10㎝程度を示す一定の長さに定着していく[1]。

小谷13号墳から出土した軸状の頸部をもつ鉄鏃には、頸部長４㎝から10㎝までの多様性が認められ、長頸鏃の成立段階として古相を示す特徴がみられる（第108図－13～17）。鏃身部が異常に長い片刃鏃（第108図－17）も、長頸鏃成立期にみられる揺籃段階の形態的特徴として把握できるだろう。三重県内における、近接する時期の築造と考えられる経塚古墳や落合３号墳から出土した鉄鏃群（第108図－18～24）には、頸部長８～10㎝程度の互いによく似た特徴を示す長頸鏃が一定量みられるが、組成には若干の差異が認められる。鉄鏃組成の差が築造時期の差を示すのか、被葬者の性格や鉄鏃の入手経路の違いを示すのか、判断は難しいが、小谷13号墳にみる鉄鏃組成には、ＴＫ216型式期を中心とした段階の様相を認めてよいだろう。

以上、鉄鏃の組成にやや古い傾向が見出せるが、これらの特徴を示す鉄製武器・武具は、ほぼ同時代の組み合せとして矛盾がないと判断できる。小谷13号墳の築造時期は、中期中葉新段階と評価でき、須恵器編年ではＴＫ216型式期を中心とする時期に相当すると考えられる。この年代観は、古墳から出土した須恵器や埴輪の特徴とも大きく矛盾しない。

２　副葬品組成にみる被葬者の階層的位置

小谷13号墳には１点の刀にたいし、４点の剣[2]がみられる。一般的に中期の中でも古相を示すものには剣やヤリの比率が高く、時期が新しくなるに従い刀や鉾の比率が増加する。第71表に、三重県内の甲冑出土古墳にみられる刀剣などの刺突用武器の組成を比較した。剣やヤリから刀への主要刺突用武器の転換は、中期中葉から後葉への移行過程の中で達成されたことがうかがえる。剣を４点もつ小谷13号墳の事例は、中期の中では比較的古い様相を残した事例といえるだろう。

小谷13号墳とよく似た武器組成は、甲冑の出土がみられないものの、先に鉄鏃で比較した経塚古墳や落合3号墳において認められる。経塚古墳からは、小谷13号墳と同じ４点の剣（うち１点はヤリの可能性が高い）と１点の刀が認められ、これに鉾が１点伴う構成である。落合３号墳からは、蛇行剣を含む３点の剣と１点の刀、および鉾が１点伴う。被葬者に伴う武器組成として互いに親縁性が高いといえ、小谷13号墳とほぼ同段階の築造と判断できる点でも重要である。さらに、三重県内で小谷13号墳とほぼ同段階の築造と考えられる八重田16号墳と平田35号墳の事例も加え、武器組成と共伴遺物の内容を検討しておこう。

第71表　甲冑出土古墳にみる刀剣類の比率

	刀	剣（ヤリ）	鉾	築造時期
石山	22	68（65）	0	中期初頭
わき塚	0	5	0	中期中葉（古）
小谷13号	1	4（1？）	0	中期中葉（新）
近代古墳	2	2（1）	1	中期中葉（新）
八重田16号	2	0	0	中期中葉（新）
おじょか	5	4（2）	有	中期後葉
大垣内	3	1（1）	1	中期末

パーレーン内の数値は内訳

経塚古墳は、伊勢湾にそそぐ中ノ川の下流域に所在する短小な前方部をもつ前方後円墳であり、全長29mをはかる。同一の丘陵上には直径53mの円墳、茶臼山古墳が存在し、中核的な首長墓が展開する立地環境にある。小規模ながら、当該時期の首長墓として捉えてよいだろう。小谷13号墳の内容と比較すると、武器組成が近似しているほか、農工具の主体的な種類の選択にも関連性がみられ、埋葬施設内に臼玉を多用する点も一致する。埋葬施設内に臼玉を用いる事例は落合３号墳や平田35号墳にも認められ、葬送儀礼の執行方法において情報を共有していたことが分かる。

武器組成とともに、共伴する農工具について検討しておく。第72表に掲げた古墳のうち、農工具組成が最も充実しているのは、経塚古墳である。５種19点に及ぶ内容は、平田35号墳の４種５点、小谷13号墳の３種４点、落合３号墳の２種５点、八重田16号墳の２種４点と比べ、格差が著しい。鉄製農工具の種類と数が経塚古墳において豊富なことは、前方後円墳を築造しえた被葬者が担った共同体内の役割を反映している可能性がある。

このように、当該時期の伊勢において、墳形や墳丘規模の格差にかかわる副葬品の組成差は農工具に

第72表　副葬品の比較

古墳名	墳形・規模	埴輪	甲冑	剣（ヤリ）	刀	鉾	鉄鏃	斧	鎌	刀子	鉇	鑿	白玉	その他主要な副葬品
経塚古墳	帆立貝・29m	○	0	4（1）	1	1	63	6	4	7	1	1	424以上	踏鋤状鉄器1、締付金具2、革盾1など
小谷13号　埋1	円墳・16m	○	1	4（1?）	1	0	12	2	1	1	0	0	1635	鏃子1
八重田16号	方墳・16m	○	1	0	2	0	36	0	0	0	2	2	0	ガラス玉36
落合3号	方墳・11m	×	0	3	1	1	14	0	1	4	0		5	
平田35号	方墳・12m	×	0	2	0	0	40	2	0	1	0	1	53	鍬鋤先1、砥石1

パーレーン内の数値は内訳

みられる程度で、武器の組み合せには大きな差がない点は注目してよい。小谷13号墳の被葬者は、前方後円墳を築造した階層がもちえた武器組成と同等であることに加え、短甲という中央政権との直接的な関係を示す副葬品が含まれる点で、特異な存在といえる。

逆説的にいえば、短甲の存在を除けば、小谷13号墳と他の中小古墳との武器組成の差異は不明瞭である。甲冑保有という突出したあり方は八重田16号墳においても指摘でき、互いによく似た階層的位置と甲冑の入手経緯が想定できるだろう。両者は小規模な古墳ながら、埴輪の樹立が認められる点においても共通している。甲冑出土古墳に埴輪が採用される傾向は、東海地方の中でも、ある程度認められる(鈴木1999)。埴輪の樹立という大型古墳と共通する祭式を認める動きと、甲冑の配布が連動している可能性がある。

小谷13号墳には、埋葬施設が２基存在することにも留意したい（第109図)。木棺直葬などの竪穴系埋葬施設を同一墳丘に多葬する事例は伊勢において広域に認められ、小谷古墳群においても顕著である。小谷13号墳の事例もこうした地域内に受け継がれる伝統的墓制の範疇にあるといえる。また、併葬された棺に伴う副葬品組成を比べると、豊富な鉄製武器・武具が認められる埋葬施設1にたいして、埋葬施設２には鉄器が２点の刀子しか確認されていないという格差も顕著である。埋葬施設の設定位置からは、明らかに当初から二棺の埋葬を予想したことがうかがえ、棺の規模からも明確な主従関係は認めにくい。埋葬施設２に葬られた人物は、小谷13号墳の築造に欠くことができない役割を担っていたことがうかがえる。

同一墳丘内に複数埋葬される竪穴系の埋葬施設において、副葬される武器組成に顕著な差異がある事例は、三重県昼河Ａ４号墳、愛知県松ヶ洞８号墳、静岡県大手内Ａ３号墳、静岡県文殊堂８号墳、静岡県愛野向山Ｂ12号墳などを典型例に、東海地方でも散見できる。これらの古墳は墳丘規模（直径もしくは一辺）20m以下の円墳もしくは方墳であり、多くの場合、近接する時期の古墳が集まり群集墳を形成している。さらに、築造時期も中期後葉～後期初頭に中心があるなど、小谷古墳群との共通性が高いといえる（第73表)。

小谷13号墳の場合、埋葬施設1に葬られた人物は、短甲の保有という前方後円墳を構築しうる階層と比べても優位な武器組成をもち、後述する短甲の埋納方法にも最新の情報を入手しえた。そこに、中央政権の強い関与があったことは想像に難くない。いっぽうで、同一墳丘内には、副葬品組成の異なるもう一人の人物を併葬するという伝統的墓制にのっとった葬送手法をもつ。副葬品が極めて少ないことから、埋葬施設２の被葬者について積極的に迫れない。ただし、第73表に類例としてあげた諸古墳において、副葬品が少ない埋葬施設には、剣や刀が１点程度みられる程度で鉄鏃をはじめとする武器の副葬がとくに低調である点や、玉類が比較的豊富にみられる点

第73表　副葬品組成の差

		主な副葬品
小谷13号	埋1	玉類、短甲、刀、剣、鏃、斧、鎌
	埋2	玉類、刀子
昼河A4号	西棺	刀、鏃、刀子、須恵器
	東棺	玉類、刀子
松ヶ洞8号	2号棺	鏡、玉類、剣、鏃、刀子
	1号棺	鏡、玉類
大手内A3号	埋2	剣、刀、鏃、刀子、斧
	埋1	玉類、刀、刀子
文殊堂8号	埋1	剣、ヤリ、鏃、斧、鎌、鉇
	埋2	剣
愛野向山B12号	礫槨	鏡、馬具、鏃、刀子
	粘土槨	鏡、玉類

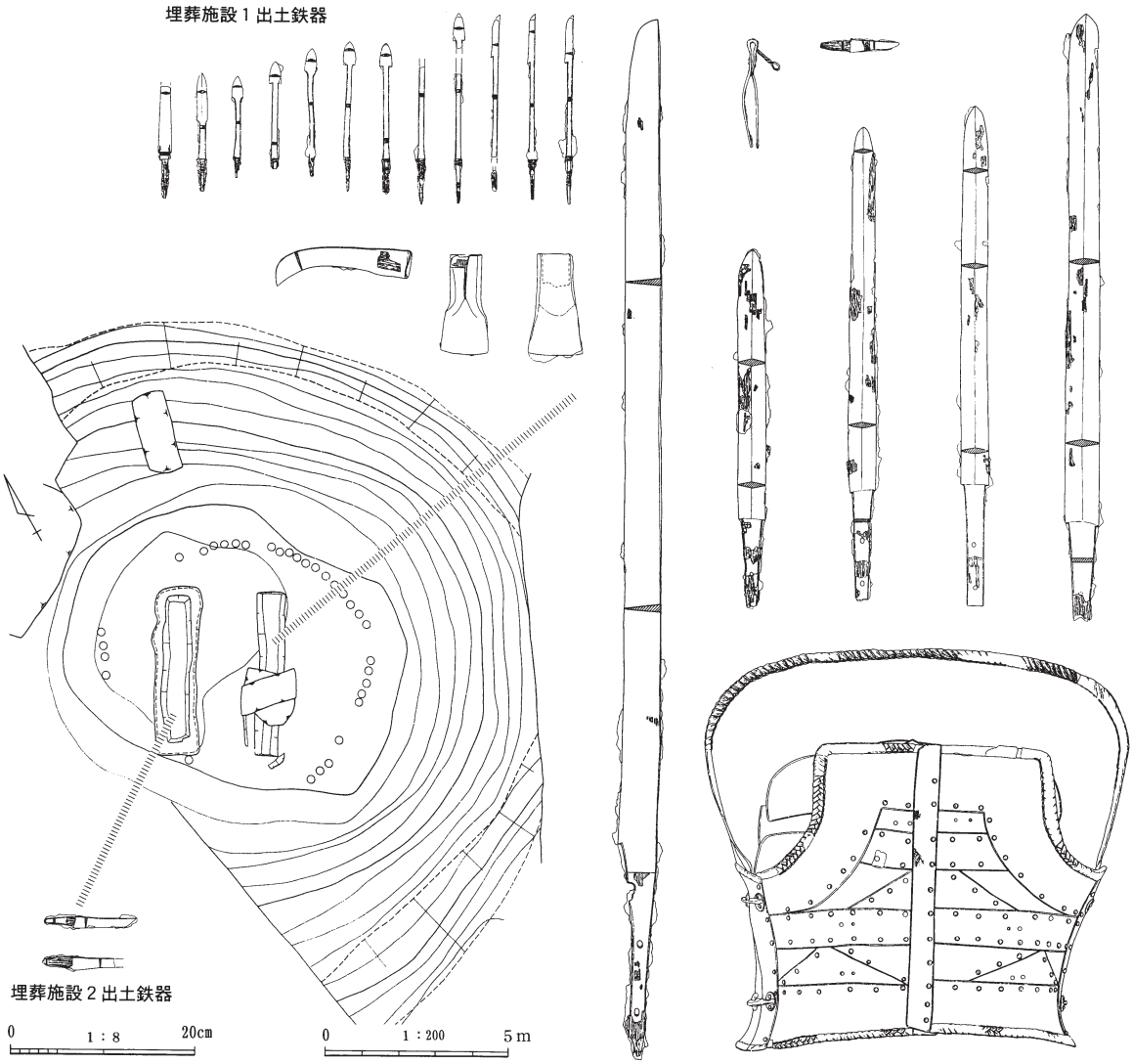
において、古墳時代前期の前方後円（方）墳にみられる前方部埋葬との類似性もうかがえる（下垣2002）。また、古墳時代前期から武器組成の中でも鉄鏃の有無が、被葬者の性格の差異を示す指標として有効であること（鈴木1996・清家1996）も示唆的である。

埋葬施設２に葬られた人物が、果たして前方後円（方）墳の前方部埋葬に連なるような性格であったのか、その当否はなお慎重な議論が必要である。ここでは、小谷13号墳の築造には、短甲をもちえた有力な人物のみならず、小規模ながら首長権を体現する、もう一人の埋葬が必須であったことを確認するにとどめておこう。小谷13号墳の造営主体は、性格が異なる複数の人物によって構成されるような、伝統的な社会に出自をもつ小首長層であったと評価できるだろう。

３　短甲埋納方法の特徴

小谷13号墳では短甲が後胴を上に向け伏せて副葬されていた。短甲の埋納方法には、時代の推移や、古墳被葬者の性格、地域差、葬送儀礼中に執行された所作などが反映されていると捉えられる。以下、若干の検討を加えておこう。

甲冑の埋納方法には、完形品の状態に手を加えず施設内に納める場合と、前胴を開いたり押し込めたり、さらには一部の部材を解体するなど、何らかの所作を経て埋納する場合がある（阪口2000）。前者の場合、短甲を立てる立位埋納と、伏せる横臥埋納の双方が広くみられ、後者の場合、多くは横臥埋納となる。横臥埋納は出土状態から確定的に捉えられ



第109図　小谷13号墳の副葬品構成

るが、立位埋納の認定については観察者の認識差があり、問題がある。

立位埋納の認定にあたっては、崩れて倒れ込んだ出土状態から判断することがあるが、異論も多い。立位埋納の革綴短甲は、後胴を上に向け横倒しになって出土するものがあり、横臥埋納との見極めが難しい。立位埋納された革綴短甲に、木棺や綴じ革の腐食とともに上からの圧力がかかる場合、後胴が強い衝撃を受け部材が散乱する状況が想定できる。筆者は、前胴と比べ後胴の部材が大きく乱れて出土する事例の多くは、立位埋納であったと推定している[3]。

立位埋納と横臥埋納は、時代の推移によって変化がみられる。古墳時代前期の方形板革綴短甲には立位埋納と横臥埋納の両者がみられるが、帯金式甲冑の成立以後は立位埋納の比率が急増する。近畿地方中枢部で甲冑を大量に出土する百舌鳥・古市古墳群や桜塚古墳群では中期前葉から中期中葉古段階を通じて、立位埋納の約束がほぼ確立されている。帯金式甲冑の立位埋納は、葬送儀礼の定律として、甲冑の配布行為と深くかかわり情報が地方にまで流布したと予想してよいだろう。

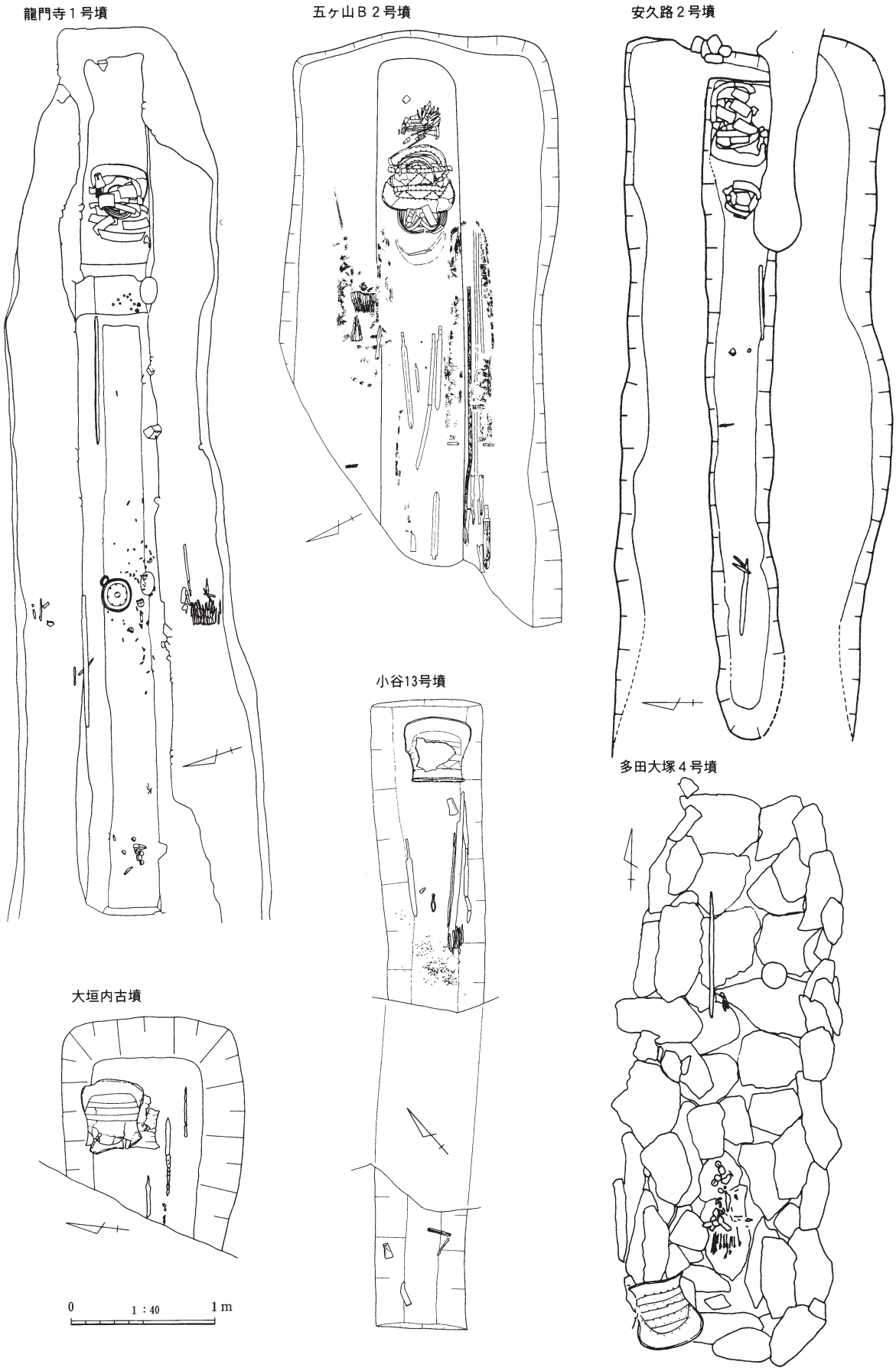
その後、短甲の立位埋納は、竪穴式石室や横穴式石室といった埋葬施設を中心に中期末まで残存する。いっぽう、粘土槨や木棺直葬といった埋葬施設においては、中期中葉以降、横臥埋納の事例が急増する。古市古墳群や桜塚古墳群においては、中期中葉新段階の珠金塚古墳や狐塚古墳に横臥埋納をみることができ、奈良県の新沢千塚古墳群や後出古墳群など、中期後葉～末には近畿地方の多くの中小古墳に横臥埋納が広がる。このように、帯金式短甲の埋納方法は、中期前葉には立位埋納が主流を占め、中期後葉になると立位に加え横臥埋納が増加する傾向にあるといえる（田中1975、藤田1989）。

横臥埋納が主体的にみられるのは粘土槨や木棺直葬といった埋葬施設であり、竪穴式石室や横穴式石室には中期中葉以降も立位埋納が比較的多く残存していることから、横臥埋納の出現は埋納空間の狭さに起因する可能性が指摘されている（藤田1989）。しかし、空間の制約が比較的少ないはずの棺外に横臥埋納が広くみられることや、横臥埋納された木棺が立位埋納できないような大きさであると断定できないことは留意すべきである。甲冑の横臥埋納は、近畿地方中枢部において中期中葉に創出された新たな埋納行為にかかわる儀礼形態であったと積極的に評価する立場をとりたい（田中1975）。

中期中葉以降、短甲を横臥埋納する事例には中小規模の古墳が目立つとともに、地域の差も認めてよい。伝統的な立位埋納を中期中葉以降も維持する古墳には、藤田和尊の指摘のように、竪穴式石室を埋葬施設にもつ有力古墳が多く（藤田1989）、被葬者の性格の違いが指摘できる。また、瀬戸内海沿岸や北部九州などに立位埋納の古墳が多く残存し、新沢千塚古墳群や後出古墳群といった奈良県内の古墳群や関東地方には、横臥埋納を行う中小規模の古墳が顕著にみられる。中期中葉から増加する横臥埋納は、新しい甲冑保有層の出現とともに定式化した儀礼形態であったとも捉えられる。短甲の横臥埋納は、中央政権がかかわる地方経営の転換も表されている可能性がある。

東海地方の甲冑出土古墳に目を移すと、立位埋納は三重県石山古墳東槨や岐阜県龍門寺1号墳など中期初頭の事例をはじめ、三重県わき塚古墳や、静岡県安久路２号墳、静岡県五ヶ山Ｂ２号墳、静岡県千人塚古墳など中期前葉から中期中葉古段階までの多くの古墳で確認できる。また、三重県近代古墳や静岡県文殊堂11号墳など、中期中葉新段階の古墳においても立位埋納がみられ、埋納施設の性格の違いを検討する必要があるが、中期末の静岡県石ノ形古墳も短甲が立位に埋納されている。これにたいして、横臥埋納は小谷13号墳のほか、三重県大垣内古墳や静岡県多田大塚４号墳などにみられ、脇を上に向け前胴を切り離した変則的な事例であるが、静岡県林２号墳も横臥埋納の範疇に含めることができる。これら横臥の埋納状態が確認できる古墳の築造時期は、中期後葉に中心があるが、小谷13号墳はこの中で比較的早い段階で横臥埋納を採用しているといえる。

東海地方で横臥埋納がみられる古墳は、いずれも直径20m以下の円墳である点でも、共通性が高い。甲冑の配布と廃棄にかかわる情報が結びついており、中期中葉以降に台頭する中小首長勢力に中央政権が直接的にかかわることの表われとも捉えられよう。また、上記にあげた古墳は、単独立地ではなく、同



第110図　甲冑の出土状態

第74表　東海地方における帯金式甲冑出土古墳の編年

時期	伊賀	伊勢・志摩	美濃	尾張・三河	遠江	駿河・伊豆	近畿中枢	鉄鏃
中期初頭	石山		龍門寺1号				和泉黄金塚	Ⅰ
中期前葉			(砂行1号)	(薬師)	安久路2号 各和金塚 狐塚（土器塚）		盾塚 百舌鳥大塚山 豊中大塚	Ⅱa
中期中葉 古段階	わき塚				安久路3号 五ヶ山B2号 千人塚		鞍塚 珠金塚（南） 御獅子塚（2）	Ⅱb
中期中葉 新段階	近代 (冑塚)	小谷13号 佐久米大塚 八重田16号	中八幡		文殊堂11号	南沼上3号	珠金塚（北） 御獅子塚（1） 野中	Ⅲ
中期後葉		おじょか	(南青柳)	経ヶ峰1号	林2号	多田大塚2号 多田大塚4号	長持山 黒姫山	Ⅳ
中期末		大垣内		志段味大塚	石ノ形		高井田山 大谷	

パーレン内の古墳は時期が不明瞭な事例、鉄鏃編年は（鈴木2003）参照

規模の古墳がまわりに多く展開する群集墳に含まれる点でも一致する。

4　東海地方における甲冑出土古墳

近年、東海地方でも帯金式甲冑の出土例が急増しているが、出土古墳の傾向を検討すると、時期差や地域の特性が指摘できる。全体的な分布の傾向として、遠江には甲冑が多く出土するが、尾張や三河は他地域と比べて甲冑の出土例が少ない。とくに、遠江においては、中期前半（中期初頭～中期中葉古段階）を中心とする時期の革綴甲冑が集中しており、その突出した状況が注目できる（鈴木1999・2002)。短甲と冑に加え、頸甲や肩甲が完備された事例も数多く認められ、中期前半の中央政権が拠点的に遠江の首長層を優遇していた可能性がうかがえる。しかし、こうした突出した状況は、中期後半（中期中葉新段階～中期末葉）には続かない。遠江には、中期後半にも甲冑の出土が認められるが、古墳数や武装の内容の比較からは、とくに突出した状況は見出せない。

遠江と対照的なあり方をみせる地域として、伊勢が注目できる。伊勢では、革綴甲冑の存在が希薄であるが、鋲留甲冑が集中する傾向が認められる。とくに、中期中葉新段階（ＴＫ216～ＯＮ46型式期）に甲冑が出土する古墳が集中しており、伊勢の地域的特性といえるだろう。また、東海地方では眉庇付冑の出土が佐久米大塚山古墳と八重田16号墳の２基にのみ知られているが、両墳とも伊勢に立地している点も示唆的である。眉庇付冑の成立には、鋲留技法や金銅の製作、彫金技術といった新しい金工技術の体系をもった渡来系集団とのかかわりが想定できる。その分布状況にも、中央政権が重視した地域にかかわる特定の意図が反映されていた可能性が高く、東海地方でも伊勢の重要性がこの段階に強く認識されていたことがうかがえる。

おじょか古墳にみられる筑後・肥前系の横穴式石室の存在に象徴されるように、中期後葉から急速に、東海地方の埋葬施設と北部九州とのかかわりが顕著になる。北部九州に起源のひとつがある竪穴系横口式石室を採用した愛知県経ヶ峰１号墳や、北部九州系の横穴式石室をもつ愛知県中ノ郷古墳の築造時期も、中期後葉に位置づけられる。経ヶ峰１号墳や中ノ郷古墳の副葬品は、北部九州のみならず朝鮮半島との直接的な関係をうかがわせるもので、熊野灘を経由して伊勢湾沿岸に至る、海の道を用いた広域ネットワークの形成を強く物語る（鈴木2002､2004)。このように、伊勢湾沿岸に広がる新興首長層の交渉先は、北部九州から朝鮮半島南部の各地へと開かれており多彩である。

地域内の枠組みをこえた広域の交流網は、中期前半においては、大型前方後円墳を築造する中核的な首長権のもとに集約されていたと想定できるが、地域再編が進行する中期後半には、中小の首長層がより直接的に物流網や情報のネットワーク上に参画しはじめたと考えられる。窯業生産や鉄器の加工、生産にかかわる外来系技術者の移入も盛んになり、新しい集団を取り込むための支配体制の再編も急速に進行したであろう。

甲冑出土古墳のみならず、中期中葉新段階には、

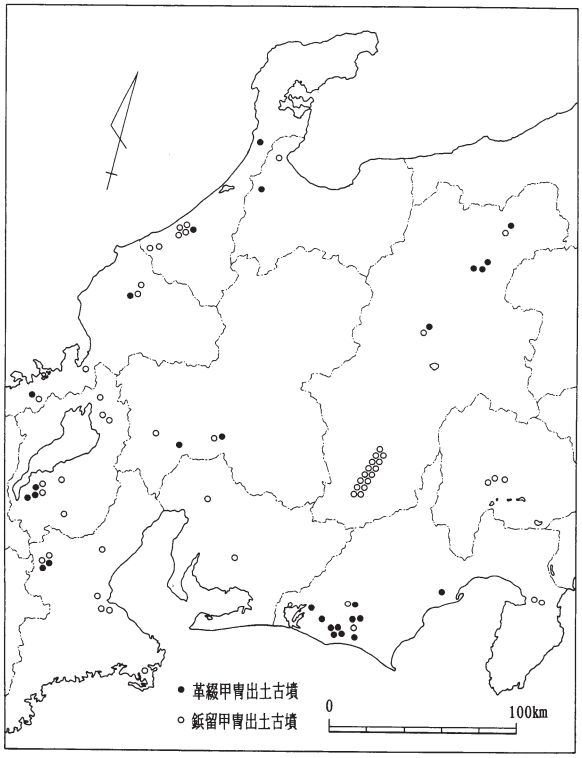
経塚古墳、平田35号墳、落合３号墳など、伊勢において鉄製武器を豊富に出土する中小古墳が比較的多く知られている（田中1999）。これらの古墳の築造時期は小谷13号墳と大きな差が認められず、それ以前の時期と比べ、突出した状況が明確である。さらに、小谷古墳群をはじめ、落合古墳群や八重田古墳群など、鉄製武器・武具を豊富に出土した古墳の多くは、前後する時期の古墳が多く認められるような群集墳を形成している点でも共通性が高い。

津市六大Ａ遺跡の調査成果は、伊勢ではＴＫ73型式期を溯る段階に須恵器生産が始まっていた可能性を示唆する。また、韓式系土器の出土に示されるように、中期前葉において須恵器生産とかかわるような渡来人が居住していたことも、うかがえる（穂積（編）2002）。東海地方の中でも韓式系土器の移入量に多寡が認められ、伊勢から尾張、三河、遠江に至るに従いその量は希薄になる（森1999）。東海地方における渡来系集団の流入人口に、ある程度の地理的勾配を認めてもよいだろう。

このように、伊勢においては、渡来系技術者の移入が東海地方の中でも比較的早い段階になされていたことをうかがわせるが、こうした先進性は中期中葉に顕在化する技術革新を円滑に受け入れていく素地となったことは疑いない。新来の技術者集団の移入に示される地域産業の勃興は、伝統的な地域秩序の再編を促すとともに、統括的な首長権の構造を変質させるひとつの誘因となったことであろう。中期中葉以降にみられる大首長墓の衰退と、群集墳の形成に示される中小首長層の隆盛は、有機的な関連をもって推移しているとみて間違いない。

伊勢の中小古墳に甲冑が副葬された現象には、最新の威信財を贈与することによって、新興の中小首長層を直接的に政権傘下に取り込もうとした中央政権の意図がうかがえる。中期後半には、日本列島規模で甲冑を出土する中小古墳が増加する傾向が認められるが（野上1968、川西1983、滝沢1994）、関東や九州においては新相を示す鋲留甲冑の段階（ＴＫ208～ＴＫ47型式期、中期後葉～末）に中心があることにたいし、伊勢においては古相を示す鋲留甲冑の段階（ＴＫ216～ＯＮ46型式期、中期中葉新段階）の事例が多いことに最大の特徴がある。技術者集団の移入や中核的首長権の解体に伴う地域再編の進度、さらには中央政権の政策的意図の差異が、出土甲冑の時期差に反映されていると想定できる。ここに、列島規模で進行しつつあった地域再編に、いちはやく中央政権が拠点的に反応していくという、先進的要素が強い伊勢の地域的な特性をみることができるだろう。

こうした伊勢における中期中葉新段階の突出した状況は、海路を伝い渥美半島や遠江を繋ぐ交易網が活発化することとも関連をもたせて理解したい。須恵器生産と密接にかかわる淡輪系埴輪の移入（鈴木1994）や、須恵器焼成技術そのものの遠江への伝播は、中期中葉～後葉に活性化する広域技術拡散の動きのひとつであり、さらに後期には、畿内系石室の伝播や（土生田1988）、横穴式木室の隆盛（鈴木1991）など、伊勢と遠江を繋ぐ要素はそれ以前にも増して濃密になる。甲冑が出土する中小の古墳が両地域にみられる点も、伊勢と遠江における古式群集墳の類似性（森1999）のひとつにあげてもよいだろう。伊勢湾を横断する交易網は、東国につながる海の道であることはいうまでもない。中小首長間を直接的に結ぶ全国的なネットワーク化の足がかりとして、中



第111図　中部地方における帯金式甲冑出土古墳の分布

央政権が伊勢地域を先行的に取り込む必要に迫られていたことも、上述の文脈の中でより理解が深まる。

結語

小論では、小谷13号墳とほぼ同時期に築造された周辺の古墳と比較する中で、短甲を除く武器組成に類似する部分が多いことを確認し、小谷13号墳に短甲がみられることの特異性を指摘した。また、二棺併葬や埋葬施設の特徴から、小谷13号墳は伝統的な地域社会に出自をもつ小首長層であると捉えた。さらに、横臥埋納という短甲の副葬方法の採用に最新の儀礼にかかわる情報をえていることを指摘し、横臥埋納は新たな甲冑保有層の出現とかかわる儀礼形態を示す可能性について論じた。東海地方における古墳時代中期の甲冑出土古墳の特徴についても検討を加え、伊勢においては、小谷13号墳が築かれる中期中葉新段階に甲冑出土古墳が集中する背景について注目した。

小谷13号墳の築造主体は、須恵器生産など地域産業の隆盛や広域交易網の拡充に伴い中期中葉に新たに勢力をえた小首長層であり、短甲の贈与を受けるという、中央政権の政策転換にもいちはやく反応した集団といえる。その背景には、中小首長どうしを結ぶ広域ネットワーク化の動きに率先して対応する必要があった中央政権側の意図もうかがえる。短甲の配布が許されたことに象徴されるように、小谷古墳群が形成される端緒として、地域社会におけるその後の影響も大きかったと考えられる。

中央政権から地方へ至る甲冑の移動に、全国的な軍事組織の拡充過程を重ねる認識が支配的であるが、甲冑の威信財としての性格も正当に理解する必要がある。小論で指摘したように、中期中葉新段階以降の中小古墳の場合には、短甲の保有を除くと、甲冑をもたない古墳と比べて著しい武器組成の差異が認められないことにも注意したい。中期後葉にみられる普及品としての鋲留短甲の量産は、稀少なことに意味がある威信財としての性質を著しく変質させている。中央政権が推進した甲冑の贈与には、見返りとして軍事的なサービスを期待したことは想像に難くないが、整備された軍事組織の傘下に組み入れるというより、各首長との人格的な関係を取り結ぶことに最大の意味があったと捉えたい。

〔註〕

⑴　長持山古墳には、図に示した片刃鏃のほかに、逆刺が発達した広身の鏃身部をもつ鉄鏃も知られている。中期後葉には、平根系の鏃身部をもつ鉄鏃に軸状の頸部をもつものが出現するが、この事例も、こうした平根系鉄鏃の系譜の中で理解すべきものと考える。平根系の鏃身部をもつものは、一般的に細身の鏃身部をもつものに比べて頸部長が短い傾向があり、頸部長の単純な比較はできない。また、長頸鏃の頸部が短小化する傾向も一部の系列で看取でき、頸部長の比較による時期認定は困難といえる。

⑵　小谷13号墳から出土した剣のうち、頭位方向に切先を向ける剣４にかんしては、ヤリであった可能性がある。ただし、ヤリと判断できるような拵えの特徴や柄の痕跡が確認できないことから、ここでは暫定的に剣に含めることとする。

⑶　このほか、革綴短甲の埋納については、葬送儀礼において綴じ革を故意に切り離す所作がなされた可能性もあり、出土状態の詳細な観察、記録が不可欠である。

〔参考文献〕

川西宏幸　「中期畿内政権論」(『考古学雑誌』 第69巻第２号　1983年)

田中新史　「五世紀における短甲出土古墳の一様相―房総出土の短甲とその古墳を中心として―」(『史館』 第５号　1975年)

田中新史　「古墳時代中期前半の鉄鏃（２)」(『土筆』第５号　1999年)

阪口英毅　「古墳時代中期における甲冑副葬の意義」(『表象としての鉄器副葬』 鉄器文化研究会　2000年)

下垣仁志　「前方部埋葬論」(『古代学研究』 158　2002年)

鈴木一有　「前期古墳の武器祭祀」(『雪野山古墳の研究　考察編』 雪野山古墳発掘調査団　1996年)

鈴木一有　「五ヶ山B２号墳の被葬者像」(『五ヶ山Ｂ２号墳』 浅羽町教育委員会　1999年)

鈴木一有　「経ヶ峰１号墳の再検討」(『三河考古』 第15号　2002年)

鈴木一有　「中期古墳における副葬鏃の特質」(『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』 第11集　2003年)

鈴木一有　「中ノ郷古墳出土遺物の検討」(『三河考古』 第17号　2004年)

鈴木敏則　「横穴式木室雑考」(『三河考古』 第４号　1991年)

鈴木敏則　「淡輪系円筒埴輪」(『古代文化』 第46巻第２号　1994年)

清家　章　「副葬品と被葬者の性別」(『雪野山古墳の研究　考察編』 雪野山古墳発掘調査団　1996年)

滝沢　誠　「鋲留短甲の編年」(『考古学雑誌』 第76巻第３号　1991年)

滝沢　誠　「甲冑出土古墳からみた古墳時代前・中期の軍事編成」(『日本と世界の考古学』 岩崎卓也先生退官記念論文集編集委員会　1994年)

東海考古学フォーラム　(『古墳時代中期の大型墳と小型墳』　2002年)

野上丈助　「古墳時代における甲冑の変遷とその技術史的意義」(『考古学研究』 第14巻第４号　1968年)

土生田純之　「西三河の横穴式石室」(『古文化談叢』 第20集上　1988年)

藤田和尊　「古墳時代における武器・武具保有形態の変遷」(『橿原

第75表　東海地方における中期型甲冑出土古墳

古墳名	墳形	規模(m)	埴輪	甲	冑	頸甲	肩甲	付属具
三重県石山(東櫛)	前方後円墳	120	○	長方板革綴短甲				
三重県わき塚	方墳	23	○	長方板革綴短甲	三角革綴衝角付冑	○	○	草摺？
三重県冑塚	方墳	50	○	三角板鋲留短甲	鋲留衝角付冑			
三重県近代	前方後円墳	30	○	三角板鋲留短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	
三重県大垣内	円墳	20	無	横矧板鋲留短甲				
三重県小谷13号	円墳	16	○	三角板鋲留短甲				
三重県八重田16号	方墳	16	○	三角板鋲留短甲	小札鋲留眉庇付冑	○	○	
三重県佐久米大塚山	前方後円墳？	不明	不明	短甲	小札鋲留眉庇付冑			
三重県おじょか	円墳？	17？	○	鋲留短甲				
岐阜県龍門寺1号	円墳	17	○	長方板革綴短甲		○	○	
岐阜県中八幡	前方後円墳	43	○	三角板鋲留短甲				
岐阜県砂行1号	円墳	22	無	革綴短甲				
岐阜県南青柳	円墳	20	無	横矧板鋲留短甲				
愛知県志段味大塚	前方後円墳	52	○	挂甲	鋲留冑付冑		○	篭手
愛知県経ヶ峰1号	前方後円墳	35	○			○	○	
愛知県（伝）岡崎	不明	不明	不明	横矧板鋲留短甲				
愛知県薬師	円墳	24	無				○	
静岡県狐塚	円墳	13	○	長方板革綴短甲				
静岡県千人塚	円墳	49	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	△	△	
静岡県土器塚	円墳	36	無	長方板革綴短甲				
静岡県安久路2号	円墳	26	無	長方板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑			
静岡県安久路3号	円墳	27	○	長方板革綴短甲			△	小札
静岡県五ヶ山B2号	方墳	33×28	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	草摺？
静岡県石ノ形	円墳	27	○	横矧板鋲留短甲				
静岡県文殊堂11号	円墳	18	無	三角板革綴短甲				
静岡県林2号	円墳	16	無	三角板鋲留短甲				
静岡県（伝）幕ヶ谷	不明	不明	不明	革綴短甲				
静岡県各和金塚	前方後円墳	62	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	
静岡県南沼上3号	円墳	16	無	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑			
静岡県多田大塚2号	円墳	16	無	横矧板鋲留短甲				
静岡県多田大塚4号	円墳	20	無	横矧板鋲留短甲				

所在・形式が判明しているものに限る　　凡例　○：存在する　△：存在する可能性がある

考古学研究所論集』第八　1988年)

藤田和尊　「武器・武具」(『季刊考古学』第28号　雄山閣　1989年)

藤田和尊　「遠江における甲冑出土古墳の様相と意義」(『石ノ形古墳』袋井市教育委員会　1999年)

穂積裕昌(編)　『六大Ａ遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター（2002年)

森　泰通　「東海地方における5世紀後半の諸相」(『渡来文化の受容と展開』埋蔵文化財研究会　1999年)

吉村和昭　「短甲系譜試論―鋲留短甲導入以後を中心として―」(『橿原考古学研究所紀要　考古学論攷』第13冊　奈良県立橿原考古学研究所　1988年)

〔古墳文献〕

栃木県七廻り鏡塚　大和久震平(編)『七廻り鏡塚古墳』帝国地方行政学会（1971年)

石川県和田山５号　吉岡康鴨・河村好光（編)『加賀能美古墳群』寺井町教育委員会（1997年)

岐阜県中八幡　横幕大祐・内山敏行・鈴木一有『中八幡古墳資料調査報告書』池田町教育委員会（2005年)

岐阜県龍門寺１号　楢崎彰一『岐阜市長良龍門寺古墳』岐阜市教育委員会（1962年)

岐阜県砂行１号　成瀬正勝(編)『砂行遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター（2000年)

岐阜県南青柳　岡田吉孝(編)『南青柳遺跡　南青柳古墳　大平前遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター（2002年)

静岡県多田大塚２・４号　原　茂光ほか　「韮山町多田大塚古墳群芋ヶ窪古墳群発掘調査報告」(『静岡県の前方後円墳―個別報告編―』静岡県教育委員会 2001年)

静岡県南沼上３号　天石夏実　「南沼上古墳群」(『ふちゅーる』№３　静岡市教育委員会　1995年)

静岡県各和金塚　岩井克允『各和金塚古墳　高圧送電線鉄塔改修に伴なう発掘調査報告』掛川市教育委員会（1978年）平野吾郎ほか『各和金塚古墳』掛川市教育委員会（1981年)

静岡県石ノ形　白澤　崇(編)　『石ノ形古墳』袋井市教育委員会（1999年)

静岡県（伝）袋井幕ヶ谷　吉岡伸夫「幕ヶ谷遺跡」(『静岡県史』資料編２考古二 静岡県　1990年)

静岡県愛野向山B12号　松井一明　「遠江・駿河における初期群集墳の成立と展開」(『地域と考古学』向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会　1994年)

静岡県五ヶ山Ｂ２号　鈴木一有(編)　『五ヶ山B2号墳』浅羽町教育委員会（1999年)

静岡県文殊堂８・11号・林２号　田村隆太郎　「静岡県周智郡森町林古墳群の調査」(『考古学ジャーナル』No.486　2002年)

静岡県大手内A３号　柴田　稔『大手内古墳群』豊岡村教育委員会(2000年)
静岡県安久路２・３号　磐田市教育委員会『安久路２・３号墳の写真集』(1989年)　中嶋郁夫「古墳時代」『磐田市史』資料編１考古・古代・中世(1992年)
静岡県土器塚　竹内直文・鈴木一有　『土器塚古墳確認調査報告書』磐田市教育委員会(2002年)
静岡県千人塚　鈴木敏則　『千人塚古墳、千人塚平・宇藤坂古墳群』浜松市教育委員会(1998年)　鈴木一有「千人塚古墳の研究(１)・(２)」(『浜松市博物館館報』Ⅶ・Ⅷ　1995・96年)
静岡県狐塚　木村文雅(編)『細江町史』資料編６細江町(1986年)
愛知県(伝)岡崎　鈴木一有・齊藤香織「剣菱形杏葉出現の意義－伝岡崎出土資料をめぐる問題－」『三河考古』第９号(1996年)
愛知県経ヶ峰１号　斎藤嘉彦(編)『経ヶ峰１号墳』岡崎市教育委員会(1981年)　鈴木一有「経ヶ峰1号墳の再検討」(『三河考古』第15号　2002年)
愛知県中ノ郷　鈴木一有　「中ノ郷古墳出土遺物の検討」(『三河考古』第17号　2004年)
愛知県志段味大塚　名古屋市博物館『守山の遺跡と遺物』(1984年)　京都大学総合博物館　『王者の武装－５世紀の金工技術－』(1997年)
愛知県松ヶ洞８号　久永春男ほか(編)『守山の古墳』守山市教育委員会(1963年)
三重県石山　京都大学文学部博物館『紫金山古墳と石山古墳』(1993年)
三重県わき塚・冑塚　森浩一ほか　「三重県わき塚古墳の調査」(『古代学研究』66　1973年)
三重県近代　三重県教育委員会編『三重県埋蔵文化財年)報』17(1987年)
三重県経塚　真田幸成『経塚古墳』鈴鹿市教育委員会(1966年)
三重県落合３号　伊藤裕偉(編)『近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書－第７分冊－落合古墳群』三重県埋蔵文化財センター(1992年)
三重県平田35号　竹内英昭ほか(編)『平田古墳群』安濃町遺跡調査会(1987年)
三重県大垣内　亀山　隆『大垣内古墳発掘調査報告書Ⅰ』亀山市教育委員会(1997年)
三重県佐久米大塚山　下村登良男『松阪市史』第２巻　資料編考古　松阪市(1978年)
三重県八重田16号　下村登良男(『八重田古墳群発掘調査報告書』松阪市教育委員会(1981年)
三重県昼河A４号　岩中淳之(編)『昼河古墳群』伊勢市教育委員会(1993年)
三重県おじょか　小玉道明ほか『志摩・おじょか古墳発掘調査概要』阿児町教育委員会(1968年)　米田文孝(編)『紀伊半島の文化史的研究考古編』関西大学文学部考古学研究第６冊(1992年)
大阪府七観　末永雅雄　「七観古墳とその遺物」(『考古学雑誌』第23巻第５号　1933年)　樋口隆康ほか　「和泉七観古墳調査報告」(『古代学研究』第27号　1961年)
大阪府藤の森　西谷　正『藤の森・蕃上山二古墳の調査』大阪府水道局(1965年)
大阪府鞍塚・珠金塚　末永雅雄(編)『盾塚　鞍塚　珠金塚古墳』由良大和古代文化研究協会(1991年)
大阪府野中　北野耕平『河内野中古墳の研究』大阪大学文学部国史研究室研究報告第２冊(1976年)
大阪府長持山　小林行雄「鉄鏃」(『図解考古学辞典』東京創元社1959年)　京都大学総合博物館　『王者の武装－５世紀の金工技術－』(1997年)
兵庫県梅田１号　菱田淳子ほか『梅田古墳群Ⅰ』兵庫県教育委員会(2002年)
兵庫県小野王塚　岸本直文「小野市の考古資料」(『小野市史』第4巻資料編Ⅰ小野市(1997年)
奈良県藤ノ木　前園実知雄ほか(編)　『斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書』奈良県立橿原考古学研究所(1995年)

〔図出典〕

第108図
１～５・10・11：末永(編)1991より改変再トレース
12：小林1959より改変再トレース
18～20：田中1999より改変再トレース
21～24：伊藤(編)1992より改変再トレース
６～９：筆者原図、トレース　なお、６は大阪城天守閣保管(1913年出土分)、７～９は大阪大学保管　実測図の作成にあたっては両機関の協力をえた

第110図
各古墳報告書より引用

第111図
筆者作成　なお、同一古墳において革綴甲冑と鋲留甲冑が共伴する場合は、鋲留甲冑出土古墳に含めた

写　真　図　版

小谷13号墳から伊勢平野（松阪方面）を望む

6 次調査区　全景（北から）

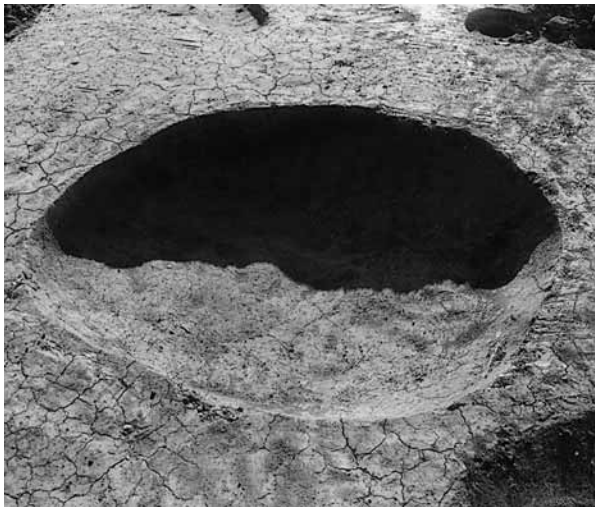
7 次調査区　全景（北から）

図版２

６次調査区　全景（南から）

７次調査区　北半（北から）

ＳＫ352　調査状況（南から）



ＳＫ352（南から）

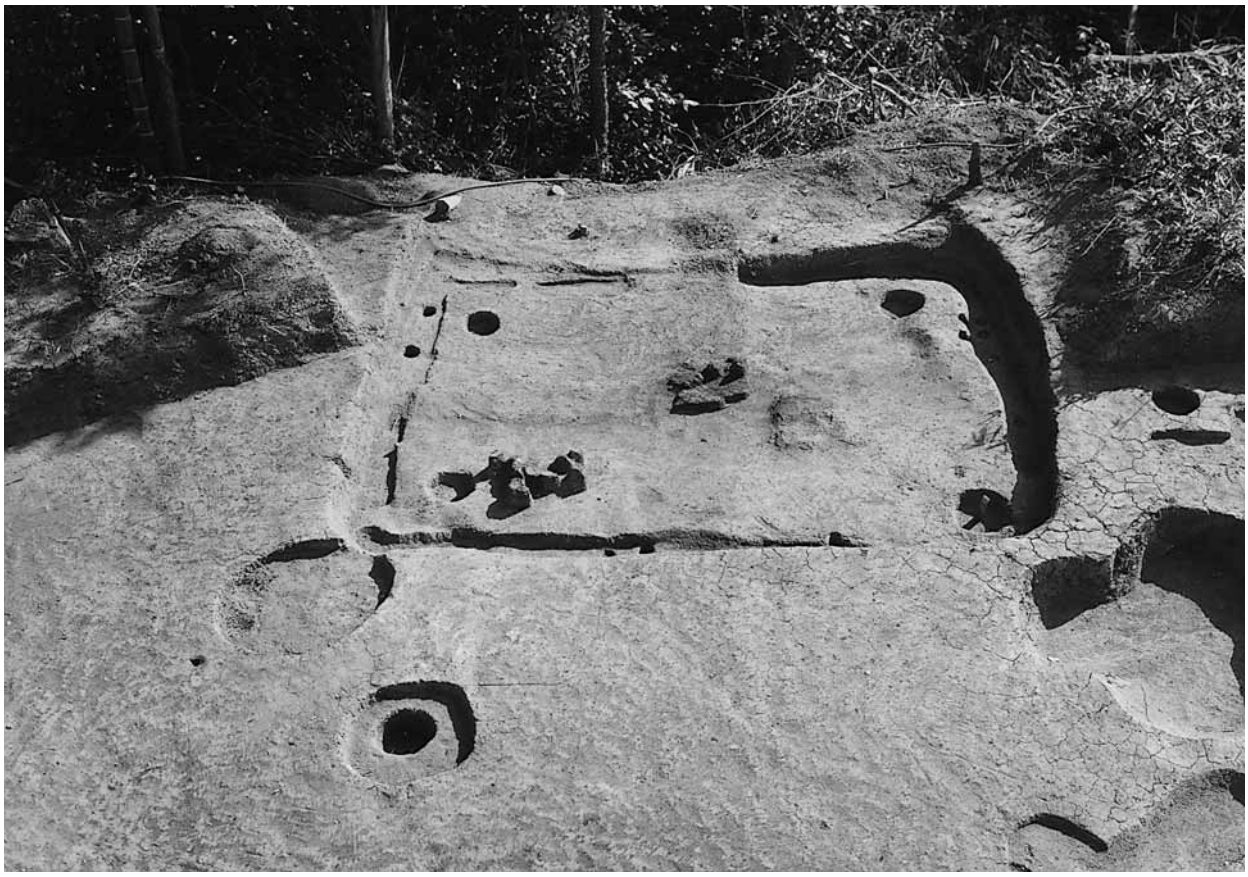
ＳＫ345（南から）

図版４

ＳＨ343（南東から）

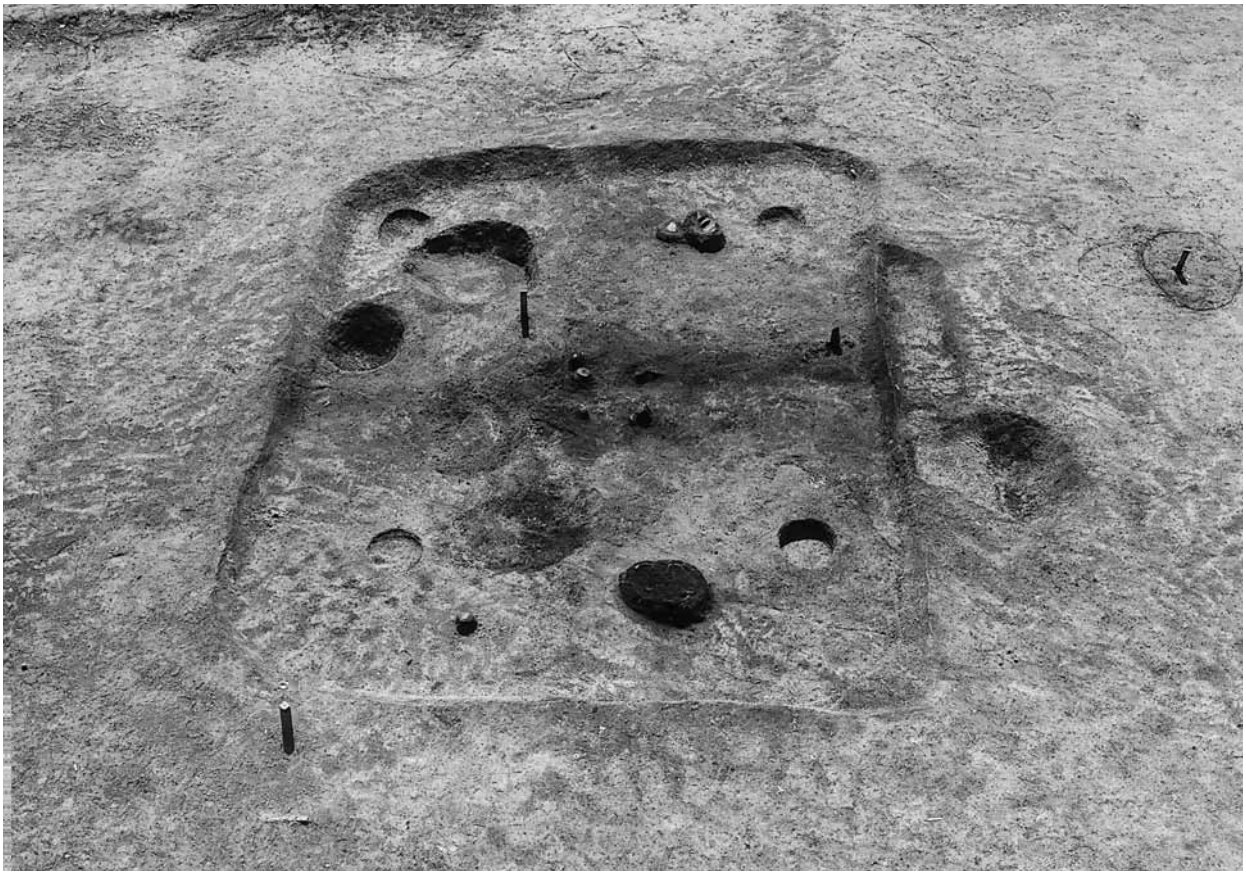
ＳＨ344（南東から）

ＳＨ353（西から）



ＳＨ356（北西から）

図版６



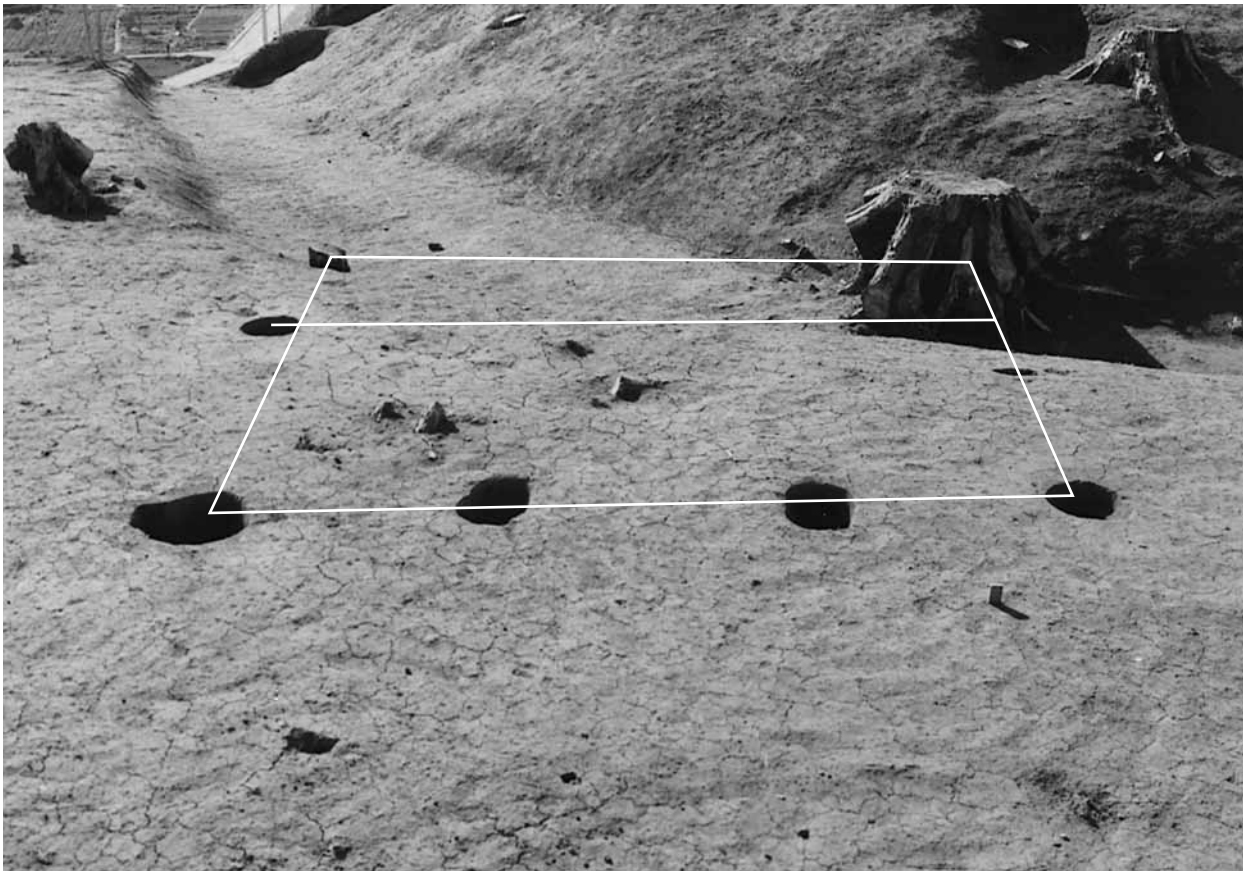
ＳＨ385（北から）

ＳＨ390（東から）

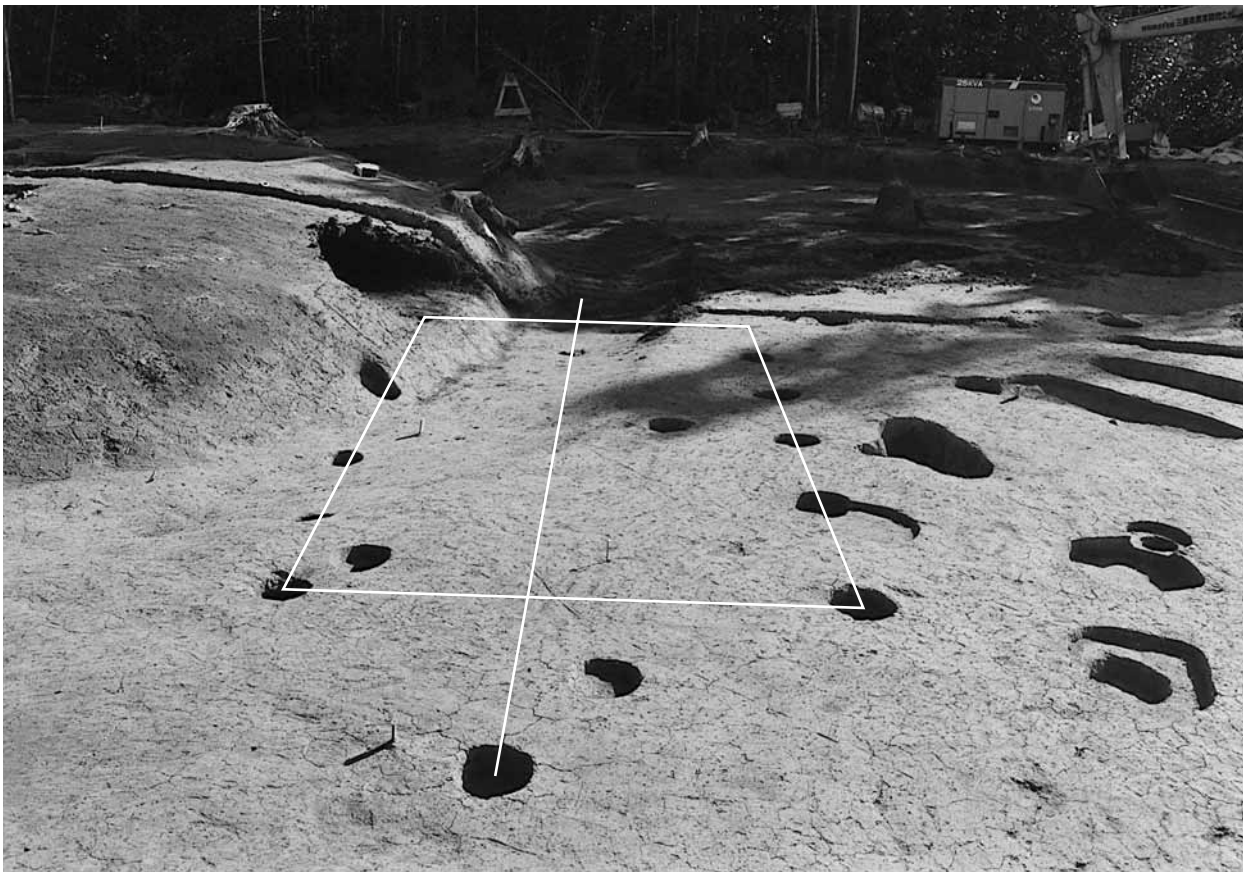
ＳＨ388（北東から）

ＳＨ388　土器出土状況（北から）

図版８



ＳＢ361（北から）



ＳＢ360（西から）

ＳＫ362（西から）

ＳＫ362　出土状況（南から）

ＳＫ362　出土状況（南から）

ＳＸ386　出土状況（東から）

ＳＫ364　出土状況（西から）

図版10

小谷９号墳　全景（西から）

小谷９号墳　埋葬施設１～５　全景（西から）

小谷９号墳　埋葬施設１（西から）

小谷９号墳　埋葬施設１（北から）

図版12

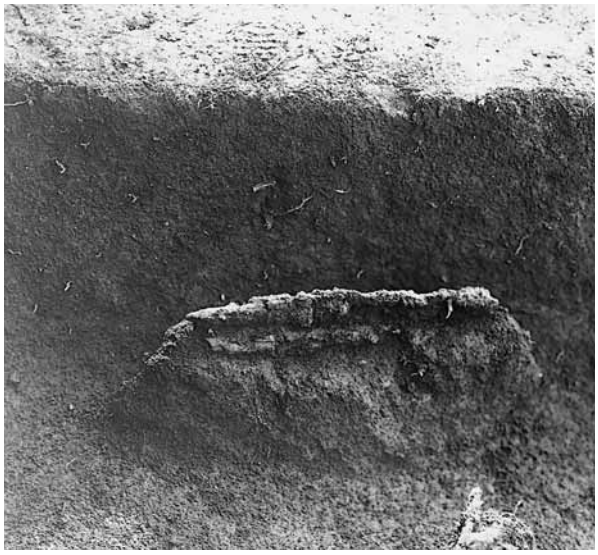
小谷９号墳　埋葬施設２（東から）

小谷９号墳　埋葬施設２（南から）

小谷９号墳　埋葬施設２　鏃上層・Ｃ群（南から）

小谷９号墳　埋葬施設２　鏃Ａ・Ｂ群（南から）

小谷９号墳　埋葬施設２　棺東木口土器群（西から）



小谷９号墳　埋葬施設２　刀子　出土状況（北から）

小谷９号墳　埋葬施設２　棺外須恵器出土状況（西から）

小谷９号墳　埋葬施設２　棺西側木口板石（南から）

図版14

小谷９号墳　埋葬施設３（西から）

小谷９号墳　埋葬施設３（北から）

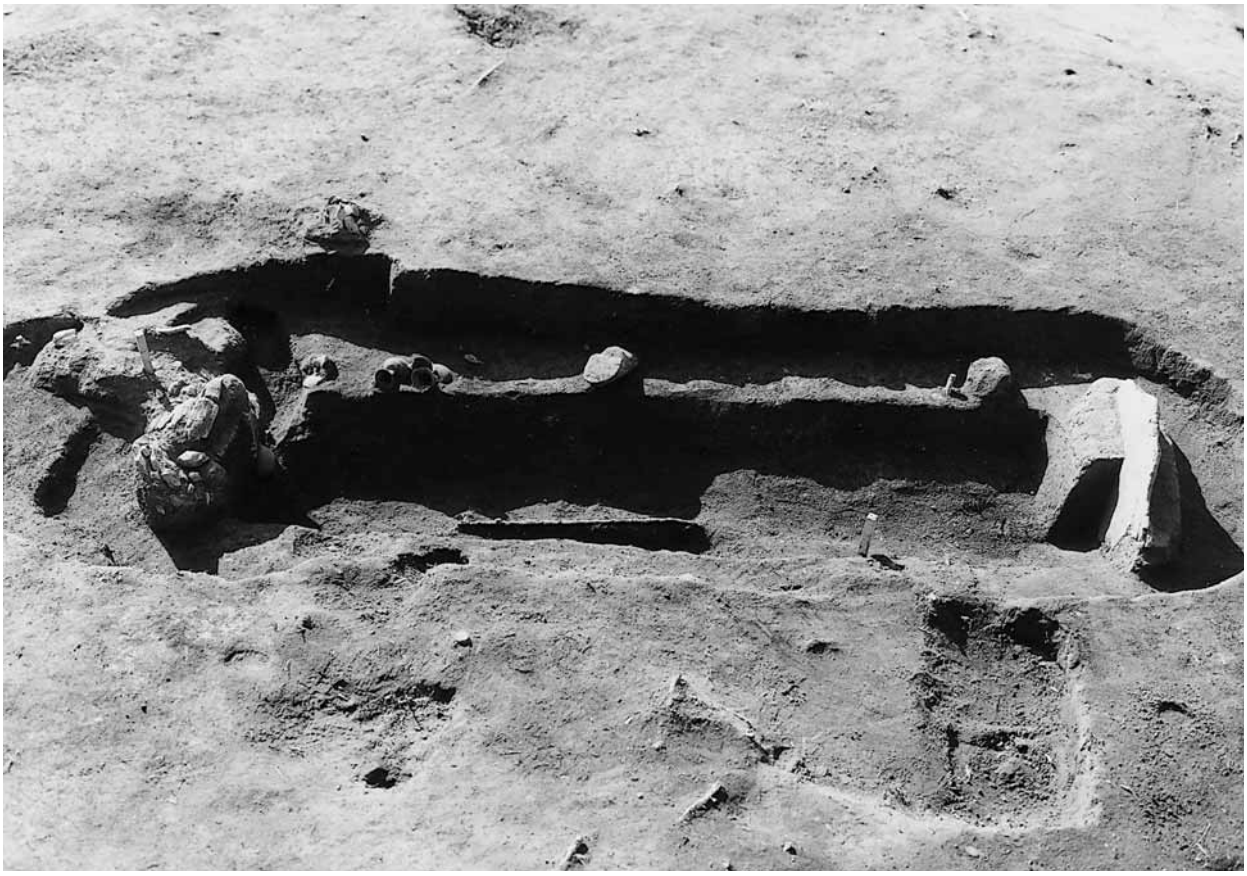
小谷９号墳　埋葬施設４・５（西から）

小谷９号墳　埋葬施設４　鏃出土状況（南から）

図版16

小谷10号墳　全景（北西から）

小谷10号墳　埋葬施設１～３　全景（西から）



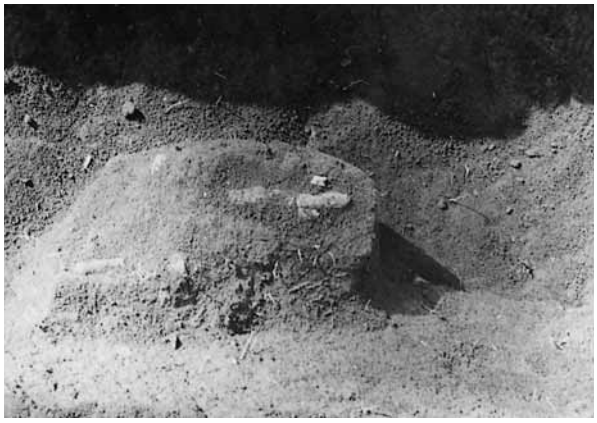
小谷10号墳　埋葬施設１（北から）

小谷10号墳　埋葬施設１　副葬品出土状況（南から）

図版18

小谷10号墳　埋葬施設２（西から）

小谷10号墳　埋葬施設２（東から）



小谷10号墳　埋葬施設２　棺内副葬鹿角装刀子（北から）

小谷10号墳　埋葬施設２　棺内副葬鏃（北から）

小谷10号墳　埋葬施設２　棺外･棺上副葬土器出土状況（南から）

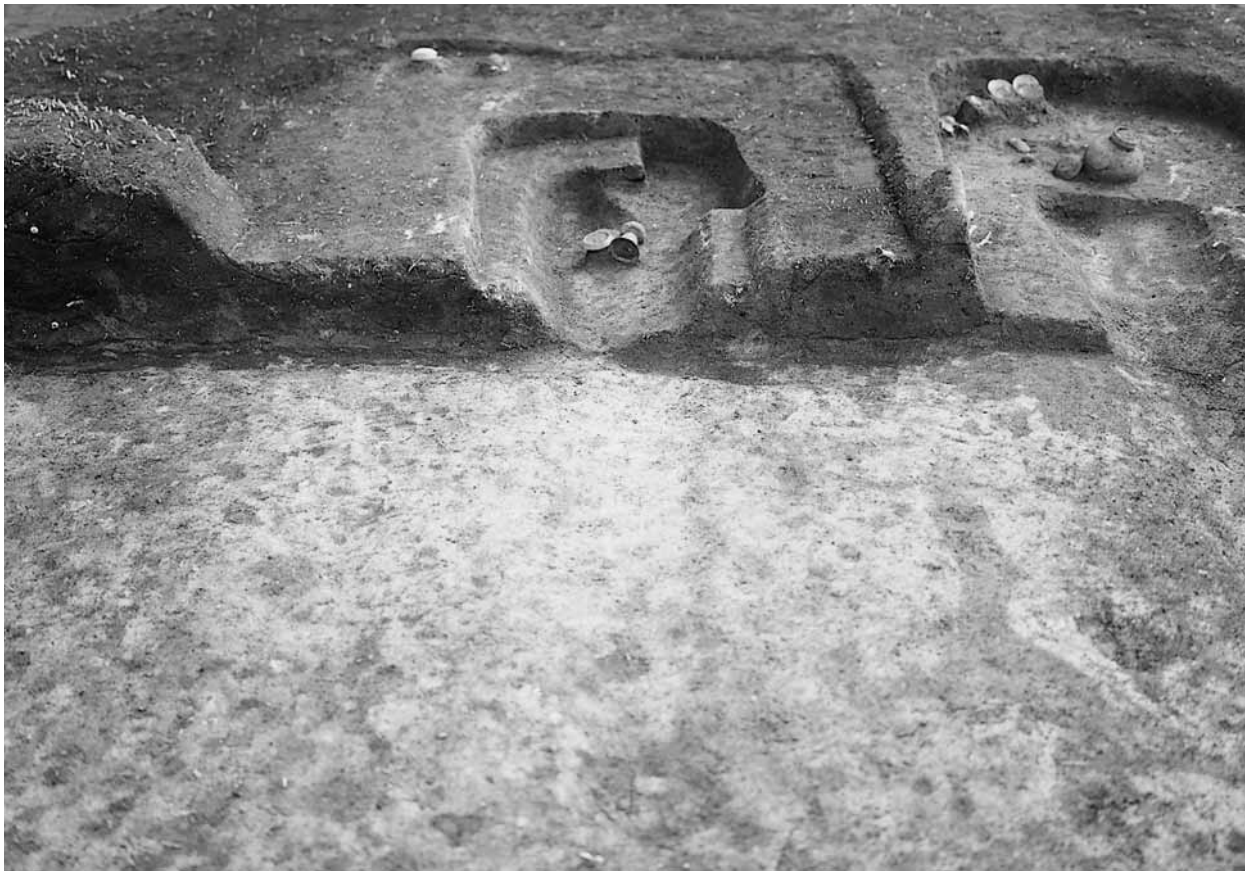
小谷10号墳　埋葬施設２　棺外東木口副葬土器（南から）

小谷10号墳　埋葬施設３（西から）

図版20

小谷11号墳　全景（西から）

小谷11号墳　埋葬施設１・２　全景（西から）



小谷11号墳　埋葬施設１（西から）

小谷11号墳　埋葬施設２（西から）

図版22

小谷11号墳　埋葬施設１　棺内副葬土器（西から）

小谷11号墳　埋葬施設１　棺内副葬土器（北から）

小谷11号墳　埋葬施設１　棺外副葬土器（北から）

小谷11号墳　埋葬施設２　棺外東木口副葬品（東から）

小谷11号墳　埋葬施設２　棺内副葬土器（北から）

小谷11号墳　埋葬施設２　棺外東木口副葬品（南から）

小谷12号墳　全景（東から）

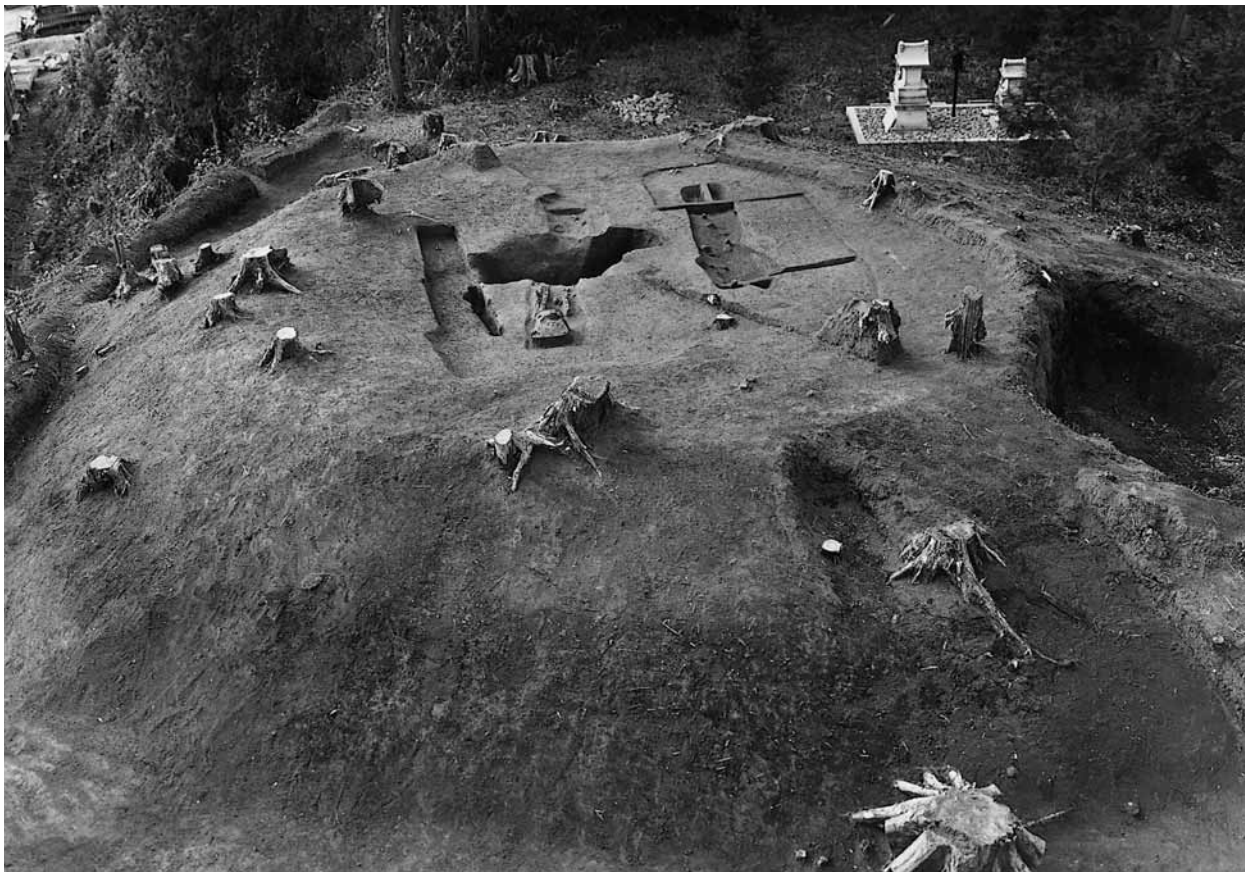
小谷12号墳　埋葬施設１（東から）

図版24

小谷12号墳　埋葬施設１（北から）

小谷12号墳　埋葬施設２（東から）

小谷13号墳　全景（北から）



小谷13号墳　埋葬施設１・２　全景（北から）

図版26

小谷13号墳　埋葬施設１・２　全景（南から）

小谷13号墳　埋葬施設１（北から）

小谷13号墳　埋葬施設１（西から）

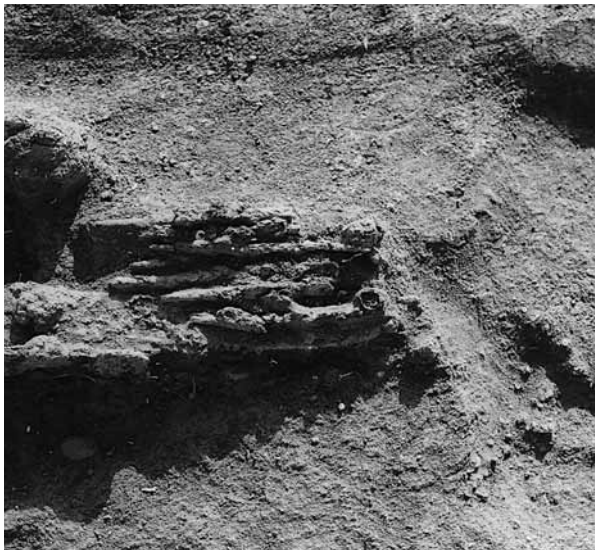
小谷13号墳　埋葬施設２（西から）

図版28

小谷13号墳　埋葬施設１　棺内南部副葬品（東から）

小谷13号墳　埋葬施設１　棺内北部副葬品（西から）

小谷13号墳　埋葬施設１　検出作業（東から）



小谷13号墳　埋葬施設１　鏃出土状況（西から）

小谷13号墳　埋葬施設１　鑷子・刀子出土状況（西から）

小谷13号墳　埋葬施設１　臼玉出土状況（西から）

小谷13号墳　埋葬施設１　短甲取上作業（西から）

小谷13号墳　埋葬施設１　短甲胴内白色粘土（西から）

図版30

小谷13号墳　家形埴輪・須恵器壺出土状況（北から）

小谷13号墳　墳頂埴輪列（北東から）

小谷13号墳　墳頂埴輪列（東から）

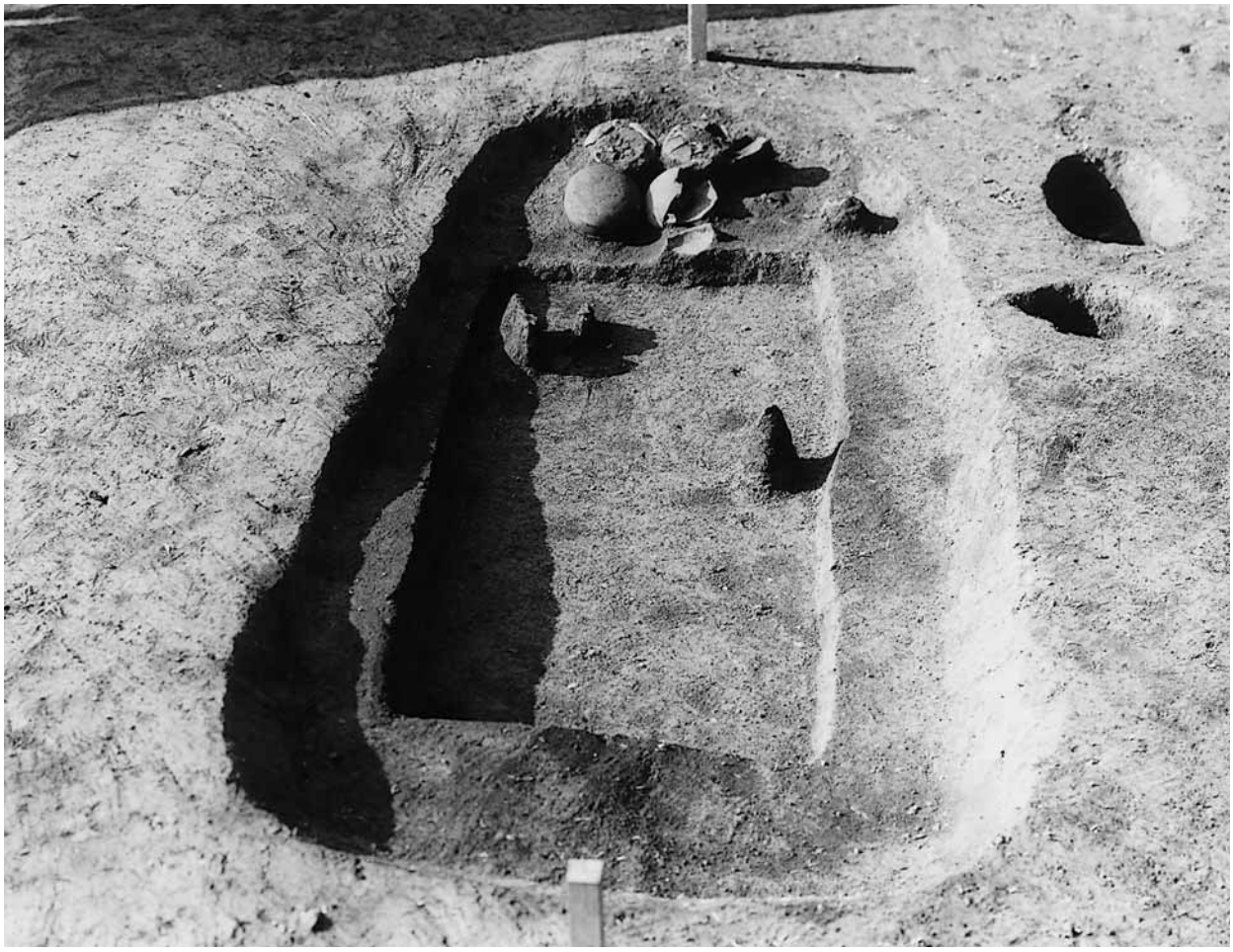
小谷24号墳　全景（西から）

小谷24号墳　埋葬施設１・２・ＳＸ381　全景（西から）

図版32

小谷24号墳　埋葬施設１（西から）

小谷24号墳　埋葬施設２（西から）

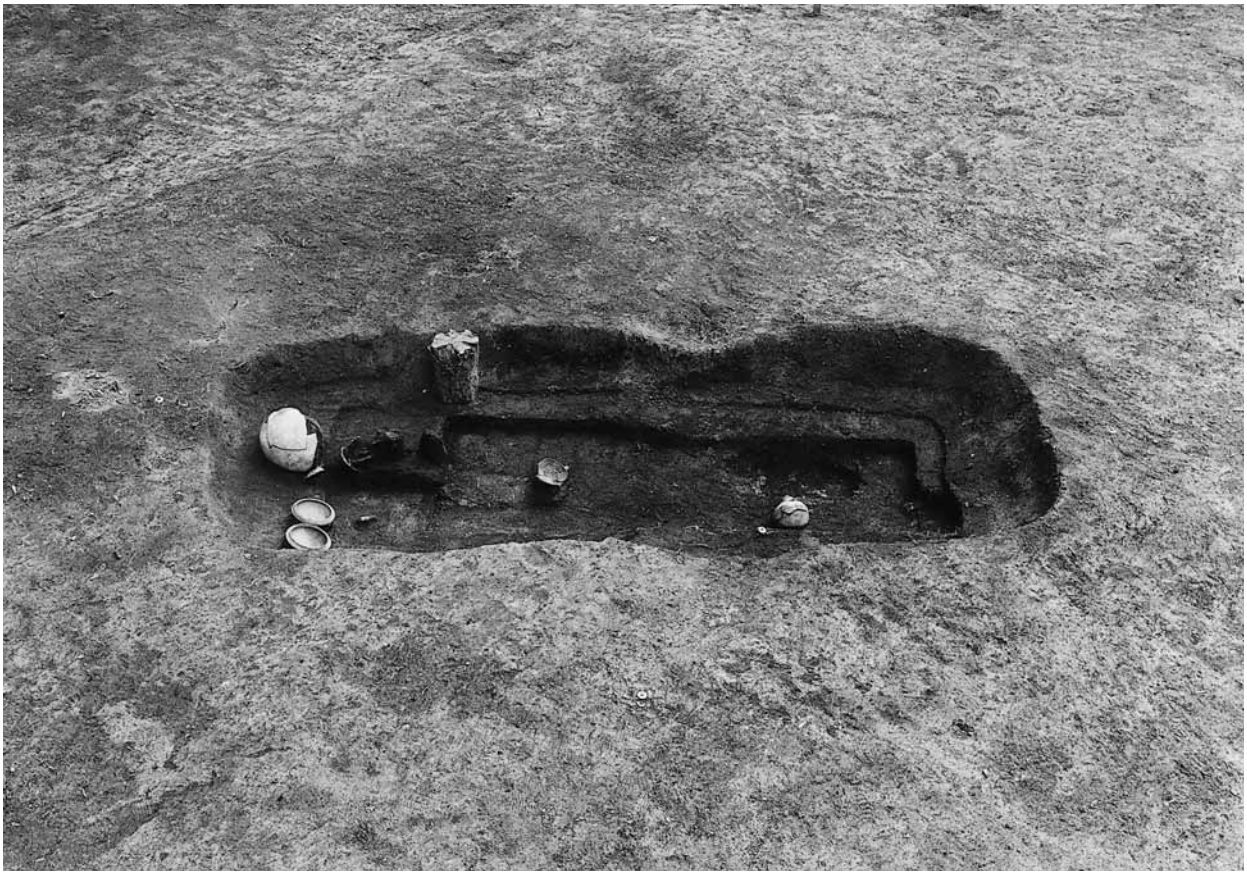


ＳＸ350（東から）

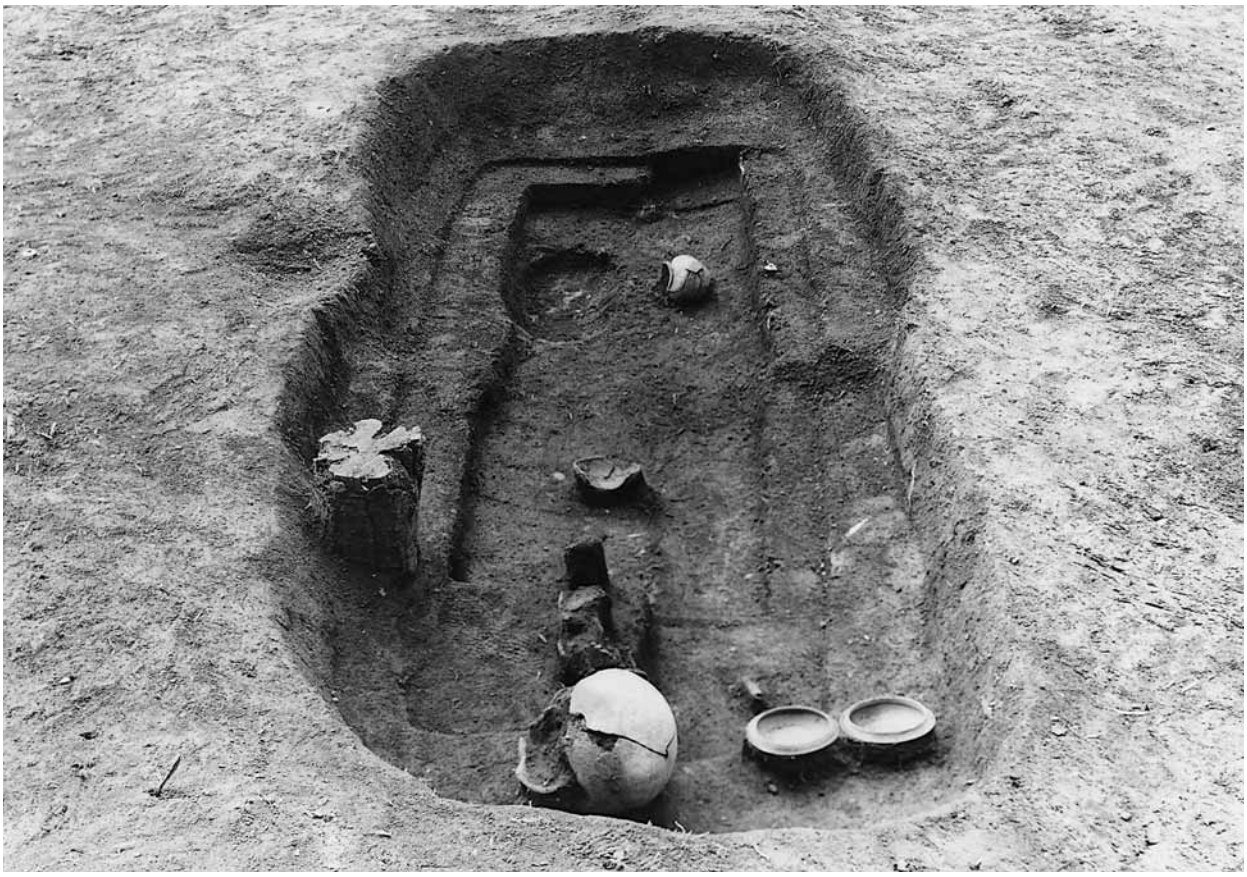
ＳＸ350　棺内鏃（北から）

ＳＸ350　棺外副葬土器（東から）

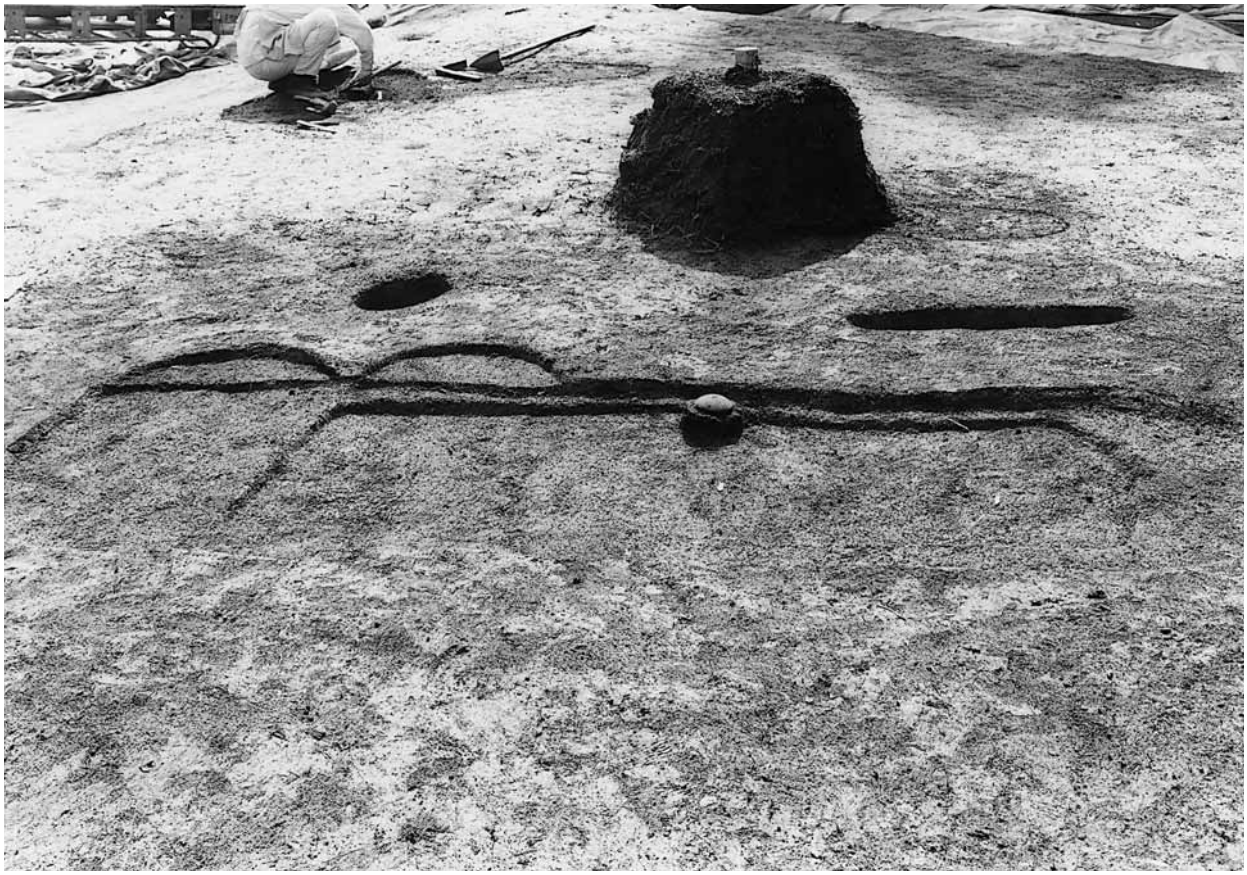
図版34



ＳＸ381（北から）



ＳＸ381（東から）



ＳＸ392（北から）

ＳＸ393（西から）

図版36

小谷９号墳周溝ＳＫ400（北から）

小谷10号墳周溝ＳＫ340（北西から）

ＳＸ363（北から）

ＳＸ363　上半部破片除去後人骨検出（東から）

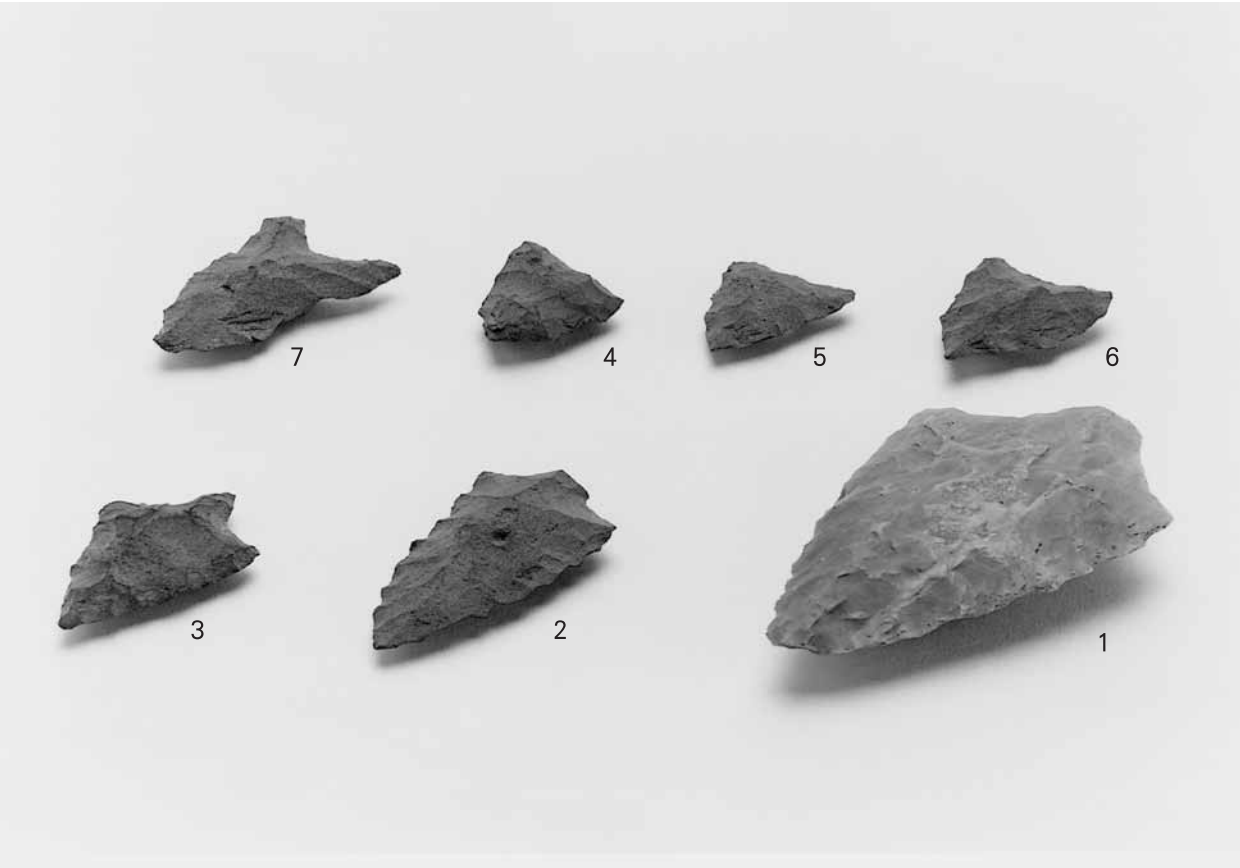
土塁ＳＺ365と堀ＳＤ366（東から）

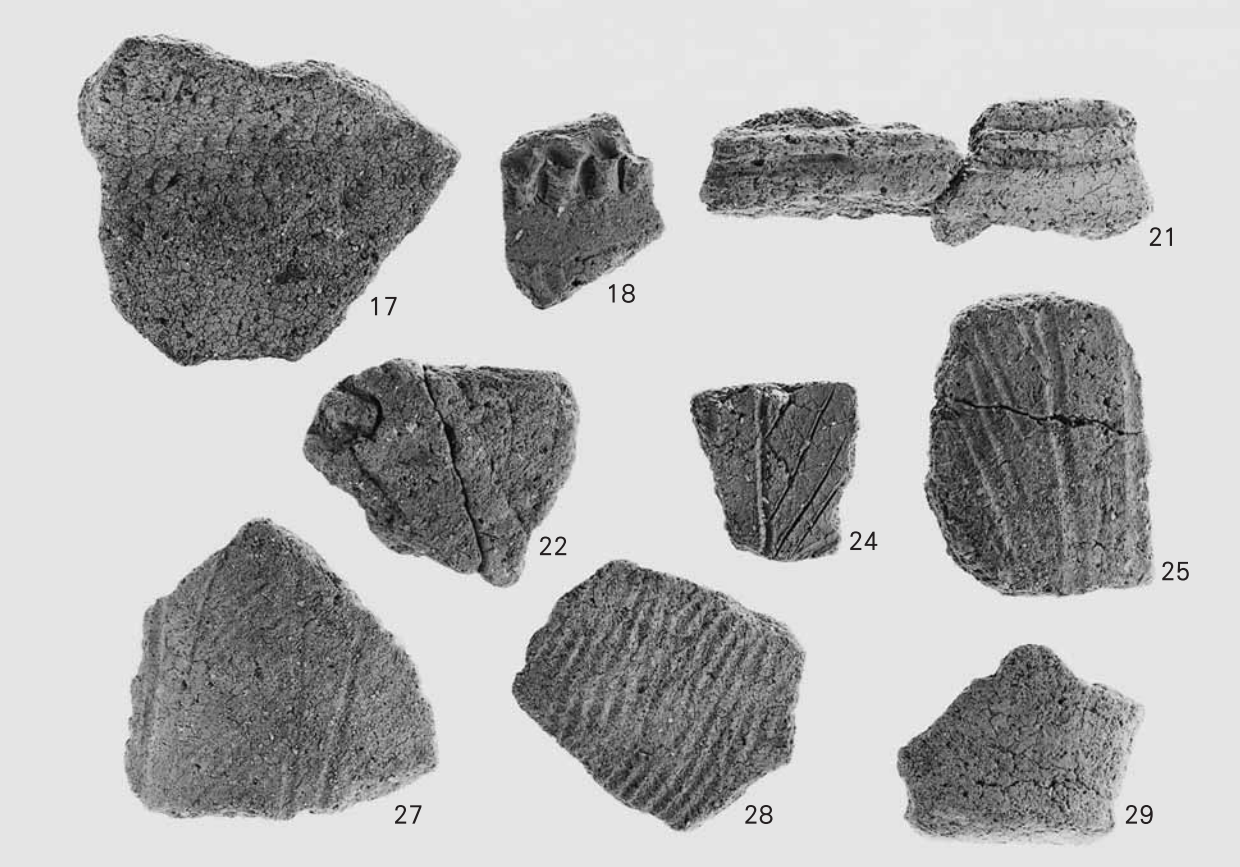
ＳＤ366　西壁土層断面（東から）

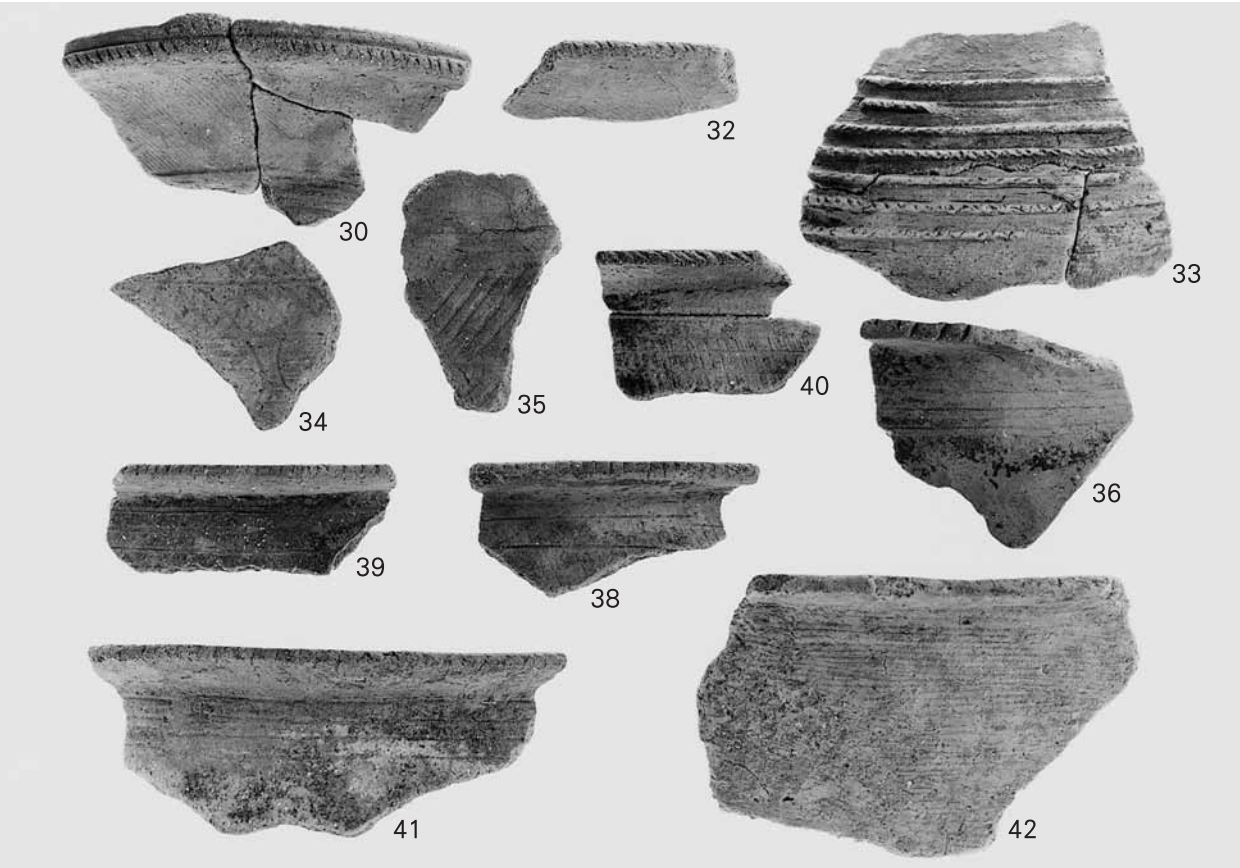
ＳＤ366　東壁土層断面（西から）

ＳＫ380（北から）

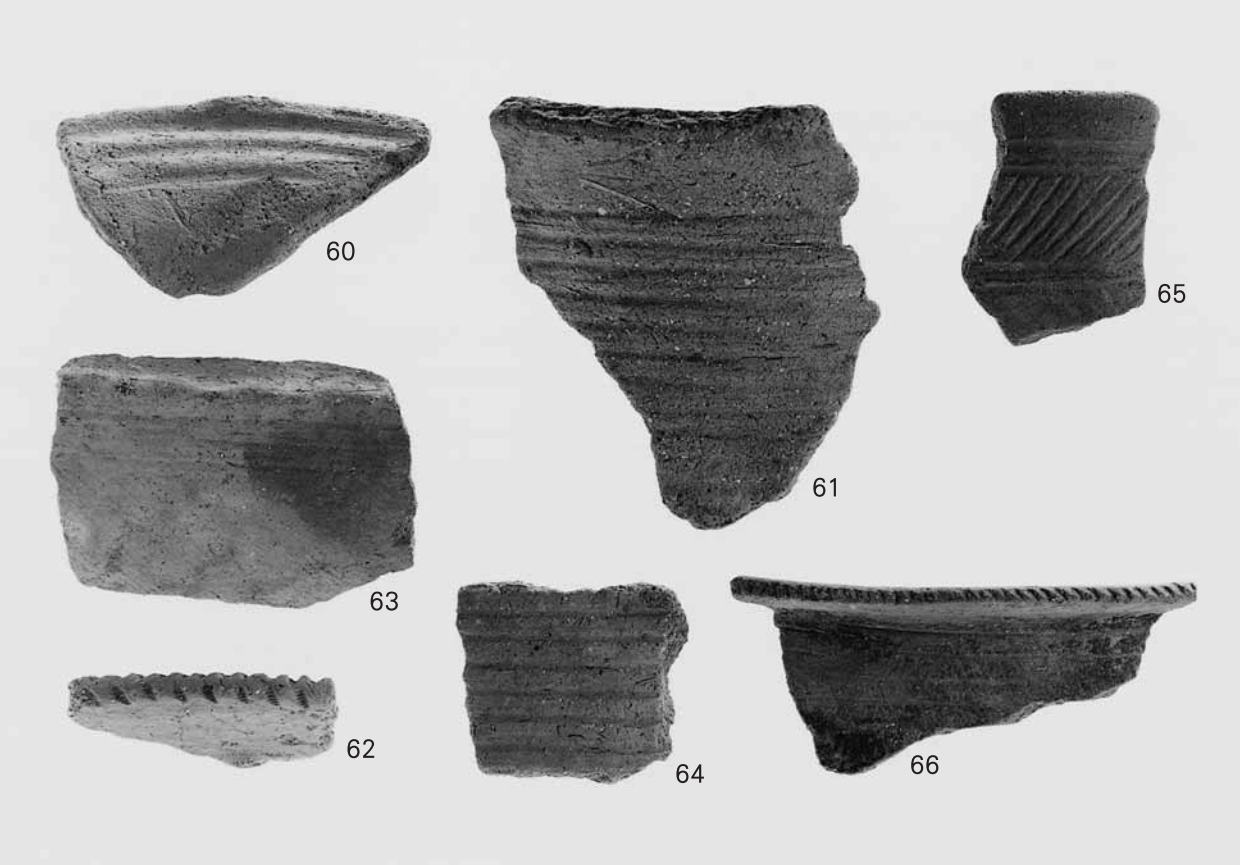
図版38



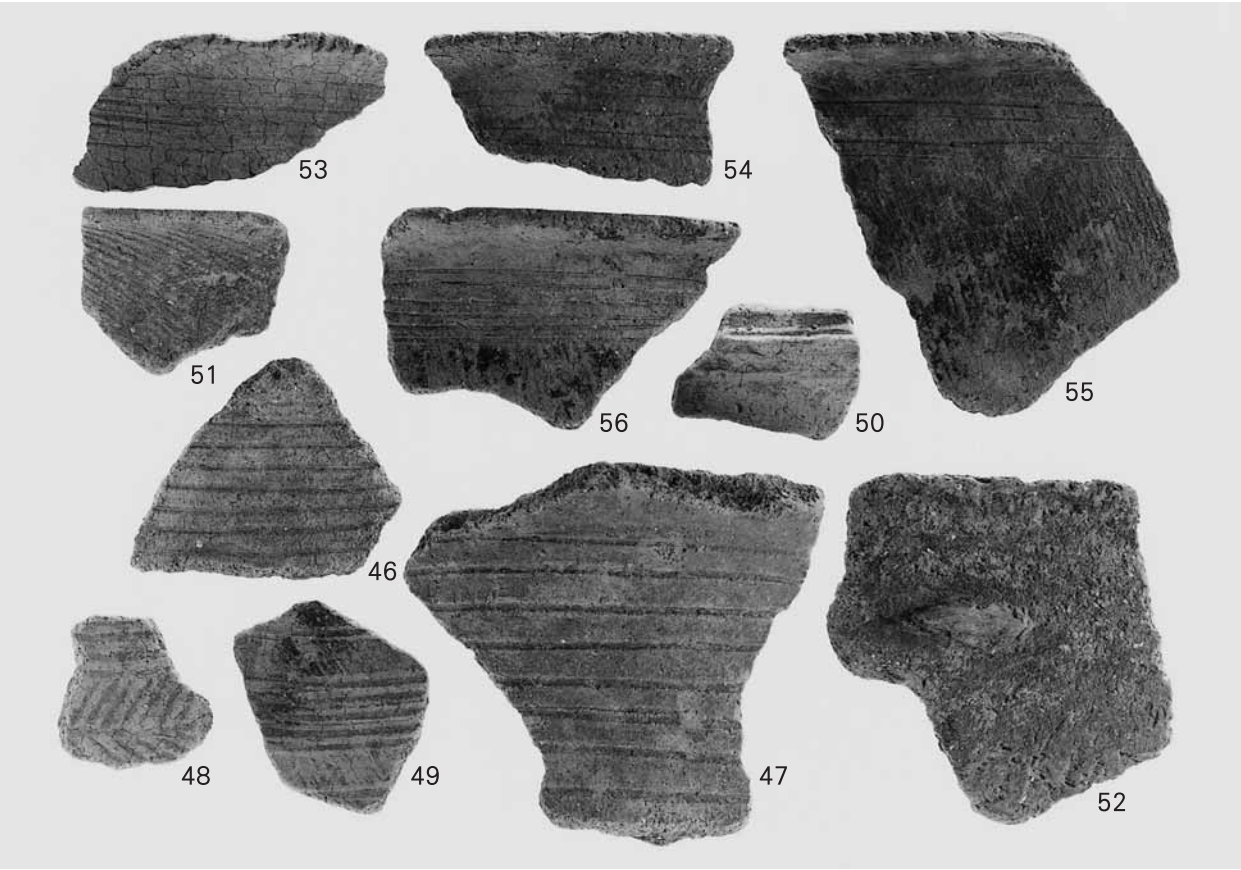




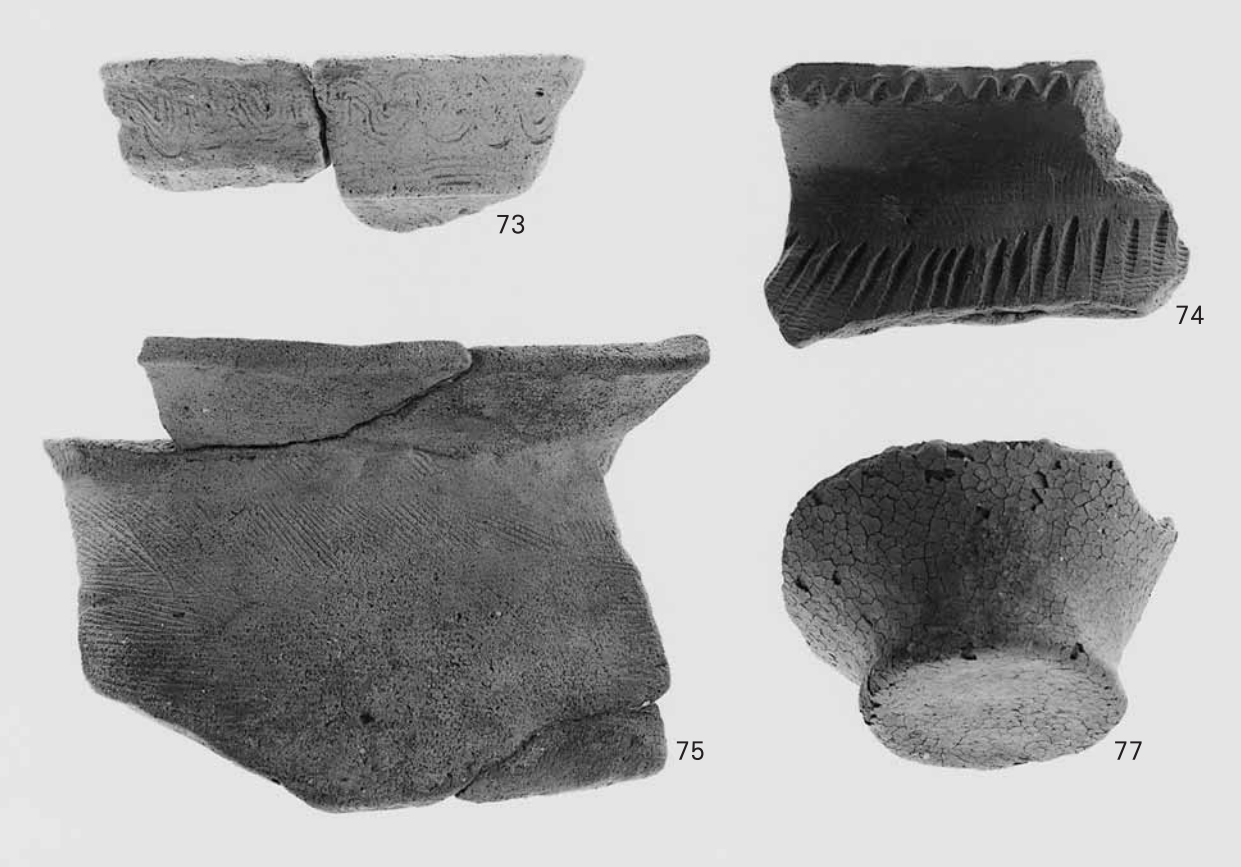
ＳＫ345　出土遺物



遺構外出土遺物



ＳＫ352　出土遺物



ＳＨ344　出土遺物

67

72

80

130

76

139

15

16

図版42

弥生時代後期竪穴住居出土遺物

97

104

105

100

111

103

84

91

92

85

90

89

93

96

127

128

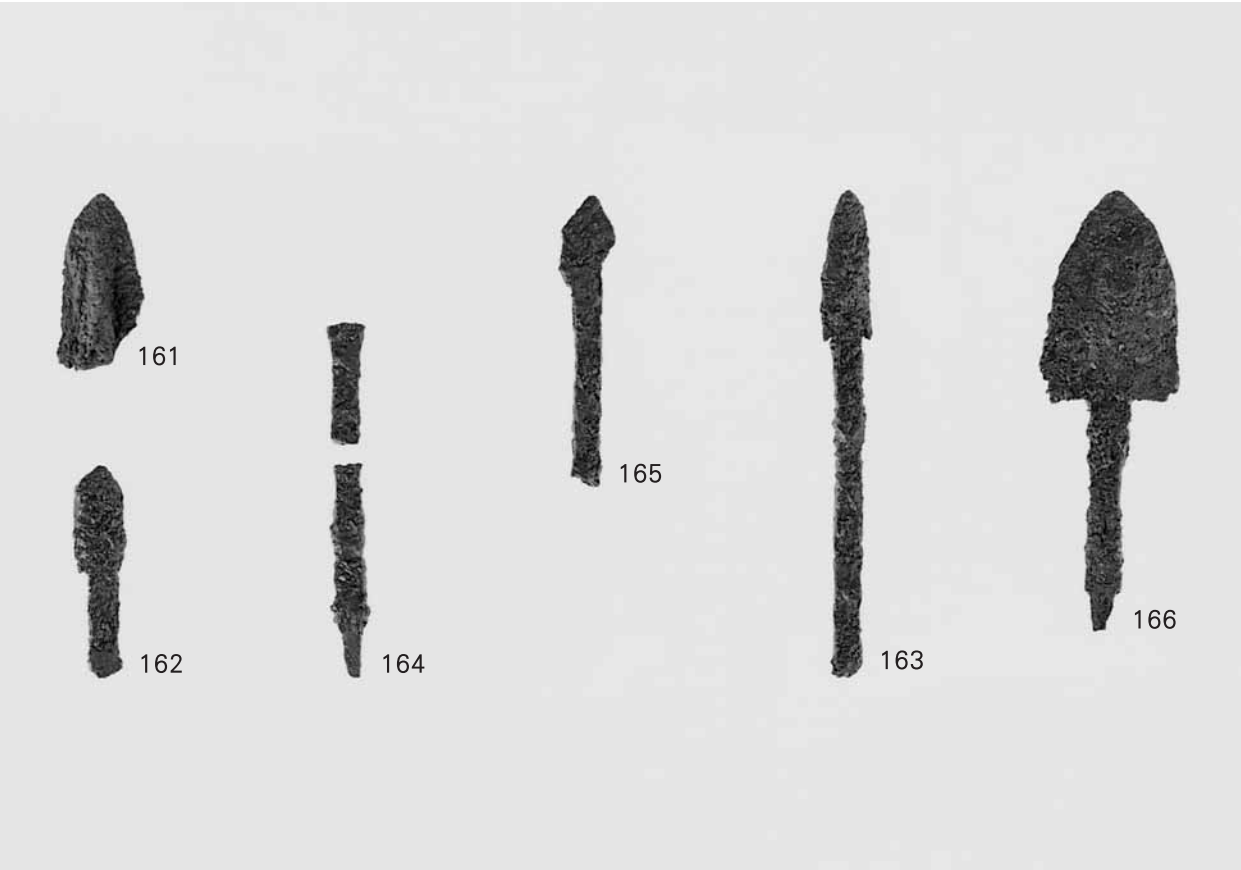
120

129

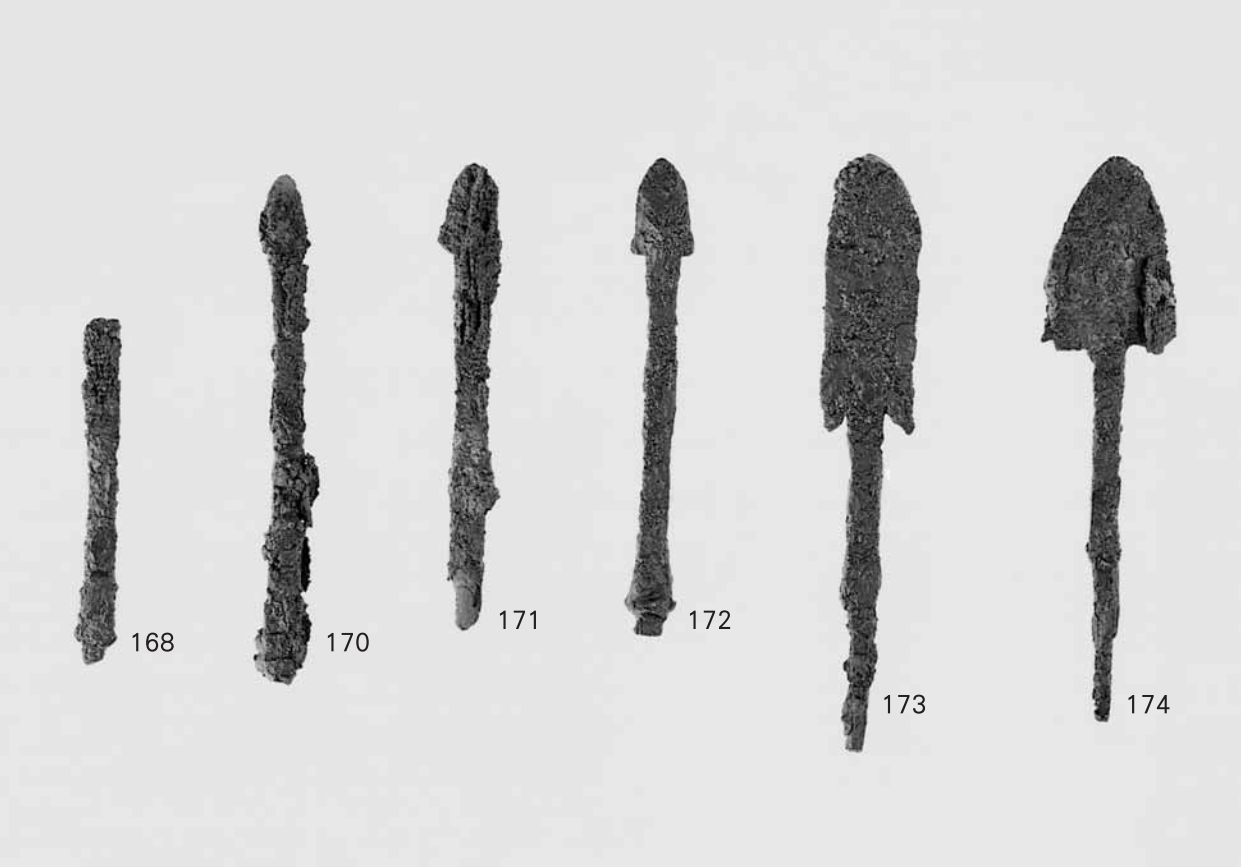
123

125

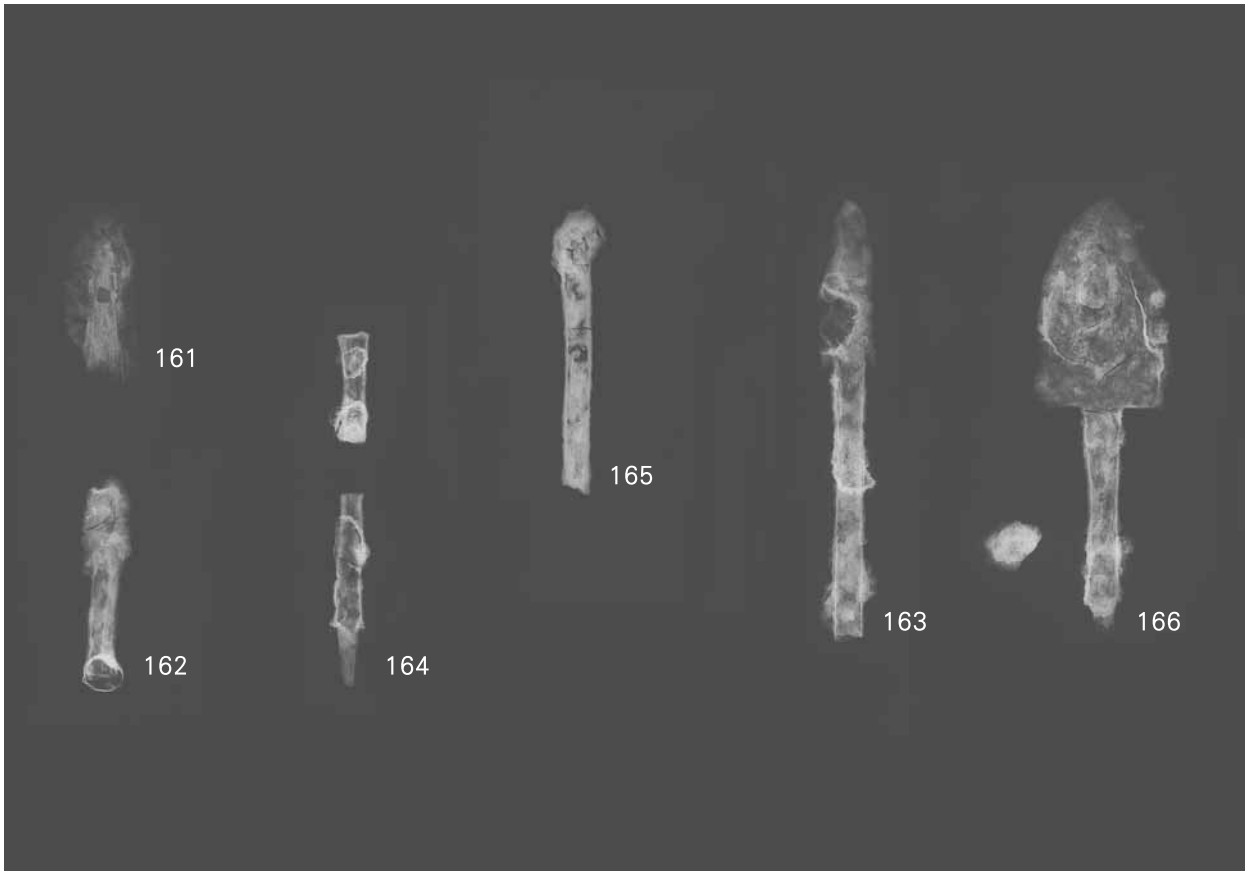
図版44



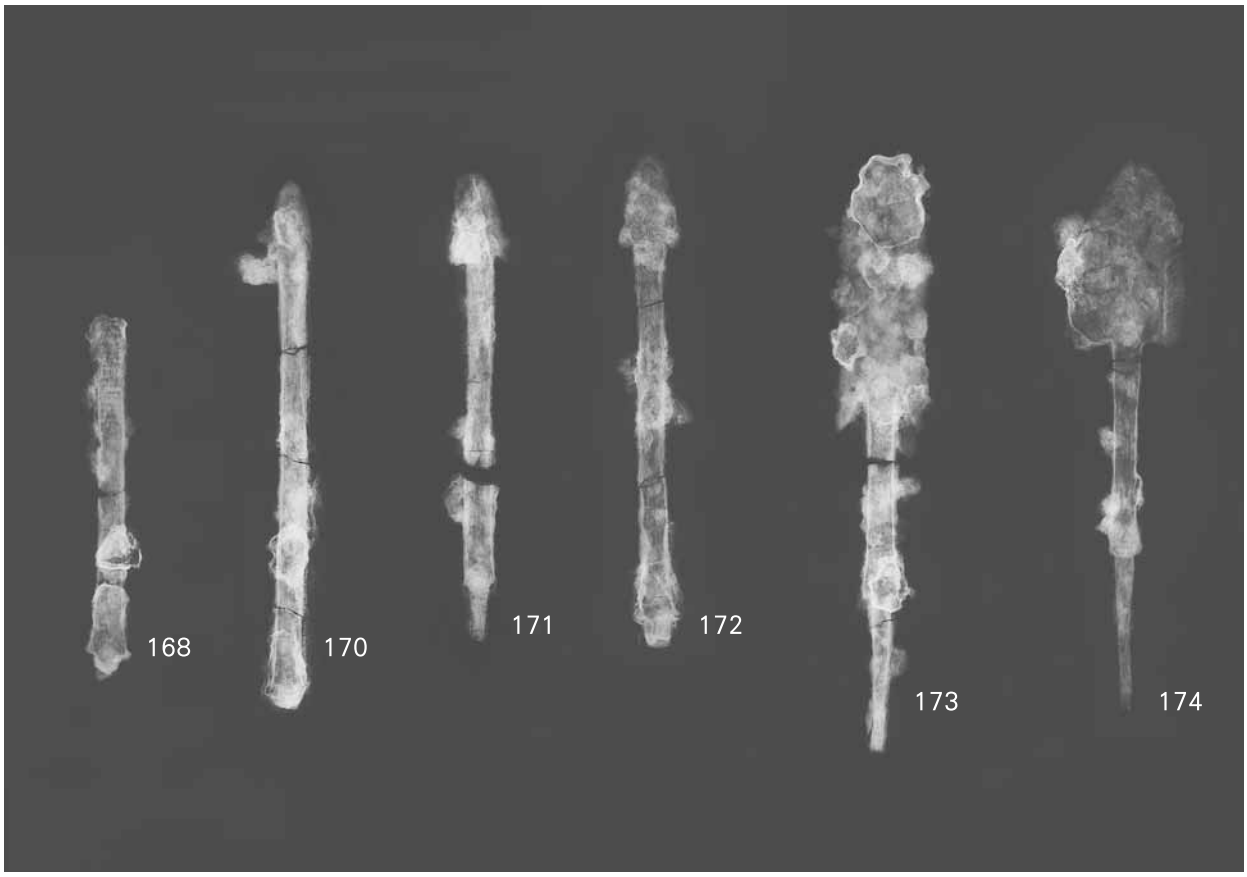
鏃上層群



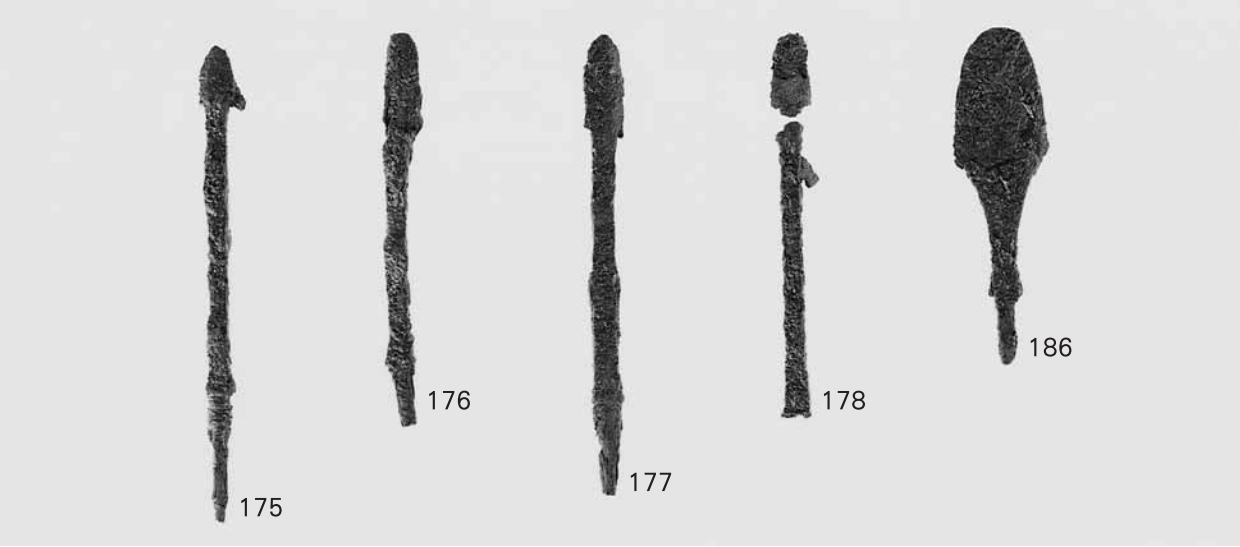
鏃Ａ群



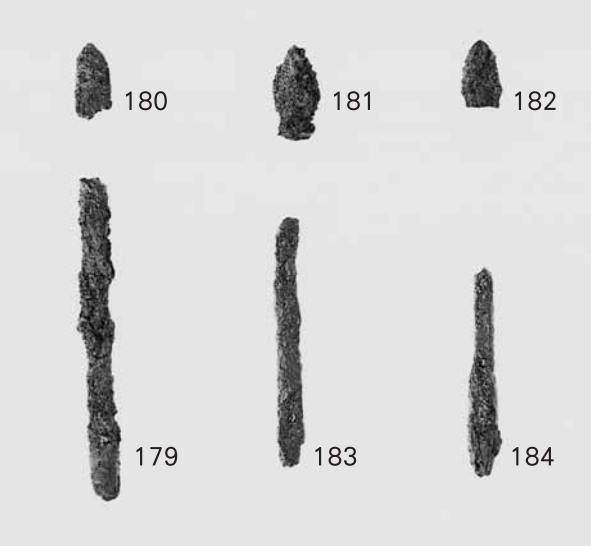
鏃上層群



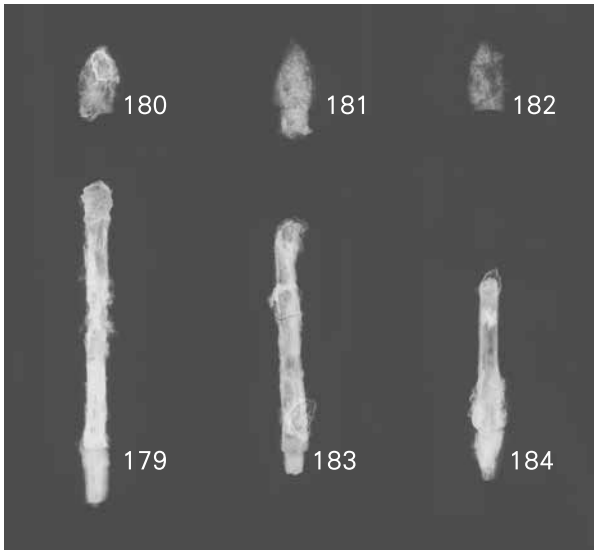
鏃A群



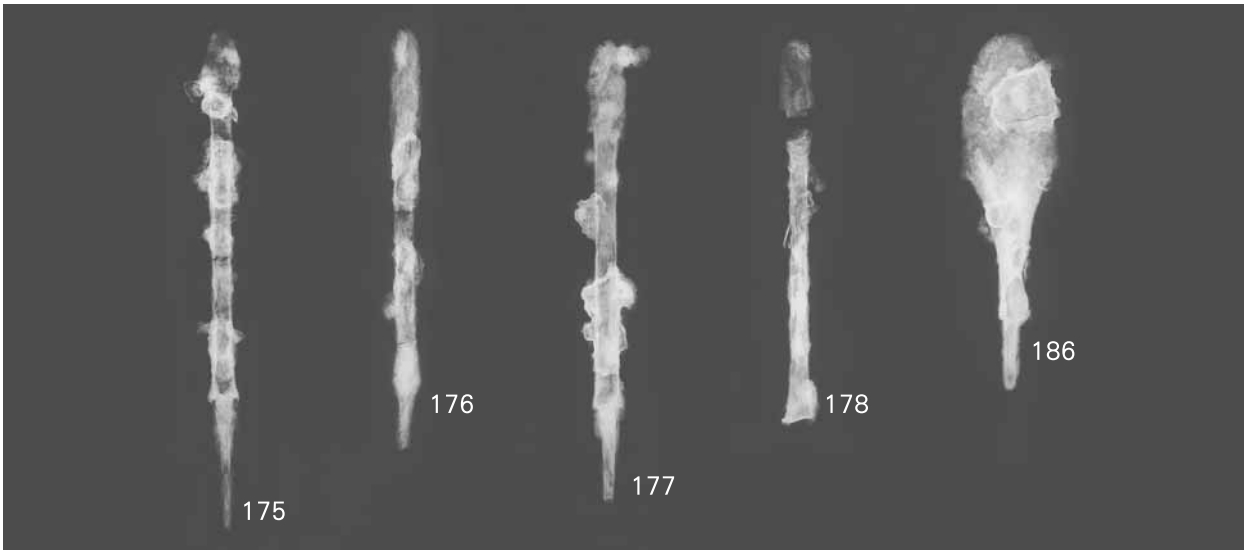
鏃B群



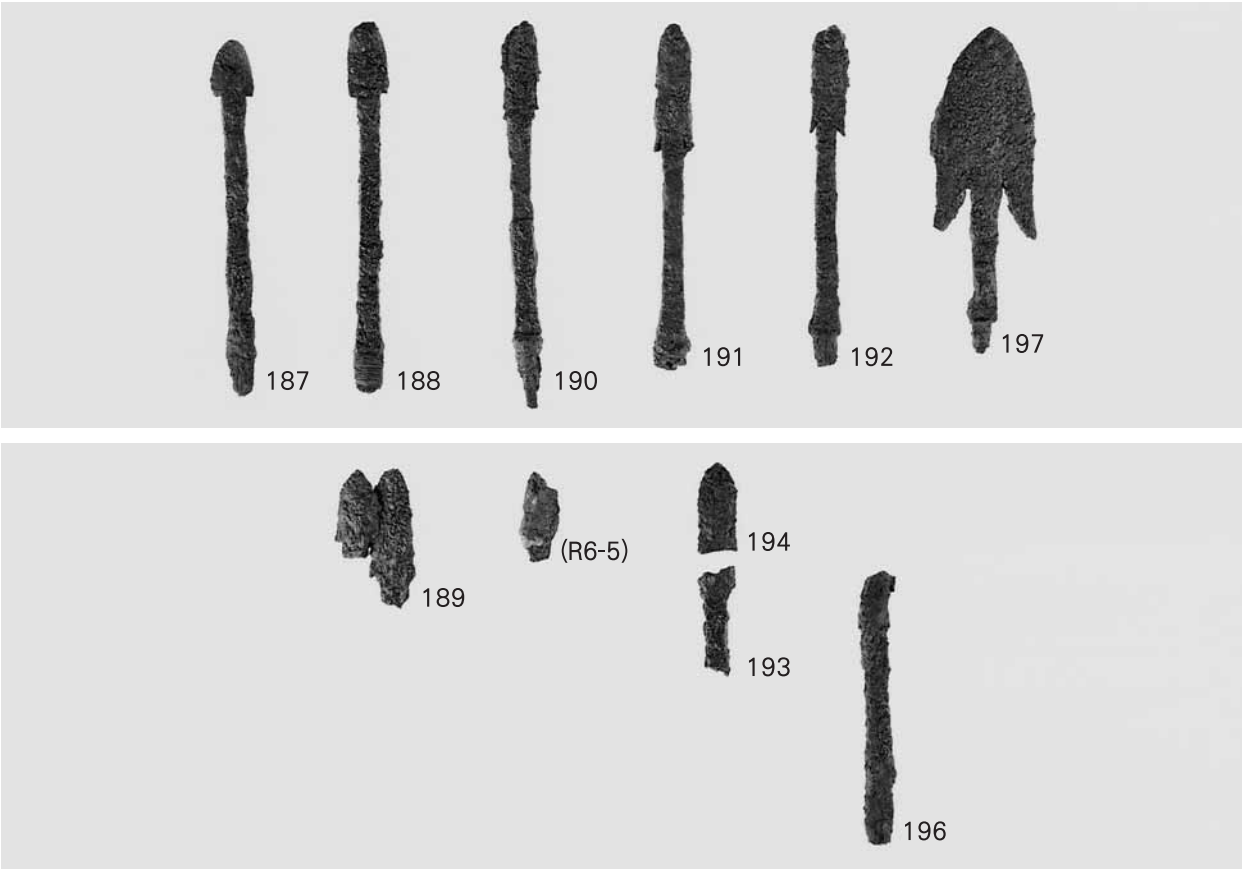
鏃B群



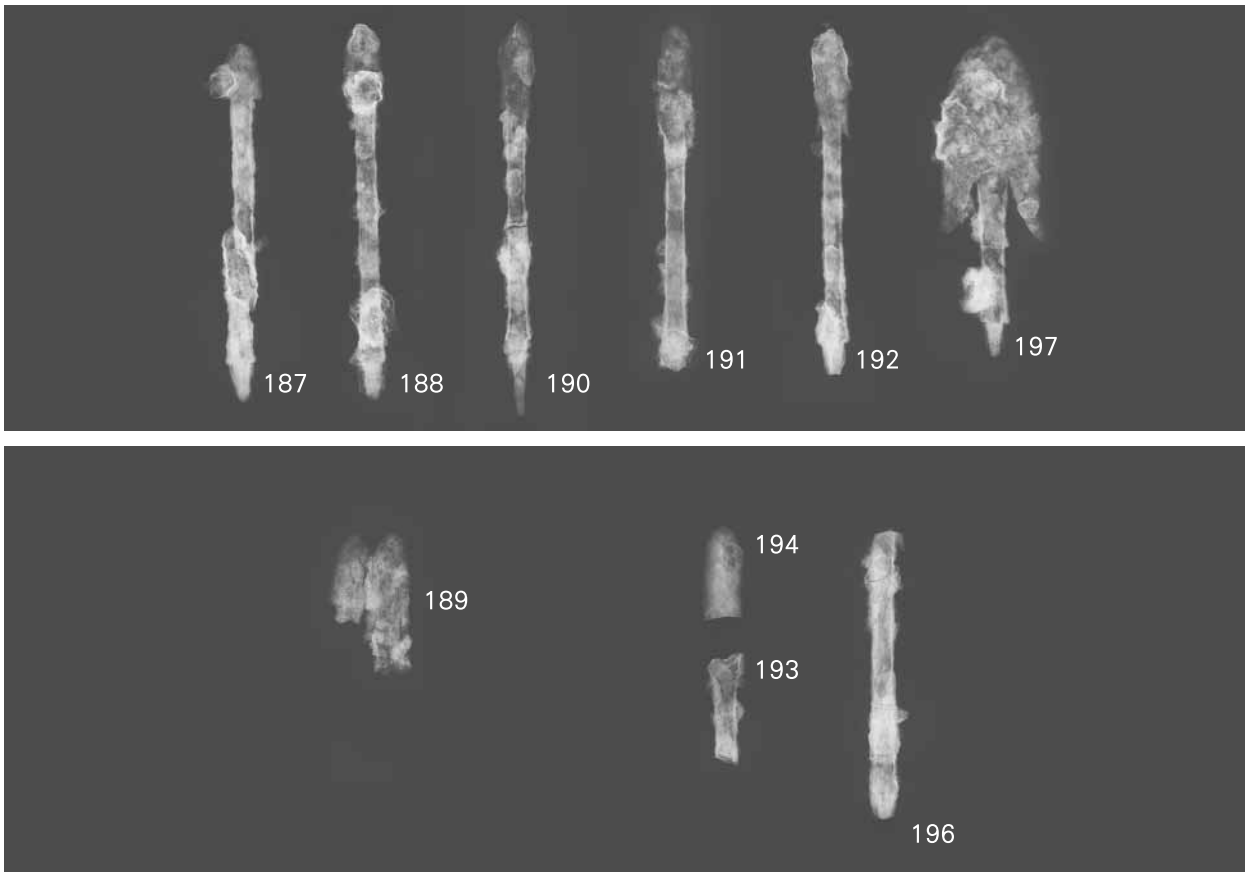
鏃B群　X線透過写真



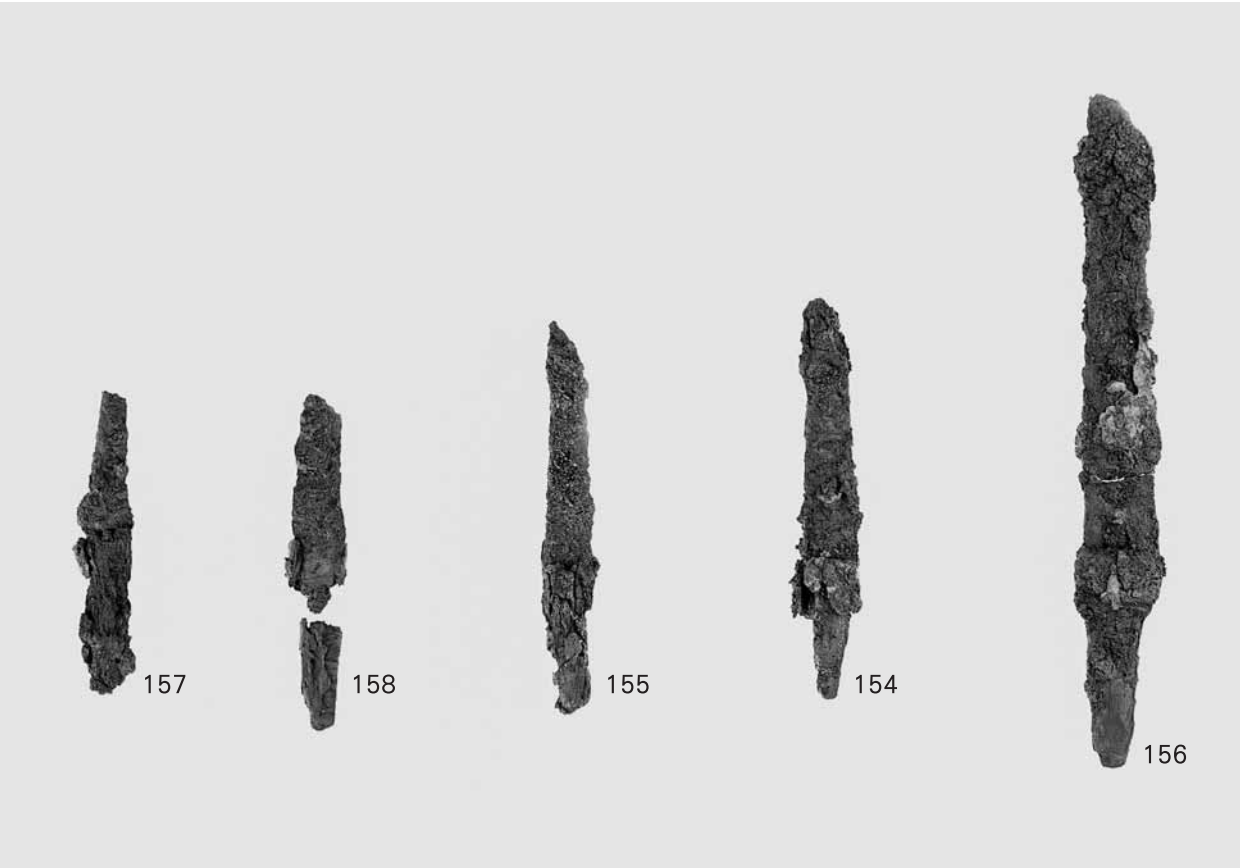
鏃B群　X線透過写真



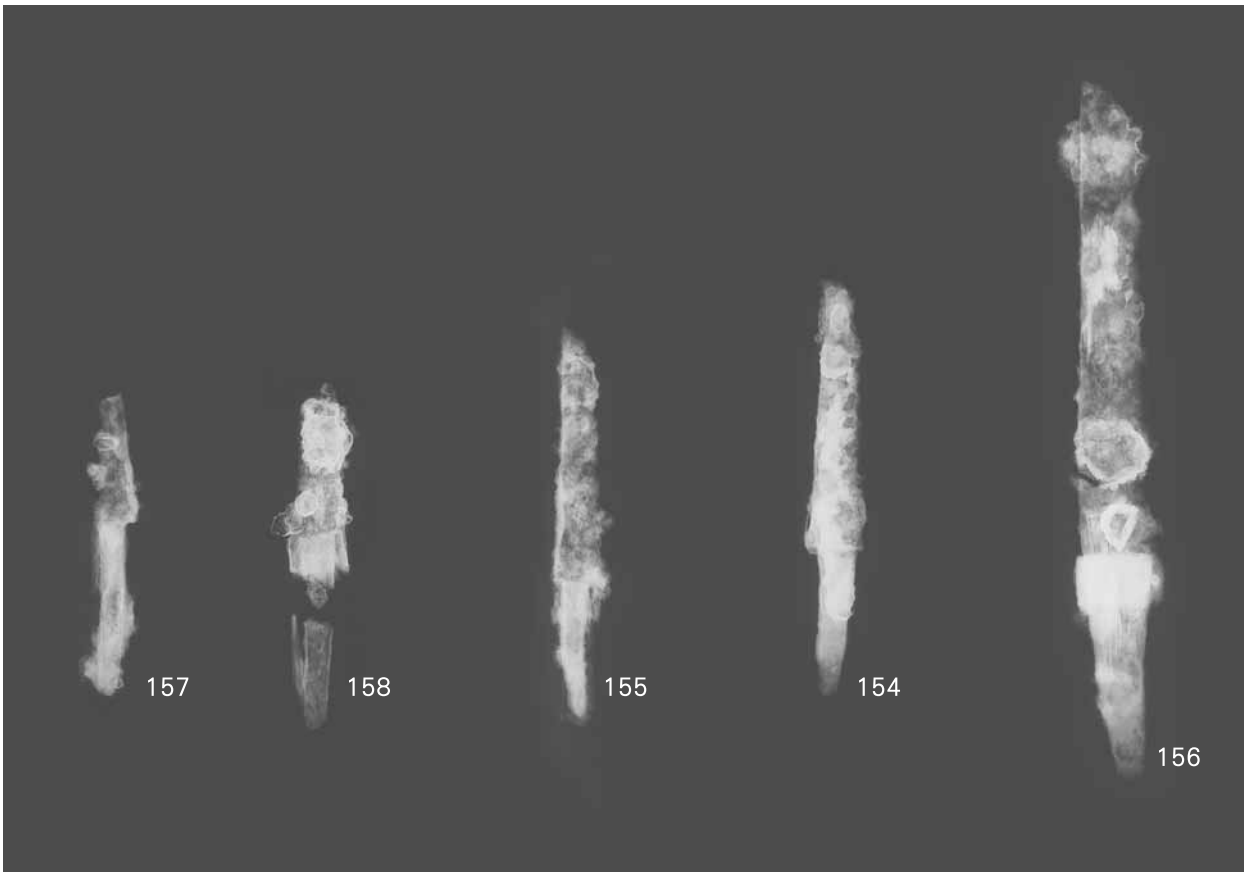
鏃C群



鏃C群　X線透過写真



刀子



刀子　X線透過写真

203

205

209

204

206

210

199

207

201

202

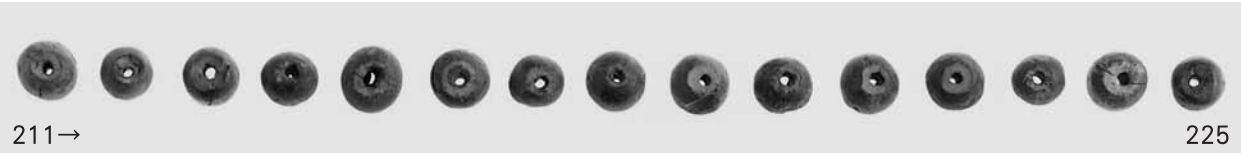
208

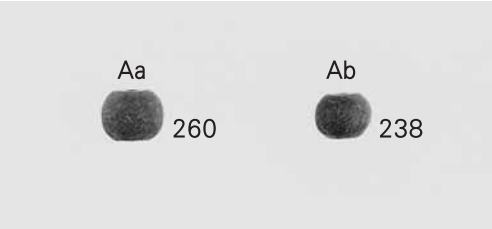
198

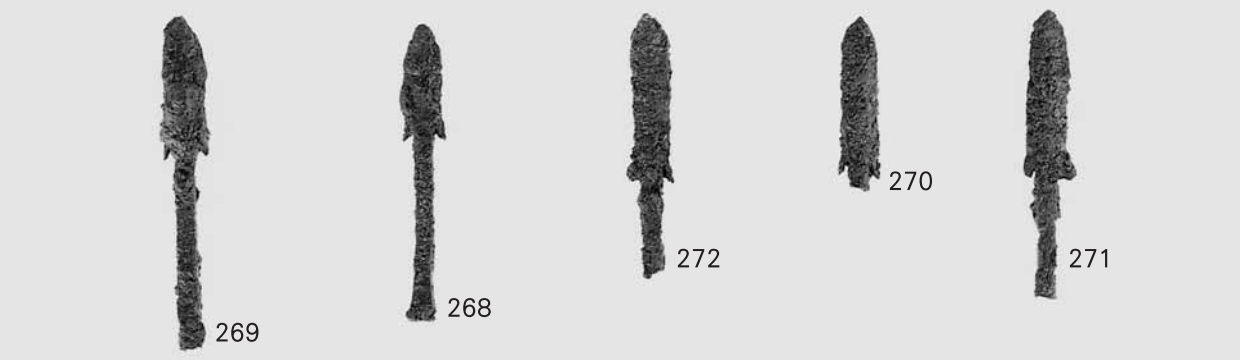
200

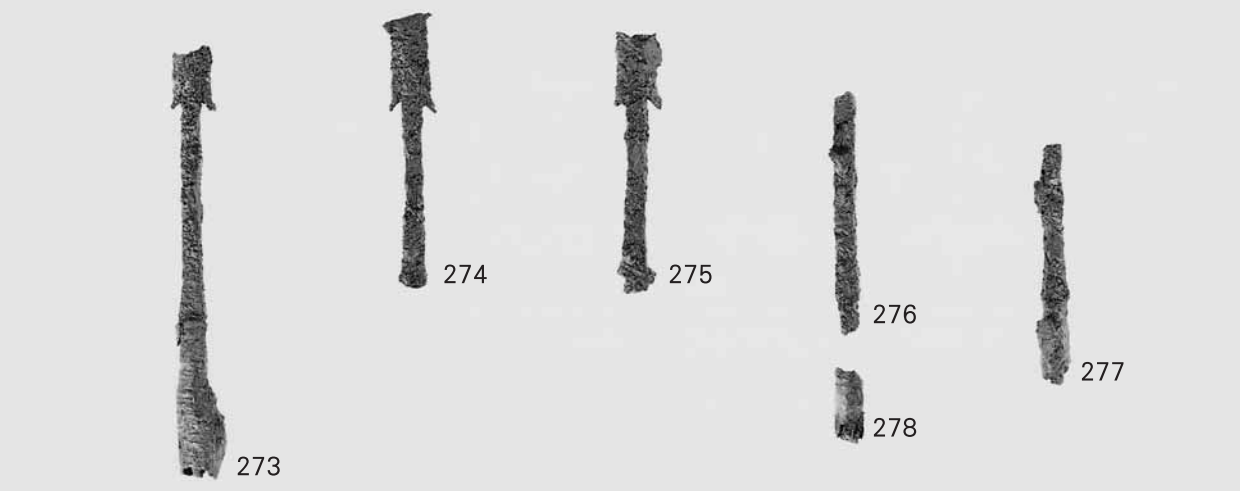
図版50

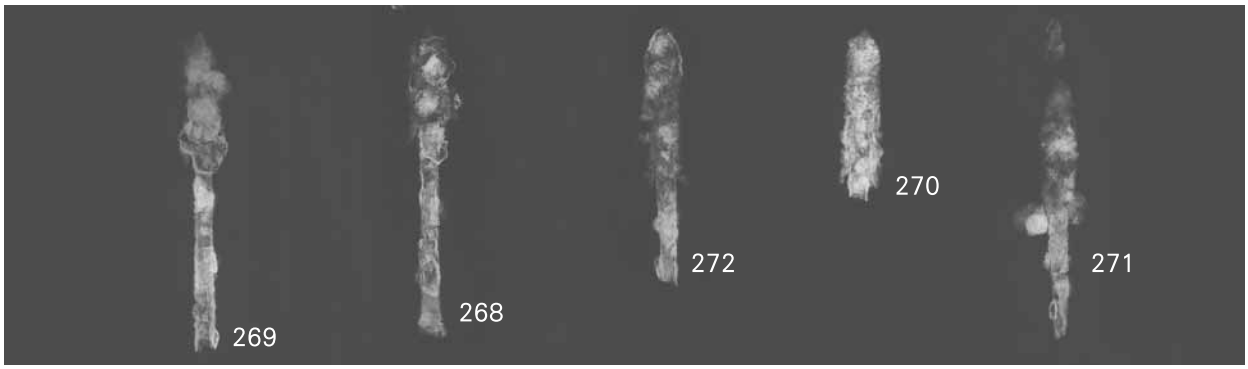
小谷9号墳埋葬施設2　土製練玉

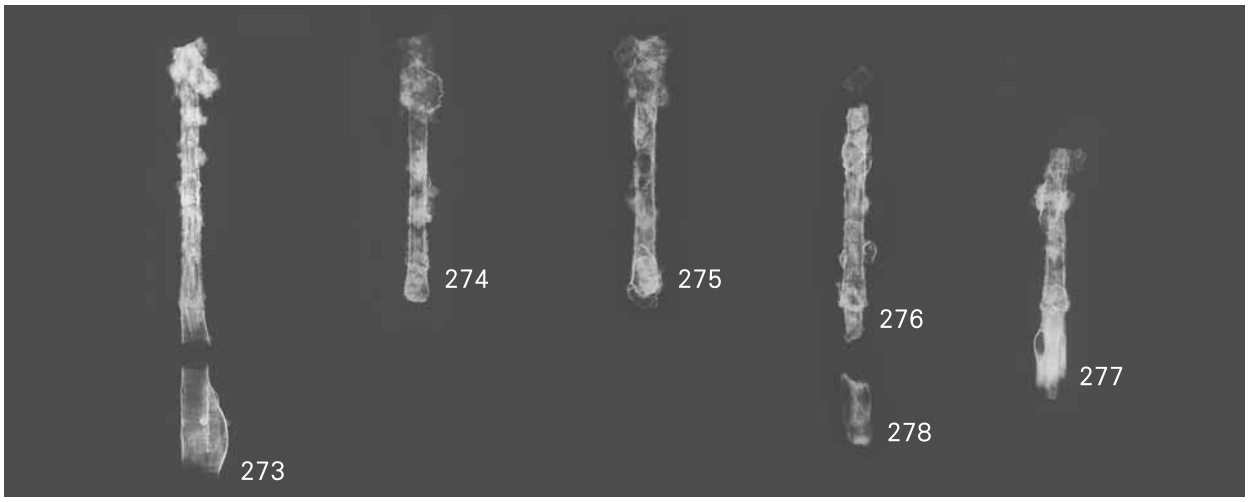





269
268
272
270
271


273
274
275
276
278
277


269
268
272
270
271


273
274
275
276
278
277

X線透過写真

図版52

小谷9号墳埋葬施設1・3・5　出土遺物・X線透過写真

147

147裏

148

149

152

153

152

153

埋葬施設 1

267

267裏

埋葬施設 3

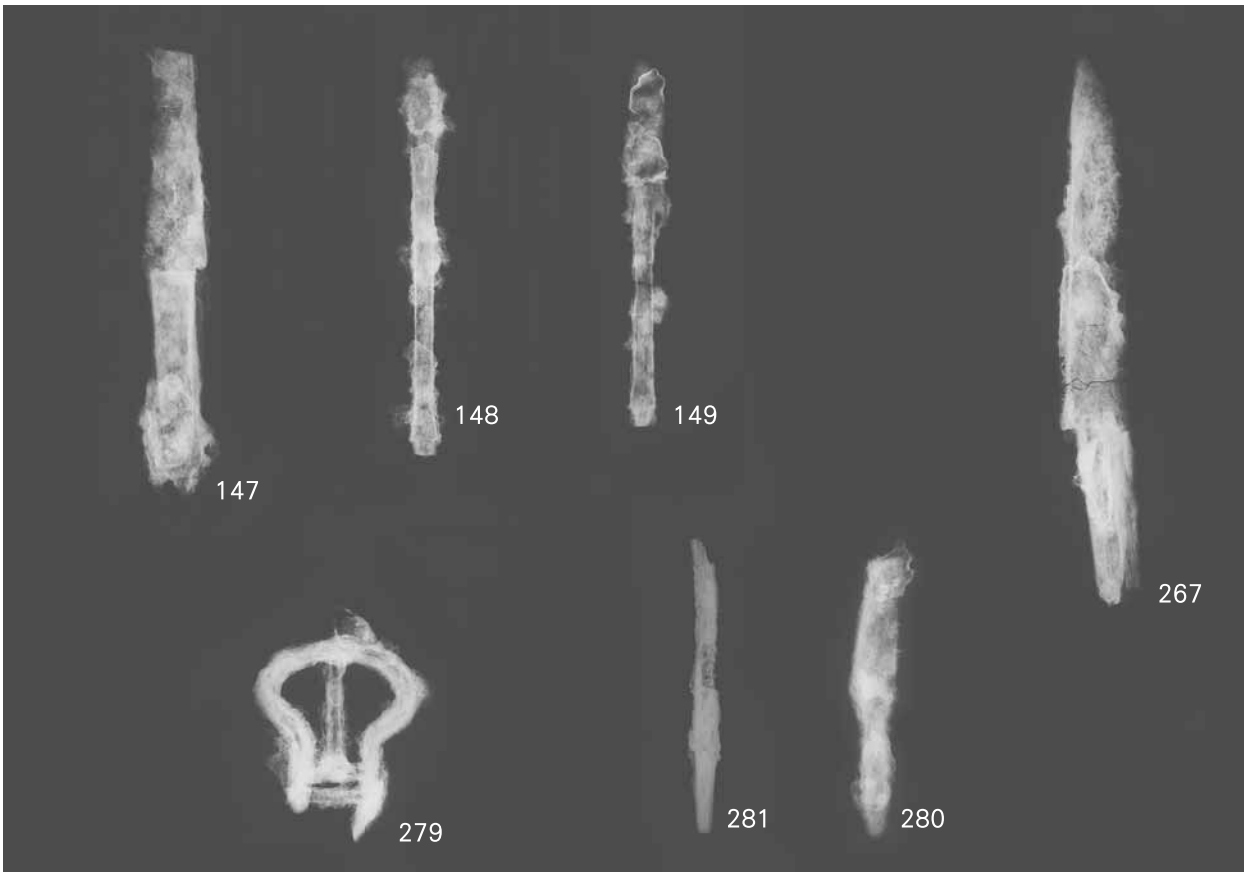
279

279裏

281

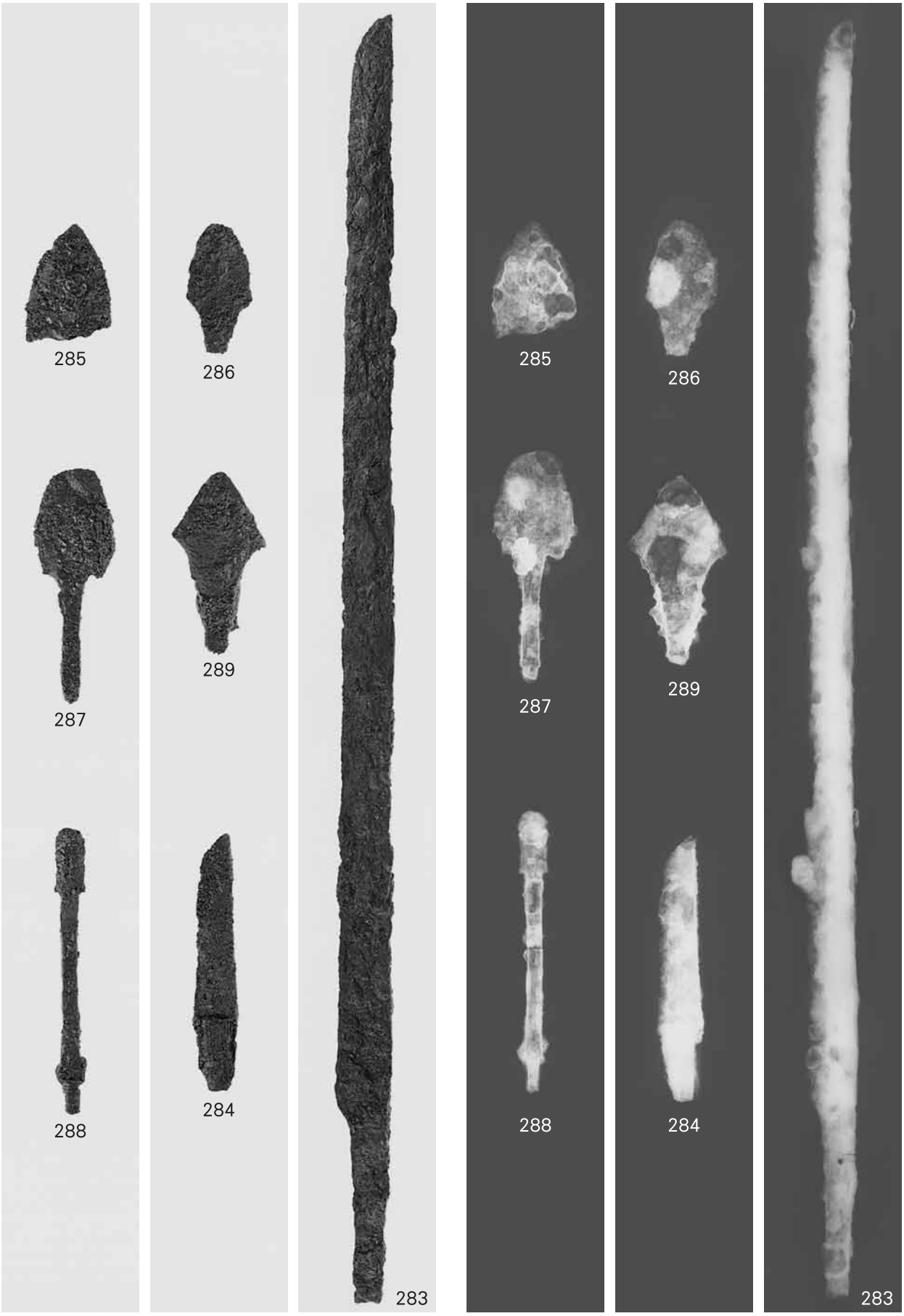
280

埋葬施設 5



X 線透過写真

小谷10号墳埋葬施設1　鉄製品・X線透過写真



X線透過写真

図版54

小谷10号墳埋葬施設1　副葬土器

291

293

292

294

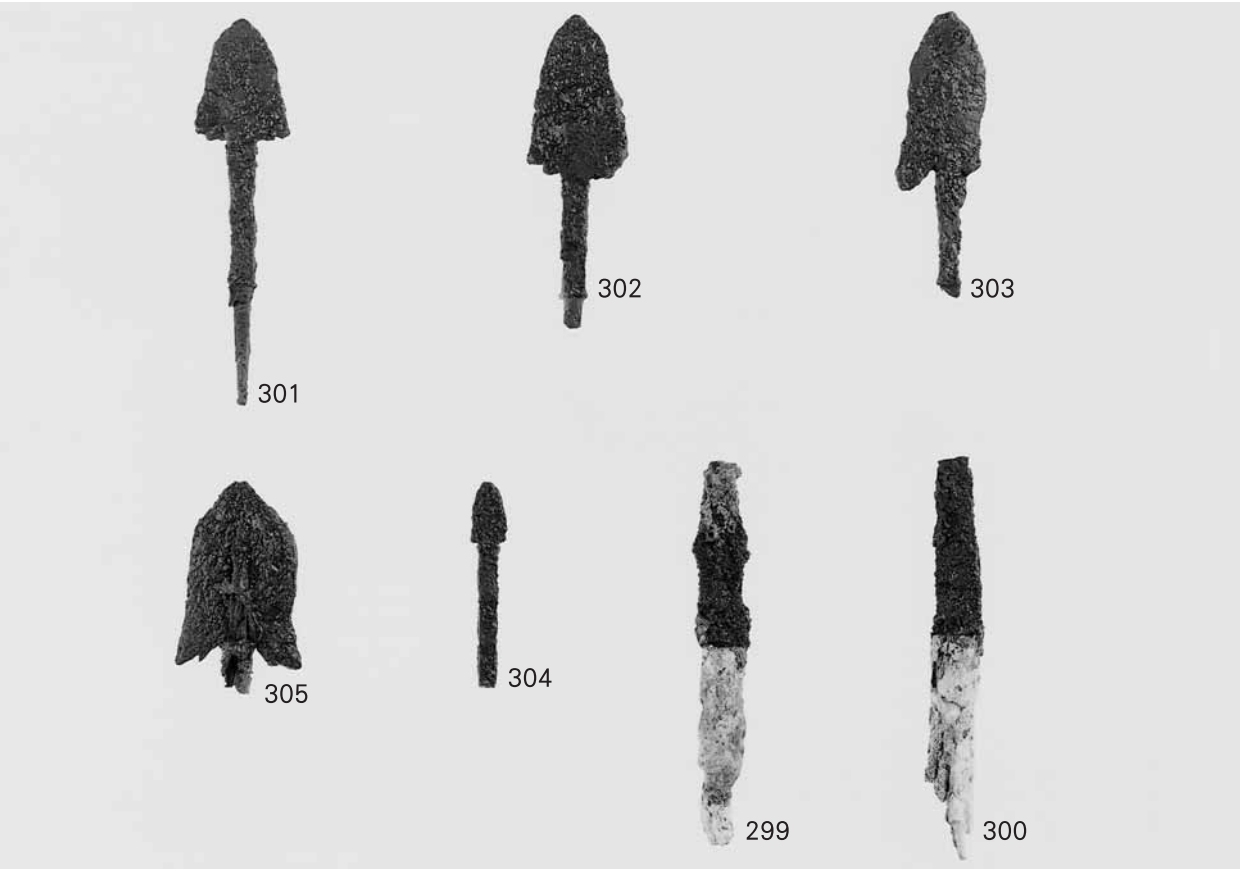
295

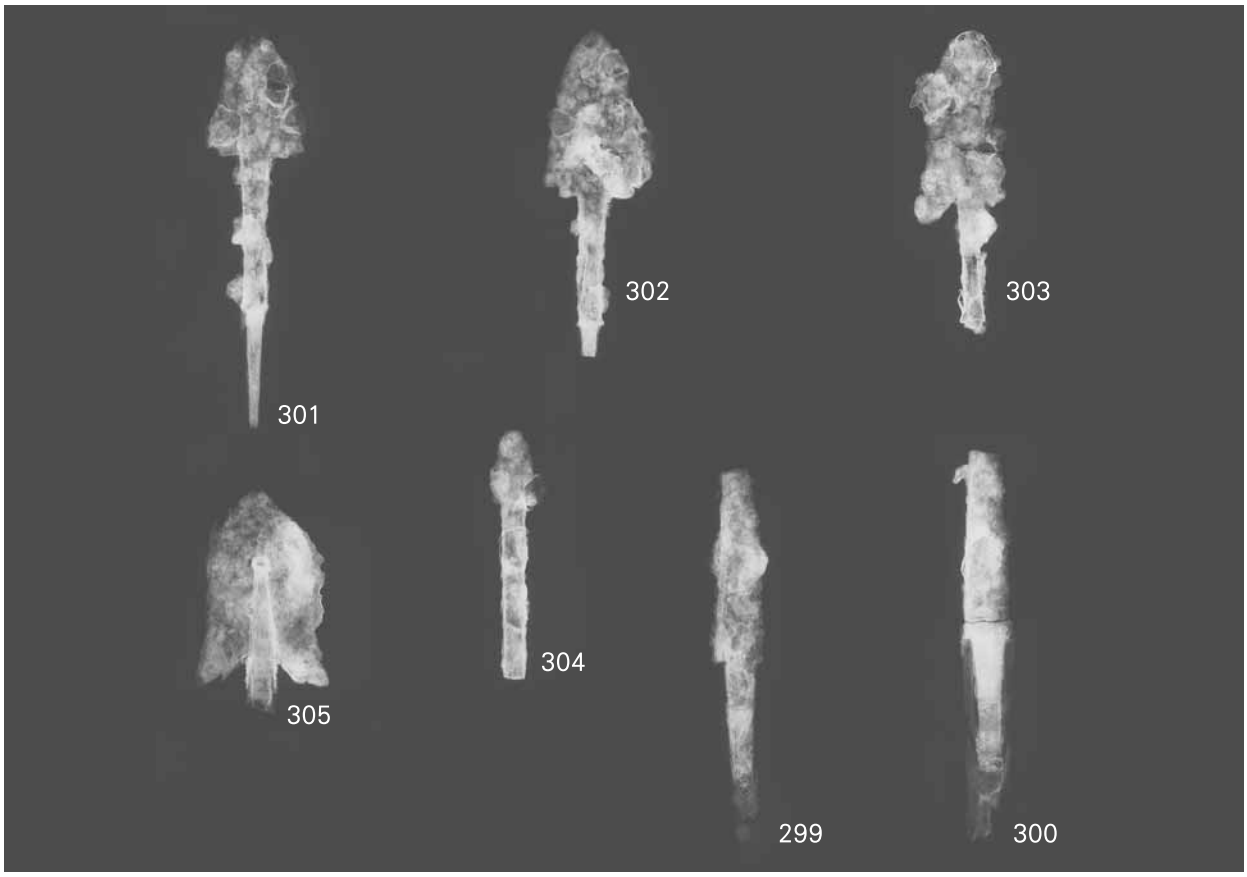
297

296

290

298





X線透過写真

図版56

小谷10号墳埋葬施設2　副葬土器

317

315

313

316

314

307

309

311

308

310

312

318

306

340

341

338

362

363

339

361

359

360

364

365

839

838

図版58

小谷11号墳埋葬施設2　副葬品・X線透過写真

350

351

352

353

354

355

356

357

358

349

342

348

348

X線透過写真

366　前胴

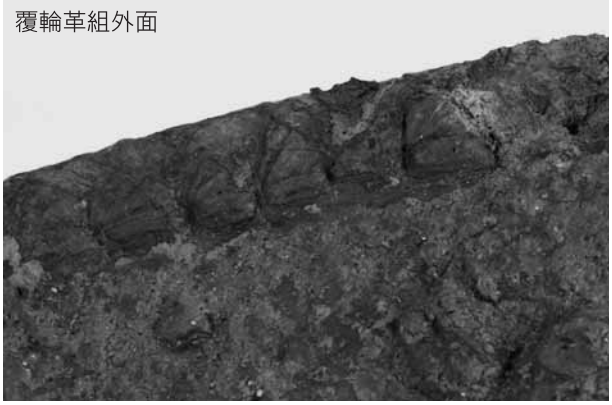
366　後胴

図版60

小谷13号墳埋葬施設1　短甲

右脇

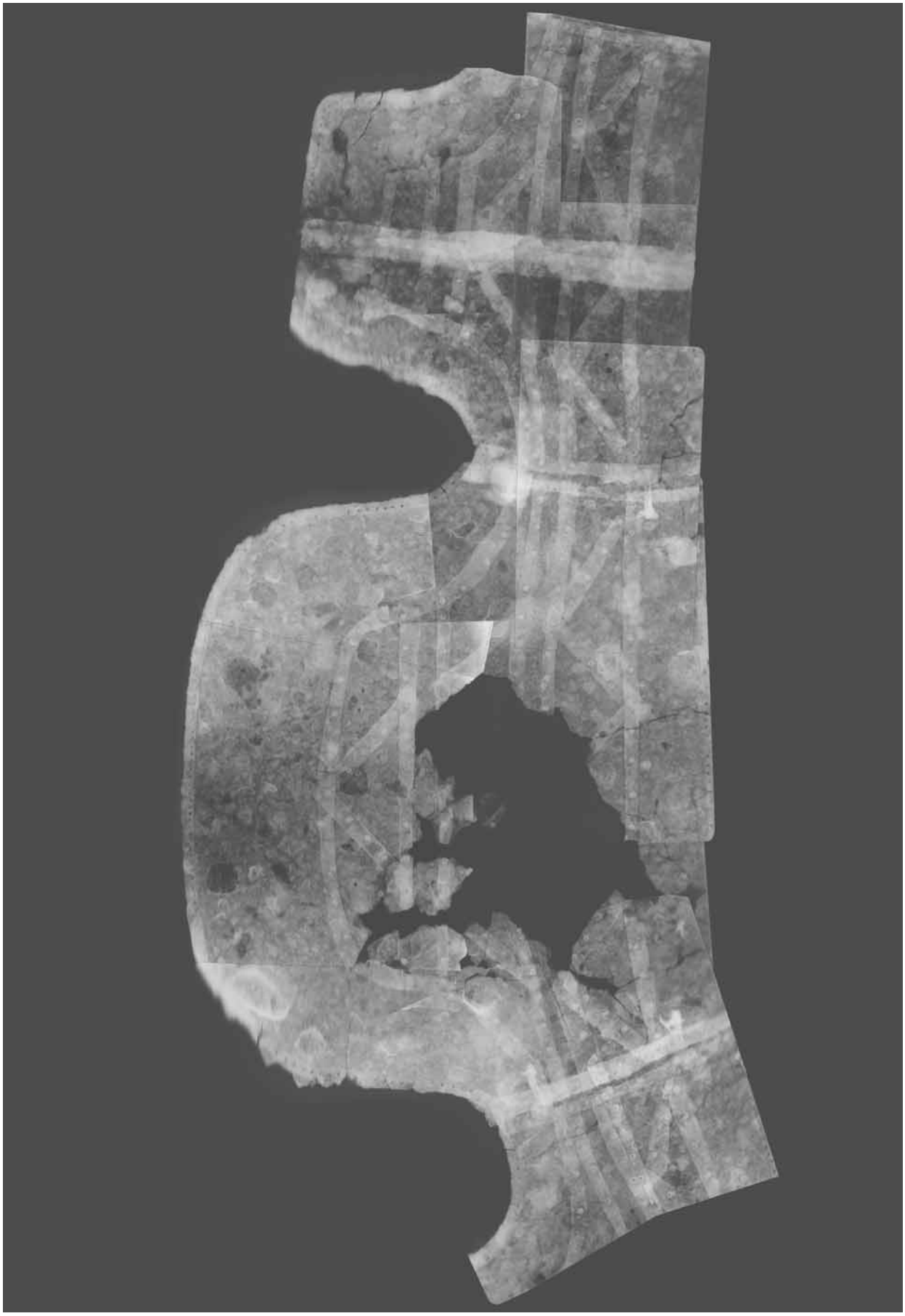
左脇


覆輪革組外面

覆輪革組内面

長釣壺蝶番金具

織物痕跡



小谷13号墳埋葬施設1　短甲　展開X線透過写真

図版62

小谷13号墳埋葬施設1　刀剣類

367

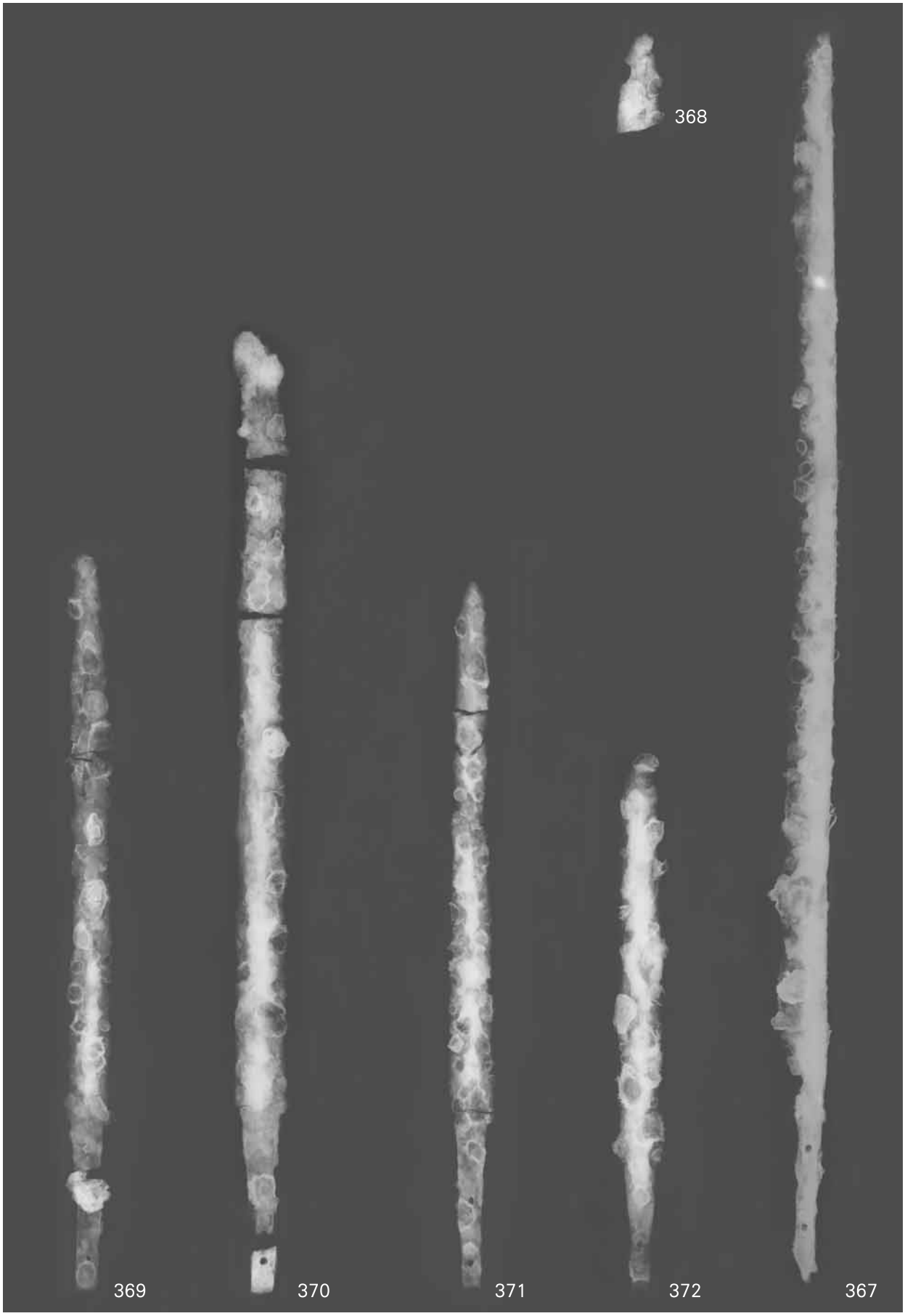
367

369

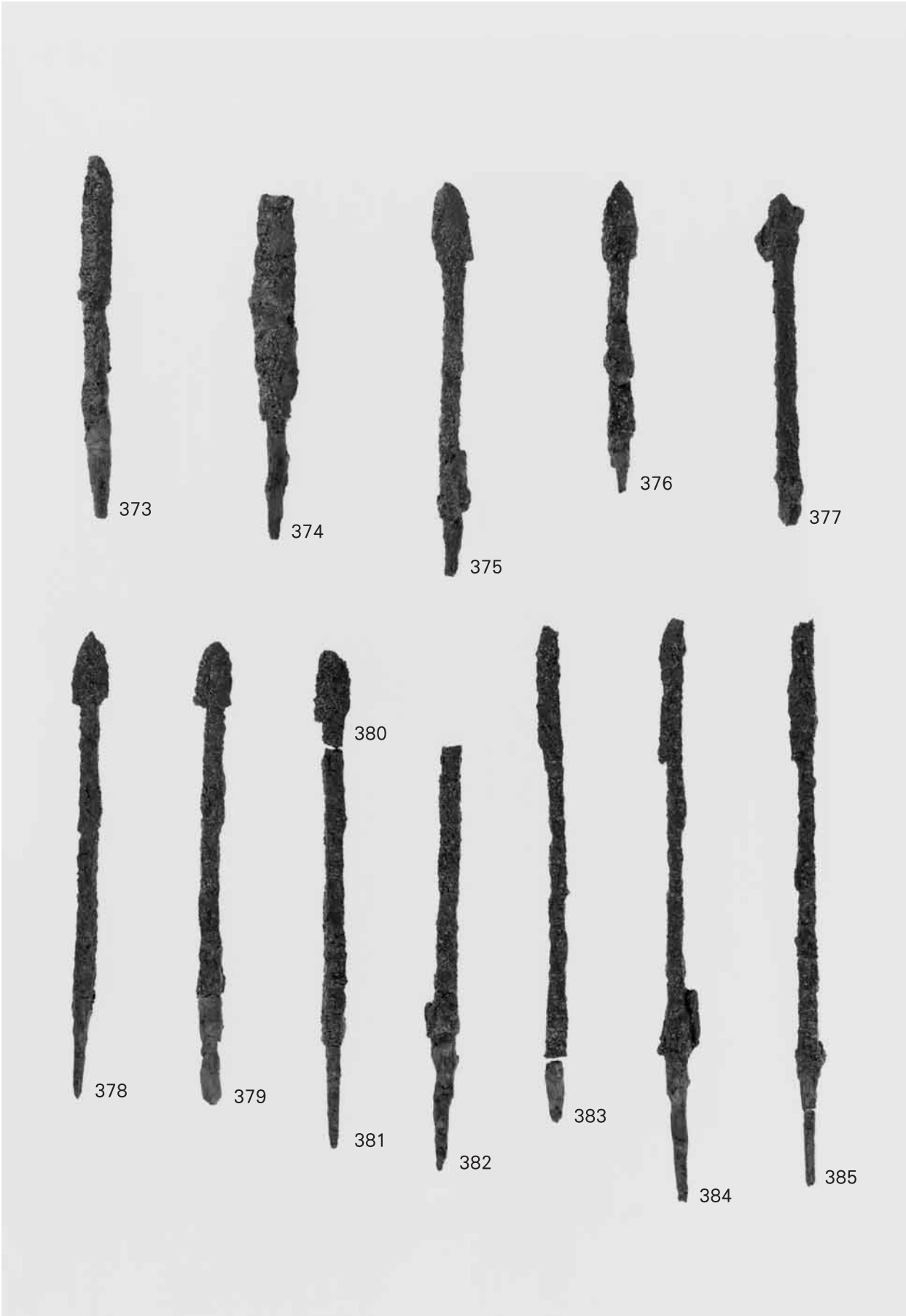
370

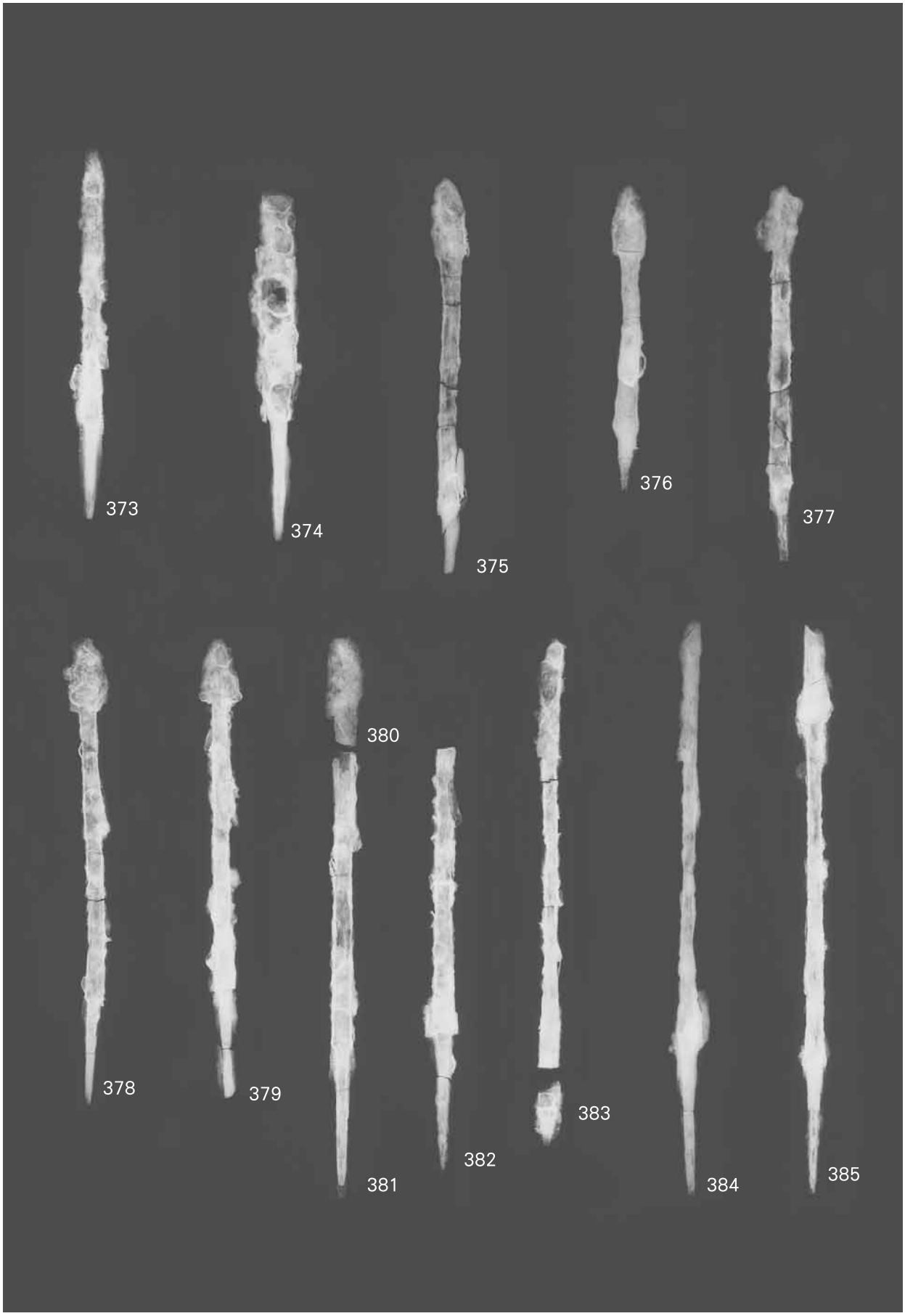
371

372



小谷13号墳埋葬施設1　刀剣類　X線透過写真


373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385


373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385

386

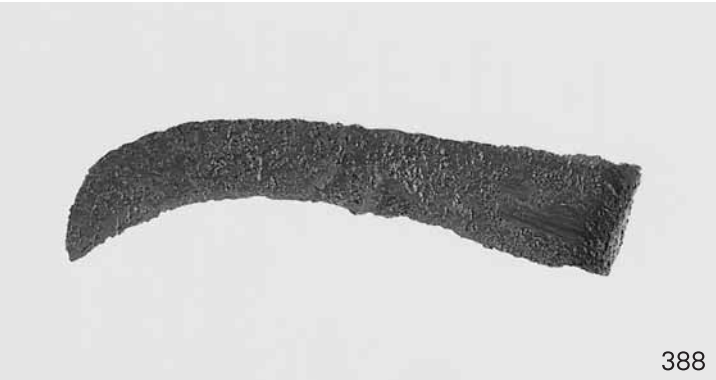
387

389

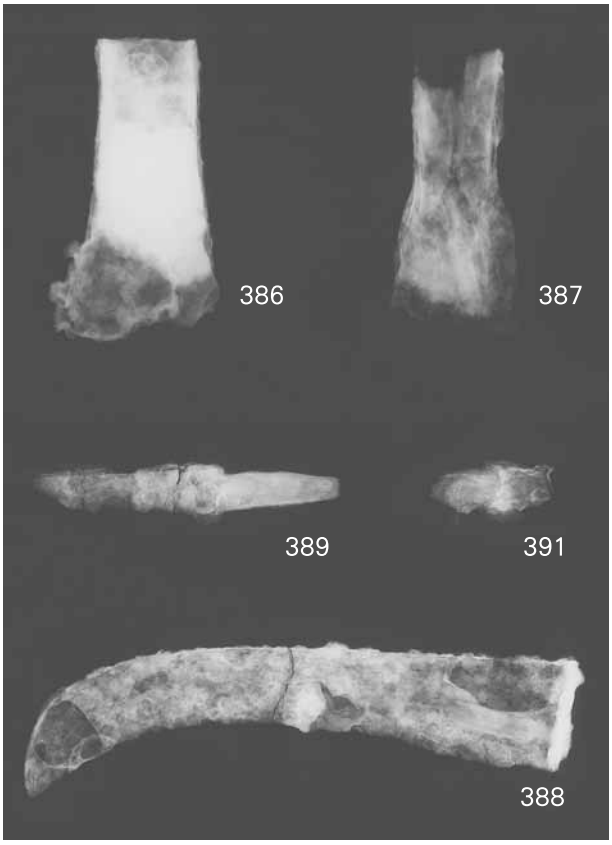
390

390

X線透過写真


388

391



X線透過写真

小谷13号墳出土土器・埋葬施設2副葬品・X線透過写真

734

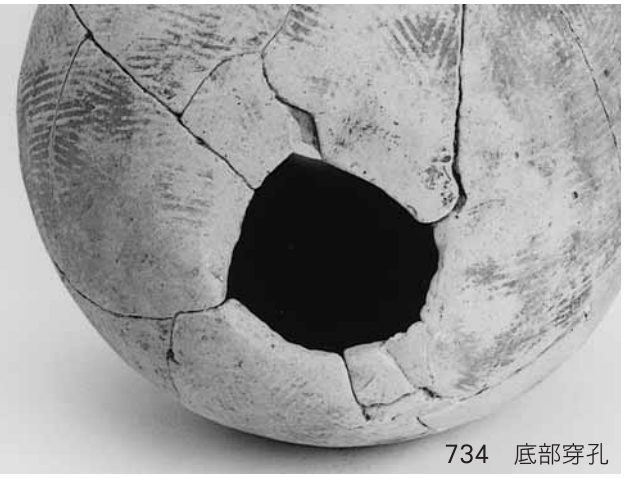
727

731

728

729

732

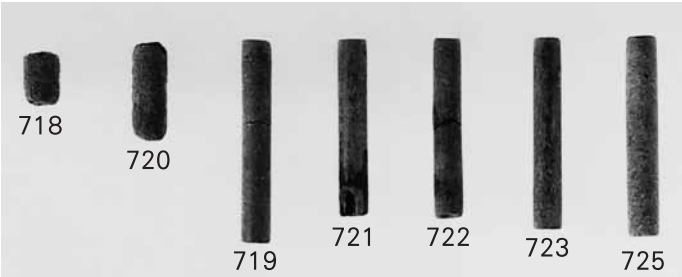

734　底部穿孔

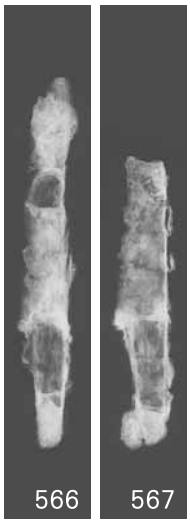
733

736

737

726




566　567

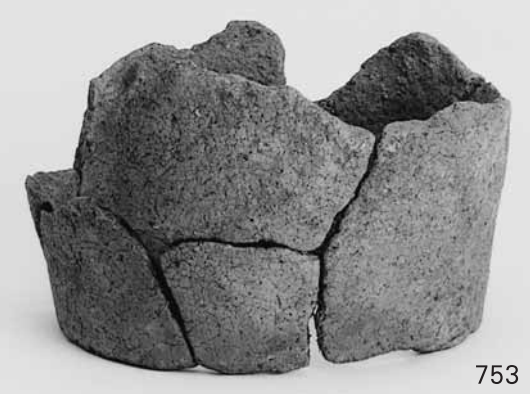
566

567

X線透過写真

図版68

小谷13号墳出土埴輪　円筒埴輪


753

745

743

739

768

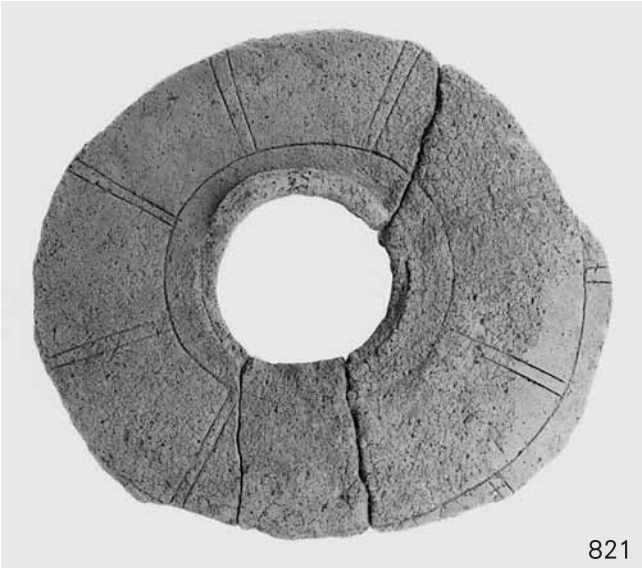
758

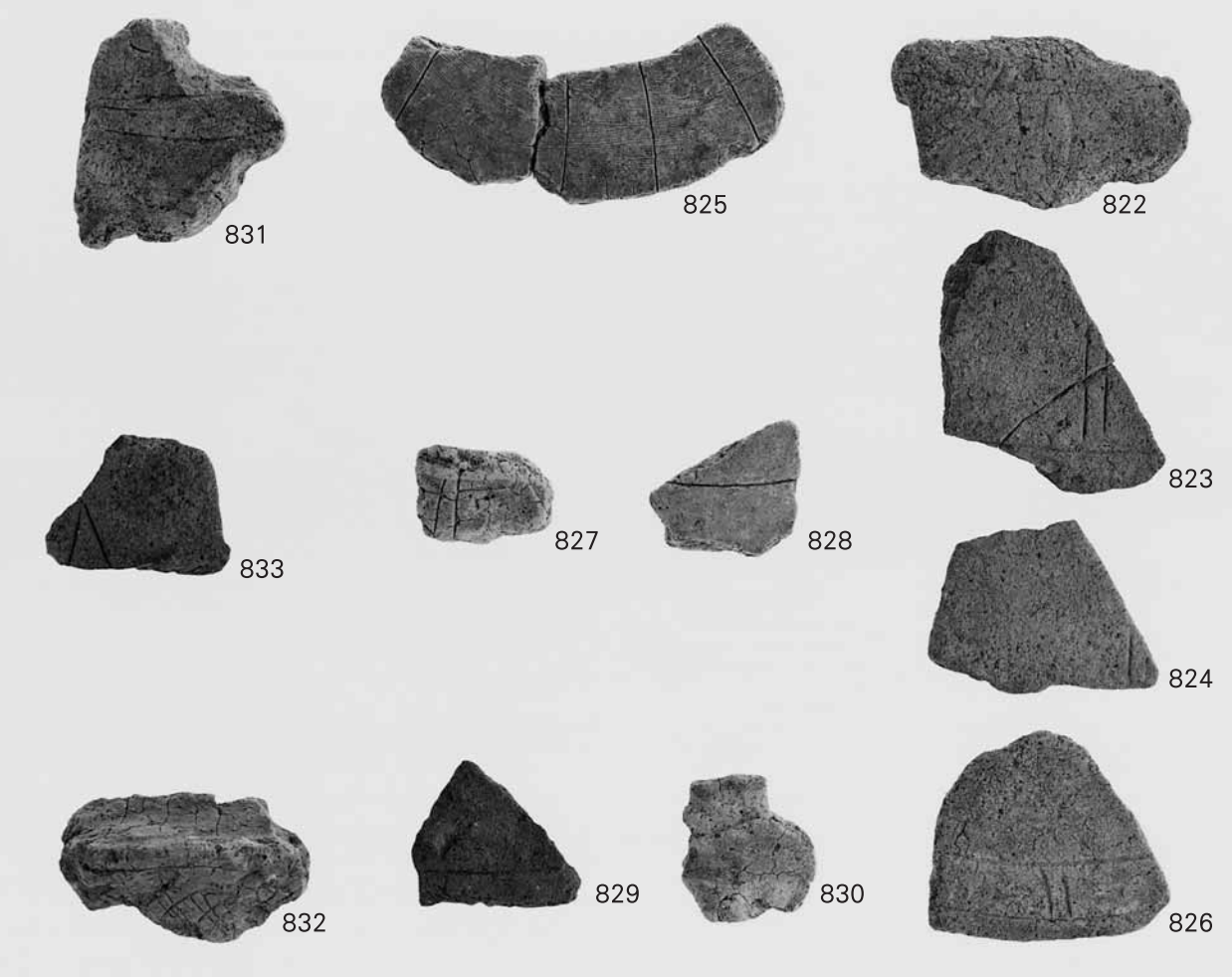
763

808

820

821


821


831
825
822
823
833
827
828
824
832
829
830
826

図版70

小谷13号墳出土埴輪　家形埴輪

834　A面

834　C面

834　棟　押縁

834　妻側

834　B面

土壙墓副葬品・X線透過写真・小谷10号墳埋葬施設3・周溝ほか　出土土器

842

846

843

847

844

848

845

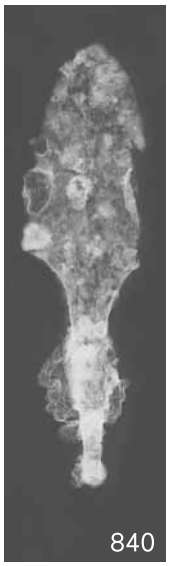
849

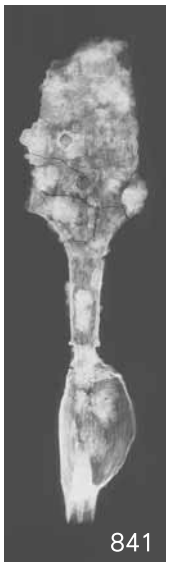
319

850

840

841


840

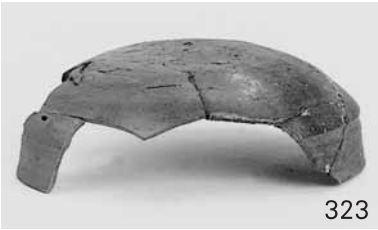

841

X線透過写真

SX350　副葬品

328

324


323

329

327

330

852

856

858

851

855

S X 381　副葬品

853

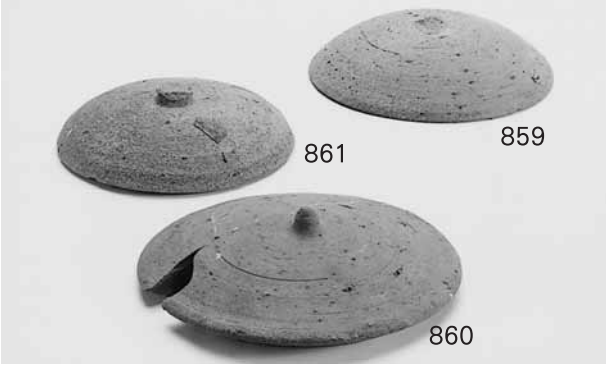
853

X 線透過写真

857

854

863


861
859
860

862

S X 393　副葬品

S X 392　副葬品

904

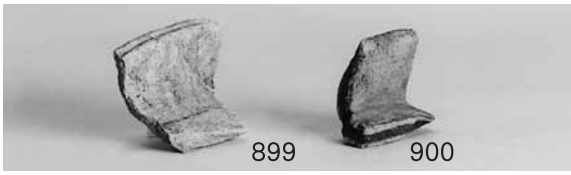
895

903

894 896 897

902

901


899 900

906

907

905

ＳＫ400　出土土器

887

890

891

886

ＳＫ340　出土土器

878

880

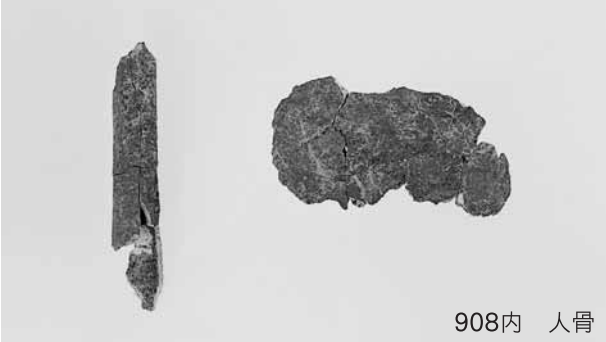
877

S K 340

908

958

959


908内　人骨

S X 363

S K 380

報告書抄録

ふりがな	てんげいじきゅうりょうないいせきぐんはっくつちょうさほうこく　6
書名	天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ
副書名	天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群（第６・７次）
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	259
編著者名	伊藤裕偉　大川　操　豊田祥三　山岡奈美恵　鈴木一有
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596（52）1732
発行年月日	2005年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
天花寺城跡（てんげいじじょうあと）	松阪市（まつさかし）	204	b90	136°	34°	19990819	3,400	県道（主要地方道）松阪一志線緊急地方道路整備工事
小谷赤坂遺跡（こたにあかさかいせき）	嬉野天花寺町（うれしのてんげいじちょう）	204	b94	16′	22′	～		
小谷古墳群（こたにこふんぐん）	字小谷（あざこたに）・赤坂（あかさか）	204	b391	28″	49″	20001220		
９号墳	ほか	204	b82					
10号墳		204	b83					
11号墳		204	b84					
12号墳		204	b85					
13号墳		204	b86					
24号墳		204	b307					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天花寺城跡	城館	中世後期	土塁・堀		
小谷赤坂遺跡	集落跡	縄文早期～後期 弥生前期 弥生後期 奈良	なし 土坑 住居跡群 土坑・投棄土坑	石器・土器 石器・土器 弥生土器 須恵器・土師器・瓦	
小谷古墳群	古墳	古墳後期 古墳後期 古墳後期 古墳後期 古墳中期中葉 古墳後期	９号墳（円墳） 10号墳（円墳） 11号墳（円墳） 12号墳（円墳） 13号墳（円墳） 24号墳（円墳）	刀子・鉄鏃・須恵器 鉄刀・鉄鏃・須恵器・土師器・埴輪 鉄鏃・須恵器・土師器 須恵器・土師器 短甲・鉄刀・剣・鉄鏃・鑷子・刀子・臼玉・須恵器・埴輪 須恵器	後期古墳の各埋葬施設のうち、主となる埋葬施設に限り棺両側木口に板石を設置する 武具・武器等副葬遺物の良好な一括資料

その他	鉄製品保存処理記録および鉄製品付着織物、初期群集墳、甲冑出土古墳に関する各論文を附編として掲載。

要約

同事業による天花寺丘陵地内発掘調査の第６・７次。天花寺城跡では、良好な土塁・堀が確認できたものの、それ以外の遺構や遺物が極めて少なく、戦時の城館と判断。小谷赤坂遺跡は、縄文時代早期～古代にかけての複合遺跡。縄文早期～後期では遺物のみ出土。弥生前期では土坑を確認、当丘陵内でははじめての例。弥生後期では竪穴住居群・掘立柱建物を確認。後期前半に限定される良好な遺跡で、丘陵上集落の典型例と考えられる。奈良時代では、古墳周溝の落ち込みを利用した投棄土器群や土坑から須恵器・瓦が出土。小谷古墳群は9・10・11・12・13・24号墳の調査で、５世紀中葉～６世紀初頭頃。武具・武器類を副葬した古墳を核に展開していく初期群集墳の良好な構築例。巻末には鉄製品保存処理記録および鉄製品銹着織物・初期群集墳・甲冑出土古墳に関する各論文を掲載し、調査資料活用の一助とした。

三重県埋蔵文化財調査報告259

天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ

天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群（第６・７次）

2005（平成17）年３月
編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　㈲第一プリント社